は　じ　め　に

新入生の皆さんは、縁あって本学理工学部に入学し、これからの学生生活に胸をはずませていることと思います。大学における生活は多面的かつ多彩ですが、その中心は勉学です。在学生の皆さんも、新学期を迎えて新たな決意と希望を持って勉学に取り組もうとしていることでしょう。

何事においてもそうですが、目標を設定し、その目標に向けてたゆまぬ努力を行うことが大切です。皆さんの探究心や積極性、自主性がその支えとなります。大学生活を通して、基礎力と幅広い教養、そして自分で課題を見つけ出し、よく考えて解決していくような力を身に付けて欲しいと思います。また、敬いと思いやりのある人格を培いながら高い見識を身に付け、グローカルに貢献するために不断の研鑽を積んで欲しいと思います。

この冊子は、皆さんの努力を支援し必要な情報を提供するための、「履修要項」と「シラバス」が合体して編集されたものです。理工学部において勉学を進めていく上で必要となる、重要事項が網羅されています。

「履修要項」には単位制度の説明からはじまり、卒業必要単位数、進級要件、履修登録方法の説明などが書かれています。なお、「数学」、「理科」、「工業」、「情報」の教員免許状に関する教職課程の説明は別冊に書いています。

「シラバス」には、すべての開講科目について、授業の内容や方法、授業計画や教科書･参考書、履修方法、成績の評価方法等が書かれています。科目の履修登録の際に、履修すべきかどうかの重要な判断材料を与えてくれます。さらに、日々の授業の際の、予習・復習のためのガイドとして有効に利用して下さい。

2010年度に、理工学部の取組「社会的自立につながる実践的キャリア教育」が文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に採択されました。これに伴い、2011年度より、理工学部全学生を対象に「校友サポートネット」、「e－キャリアポートフォリオ」といったシステムを稼働します。また正課では､自分の将来にむけてのキャリア啓発の第一歩として、新入生対象に「キャリアデザイン」、２年次生対象に「キャリアプランニング」を、さらに３年次には、自らのキャリアを、実践を通じて向上させる、インターンシップ型科目を開講します。これらを通し、初年次より自らのキャリア形成を意識することで、みなさんの就業力がスパイラルアップしていくことを願っています。

また、本冊子を読んでみて不明点や疑問に思う点があれば、遠慮なく理工学部教務課の窓口に相談に来て下さい。履修の仕方を誤ったがために卒業延期等の事態を招くことがないようにして下さい。

皆さんの学生生活が楽しく実り多いものとなることを願っています。

2011年４月

理工学部長　大柳　満之

龍谷大学の教育にかかる基本方針

建学の精神に基づいて、「平等」、「自立」、「内省」、「感謝」、「平和」の意味を深く理解し、豊かな人間性と共生（ともいき）の精神を涵養するとともに、人間教育、教養教育、専門教育を通じて、「広い学識」と「進取の精神」を持って人類社会に貢献する人間を形成する。

理工学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、科学と人間の調和を重視し、理学と工学における基礎から応用にいたるまでの広範な教育・研究を通じて技術の高度化に対し貢献できる高い倫理観を持った科学技術者を育成することを目的とする。

学位授与の方針［学士（理学・工学)］

理工学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質、学位授与に必要とされる単位数及び単位認定の方法を次に掲げる。

［学生に保証する基本的な資質］

（建学の精神）

〇仏教、ことに浄土真宗に基づいた建学の精神、すなわち「平等」「自立」「内省」「感謝」「平和」の意味を深く理解している。

〇豊かな人間性と高い倫理観をそなえ、社会的責務に対する自覚を持っている。

（知識・理解）

〇科学技術の進歩に対応できる専門分野の基礎から応用にいたる知識を身につけている。

〇英語についての基本的な知識を持ち、英語と日本語の基本的な成り立ちや機能の違いを理解している。

〇幅広く社会全体を見渡すために必要な知識や教養を身につけている。

（思考・判断）

〇科学技術が自然や社会に対してどのような影響力を持っているかをよく理解し、グローバルな視点から自律的にまた論理的に判断することができる。

〇基本的な論理的思考能力を持ち、外国の文化や事情について柔軟かつ公正な思考、判断ができる。

〇論理的能力・問題解決力を身につけている。

（興味・関心）

〇問題を解決するために必要となる専門的知識を自ら進んで修得し、時代の変化や社会の要請に合致した学を継続的に行うことができる。

〇広く日本を取り巻く国際情勢や文化に対する興味を持ち、国際的な視野から幅広い知識を身につけている。

（態度）

〇高い倫理性をもって、専門的知識と技術を総合的に活用することができる。

〇世界的な視野をもって社会が直面するさまざまな課題に主体的・積極的に対応することができる。

〇日本語だけでなく英語を通じても、外国からの情報を得、文化を理解吸収しようとする姿勢を持つ。

（技能・表現）

〇科学技術の進歩に対応できる基礎から応用にいたる専門の技術を身につけている。

〇知的生産の技術を身につけている。

〇国際化時代に対応できる英語で読む・書く・聴く・話すという四技能の基礎的運用能力を持っている。

［学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法］

⑴　学部に４年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。

⑵　卒業認定を受けるためには、所定の134単位以上の単位数を必要とする。

⑶　卒業年次には、「特別研究論文（卒業論文）」を提出し、審査に合格しなければならない。

教育課程編成・実施の方針

理工学部の「教育理念・目的」、「学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質が獲得できるよう、多数の教養教育科目及び専門科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学習環境の向上・学習支援態勢を整備する。

○仏教の思想と高い倫理性を養うための科目である「仏教の思想」（２科目）を必修科目として設置する。

○視野の広い技術者となるために必要な幅広い教養を身につけるため、教養教育科目を人文社会学系学部と共同で開講する。

○国際化に対応できる語学力を身につけるため、読む・書く・聞く・話すことを基礎とする英語科目を１年次から連続して開講し、その後、理工学部専任教員による科目においてより専門的かつ実践的な英語教育を展開する。

○専門科目を１年次から配置して、基礎から応用への体系的なカリキュラム体制とする。専門基礎科目においては、講義科目と演習を組み合わせ、知識を確実に身につけさせる。加えて、外部講師による最先端の科学に関する講義科目や「学外実習」等の企業現場や実地研修を行うインターンシップ型科目を専門の講義科目と併せて行う。

2011年度　学　年　暦

	日	月	火	水	木	金	土
4月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
5月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				
6月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		
7月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						
8月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			
9月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	

1　学年始
2　入学式（瀬田）
2～8　履修指導期間
9　第1学期授業開始

21　ご生誕法要（瀬田）

29　昭和の日(授業実施日)

3　憲法記念日
4　みどりの日
5　こどもの日

16～20　履修辞退受付期間
18　降誕会(午後休講)
21　創立記念日･降誕会(瀬田)
（全学終日休講）
22　降誕会（深草）

4　水曜日 午後７回分

21　ご生誕法要（瀬田）

18　海の日（授業実施日）
21　ご生誕法要（瀬田）
25　木曜日　15回分
27　第１学期授業終了
28～8/3　第１学期定期試験期間
31　定期試験予備日

4～10　集中講義Ⅰ
4～9/8　夏期休業
11～18　一斉休暇

20,22～23　追試験期間

29～9/10　集中講義Ⅱ
22～9/10　理工学部学外実習

9　第２学期開始
9～17　履修指導期間
16　９月卒業式・入学式

19　敬老の日
20　第２学期授業開始
21　ご生誕法要（瀬田）
23　秋分の日（授業実施日）

	日	月	火	水	木	金	土
10月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
11月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			
12月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
1月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				
2月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29			
3月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

10　体育の日（授業実施日）

18　報恩講（全学終日休講）
21　ご生誕法要（瀬田）
24～28　履修辞退受付期間
29～30　龍谷祭（瀬田）
（29　全学終日休講）

3　文化の日
4～6　龍谷祭（深草）
（4・5　全学終日休講）

21　ご生誕法要（瀬田）
23　勤労感謝の日

21　ご生誕法要（瀬田）
23　天皇誕生日
26～1/5　冬期休業
29～1/5　一斉休暇

1　元日
2　振替休日
6　講義再開
9　成人の日

23　第２学期授業終了
24, 26　集中補講日
25, 27～31, 2/2　第２学期定期試験期間

3　定期試験予備日
4～3/31　春期休業

11　建国記念の日
入試終了２日後から
３日間追試験期間（予定）

16　卒業式（瀬田）

20　春分の日

31　学年終

⚠ 注意事項

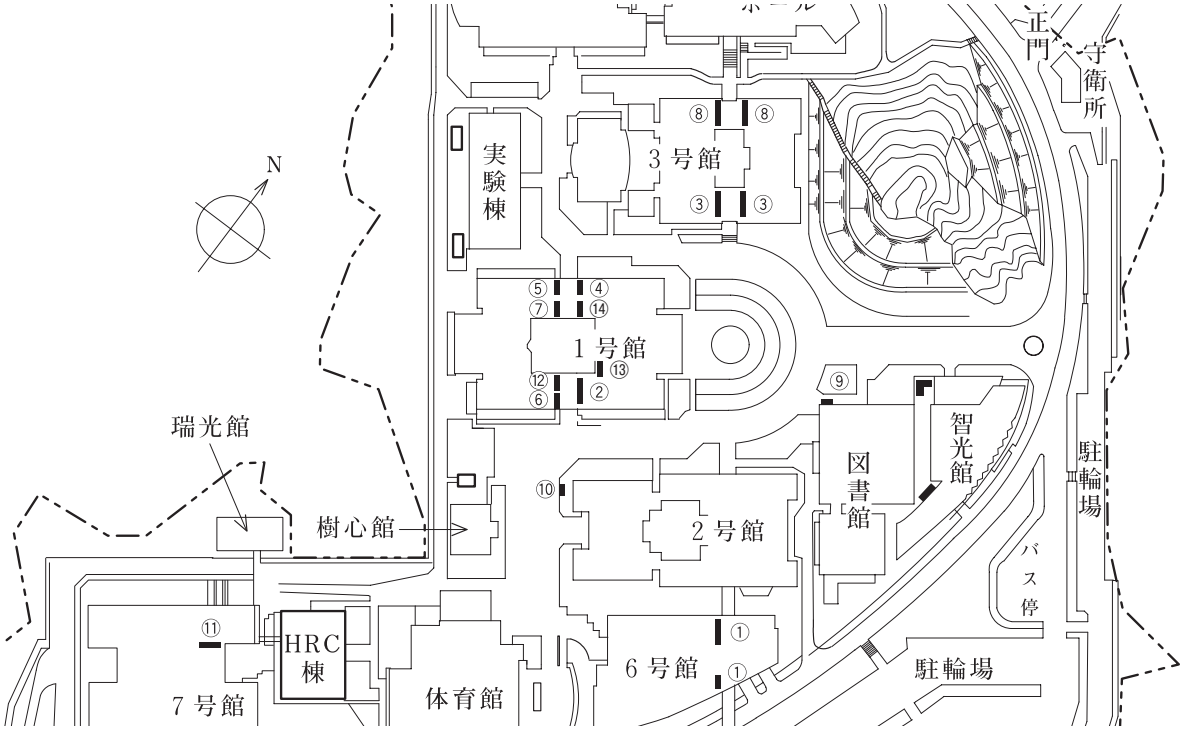
1．ご生誕法要は、12時15分から13時15分です。2講時の授業終了を15分繰りあげて実施します。
2．土曜日の3・4講時にも補講が行われる場合があります。

授業日
補講期間
定期試験

大学からの連絡・通知の掲示

円滑な学生生活を送るために必要な情報が伝達されます。

大学からみなさんへの連絡や通知は、特別な場合を除きすべて掲示で行われます。掲示を見落としたために後で支障をきたさないよう、**大学に来たらまず掲示板を見る習慣をつけましょう。電話による問い合わせについては、間違いが起こり得ますので一切応じません。**



掲　示　板

学部掲示板

大学全般に関する連絡
　学内行事・窓口業務についての連絡・呼び出し・その他
授業に関する連絡
　授業・休講通知・教科についての一般事項
　定期試験・追試験に関する連絡
　①…社会学部教務課
　②…理工学部教務課
　③…国際文化学部教務課
　⑪…理工学部（補助的運用）
　⑬…理工学部（臨時的運用）

学生部（瀬田）、瀬田教学部

　④奨学金
　⑫学生生活
　⑥教職関係

キャリア開発部（瀬田）掲示板

　⑤インターンシップ関係
　⑦就職ガイダンス関係
　⑭就職・資格講座等に関する連絡

国際交流関係掲示板　⑧

図書館関係掲示板　⑨

宗教部専用掲示板　⑩

※大学の事務組織変更やキャンパス整備等により掲示内容や掲示板の設置場所を変更する場合があります。

…登校したら掲示板を
下校前にも掲示板を…

休講・補講・教室変更情報について

休講・補講・教室変更情報を本学のポータル上で次のとおり公開しています。

(1) アクセス方法　＜パソコン用＞

本学ホームページ（http://www.ryukoku.ac.jp/）の「ポータルログイン」からアクセスしてください。

ポータルの利用には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。

＜携帯電話用＞

携帯電話用ポータルの利用には初回のみパソコン用ポータルから「携帯電話アクセス番号の設定」が必要です。設定方法は、パソコン用ポータルサイトをご覧ください。設定完了後、URLが自動的に通知されます。

(2) 公開の範囲　本学開講科目

(3) 公開の期間　＜パソコン用＞

休講：休講日を含めて30日前から、公開しています。

補講：予定が入り次第、随時公開しています。

教室変更（臨時）：変更日を含めて30日分を表示しています。

教室変更（恒常）：変更日を含めて前後30日分を表示しています。

＜携帯電話用＞

休講：休講日を含めて3日前から、公開しています。

補講：予定が入り次第、随時公開しています。

教室変更（臨時）：変更日を含めて3日分を表示しています。

教室変更（恒常）：変更日を含めて前後30日分を表示しています。

(4) 注意事項　・受付日や受付時間により公開に時差が生じる場合があります。

・当日に連絡があった情報には対応できない場合があります。

※ポータル上での公開情報はあくまでも補足的なものです。必ず学部の掲示板で確認するよう心がけてください。

※本学以外の第三者機関による休講情報提供サービス等が存在しますが、本学が提供する公式の情報は上記サイトのみです。

※他学科等のシラバスや時間割については理工学部HP（http://www.rikou.ryukoku.ac.jp/）を参考にして下さい。

※休講、補講、教室変更の公開については、メールでの配信サービスも実施しています。パソコン用ポータルの「プロフィール設定」で設定可能です。

ガイダンス

新学期の始めには各種のガイダンスが行われます。

最初のガイダンスでは、みなさんが学修の履修計画を立てたり、履修に必要な手続きをスムースに行うための説明や指導をするものです。

その他にも、学生部が主催する奨学金申請手続きに関するガイダンス、教職など諸資格取得のためのガイダンスも開催されます。これらの連絡は、掲示により行われるので十分注意しなければなりません。

2011年度　理工学部学年始ガイダンス日程

＜書類配布、説明会等日程＞

行事 / 年次	成績表・書類配布 履修登録説明会	学科別履修説明会
新　入　生	4月4日（月）9：00集合	左記書類配布等終了後
新2年次生	3月24日（木）9：30集合	左記書類配布等終了後
新3年次生	3月24日（木）13：30集合	左記書類配布等終了後
新4年次生	3月24日（木）15：30集合	左記書類配布等終了後

⚠注意事項

1．大切な伝達事項等があるので、上記の日程には必ず出席してください。
　なお、やむを得ず出席できない場合は、事前に理工学部教務課に連絡の上、指示を受けてください。

2．書類配布日には、成績表、登録関係書類等を配布するので、学生証を持参のうえ、必ず本人が受け取りに来てください。

＜各説明会会場＞

学　　科	教　　室	
	新入生	2～4年次
数理情報学科	別途指示	3号館101教室
電子情報学科		3号館105教室
機械システム工学科		3号館106教室
物質化学科		3号館107教室
情報メディア学科		7号館講義室1
環境ソリューション工学科		7号館講義室2

☆成績の疑義申し出については、成績表配布日を含めて3日間（土・日除く）です。
　申し出は、理工学部教務課に備えつけの用紙で行ってください。

＜履修登録日程＞

	予備登録期間	受　付
全　年　次 （新入生除く）	3月24日（木）9：00～3月28日（月）13：00〈2：00～7：00除く〉 発表：4月8日（金）9：00～Web登録画面にて発表 ※ただし、英語（再）の予備登録については、別途掲示板で指示	Web予備登録画面

	事前登録期間	受　付
全　年　次 （新入生除く）	3月24日（木）9：00～3月28日（月）13：00	理工学部教務課

	授業科目受講登録期間	受　付
全　年　次	4月8日（金）9：00～4月13日（水）16：00〈2：00～7：00除く〉	Web登録画面

2011年度　学生定期健康診断日程表(理工学部)

対　象　学　年	性　別	月　　日	受　付　時　間	受検学舎
新入生	男性	４月６日（水）	フレッシャーズキャンプにて実施	
	女性			
２年次生 （介護等体験受講予定生含む）	男性	４月８日（金）	14：00 ～ 16：30	瀬田学舎 ４号館 １階
	女性	４月８日（金）	10：30 ～ 12：15	
３年次生 （介護等体験受講予定生含む）	男性	４月７日（木）	10：00 ～ 12：15	
	女性	４月８日（金）	10：30 ～ 12：15	
４年次生以上	男性	４月６日（水）	13：00 ～ 16：30	
	女性	４月８日（金）	10：00 ～ 12：15	
大学院生	男性	４月８日（金）	13：00 ～ 16：30	
	女性	４月８日（金）	10：00 ～ 12：15	
編転入生	男性	４月８日（金）	13：00 ～ 16：30	
	女性	４月８日（金）	10：30 ～ 12：15	

※健康管理カード（問診票）・採尿容器は履修説明会時に配布します。詳細はホームページで案内しますので確認してください。

注意事項

1. **学生証**を忘れず持参のこと。
2. 健診は混雑が予想されます。**受付時間内の早め**に受付を済ませること。
3. 指定日時に受検できない場合は、**他学部の同学年・同性の時間**に受検し、未受検のないようにすること。
4. 2・3年次生で今年度、介護等体験実習受講予定の学生は、視力検査が必要！
5. 服装は、無地でボタン・金属等のないＴシャツとし、アクセサリーはつけないで受検すること。
6. 貴重品は各自が責任もって管理すること。
7. 健康管理カード（問診票）・採尿容器は、健康診断前日までに学部教務課または保健管理センター窓口に取りに来ること。
8. 受検当日、健康管理カード（記入しておくこと）・尿容器（採尿した）を持って受付すること。
   ※受付後に、採尿することのないように！
9. この期間中に健康診断を受検しないと、2011年度中の診断書の発行はできません。
10. 社会人等で職場などの定期健康診断（本学における実施項目を含んでいるもの）を受検している場合は、その結果のコピーを提出することによって受検に替えることができる場合があるので、保健管理センターに相談すること。

心身ともに健康な学生生活を送るために
～保健管理センターの利用について～

１．保健管理センターについて

【主な業務】

＊健康診断および健康診断後の保健指導
＊応急処置
＊健康に関する相談
＊心理カウンセラーによる相談
＊診療（内科・精神科）※健康保険証が必要
＊精神科医による心の相談
＊健康診断書の発行
＊健康に関する調査・研究・教育
＊健康増進のための学習会の開催

２．定期健康診断について

【検査項目】

＊身長、体重、胸部レントゲン、尿検査（蛋白・糖）、問診、視力（対象者のみ）、内科診察（必要時）

【実施時期など】

＊４月の第1週目に実施します。指定された日に受けてください。指定日に受けられない場合は、他学部の同学年の指定日に受検してください。
＊**大学での健康診断実施日程終了後は、保健管理センターでの健康診断を行いませんので、必ずこの期間内に受検するよう注意してください。**
＊勤務先で健康診断を受ける方は、結果（コピー可）を保健管理センターに提出してください。
＊詳細は、掲示板や保健管理センターのホームページなどで確認してください。

３．健康診断証明書・健康診断書の発行について

健康診断証明書・健康診断書は、本学の定期健康診断の結果に基づいて発行します。
従って、本学の定期健康診断を受けていない場合は、発行できません。

【健康診断証明書について】

＊「健康診断証明書」は、自動発行機で**当該年度の学位授与日まで**発行します。用途は、就職活動や本学に提出する各種実習受講、奨学金申請等に限られます。

【健康診断書について】

＊進学や大会参加、アルバイトなどで使用する健康診断書は、医師の診察が必要です。発行までに数日かかることがありますので、指定用紙や要項を持参の上、余裕をもって申し込んでください。

4．保健管理センターの利用について

①応急処置や休養室の提供

医師の診療時間以外に体調が悪くなった時やケガをした時、看護師が応急処置や休養室の提供を行っています。状態により医師の診察が必要な時は、外部医療機関を紹介します。

②健康相談

健康上の相談や悩みも気軽に相談してください。必要に応じて看護師が窓口になり、カウンセラーや医師に紹介します。

③保健・医療に関する情報提供

保健管理センターには、身長体重計・体脂肪計・視力計・血圧計が設置されています。自己の健康管理に利用してください。

大学近辺の医療機関のご案内や健康情報などをホームページに掲載していますのでご利用ください。

URL：http://www.ryukoku.ac.jp/ hoken/

【開室時間】
〔深草学舎・大宮学舎〕　8：45～17：15（昼休み 11：30～12：30）
〔瀬田学舎〕　9：00～17：30（昼休み 11：45～12：45）
※休業期間等は開室時間の変更があります。

5．診療所について

【診療科名】内科・精神科

【診療日及び時間】詳細は、保健管理センターのホームページで確認してください。

【費　　用】診療には、**「健康保険証」**が必要です。コピーの健康保険証は使用できません。

※健康保険証を持ってない人は､早急に手続きをして**「遠隔地被保険者証」**を取り寄せてください。

遠隔地被保険証の発行は、証明書自動発行機で在学証明書を取り、保護者の勤務先（社会保険）で申請してください。また、自営業の場合は、市･区･町村役場（国民健康）に申請すれば作成してもらえます。

※医師の診察を受けずに薬だけお渡しすることはできません。症状は、体からの「ＳＯＳサイン」ですので、必ず医師の診察を受けてください。

6．なんでも相談室について

学生生活を有意義に送ることができるよう、深草・瀬田学舎の学生部の中に「なんでも相談室」（大宮学舎は西黌２階・こころの相談室内別室）を設けています。学生生活でのあらゆる相談や問い合わせを受け付ける「よろず相談窓口」です。相談に応じて、アドバイスや情報の提供、適切な相談先への紹介も行っています。予約は不要です。どんな小さなことでも気軽に訪れてください。

※「なんでも相談室」は、保健管理センターの「こころの相談室」とも連携しています。希望に応じて、カウンセラー（臨床心理士）による相談を受けることもできます。医療機関への案内も行っています。

7．学生相談（こころの相談室）について

学生生活全般に関するさまざまな相談（対人的なこと、学業･進路、心身の健康等）に、カウンセラー（臨床心理士）が応じ、学生生活支援を目的とした心理的なサポート等を行います。相談の申込はポータルサイト上でのｗｅｂ予約も可能です。詳しくは、保健管理センター「こころの相談室」のホームページをご覧ください。また、直接窓口での申込も可能ですのでお問い合わせください。相談は予約制（無料）です。お急ぎの場合は、まず「なんでも相談室」もご利用ください。

【窓口受付】
「こころの相談室」へのお問い合わせは、深草学舎の窓口で一括対応しています。
月～金曜日　9：00 ～ 17：00（12：30 ～ 13：30を除く）
電話　075－642－1111（代表）

8．健康増進のための学習会について

心身ともに健康な学生生活が過ごせるよう、健康学習会を行っています。掲示やポータルサイト等で随時案内しますので積極的に参加してください。

目　次

はじめに
龍谷大学の教育にかかわる基本方針　理工学部の教育理念・目的
2011年度学年暦
大学からの連絡・通知の掲示
ガイダンス
2011年度学生定期健康診断日程表（理工学部）
保健管理センター利用について

履修の心得

Ⅰ　履修をはじめるにあたって…… 2
１．長期的な履修計画を立てること　／２．系統的に科目を履修すること
３．自主的に学修をすること
Ⅱ　単位制度と単位の認定…… 3
１．単位制度　／２．単位とは　／３．単位の認定　／４．履修登録制度
５．授業科目の履修　／６．履修辞退制度　／７．授業時間　／８．卒業要件単位および学士号
９．進級制度　／10．セメスター制　／11．入学前に修得した単位の認定
Ⅲ　履修登録…… 8
１．履修登録手続のスケジュール　／２．履修登録に際しての注意事項　／３．履修登録制限
４．予備登録　／５．履修登録要領　／６．履修登録の確認
Ⅳ　成績評価…… 12
１．成績評価の方法　／２．成績評価の基準　／３．成績疑義　／４．平均点とＧＰＡ
Ⅴ　筆答試験…… 14
１．試験の時期　／２．受験資格　／３．受験の注意事項　／４．答案の無効
５．筆記試験における不正行為　／６．追試験　／７．筆答試験時間
８．レポート試験における不正行為
Ⅵ　教育支援…… 17
１．学科の委員　／２．クラス担任制　／３．教員との面談　／４．T.A.制度　／５．チューター制度
６．理工学部初年次学習支援センター　／７．L.A.制度　／８．ライティングセンター　／９．その他

教育課程

Ⅰ　理工学部の教学理念と教育目標…… 20
Ⅱ　環境ソリューション工学科の教学理念と教育目標…… 22
Ⅲ　教育課程の編成・履修方法…… 24
１．授業科目の区分　／２．必修科目・選択必修科目・選択科目・随意科目
３．各科目の履修方法について
❶教養教育科目（共同開講科目）の履修方法…… 25
１．必修科目の履修について　／２．学科指定・クラス指定　／３．予備登録について
４．先修制について　／５．予備登録について（総合科目）／設置科目
❷教養教育科目（共同開講科目）カリキュラム対照表…… 35
１．教養教育科目（共同開講科目）基礎科目
２．教養教育科目（共同開講科目）総合科目
❸固有科目の履修方法…… 38
１．学部内共通科目の履修方法　／２．学科固有科目の履修方法　／３．卒業・進級の要件
４．設置科目　／５．カリキュラムフローチャート

❹学科固有科目カリキュラム対照表…… 50
❺他学科科目の履修について…… 58
❻単位互換制度について…… 59
❼日本技術者教育認定機構（ＪＡＢＥＥ）について…… 63
❽卒業年次生の大学院授業科目の履修について…… 64
Ⅳ　諸課程等の履修方法…… 65
❶教職課程…… 65
❷本願寺派教師資格課程…… 65
❸博物館学芸員課程…… 66
❹特別研修講座…… 70
Ⅴ　協定型インターンシッププログラム…… 71

学修生活

Ⅰ　窓口事務…… 74
１．学部窓口取扱時間　／２．届書・願書および各種証明書
３．各種証明書の交付について　／４．裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて
Ⅱ　授業休止の取り扱い基準…… 78
１．全学休講とする場合　／２．授業等の開始基準　／３．その他の注意事項
Ⅲ　学籍の取り扱い…… 79
１．学籍とは　／２．学籍簿　／３．学生証　／４．学籍の喪失　／５．休学と復学
６．年次　／７．再入学　／８．編入学・転入学　／９．９月卒業について
Ⅳ　留学…… 84
１．交換留学　／２．BIE Program留学　／３．私費留学
４．個人留学（休学して留学する）　／５．短期留学
Ⅴ　通学について（自転車・バイク・自動車）…… 86
１．自動車通学の禁止　／２．バイク・自転車通学　／３．バイク・自転車の駐輪
４．交通安全教育講習会について　／５．自動車の臨時入構許可について

シラバス

Ⅰ　教養教育科目（共同開講科目）基礎科目…… 91
Ⅱ　教養教育科目（共同開講科目）総合科目…… 165
Ⅲ　学部内共通科目…… 205
Ⅳ　学科固有科目…… 227
Ⅴ　教職課程科目…… 261
Ⅵ　本願寺派教師資格課程科目…… 275

付録

Ⅰ　教員名簿…… 280
Ⅱ　瀬田学舎近隣医療機関…… 282
Ⅲ　瀬田学舎見取図…… 284
Ⅳ　履修要項・Syllabus利用の手引き…… 285

TOEIC®はエデュケーショナル・テスティング・サービス（ＥＴＳ）の登録商標です。
この印刷物はＥＴＳの検討をうけまたはその承認を得たものではありません。

TOEFL®はエデュケーショナル・テスティング・サービス（ＥＴＳ）の登録商標です。
この印刷物はＥＴＳの検討をうけまたはその承認を得たものではありません。

履修の心得

教育課程

学修生活

履修要項

履　修　の　心　得

Ⅰ　履修をはじめるにあたって

大学生にとって、学問をすることが第一の目的です。この目的を達成するために、これから述べることに十分留意して勉学に取り組んでください。大学では、学生生活や履修に関するすべてのことが自分の責任に委ねられていますので、それだけに各自が十分な理解のもと履修することが望まれます。

1．長期的な履修計画を立てること

大学における学業は、一定の単位数を修得することによって完了します（その単位のことを卒業要件単位と呼び、修得のしかたは多くの組み合わせがあります)。卒業に必要な単位の取得は、学部に設置されている授業科目にもとづいて行われます。単位とは、それぞれの授業科目を通して得られる学修の量をあらわすものです。

授業科目は、「**教養教育科目**（共同開講科目）（共通科目)」、および「**固有科目**」からなります。みなさんはこれらの科目群から卒業に必要な一定の単位数を満たすよう履修しなければなりません。

各学年ごとに、必ず履修すべき科目や選択して履修すべき科目が配当されています。なお年度によって開講される科目が異なるので、1学年間あるいは1学期間の履修計画をたてるときは、同時に次年期以降における履修計画もあわせて考える必要があります。

すべての科目は必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目のいずれかに分類されます。

必修科目とは、卒業要件を満たすために必ず履修しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。

選択必修科目とは、指定された科目群の内から決められた数の科目を任意に選択して履修しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。

選択科目とは、どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。ただし、卒業要件として定められた単位数は修得する必要があり､この要件を欠く場合は卒業の認定を受けることができません。

随意科目とは、単位の認定はされますが、卒業要件の単位数には含まれない科目です。「数学序論」「物理学序論」や各種の資格取得にかかわる科目が該当します。

また、理工学部では各学科の科目を系統的に履修するために、各学年毎に進級の必要要件（進級制度）を設けています。4年間で卒業要件を満たすとともに各学年毎に進級要件を満たさなければならないことを念頭に置いて下さい。

2．系統的に科目を履修すること

各学年に設置されている授業科目、カリキュラムフローチャートを参考にして、系統だった履修をすることが重要です。明確な学修目的をもたずに、単に決められた単位数を数字の上でそろえるだけの履修は、たとえ4年間在学したとしても､大学の卒業生としてふさわしい能力と識見をもつことはできません。したがって、自らの学修目的にあわせて各科目の性格や開講学期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修する必要があります。

大学4年間において、みなさんは自ら選んだテーマに主体的に取組み、専門的な視点に立って研究するのです。テーマの研究にとって土台となる知識や思考力さらには研究方法などをあらかじめ修得しておくことが求められます。

3．自主的に学修をすること

充分な学修成果をあげるためには、単に教室で講義を聞くだけでなく、講義そのものに積極的な姿勢で臨むとともに、講義以外に自主的な学修が必要です。教室での講義時間の2倍あるいはそれ以上の自主的な学修が行われてはじめて満足な理解が可能となります。そのため、シラバス（講義概要・授業計画）によって指示された参考図書をはじめ、関連図書をよく読んで理解を深めることが望まれます。また、講義を聞き、参考図書・関連図書でも理解できない点については、直接先生に質問したり、先生や友人・先輩とのディスカッションを通じて理解を深めることも大切です。

Ⅱ　単位制度と単位の認定

1．単位制度

大学での学修はすべて単位制になっています。単位制というのは、すべての科目に一定の単位数が定められており、みなさんがその科目の授業を受け、かつ、その試験に合格した場合、定められた単位が与えられます。その単位の合計が一定の要件における一定の単位数を満たした者に対して卒業が認定される制度です。

2．単位とは

単位とは、学修の量を数字で表すものであり、下表のとおり、原則として各単位数によって必要な学修時間が定められています。

単位数	学修時間					
	講義・演習・講読科目の場合			外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合		
	自主	授業	合計	自主	授業	合計
1				15時間	30時間	45時間
2	60時間	30時間	90時間	30時間	60時間	90時間
4	120時間	60時間	180時間			

⑴　単位の計算方法

学則第26条に基づき、原則として次の基準によって計算します。

① 本学では単位計算上、1つの授業90分を2時間として計算します。

② 本学では1単位につき45時間の学修時間を必要と定めています。

③ 本学では学期完結型授業の場合は第1学期（前期）授業期間を15週、第2学期（後期）授業期間を15週とし、学期連結型授業の場合は1学年間（通年）で30週としています。

○　講義・演習・講読科目の場合

上表から、講義･演習･購読科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、4時間（授業時間の2倍）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区　分	必要な学修時間	単位数
学期完結型授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間）×15週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき）＝2単位
学期連結型授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間）×30週＝180時間	180時間÷45時間（1単位につき）＝4単位

○　外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合

上表から、外国語･スポーツ･実験･実習科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、1時間（授業時間の半分）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区　分	必要な学修時間	単位数
学期完結型授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間）×15週＝45時間	45時間÷45時間（1単位につき）＝1単位
学期連結型授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間）×30週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき）＝2単位

3．単位の認定

一つの授業科目に定められた所定の単位を修得するためには、次の3つの要件を満たしていなければなり

ません。

⑴ 単位の認定を受けようとする科目について、**履修登録**をすること。

⑵ その科目の授業に**出席**し、履修に必要な**学修**をすること。

⑶ その科目の**試験**を受け（レポート、論文等をもって試験とする場合等があり、必ずしも教室における筆答試験とは限らない。詳細はシラバスの成績評価の方法で確認してください。）、その成績評価で合格（60点以上）をすること。

４．履修登録制度

履修登録とは、その学期に履修しようとする科目の授業を受けるための手続きです。この登録をしていなければ、仮にその授業に出席していたとしても、試験を受けることや単位認定を受けることができません。履修登録は、学修計画の基礎となるわけであり、登録が有効に行われるようすべて自分の責任において取り組まれなければなりません。

５．授業科目の履修

履修登録をした授業を受けるということは、その科目に定められている単位数に見合った量の**学修**をするということです。

学修の内容は、授業形態に応じて教室での学修とその準備のための学修とを含んでいます。

このうち、教室での学修は、授業に出席し、その中で学修するということです。総授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、その科目の単位認定は受けられないことがあります。

また、準備のための学修は、「シラバス（講義概要・授業計画）」によって指示される参考文献等を中心として、あるいは友人とのディスカッションや図書館の利用などを通して、自主的に行われる学修のことです。大学での学修はこの自主的な学修の比重が大きく、大学生活の成否はこの自主的な学修のいかんにかかっていると言えます。

６．履修辞退制度

※受講登録確認時に行う修正とは異なりますので注意してください。

⑴ 「履修辞退制度」とは

「履修辞退制度」とは、受講者が授業を受けてみたものの、『授業内容が学修したいものと著しく違っていた場合』や『受講者自身が授業について行ける状況にまったくない場合』など、やむを得ない理由がある場合に自分自身の判断で履修を辞退することができる制度のことです。

この制度は、履修登録確認表配付後の、登録不備によって修正が必要となる場合の「履修登録修正」とは異なり、履修登録がすべて確定した後に、上記のような理由によって受講者自身が定められた期間に履修辞退の申し出をすることができるものです。「履修登録修正」は登録情報を「修正や取消」するものであり、以前の履歴は一切記録で残らない仕組みですが、「履修辞退」は、「履修登録」および「履修辞退」の履歴が記録として残る仕組みです。

したがって、受講者のみなさんはこの「履修辞退制度」を安易に利用するのではなく、「履修要項」および「シラバス」を熟読して学修計画をしっかりと立て、慎重な履修登録をするよう十分留意する必要があります。

⑵ 履修辞退による成績評価のあり方

本学が設定する履修辞退の申出期間中に辞退を申し出た場合、当該授業科目の成績評価は行ないません。したがって、履修辞退した科目は**平均点**や**GPA**の計算対象から除外されるとともに、成績証明書への記載対象からも除外されます。なお、各学期に配付される個人別の成績表には履修履歴および履修辞退履歴として「**J**」の記号が記載されます。

⑶ 履修辞退対象外科目の一覧

科目区分	備考
必修科目	
事前登録が必要となる科目　※	教室の規模や教室の設備、授業の企画規模等にあわせて、予め受講者数の制限を設けて募集した科目については、履修辞退を認めません。
「大学コンソーシアム京都」および「環びわ湖大学コンソーシアム」の単位互換科目として受講している科目	本学学生が本学他学部の開講する科目を、左記の２団体が展開する「単位互換科目」として受講している場合、履修辞退を認めません。
教育実習に関する科目、介護等体験、教育実習指導Ⅰ・ⅡA・ⅡB（教育実践研究Ⅰ・Ⅱ・ⅢA・ⅢB）	実習校との事前調整を行う科目であるため、履修辞退を認めません。
集中講義科目	本制度となじまない科目であることから、履修辞退は認めません。
その他各学部が設定する科目	各学部（学科・専攻・コース）において設定する科目 ※別表「◆各学部が設定する履修辞退対象外科目の一覧」のとおり

※教養教育科目（共同開講科目）の「予備登録」が必要となる科目とは異なります。

◆各学部が設定する履修辞退対象外科目の一覧

学部	履修辞退の対象外とする科目
理工学部	基礎セミナー（対象学科／数理情報学科） 都市環境施設実験A、都市環境施設実験B（対象学科／環境ソリューション工学科） 学外実習、学外実習（キャリア実践実習）

※これら以外に履修辞退対象外科目が生じた場合は、別途理工学部掲示版で掲示します。

⑷ 履修辞退の申出期間

2011年度の履修辞退の申出期間は下記の日程です。なお、下記の申出期間以外の履修辞退の申し出は受付しません。

学期	履修辞退受付期間
第1学期（前期）	5月16日（月）～ 20日（金）
第2学期（後期）	10月24日（月）～ 28日（金）

⑸ 履修辞退の申出方法

上記、履修辞退の申出期間にポータルの「Web履修辞退申請」から申請してください。受付期間中に、ポータルを利用した申請ができない理由を有する者は、理工学部教務課に相談してください。

⑹ 留意事項

① 通年科目を第1学期（前期）期間中に履修辞退の申し出をした場合は、第2学期（後期）の当該科目分にかかる登録単位数は登録制限単位から除外され、カウントされません。また、後期の履修登録がある場合は、履修辞退した科目の同一曜講時に半期完結型の後期開講科目を履修登録することができます。

なお、履修辞退の申し出による単位数計算は以下のとおりです。

履修辞退申出時期	科目区分	単位数の計算
第1学期（前期）（5月下旬）	前期科目	カウントします
	通年科目	第1学期(前期)分はカウントしますが、第2学期(後期)分はカウントしません
第2学期（後期）（10月下旬）	後期科目	カウントします
	通年科目	カウントします

② 履修辞退申し出により授業料（科目等履修生は履修料）の返還はしません。

なお、単位制学費の対象学生（留年生）が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間

に申し出た場合の第2学期（後期）分授業料は徴収いたしません。

また、科目等履修生が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合の第2学期（後期）分履修料は、理由の如何にかかわらず返還いたしません。

7．授業時間

本学における1回の授業時間は、90分です。また、それぞれの授業時間を「**講時**」といいます。
年間を通して各講時の時間帯は次のとおりです。

	1講時	2講時	3講時	4講時	5講時
開始時刻	9 ：20	11：05	13：35	15：20	17：00
終了時刻	10：50	12：35	15：05	16：50	18：30

8．卒業要件単位および学士号

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、数理情報学科では「**学士（理学）**」、電子情報学科・機械システム工学科・物質化学科・情報メディア学科・環境ソリューション工学科では「**学士（工学）**」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。

卒業するためには､大学が定める教育課程にしたがって学修し､134単位以上を修得しなければなりません。

⑴ 卒業の要件

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の2つの要件を満たさなければなりません。

① 所定在学年数

本学の教育課程を修了するには、4年以上在学しなければなりません。

これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間はこの在学期間に加えません。

② 所定単位の修得

本学部の教育課程（カリキュラム）は、授業科目の区分ごとに履修すべき単位数を指定しています。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

⑵ 卒業の時期

卒業認定は、毎年学年の終わり（3月）に行います。

なお、在学期間が4年以上の学生で、卒業要件単位を修めた場合は、前期終了時（9月）に認定することがあります。**（9月卒業）**

⚠ 注意事項

9月卒業を希望する者は、4月初旬に所定の願書を受け取り、必ず指定された期間に手続を完了してください。本人の申し出がなければ、たとえ卒業要件を満たしていても、9月卒業の対象にはなりません。

9．進級制度

理工学部では、各学科の科目を系統的に履修するために、各学年毎に進級の必要要件（進級制度）を設けています。履修登録するにあたっては、細心の注意をすることが必要です。

10. セメスター制

理工学部の授業は、セメスター制で開講されています。セメスター制というのは、半年を1学期とするもので、1学年を原則として4月～9月末までを第1学期（前期）、10月～翌年3月末までを第2学期（後期）の2学期に区分し、以後4年次までの計8学期にわたって教育課程（カリキュラム）の編成を行うものです。これら年次、学期、セメスターの関係は次のとおりです。

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
学期	第1学期（前期）	第2学期（後期）	第1学期（前期）	第2学期（後期）	第1学期（前期）	第2学期（後期）	第1学期（前期）	第2学期（後期）
セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター

各セメスターにはそれぞれ必修科目、選択必修科目、選択科目が配当されています。これらの科目の中からどの科目を履修するかは各自の責任に委ねられています。ただし、必修科目はそれを履修しないと卒業することができない科目です。また選択必修科目も同じ性格を有する科目ですから、配当されたセメスターにおいて必ず履修しなければなりません。

必修科目や選択必修科目の単位を未修得のまま次のセメスターに進行した場合、他のすべての科目に優先してこれらの未修得科目を履修しなければならない場合が生じてしまい、本来そのセメスターに配当されている科目が履修できなくなるなど、みなさんの学修計画に重大な支障をきたすことにもなりかねません。したがって、十分な理解のもと学修計画を立て、講義を通しての学修と自主的な学修に積極的に取り組むことが望まれます。

11. 入学前に修得した単位の認定

学則第38条にもとづき、1年次に願い出た者に限り、出身大学で修得した科目を、本学理工学部の科目として認定することがあります。詳細は、入学後すみやかに、理工学部教務課窓口に申し出てください。

Ⅲ 履 修 登 録

履修登録は、自らの学習計画に従ってその年度・学期（セメスター）に履修しようとする授業科目を届け出る手続であり、みなさんの学習計画の出発点となるものです。この登録をしていなければ、たとえ授業に出席しても、試験を受けることや単位の認定を受けることはできません。履修登録は学修計画の基礎となるものであり、登録が有効に行われるよう、すべて自分の責任において取り組まなければなりません。

1．履修登録手続のスケジュール

1 ～ 3年次生は、履修登録が前期・後期の年2回行われます。ただし、4年次生については、卒業見込判定の関係から、前期に1年分の履修登録を行います。

1 ～ 3年次生	年2回登録	前期：通年・前期科目登録
		後期：後期科目登録
卒年次生	年1回登録	前期：通年・前期・後期科目登録
		後期：後期科目の変更のみ受付

履修登録に関する手続きのスケジュールは以下の通りです。

〈1 ～ 3年次生〉

前期

① 履修登録説明会
↓
② 予備・事前登録（該当科目のみ）
↓
③ 履修登録（Web）
↓
④ 受講登録確認表配布
（登録エラー、登録科目の確認）
↓
⑤ 登録科目の修正
（登録エラーのあった場合のみ）
↓
⑥ 受講登録確認表配布
（修正をした学生のみ）
↓
⑦ 履修辞退制度
↓
⑧ 定期試験
↓
⑨ 成績表配布

後期

① 履修登録説明会
↓
② 予備・事前登録（該当科目のみ）
↓
③ 履修登録（Web）
↓
④ 受講登録確認表配布
（登録エラー、登録科目の確認）
↓
⑤ 登録科目の修正
（登録エラーのあった場合のみ）
↓
⑥ 受講登録確認表配布
（修正をした学生のみ）
↓
⑦ 履修辞退制度
↓
⑧ 定期試験
↓
⑨ 成績表配布

⚠ 注意事項

●一度登録した通年科目は、履修辞退制度による登録の取消の場合を除き、途中で放棄・変更することはできません。つまり、後期登録時に前期に登録した通年科目を放棄して、他の科目を登録することはできません。したがって、後期に履修すべき科目がある場合は、特に注意が必要です。

〈卒業年次生〉

前期

① 履修登録説明会
↓
② 予備・事前登録（該当科目のみ）
↓
③ 履修登録（Web）
↓
④ 受講登録確認表配布
（登録エラー、登録科目の確認）
↓
⑤ 登録科目の修正
（登録エラーのあった場合のみ）
↓
⑥ 受講登録確認表配布
（修正をした学生のみ）
↓
⑦ 履修辞退制度
↓
⑧ 定期試験
↓
⑨ 成績表配布

後期

① 履修登録説明会
↓
② 予備・事前登録（該当科目のみ）
↓
③ 受講科目受講届〈修正〉提出
↓
④ 受講登録確認表配布
（登録エラー、登録科目の確認）
↓
⑤ 登録科目の修正
（登録エラーのあった場合のみ）
↓
⑥ 受講登録確認表配布
（修正をした学生のみ）
↓
〈後期登録科目の変更を希望する者〉
↓
⑦ 履修辞退制度
↓
⑧ 定期試験
↓
⑨ 成績表配布

⚠ 注意事項

●前期登録時は、卒業見込判定の関係から、その年度に履修しようとする全科目を登録してください。
●後期登録時は、後期科目について変更・追加・取消を希望する場合のみ登録を行ってください。
●一度登録した通年科目は、履修辞退制度による登録の取消の場合を除き、途中で放棄・変更することはできません。つまり、後期登録時に前期に登録した通年科目を放棄して、他の科目を登録することはできません。したがって、後期に履修すべき科目がある場合は、特に注意が必要です。

2．履修登録に際しての注意事項

① **単位の修得**

履修登録した科目でなければ、受講、受験、単位の修得はできません。

② **二重登録の禁止**

同一時間帯に2科目以上履修登録することはできません。二重登録した場合、該当科目は全て無効となりますので注意してください。

③ **修得済み科目の登録禁止**

既に単位を修得した科目を再び履修登録することはできません。

④ **登録制限単位数**

制限単位以上の科目を履修登録することはできません。ただし、随意科目（諸課程科目など）は制限単位に含みません。

⑤ **履修配当年次**

現年次より上の年次に配当されている科目を履修登録することはできません。（留年生に対する特別措置は除く）

⑥ **クラス、学科指定**

学科や学籍番号によってクラスあるいは学科が指定される科目（英語、スポーツ技術学、仏教の思想等）があるので注意して登録してください。Web登録画面にて確認して下さい。

⑦ **登録科目の追加、変更の禁止**

登録日以後の科目の変更、追加、修正は認めません。ただし、履修不可能科目の登録によるエラーがあった場合はこの限りではありません。（履修辞退制度による登録取消は除く）

⚠ 注意事項

① 必修科目が配当されている学年にあっては、その年次において登録してください。

② 所属年次に配当されている授業科目以外の授業科目は登録できません。ただし、授業科目の区分等の関係で、卒業要件を充たすに必要な場合は、下級年次配当の授業科目を登録することができます。

③ 授業時間割表に従って登録してください。（特に、同一授業科目について複数の担当者がある場合や、週2回学期完結授業等の場合は、別段の指示があるので注意してください。）

3．履修登録制限

理工学部では、下記のとおり履修登録制限をしています。ここに定める単位数を超えて履修登録することは一切認められないので、よく考えて履修計画を立てる必要があります。

学　　年	1年次	2年次	3年次	卒業年次生
前期制限単位数	30	30	30	60
後期制限単位数	30	30	30	

⚠ 注意事項

① 制限単位を計算する際、通年科目、前期・後期のペア科目については、前期・後期それぞれに単位数の半分ずつをカウントします。

（例）4単位の通年科目を登録すると、前期・後期にそれぞれ2単位ずつ加算されます。

② 諸課程科目（教職課程科目・本願寺派教師資格課程）などの随意科目は制限単位に含みません。

③ 集中講義期間に実施される以下の科目は履修制限単位数に含みません。（2011年度）

情報と職業／ MOT概論／特別講義（機械システム工学科）

④ 大学コンソーシアム京都と環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換制度科目は履修制限単位数に含みません。

4．予備登録

予備登録とは、定員が定められている科目について、受講者数の調整およびクラス分けのため、通常の履修登録に先立って行われるものです。

予備登録にあたっては、以下の点に注意する必要があります。

予備登録が必要な科目は、別途指示します。

①予備登録が必要な科目は、予備登録なしに履修することはできません。（ただし、予備登録の結果、定員に満たなかった場合は追加募集する場合があります。）

②予備登録で履修許可された科目は、必ず登録しなければなりません。

5．履修登録要領

(1) 登録の心得

① 登録は、すべて自己の責任においてなされなければならないので、十分に注意して履修登録を行っ

てください。なお、登録にあたって、不明な点があれば、遠慮なく理工学部教務課窓口に相談してください。

② 登録不備等が卒業延期等重大な結果につながる場合があるので必ず登録確認を行ってください。

③ 時間割、教室、担当者等について変更が生じる場合があるので、随時理工学部掲示板とポータルで確認してください。

⑵ 履修登録にあたって注意すべき点

① 授業時間割等に変更が生じた場合は、理工学部掲示板に掲示しますので注意してください。

② 履修登録にあたって、不明な点があれば、遠慮なく理工学部教務課窓口に相談してください。

③ Web履修登録画面から、定められた期日に必ず登録してください。

登録期間は次のとおりです。

学　期	登録期間
第1学期	4月８日（金） 9：00 ～ 26：00 4月９日（土） 7：00 ～ 26：00 4月10日（日） 7：00 ～ 26：00 4月11日（月） 7：00 ～ 26：00 4月12日（火） 7：00 ～ 26：00 4月13日（水） 7：00 ～ 16：00
第2学期	未定（理工学部掲示板・HPで別途お知らせします。）

⚠ 注意事項

＊通年科目、前期･後期のペア科目の単位数は、前期･後期にそれぞれ半分ずつカウントされます。

＊半期に完結するペア科目（半期で1週間に2回講義が行われる科目）の単位数は、半期にカウントされます。

（例）前期ペアで4単位の科目の場合は、前期に4単位を加算します。

（例）前・後期ペアで4単位の科目、通年で4単位の科目の場合は、前・後期それぞれに2単位ずつ加算します。

＊集中講義Ⅱの期間に実施される科目は、9月卒業を希望する者は受講できません。

④ 受講登録確認表の配布

本人が登録した授業科目は、コンピューター処理され、その結果が4月下旬（第2学期は10月中旬）に理工学部教務課窓口で配布されますので、正しく登録されているかどうかを必ず確認してください。受講登録確認表について、不備もしくは質問のある場合は、ただちに、理工学部教務課窓口に申し出てください。

６．履修登録の確認

授業科目が正確に登録されているかは、自己の責任において、配布する**受講登録確認表**で必ず確認してください。（配布日時は理工学部掲示板にて指示）

もし、確認せずに間違ったまま登録を放置しておくと、受講している科目が無効となり、試験が受けられなくなるので注意してください。

登録確認を怠ったために、登録不備等により留年や卒業延期等の重大な不利益を被った例が生じているので、確認は1科目ずつ慎重に行ってください。

万一、登録に疑問または誤りがあれば登録修正期間に理工学部教務課まで申し出てください。（日時は理工学部掲示板にて指示）

Ⅳ 成 績 評 価

成績評価は、個々の科目について定められている単位数に相当する量の学修成果の有無やその内容を評価するために行われます。成績評価は、一般的に100点満点法で評価され、60点以上の評価を得られた場合に所定の単位が認定されます。

1．成績評価の方法

成績評価は、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちの1または2以上を合わせて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められています。その内容はシラバスに明示されているので参照してください。

① 筆答試験による評価
② レポート試験による評価
③ 実技試験による評価
④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、授業担当者が設定する方法による評価

2．成績評価の基準

① 成績評価は、100点を満点とし60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
② 一度合格点を得た科目（既得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできません。
③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合があります。
④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

適用入学年度	段階評価と評点
2004年度以前入学生	A（80 ～ 100点） B（70点～ 79点） C（60 ～ 69点）
2005年度以降入学生	S（90 ～ 100点） A（80 ～ 89点） B（70 ～ 79点） C（60 ～ 69点）

上記の段階評価以外に、実習科目はG（合格）・D（不合格）で評価する場合があります。単位認定された科目の場合はN（認定）となります。

※2004年度まで使用していた試験欠席を示す「K」表記は、2005年度より廃止しました。（全学生に適用）。

⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しません。
⑥ 学業成績表は、第1学期（前期）分を9月下旬、第2学期分（後期）を3月下旬に配布します。
指定された期日に学生証を提示の上、指定された場所で受け取ってください。

3．成績疑義

成績評価について疑義がある場合は、必ず所定の「成績疑義申出用紙」に疑義内容を記入した後、理工学部教務課窓口に提出してください。授業担当者に直接申し出てはいけません。

なお、申出期間については、成績表配布日を含めて3日間（土・日除く）です。詳細は別途掲示します。

4．平均点とＧＰＡ

(1) 平均点

平均点は、登録科目の素点（100点満点）の合計と単位数をかけたものを、登録科目の総単位数で割ったものです。

$$\text{平均点} = \frac{\Sigma\ (\text{登録科目の素点} \times \text{単位数})}{\Sigma\ (\text{登録科目の単位数})}$$

例えば、「仏教の思想Ａ」（2単位）90点、「英語ＩＡ」（1単位）80点、「心理学入門」（2単位）40点、「物理学Ｉ」（2単位）78点が登録科目の結果とした場合、平均点は次のように計算されます。

$$平均点 = \frac{(90\times2) + (80\times1) + (40\times2) + (78\times2)}{2+1+2+2} = \frac{496}{7} = 70.86$$

(2) ＧＰＡ

ＧＰＡとは、Grade Point Average（成績加重平均値）のことで、登録科目の素点（100点満点）を下表のように換算し直し、その合計を登録科目の総単位数で割ったものです。

素　点	グレイドポイント
100～90点	4
89～80点	3
79～70点	2
69～60点	1
59点以下	0

$$ＧＰＡ = \frac{\Sigma（登録科目のグレイドポイント\times単位数）}{\Sigma（登録科目の単位数）}$$

例えば、「仏教の思想Ａ」（2単位）90点、「英語ＩＡ」（1単位）80点、「心理学入門」（2単位）40点、「物理学Ｉ」（2単位）78点が登録科目の結果とした場合、ＧＰＡは次のように計算されます。

$$ＧＰＡ = \frac{(4\times2) + (3\times1) + (0\times2) + (2\times2)}{2+1+2+2} = \frac{15}{7} = 2.14$$

(3) 各科目の算入基準

平均点およびＧＰＡの計算をする際、下表のとおり取り扱います。

科目の区分	取り扱い
卒業要件となる科目 (2005年度以降入学生については、卒業要件上、余剰分となる科目も含む)	算入する
随意科目	算入しない
再履修により合格した場合、当初履修し不合格となった科目	算入しない

＊再履修で不合格の場合は、高得点の方を算入します。

理工学部としては平均点を使用することとし、ＧＰＡは参考までに学業成績表に表記することとします。

Ⅴ 筆 答 試 験

筆答試験は、次の要領で実施されます。

1．試験の時期

筆答試験をその実施時期によって分類すると、次の2種類になります。

① **定期試験**（学期末・学年末試験）
個々の科目について定められている授業期間の終了時期（通常の場合は学期末）に実施する筆答試験をいう。

② **追試験**
定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する筆答試験をいう。（追試験の項を参照のこと。）

2．受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと受験資格を失い、受験することができなくなる恐れがあります（追試験については、追試験の項を参照のこと）。

① その科目について、有効な履修登録がなされていること。
② 定められた学費を納入していること。
③ 授業に出席していること。原則として3分の2以上の出席があること。
④ 授業担当者の求める諸条件を満たしていること。

3．受験の注意事項

筆答試験に際しては、次のことを守らなければなりません。

① 指定された試験場で受験すること。
② 試験開始20分以上の遅刻および30分以内の退室は許されない。
③ 学生証を携帯すること。
④ 学生証を必ず机上に提示し、写真欄が見えるよう机上通路側に置くこと。
万一学生証を忘れた場合には､理工学部教務課窓口で｢試験用臨時学生証｣の交付を受けておくこと。
⑤ 答案（解答）用紙が配付されたら直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること。
⑥ 参照を許可されたもの以外は、指示された場所に置くこと。
⑦ 試験開始前に携帯電話等の電源を切り、鞄の中に入れること。
⑧ 答案（白紙答案を含む）を提出しないで退室しないこと。

4．答案の無効

次の場合は、その答案は無効となります。

① 無記名の場合。
② 指定された場所に提出しない場合。
③ 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合。
④ 同一科目の複数開講において、開講曜講時等の間違いで受験したもの。
⑤ 試験場間違いで受験したもの。
⑥ 受験態度の不良な場合。

５．筆記試験における不正行為

① 受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。さらに、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。

② 次に該当する場合は、これを不正行為と見なします。

（ア） 私語や態度不良について注意を与えても改めない場合。
（イ） 監督者の指示に従わない場合。
（ウ） 身代り受験を行った場合、または行わせた場合。
（エ） カンニングペーパー等を所持していた場合。
（オ） 許可された以外のものを参照した場合。
（カ） 机上等への書き込みをしていた場合。
（キ） 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合。
（ク） 答案用紙の交換および見せ合いをした場合。
（ケ） その他、（ア）～（ク）に準じる行為を行なった場合。

６．追試験

① 追試験の受験資格

（ア） 病気や怪我、試験時における体調不良等により受験ができなかった者。
（イ） 親族（原則として3親等まで）の葬儀により受験ができなかった者。
（ウ） 公認サークルの公式戦に選手として参加することにより受験ができなかった者。
（エ） 資格試験（公務員試験、公的資格試験等）や就職活動（説明会、筆記試験、面接等）により受験ができなかった者。
（オ） 単位互換科目（大学コンソーシアム京都科目、環びわ湖大学コンソーシアム科目）の試験により受験ができなかった者。
（カ） 3年次生で単位認定の対象となるインターンシップ実習（協定型インターンシップ､大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム）により受験ができなかった者。
（キ） 交通機関の遅延等により受験ができなかった者。
（ク） 交通事故や災害等により受験ができなかった者。
（ケ） 裁判員制度による裁判員（候補者）に選任されたことにより受験できなかった者。
（コ） その他、学部教授会が特に必要と認めた者。

ただし、その際、追試験受験願および欠席理由証明書（医師診断書、交通遅延証明書または事故理由書、就職試験等による場合は会社あるいは団体が発行する証明書等）をその科目の試験日を含めて4日以内（土・日・祝日は含まない。ただし、土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内。）に理工学部教務課窓口に提出しなければなりません。

なお、定期試験当日、医師の診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に理工学部教務課まで連絡してください（電話による連絡可）。

② 追試験の受験料は、1科目1,000円です。

③ 実技、実験・実習科目（例えば、「スポーツ技術学」）、レポート試験による科目、特別に指定された科目については、原則として追試験は行いません。

④ 追試験における評点は、最高100点です。

7．筆答試験時間

筆答試験時間割は、原則として試験14日前に掲示およびポータルにより発表します。
試験時間は、次のとおりです。

講　　時	開始時間	終　了　時　間	
		右記以外の全科目 （60分）	理工学部固有科目 （学部内共通科目 学科固有科目） （90分）
1講時	9：20	10：20	10：50
2講時	11：10	12：10	12：40
3講時	13：30	14：30	15：00
4講時	15：20	16：20	16：50
5講時	17：10	18：10	18：40
6講時	19：00	20：00	20：30

※2、4、5講時は通常の講義時間と異なるので注意すること。

8．レポート試験における不正行為

レポート試験については、既存文書からの不正な転用等が認められたとき（例えば、インターネット等から複写したような場合）は、当該レポートを無効扱いとし、単位認定をおこなわない場合があります。

参考 レポート提出要領

①　レポートの提出方法

（ア）　レポートは授業担当者の指示に従って提出すること。
（イ）　レポートは指示されたところに提出し、郵送の場合は宛名を確認の上、必ず「書留」で発送すること。
（ウ）　授業担当者に直接提出するように指示のあるものについて、事故を防ぐため事情のいかんを問わず、理工学部教務課窓口では一切取り扱わない。
（エ）　提出期限は厳守すること。（期限を経過したものは受理しない。）
（オ）　その他、指示に従わない場合は無効となる。

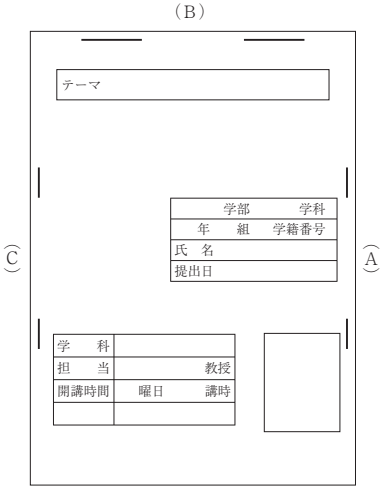
②　レポートの提出形式

用紙・規格等は次のとおりとする。

用紙種別	字数	大きさ	書き方	綴じ方	綴じ位置
龍大論文用紙	400字	B4判	縦書き	右側	A
龍大原稿用紙	400字	B4判	横書き	上側	B
レポート用紙		A4判	横書き	左側	C

●必ずホッチキスで綴じること。
●表紙の書き方、綴じ方は下図のとおり。（但し、担当者より別途指示がある場合は、指示に従うこと。）

表紙記入・綴じ方法



Ⅵ 教 育 支 援

理工学部には、学修に関することから学生生活まで、さまざまなサポート体制があります。ここでそのいくつかを紹介しますので、積極的に利用してください。

1．学科の委員

理工学部では、学科毎に教員が諸委員を担当して、学科の運営にあたっています。以下に、みなさんに関わりの大きい委員を紹介しますので、それぞれに関わる事について、なんでも相談してください。（各委員は１年毎に変更されます。担当教員は掲示します。）

担　当	担 当 内 容
学 科 主 任	総合的に学科の運営を担当します。
教 務 委 員	学科の授業運営を担当します。 時間割の作成や履修説明会なども行います。2名の教員が担当します。
学生生活委員	学修以外の学生生活について、学生部と連携して担当します。
就職担当委員	就職活動について、キャリア開発部と連携して担当します。2名の教員が担当します。
学外実習実施委員	3年次科目「学外実習」の運営を担当します。

2．クラス担任制

入学してから各研究室に配属されるまで、全学生に対してクラス担任を配置します。どんなことでも気軽に相談してください。新入生オリエンテーションでのクラス会をはじめとして、定期的に開催し、学修相談・懇親交流を行います。また、食事会を実施するクラスもあり、学科全体の懇親会なども開かれます。

3．教員との面談

理工学部の専任教員との面談は、各自で行うようにしてください。また、在室時間は、各研究室のドアのスケジュールシートを参考にしてください。

学科によっては、学科のＨＰに各教員のスケジュール表が示されています。

他学部の教員との面談も、各自で行うようにしてください。研究室の所在や出校日などは理工学部教務課窓口で問い合わせてください。

非常勤の教員は、担当授業の曜講時以外は出校しておられませんので、できるだけ、授業の際に直接申し出てください。

教員によっては、オフィスアワーを実施している場合がありますので、そちらも利用してください。

4．T.A.制度

ほとんどの実験・実習科目に、大学院生などによるT.A.（Teaching Assistant）を配置し、教員と連携して、少人数による双方向・対話型のきめ細かな指導を行っています。

5．チューター制度

授業で十分に理解できなかった内容や、高校までの基礎的な内容など、学修に対する相談に大学院生などが個別に対応してくれます。チューターには、決められた時間・場所で待機している常駐型と、個人指導の個別型があります。常駐型の実施日時は掲示板等でお知らせします。個別型については、教務委員に相談してください。

6．理工学部初年次学習支援センター

2011年度より、「理工学部初年次学習支援センター」を開設し、外部講師・上級生が理工系基礎科目「数学・物理・化学」を中心とした学習指導・学習相談を実施します。

開設場所・開設時間等、詳細については、オリエンテーションおよび掲示板等でお知らせいたします。

7．L.A.制度

計算機実習室での自習をサポートするために、学生によるL.A（Leaning Assistant）を配置しています。

8．ライティングセンター

当センターは、学生のみなさんにおけるアカデミックライティングの技術を向上させるための機関です。具体的には、卒業論文・卒業研究、レポート、ゼミ発表などに関する相談を受けつけます。何からはじめればいいのかわからないときや行き詰まったときなど、下記の開室期間を参照のうえ、自由に利用してください。相談には、本学所属の大学院生など、みなさんの先輩にあたるチューターが応じますので、本学に合った的確なアドバイスが受けられます。

◆場　　所　1号館1階　セルフラーニングルーム（講師控室のとなり）
◆開室日時　月・水・金　11：00 ～ 16：00（授業実施期間中）

9．その他

カウンセリングを行う学生相談室や、セクシュアル・ハラスメントに関する相談員も配置しています。

各相談窓口がわからない場合は、理工学部教務課窓口へ問い合わせてください。

教　育　課　程

Ⅰ　理工学部の教学理念と教育目標

理工学部は、日本の仏教系大学では初めての自然科学系学部で、情報化と国際化が著しい現代において、**科学と人間の調和**を最も重視し、技術の高度化のみならず精神文化の豊かさに対し貢献できる科学技術者の育成を教学の理念としています。

20世紀において科学技術は大きな発展を遂げ、われわれの生活に多大の貢献をしてきましたが、同時に環境に対して大きな負荷を与え、また精神文化や倫理にも少なからず影響を与えてきました。特に、科学技術に携わる人材の倫理観の欠如は、大きな社会的問題を引き起こしています。本学設立の基礎である仏教の思想と高い倫理性を基礎におき、最新の科学技術の高度な専門知識を備え、21世紀の社会に大いに貢献できる有為な人材を育てることこそ本学理工学部に与えられた使命であり、存在価値であります。

自然を学ぶことから出発した**理学**と、人間生活の向上に資することを目的とした**工学**とは引き離すことのできない自然科学の2大分野であり、共に急速に発展しています。これら最新の理学と工学を融合させることにより、新しい視点に立った学問の道を開き、若い世代に教育していくことによって、時代の要請にかない先端技術の発展に寄与し得る人材を育成することを理工学部の目標としています。このため、基礎から応用までバランスがとれ、科学全体を総合した教育課程を構成しています。

教養教育科目（共同開講科目）

人間性を高めるため、入学初年度に**仏教の思想**を必須科目として設定しています。また、他学部との共同開講である**教養**科目や**スポーツ科学**の受講を義務付け、科学偏重や視野の狭い技術者にならないような配慮をしています。また、国際化に対応して系統的な**英語教育**を実施し、その他の外国語の履修の機会や**倫理教育**科目を設定しています。

固有科目

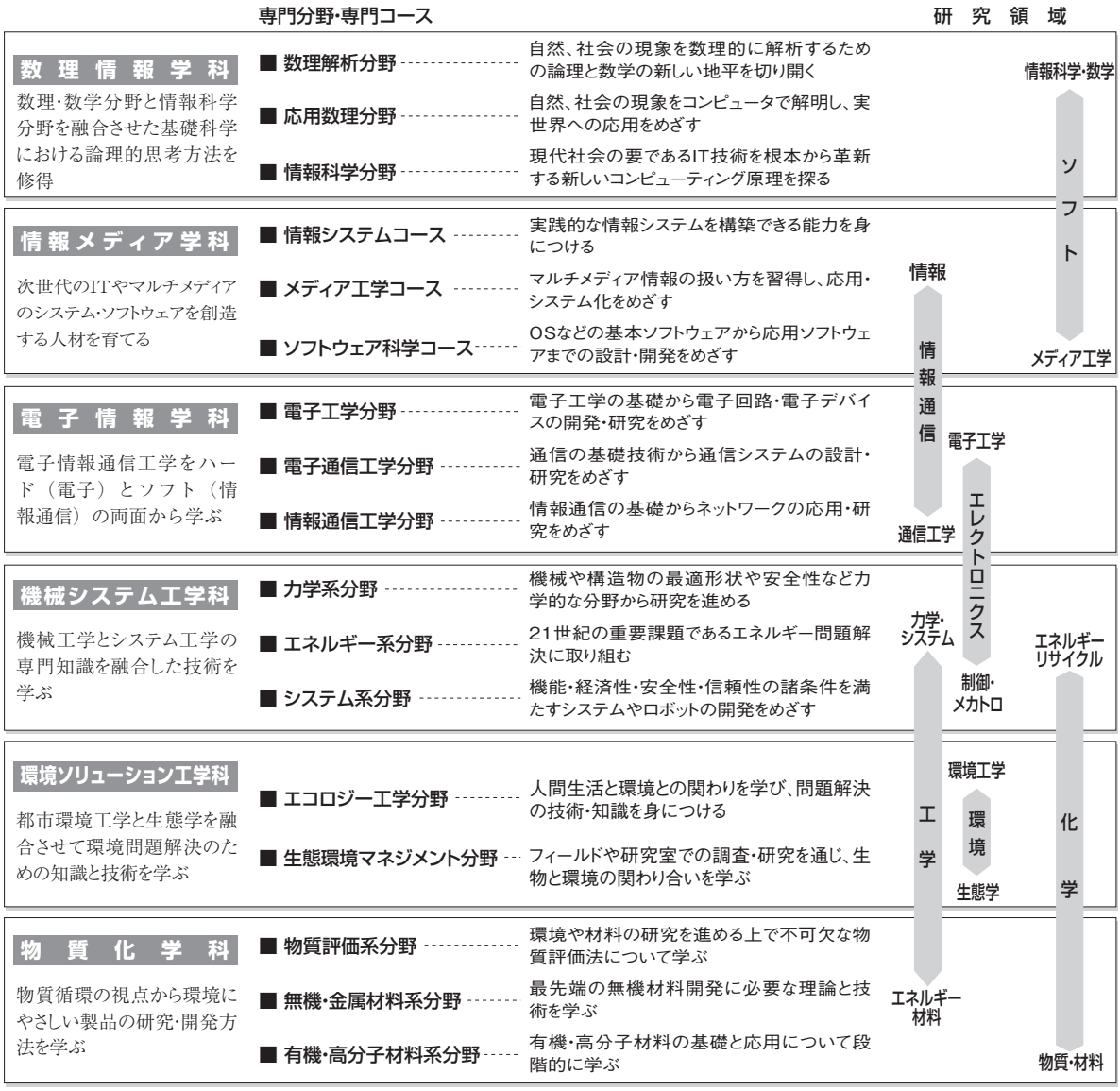
＜学部内共通科目＞

学部共通の基礎教育として、実践力のある技術者･研究者としての基礎を確立するために、情報リテラシー教育を含むコンピュータ関連科目を基礎から応用まで段階的に用意して、専門的な計算機実習、理工学基礎実験（物理実験）、学外実習や総合実習・特別演習を学部内共通の必修または選択必修科目とし、**基礎技術**の強化を行っています。

＜学科固有科目＞

専門科目については、各学科の特性に合わせたカリキュラムが編成されています。現代の自然科学を代表するキーワードは、**「情報」「システム」「エネルギー」「材料・物質」「環境」**です。これらを軸として、**数理情報学科**では数理科学と情報科学が、**情報メディア学科**では情報科学とメディア工学が、**電子情報学科**では電子工学と情報通信工学が、**機械システム工学科**では機械工学とシステム工学が、**環境ソリューション工学科**では都市環境工学と生態学が、**物質化学科**では材料・物質と化学が、それぞれ組み合わされた専門課程のカリキュラムが編成されています。さらに、個々の科目の内容を統合し応用する力を育てるために、**卒業研究**を高単位の必修科目とし、極めて重要視しています。なお、科目選択の幅を広げるため、制限内で他学科の科目の履修も認めています。

学科構成図



科学技術は日進月歩であり、社会が求める人材も変化して行きます。一旦設定した教育内容も時代の要請に応じて変化させていかなければなりません。理工学部が設立当時より継続している**学外実習**は、学生を企業に派遣し実習を行わせるものですが、学生自身が実社会において使われている最先端技術を知り、勉学の必要性を実感すると共に、社会が求めている人材や備えるべき知識についての情報を企業等から直接得る良い機会となります。また、企業との**共同研究**から得られる情報も大切です。これらの情報を基に、学生に付与すべき知識を見直しカリキュラムに反映していくことで、常に社会のニーズに即した教育内容となり、実践力をもつ人材を育てることができます。

同時にキャリア教育にも積極的に取り組み、将来に対する意識の啓発等のために「キャリアデザイン」と「キャリアプランニング」を開講しています。

幼少時代から科学技術に関する興味を持たせ、科学者の芽を育てていくことも大切です。理工学部では教職につく人材の育成にも努力しています。学科によって中学校教諭一種免許（数学・理科）、および高等学校教諭一種免許（数学、情報、工業、理科）を取得することができます。

Ⅱ　環境ソリューション工学科の教学理念と教育目標

新時代に相応しい教育研究環境を整え、わが国における学術文化の一層の発展に寄与することを目的として、龍谷大学理工学部が平成元年（1989年）に設置されました。環境ソリューション工学科は、この理工学部における新たな展開を図るべく平成15年（2003年）に設置された学科です。生態学についての深い理解を基盤におき、さらに理工学の専門的な知識を活かすことにより、環境の保全と持続可能な社会の構築に貢献する人材を育成することが環境ソリューション工学科の目的です。

これまで、日本において大きな社会問題として位置づけられてきた環境問題は、生命財産に直接被害を及ぼす公害問題でした。そしてこのような公害問題に対して、工場や都市域から発生する汚染物質をいかに工学的に処理し、処分するかが課題でした。しかし、現在解決が求められる環境問題は、地球規模の広がりを持ち、自然環境や野生生物の保全、さらに人間生活におけるアメニティの確保といった広範囲な分野を対象とするようになってきました。

このような状況において、広範な環境問題への対応を図るには、森林や湖沼といった自然環境や生態学に関する幅広い知識と、廃棄物処理や廃水処理などの目的解決型の工学技術との融合が求められています。

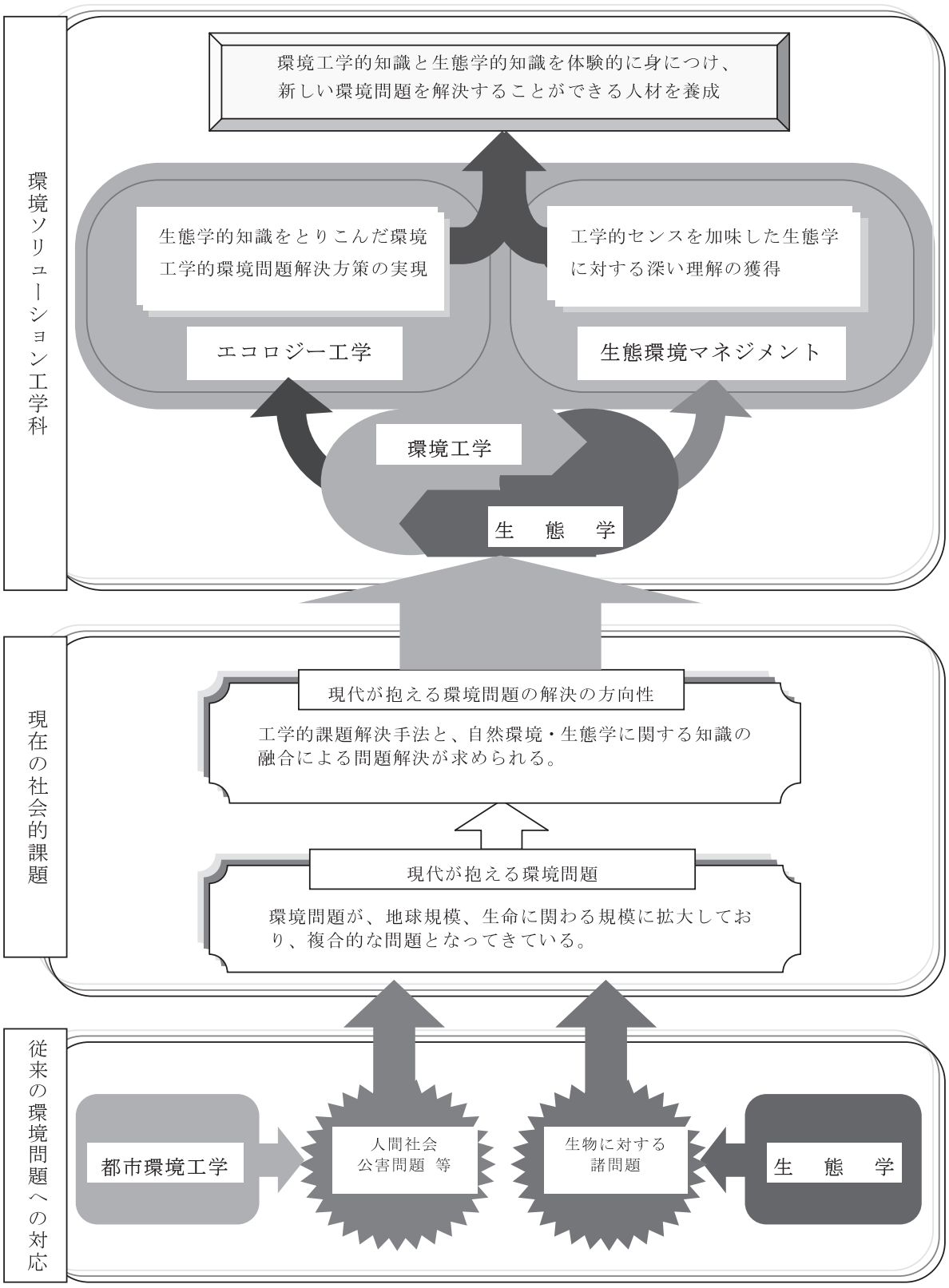
工学的な手法で人間生活の改善を図る場合も、その行為が生態学的にどのような影響を与えるかを十分に理解していなくてはなりません。また、開発行為の是非についての判断や開発方法の選択にあたっては、自然環境に関する生態学的な調査・解析に基づき、工学的対応を図るといった総合的な視点が重要となってきます。

環境問題に対処していくためには、生態学の知識とともに、廃棄物等の処理技術に係わる深い理解が重要になってきています。また、新しい環境問題が次々と出てくる可能性がありますが、それらの問題解決には、これまでの学問、研究における充分な知識を基礎として、新しい問題を解決していく創造的な対応能力が必要となってきます。

環境ソリューション工学科は、これまでの環境工学的な知識と生態学的な知識を体験的に身に付け、今後の環境問題に対して積極的に取り組み、創造的な問題解決ができる人材を育成します。本学科の名称にあるソリューション（解決）とは、このような創造的な問題解決を行うことが出来る人材育成を目指していることを意味します。

本学科では、環境工学を基礎とした「エコロジー工学」と生態学を基礎とした「生態環境マネジメント」の２分野を置いています。両分野とも既存の環境工学や生態学ではなく、環境工学は自然環境を取り込んだ形で新たに編成され、生態学も人間社会を取り込んだ形で新たな展開を図り、さらに両分野を統合していくことを目標としています。

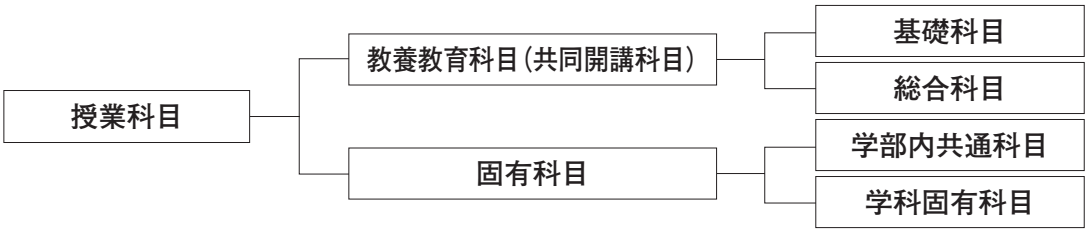
都市環境工学と生態学の両方の知識と技術を習得し、環境問題に対処するための方法論を学び、さらにプレゼンテーション能力、企画提言能力を身につけることで、種々の環境問題の解決に貢献できる人材を育成できると確信しています。


環境ソリューション工学科
環境工学的知識と生態学的知識を体験的に身につけ、
新しい環境問題を解決することができる人材を養成
生態学的知識をとりこんだ環境
工学的環境問題解決方策の実現
工学的センスを加味した生態学
に対する深い理解の獲得
エコロジー工学
生態環境マネジメント
環境工学
生　態　学
現在の社会的課題
現代が抱える環境問題の解決の方向性
工学的課題解決手法と、自然環境・生態学に関する知識の
融合による問題解決が求められる。
現代が抱える環境問題
環境問題が、地球規模、生命に関わる規模に拡大してお
り、複合的な問題となってきている。
従来の環境問題への対応
都市環境工学
人間社会
公害問題　等
生物に対する
諸問題
生　態　学

Ⅲ　教育課程の編成・履修方法

1．授業科目の区分

理工学部の教育課程（カリキュラム）の編成は、「教養教育科目（共同開講科目）」「固有科目」から編成され、さらに、教養教育科目（共同開講科目）は「基礎科目」「総合科目」、固有科目は「学部内共通科目」「学科固有科目」で編成されます。これらの分類のことを授業科目の区分といいます。



⑴　**教養教育科目（共同開講科目）**

教養教育科目（共同開講科目）は、固有科目との有機的な結びつきのもとに、幅広い教養と総合的判断力を養うことを目的とし、基礎科目、総合科目から構成されています。瀬田学舎の３学部が共同して開講します。

⑵　**固有科目**

固有科目は、専門領域に関する授業科目であり、理工学部共通の基礎教育を行う学部内共通科目と、各学科専門分野の基礎および応用を教育する学科固有科目に分類されます。

2．必修科目・選択必修科目・選択科目・随意科目

すべての授業科目は、必修科目・選択必修科目・選択科目・随意科目のいずれかに指定されています。

⑴　**必修科目**

卒業要件を満たすために必ず履修しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。

⑵　**選択必修科目**

指定された科目群の内から決められた数の科目を任意に選択して履修しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。

⑶　**選択科目**

どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。ただし、卒業要件として定められた単位数は修得する必要があり、この要件を満たしていない場合は卒業の認定を受けることができません。

⑷　**随意科目**

単位の認定はされますが、卒業要件の単位数には含まれない科目です。「数学序論」「物理学序論」のような序論科目や、各種の資格取得にかかわる科目が該当します。

3．各科目の履修方法について

⑴　教養教育科目（共同開講科目）についての履修方法は、入学年度により異なるので注意してください。

入学年度	掲載ページ
2008年度以降入学生	P25 ～ P29
2003 ～ 2007年度入学生	P30 ～ P34

⑵　固有科目についての履修方法は、入学年度により異なるので注意してください。

入学年度	掲載ページ
2009年度以降入学生	P38 ～ P43
2007・2008年度入学生	P44 ～ P49
2006年度以前入学生	P50 ～ P55

❶教養教育科目の履修方法　【2008年度以降入学生】

教養教育とは

（1）教養教育の目的と意義

本学の教養教育は、建学の精神を具現化する高い倫理性や豊かな人間性とともに、知性・感性を兼ねそなえ、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成を目的として開講されています。

つまり、幅広い知識と知的な諸技法の修得に基づく論理的思考力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する総合的な判断力と、国際的なコミュニケーション能力を持った「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としており、その達成のために以下の目標を掲げています。

1. コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の向上
2. 歴史認識と社会認識に基づく自己の確認と自律
3. 学問や科学技術が問いかけている諸課題・問題の理解
4. 知的訓練ないし知的鍛錬

（2）教養教育科目とは

本学の教養教育は、主に教養教育科目として提供されており、瀬田学舎では、基礎科目（6分野）と総合科目（「情報」「福祉」「国際」「環境」をキーワードとする）にわけて、学際的・系統的履修を可能にしています。

■基礎科目

「基礎科目」は、仏教、スポーツ、外国語、人文科学、社会科学、自然科学の各分野からなり、幅広く社会全体を見渡す知識や教養を深めるために、学部の専門を問わず大学における学修の基礎となることを目的とする全学共通の授業科目です。幅広い分野の授業科目を可能な限り受講することをすすめます。

1．必修科目の履修について

「基礎科目」として開設している科目の中から、以下の科目を必修科目として合計12単位を履修しなければなりません。

分野	科目名	単位数	合計単位数
仏教	仏教の思想Ａ、仏教の思想Ｂ	各2単位	4単位
外国語	英語ＩＡ、英語ＩＢ、英語ⅡＡ、英語ⅡＢ、英語Ⅲ、英語Ⅳ	各1単位	6単位
スポーツ	スポーツ技術学Ａ、スポーツ技術学Ｂ	各1単位	2単位

（1）仏教の思想の履修について

「仏教の思想Ａ・Ｂ（各2単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降に再履修しなければなりませんが、この場合は、別途指示いたします。

（2）スポーツ技術学の履修について

「スポーツ技術学Ａ、Ｂ（各1単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

（3）英語の履修について

必修外国語として英語6単位を履修しなければなりません。配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次学期以降再履修しなければなりません。この場合は、再履修クラスを予備登録後、履修してください。

－外国語科目の意義－

大学における外国語教育の目的は、それぞれの外国語の運用能力を養うことだけではありません。母国語とは異質の言語に接することにより、各民族の思考様式を反映している言語にたいする認識を深め、外国の芸術、文化をより深く理解する能力を養うことがその目的です。

また、母国語との間に行われる訳解の日常作業は、外国語能力の養成のみならず、一般に論理的思考能力の錬磨のため伝統的に大きな役割を果たしてきました。さらにそれが日本語を客観的に眺め、学生が自分の日本語能力を検証し得る数少ない機会の一つとなっています。

これらが一体となって大学生活に必須とされる学問的基礎訓練の一環をなしています。この目標に近づくためには、大学の外国語教育に対する正しい理解を持つとともに、訓練にたえうる忍耐力、持続力が不可欠です。教室外での自発的研修ももちろん必要です。

＜習熟度別クラス編成について＞

必修外国語である英語のクラスは、習熟度別クラス編成を行っています。これは、既習の英語の知識、能力を踏まえつつ、英語圏の文化に対する理解および情報伝達のための英語力（読む、書く、聴く、話す）の総合的向上を図るために、より学生の実態に即した教育を行うためのものです。習熟度別クラスについては、入学時に実施する英語クラス編成テストの得点結果によって編成します。

＜科目概要＞

英語ＩＡ・ＩＢ	基礎的な英語力の見直し
英語ⅡＡ・ⅡＢ	「Ｉ」を発展させた基礎力の強化
英語Ⅲ・Ⅳ	「Ｉ、Ⅱ」をもとに４技能（Reading、Writing、Speaking、Listening）のさらなる養成

２．学科指定・クラス指定

必修科目は、学科指定もしくはクラス指定がありますので別途指示に従って履修登録してください。

３．予備登録について

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

⑴**「スポーツ技術学Ａ・Ｂ」**は、予備登録が必要となります。別途指示に従ってください。

⑵**「英語（再）」**は、予備登録が必要となります。先着順となりますので別途指示に従ってください。

⑶**「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「コリア語」**の各科目は、予備登録が必要となります。

⑷**「英語セミナー」**の各科目は、予備登録が必要となります。

４．先修制について

先修制とは、ある科目を履修する場合に、特別に指定された科目（単位）を修得していなければ、その科目を履修することができない制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

＜先修制授業科目＞

① **ドイツ語セミナーＡもしくは、Ｂ**を履修するためには「ドイツ語ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ・ＩＤ（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。

② **フランス語セミナーＡもしくは、Ｂ**を履修するためには「フランス語ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ・ＩＤ（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。

③ **中国語セミナーＡもしくは、Ｂ**を履修するためには「中国語ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ・ＩＤ（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。

④ **コリア語セミナーＡもしくは、Ｂ**を履修するためには「コリア語ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ・ＩＤ（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。

＜英語以外の外国語概要＞

ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語ＩＡ・ＩＢ	「未知なることば」への入門
ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語ＩＣ・ＩＤ	総合的な言語運用能力の獲得
ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語セミナーＡ、セミナーＢ	異文化へのアプローチ

■総合科目

「総合科目」は、21世紀のキーワードである『情報』・『福祉』・『国際』・『環境』を中心として、幅広い視野に立脚しつつ、現代のテーマ・問題・ニーズなどに対応した科目を開設しています。「基礎科目」は、主として分野によって科目を開設していますが、「総合科目」は、分野の枠組みを越えた科目群であり、「基礎科目」につづいてさらに幅広い視野をもち人間的に成長するために構成されたものです。「基礎科目」と同様にできるだけ多くの授業科目を履修し、在学期間中の自己研鑽に努めることを望みます。

５．予備登録について（総合科目）

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

⑴「**自然観察法**」は、予備登録が必要となります。

６．教養教育科目特別講義の履修について

総合科目群には、教養教育科目特別講義を開設しています。教養教育科目特別講義については、卒業要件として認めるものは、４科目８単位までとなりますので、履修の際は注意してください。

設置科目　【2008年度以降入学生】

■基礎科目

	科目名	単位数		配当年次 1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後
	仏教の思想A	**必修**	**2**	○			
	仏教の思想B	**必修**	**2**		○		
	スポーツ技術学A	**必修**	**1**	○			
	スポーツ技術学B	**必修**	**1**		○		
	英語ⅠA	**必修**	**1**	○			
	英語ⅠB	**必修**	**1**	○			
	英語ⅡA	**必修**	**1**		○		
	英語ⅡB	**必修**	**1**		○		
	英語Ⅲ	**必修**	**1**			○	
	英語Ⅳ	**必修**	**1**				○
	英語セミナーA1	選択	2	○			
	英語セミナーA2	選択	2		○		
	英語セミナーB1	選択	2			○	
	英語セミナーB2	選択	2				○
	英語セミナーC1	選択	2			○	
	英語セミナーC2	選択	2				○
	英語セミナーD1	選択	2			○	
	英語セミナーD2	選択	2				○
	英語セミナーE1	選択	2			○	
	英語セミナーE2	選択	2				○
※	英語セミナーF1	選択	2			○	
※	英語セミナーF2	選択	2				○
	ドイツ語ⅠA	選択	1	○			
	ドイツ語ⅠB	選択	1		○		
	ドイツ語ⅠC	選択	1	○			
	ドイツ語ⅠD	選択	1		○		
	ドイツ語セミナーA	選択	2			○	
	ドイツ語セミナーB	選択	2				○
	フランス語ⅠA	選択	1	○			
	フランス語ⅠB	選択	1		○		
	フランス語ⅠC	選択	1	○			
	フランス語ⅠD	選択	1		○		
	フランス語セミナーA	選択	2			○	
	フランス語セミナーB	選択	2				○
	中国語ⅠA	選択	1	○			
	中国語ⅠB	選択	1		○		
	中国語ⅠC	選択	1	○			
	中国語ⅠD	選択	1		○		
	中国語セミナーA	選択	2			○	
	中国語セミナーB	選択	2				○

	科目名	単位数		配当年次 1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	
	コリア語ⅠA	選択	1	○				
	コリア語ⅠB	選択	1		○			
	コリア語ⅠC	選択	1	○				
	コリア語ⅠD	選択	1		○			
	コリア語セミナーA	選択	2			○		
	コリア語セミナーB	選択	2				○	
	文学入門	選択	2	○	○			
	哲学入門	選択	2	○	○			
	心理学入門	選択	2	○	○			※2011年度は前期のみ開講
	教育原論A	選択	2	○				
	教育原論B	選択	2		○			
	発達と教育A	選択	2			○		
	発達と教育B	選択	2				○	
	歴史入門	選択	2			○	○	
	倫理学入門	選択	2	○	○			※2011年度は前期のみ開講
	言語学入門	選択	2	○				
	論理学入門	選択	2	○	○			
	法学入門	選択	2	○				
	日本国憲法	選択	2	○	○			
	政治学入門	選択	2	○	○			
	統計入門	選択	2	○	○			
	社会学入門	選択	2	○	○			
	経済学入門	選択	2	○	○			
	社会思想史入門	選択	2			○	○	
★	生活の中の数学	選択	2	○				
★	生活の中の物理	選択	2		○			
※★	生活の中の化学	選択	2		○			
★	生命と科学	選択	2			○		
★	生活の中の統計技術	選択	2	○				

⚠注意事項

1）★印の5科目のうち、卒業要件単位として認めるのは、1科目2単位まで。（余剰分は、フリーゾーンにも計上されない。）

2）※印「**生活の中の化学**」について、物質化学科の学生は履修不可。

3）※印「英語セミナーF1，F2」は2011年度不開講。

■総合科目

	科目名	単位数		配当年次				
				1年次		2年次		
				前	後	前	後	
	情報社会とメディア	選択	2	○	○			
	現代社会とマス・メディア	選択	2			○	○	
	情報と人間	選択	2		○			
	スポーツ文化論	選択	2			○	○	※2011年度は前期のみ開講
	情報倫理	選択	2			○		
	現代社会と福祉	選択	2	○				
	メディアにみる福祉	選択	2		○			
	世界の福祉	選択	2			○		
	国際社会と日本A	選択	2			○		
	国際社会と日本B	選択	2				○	
	国際社会と日本C	選択	2			○		※2011年度は後期開講
	日本の文化	選択	2		○			
	アジアの文化	選択	2			○	○	
	欧米の文化	選択	2			○	○	
	海外英語研修	選択	2		○			
	科学技術史	選択	2	○	○			
	現代の技術	選択	2		○			
	環境と倫理	選択	2			○		
	環境と人間A	選択	2			○	○	
	環境と人間B	選択	2			○	○	
＊	自然観察法	選択	2			○		
	人権論A	選択	2	○				
	人権論B	選択	2		○			
	平和学入門	選択	2	○	○			
	ジェンダー論	選択	2	○				
	生命と共生	選択	2	○	○			
	人間と社会と法	選択	2			○		
	生活の中の宗教	選択	2	○	○			※2011年度は前期のみ開講
	現代社会と宗教	選択	2	○	○			
	現代社会とスポーツ	選択	2			○	○	※2011年度は後期のみ開講
	健康とスポーツ	選択	2	○	○			※2011年度は後期のみ開講
	大学生入門	選択	2	○				※2010年度以降不開講
	歎異抄の思想Ⅰ	選択	2			○		
	歎異抄の思想Ⅱ	選択	2				○	
◆	教養教育科目特別講義A	選択	2	○				◆印の５科目のうち、卒業要件単位として認めるのは４科目８単位まで
◆	教養教育科目特別講義B	選択	2	○	○			
◆	教養教育科目特別講義C	選択	2	○				
◆	教養教育科目特別講義D	選択	2	○	○			
◆	教養教育科目特別講義E	選択	2	○				

⚠注意事項

1）＊自然観察法について、環境ソリューション工学科の学生は履修不可。

❶共同開講科目の履修方法　【2003年度～ 2007年度入学生】

■基礎科目

「基礎科目」は、仏教、スポーツ、外国語、人文科学、社会科学、自然科学の各分野からなり、幅広く社会全体を見渡す知識や教養を深めるために、学部の専門を問わず大学における学修の基礎となることを目的とする全学共通の授業科目です。幅広い分野の授業科目を可能な限り受講することをすすめます。

1．必修科目の履修について

「基礎科目」として開設している科目の中から、以下の科目を必修科目として合計12単位を履修しなければなりません。

分野	科目名	単位数	合計単位数
仏教	仏教の思想Ａ、仏教の思想Ｂ	各2単位	4単位
スポーツ	スポーツ技術学Ａ、スポーツ技術学Ｂ	各1単位	2単位
外国語	英語ＩＡ、英語ＩＢ、英語ⅡＡ、英語ⅡＢ、英語Ⅲ、英語Ⅳ	各1単位	6単位

⑴　仏教の思想の履修について

「仏教の思想Ａ・Ｂ（各2単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降に再履修しなければなりませんが、この場合は、別途指示いたします。

⑵　スポーツ技術学の履修について

「スポーツ技術学Ａ・Ｂ（各1単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

⑶　英語の履修について

必修外国語として英語6単位を履修しなければなりません。配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次学期以降再履修しなければなりません。この場合は、再履修クラスを予備登録後、履修してください。

－外国語科目の意義－

大学における外国語教育の目的は、それぞれの外国語の運用能力を養うことだけではありません。母国語とは異質の言語に接することにより、各民族の思考様式を反映している言語にたいする認識を深め、外国の芸術、文化をより深く理解する能力を養うことがその目的です。

また、母国語との間に行われる訳解の日常作業は、外国語能力の養成のみならず、一般に論理的思考能力の錬磨のため古来大きな役割を果たしてきました。さらにそれが日本語を客観的に眺め、学生が自分の日本語能力を検証し得る数少ない機会の一つとなっています。

これらが一体となって大学生活に必須とされる学問的基礎訓練の一環をなしています。この目標に近づくためには、大学の外国語教育にたいする正しい理解を持つとともに、訓練にたえうる忍耐力、持続力が不可欠です。教室外での自発的研修ももちろん必要です。

＜習熟度別クラス編成について＞

必修外国語である英語のクラスは、習熟度別クラス編成を行っています。これは、既習の英語の知識、能力を踏まえつつ、英語圏の文化に対する理解及び情報伝達のための英語力（読む、書く、聴く、話す）

の総合的向上を図るために、より学生の実態に即した教育を行うためのものです。習熟度別クラスの編成方法については、入学時に実施する英語クラス編成テストの得点結果によって編成します。

＜科目概要＞

英語ＩＡ・ＩＢ	基礎的な英語力の見直し
英語ⅡＡ・ⅡＢ	「Ｉ」を発展させた基礎力の強化
英語Ⅲ・Ⅳ	「Ｉ、Ⅱ」をもとに4技能（Reading、Writing、Speaking、Listening）のさらなる養成

２．学科指定・クラス指定

必修科目は、学科指定もしくはクラス指定がありますので別途指示に従って履修登録してください。

３．予備登録について

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

⑴ 「**スポーツ技術学Ａ・Ｂ**」は、予備登録が必要となります。別途指示に従ってください。

⑵ 「**英語（再）**」は、予備登録が必要となります。先着順となりますので別途指示に従ってください。

⑶ 「**ドイツ語**」、「**フランス語**」、「**中国語**」、「**コリア語**」の各科目は、予備登録が必要となります。

⑷ 「**英語セミナー**」の各科目は、予備登録が必要となります。

４．先修制について

先修制とは、ある科目を履修する場合に、特別に指定された科目（単位）を修得していなければ、その科目を履修することができない制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

＜先修制授業科目＞

① **ドイツ語セミナーＡもしくは、Ｂ**を履修するためには「ドイツ語ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ・ＩＤ（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。

② **フランス語セミナーＡもしくは、Ｂ**を履修するためには「フランス語ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ・ＩＤ（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。

③ **中国語セミナーＡもしくは、Ｂ**を履修するためには「中国語ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ・ＩＤ（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。

④ **コリア語セミナーＡもしくは、Ｂ**を履修するためには「コリア語ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ・ＩＤ（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。

＜英語以外の外国語概要＞

ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語ＩＡ・ＩＢ	「未知なることば」への入門
ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語ＩＣ・ＩＤ	総合的な言語運用能力の獲得
ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語セミナーＡ、セミナーＢ	異文化へのアプローチ

■総合科目

「総合科目」は、21世紀のキーワードである『情報』・『福祉』・『国際』・『環境』を中心として、幅広い視野に立脚しつつ、現代のテーマ・問題・ニーズなどに対応した科目を開設しています。「基礎科目」は、主として分野によって科目を開設していますが、「総合科目」は、分野の枠組みを越えた科目群であり、「基礎科目」につづいてさらに幅広い視野をもち人間的に成長するために構成されたものです。「基礎科目」と同様にできるだけ多くの授業科目を履修し、在学期間中の自己研鑽に努めることを望みます。

５．予備登録について（総合科目）

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

⑴「**自然観察法**」は、予備登録が必要となります。

６．教養教育科目特別講義・共同開講科目特別講義の履修について

総合科目群には、教養教育科目特別講義（共同開講科目特別講義）を開設しています。これらの科目については、卒業要件として認めるものは、４科目８単位までとなりますので、履修の際は注意してください。

設置科目　【2003年度～ 2007年度入学生】

■基礎科目

科目名	単位数		配当年次 1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後
仏教の思想A	**必修**	**2**	○			
仏教の思想B	**必修**	**2**		○		
スポーツ技術学A	**必修**	**1**	○			
スポーツ技術学B	**必修**	**1**		○		
英語ⅠA	**必修**	**1**	○			
英語ⅠB	**必修**	**1**	○			
英語ⅡA	**必修**	**1**		○		
英語ⅡB	**必修**	**1**		○		
英語Ⅲ	**必修**	**1**			○	
英語Ⅳ	**必修**	**1**				○
英語セミナーA１	選択	2	○			
英語セミナーA２	選択	2		○		
英語セミナーB１	選択	2			○	
英語セミナーB２	選択	2				○
英語セミナーC１	選択	2			○	
英語セミナーC２	選択	2				○
英語セミナーD１	選択	2			○	
英語セミナーD２	選択	2				○
英語セミナーE１	選択	2			○	
英語セミナーE２	選択	2				○
※ 英語セミナーF１	選択	2			○	
※ 英語セミナーF２	選択	2				○
ドイツ語ⅠA	選択	1	○			
ドイツ語ⅠB	選択	1		○		
ドイツ語ⅠC	選択	1	○			
ドイツ語ⅠD	選択	1		○		
ドイツ語セミナーA	選択	2			○	
ドイツ語セミナーB	選択	2				○
フランス語ⅠA	選択	1	○			
フランス語ⅠB	選択	1		○		
フランス語ⅠC	選択	1	○			
フランス語ⅠD	選択	1		○		
フランス語セミナーA	選択	2			○	
フランス語セミナーB	選択	2				○
中国語ⅠA	選択	1	○			
中国語ⅠB	選択	1		○		
中国語ⅠC	選択	1	○			
中国語ⅠD	選択	1		○		
中国語セミナーA	選択	2			○	
中国語セミナーB	選択	2				○

科目名	単位数		配当年次 1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	
コリア語ⅠA	選択	1	○				
コリア語ⅠB	選択	1		○			
コリア語ⅠC	選択	1	○				
コリア語ⅠD	選択	1		○			
コリア語セミナーA	選択	2			○		
コリア語セミナーB	選択	2				○	
文学入門	選択	2	○	○			
哲学入門	選択	2	○	○			
心理学入門	選択	2	○	○			※2011年度は前期のみ開講
教育原論A	選択	2	○				
教育原論B	選択	2		○			
発達と教育A	選択	2			○		
発達と教育B	選択	2				○	
歴史入門	選択	2			○	○	
倫理学入門	選択	2	○	○			※2011年度は前期のみ開講
言語学入門	選択	2	○				
論理学入門	選択	2	○	○			
法学入門	選択	2	○				
日本国憲法	選択	2	○	○			
政治学入門	選択	2	○	○			
統計入門	選択	2	○	○			
社会学入門	選択	2	○	○			
経済学入門	選択	2	○	○			
社会思想史入門	選択	2			○	○	
★ 生活の中の数学	選択	2	○				
★ 生活の中の物理	選択	2		○			
※★ 生活の中の化学	選択	2		○			
★ 生命と科学	選択	2			○		
★ 生活の中の統計技術	選択	2	○				

⚠注意事項

1）★印の5科目のうち、卒業要件単位として認めるのは、1科目2単位まで。（余剰分は、フリーゾーンにも計上されない。）

2）※印「**生活の中の化学**」について、物質化学科の学生は履修不可。

3）※印「英語セミナーF１, F２」は2011年度不開講。

■総合科目

	科目名	単位数		配当年次				
				1年次		2年次		
				前	後	前	後	
	情報社会とメディア	選択	2	○	○			
	現代社会とマス・メディア	選択	2			○	○	
	情報と人間	選択	2		○			
	スポーツ文化論	選択	2			○	○	※2011年度は前期のみ開講
	情報倫理	選択	2			○		
	現代社会と福祉	選択	2	○				
	メディアにみる福祉	選択	2		○			
	世界の福祉	選択	2			○		
	国際社会と日本A	選択	2			○		
	国際社会と日本B	選択	2				○	
	国際社会と日本C	選択	2			○		※2011年度は後期開講
	日本の文化	選択	2		○			
	アジアの文化	選択	2			○	○	
	欧米の文化	選択	2			○	○	
	海外英語研修	選択	2		○			
	科学技術史	選択	2	○	○			
	現代の技術	選択	2		○			
	環境と倫理	選択	2			○		
	環境と人間A	選択	2			○	○	
	環境と人間B	選択	2			○	○	
＊	自然観察法	選択	2			○		
	人権論A	選択	2	○				
	人権論B	選択	2		○			
	平和学入門	選択	2	○	○			
	ジェンダー論	選択	2	○				
	生命と共生	選択	2	○	○			
	人間と社会と法	選択	2			○		
	生活の中の宗教	選択	2	○	○			※2010年度は前期のみ開講
	現代社会と宗教	選択	2	○	○			
	現代社会とスポーツ	選択	2			○	○	※2011年度は後期のみ開講
	健康とスポーツ	選択	2	○	○			※2011年度は後期のみ開講
	大学生入門	選択	2	○				※2010年度以降不開講
	歎異抄の思想Ⅰ	選択	2			○		
	歎異抄の思想Ⅱ	選択	2				○	
◆	共同開講科目特別講義	選択	2	○				◆印の５科目のうち、卒業要件単位として認めるのは４科目８単位まで
◆	教養教育科目特別講義B	選択	2	○	○			
◆	教養教育科目特別講義C	選択	2	○				
◆	教養教育科目特別講義D	選択	2	○	○			
◆	教養教育科目特別講義E	選択	2	○				

⚠注意事項

1）＊自然観察法について、環境ソリューション工学科の学生は履修不可。

❷教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）カリキュラム対照表

カリキュラム改革にともない、下記対照表の通り、入学年度によって科目名が異なり、合同授業となる場合があるので注意してください。（一部の科目については､不開講となる場合があるので注意してください。）

1．教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）基礎科目

2008年度以降入学生		2003 ～ 2007年度入学生	
科　目　名	単位	科　目　名	単位
仏教の思想Ａ	2	仏教の思想Ａ	2
仏教の思想Ｂ	2	仏教の思想Ｂ	2
スポーツ技術学Ａ	1	スポーツ技術学Ａ	1
スポーツ技術学Ｂ	1	スポーツ技術学Ｂ	1
英語ＩＡ	1	英語ＩＡ	1
英語ＩＢ	1	英語ＩＢ	1
英語ⅡＡ	1	英語ⅡＡ	1
英語ⅡＢ	1	英語ⅡＢ	1
英語Ⅲ	1	英語Ⅲ	1
英語Ⅳ	1	英語Ⅳ	1
英語セミナーＡ１	2	英語セミナーＡ１	2
英語セミナーＡ２	2	英語セミナーＡ２	2
英語セミナーＢ１	2	英語セミナーＢ１	2
英語セミナーＢ２	2	英語セミナーＢ２	2
英語セミナーＣ１	2	英語セミナーＣ１	2
英語セミナーＣ２	2	英語セミナーＣ２	2
英語セミナーＤ１	2	英語セミナーＤ１	2
英語セミナーＤ２	2	英語セミナーＤ２	2
英語セミナーＥ１	2	英語セミナーＥ１	2
英語セミナーＥ２	2	英語セミナーＥ２	2
英語セミナーＦ１	2	英語セミナーＦ１	2
英語セミナーＦ２	2	英語セミナーＦ２	2
ドイツ語ＩＡ	1	ドイツ語ＩＡ	1
ドイツ語ＩＢ	1	ドイツ語ＩＢ	1
ドイツ語ＩＣ	1	ドイツ語ＩＣ	1
ドイツ語ＩＤ	1	ドイツ語ＩＤ	1
ドイツ語セミナーＡ	2	ドイツ語セミナーＡ	2
ドイツ語セミナーＢ	2	ドイツ語セミナーＢ	2
フランス語ＩＡ	1	フランス語ＩＡ	1
フランス語ＩＢ	1	フランス語ＩＢ	1
フランス語ＩＣ	1	フランス語ＩＣ	1
フランス語ＩＤ	1	フランス語ＩＤ	1
フランス語セミナーＡ	2	フランス語セミナーＡ	2
フランス語セミナーＢ	2	フランス語セミナーＢ	2
中国語ＩＡ	1	中国語ＩＡ	1
中国語ＩＢ	1	中国語ＩＢ	1
中国語ＩＣ	1	中国語ＩＣ	1
中国語ＩＤ	1	中国語ＩＤ	1
中国語セミナーＡ	2	中国語セミナーＡ	2
中国語セミナーＢ	2	中国語セミナーＢ	2
コリア語ＩＡ	1	コリア語ＩＡ	1
コリア語ＩＢ	1	コリア語ＩＢ	1
コリア語ＩＣ	1	コリア語ＩＣ	1
コリア語ＩＤ	1	コリア語ＩＤ	1
コリア語セミナーＡ	2	コリア語セミナーＡ	2
コリア語セミナーＢ	2	コリア語セミナーＢ	2

2008年度以降入学生		2003 ～ 2007年度入学生	
科　目　名	単位	科　目　名	単位
文学入門	2	文学入門	2
哲学入門	2	哲学入門	2
心理学入門	2	心理学入門	2
教育原論Ａ	2	教育原論Ａ	2
教育原論Ｂ	2	教育原論Ｂ	2
発達と教育Ａ	2	発達と教育Ａ	2
発達と教育Ｂ	2	発達と教育Ｂ	2
歴史入門	2	歴史入門	2
倫理学入門	2	倫理学入門	2
言語学入門	2	言語学入門	2
論理学入門	2	論理学入門	2
法学入門	2	法学入門	2
日本国憲法	2	日本国憲法	2
政治学入門	2	政治学入門	2
統計入門	2	統計入門	2
社会学入門	2	社会学入門	2
経済学入門	2	経済学入門	2
社会思想史入門	2	社会思想史入門	2
生活の中の数学	2	生活の中の数学	2
生活の中の物理	2	生活の中の物理	2
生活の中の化学	2	生活の中の化学	2
生命と科学	2	生命と科学	2
生活の中の統計技術	2	生活の中の統計技術	2

２．教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）総合科目

2008年度以降入学生		2003 ～ 2007年度入学生	
科　目　名	単位	科　目　名	単位
情報社会とメディア	2	情報社会とメディア	2
現代社会とマス・メディア	2	現代社会とマス・メディア	2
情報と人間	2	情報と人間	2
スポーツ文化論	2	スポーツ文化論	2
情報倫理	2	情報倫理	2
現代社会と福祉	2	現代社会と福祉	2
メディアにみる福祉	2	メディアにみる福祉	2
世界の福祉	2	世界の福祉	2
国際社会と日本Ａ	2	国際社会と日本Ａ	2
国際社会と日本Ｂ	2	国際社会と日本Ｂ	2
国際社会と日本Ｃ	2	国際社会と日本Ｃ	2
日本の文化	2	日本の文化	2
アジアの文化	2	アジアの文化	2
欧米の文化	2	欧米の文化	2
海外英語研修	2	海外英語研修	2
科学技術史	2	科学技術史	2
現代の技術	2	現代の技術	2
環境と倫理	2	環境と倫理	2
環境と人間Ａ	2	環境と人間Ａ	2
環境と人間Ｂ	2	環境と人間Ｂ	2
自然観察法	2	自然観察法	2
人権論Ａ	2	人権論Ａ	2
人権論Ｂ	2	人権論Ｂ	2
平和学入門	2	平和学入門	2
ジェンダー論	2	ジェンダー論	2
生命と共生	2	生命と共生	2
人間と社会と法	2	人間と社会と法	2
生活の中の宗教	2	生活の中の宗教	2
現代社会と宗教	2	現代社会と宗教	2
現代社会とスポーツ	2	現代社会とスポーツ	2
健康とスポーツ	2	健康とスポーツ	2
大学生入門	2	大学生入門	2
教養教育科目特別講義	2	共同開講科目特別講義	2

❸固有科目の履修方法　【2009年度以降入学生】

環境ソリューション工学科の学生が履修する科目は〈教養教育科目(共同開講科目)〉、〈学部内共通科目〉、〈学科固有科目〉から成り立っており、カリキュラムフローチャートには環境ソリューション工学科のカリキュラムの流れが簡潔に図示してある。

〈教養教育科目(共同開講科目)〉は、語学や一般教養的な基礎科目であり、１年および２年に配置している。

〈学部内共通科目〉は、理工学部各科に共通の科目で理工学の基礎として必要な科目であり、主に１年および２年に配置している。

〈学科固有科目〉は、環境ソリューション工学科の科目であり、〔学科基本科目〕と〔専門科目〕から成り立っている。〔学科基本科目〕は専門分野の基礎となる科目であり、主に１年および２年に配置している。〔専門科目〕は、環境ソリューション工学科に独特の内容の科目である。〔専門科目〕は、〈生態環境マネジメント〉の分野（生態学）と〈エコロジー工学〉の分野（環境工学）から成り立っており、主に２年および３年に配置している。

したがって、環境ソリューション工学科の学生は、１年生で〈教養教育科目(共同開講科目)〉、〈学部内共通科目〉、〈学科固有科目〉の中の〔学科基本科目〕から学び始め、２年生になるとこれらの科目に加えて〔専門科目〕を学び、３年生になると主に〔専門科目〕を学んで、４年生ではセミナーや特別研究を行うことになる。

〔専門科目〕においては、必修科目によって〈生態環境マネジメント〉の分野と〈エコロジー工学〉の分野の重要な科目を学んで身に付け、選択科目については、自分の興味にあわせて選択してよい。

４年次には研究テーマを決めて１年間特別研究を行い、卒業論文をまとめて、その成果を発表する。

履修単位に関する具体的な条件などは「設置科目」、「卒業・進級の要件」（次ページ以降）にまとめてあるので、注意事項を含めて熟読し、履修計画を立てること。

１．学部内共通科目の履修方法

理工学部６学科共通の科目であるが、学科によって履修科目が異なっている。計算機基礎実習Ⅰ、化学基礎実験、科学技術英語、化学概論Ⅰ、生態学概論、地域環境概論、地球環境概論が必修となっている。

また、必修科目ではないが物理実験をはじめとする実験・実習科目は、学科固有科目の学修の上で大変関連が深いことから積極的な受講を推奨する。

２．学科固有科目の履修方法

〈学科固有科目〉は〔学科基本科目〕と〔専門科目〕に分かれている。〔学科基本科目〕のうち、数学序論、物理学序論、化学序論、生物学序論は随意科目であり卒業要件に含まれないが、高等学校で授業を受けなかった学生やこれらを苦手とする学生は積極的に受講して欲しい。〔専門科目〕では、学外実習（キャリア実践実習）、海外キャリア実践教育及び実習Ａ、環境実習Ａ、環境実習Ｂ、環境実習Ｃが選択必修であり、いずれかの実習を履修しなければならない。また、都市環境施設実験Ａと都市環境施設実験Ｂも選択必修で、すべての学生がどちらかを履修することになる。

各学年で必修科目の単位を落とすと、次の年に、落とした必修科目と新しい必修科目の開講時が重なる可能性があり、どちらかの必修科目が取れないことになるので、必修科目を落とさないよう特に注意が必要である。

3．卒業・進級の要件

⑴卒業要件単位（最低）数表

卒業のためには下表に示すように必修科目、選択必修科目および選択科目を合わせて134単位の修得が必要である。

区分			単位数
教養教育科目（共同開講科目）	基礎科目	必修	12
		選択	10
		（小計）	(22)
	総合科目	選択	6
		（小計）	（6）
学部内共通科目		必修	14
		選択	4
		（小計）	(18)
学科固有科目		必修	30
		選択必修	4　A）
		選択	46
		（小計）	(80)
フリーゾーン		選択	8　B）
		（小計）	（8）
合　　計			134

⚠ 注意事項

A）「環境実習Ａ」、「環境実習Ｂ」、「環境実習Ｃ」または「学外実習（キャリア実践実習）」、「海外キャリア実践教育及び実習Ａ」のいずれか２単位、および、「都市環境施設実験Ａ」または「都市環境施設実験Ｂ」のいずれか２単位を修得すること。余剰分は学科固有科目の選択科目に計上される。
ただし、「学外実習（キャリア実践実習）」、「海外キャリア実践教育及び実習Ａ」は学部内共通科目であるが、学科固有科目の選択必修科目として集計する。

B）区分を問わずに８単位修得することができる。（随意科目は含まない）

⑵進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間（最低）
２年進級	１年間
３年進級	２年間
４年進級	３年間
卒　　業	４年間

⑶進級に係る取得単位（最低）数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。
各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区　　分		単位数
２年進級	必修科目単位数	16
	卒業要件総修得単位数	30　C）
３年進級	必修科目単位数	32
	卒業要件総修得単位数	62　D）
４年進級	必修科目単位数	44
	選択必修科目単位数	2
	卒業要件総修得単位数	106
卒　　業	必修科目単位数	54
	選択必修科目単位数	4
	卒業要件総修得単位数	134

⚠ 注意事項

C）特別措置として、１年次留年生は、２年次開講科目（化学基礎実験、生物多様性実習、環境分析化学実験、社会調査法及び実習を除く）の登録を年間10単位まで認める。（登録制限単位内に含む）

D）特別措置として、２年次留年生は、３年次開講科目（学外実習（キャリア実践実習）、海外キャリア実践教育及び実習Ａ・Ｂ、環境実習A、環境実習B、環境実習Ｃ、プレゼンテーション演習、都市環境施設実験A、都市環境施設実験B、環境生態学実習を除く）の登録を年間10単位まで認める。（登録制限単位内に含む）

4．設置科目

区分		授業科目	単位数		配当年次（前期・後期） 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
学部内共通科目	総合	**科学技術英語**	**必修**	**2**						○			
	化学	**化学概論Ⅰ**	**必修**	**2**	○								
		化学概論Ⅱ	選択	2		○							
	生物	生物学概論Ⅰ	選択	2	○								
		生物学概論Ⅱ	選択	2		○							
	地学	地学概論Ⅰ	選択	2	○								
		地学概論Ⅱ	選択	2		○							
	実験・実習	物理実験	選択	2			○						
		化学基礎実験	**必修**	**2**				○					
		計算機基礎実習Ⅰ	**必修**	**2**	○								
		計算機基礎実習Ⅱ	選択	2		○							
		自然観察実習	選択	2	○								
		生物学実験	選択	2		○							
		地学実験	選択	2	○								
		学外実習（キャリア実践実習）	選必	2					○				※
		海外キャリア実践教育及び実習A	選必	2					○				※ 履修希望者は必ずA・B両方を登録すること
		海外キャリア実践教育及び実習B	選択	2					○				
	総合	科学思想史	選択	2				○		○		○	
		情報学概論	選択	2			○		○		○		
		環境科学	選択	2	○								
		資源エネルギー論	選択	2		○							
		人間工学	選択	2				○		○		○	
		工学概論	選択	2			○		○		○		
		生体情報概論	選択	2			○		○		○		
		工業経済	選択	2				○		○		○	
		生態学概論	**必修**	**2**		○							
		地域環境概論	**必修**	**2**	○								
		地球環境概論	**必修**	**2**		○							
		情報と職業	選択	2			○						
		MOT概論	選択	2			○		○		○		
		MOT演習	選択	2				○		○		○	
		知的財産概論	選択	2	○		○		○		○		
		キャリアデザイン	選択	2	○								
		キャリアプランニング	選択	2			○						
学科固有科目	学科基本科目	**環境ソリューション工学概論**	**必修**	**2**	○								
		統計学概論	**必修**	**2**		○							
		環境工学基礎実習	**必修**	**2**		○							
		生物多様性実習	**必修**	**2**			○						
		数学序論	随意	②	○								
		物理学序論	随意	②	○								
		化学序論	随意	②	○								
		生物学序論	随意	②	○								
		数学Ⅰ	**必修**	**2**	○								
		数学Ⅱ	**必修**	**2**		○							
		数学Ⅲ	選択	2			○						
		物理学Ⅰ	**必修**	**2**	○								
		物理学Ⅱ	選択	2		○							
		測量学及び実習	選択	2			○						
		環境分析化学実験	**必修**	**2**				○					
		社会調査法及び実習	**必修**	**2**			○						

区分			授業科目	単位数		配当年次（前期・後期） 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
学科固有科目	学科基本科目		環境社会学	選択	2			○						
			環境政策論	選択	2				○					
			環境経済学	選択	2				○					
			環境倫理学	選択	2				○					
			特別講義	選択	2					●	○			
			環境実習C	選必	2					○				※
			プレゼンテーション演習	**必修**	**2**						**○**			
	専門科目	専門・エコロジー工学	環境システム解析	選択	2		○							
			自然の浄化機構	選択	2			○						
			環境装置工学	選択	2			○						
			環境毒性学	選択	2			●	○					
			大気環境工学	選択	2			○						
			環境微生物学	選択	2				○					
			廃棄物工学	選択	2				○					
			水処理工学	選択	2				○					
			上下水道工学	選択	2					○				
			資源循環工学	選択	2					○				
			環境実習A	選必	2					○				※
			都市環境施設実験A	選必	2					○				★
			都市環境施設実験B	選必	2					○				★
			環境アセスメント及び演習	選択	2						○			
			環境施設設計演習	選択	2						○			
		専門・生態環境マネジメント	進化学	選択	2		○							
			生理生態学	選択	2			○						
			環境計測学	選択	2			○						
			生態系生態学	選択	2				○					
			個体群生態学	選択	2				○					
			群集生態学	選択	2				○					
			野外調査実習	選択	2				○					
			数理生態学	選択	2				○					
			保全生態学	選択	2					○				
			環境生態学実習	**必修**	**2**					**○**				
			陸水生態学	選択	2					○				
			環境実習B	選必	2					○				※
			生態工学	選択	2						○			
			資源管理学	選択	2						○			
		共通	**セミナーⅠ**	**必修**	**2**							**○**		
			セミナーⅡ	選択	2								○	
			特別研究	**必修**	**6**								**○**	

「必修」＝必修科目、「選必」＝選択必修科目、「選択」＝選択科目、「随意」＝随意科目（卒業要件単位に含めない）

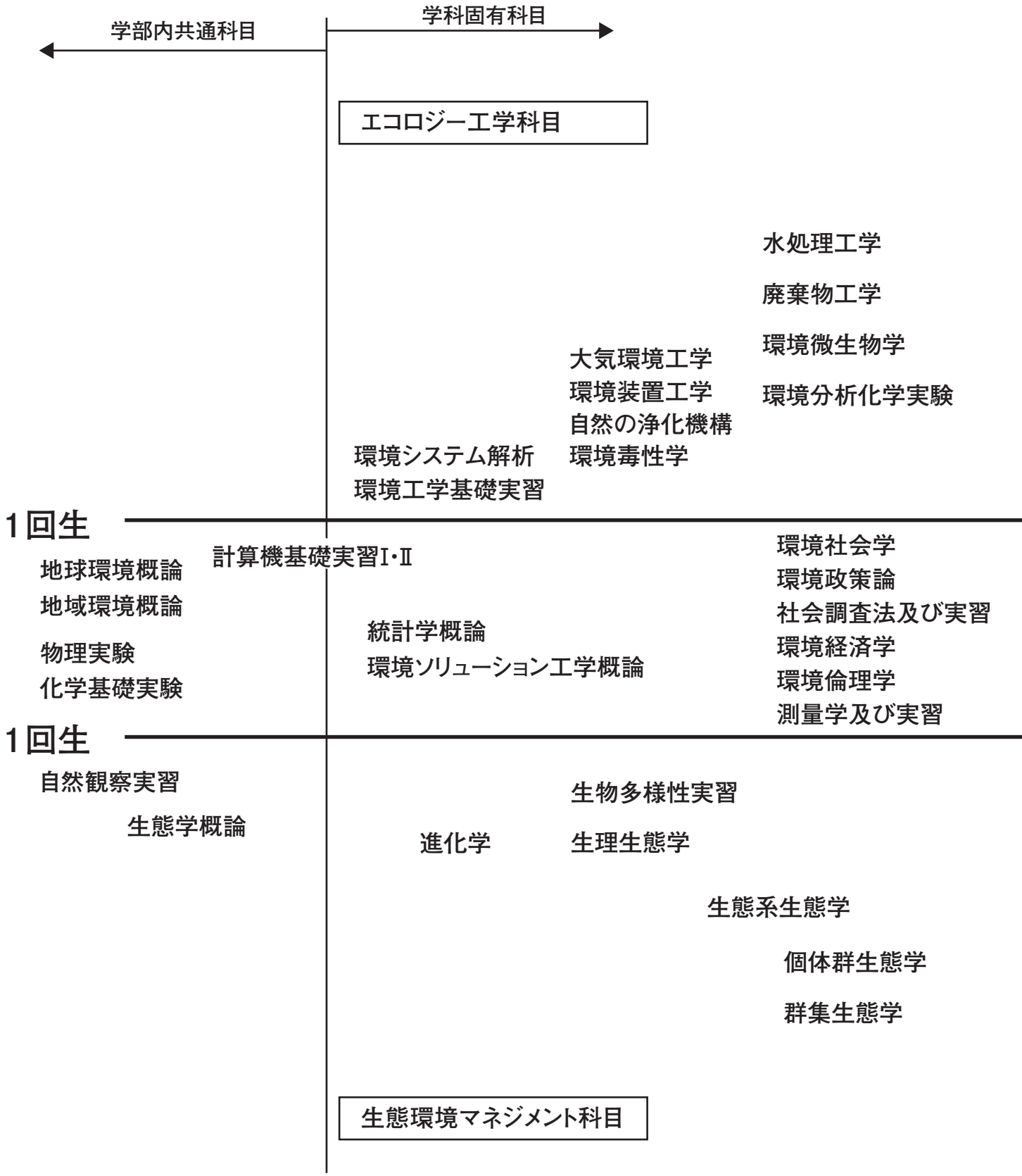
⚠ 注意事項

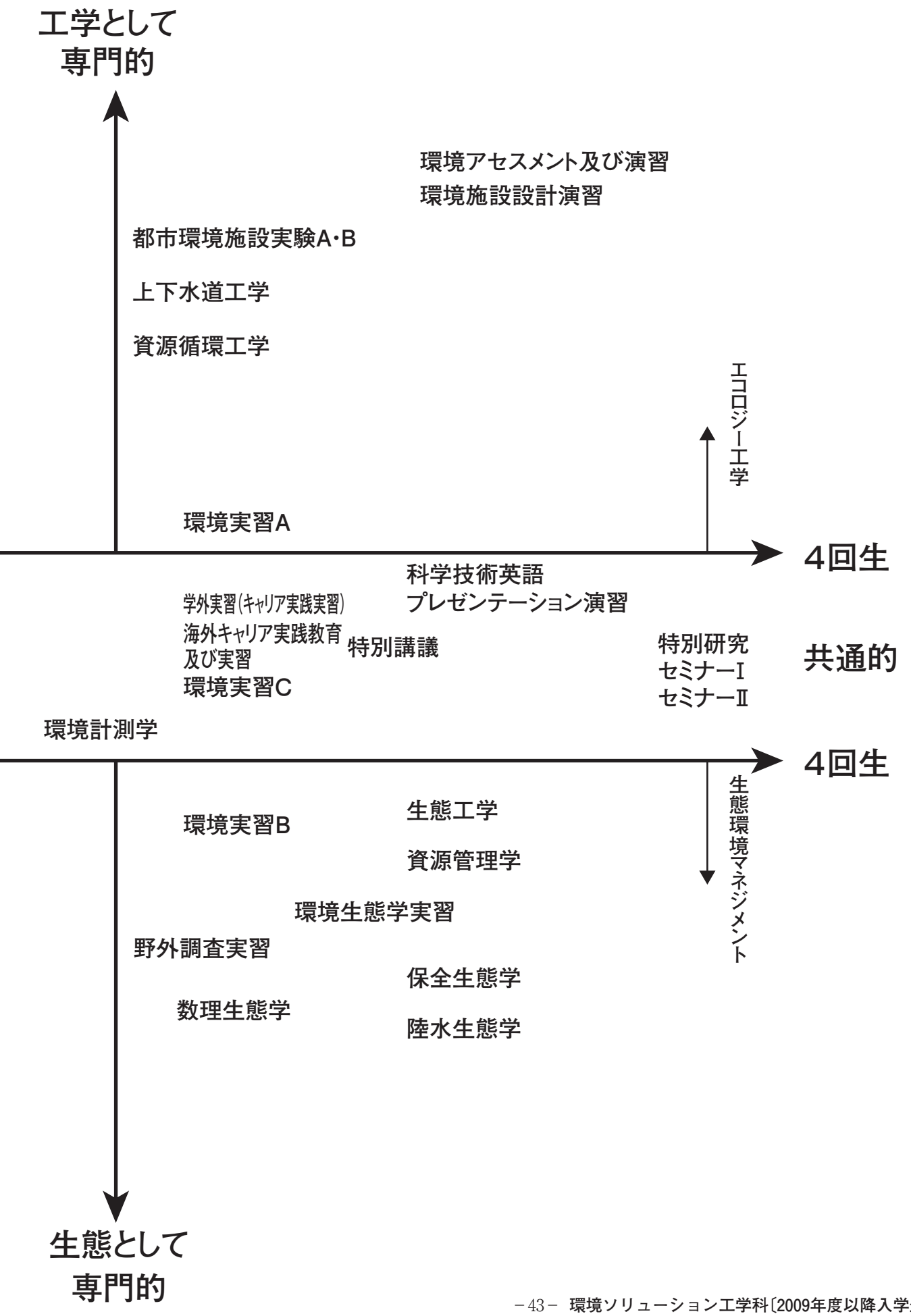
1）※印の選択必修科目より２単位修得すること。「学外実習（キャリア実践実習）」、「海外キャリア実践教育及び実習A」は学科固有科目の選択必修科目として集計する。
なお、「海外キャリア実践教育及び実習」の履修希望者は、必ずA・B両方を登録すること。

2）★印の選択必修科目より２単位以上修得すること。

3）●は、通常の開講学期であるが、カリキュラム改革および他学科合併開講の都合上、○の学期に開講されているので注意すること。

5．カリキュラムフローチャート




工学として
専門的
環境アセスメント及び演習
環境施設設計演習
都市環境施設実験A・B
上下水道工学
資源循環工学
エコロジー工学
環境実習A
4回生
科学技術英語
プレゼンテーション演習
学外実習(キャリア実践実習)
海外キャリア実践教育及び実習
環境実習C
特別講議
特別研究
セミナーI
セミナーII
共通的
環境計測学
4回生
環境実習B
生態工学
資源管理学
環境生態学実習
野外調査実習
保全生態学
数理生態学
陸水生態学
生態環境マネジメント
生態として
専門的

❸固有科目の履修方法　【2007・2008年度入学生】

環境ソリューション工学科の学生が履修する科目は〈教養教育科目(共同開講科目)〉、〈学部内共通科目〉、〈学科固有科目〉から成り立っており、カリキュラムフローチャートには環境ソリューション工学科のカリキュラムの流れが簡潔に図示してある。

〈教養教育科目(共同開講科目)〉は、語学や一般教養的な基礎科目であり、1年および2年に配置している。

〈学部内共通科目〉は、理工学部各科に共通の科目で理工学の基礎として必要な科目であり、主に1年および2年に配置している。

〈学科固有科目〉は、環境ソリューション工学科の科目であり、〔学科基本科目〕と〔専門科目〕から成り立っている。〔学科基本科目〕は専門分野の基礎となる科目であり、主に1年および2年に配置している。〔専門科目〕は、環境ソリューション工学科に独特の内容の科目である。〔専門科目〕は、〈生態環境マネジメント〉の分野（生態学）と〈エコロジー工学〉の分野（環境工学）から成り立っており、主に2年および3年に配置している。

したがって、環境ソリューション工学科の学生は、1年生で〈教養教育科目(共同開講科目)〉、〈学部内共通科目〉、〈学科固有科目〉の中の〔学科基本科目〕から学び始め、2年生になるとこれらの科目に加えて〔専門科目〕を学び、3年生になると主に〔専門科目〕を学んで、4年生ではセミナーや特別研究を行うことになる。

〔専門科目〕においては、必修科目によって〈生態環境マネジメント〉の分野と〈エコロジー工学〉の分野の重要な科目を学んで身に付け、選択科目については、自分の興味にあわせて選択してよい。

4年次には研究テーマを決めて1年間特別研究を行い、卒業論文をまとめて、その成果を発表する。

履修単位に関する具体的な条件などは「設置科目」、「卒業・進級の要件」（次ページ以降）にまとめてあるので、注意事項を含めて熟読し、履修計画を立てること。

1．学部内共通科目の履修方法

理工学部6学科共通の科目であるが、学科によって履修科目が異なっている。計算機基礎実習Ⅰ、化学基礎実験、科学技術英語、化学概論Ⅰ、生態学概論、地域環境概論、地球環境概論が必修となっている。

また、必修科目ではないが物理実験をはじめとする実験・実習科目は、学科固有科目の学修の上で大変関連が深いことから積極的な受講を推奨する。

2．学科固有科目の履修方法

〈学科固有科目〉は〔学科基本科目〕と〔専門科目〕に分かれている。〔学科基本科目〕のうち、数学序論、物理学序論、化学序論、生物学序論は随意科目であり卒業要件に含まれないが、高等学校で授業を受けなかった学生やこれらを苦手とする学生は積極的に受講して欲しい。〔専門科目〕では、学外実習、環境実習A、環境実習B、環境実習Cが選択必修であり、いずれかの実習を履修しなければならない。また、都市環境施設実験Aと都市環境施設実験Bも選択必修で、すべての学生がどちらかを履修することになる。

各学年で必修科目の単位を落とすと、次の年に、落とした必修科目と新しい必修科目の開講時が重なる可能性があり、どちらかの必修科目が取れないことになるので、必修科目を落とさないよう特に注意が必要である。

3．卒業・進級の要件

⑴卒業要件単位（最低）数表

卒業のためには下表に示すように必修科目、選択必修科目および選択科目を合わせて134単位の修得が必要である。

区分			単位数
教養教育科目（共同開講科目）	基礎科目	必修	12
		選択	10
		（小計）	(22)
	総合科目	選択	6
		（小計）	（6）
学部内共通科目		必修	14
		選択	4
		（小計）	(18)
学科固有科目		必修	30
		選択必修	4　A）
		選択	46
		（小計）	(80)
フリーゾーン		選択	8　B）
		（小計）	（8）
合　　計			134

⚠ 注意事項

A）「環境実習Ａ」、「環境実習Ｂ」、「環境実習Ｃ」または「学外実習」のいずれか２単位、および、「都市環境施設実験Ａ」または「都市環境施設実験Ｂ」のいずれか２単位を修得すること。余剰分は学科固有科目の選択科目に計上される。
ただし、「学外実習」は学部内共通科目であるが、学科固有科目の選択必修科目として集計する。

B）区分を問わずに８単位修得することができる。（随意科目は含まない）

⑵進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間（最低）
２年進級	１年間
３年進級	２年間
４年進級	３年間
卒　　業	４年間

⑶進級に係る取得単位（最低）数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。
各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区　　分		単位数
２年進級	必修科目単位数	16
	卒業要件総修得単位数	30　C）
３年進級	必修科目単位数	32
	卒業要件総修得単位数	62　D）
４年進級	必修科目単位数	44
	選択必修科目単位数	2
	卒業要件総修得単位数	106
卒　　業	必修科目単位数	54
	選択必修科目単位数	4
	卒業要件総修得単位数	134

⚠ 注意事項

C）特別措置として、１年次留年生は、２年次開講科目（化学基礎実験、生物多様性実習、環境分析化学実験､社会調査法及び実習を除く）の登録を年間10単位まで認める。（登録制限単位内に含む）

D）特別措置として、２年次留年生は、３年次開講科目（学外実習、環境実習A、環境実習B、環境実習Ｃ、プレゼンテーション演習、都市環境施設実験A、都市環境施設実験B、環境生態学実習を除く）の登録を年間10単位まで認める。（登録制限単位内に含む）

4．設置科目

区分		授業科目	単位数		配当年次（前期・後期） 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
学部内共通科目	総合	**科学技術英語**	**必修**	**2**						○			
	化学	**化学概論Ⅰ**	**必修**	**2**	○								
		化学概論Ⅱ	選択	2		○							
	生物	生物学概論Ⅰ	選択	2	○								
		生物学概論Ⅱ	選択	2		○							
	地学	地学概論Ⅰ	選択	2	○								
		地学概論Ⅱ	選択	2		○							
	実験・実習	物理実験	選択	2			○						
		化学基礎実験	**必修**	**2**				○					
		計算機基礎実習Ⅰ	**必修**	**2**	○								
		計算機基礎実習Ⅱ	選択	2		○							
		自然観察実習	選択	2	○								
		生物学実験	選択	2		○							
		地学実験	選択	2	○								
		学外実習	選必	2					○				※
	総合	科学思想史	選択	2				○		○		○	
		情報学概論	選択	2			○		○		○		
		環境科学	選択	2	○								
		資源エネルギー論	選択	2		○							
		人間工学	選択	2				○		○		○	
		工学概論	選択	2			○		○		○		
		生体情報概論	選択	2			○		○		○		
		工業経済	選択	2				○		○		○	
		生態学概論	**必修**	**2**		○							
		地域環境概論	**必修**	**2**	○								
		地球環境概論	**必修**	**2**		○							
		情報と職業	選択	2			○						
		MOT概論	選択	2			○		○		○		
		MOT演習	選択	2				○		○		○	
		知的財産概論	選択	2	○		○		○		○		
		キャリアデザイン	選択	2	○								
		キャリアプランニング	選択	2			○						
学科固有科目	学科基本科目	**環境ソリューション工学概論**	**必修**	**2**	○								
		統計学概論	**必修**	**2**		○							
		環境工学基礎実習	**必修**	**2**		○							
		生物多様性実習	**必修**	**2**			○						
		数学序論	随意	②	○								
		物理学序論	随意	②	○								
		化学序論	随意	②	○								
		生物学序論	随意	②	○								
		数学Ⅰ	**必修**	**2**	○								
		数学Ⅱ	**必修**	**2**		○							
		数学Ⅲ	選択	2			○						
		物理学Ⅰ	**必修**	**2**	○								
		物理学Ⅱ	選択	2		○							
		測量学及び実習	選択	2			○						
		環境分析化学実験	**必修**	**2**				○					
		社会調査法及び実習	**必修**	**2**			○						
		環境社会学	選択	2			○						
		環境政策論	選択	2				○					
		環境経済学	選択	2				○					
		環境倫理学	選択	2				○					
		特別講義	選択	2					●	○			
		環境実習C	選必	2					○				※
		プレゼンテーション演習	**必修**	**2**						○			

区分			授業科目		単位数	配当年次（前期・後期） 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
学科固有科目	専門科目	専門・エコロジー工学	環境システム解析	選択	2		○							
			自然の浄化機構	選択	2			○						
			環境装置工学	選択	2			○						
			環境毒性学	選択	2			●	○					
			大気環境工学	選択	2			○						
			環境微生物学	選択	2				○					
			廃棄物工学	選択	2				○					
			水処理工学	選択	2				○					
			上下水道工学	選択	2					○				
			資源循環工学	選択	2					○				
			環境実習A	選必	2					○				※
			都市環境施設実験A	選必	2					○				★
			都市環境施設実験B	選必	2					○				★
			環境アセスメント及び演習	選択	2						○			
			環境施設設計演習	選択	2						○			
		専門・生態環境マネジメント	進化学	選択	2		○							
			生理生態学	選択	2			○						
			環境計測学	選択	2			○						
			生態系生態学	選択	2				○					
			個体群生態学	選択	2				○					
			群集生態学	選択	2				○					
			野外調査実習	選択	2				○					
			数理生態学	選択	2				○					
			保全生態学	選択	2					○				
			環境生態学実習	**必修**	**2**					**○**				
			陸水生態学	選択	2					○				
			環境実習B	選必	2					○				※
			生態工学	選択	2						○			
			資源管理学	選択	2						○			
		共通	**セミナーⅠ**	**必修**	**2**							**○**		
			セミナーⅡ	選択	2								○	
			特別研究	**必修**	**6**							**○**		

「必修」＝必修科目、「選必」＝選択必修科目、「選択」＝選択科目、「随意」＝随意科目（卒業要件単位に含めない）

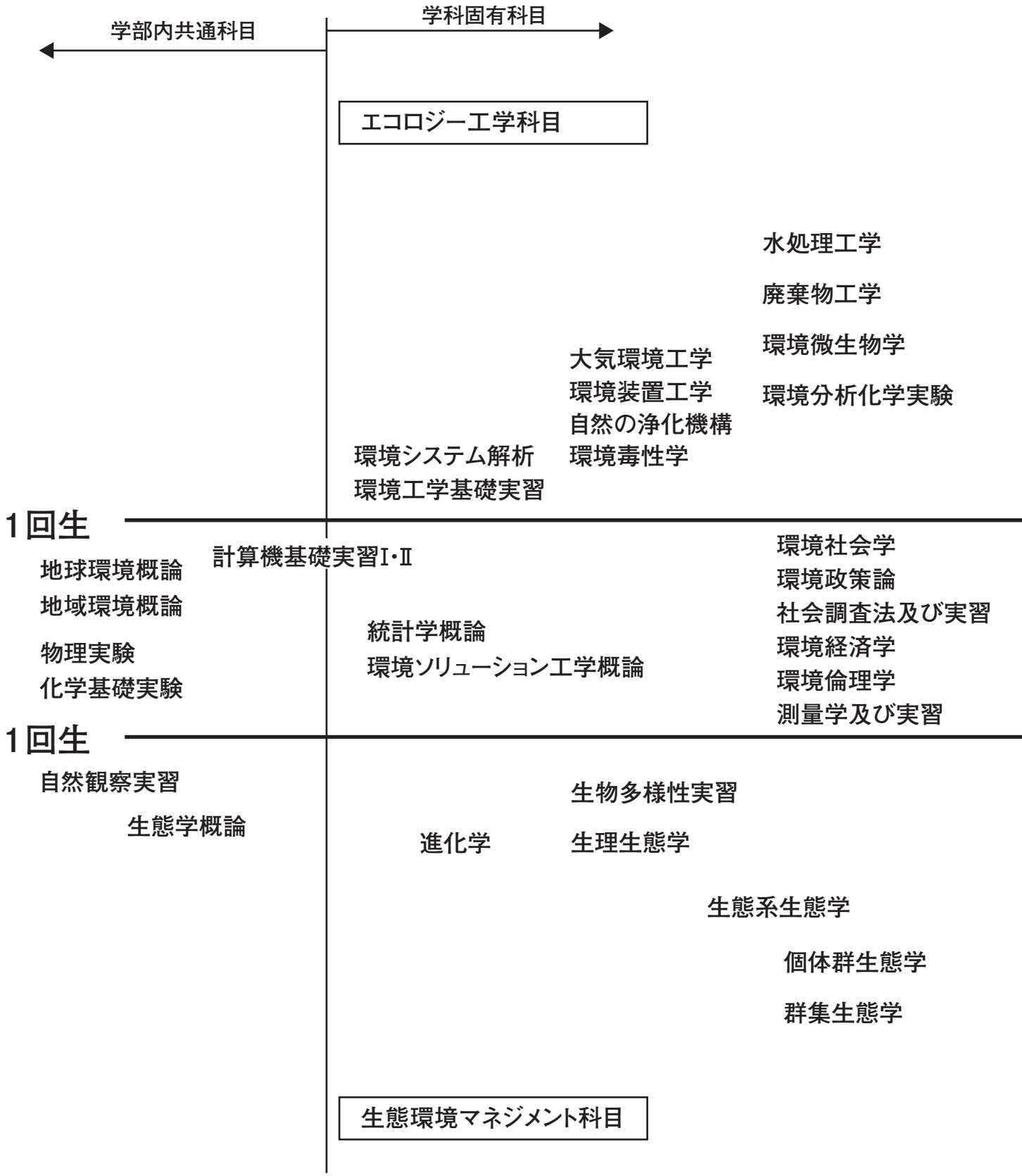
⚠ 注意事項

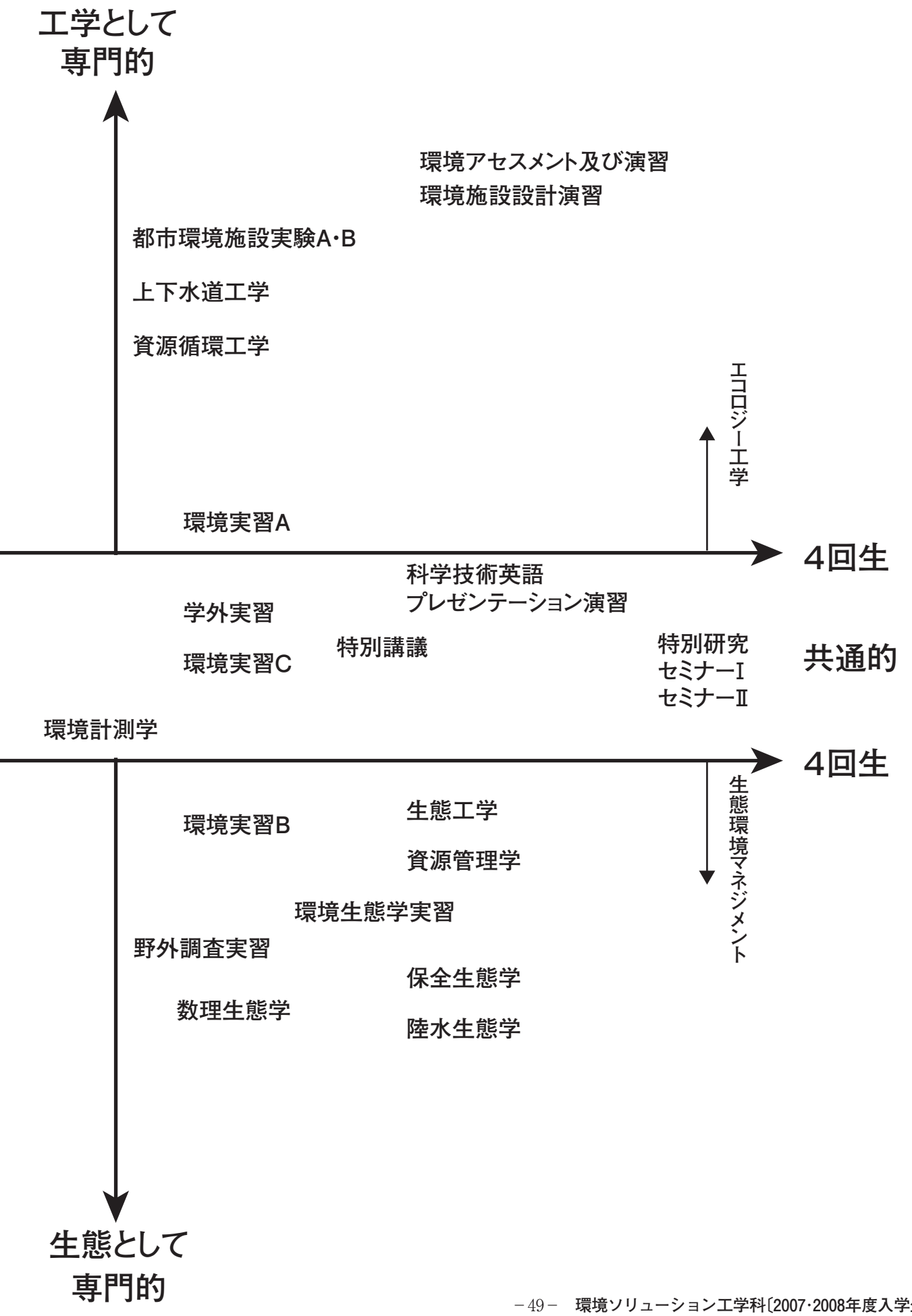
1）※印の選択必修科目より２単位修得すること。「学外実習」は学科固有科目の選択必修科目として集計する。

2）★印の選択必修科目より２単位以上修得すること。

3）●は、通常の開講学期であるが、カリキュラム改革および他学科合併開講の都合上、○の学期に開講されているので注意すること。

5．カリキュラムフローチャート




工学として
専門的
環境アセスメント及び演習
環境施設設計演習
都市環境施設実験A・B
上下水道工学
資源循環工学
エコロジー工学
環境実習A
4回生
科学技術英語
プレゼンテーション演習
学外実習
特別講議
特別研究
セミナーI
セミナーII
共通的
環境実習C
環境計測学
4回生
生態環境マネジメント
環境実習B
生態工学
資源管理学
環境生態学実習
野外調査実習
保全生態学
数理生態学
陸水生態学
生態として
専門的

❸固有科目の履修方法　【2006年度以前入学生】

環境ソリューション工学科の学生が履修する科目は〈教養教育科目(共同開講科目)〉、〈学部内共通科目〉、〈学科固有科目〉から成り立っており、カリキュラムフローチャートには環境ソリューション工学科のカリキュラムの流れが簡潔に図示してある。

〈教養教育科目(共同開講科目)〉は、語学や一般教養的な基礎科目であり、1年および2年に配置している。

〈学部内共通科目〉は、理工学部各科に共通の科目で理工学の基礎として必要な科目であり、主に1年および2年に配置している。

〈学科固有科目〉は、環境ソリューション工学科の科目であり、〔学科基本科目〕と〔専門科目〕から成り立っている。〔学科基本科目〕は専門分野の基礎となる科目であり、主に1年および2年に配置している。〔専門科目〕は、環境ソリューション工学科に独特の内容の科目である。〔専門科目〕は、〈生態環境マネジメント〉の分野（生態学）と〈エコロジー工学〉の分野（環境工学）から成り立っており、主に2年および3年に配置している。

したがって、環境ソリューション工学科の学生は、1年生で〈教養教育科目(共同開講科目)〉、〈学部内共通科目〉、〈学科固有科目〉の中の〔学科基本科目〕から学び始め、2年生になるとこれらの科目に加えて〔専門科目〕を学び、3年生になると主に〔専門科目〕を学んで、4年生ではセミナーや特別研究を行うことになる。

〔専門科目〕においては、必修科目によって〈生態環境マネジメント〉の分野と〈エコロジー工学〉の分野の重要な科目を学んで身に付け、選択科目については、自分の興味にあわせて選択してよい。

4年次には研究テーマを決めて1年間特別研究を行い、卒業論文をまとめて、その成果を発表する。

履修単位に関する具体的な条件などは「設置科目」、「卒業・進級の要件」（次ページ以降）にまとめてあるので、注意事項を含めて熟読し、履修計画を立てること。

1．学部内共通科目の履修方法

理工学部6学科共通の科目であるが、学科によって履修科目が異なっている。計算機基礎実習Ⅰ、理工学基礎実験B、科学技術英語、化学概論Ⅰ、生態学概論、地球環境概論が必修となっている。

2．学科固有科目の履修方法

〈学科固有科目〉は〔学科基本科目〕と〔専門科目〕に分かれている。〔学科基本科目〕のうち、数学序論、物理学序論、化学序論、生物学序論は随意科目であり卒業要件に含まれないが、高等学校で授業を受けなかった学生やこれらを苦手とする学生は積極的に受講して欲しい。〔専門科目〕では、学外実習、環境実習A、環境実習Bが選択必修であり、いずれかの実習を履修しなければならない。また、都市環境施設実験Aと都市環境施設実験Bも選択必修で、すべての学生がどちらかを履修することになる。

各学年で必修科目の単位を落とすと、次の年に落とした必修科目と新しい必修科目の開講時が重なる可能性があり、どちらかの必修科目が取れないことになるので、必修科目を落とさないよう特に注意が必要である。

3．卒業・進級の要件

⑴卒業要件単位（最低）数表

卒業のためには下表に示すように必修科目、選択必修科目および選択科目を合わせて134単位の修得が必要である。

区分			単位数
共同開講科目	基礎科目	必修	12
		選択	10
		（小計）	(22)
	総合科目	選択	6
		（小計）	（6）
学部内共通科目		必修	12
		選択	6
		（小計）	(18)
学科固有科目		必修	44
		選択必修	4　A）
		選択	32
		（小計）	(80)
フリーゾーン		選択	8　B）
		（小計）	（8）
合　　計			134

⚠ 注意事項

A）「環境実習Ａ」､「環境実習Ｂ」または「学外実習」のいずれか２単位、および、「都市環境施設実験Ａ」または「都市環境施設実験Ｂ」のいずれか２単位を修得すること。余剰分は学科固有科目の選択科目に計上される。
ただし、「学外実習」は学部内共通科目であるが、学科固有科目の選択必修科目として集計する。

B）区分を問わずに８単位修得することができる。（随意科目は含まない）

⑵進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間（最低）
２年進級	１年間
３年進級	２年間
４年進級	３年間
卒　　業	４年間

⑶進級に係る取得単位（最低）数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。
各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区　　分		単位数
２年進級	必修科目単位数	16
	卒業要件総修得単位数	30　C）
３年進級	必修科目単位数	34
	卒業要件総修得単位数	62　D）
４年進級	必修科目単位数	58
	選択必修科目単位数	2
	卒業要件総修得単位数	106
卒　　業	必修科目単位数	68
	選択必修科目単位数	4
	卒業要件総修得単位数	134

⚠ 注意事項

C）特別措置として、１年次留年生は、２年次開講科目（理工学基礎実験B、環境生態学実習Aを除く）の登録を年間10単位まで認める。（登録制限単位内に含む）

D）特別措置として、２年次留年生は、３年次開講科目（学外実習、環境実習A、環境実習B、環境分析化学実験、都市環境施設実験A、都市環境施設実験Bを除く）の登録を年間10単位まで認める。（登録制限単位内に含む）

4．設置科目

区分		授業科目	単位数		配当年次（前期・後期） 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
学部内共通科目	総合	**科学技術英語**	**必修**	**2**						○			
	化学	**化学概論Ⅰ**	**必修**	**2**	○								
		化学概論Ⅱ	選択	2		○							
	生物	生物学概論Ⅰ	選択	2	○								
		生物学概論Ⅱ	選択	2		○							
	地学	地学概論Ⅰ	選択	2	○								
		地学概論Ⅱ	選択	2		○							
	実験・実習	理工学基礎実験A	選択	2			○						
		理工学基礎実験B	**必修**	**2**				○					
		計算機基礎実習Ⅰ	**必修**	**2**	○								
		計算機基礎実習Ⅱ	選択	2		○							
		生物多様性実習B	選択	2	○	●							
		生物学実験	選択	2		○							
		地学実験	選択	2	○								
		学外実習	選必	2					○				※
	総合	科学思想史	選択	2				○		○		○	
		情報学概論	選択	2			○		○		○		
		環境科学	選択	2	○								
		資源エネルギー論	選択	2		○							
		人間工学	選択	2				○		○		○	
		工学概論	選択	2			○		○		○		
		生体情報概論	選択	2			○		○		○		
		工業経済	選択	2				○		○		○	
		生態学概論	**必修**	**2**	●	○							
		地球環境概論	**必修**	**2**		○							
		情報と職業	選択	2			○						
		MOT概論	選択	2			○		○		○		
		MOT演習	選択	2				○		○		○	
		知的財産概論	随意	②	○		○		○		○		
		キャリアデザイン	選択	2	○								
		キャリアプランニング	選択	2			○						
学科固有科目	学科基本科目	**環境ソリューション工学概論**	**必修**	**2**	○								
		生態系生態学	**必修**	**2**				○					
		基礎環境工学	選択	2			○						
		数学序論	随意	②	○								
		物理学序論	随意	②	○								
		化学序論	随意	②	○								
		生物学序論	随意	②	○								
		数学Ⅰ	**必修**	**2**	○	●							
		数学Ⅱ	**必修**	**2**			●	○					
		数学Ⅲ	選択	2			○	●					
		物理学Ⅰ	**必修**	**2**	○	●							
		物理学Ⅱ	選択	2			●	○					
		生物多様性実習A	**必修**	**2**	○								
		測量学及び実習	選択	2			○						
		環境分析化学実験	**必修**	**2**					●	○			
		社会調査法	**必修**	**2**			○						
		社会調査実習	選択	2			○	●					
		環境政策論	選択	2				○					
		環境法規	選択	2					○				2011年度不開講
		環境経済学	選択	2					●	○			
		統計学概論	**必修**	**2**			●	○					
		特別講義	選択	2					●	○			

区分			授業科目		単位数	配当年次（前期・後期） 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
学科固有科目	専門科目		**プレゼンテーション演習Ⅰ**	**必修**	**2**		○							2011年度不開講
			プレゼンテーション演習Ⅱ	選択	2			○						
		専門・エコロジー工学	**環境水理学及び演習**	**必修**	**2**			○						
			水環境基礎科学	**必修**	**2**			○						
			環境水質学	選択	2				○					
			環境微生物学	選択	2				○					
			水処理工学	選択	2					●	○			
			廃棄物処理	**必修**	**2**					●	○			
			ミティゲーション論B	選択	2					○				2011年度不開講
			環境システム解析	選択	2					●	○			
			環境実習A	選必	2					○				※
			環境リスク論	選択	2						○			
			自然浄化機構	選択	2					○	●			
			都市環境施設実験A	選必	2					○	●			★
			都市環境施設実験B	選必	2					○	●			★
			廃棄物施設設計演習	選択	2						○			
			資源循環工学	選択	2					○	●			
			地域環境管理	選択	2						○			
		専門・生態環境マネジメント	個体群生態学	選択	2			●	○					
			生物多様性保全論	**必修**	**2**			○						
			進化生態学	選択	2			●	○					
			環境生態学実習A	**必修**	**2**			○						
			環境生態学実習B	選択	2				○					
			ミティゲーション論A	**必修**	**2**				○					
			生物資源管理学	**必修**	**2**				○					
			行動生態学	選択	2					○				
			環境モニタリング	選択	2					○				
			環境実習B	選必	2					○				※
			陸水生態学	**必修**	**2**					○				
			環境モデリング及び演習	選択	2					●	○			
			生物の環境応答	選択	2					○	●			
			生態学演習	選択	2						○			
		共通	**セミナー**	**必修**	**2**							○		
			特別研究	**必修**	**6**								○	

「必修」＝必修科目、「選必」＝選択必修科目、「選択」＝選択科目、「随意」＝随意科目（卒業要件単位に含めない）

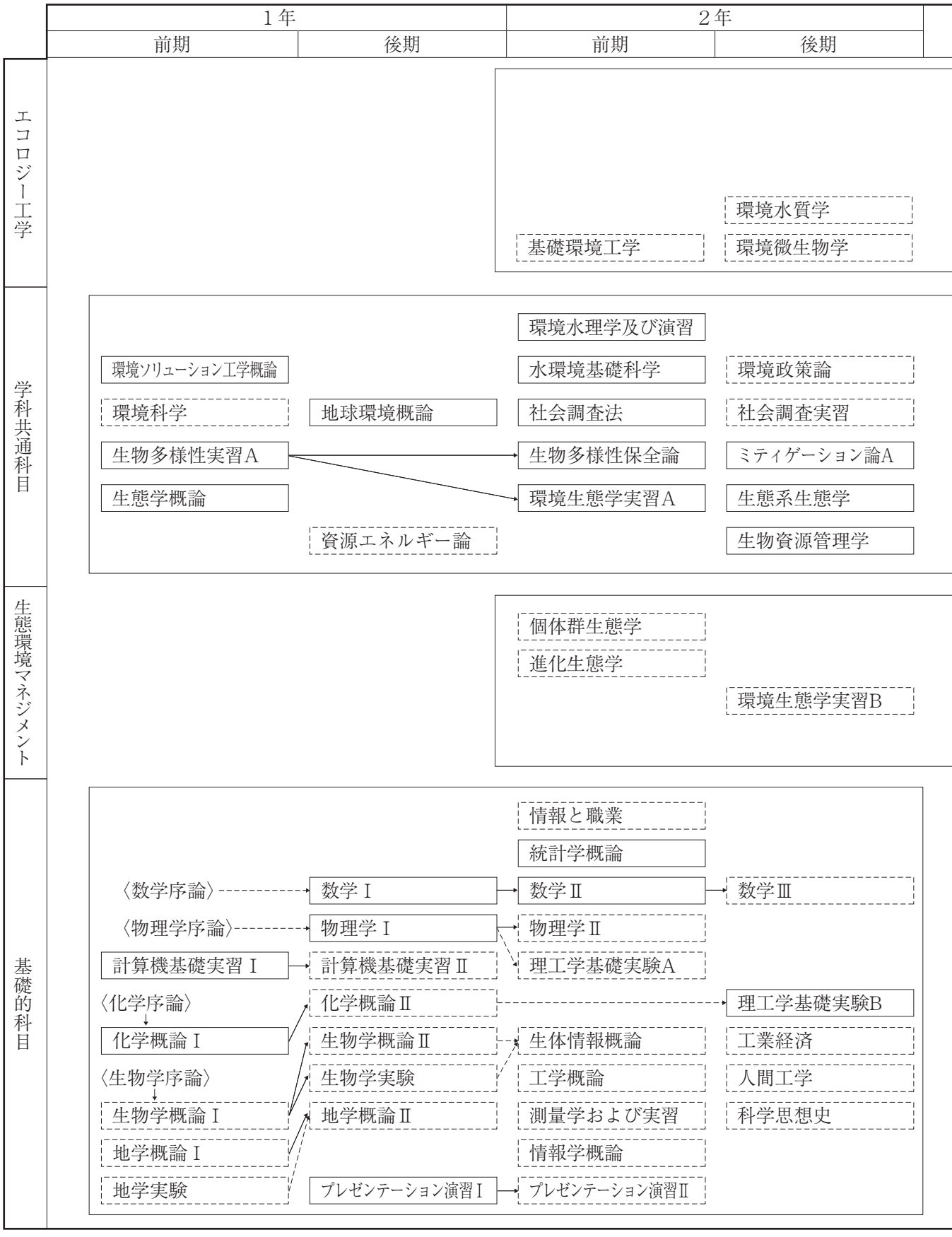
⚠ 注意事項

1）※印の選択必修科目より２単位修得すること。「学外実習」は学科固有科目の選択必修科目として集計する。

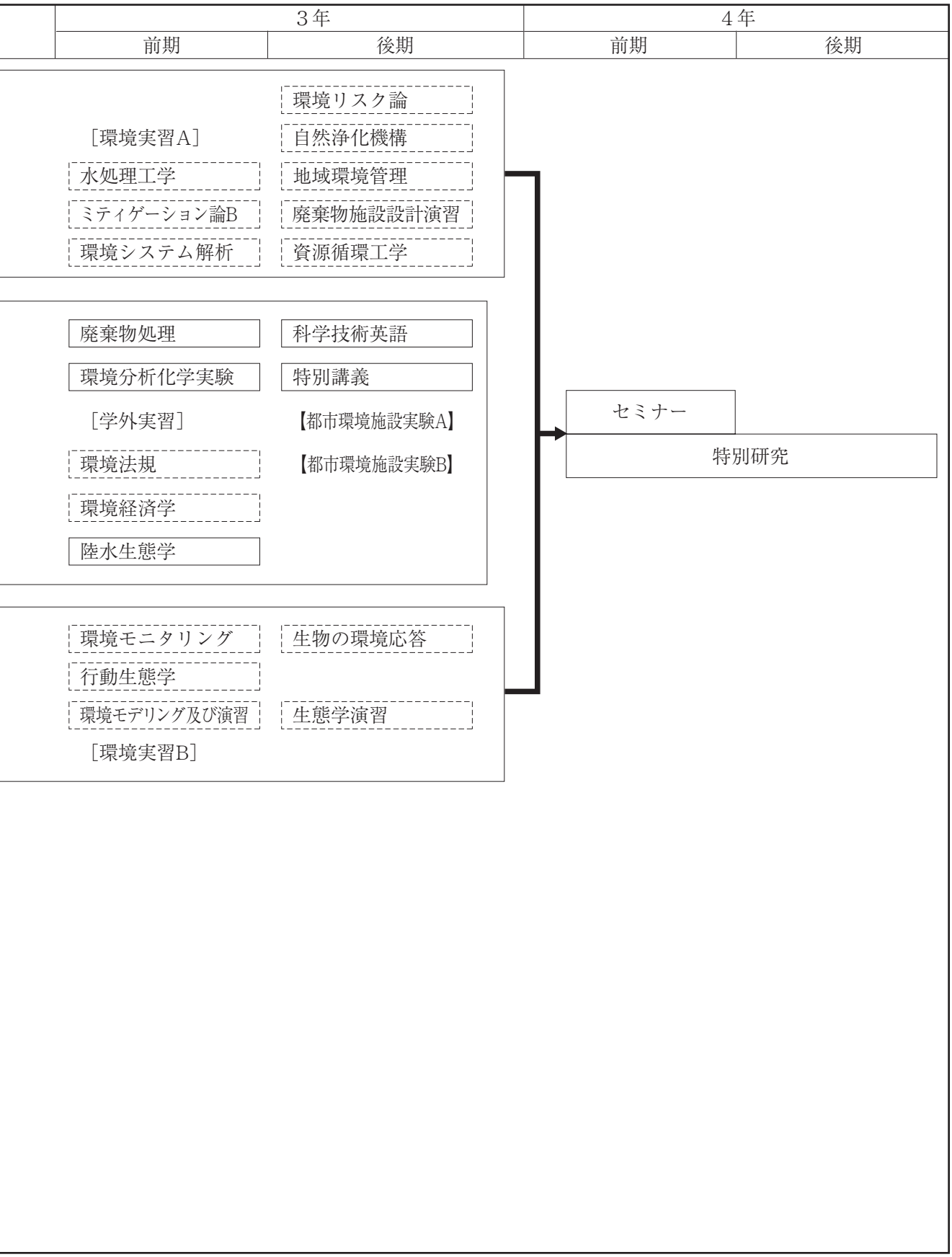
2）★印の選択必修科目より２単位以上修得すること。

3）●は、通常の開講学期であるが、カリキュラム改革および他学科合併開講の都合上、○の学期に開講されているので注意すること。

5．カリキュラムフローチャート



〈　〉随意科目　　□必修科目　　□選択科目　　[　]選択必修科目


3年
前期
後期
4年
前期
後期
環境リスク論
［環境実習A］
自然浄化機構
水処理工学
地域環境管理
ミティゲーション論B
廃棄物施設設計演習
環境システム解析
資源循環工学
廃棄物処理
科学技術英語
環境分析化学実験
特別講義
セミナー
［学外実習］
【都市環境施設実験A】
特別研究
環境法規
【都市環境施設実験B】
環境経済学
陸水生態学
環境モニタリング
生物の環境応答
行動生態学
環境モデリング及び演習
生態学演習
［環境実習B］

【　】選択必修科目

❹学科固有科目カリキュラム対照表

	2007年度以降入学生		2006年度以前入学生	
	科目名	単位	科目名	単位
学部内共通科目				
	科学技術英語	2	科学技術英語	2
	化学概論Ⅰ	2	化学概論Ⅰ	2
	化学概論Ⅱ	2	化学概論Ⅱ	2
	生物学概論Ⅰ	2	生物学概論Ⅰ	2
	生物学概論Ⅱ	2	生物学概論Ⅱ	2
	地学概論Ⅰ	2	地学概論Ⅰ	2
	地学概論Ⅱ	2	地学概論Ⅱ	2
	物理実験	2	理工学基礎実験A	2
	化学基礎実験	2	理工学基礎実験B	2
	計算機基礎実習Ⅰ	2	計算機基礎実習Ⅰ	2
	計算機基礎実習Ⅱ	2	計算機基礎実習Ⅱ	2
	自然観察実習	2	生物多様性実習B	2
	生物学実験	2	生物学実験	2
	地学実験	2	地学実験	2
	学外実習　※2007・2008年度入学生	2	学外実習	2
	学外実習（キャリア実践実習）※2009年度以降入学生	2		
	海外キャリア実践教育及び実習A ※2009年度以降入学生	2		
	海外キャリア実践教育及び実習B ※2009年度以降入学生	2		
	科学思想史	2	科学思想史	2
	情報学概論	2	情報学概論	2
	環境科学	2	環境科学	2
	資源エネルギー論	2	資源エネルギー論	2
	人間工学	2	人間工学	2
	工学概論	2	工学概論	2
	生体情報概論	2	生体情報概論	2
	工業経済	2	工業経済	2
	生態学概論	2	生態学概論	2
	地域環境概論	2		
	地球環境概論	2	地球環境概論	2
	情報と職業	2	情報と職業	2
	MOT概論	2	MOT概論	2
	MOT演習	2	MOT演習	2
	知的財産概論	2	知的財産概論	2
	キャリアデザイン	2	キャリアデザイン	2
	キャリアプランニング	2	キャリアプランニング	2
学科固有科目				
	環境ソリューション工学概論	2	環境ソリューション工学概論	2
	統計学概論	2	統計学概論	2
			基礎環境工学	2
	環境工学基礎実習	2		
	生物多様性実習	2		
			生物多様性実習A	2
	数学序論	2	数学序論	2
	物理学序論	2	物理学序論	2
	化学序論	2	化学序論	2
	生物学序論	2	生物学序論	2
	数学Ⅰ	2	数学Ⅰ	2
	数学Ⅱ	2	数学Ⅱ	2
	数学Ⅲ	2	数学Ⅲ	2
	物理学Ⅰ	2	物理学Ⅰ	2
	物理学Ⅱ	2	物理学Ⅱ	2

	2007年度以降入学生		2006年度以前入学生	
	科目名	単位	科目名	単位
	測量学及び実習	2	測量学及び実習	2
	環境分析化学実験	2	環境分析化学実験	2
			社会調査法	2
	社会調査法及び実習	2	社会調査実習	2
	環境社会学	2		
	環境政策論	2	環境政策論	2
	環境経済学	2	環境経済学	2
			環境法規	2
	環境倫理学	2		
	特別講義	2	特別講義	2
	環境実習Ｃ	2		
	プレゼンテーション演習	2		
			プレゼンテーション演習Ⅰ	2
			プレゼンテーション演習Ⅱ	2
	環境システム解析	2	環境システム解析	2
	自然の浄化機構	2	自然浄化機構	2
	環境装置工学	2		
	環境毒性学	2	環境リスク論	2
	大気環境工学	2		
	環境微生物学	2	環境微生物学	2
	廃棄物工学	2	廃棄物処理	2
	水処理工学	2	水処理工学	2
			水環境基礎科学	2
			環境水質学	2
	上下水道工学	2	環境水理学及び演習	2
	資源循環工学	2	資源循環工学	2
			ミティゲーション論Ｂ	2
	環境実習Ａ	2	環境実習Ａ	2
	都市環境施設実験Ａ	2	都市環境施設実験Ａ	2
	都市環境施設実験Ｂ	2	都市環境施設実験Ｂ	2
	環境アセスメント及び演習	2		
	環境施設設計演習	2	廃棄物施設設計演習	2
			地域環境管理	2
	生態系生態学	2	生態系生態学	2
	進化学	2	進化生態学	2
	生理生態学	2	生物の環境応答	2
	環境計測学	2	環境モニタリング	2
	個体群生態学	2	個体群生態学	2
	群集生態学	2		
			行動生態学	2
	野外調査実習	2	環境生態学実習Ｂ	2
	数理生態学	2	環境モデリング及び演習	2
	保全生態学	2	生物多様性保全論	2
	環境生態学実習	2		
			環境生態学実習Ａ	2
	陸水生態学	2	陸水生態学	2
	環境実習Ｂ	2	環境実習Ｂ	2
	生態工学	2	ミティゲーション論Ａ	2
	資源管理学	2	生物資源管理学	2
			生態学演習	2
	セミナーⅠ	2	セミナー	2
	セミナーⅡ	2		
	特別研究	6	特別研究	6

❺他学科科目の履修について

2001年度より理工学部ではカリキュラム改革の一環として、自主的学習プランの作成と幅広い知識の習得や総合的思考力を養うために、他学科科目の履修を大幅に拡大しました。履修を希望する者は以下の事項に注意して履修してください。

1．履修可能他学科科目

＜科　　目＞

各学科から提供された科目の中から、あなたの所属する学科が履修を認めた科目。

（理工学部教務課備えつけの、他学科科目受講可否一覧を参照してください。）

＜配当年次・対象＞

科目提供学科での配当年次および対象入学年度に従います。

履修要項で確認してください。

＜開講曜講時＞

理工学部教務課カウンターに設置している他学科時間割表で確認してください。

2．単位認定

他学科科目は、各学科次の通り単位認定されます。

＜数理情報学科＞
2006年度以前入学生は、フリーゾーン科目として16単位まで認定。
2007年度以降入学生は、フリーゾーン科目として10単位まで認定。
＜電子情報学科＞
学科固有科目の選択科目として6単位まで認定。
＜機械システム工学科＞
2006年度以前入学生は、学科固有科目の選択科目として6単位まで認定。
2007年度入学生より、自由選択科目として9単位まで認定。
＜物質化学科＞
学科固有科目選択科目として6単位まで認定。
＜情報メディア学科＞
フリーゾーン科目として8単位まで認定。
＜環境ソリューション工学科＞
フリーゾーン科目として8単位まで認定。

上記以外の学生は随意科目として認定。

3．履修方法

受講登録より事前に、必ず『他学科科目履修届』（理工学部教務課窓口にて配布）を提出してください。（提出がない場合、受講、単位認定ができない場合があります。）

履修制限単位数に含まれます。

⚠注意事項

科目によっては該当学科の受講生を優先するため、受講可能人数を制限する場合があります。（その場合、掲示にて発表しますので注意してください。）

❻単位互換制度について

単位互換制度とは、他大学が提供する科目のうち、理工学部があらかじめ履修可能科目（掲示等でお知らせします）として認めた科目を「単位互換履修生」として受講し、試験に合格すれば、下記の要領にしたがって単位が認定される制度です。受講料は無料です。(ただし、科目により実習・演習料金等が別途必要となる場合があります。)

また、京都駅前の「キャンパスプラザ京都」においても「単位互換科目」としての授業科目が各大学から提供されています。本学部の学生が「他大学」または「キャンパスプラザ京都」において提供された科目を受講する際は、「単位互換履修生」として扱われることになっています。

理工学部では、大学コンソーシアム京都の単位互換制度と、環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換制度を利用することができます。

1．履修条件

【2007年度以前入学生】

随意科目として、大学コンソーシアム京都の単位互換科目と環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換科目を合わせて在学期間中に上限8単位まで履修を認める。

【2008年度以降入学生】

<table>
<tr><th rowspan="2">学科</th><th rowspan="2">単位互換
制度名</th><th colspan="4">備　　考</th></tr>
<tr><th>単位認定</th><th>登録制限</th><th>受講対象</th><th>備考</th></tr>
<tr><td rowspan="2">数理情報学科</td><td>大学コンソーシアム京都</td><td rowspan="2">・在学期間中にフリーゾーン科目として上限2単位まで単位を認定する。</td><td rowspan="6">履修登録制限単位には含まない。</td><td rowspan="6">1年次生～3年次生
（卒業年次生は随意科目として受講可。）</td><td rowspan="6">大学コンソーシアム京都の単位互換科目と環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換科目を合わせて在学期間中に上限8単位まで履修を認める。</td></tr>
<tr><td>環びわ湖大学コンソーシアム</td></tr>
<tr><td rowspan="2">機械システム工学科</td><td>大学コンソーシアム京都</td><td rowspan="2">・在学期間中に自由選択科目として上限2単位まで単位を認定する。</td></tr>
<tr><td>環びわ湖大学コンソーシアム</td></tr>
<tr><td rowspan="2">電子情報学科
物質化学科
情報メディア学科
環境ソリューション工学科</td><td>大学コンソーシアム京都</td><td rowspan="2">・在学期間中に教養教育科目の総合科目として上限2単位まで単位を認定する。</td></tr>
<tr><td>環びわ湖大学コンソーシアム</td></tr>
</table>

2．「単位互換履修生」の学籍およびその取り扱い

①履修手続きを完了した者には、科目開設大学における「単位互換履修生」となります。

②単位互換履修生は許可を受けた授業科目について受講することができ、当該科目についての試験に合格すれば、単位の認定を受けることができます。

③単位互換履修生は、自分が受講する科目開設大学の定める範囲において、履修期間中に限りその大学の施設（図書館等）を利用することができます。

3．試験について

試験期間は、科目開設大学の定めるところにより実施されますので、当該科目と本学の試験日時が重なることが判明した場合は、直ちに理工学部教務課窓口に相談してください。

なお、単位互換科目に関し本学定期試験と重なった場合の取扱いは以下のとおりです。

◎印は、卒業要件に関する科目（教職課程科目を含む）
○印は、随意科目として扱い科目

本学の授業科目	単位互換科目	対応方法	本学の科目の追試対象	追試受験料
◎	◎	単位互換科目を優先して受験させる	認める	免除
○	◎	単位互換科目を優先して受験させる	認める	免除
◎	○	本学の科目を優先して受験すること。ただし、本人の判断により選択可能。	認める	必要
○	○	本人の判断により選択	認める	必要

4．その他の注意事項

単位互換科目のほとんどは人数制限があり、希望者全員が受講できるものではありません。しかしながらその一方では、受講が許可されたにも関わらず受講を放棄する学生も多数います。許可された科目を放棄することは、受講を許可されなかった学生のみならず、科目開設大学にも大変な迷惑をかけることになります。出願にあたっては、途中で放棄することのないよう慎重に科目を選択し、受講が許可された場合には必ず最後まで受講するようにしてください。

5．大学コンソーシアム京都の単位互換制度について

大学コンソーシアム京都においては、1994年度から京都地域の大学および短期大学が単位互換の協定を締結し、各大学から特色ある科目を提供することによって、相互に科目履修のできる「単位互換授業」の制度を設置、さらには、1998年度からは、学生が在学中に企業や行政機関およびNPO・NGO団体等において就業体験をする「インターンシップ・プログラム」を開講し、これらの事業内容を年々充実すると共に継続的に発展させています。

この「単位互換制度」および「インターンシップ・プログラム」等の大学コンソーシアムの事業には、本学を含め40以上の大学および短期大学が参加していることもあり、これまでにも多くの学生が参加しています。

これらの教育プログラムの具体的な内容等の案内および出願手続きの資料等については、今後、理工学部教務課（および「インターンシップ・プログラム」についてはインターンシップ支援オフィス）窓口にて配付する予定です。

⑴出願手続きについて

「大学コンソーシアム京都　単位互換制度」で提供される授業の履修を希望する学生は、前期・後期・集中科目とも、4月初旬の指定された登録日に出願手続きをおこなってください。

対象科目	登録日
全科目（前期科目・後期科目・集中科目すべて）	4月1日（金）9：00 ～ 4月11日（月）17：00

出願手続きは、ポータルサイトにログインして「大学コンソーシアム京都単位互換出願」に入力してください。なお、受講機会拡大のため、集中科目・後期科目の定員に余裕がある科目について、6月初旬に追加登録をおこないます。

科目開設大学の都合により、男子学生の受講が制限されたり、科目の性質から学部および学年が制限される場合があるので注意してください。受講資格については、「単位互換開講科目シラバスWeb」または募集ガイドの「単位互換科目詳細」の項を参照してください。

⑵履修許可および履修手続き

申し込み者多数の場合は、選考（書類選考等）をおこなう場合があります。科目開設大学からの選考結果は4月末頃掲示でお知らせします。許可を受けた者は、科目開設大学によっては、指定の期日までに所定の手続き（身分証明書用写真、実習費用の必要な場合には、費用の納入など）を必要とする場合もありますので、科目開設大学の指示に従ってください。

●休講・補講・教室変更等の連絡は、大学コンソーシアム京都ホームページで確認してください。

ホームページアドレス　http://www.consortium.or.jp/

6.「インターンシップ・プログラム」について

大学コンソーシアム京都が実施する「インターンシップ・プログラム」には、以下のプログラムが用意されております。

①短期実践型（夏期）「ビジネスコース」・「パブリックコース」

夏期休暇を中心としたインターンシップを企業や行政機関およびNPO・NGO団体等においておこなう。

②長期プロジェクト型「プログレスコース」

3～6ヶ月の長期にわたり企業、NPOなどで実際にひとつのプロジェクトを担当する。

③短期体験型（冬期）「トライアルコース」

短期大学生および4年制大学1・2年次生を対象に12月中旬～2月下旬にかけて最低5日間の実習をおこなう。なお、2011年度は休止する予定です。詳細は大学コンソーシアム京都ホームページで確認してください。

「インターンシップ・プログラム」は理工学部では最終評価に合格すれば、下記にしたがって単位が認定されます。なお、インターンシップ・プログラムを受講希望で単位認定を希望の場合は、必ず事前（履修登録日まで）に理工学部教務課および各学科の学外実習実施委員まで相談すること。

学部	学科・専攻	科目名称（学則上の名称）	科目単位数	単位数（上限）	科目区分	必須・選択区分	対象年次	単位認定の取り扱い	備　考
理工学部	全学科	＊＊＊＊	＊＊	＊＊	＊＊＊＊	＊＊＊＊	1～2年次生	単位認定対象外	
		学外実習	2	2単位	固有科目	学科によって異なる。	3年次生	合格(G) ※不合格(D)	3年次生受講生は、「学外実習」で読み替える。

※具体的な単位認定方法（単位登録・評価方法・履修制限等）は理工学部教務課にて確認してください。

これらの「インターンシップ・プログラム」の受講を希望する学生は、本学の授業や定期試験等と「インターンシップ・プログラム」の日程が重なることも考えられますので理工学部教務課窓口で事前に相談してください。

なお、コースのプログラム内容等については、2011年度の「インターンシップ・プログラム実習生募集ガイド」で確認してください。

⑴資格要件　理工学部学生の履修条件は以下のとおりです。

3年次に、「学外実習」の科目として履修登録を行うこと。

※3年次以外の受講については、単位認定対象外とする。

⑵出願手続について

理工学部教務課、またはインターンシップ支援オフィス窓口において、「インターンシップ実習生募集ガイド」と受講を希望するコースの「インターンシップ・プログラム出願票」を受け取り、「募集ガイド」を熟読のうえ、「出願票」に必要事項を記入、写真を貼付し、キャンパスプラザ京都の「大学コンソーシアム京都事務局窓口」に定められた期日までに提出してください。なお、出願できるのは、1名につき1コースで

あり、複数コースへの出願、同一コースの重複出願があった場合は、その全てが無効になるので注意してください。

⑶インターンシップ・プログラムの枠組みについて

「事前学習」→「実習（中間指導）」→「事後学習」をひとつの枠組みとした、各コースの目的に沿ったプログラムの学習・実習がおこなわれます。

①事前学習について

実習に先だって、実習が有意義なものとなるように準備に万全をきすためのプログラムで、オリエンテーション、実習先の研究を通じ職業意識を啓蒙するディスカッション、最低限必要なパソコンのスキルアップやビジネスマナー講座などがあります。

②実習について

実習先において正（準）社員・職員と同じ責任と意識をもった就業体験ができるよう、各受入先では特色あるプログラムが策定されています。

③事後学習について

ゼミクラスで各々の実習体験を報告することによって、自らの問題意識や関心を明確にし、今後の学習効果やライフプランにつなげていくことを重点とした学習をおこないます。

⑷実習先の決定について

実習生の希望や適性を考慮して、大学コンソーシアム京都インターンシップ事業推進室の総合コーディネーター（大学教員）を中心とした「選考委員会」にて決定されます。この際、受け入れ人数の問題等によって、必ずしも希望する業界や職種で実習できない場合があることを出願時から理解しておいてください。

7．環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度について

環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度が提供する科目を履修し、それを単位として認定する制度です。この制度は、2005年度から開始され、滋賀県特有の内容をテーマにした科目や各大学や短期大学の学部・学科・専攻の特徴的な科目が提供されています。本学の学生は本学の定める範囲において、単位互換科目を受講することができます。

⑴出願手続きについて

環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度で提供される科目の履修を希望する学生は、指定された登録期限日までに出願手続きをおこなってください。出願書類は、カウンター配布の「環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度　出願票」を1科目1枚として、事前に各学科教務委員の確認を得た上で、理工学部教務課窓口に提出してください。

受講料は、実習費等が別途必要な場合を除いて無料です。ただし、実習費等が必要な科目については、履修許可通知が届いた後、科目開設大学の指示にしたがって納入してください。

⑵履修許可および履修手続き

出願者多数の場合は、科目開設大学において選考が行われ（原則として、出願票に各自が記載した「志望理由」をもとに選考されます）、選考結果は本学を通じて出願者に通知します。許可通知は4月末頃の予定です。前期科目の場合、出願して履修許可通知があるまでの4月前半に授業が開始されることがあります。この場合、履修許可通知があるまでは、その出願科目を仮受講してください。

許可通知の後、科目開設大学によっては写真提出等の別途手続きを必要とする場合もありますので、科目開設大学の指示に従ってください。

❼日本技術者教育認定機構（JABEE）について

1．JABEEとは

JABEEとは「日本技術者教育認定機構」のことです。英語名の“Japan Accreditation Board for Engineering Education”の頭文字をとったもので「ジャビー」と愛称されています。JABEEは、大学などの高等教育機関のプログラムを審査し、その内容が国際的に認められるレベルにあり、技術者として活動するために必要な知識や能力の養成に成功していると判断したとき、認定を与えます。

2．JABEEによる認定制度

JABEEによる審査は、定められた明確な基準に照らし、書類審査と実地審査に基づいて、厳密かつ公正に行われます。JABEEはまた、アメリカ、イギリスを始め、世界各国が加盟するワシントン協定に加盟しており、JABEEの認定は国際的な認定として認められています。

3．認定の基準

JABEEは以下の基準をすべて満たした技術者教育プログラムに対して認定を与えます。

⑴大学や教育プログラムは、社会のニーズに一致する使命と目的を明示しなければならない。

⑵教育プログラムは、使命と目的に沿う具体的な教育目標を定義し、教育活動の成果がこれらの教育目標と日本技術者教育認定制度が求める教育成果を如何に満たしているかを示さなければならない。

⑶教育プログラムを継続的に改善する仕組みを持たなければならない。

⑷入学学生の質、教員、設備、大学のサポート、財務などの諸問題を教育プログラムの目標と結びつけて十分検討してあること。

これらの項目は、教育機関が、整然とした教育目標と教育戦略を持ち、必要な水準の教育活動を維持し継続的に改善していくために、人的資源や設備が組織的にも財務的にも充分であることを要求するものです。（JABEEホームページより）

4．認定を受けるメリット

JABEEから認定を受けるためには、基準を満たすため数々の教育改善を継続的に実行することが求められます。また、それを客観的に説明する努力も必要となります。このようにして、学部や学科での教育内容や方法に継続的な改善が加えられるので、学生諸君は常に社会の要求に合致した質の高い教育を受けられることが保証されます。また、JABEE認定プログラムを修了するということは、国際的に通用する技術者として認められるための第一歩を踏み出すことでもあります。その評価が、卒業後の皆さんの活躍により益々高まり、広範囲なものになることを期待します。また、修了生には技術士になるための１次試験（技術士補試験）が免除されるなどの直接的なメリットも期待できます。

5．理工学部における取り組み

本学理工学部ではJABEE認定に対し深い関心を寄せており、2003年度には、物質化学科が関西にある私立大学の化学系としては初めて、JABEEの認定を受けました。

❽卒業年次生の大学院授業科目の履修について

理工学部では、卒業年次生のうち特に優秀な学生に対し、学部における修学に影響のない範囲で本学大学院理工学研究科科目（以下、大学院科目）の履修を認めています。この制度の利用者には大学院への進学を奨励するため、学内推薦入学試験の受験を要件としています。

大学院科目の履修ならびに学内推薦入学試験の受験に関して、指導教員または教務委員とよく相談することをおすすめします。

また、大学院理工学研究科修士課程1年修了制を利用して、大学院理工学研究科修士課程の在学期間を短縮することが可能です。これは、文部科学省の大学院設置基準および本学大学院学則第12条に基づき実施されるものです。

1．履修出願資格

大学院科目の履修を出願できる者は、次の各号に該当し、かつ研究科委員会の定める要件を満たさなければなりません。

①本学理工学部の卒業年次生

②大学院科目を履修する能力を有する者

③本学大学院理工学研究科への進学を希望している者であって、かつ学内推薦入学試験（詳細は学内推薦入学試験要項を参照してください。）に出願を希望している者。ただし、同試験において不合格となった場合および入学手続を所定の期間に行わなかった場合は履修許可を取り消すものとする。

④各専攻において別途定める基準を満たす者

2．出願方法

大学院科目の履修を希望する者は、卒業年次の第一学期（前期）履修登録時に所定の願書を理工学部教務課に提出し、研究科委員会の議に基づき、教授会の承認を得て、履修が許可されます。

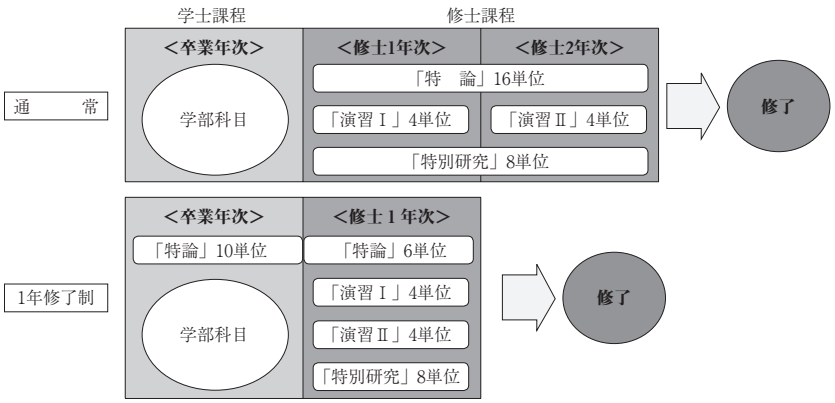
3．単位認定

許可された者が、出願した大学院科目に合格した場合は、本学大学院理工学研究科に入学した際に、研究科委員会の議を経て大学院科目として単位が認定されます。

この単位は、理工学部の卒業要件単位としては認められませんので、注意してください。

4．修士課程１年修了制のしくみ

修士課程を1年間で修了するためには、下図のように、卒業年次の時に大学院の特論科目（10単位）を修得し（大学院入学時に単位認定）、修士1年次の時に修了要件単位に必要な特論科目（6単位）と演習Ⅰ・Ⅱ（8単位）、特別研究（8単位）を修得して、修士論文の審査に合格しなければなりません。



Ⅳ　諸課程等の履修方法

❶教職課程

教育職員免許法に基づき、本学が認定を受けている免許状の種類は下記の通りです。本学学則に定める所定の単位を修得することによって、下記の免許状が取得できます。

入学年度により取得できる免許状が異なりますので注意してください。

教育職員免許法取得に関する科目の履修方法については、**「履修要項別冊　教職課程ガイドブック（瀬田学舎共通）」**を参照してください。

＜2000年度以降入学生＞

学科	免許教科	中学校教諭	高等学校教諭
数理情報学科	数　学	一種免許状	一種免許状
	情　報		一種免許状
電子情報学科	工　業		一種免許状
	情　報		一種免許状
機械システム工学科	工　業		一種免許状
物質化学科	理　科	一種免許状	一種免許状
情報メディア学科	情　報		一種免許状
環境ソリューション工学科	理　科	一種免許状	一種免許状

❷本願寺派教師資格課程

本願寺派教師資格は、下記の本学部開講の関連科目を履修することによって取得できます。

本山教師科目	本学部開講の関連科目	単位	配当年次	備考
真宗教義	真宗学概論	4	2	
仏教教義	仏教学概論	4	2	
真宗史	真宗史	4	1	
仏教史	日本仏教史	4	1	
宗教概説	宗教学概論	4	2	
勤式作法	勤式	4	1	＊
宗門法規	宗門法規	2	1	◎
布教法	教化法	4	1	＊

隔年開講の科目がありますので、計画的に履修してください。

＊……2008、2010、2012年度開講

◎……2009、2011、2013年度開講

❸博物館学芸員課程【2007年度以降入学生】

博物館とは、美術館、資料館、郷土館、動・植物園、民芸館、記念館などを含む社会教育施設を指し、生涯学習の観点から社会教育上、重要な役割を担うものです。

昭和26年12月に制定された「博物館法」によって、これらの博物館には「学芸員」やその他の職員を置くことが定められています。

学芸員は、博物館において、その管理運営・博物館資料の収集・保管・展示及び調査研究などの専門的事項を担当します。

本学部における博物館学芸員課程では，人文・自然科学系〔歴史学、民族（俗）学、美術史学、考古学、環境学、動植物学等〕博物館学芸員を養成し、別表の科目を履修することによって、高い学識と見識をもった学芸員を社会に送り出すことを目指しています。

就職については、学芸員の採用人数はきわめて少ない現状です。これらのことから、目的意識を明確にもち、積極的な学修意欲が強く求められることを十二分に認識の上、履修することが望まれます。

在学中に本課程を完修できなかった場合、卒業後に本学部での科目等履修生となり、未修得の科目を履修することも可能ですが、「博物館実習」は原則として履修できない（「博物館実習内規」を参照）ので、在学中に完修することが望まれます。

1　博物館学芸員課程の履修

博物館法施行規則に定められている科目と単位数は、本学部ではそれに応じて、別表のとおりの科目と単位数にしています。必修8科目12単位および選択科目群から2科目4単位以上を履修しなければなりません。

本学部において、「博物館実習」を除く博物館学芸員課程必修科目の履修登録ができる人数は、各科目とも先着20名までとしますので、予備（事前）登録を実施します。

2　「博物館実習」の履修

⑴　履修登録資格

次の項目をすべて満たしていること。

①「博物館実習」を履修するまでに「生涯学習概論」「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館情報論」「視聴覚教育メデイア論」「教育学概論」を完修していることが望ましいが、最低5科目以上の単位を修得していること（「博物館実習内規）を参照）。

②受講申込を行い、選考（小論文･面接など）に合格した者（科目の性格上、多人数の受講が不可能です）。

※選考は、受講希望に関する書類・成績（博物館学芸員課程関連既修得科目の成績および卒業要件既修得科目の成績）及び博物館学に関する面接試験などによって行う。

③科目の性格上、実習先へ所定の期間は、出勤可能な者。

④年度始めに実習費を納入すること。

⑵　対象年次

3年次以上

⑶　実習定員

本学部での定員は原則として、10名以内です。

⑷　実施方法

①実地研修を中心に「博物館実習」の事前・事後の指導講義も行います。

②学外の博物館などの学外実習先にて指導を受けます（夏期休暇中など）。

③通年開講科目です（当該年度に長期留学する者は受講できません）。

④実習の性格上、学外において実習を行うことがあるので、開講曜講時前後の時間帯におよんで実習講義を行うことがあります。

(5) 実習費

「博物館実習」履修の本登録を許可された者（掲示にて確認）は、必ず所定の期間（4月上旬）に証明書自動発行機にて実習費として10,000円を納入した上、証明書自動発行機から出力される各種申込書「博物館実習費（国際文化学部・理工学部）」を速やかに理工学部教務課に提出してください。

なお、この証明書自動発行機にて博物館実習費を指定する際は、文学部の博物館実習費と間違わないように注意してください。

これらの手続きを終了することによって、「博物館実習」科目を「授業科目受講届」用紙に記入（履修登録）することができます。

ただし、受講登録後の自己都合による受講取消の場合は、実習費を一切返金しません。

(6) 実習申込時期

履修登録希望者は、博物館実習履修の前年度3月下旬の学業成績等の書類配布日に「博物館実習」受講申込書を受け取り、所定の期間に申し込むこと。

(7) 実地研修『博物館実習』（博物館等での学外実習）の心構え

①学生の意識で実習を行うのではなく、一社会人としての行動をとること。
②受入機関は勿論、入館者の方にも失礼のないように注意すること。
③時間厳守のこと。
④実習期間の服装は、入館者と直接接触するので、受入機関の指示に従うこと。
⑤各自、薄手の手袋を持参する方が望ましい。
⑥その他受入機関の指示に従うこと。

(8) その他

「博物館実習」の一端として宿泊を伴う博物館の見学などを行う場合もあります。博物館の見学などに必要な交通費・宿泊費・食事代等の実費（5万～ 10万円）は、自己負担しなければなりません。

3．本学部における博物館学芸員課程に関する科目

(1) 必修科目

	省令科目	単位数	理工学部開講科目	開講・曜日・講時	単位数	配当年次	
必修科目	視聴覚教育メディア論	1	視聴覚教育メディア論	前期（前半）木・5	1	2	
	博物館情報論	1	博物館情報論	前期（後半）木・5	1	2	
	博物館概論	2	博物館概論	前期　土・3	2	2	
	博物館経営論	1	博物館経営論	後期（前半）月・5	1	2	
	教育学概論	1	教育学概論	後期（前半）木・5	1	2	
	生涯学習概論	1	生涯学習概論	後期（後半）木・5	1	2	
	博物館資料論	2	博物館資料論	後期　火・5	2	2	
	博物館実習	3	博物館実習	通年　土・4	3	3	A）
	計（8科目）	12	計（8科目）		12		

A）「博物館実習」については、受講の可否を選考します。

※理工学部生が博物館学芸員課程の必修科目として、上記科目を受講した場合は随意科目として単位を認定する。

(2) 選択科目

			科目名	単位数	配当年次	備　考
選択科目	国際文化学部	文化史	歴史学入門	2	1	※理工学部学生が博物館学芸員課程の選択科目として、国際文化学部の固有科目を受講する場合は、事前登録が必要です。
			イスラーム世界の社会A	2	2	
			中央アジアの文化	2	2	
			アジアの仏教文化	2	2	
			ユーラシアの歴史と文化B	2	3	
			イスラーム世界の文化A	2	2	
		美術史	芸術表現法A	2	2	
			伝統文化論	2	2	
			アートマネジメント	2	2	
			アジアの芸術	2	1	
			アジアの言葉B	2	2	
			映像文化論B	2	2	
			イスラーム世界の文化B	2	2	
			アジアの言葉A	2	2	
		考古学	大衆文化論B	2	2	
			東アジアの文化と生活B	2	3	
			アジアの生活	2	2	
		民族〈俗〉学	日本の民俗	2	2	
			情報文化論	2	3	
			伝統芸能論	2	2	
			フィールド実習D	2	2	
			音楽芸術論	2	2	
	理工学部	自然科学史	情報学概論	2	2	
			科学思想史	2	2	
			地球環境概論	2	1	
			地域環境概論	2	1	
		化学	化学概論Ⅰ	2	1	
			化学概論Ⅱ	2	1	
		生物学	生物学概論Ⅰ	2	1	
			生物学概論Ⅱ	2	1	
			生態学概論	2	1	
			進化学	2	1	
		地学	地学概論Ⅰ	2	1	
			地学概論Ⅱ	2	1	

※理工学部学生が博物館学芸員課程の選択科目として、国際文化学部の固有科目を受講した場合は、随意科目として単位を認定する。

理工学部博物館学芸員課程　博物館実習　内規

制定　2007年３月７日

１.「博物館実習」の受講について

⑴　履修資格

次の項目をすべて満たしていること。

①「博物館実習」を履修するまでに「生涯学習概論」「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館情報論」「視聴覚教育メデイア論」「教育学概論」を完修していることが望ましいが、最低5科目以上の単位を修得していること。

②受講申込を行い、選考（小論文・面接など）に合格した者。

選考は、受講希望に関する書類・成績（博物館学芸員課程関連既修得科目の成績および卒業要件既修得科目の成績）および博物館学に関する面接試験などによって行う。

③科目の性格上、実習先へ所定の期間、出勤可能な者。

④年度始めに実習費を納入すること。

⑵　履修対象年次

3年次以上

⑶　実習定員

本学部における定員は原則として、10名以内とする。

⑷　実施方法

①実地研修を中心に、「博物館実習」の事前・事後の指導を受ける。

②学外の博物館などの学外実習先にて学芸員の指導を受ける（夏期休暇中など）。

⑸　実習費

履修登録を許可された者は、実習費として10,000円を所定の日までに納入しなければならない。

ただし、受講登録後の自己都合による受講取消の場合は、一切返金しない。

⑹　実習申込時期

履修登録希望者は、前年度3月下旬の学業成績等の書類配布日に「博物館実習」受講申込書を受け取り、所定の日に申し込むこと。

２．前項第4号の①の「博物館実習」の事前指導を受けていない者は、学外実習を受けることはできない。

３．自分で実習先の交渉や手続きを行い、内定した者は必ず教学部（理工学部担当）に実習先などを届け出ること。

また、滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県以外の博物館で実習を受ける学生は、自分で交渉や手続きをすること。その結果については、必ず教学部（理工学部担当）に届け出ること。

４．⑴科目等履修生については、原則として「博物館実習」は履修できない。

ただし、本学部卒業で、かつ現在関係業務就労上、博物館学芸員資格を必要とする者は履修できる。

⑵理工学研究科生は、前号に関係なく履修できるものとする。

５．この規程に関する事務は、教学部（理工学部担当）で行う。

付　則

この内規は、2007年４月１日から施行する。

❹特別研修講座

課程	目的・内容	担当課
開教使課程	将来、海外開教使（外国における真宗伝道）を志す人のために、必要な知識を修得させることを目的とした講座	文学部教務課窓口
職業会計士課程	簿記の初歩から指導をおこない、商業簿記・工業簿記の基礎力・応用力を養成する講座 日本商工会議所簿記検定試験3級・2級の合格をめざします。	経営学部教務課窓口
矯正・保護課程	刑務所、少年院、少年鑑別所などで働く矯正職員や犯罪や非行をしてしまった人たちの社会復帰の手助けをする保護観察官等の専門職やボランティアとして活躍する人たちを、養成することを目的としています。	矯正・保護総合センター窓口
法職課程	司法書士試験をはじめ、各種公務員試験（裁判所事務官試験、家庭裁判所調査官補試験など）の合格を目指す学生に対し、体系的かつ効率的な学習カリキュラムを編成し、良質な講座及び最新の試験情報などを提供し、合格者を輩出することを目的としています。	法学部教務課窓口
教員採用試験対策講座	教員採用試験突破のための基礎力・実践力を養成する講座	教職センター窓口
模擬試験 資格試験	＜模擬試験＞ TOEIC®IP ／ TOEFL®-ITP	生協窓口
	＜資格試験＞ 簿記検定試験	経営学部教務課窓口
キャリア支援講座 ※受講希望者が少ない場合、開講できないことがあります。 ※名称は変更することがあります。 ※開講する学舎が限定されていることがあります。	＜目的・内容＞ 就職活動のサポートや公務員試験対策、将来のキャリアアップのための資格試験対策などを目的とした各種講座 〈就職対策系〉 就職筆記試験対策講座／エントリーシートの書き方講座／マスコミ就職対策講座／Ｒ－ＣＡＰ <試験対策> 公務員講座 <資格系> TOEIC®講座／旅行業務取扱管理者講座／通関士講座／２級ＦＰ技能士・ＡＦＰ講座／宅地建物取引主任者講座／基本情報技術者講座／ MOS講座（Excel2007）／ITパスポート講座／社会福祉士国家試験講座／ホームヘルパー2級講座／ CAD利用技術者講座／色彩検定講座／秘書検定講座	キャリア開発部（深草・瀬田・大宮）窓口

※　上記の講座以外にも、「ＲＥＣコミュニティカレッジ」（生涯学習講座）を多数開講しています。
本学学生は会員価格で受講できます。詳しくはパンフレットをご覧下さい。

※　TOEIC®、TOEFL®はエデュケーショナル･テスティング･サービス（ETS）の登録商標です。この（印刷物／製品／ウェブサイト）はETSの検討を受けまたはその承認を得たものではありません。

Ⅴ　協定型インターンシッププログラム

❶プログラムについて

本学では、学生の自立とキャリア形成を支援する実践的な教育プログラムとして全学共通の協定型インターンシップを展開しています。このインターンシップは、建学の精神にもとづくきめ細かな事前・事後学習を展開する、本学独自の特色のあるインターンシッププログラムです。このプログラムの具体的な内容については、インターンシップ支援オフィス発行の「インターンシッププログラム2011」のリーフレットを参照してください。

また、2007年度より理工学部で卒業要件単位として単位認定されることになりました。詳細については、下記のとおりです。

⑴対象学年

学部3年次に、「学外実習」の科目として履修登録を行うこと。

※3年次以外の受講については、単位認定対象外とする。

なお、協定型インターンシッププログラムを受講希望で単位認定を希望の場合は、必ず事前（履修登録日まで）に理工学部教務課および各学科の学外実習実施委員まで相談すること。

⑵単位認定

※具体的な単位認定方法（単位登録・評価方法・履修制限等）は理工学部教務課にて確認してください。

学部	学科・専攻	科目名称（学則上の名称）	科目単位数	単位数（上限）	科目区分	必須・選択区分	対象年次	単位認定の取り扱い	備　考
理工学部	全学科	＊＊＊＊	＊＊	＊＊	＊＊＊＊	＊＊＊＊	1～2年次生	単位認定対象外	
		学外実習	2	2単位	固有科目	学科によって異なる。	3年次生	合格(G) ※不合格(D)	3年次生受講生は、「学外実習」で読み替える。

⑶応募方法

当プログラムの応募方法等の詳細内容については、インターンシップ支援オフィスで配布される募集要項を参照してください。

⑷シラバス

次ページ参照

⑸定期試験及び追試験受験資格の認定

インターンシップ実習受入先の都合により、やむを得ず実習期間と定期試験日時が重なることがあります。当該実習と定期試験日時が重なることが判明した場合は、直ちに理工学部教務課窓口に相談してください。

なお、協定型インターンシップの実習期間が本学定期試験と重なった場合の取扱いは、次のとおりです。

本学の授業科目	協定型インターンシップ	対応方法	本学の科目の追試対象	追試受験料
◎	◎	インターンシップ実習を優先する	認める	免除
○	◎	インターンシップ実習を優先する	認める	免除
◎	○	本人の判断により選択可能	認める	必要
○	○	本人の判断により選択可能	認める	必要

◎印は、卒業要件に関する科目（教職課程科目を含む）

○印は、随意科目として扱う科目

⑹注意事項

このインターンシップ・プログラムは、事前学習・実習・事後学習の全てのカリキュラムを通じて、キャリア形式を支援する内容となっているため、原則欠席することはできません。また、途中で辞退することは、実習先をはじめとして、受講できなかった学生にも大変な迷惑をかけることになるため、特別な事情がない限り認められません。

2011年度体験型インターンシップ「協定型インターンシップ」授業計画

（総合コーディネーター：築地達郎）

	日程	希望教室	講師	講義名	内容
第１講	6月18日㈯ 1限目	大宮 本館講堂	担当教員 総合コーディネーター	オリエンテーション	・インターンシップとは ・社会環境・状況 ・プログラム概要説明
第２講	6月18日㈯ 2限目	大宮 本館講堂	学長 担当教員 総合コーディネーター	建学の精神と自校史	学長による建学の精神と自校史に関する講義
第３講	6月18日㈯ 3限目	大宮 本館講堂 →ゼミ室	担当教員 総合コーディネーター	インターン生に望むこと	受入先企業担当者数名によるパネルディスカッション
第４講	6月25日㈯ 1限目	深草 2号館 205 ～ 211	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク①	ゼミ形式によるグループワーク ・インターンシップ実習目的設定 ・グループ別プレゼンテーション ・受け入れ担当者による講義 ・インターンシップ体験者による報告など
第５講	6月25日㈯ 2限目	深草 2号館 205 ～ 211	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク②	
第６講	6月25日㈯ 3限目	深草 2号館 205 ～ 211	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク③	
第７講	7月2日㈯ 1限目	瀬田 6号館 プレゼンルーム	外部講師① 総合コーディネーター	ビジネススキル①	ビジネスマナー ・第一印象、コミュニケーション能力養成 ・敬語の使い方、マナー等
第８講	7月2日㈯ 2限目	瀬田 6号館 プレゼンルーム	外部講師① 総合コーディネーター	ビジネススキル②	コミュニケーションスキル ・電話応対、来客応対、名刺交換、電子メールなど ・プレゼンテーション技法
第９講	7月2日㈯ 3限目	瀬田 6号館 プレゼンルーム	外部講師② 総合コーディネーター	これからの社会と仕事	「職」の専門家による仕事概論
学生による実習先訪問と担当者インタビュー （7/4 ～ 7/15）					
第10講	7月16日㈯ 1限目	深草 2号館 205 ～ 211	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク④	実習先担当者インタビューや調査を基に ・現代の「職」とはどういうことかをディスカッション ・クラス内でプレゼンテーションと相互評価
第11講	7月16日㈯ 2限目	深草 2号館 205 ～ 211	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク⑤	
第12講	7月16日㈯ 3限目	深草 2号館 205 ～ 211	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク⑥	
第13講	7月23日㈯ 2限目	瀬田 2号館 120	総合コーディネーター	実習直前オリエンテーション	実習にあたっての準備 ・確認 ・注意事項 ・リスクマネジメント等
インターンシップ実習（総合コーディネーター・担当教員による中間指導）					
第14講	9月24日㈯ 1限目	深草 2号館 205 ～ 211	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループワーク①	ゼミ形式によるグループワーク ・グループごとに実習内容の振り返り
第15講	9月24日㈯ 2限目	深草 2号館 205 ～ 211	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループワーク②	
第16講	10月1日㈯ 1限目	深草 2号館 205 ～ 211	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループワーク③	ゼミ形式によるグループワーク ・グループごとに実習内容の振り返り
第17講	10月1日㈯ 2限目	深草 2号館 205 ～ 211	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループワーク④	
第18講	10月8日㈯ 3限目	深草 3号館 202	担当教員 総合コーディネーター	（事後学習グループワーク⑤） 全体報告会	ゼミ形式によるグループワーク ・クラス内で実習成果に関するプレゼンテーション ・相互評価
第19講	10月8日㈯ 4限目	深草 3号館 202	担当教員 総合コーディネーター	（事後学習グループワーク⑥） 全体報告会	

※上記プログラムは変更になることがあります。

学　修　生　活

Ⅰ 窓口事務

窓口取扱時間は次のとおりです。

1．理工学部教務課の窓口取扱時間

曜日等	取扱時間	備考
月、水、木、金	9：00～17：30	ただし、授業期間・試験期間以外の期間は、11:45 ～ 12:45を閉室し、窓口業務は行いません。
火	10：45～17：30	
土、日、祝日並びに大学の定める休業日	窓口業務は行いません。	

2．届書・願書および各種証明書

理工学部教務課窓口で取り扱う届書・願書および各種証明書には次のものがあります。なお、用紙はすべて本学所定のものを使用して下さい。（理工学部教務課窓口で受け取ってください。）

(1) 届書

事　項	添付書類
※保証人変更届	特になし
現住所変更届	特になし
本籍地変更届	住民票記載事項証明書（本籍地記入）
改姓名届	住民票記載事項証明書

（※印のものは、保証人の連署が必要。）

(2) 願書

事　項	添付書類	受付期間
※休学願	理由書または診断書	○1年間・第1学期休学 当該年度の6月30日まで ○第2学期休学 当該年度の12月31日まで
※復学願	理由書	○第1学期復学 前年度3月1日から3月31日まで ○第2学期復学 当該年度9月1日から9月30日まで
※退学願	理由書または診断書、学生証	
追試験受験願	理由書、追試験料納付書、診断書等の証明書	当該科目の試験日を含め4日以内 （土・日・祝日は含まない）

（※印のものは、保証人の連署が必要。）

⑶ 各種証明書の交付申請

各種証明書は、原則として学内に設置している「証明書自動発行機」にて発行いたします。証明書自動発行機を利用する際は、「学生証」と「全学統合認証パスワード」が必要です。

ただし、証明書の種類によっては、証明書自動発行機から発行できない証明書がありますので、その場合は、証明書自動発行機で各種証明書の交付願を出力し、理工学部教務課窓口に提出・交付申請を行ってください。

なお、電話やファクシミリ、電子メールによる証明書の交付申請は一切取り扱っておりませんので、予め留意してください。

各種証明書の交付に必要な日数や手数料は、下表のとおりです。

交付に必要な日数等	証明書の種類	手数料（2007.4.1変更）	備　考
即日交付	在学証明書	1通　100円	左記証明書は証明書自動発行機から直接発行が可能です。
	卒業（修了）証明書		
	卒業（修了）見込証明書		
	学業成績証明書		
	健康診断証明書		
	卒業（修了）・学業成績証明書	1通　200円	
	卒業（修了）見込・学業成績証明書		
	通学証明書（理工学部教務課窓口で受付）	無　料	
	学割証		
2日後交付	単位修得証明書	1通　100円	左記証明書は、証明書自動発行機で交付願を出力し、理工学部教務課窓口に提出してください。
	単位修得見込証明書		
	在籍証明書		
	教育職員免許状取得見込証明書		
	本願寺派教師資格科目履修証明書		
1週間後交付	英文証明書	1通　300円	
	学力に関する証明書	1通　200円	

（注1）交付日は、原則として申請日から交付に要する日数を示します。

（注2）手数料の納金は、すべて証明書自動発行機で行ってください。

（注3）卒業見込に関する証明書は、データ更新等の処理に伴い発行できない期間が生じることがありますので注意してください。詳しくは理工学部掲示板でお知らせします。

（注4）「卒業（見込）証明書」、「学業成績証明書」は、「卒業（見込）・学業成績証明書」という1枚の証明書として交付が可能です。特に分ける必要のない場合、「卒業（見込）・学業成績証明書」で交付を受けてください。

《卒業後の証明書交付申請》

電話による申請は一切受け付けておりません。

本学のホームページ上から「証明書交付願」フォームがダウンロードできます。携帯電話には対応していませんのでご了承ください。

URL　http://www.ryukoku.ac.jp（本学ホームページ）の（訪問者別ガイド）「卒業生の方へ」－「各種手続きについて知りたい」の「各種証明書発行について」－「郵送で申請の場合」からアクセスできます。

① 郵送の場合

郵送による申請は、下記の内容に留意してください。

◆証明書に関して ・必要な証明書の種類と枚数 ・必要な証明書の使用目的 ◆申請者に関して ・氏名（在学時から姓が変わられた方は、旧姓もご記入ください） ・生年月日 ・出身学部、学科名（文学部は専攻名） ・学籍番号 ・卒業年度 ・現住所（郵便番号を含む） ・電話番号	◆同封が必要なもの ・返信用封筒 返信先住所を明記してください。 （返信に必要な切手を貼付してください。） ・手数料 （手数料は同額の切手でも納金できます。）

② 直接、来学する場合

直接、来学して申請する場合は、証明書自動発行機から出力される「証明書交付願」に必要事項を記入の上、理工学部教務課窓口へ申請してください。

⑷ 学校学生生徒旅客運賃割引証（以下、「学割証」）（手数料無料、即日交付）

学割証は、証明書自動発行機から直接発行ができます。ただし、必ず学生証を持参してください。

なお、交付枚数は原則として年度毎に１人10枚、1回の交付枚数は1週間に2枚以内です。※年間10枚を超えて必要な場合は、理工学部教務課窓口で相談してください。

◆ 学割証の使用については、学割証裏面の注意事項を厳守することはもちろん、次の事項に注意してください。

ア．学割証は本人に限って使用できますが、学生証を携帯しない場合は使用できません。

イ．学割証の不正使用を行なった場合は、大学へのペナルティーとして、学割証の交付停止、即交付分の回収がされます。他の学生への不利益が生じますので、不正使用は絶対にやめてください。

ウ．学割証は101km以上の区間を乗車・乗船する場合に使用できます。割引率は普通運賃の2割引、有効期間は発行日から3ヵ月間です。なお、夏・冬期休暇前には学割証の申し込みが集中するので、余裕を持って申し込むようにしてください。

※なお、学生8名以上で（ただし、学生8名の他に教職員（非常勤講師含む）1名以上の引率者を含むことを条件として）旅行する場合は、運賃が5割引（ただし、引率者は3割引）となる制度があります。申込用紙（生協サービス事業部、各主要駅、旅行代理店等で求めてください）を出発日2週間前までに下記窓口に提出の上、手続きすれば即日発行されます。

ゼミナールやクラスの場合……理工学部教務課窓口

クラブやサークルの場合……学生部

3．各種証明書の交付について

各種証明書および申請書の発行申込等には、学生証が必要です。また、手続き方法は、証明書自動発行機で申請書を交付しますので、理工学部教務課窓口にて申請手続きを行ってください。

◆証明書自動発行機の設置場所およびサービス時間等について

学舎	設置場所	曜日	時間帯
深草	21号館1階エントランスホール	月～金	8：45 ～ 21：45
		土	8：45 ～ 17：15
	紫英館1階各学部教務課窓口	月～金	8：45 ～ 17：15 (但し､火曜日は10:30～)
	紫光館1階ロビー	月～土	8：45 ～ 17：15
大宮	西黌（新館）1階ロビー	月～金	8：45 ～ 20：15
		土	8：45 ～ 17：15
瀬田	1号館1階エントランスホール	月～土	9：00 ～ 17：30
大阪･梅田キャンパス	フロア	月～金	10：00 ～ 18：30 就職活動繁忙期は 10：00 ～ 19：00

⚠ 注意事項

・証明書自動発行機を利用するときは、「学生証」と学生個々に与えられる「全学統合認証パスワード」が必要です。

※パスワードは、学内パソコンのログイン用と同じです。新入生は入学時のオリエンテーションで説明します。

・上記サービス時間帯は、原則として学年暦にある講義期間中の対応とします。

・オリエンテーション期間を含む新学期当初の予定、試験期間中、春期・夏期・冬期休暇中の運用時間帯については、サービス時間を変更します。サービス時間は本学ポータル内「証明書発行機運用時間」で公開しています。

・証明書自動発行機から直接発行が可能な証明書の交付および交付願の出力はいずれの学舎の証明書自動発行機でも対応しています。ただし、証明書自動発行機から直接発行ができない証明書については、所定の手続が必要となりますので、各自が所属する理工学部教務課窓口で申請してください。

・学生証の再発行手続が生じた場合、理工学部教務課窓口に申し出てください。証明書自動発行機にて申請書を交付しますので、必要事項を記入の上、理工学部教務課窓口に提出してください。

・証明書自動発行機では、証明書交付以外に各種特別研修講座や就職対策講座などの講座受講申込にも対応しています。その他、手数料が必要な場合も原則として証明書自動発行機にて対応します。

・夜間時間帯および土曜日において､証明書自動発行機に故障が生じた場合や｢買い間違えた｣場合の対応は、翌日もしくは翌月曜日以降となります。

4．裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて

2009年5月施行の「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」(「裁判員法」) に伴い､みなさんが裁判員（候補者）に選任される可能性があります。

「呼出状」が届いて教育上の配慮が必要な場合は、速やかに理工学部教務課に相談してください。

裁判員（候補者）を務める場合は、当該学部長から当該授業科目を授業欠席すること及びそれによる教育上の不利益について授業担当者に配慮を求めることとします。試験については追試で対応することとし、追試料は無料とします。

Ⅱ　授業休止の取り扱い基準

（交通機関の不通、台風等の場合の授業についての取り扱い）

ストライキ等により交通機関が不通となった場合や、台風による暴風警報が発令された場合は、下記の基準に従って下さい。

1．全学休講とする場合

次の(a)(b)どちらの事態が発生した場合でも、その時点でただちに全学休講とします。

(a)　下記のうち、2つ以上の交通機関の運行が中止された場合は、その時点でただちに全学休講とします。対象とする交通機関および区間は次のとおりです。

①ＪＲ　（米原～西明石）
②京都市営バス・京都市営地下鉄（全区間）
③京阪電車　（出町柳～淀屋橋）
④阪急電車　（河原町～梅田、梅田～三宮）
⑤近鉄電車　（京都～橿原神宮前）

※ただし、**瀬田学舎**はJR（京都～米原）または帝産湖南交通（JR瀬田駅～龍谷大学）のいずれか1つの運行が中止された場合も休講とします。

(b)　暴風警報が京都府南部（京都･亀岡、南丹･京丹波、山城中部、山城南部）、大阪府（北大阪、大阪市、東部大阪、泉州、南河内）、滋賀県南部（近江南部、東近江、甲賀）のいずれかの市町村に出された場合、その時点でただちに全学休講とします。

2．授業等の開始基準

交通機関の運行再開および暴風警報解除の場合は、次の基準により授業等を実施します。

運行開始の時刻および警報解除時刻	授業・定期試験開始講時
午前6時まで	1講時から平常どおり実施
午前10時まで	3講時から平常どおり実施
午後2時まで	6講時から平常どおり実施
午後2時以降	終日休講

3．その他の注意事項

(1)　上記以外に、通学不能または通学困難と学長が認めた場合は、全学休講とすることもあります。
(2)　定期試験期間中にこの措置が適用された場合、当該試験に関しては別途掲示により指示します。

Ⅲ　学籍の取り扱い

1．学籍とは

「学籍」とはその学校の在学者としての身分を意味する用語です。学籍は、入学によって発生し、入学は、大学が行った入学許可に対して学生の入学諸手続きが完了することにより成立します。学籍は、卒業により消滅します。

2．学籍簿

⑴　学籍番号

入学と同時に、各個人に記号と数字を組み合わせた７桁の**学籍番号**が与えられます。在学中の学内における事務取扱は、すべてこの学籍番号により処理されます。学籍番号は卒業後も変わらない当人固有の番号であり、本学在学中は身分証明書（学生証）の番号でもありますから、正確に記憶し、記入が必要な場合は省略せずに記入してください。

学籍番号の仕組み

T	１１	0	００１
L：文学部・文学研究科 E：経済学部・経済学研究科 B：経営学部・経営学研究科 J：法学部・法学研究科 **T：理工学部・理工学研究科** C：社会学部・社会学研究科 W：国際文化学部 ・国際文化学研究科 H：政策学部 S：短期大学部 F：法科大学院 M：実践真宗学研究科 R：留学生別科	入学年度（西暦）の下2桁	学生区分（主たる学生区分を記す） 学部生：０～７ 編転入生：８ 再入学生：９ 修士課程：M 博士後期課程：D 研究生：R 短大専攻科生：A 専門職学位課程生：F 科目等特別履修生：U 科目等履修生：V その他（学術研究生）：Z （特別専攻生）：S	学部内における個人番号

このような仕組みになっているので、同姓同名者がいたとしても混同を防ぐ機能を持っています。

ただし、頭のアルファベット（学部をあらわす）が記入されないと、他学部の学生と区別ができませんので注意してください。

⑵　学籍簿

学籍取得により、大学における在学関係を明確にする書類として、**学籍簿**（入学手続き時に各自が提出した書類）が編成されます。学籍簿に記載される事項（本人の現住所、保証人の現住所、学費の請求先等）は、基本的には本人であることの確認に必要な事項に限定されています。これら記載事項に変更が生じたときには直ちに所属の理工学部教務課窓口に届け出て下さい。

3．学生証

学生証は、本学の学生であるという身分を証明するとともに、学生生活での諸手続きに際して本人であることを証明する大切なものです。

⑴ 学生証は常に携帯し、次の場合はこれを提示しなければなりません。
ア　学業成績表を受領するとき。
イ　試験を受けるとき。
ウ　各種証明書の発行を受けるとき。
エ　通学定期乗車券の購入および学割証の交付を受けるとき。
オ　龍谷大学保健管理センターを利用するとき。
カ　図書館を利用するとき。
キ　その他、本人であることを確認することが必要なとき。

⑵ 入学時に交付した学生証は、卒業するまで使用するので、大切に扱って下さい。ただし、在籍を証明する**在籍確認シール**は毎年学年始めに配付します。新しい「在籍確認シール」を受け取ったら、速やかに前年度のシールと貼り替えてください。（新入生は、住所欄に現住所を正確に記入し、学生証の指定された場所に各自貼ってください。）
なお、シールを重ねて貼ると、カードに登録されている情報が認識されず、図書館に入館できないなどのトラブルが発生することがあります。必ず、前年度のシールと貼り替えてください。また、該年度の「在籍確認シール」が貼られていない学生証は無効として取り扱いますので注意してください。

⑶ 学生証の記載事項に変更が生じた場合は、速やかに理工学部教務課窓口にその内容を届け出てください。

⑷ 学生証を破損または紛失した場合は、直ちに理工学部教務課窓口へ届け出てください。届け出は所定の「学生証再交付願」（紛失・破損届）に必要事項を記入・捺印のうえ提出してください。なお、紛失した場合は、直ちに最寄りの警察署（交番）に紛失届等の提出をしてください。

⑸ 学生証の再交付については、1,000円の手数料が必要です。証明書自動発行機より学生証再交付願を出力できますので、所定の手続きを理工学部教務課窓口にて行ってください。また、学生証の再交付には、2日以上を要するので注意してください。

⑹ 学生証を折り曲げたり汚したり磁気に近づけたりしないでください。

⑺ 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。

⑻ 卒業・退学の場合または有効期限が過ぎた学生証は、速やかに理工学部教務課窓口に返納してください。

4．学籍の喪失

卒業以外の事由で学籍を喪失（本学の学生でなくなること）する場合としては、**退学**と**除籍**の2種類があり、さらに退学はその内容により依願退学と懲戒退学に区分されます。

⑴ **退学**
① 依願退学
依願退学は、学生自身の意志により学籍を喪失（本学の学生でなくなること）することです。依願退学は、学生の意志によるものであるから、何時でも願い出ることはできますが、公的教育機関との関係であり、次の諸手続きが必要です。

ア　大学所定の書式により、退学理由を明記し、保証人と連署により願い出てください。
イ　当該学期分の学費を納入していること。（学費の納入と学籍の取得は、対価関係にあり、学費の納入の無い者は本学学生と見なすことができず、したがって退学を願い出る資格もありません。なお、学期当初に退学する場合は、学部で個別に対応をしているので相談してください。）
　また、休学期間中の者も退学を願い出ることができますが、除籍となった者は、退学を願い出ることはできません。

②　懲戒退学

懲戒退学は、学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した場合、その内容、軽重等を考慮し、別に定める学生懲戒規程により、在学契約を解消することです。

⑵　除籍

「懲戒」という概念になじまない事由であっても、大学が一方的に在学契約を解消する必要のある場合があります。このため本学ではこれを**除籍**として処理しています。しかし、除籍といえども本学学生としての身分を失う点では、懲戒退学と同じ結果となるので、その事由は学則により明記されています。

本学学則において定められている除籍の事由は、次のとおりです。
ア　定められた期間に所定の学費を納入しないとき。
イ　在学し得る年数（通常の場合は8年間）以内に卒業できないとき。
ウ　休学期間を終えても復学できないとき。

なお、死亡の場合も除籍とします。

５．休学と復学

学生が疾病またはその他の事情により、3ケ月以上修学を中断しようとするときは、**休学**を願い出ることができます。

⑴　休学の願出

休学には、次の諸手続きが必要です。
ア　大学所定の書式により願い出ること。
イ　休学の必要性を証明する書類（診断書等）を添付すること。
ウ　保証人と連署で願い出ること。

⑵　休学期間

ア　休学期間は、1学年間または1学期間のいずれかです。
　1年間あるいは第1学期（前期）休学希望者は6月30日まで、第2学期（後期）休学希望者は12月31日までに理工学部教務課窓口に大学所定の書類を提出してください。
イ　休学期間の延長の必要がある場合は、さらに1学年間または1学期間の休学期間の延長を願い出ることができます。
ウ　休学期間は連続して2年、通算して4年を越えることはできません。

⑶　休学中の学費

休学者は、学費として休学する学期の休学在籍料を納入しなければなりません。

⑷　復学の願い出

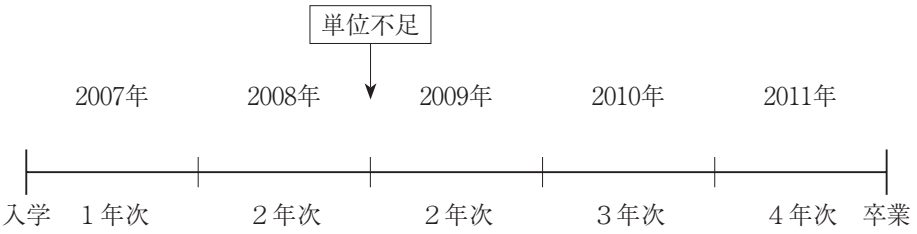
休学者の休学事由が消滅したときは、願い出により復学することができます。復学できる時期は、教

育課程編成との関係で、学期の始め（第1学期（前期）または第2学期（後期）の開始日）に限定されています。したがって、復学の願い出は、学期開始日の前1ヵ月以内にしなければなりません。

6．年次

理工学部では原級制度を実施するため所定の要件を満たしていなければ進級できません。
この場合「年次」の進行は原年次復帰方式とします。
学籍異動上は次のような扱いになります。

例）2008年度を留年（留年異動日2009年4月1日）



7．再入学

⑴　学則第19条により退学した者が再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次またはそれ以下の年次に入学を許可することがあります（学則第14条）。ただし、再入学を願い出たときが、退学した年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。

⑵　学則第20条第1項第1号により除籍された者が再び入学を願い出たときは、原年次に入学を許可することがあります（学則第14条第2項）。ただし、再入学を願い出たときが除籍された年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。

⑶　休学期間の満了するまでに退学を願い出て許可された者は、再入学を願い出ることができます。

⑷　再入学を願い出る時は、学費等納入規程に定める受験料を納め、所定の期間内に手続きをしなければなりません。なお、出願期間、出願書類等については入試部に問い合わせて下さい。

8．編入学・転入学

本学の他学部（学科・専攻）、他大学への編入学・転入学をすることになった場合は、その旨を理工学部教務課窓口に速やかに報告してください。
なお、本学学内での編入学・転入学に関する学則は以下のとおりです。

⑴　本学の第3年次および第2年次に転入学または編入学を希望する者については選考の上これを許可することがある。（学則第13条）
⑵　入学志願者は、所定の書式にしたがい、入学願書、履歴書および修学証明書を提出しなければならない。（学則第15条）
⑶　他の大学へ転学を希望する学生は、学長に願い出てその許可を受けなければならない。（学則第18条の3）

９．９月卒業について

第1学期（前期）末（9月末日）で卒業要件（修得単位・在学期間）を充足することとなる学生が、9月末日付にて卒業認定を受けることを希望する場合には、9月30日付で卒業の認定を受けることができます。（要件充足者について、自動的に卒業認定を行うことはありません。）詳細については理工学部教務課窓口に相談して下さい。

Ⅳ　留学

龍谷大学には、国際的な社会に貢献できる人材の育成を目的として、学生の海外派遣を積極的に推進するため、以下のような留学制度があります。

経済、社会、文化、政治などあらゆる局面で国際的な相互依存関係が深まっている現在、海外の大学での学修、文化交流を通して広い視野と柔軟な発想を学ぶことは、みなさんにとって有意義な経験となることでしょう。

詳しくは、国際部（深草学舎6号館1階）、国際文化学部教務課（瀬田学舎3号館1階）で配布している「留学ガイド」や国際センターホームページ（URL　http://intl.ryukoku.ac.jp）を参考にしてください。

1．交換留学

交換留学とは、学術研究および国際理解の発展のために海外の大学と学生交換協定を締結し、学費の免除や奨学金を受けて留学する制度です。この協定に基づき、原則として毎年同じ人数の学生を派遣・受入しています。

留学期間は原則1年間で、その期間、龍谷大学の学費免除（ただし、留学在籍料は必要※、留学先大学の学費免除、宿舎費免除や奨学金支給等（ただし、条件は大学により異なります）の特典が受けられます。

募集案内、応募方法などは、国際部、国際文化学部教務課（瀬田学舎3号館1階）で配布している「留学ガイド」や国際センターホームページを参照ください。

「学生交換協定校（19カ国40大学・学部）」

地域	留　学　先		応募方法
アジア	中　国	復旦大学、上海師範大学、同済大学、中国人民大学､大連外国語大学､大連外国語大学日本語学院（経営）	国際部にて募集し、語学試験および面接によって選考します。応募締切日は各募集大学によって異なります。
	台　湾	台湾師範大学、東海大学	
	韓　国	東国大学、東亞大学	
	タ　イ	チュラロンコン大学、アサンプション大学	
北米	アメリカ	カリフォルニア州立大学ノースリッジ校、アンティオークカレッジ、南ミズーリ州立大学、米国仏教大学院、カリフォルニア大学デービス校（理工学研究科）、東テネシー州立大学、アイダホ大学、アリゾナ州立大学、ハワイ大学マノア校	
	カナダ	キングス・ユニバーシティ・カレッジ、カルガリー大学、クワントレン・ポリテクニック大学、ヒューロン・ユニバーシティ・カレッジ	
オセアニア	オーストラリア	ＲＭＩＴ大学、マードック大学	
ヨーロッパ	ロシア	モスクワ大学アジア･アフリカ学院	
	ウクライナ	キエフ大学	
	ポーランド	ワルシャワ経済大学	
	イギリス	リバプール・ジョン・ムアーズ大学	
	ドイツ	デュースブルグ・エッセン大学	
	フランス	リヨン第３大学	
	フィンランド	東フィンランド大学（旧ヨエンスゥ大学）	
	スウェーデン	リネウス大学（旧ベクショー大学）	
	デンマーク	オーフス大学	
	スペイン	バルセロナ自治大学、バレンシア大学	
	スロバキア	コメンスキー大学	
アフリカ	南アフリカ	クワズール・ナタール大学	

※留学先大学の都合により条件が変更になる場合や募集を行わない場合がありますので、国際センターホームページ（URL　http://intl.ryukoku.ac.jp）の情報を確認してください。

2．BIE Program留学

BIE Program（Berkeley Internship and English Program）は、龍谷大学のRyukoku University Berkeley Center（アメリカ･バークレー）を利用した本学独自の留学プログラムです。英語学習､インターンシップ（ボランティア活動）、講義を組みあわせたプログラムで5-week（5週間）とsemester（半年間）の2つのプログラムが年間2本ずつ（合計4本）あります。

留学期間は在学期間に算入され、5-weekプログラムは学部最大6単位、semesterプログラムは学部最大18単位まで認定可能です。

	留学期間	募集時期
5-week summer program	8月上旬～9月下旬	4月下旬～5月中旬
5-week spring program	2月中旬～3月下旬	10月中旬～10月下旬
Fall semester program	10月上旬～2月中旬	5月中旬～5月下旬
Spring semester program	3月下旬～7月上旬	11月中旬～11月下旬

3．私費留学

各自で留学したい大学を探し、大学から承認を得て留学する方法で、龍谷大学から毎年多くの学生が私費留学をしています。

この留学は交換留学と同じく、留学期間は在学期間に算入され、取得した単位は単位認定の対象となります。

交換留学と大きく異なる点は、留学先大学の学費や寮費等が自己負担であること。また、留学手続き等は各自で行うことです。手続前に各学部教務課や指導教員と相談してください。

4．個人留学（休学して留学する）

大学を休学した場合、留学先で勉強した期間は在学期間には算入されません。また、単位の認定も行われません。1年間（ないし半年間）海外の専門語学学校で語学をみっちり勉強したいという学生や、ワーキングホリデーをしてみたい、海外でボランティアをしてみたいという学生がよく利用する方法です。

5．短期留学

カリキュラムやクラブ活動の関係で長期間、大学を離れることができない学生には、夏期休暇や冬期休暇を利用した短期留学がお勧めです。

龍谷大学では、これら長期休暇を利用した語学研修や異文化体験等のプログラムを設けています。（各プログラムの開講は年度によって異なります。）

詳細は国際部、所属学部教務課、教学部（学部共通コース）に問い合わせてください。

Ⅴ 通学について（自転車・バイク・自動車）

1．自動車通学の禁止

本学では、自動車による通学を全面的に禁止しています。これは交通事故の防止、大学周辺環境の維持などの理由からです。

しかしながら、禁止しているにも関わらず、キャンパス近隣の公共施設駐車場等に駐車し、自動車通学する学生が後を絶ちません。これらは社会のルールに反するもので、大学の名誉を著しく傷つける行為です。

迷惑駐車により、地域住民や近隣施設からの苦情も受けています。

この様な自動車通学が判明した場合には、保護者への連絡、ゼミ担当教員等からの指導の上、厳しく処分することとしています。学生諸君の節度ある行動を強く求めます。

2．バイク・自転車通学

バイク・自転車は、多くの学生が利用しています。しかし、最近通学途上においてバイク・自転車の交通事故・接触事故等が多発しています。

また、「バイク・自転車が、狭い生活道路を、スピードを出して通行しているので大変危険！」等の苦情が近隣住民から多数寄せられています。大学までの通学途中には、小学校や保育園等があり、その保護者からも心配する声が寄せられています。

交通ルールを逸脱した悪質な運転は、「道路交通法」に基づき厳重な処罰の対象となります。交通事故による悲劇や地域住民への迷惑を回避するためにも交通ルール・マナーの遵守を徹底し、安全運転を心がけてください。

3．バイク・自転車の駐輪

バイク・自転車は必ず構内の指定された場所に駐輪してください。構内の建物周辺や路上等に長時間放置しているバイク･自転車は、駐輪場に掲示の「駐輪場利用要領」に基づき、一定期間保管の後、処分します。

また、「駐輪場利用要領」に定めるとおり、駐輪場内での事故・盗難および破損等について大学は一切関与致しません。確実な施錠はもちろんのこと、ふたつ以上の施錠（ツーロック）により盗難防止効果が向上します。各自の責任で被害に遭わないよう十分注意してください。

4．マナーアップキャンペーンについて

学生生活におけるマナー向上促進のため､毎年定期的に「マナーアップキャンペーン」を実施しています。この様な機会を積極的に利用して、バイク・自転車通学における交通マナーアップに努め、安全な学生生活を心がけることを望みます。

5．自動車の臨時入構許可について

自動車による通学を全面的に禁止していますが、以下のような理由がある時は、例外として許可することがありますので、必要な場合は必ず事前に相談してください。

① 夜間にまで及ぶ研究等で、公共交通機関の利用が困難な場合 → 所属学部
② 長期間の疾病や障がいなどにより、公共交通機関の利用が困難な場合 → 所属学部
③ 大学行事やクラブ活動のため、資材等を運搬するのに必要な場合 → 学生部

許可なく入構した場合は、厳重に処分する対象となりますので、必要な事情がある場合には、必ず事前に相談してください。

教養教育科目（共同開講科目）（基礎科目）

教養教育科目（共同開講科目）（総合科目）

学部内共通科目

学科固有科目

教職課程科目

本願寺派教師資格課程科目

シラバス

教養教育科目（共同開講科目）（基礎科目）

教養教育科目（共同開講科目）（総合科目）

学部内共通

学科固有

<環境ソリューション工学科>

教職課程

本願寺派教師課程

最新の情報や、詳細情報は Web シラバスをご確認ください。

教養教育科目（共同開講科目）

（基　礎　科　目）

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
エ	英語ＩＡ	クラス・開講曜講時による			91
	英語ＩＢ	クラス・開講曜講時による			91
	英語ⅡＡ	クラス・開講曜講時による			92
	英語ⅡＢ	クラス・開講曜講時による			92
	英語Ⅲ	クラス・開講曜講時による			93
	英語Ⅳ	クラス・開講曜講時による			93
	英語セミナーＡ１	宇野　誠一	前期	月１	94
	英語セミナーＡ１	宇野　誠一	前期	月２	94
	英語セミナーＡ１	ワード　ジョン	前期	水１	95
	英語セミナーＡ１	ワード　ジョン	前期	水２	95
	英語セミナーＡ２	宇野　誠一	後期	月１	96
	英語セミナーＡ２	宇野　誠一	後期	月２	96
	英語セミナーＡ２	ワード　ジョン	後期	水１	97
	英語セミナーＡ２	ワード　ジョン	後期	水２	97
	英語セミナーＢ１	五十嵐　海理	前期	金２	98
	英語セミナーＢ２	五十嵐　海理	後期	金２	99
	英語セミナーＣ１	音羽　レベッカ	前期	水２	100
	英語セミナーＣ１	音羽　レベッカ	前期	水３	101
	英語セミナーＣ１	イエニク・Ｓ・Ｃ	前期	水３	102
	英語セミナーＣ１	イエニク・Ｓ・Ｃ	前期	金２	102
	英語セミナーＣ２	音羽　レベッカ	後期	水２	103
	英語セミナーＣ２	音羽　レベッカ	後期	水３	104
	英語セミナーＣ２	ワード　ジョン	後期	水３	105
	英語セミナーＤ１	大槻　志郎	前期	水２	106
	英語セミナーＤ２	大槻　志郎	後期	水２	107
	英語セミナーＥ１	西山　けい子	前期	水２	108
	英語セミナーＥ２	西山　けい子	後期	水２	108
キ	教育原論Ａ	井谷　信彦	前期	月１	109
	教育原論Ａ	田中　圭治郎	前期	月２	109
	教育原論Ｂ	藤井　奈津子	後期	月１	110
	教育原論Ｂ	田中　圭治郎	後期	月２	110
ケ	経済学入門	キグリチュ　イシュトヴァーン	前期	月１	111
	経済学入門	長命　洋佑	前期	木３	111
	経済学入門	李　復屏	後期	月１	112
	経済学入門	李　復屏	後期	月３	112
	言語学入門	泉　文明	前期	月３	113
	言語学入門	磯江　源	前期	木３	113
コ	コリア語ＩＡ	孫　才喜	前期	水３	114
	コリア語ＩＢ	孫　才喜	後期	水３	114
	コリア語ＩＣ	朴　炫国	前期	木３	115
	コリア語ＩＤ	朴　炫国	後期	木３	115
	コリア語セミナーＡ	金　里博	前期	水３	116
	コリア語セミナーＢ	金　里博	後期	水３	116
シ	社会学入門	高橋　由典	前期	月１	117
	社会学入門	高橋　由典	後期	月１	117
	社会思想史入門	村澤　真保呂	前期	水２	118
	社会思想史入門	村澤　真保呂	後期	水２	118
	心理学入門	破田野　智美	前期	月１	119
	心理学入門	関口　茂久	前期	月３	119
ス	スポーツ技術学Ａ	種目・開講曜講時による	学科により異なる		120
	スポーツ技術学Ｂ	種目・開講曜講時による	学科により異なる		120
セ	生活の中の化学	中沖　隆彦／糟野　潤	後期	木３	121
	生活の中の数学	山岸　義和／國府　宏枝	前期	水３	121
	生活の中の統計技術	阪井　一繁	前期	月３	122
	生活の中の物理	石崎　俊雄	後期	月１	123
	政治学入門	山崎　充彦	前期	木３	124
	政治学入門	山崎　充彦	後期	木３	125
	生命と科学	宮武　智弘	前期	金１	126

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
チ	中国語ＩＡ	張　健同	前期	月１	126
	中国語ＩＡ	李　愛華	前期	水３	127
	中国語ＩＢ	張　健同	後期	月１	127
	中国語ＩＢ	李　愛華	後期	水３	128
	中国語ＩＣ	韓　正愛	前期	水３	128
	中国語ＩＣ	張　健同	前期	水３	129
	中国語ＩＣ	張　健同	前期	水４	129
	中国語ＩＤ	韓　正愛	後期	水３	130
	中国語ＩＤ	張　健同	後期	水３	130
	中国語ＩＤ	張　健同	後期	水４	131
	中国語セミナーＡ	李　愛華	前期	水１	131
	中国語セミナーＢ	李　愛華	後期	水１	132
テ	哲学入門	鷲見　淳之	前期	月３	132
	哲学入門	渡邊　華月	前期	水３	133
	哲学入門	鷲見　淳之	後期	月３	133
	哲学入門	渡邊　華月	後期	水３	134
ト	ドイツ語ＩＡ	呉　春吉	前期	月３	134
	ドイツ語ＩＡ	松口　春美	前期	水４	135
	ドイツ語ＩＢ	呉　春吉	後期	月３	135
	ドイツ語ＩＢ	松口　春美	後期	水４	136
	ドイツ語ＩＣ	松口　春美	前期	水３	136
	ドイツ語ＩＣ	永井　達夫	前期	水４	137
	ドイツ語ＩＤ	松口　春美	後期	水３	137
	ドイツ語ＩＤ	永井　達夫	後期	水４	138
	ドイツ語セミナーＡ	青山　豊	前期	金２	138
	ドイツ語セミナーＢ	永井　達夫	後期	水３	139
	統計入門	李　復屏	前期	月１	139
	統計入門	長命　洋佑	後期	木３	140
ニ	日本国憲法	時本　義昭	前期	木３	140
	日本国憲法	時本　義昭	後期	月１	141
	日本国憲法	時本　義昭	後期	月３	141
	日本国憲法	時本　義昭	後期	木３	142
ハ	発達と教育Ａ	織田　涼	前期	水１	142
	発達と教育Ａ	織田　涼	前期	水２	143
	発達と教育Ｂ	織田　涼	後期	水１	143
	発達と教育Ｂ	織田　涼	後期	水２	144
フ	フランス語ＩＡ	瓜生　濃世	前期	水３	144
	フランス語ＩＢ	瓜生　濃世	後期	水３	145
	フランス語ＩＣ	森部　卓	前期	月２	145
	フランス語ＩＣ	嶋崎　陽一	前期	月３	146
	フランス語ＩＣ	森部　卓	前期	木３	146
	フランス語ＩＤ	森部　卓	後期	月２	147
	フランス語ＩＤ	嶋崎　陽一	後期	月３	147
	フランス語ＩＤ	森部　卓	後期	木３	148
	フランス語セミナーＡ	嶋崎　陽一	前期	木４	148
	フランス語セミナーＢ	嶋崎　陽一	後期	木４	149
	仏教の思想Ａ	大谷　由香	前期	水１	153
	仏教の思想Ｂ	大谷　由香	後期	水１	155
	文学入門	大槻　志郎	前期	水３	156
	文学入門	嶋崎　陽一	後期	月２	156
	文学入門	坂本　輝世	後期	水４	157
ホ	法学入門	時本　義昭	前期	月１	157
	法学入門	時本　義昭	前期	月３	158
リ	倫理学入門	菊地　建至	前期	水３	159
レ	歴史入門	西村　昌洋	前期	水３	160
	歴史入門	佐野　東生	後期	金２	160
ロ	論理学入門	中谷　隆雄	前期	月３	161
	論理学入門	中谷　隆雄	後期	月３	161

英語ＩA

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト
担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
講義時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
講義時に指示。

英語ＩB

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト
担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
講義時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
講義時に指示。

英語ⅡA

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。英語Ⅰでの基礎力確認に積み上げる形で、さらに基礎力の向上をはかる。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または、視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況等を総合的に評価する。学年末に共通テストを実施し、その結果を評価の一部に組み入れる。

■テキスト
担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
講義時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
講義時に指示。

英語ⅡB

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。英語Ⅰでの基礎力確認に積み上げる形で、さらに基礎力の向上をはかる。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況等を総合的に評価する。学年末に共通テストを実施し、その結果を評価の一部に組み入れる。

■テキスト
担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
講義時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
講義時に指示。

英語Ⅲ

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。英語Ⅰ・Ⅱで培った基礎力をもとに四技能をいっそう伸ばし、専門科目の学習につなげようとするものである。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文など）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または、視聴覚機器の使用などの形式をとる。授業によってはCALL教室を使って語学ソフトやインターネットなどを利用することもある。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト
担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
講義時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
講義時に指示。

英語Ⅳ

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。英語Ⅰ・Ⅱで培った基礎力をもとに四技能をいっそう伸ばし、専門科目の学習につなげようとするものである。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文など）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または、視聴覚機器の使用などの形式をとり、授業によっては、CALL教室を使って語学ソフトやインターネットなどを利用することもある。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況等を総合的に評価する。学年末に共通テストを実施し、その結果を評価の一部に組み入れる。

■テキスト
担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
講義時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
講義時に指示。

英語セミナーＡ１

【担当】宇野　誠一
【開講】前期　月１

■サブタイトル
TOEIC対策セミナー
■講義概要
この授業ではTOEICに必要とされる技能を高める。またTOEICのみならず、英語の総合的な能力向上を最大の課題とする。
■到達目標
１年間を通して各自が到達目標を持つこと。具体的には最低100点のアップを期待する。
■講義方法
毎回テキストに沿ってポイントを明確にして授業を行う。TOEIC本番のテストの気持ちで受けていただきたい。
■成績評価の方法
平 常 点（70%） Participationが含まれる。
定期試験（30%） 最終授業日に行う。（In Class Test）
■テキスト
Junichi Uchida 『English Trainer for the TOEIC Test』
朝日出版　2000円
■参考文献
宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかに負けるな』
化学同人　2200円

■講義計画
①オリエンテーション
②Text 1
③Text 2
④Text 3
⑤Text 4
⑥Text 5
⑦Text 6
⑧Text 7
⑨Text 8
⑩Text 9
⑪Text 10
⑫Text 11
⑬Text 12
⑭In class Final Exam

英語セミナーＡ１

【担当】宇野　誠一
【開講】前期　月２

■サブタイトル
TOEIC対策セミナー
■講義概要
この授業ではTOEICに必要とされる技能を高める。またTOEICのみならず、英語の総合的な能力向上を最大の課題とする。
■到達目標
１年間を通して各自が到達目標を持つこと。具体的には最低100点のアップを期待する。
■講義方法
毎回テキストに沿ってポイントを明確にして授業を行う。TOEIC本番のテストの気持ちで受けていただきたい。
■成績評価の方法
平 常 点（70%） Participationが含まれる。
定期試験（30%） 最終授業日に行う。（In Class Test）
■テキスト
Junichi Uchida 『English Trainer for the TOEIC Test』
朝日出版　2000円
■参考文献
宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかに負けるな』
化学同人　2200円

■講義計画
①オリエンテーション
②Text 1
③Text 2
④Text 3
⑤Text 4
⑥Text 5
⑦Text 6
⑧Text 7
⑨Text 8
⑩Text 9
⑪Text 10
⑫Text 11
⑬Text 12
⑭In class Final Exam

英語セミナーＡ１

【担当】ワード　ジョン
【開講】前期　水１

■サブタイトル
TOEIC Listening skills and strategies
■講義概要
Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing Students' English ability and giving students the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.
■到達目標
The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.
■講義方法
We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.
■成績評価の方法
その他（100%）　Class Participation. Homework. Quizzes.
■テキスト
『TOEIC（R）Preparation Book Volume 3』
■参考文献
『The Institute for Business Communication（IIBC)』
■履修上の注意・担当者からの一言
Students will need an electronic or paper dictionary which gives English explanations of vocabulary as well as examples of how to use the words.
■講義計画
１回～ 14回を通じて以下の内容を学修する。
1）Introduction to the TOEIC test
2）Describing Photographs
3）Questions and Responses
4）Short Conversations
5）Short Talks
6）Incomplete Sentences
7）Text Completion
8）Reading Comprehension
9）Mock Test

英語セミナーＡ１

【担当】ワード　ジョン
【開講】前期　水２

■サブタイトル
TOEIC Listening skills and strategies
■講義概要
Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing Students' English ability and giving students the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.
■到達目標
The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.
■講義方法
We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.
■成績評価の方法
平 常 点（50%）
小テスト（25%）
そ の 他（25%）　Homework.
■テキスト
『TOEIC（R）Preparation Book Volume 3』
■参考文献
『The Institute for Business Communication（IIBC)』
■履修上の注意・担当者からの一言
Students will need an electronic or paper dictionary which gives English explanations of vocabulary as well as examples of how to use the words.
■講義計画
１回～ 14回を通じて以下の内容を学修する。
1）Introduction to the TOEIC test
2）Describing Photographs
3）Questions and Responses
4）Short Conversations
5）Short Talks
6）Incomplete Sentences
7）Text Completion
8）Reading Comprehension
9）Mock Test

英語セミナーＡ２

【担当】宇野　誠一
【開講】後期　月１

■サブタイトル
TOEIC対策セミナー
■講義概要
前期同様にTOEICに必要とされる能力の向上を後期においてもはかる。後期は特に、LIsteningを重点的におこなう。
■到達目標
各自が明確なゴール（到達目標）を持つように願う。
■講義方法
毎週テキストに従って授業を進めていく。毎クラス、その日のポイントを明確ににして教えていく。
■成績評価の方法
平 常 点（70%） Participationが含まれる。
定期試験（30%） 最終授業日に行う。（In Class Test）
■テキスト
MIkako Fujioka, Christopher Belton 『Listening Strategies for the TOEIC Test』 CENGAGE Learning 2000円
■参考文献
宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかに負けるな』化学同人 2200円
■講義計画
①オリエンテーション
②Unit 1
③Unit 2
④Unit 3
⑤Unit 4
⑥Unit 5
⑦Unit 6
⑧Unit 7
⑨Unit 8
⑩Unit 9
⑪Unit 10
⑫Unit 11
⑬Unit 12
⑭In Class Final Test

英語セミナーＡ２

【担当】宇野　誠一
【開講】後期　月２

■サブタイトル
TOEIC対策セミナー
■講義概要
前期同様にTOEICに必要とされる能力の向上を後期においてもはかる。後期は特に、LIsteningを重点的におこなう。
■到達目標
各自が明確なゴール（到達目標）を持つように願う。
■講義方法
毎週テキストに従って授業を進めていく。毎クラス、その日のポイントを明確ににして教えていく。
■成績評価の方法
平 常 点（70%） Participationが含まれる。
定期試験（30%） 最終授業日に行う。（In Class Test）
■テキスト
MIkako Fujioka, Christopher Belton 『Listening Strategies for the TOEIC Test』 CENGAGE Learning 2000円
■参考文献
宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかに負けるな』化学同人 2200円
■講義計画
①オリエンテーション
②Unit 1
③Unit 2
④Unit 3
⑤Unit 4
⑥Unit 5
⑦Unit 6
⑧Unit 7
⑨Unit 8
⑩Unit 9
⑪Unit 10
⑫Unit 11
⑬Unit 12
⑭In Class Final Test

英語セミナーＡ２

【担当】ワード　ジョン
【開講】後期　水１

■サブタイトル
TOEIC Listening skills and strategies
■講義概要
Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing Students' English ability and giving students the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.
■到達目標
The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.
■講義方法
We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.
■成績評価の方法
平 常 点（50%）
小テスト（25%）
そ の 他（25%）　Homework.
■テキスト
『TOEIC（R）Preparation Book Volume 3』
■参考文献
『The Institute for Business Communication（IIBC）』
■履修上の注意・担当者からの一言
Students will need an electronic or paper dictionary which gives English explanations of vocabulary as well as examples of how to use the words.
■講義計画
１回～ 14回を通じて以下の内容を学修する。
1）Introduction to the TOEIC test
2）Describing Photographs
3）Questions and Responses
4）Short Conversations
5）Short Talks
6）Incomplete Sentences
7）Text Completion
8）Reading Comprehension
9）Mock Test

英語セミナーＡ２

【担当】ワード　ジョン
【開講】後期　水２

■サブタイトル
TOEIC Listening skills and strategies
■講義概要
Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing Students' English ability and giving students the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.
■到達目標
The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.
■講義方法
We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.
■成績評価の方法
平 常 点（50%）
小テスト（25%）
そ の 他（25%）　Homework.
■テキスト
『TOEIC（R）Preparation Book Volume 3』
■参考文献
『The Institute for Business Communication（IIBC）』
■履修上の注意・担当者からの一言
Students will need an electronic or paper dictionary which gives English explanations of vocabulary as well as examples of how to use the words.
■講義計画
１回～ 14回を通じて以下の内容を学修する。
1）Introduction to the TOEIC test
2）Describing Photographs
3）Questions and Responses
4）Short Conversations
5）Short Talks
6）Incomplete Sentences
7）Text Completion
8）Reading Comprehension
9）Mock Test

英語セミナーＢ１

【担当】五十嵐　海理
【開講】前期　金２

■サブタイトル
時事英語

■講義概要
時事英語とは、マスコミの英語のこと。主にアメリカやイギリスの新聞記事、雑誌記事、テレビ番組、ラジオ番組で使われる英語を指します。この授業では、英米の新聞やテレビでふつうに流れる英語に慣れていきます。
マスコミは万人向けです。したがって、アメリカやイギリスの普通の人たちの今の関心・興味が、彼らが容易に理解できる英語で、書かれています。日本人学習者にとっては、時事英語は語彙レベルが高いと感じられるかもしれませんが、逆にいえば、英語母語話者の日常の書き言葉としての英語はこのくらいのレベルなので、そこまでの語彙が十分理解できるようになれば、他の英語で書かれた文章も理解できる部分が広がることでしょう。
テキストはニューヨークタイムズの記事を集めたものを使います。また、テキスト以外に、ふつうの英字新聞やビデオクリップなどを利用することもあります。

■到達目標
時事英語に慣れることを目標とします。とくに語彙をたくさん覚えてもらうことを目標とします。

■講義方法
ふつうの英語の授業と同じように、次のように考えています。
(1) 本文のリスニング
(2) 本文の精読（ときに速読も）
(3) 本文のまとめ
(4) テストなど
(5) リスニングテスト

■成績評価の方法
平 常 点（40%）　授業中の受け答えです。
小テスト（20%）　語彙力を問う小テストを行いたいと思います。
定期試験（40%）　学期末試験を行います。
成績評価の方法については変更することがあります。

■テキスト
Kita, R., and K. Adams 『Trends in Transition』 英宝社　2000円
このほかにも、適宜、話題のニュースを記事や放送の形で見ることにします。

■参考文献
『The Daily Yomiuri』
『The Japan Times』
日本で発行されている英字新聞を利用しない手はありません。とくに、The Daily Yomiuriは、読売新聞と社説を共有していますから、日本語と英語で対照しながら読めます。そのほか、教室で指示します。

■履修上の注意・担当者からの一言
予習をしてきてください。予習ができないときは、せめて復習してください。また、講義計画は変更される場合があります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業中にお知らせします。

■講義計画
①時事英語の特徴について確認しながら、精読していきます。
②環境についての記事１
③同上
④同上
⑤環境についての記事２
⑥同上
⑦同上
⑧社会における価値観についての記事１
⑨同上
⑩同上
⑪社会における価値観についての記事２
⑫同上
⑬同上
⑭社会における価値観についての記事３
⑮同上
⑯前期末試験

英語セミナーＢ２

【担当】五十嵐　海理
【開講】後期　金２

■サブタイトル
時事英語

■講義概要
時事英語とは、要するにマスコミの英語のこと。主にアメリカやイギリスの新聞記事、雑誌記事、テレビ番組、ラジオ番組で使われる英語を指します。この授業では時事英語に慣れていきます。
　マスコミは万人向けです。したがって、アメリカやイギリスの普通の人たちの今の関心・興味が、彼らが容易に理解できる英語で、書かれています。
　日本人学習者にとっては、時事英語は語彙レベルが高いと感じられるかもしれませんが、逆にいえば、英語母語話者の日常の書き言葉としての英語はこのくらいのレベルなので、そこまでの語彙が十分理解できるようになれば、他の英語で書かれた文章も理解できる部分が広がることでしょう。
　テキストはニューヨークタイムズの記事を集めたものを使います。また、テキスト以外に、ふつうの英字新聞やビデオクリップなどを利用することもあります。

■到達目標
時事英語に慣れること、とくに語彙をたくさん覚えてもらうことを目標とします。

■講義方法
ふつうの英語の授業と同じように、次のように考えています。
(1) 本文のリスニング
(2) 本文の精読（ときに速読も）
(3) 本文のまとめ
(4) テストなど
(5) リスニングテスト

■成績評価の方法
平 常 点（40%） 授業中の受け答えです。
小テスト（20%） 語彙力を問う小テストを行います。
定期試験（40%） 定期試験です。
成績評価の方法は変更することがあります。

■テキスト
Kita, R., and K. Adams 『Trends in Transition』 英宝社 2000円
テキストは前期からの継続使用です。講義計画は変更される可能性があることをご理解ください。
また、途中でテキストを読み終わってしまった場合は、ネットで記事を入手して読んでいきます。TIMEやNEWSWEEKのような報道系の雑誌の記事を読んだり、BBCの放送を見たりしたい、と思います。

■参考文献
『The Wall Street Journal』
『The Guardian』
『The Independent』
アメリカの高級紙の中でも経済よりの記事が多いウォールストリートジャーナルを図書館などで見てみてください。世界の金融の中心地でどんなことを知りたがっているか、知ることができます。イギリスの新聞、ガーディアンとインディペンデントは政治的態度が異なるので、比べてみてください。
その他、授業中に指示します。

■履修上の注意・担当者からの一言
予習をしてきてください。予習が出来なかったときは、せめて復習してください。また、4回欠席で期末試験の成績がゼロ点になりますので、気をつけてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
必要があれば指示します。

■講義計画
①テキストを前提とせずに、英語の新聞記事を使って、時事英語の特徴などをお話しします。また、授業のやり方を説明します。この回に欠席すると、皆さんには不利益になります。
②食糧問題の記事１（これ以降、すべてに言えることですが、前期での進捗状況によって、開始すべきユニットが変更になる場合がありますので、ご了承ください。）
③同上
④同上
⑤食糧問題の記事２
⑥同上
⑦同上
⑧教育についての記事１
⑨同上
⑩同上
⑪教育についての記事２
⑫同上
⑬同上
⑭教育についての記事３
⑮同上
⑯期末試験

英語セミナーC１

【担当】音羽　レベッカ
【開講】前期　水2

■サブタイトル
英語コミュニケーション

■講義概要
Communication, role play, projects and homework in 3 units based on present, future, and past tense expressions.
3つのテーマでコミュニケーション・実用会話・プロジェクト・宿題・作文　（テーマは現在形・未来形・過去形に基ずく）

■到達目標
Build confidence in communication, increase vocabulary, familiarize with grammar forms, and improve pronunciation.
コミュニケーションに自信をつける。英語単語を増やす。文法に親しむ。発音を改善する。

■講義方法
Introduction of subject テーマ紹介／Introduction of basic conversation 基本会話の紹介／Practice basic conversation 基本会話の練習／Pronunciation practice 発音の練習／Individual creative practice 個人的会話練習／Presentation　発表／Theme project テーマに関するプロジェクト

■系統的履修
English will be used throughout. Course related questions may be asked in Japanese.
原則として英語を使いますが、コースに関する質問などは日本語でもいいです。

■成績評価の方法
平常点（55%）　学生は常に出席して、真剣に授業に参加する。
その他（45%）　宿題　（3回）、作文（先生へのてがみ）（6回・2週に1回をめどとして）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
Attendance and participation are high priorities.
出席と参加を重視します。

■講義計画
①Introduce course
②First Meetings
③At a Clothing Shop
communicating desires
④At my Part-Time Job
commands、requests
⑤Body Language
⑥Vacation Plans
future plans
⑦Travel Advice
advice and suggestions
⑧Planning a Party
contingencies -- what if
⑨World Knowledge Game
⑩At the Doctor
cause and effect
⑪At the Lost and Found
story telling
⑫Office Telephone
reasons, telephone talk
⑬Personal History
⑭one to one communication test
⑮wrap up and review

英語セミナーＣ１

【担当】音羽　レベッカ

【開講】前期　水３

■サブタイトル

ENGLISH COMMUNICATION　英語でコミュニケーション

■講義概要

Course is divided into 3 units, mainly targeting past, present, and future tense communication.
In each unit, students practice role play in specific situations. Also, classes will include games and activities, vocabulary and grammar aids, and freewriting.
Each Unit will include 1 homework assignment and 3 entries in “Dear Teacher” notebook, in which students will communicate with teacher in writing.
In each Unit, a project will explore related topics.
コースは、３つのテーマ（現在・過去・未来）に分かれる。それぞれ宿題と発表がある。いろいろな日常的な場面で、英会話を試みる。テーマに相当する単語と文法を練習する。ゲームやげき、フリーライティングで英語に親しんでいく。

■到達目標

Building confidence in communicating in English in everyday situations.
日常生活の中で使う英語に対して自信をつける。

■講義方法

Introduction of Themes　テーマの紹介
Role play（student-teacher & students in pairs）
会話の練習と発表
Theme-related project　プロジェクト
Homework & “Dear Teacher” notebook
宿題と先生あての手紙ノート

■系統的履修

（English）

■成績評価の方法

その他（100%）
Attendance出席 20、Homework宿題 30、Notebook 手紙ノート 20、Participation 参加 30=100

■テキスト

Teacher will provide materials.

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

Attendance and participation are high priorities.
出席・参加態度は重視されます。
Students are encouraged to speak their minds with confidence.
自信をもって思想と気持ちを表現するようになります。

■講義計画

①Introduction　Introduce course and each other
コース紹介
②Unit1（Present Tense）①　Role Play-First Meetings
場面：初対面
③　②　Role Play-At a Clothing Shop
場面：ショッピング
④　③　Role Play-At My Part-Time Job
場面：アルバイト
⑤　④　Project-Body Language(gestures & postures)
プロジェクト：あいずとしせい
⑥Unit2（Future Tense）①　Role Play-Vacation Plans
場面：夏休みの予定
⑦　②　Role Play-Travel Advice
場面：旅行のアドバイス
⑧　③　Role Play-Contingencies-Party Plan
場面：パーティの予定変更
⑨　④　Project-World Knowledge
プロジェクト：世界
⑩Unit3（Past Tense）①　Role Play-Doctor's office
場面：医者
⑪　②　Role Play-Lost & Found
場面：おとしもの
⑫　③　Role Play-Office telephone
場面：事務所の電話
⑬　④　Project-Learning in Life
プロジェクト：生活勉強
⑭Make up　Review of course
コースをふりかえって
⑮wrap up and review

英語セミナーＣ１

【担当】イエニク・Ｓ・Ｃ
【開講】前期　水３

■サブタイトル
Active English
■講義概要
The aim of this course is to improve students ability to use English by dividing the class into groups and having them create their own extended dialogues or short plays. This places emphasis on the active skills: writing and speaking. The students create the concrete contents of the course themselves.
■到達目標
Relative to students abilities
■講義方法
Individual students each write dialogues or short plays and then perform them in groups.
■成績評価の方法
平常点（100%） Homework. Class Performance.
■テキスト
特になし
■参考文献
Any good dictionary.
■履修上の注意・担当者からの一言
Do not miss the first class.
■講義計画
①Intorduction and Video Exercise：１回目講義
②Creative Stimulus Exercise：２回目講義
③Creative Stimulus and Narrative Writing：３回目講義
④Convert Narrative to Dialogue：４回目講義
⑤Learn, Practice and Perform Skits and Short Plays：
５回目～14回目講義

英語セミナーＣ１

【担当】イエニク・Ｓ・Ｃ
【開講】前期　金２

■サブタイトル
Active English
■講義概要
The aim of this course is to improve students ability to use English by dividing the class into groups and having them create their own extended dialogues or short plays. This places emphasis on the active skills: writing and speaking. The students create the concrete contents of the course themselves.
■到達目標
Relative to students abilities
■講義方法
Individual students each write dialogues or short plays and then perform them in groups.
■成績評価の方法
平常点（100%） Homework. Class Performance.
■テキスト
特になし
■参考文献
Any good dictionary.
■履修上の注意・担当者からの一言
Do not miss the first class.
■講義計画
①Intorduction and Video Exercise：１回目講義
②Creative Stimulus Exercise：２回目講義
③Creative Stimulus and Narrative Writing：３回目講義
④Convert Narrative to Dialogue：４回目講義
⑤Learn, Practice and Perform Skits and Short Plays：
５回目～14回目講義

英語セミナーC２

【担当】音羽　レベッカ
【開講】後期　水２

■サブタイトル
ENGLISH COMMUNICATION　英語でコミュニケーション

■講義概要
Course is divided into 3 units, mainly targeting past, present, and future tense communication.
In each unit, students practice role play in specific situations. Also, classes will include games and activities, vocabulary and grammar aids, and freewriting.
Each Unit will include 1 homework assignment and 3entries in “Dear Teacher” notebook, in which students will communicate with teacher in writing.
In each Unit, a project will explore related topics.
コースは、３つのテーマ（現在・過去・未来）に分かれる。それぞれ宿題と発表がある。いろいろな日常的な場面で、英会話を試みる。テーマに相当する単語と文法を練習する。ゲームやげき、フリーライティングで英語に親しんでいく。

■到達目標
Building confidence in communicating in English in everyday situations.
日常生活の中で使う英語に対して自信をつける。

■講義方法
Introduction of Themes　テーマの紹介
Role play（student-teacher & students in pairs）
会話の練習と発表
Theme-related project　プロジェクト
Homework & “Dear Teacher” notebook
宿題と先生あての手紙ノート

■系統的履修
（English）

■成績評価の方法
その他（100%）
Attendance 出席 20、Homework 宿題 30、Notebook 手紙ノート 20、Participation 参加 30=100

■テキスト
Teacher will provide materials.

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
Attendance and participation are high priorities.
出席・参加態度は重視されます。
Students are encouraged to speak their minds with confidence.
自信をもって思想と気持ちを表現するようになります。

■講義計画

①Introduction		Introduce course and each other コース紹介
②Unit1（Present Tense）	①	Role Play-First Meetings 場面：初対面
③	②	Role Play-At a Restaurant 場面：レストラン
④	③	Role Play-Asking Directions 場面：道にまよった
⑤	④	Project-Body Language（facial expressions + tones） プロジェクト：表現のしかた
⑥Unit2（Future Tense）	①	Role Play-Vacation Plans 場面：春休みの予定
⑦	②	Role Play-Health Advisory 場面：健康アドバイス
⑧	③	Role Play-Contingencies-Trip Plan 場面：旅行の予定変更
⑨	④	Project-Airport プロジェクト：空港
⑩Unit3（Past Tense）	①	Role Play-Doctor's office+Drugstore 場面：医者と薬局
⑪	②	Role Play-Complaint Department 場面：不満
⑫	③	Role Play-Teacher's Conference 場面：先生とミーティング
⑬	④	Project-Learning in Life プロジェクト：生活の勉強
⑭Make up		Review of course コースをふりかえって
⑮wrap up and review		

英語セミナーC２

【担当】音羽　レベッカ
【開講】後期　水３

■サブタイトル
ENGLISH COMMUNICATION　英語でコミュニケーション

■講義概要
Course is divided into 3 units, mainly targeting past, present, and future tense communication.
In each unit, students practice role play in specific situations. Also, classes will include games and activities, vocabulary and grammar aids, and freewriting.
Each Unit will include 1 homework assignment and 3entries in “Dear Teacher” notebook, in which students will communicate with teacher in writing.
In each Unit, a project will explore related topics.
コースは、３つのテーマ（現在・過去・未来）に分かれる。それぞれ宿題と発表がある。いろいろな日常的な場面で、英会話を試みる。テーマに相当する単語と文法を練習する。ゲームやげき、フリーライティングで英語に親しんでいく。

■到達目標
Building confidence in communicating in English in everyday situations.
日常生活の中で使う英語に対して自信をつける。

■講義方法
Introduction of Themes　テーマの紹介
Role play（student-teacher & students in pairs）
会話の練習と発表
Theme-related project　プロジェクト
Homework & “Dear Teacher” notebook
宿題と先生あての手紙ノート

■系統的履修
（English）

■成績評価の方法
その他（100%）
Attendance 出席 20、Homework 宿題 30、Notebook 手紙ノート 20、Participation 参加 30=100

■テキスト
Teacher will provide materials.

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
Attendance and participation are high priorities.
出席・参加態度は重視されます。
Students are encouraged to speak their minds with confidence.
自信をもって思想と気持ちを表現するようになります。

■講義計画

①Introduction		Introduce course and each other コース紹介
②Unit1（Present Tense）	①	Role Play-First Meetings 場面：初対面
③	②	Role Play-At a Restaurant 場面：レストラン
④	③	Role Play-Asking Directions 場面：道にまよった
⑤	④	Project-Body Language（facial expressions + tones） プロジェクト：表現のしかた
⑥Unit2（Future Tense）	①	Role Play-Vacation Plans 場面：春休みの予定
⑦	②	Role Play-Health Advisory 場面：健康アドバイス
⑧	③	Role Play-Contingencies-Trip Plan 場面：旅行の予定変更
⑨	④	Project-Airport プロジェクト：空港
⑩Unit3（Past Tense）	①	Role Play-Doctor's office+Drugstore 場面：医者と薬局
⑪	②	Role Play-Complaint Department 場面：不満
⑫	③	Role Play-Teacher's Conference 場面：先生とミーティング
⑬	④	Project-Learning in Life プロジェクト：生活の勉強
⑭Make up		Review of course コースをふりかえって
⑮wrap up and review		

英語セミナーC２

【担当】ワード　ジョン
【開講】後期　水３

■サブタイトル
Language Acquisition Through Interaction

■講義概要
The Objective of this course is to prepare the students to use English in a variety of natural contexts. Throughout the course we will develop the learners speaking and listening skills by balancing consistent language support with challenging activities that will give the students the opportunity to personalize the language they learn, and make use of their own experiences and knowledge. We will be working in pairs and small groups providing a maximum amount of student-generated communication.
We will review after every three units to recycle and consolidate the language and structures previously presented.

■到達目標
After completing this course, students will feel more confident about expressing themselves in English in a variety of situations.

■講義方法
Students will be divided into pairs or groups at the beginning of each class, thus providing many opportunities for student interaction. Throughout the course, students will be helped and encouraged to express their thoughts and opinions in English with greater confidence.

■成績評価の方法
平 常 点（50%）
小テスト（25%）
そ の 他（25%） Homework

■テキスト
Warren Wilson『Fifty-Fifty Book Two.』Longman　2180円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
Learning is an ongoing and cylical process in that what is taught one day may well not be remembered, known, or understood the next. It is therefore very important students attend regularly, because to learn a language is to use it frequently.

■講義計画
①Asking for information: Just asking
②Describing things: It’s black and white
③Making requests: Would you mind?
④Giving instructions: Turn it clockwise
⑤Review and consolidation: Say that again
⑥Asking for Permission: Go right ahead
⑦Excuses, Excuses: Making excuses and giving reasons
⑧Giving opinions: I couldn’t agree more
⑨Comparing things: Bigger and better
⑩Review and consolidation: Say that again
⑪Giving advice and making suggestions: If I were you
⑫Talking about experiences: Have you ever
⑬Inviting: How about dinner?
⑭Making predictions: It’s going to rain
⑮Review and consolidation: Say that again

英語セミナーＤ１

【担当】大槻　志郎
【開講】前期　水２

■サブタイトル
Super Fiction English

■講義概要
とにかく英語で物語を読む経験を積むのが主眼。英語で物語を楽しめるようになり、さらには英語で読むほうが翻訳より面白いと思えればしめたもので、あとは読み続けることさえできれば、英語力向上という結果はあとからついてくる。そのために各種の面白い物語をいろいろ読んでみる。
　具体的には、事前にハンドアウトを配布し、予習を前提に、なるべく1回、長くても3回程度で、短編、長編物語のこれという場面を読む。配った内容を全部授業で消化できるとは限らないが、できるだけ一通り読みとおしてほしい。残りは粗筋の解説や翻訳、映画化されたものなどで補う。

■到達目標
物語を英語で読むことが楽しい、翻訳より英語で読む方が面白い、と思えるようになること。「実用」を超えた英語の味わいを経験すること。物語への興味から英語をより多く読もうという姿勢を身につけること。

■講義方法
まず前回学習内容の復習小テスト。メインの場面の英語の確認と鑑賞、解説。次回分の作品について、予告的解説＋情報提供、留意点の指摘。まとめの作業。作品ごとにコメントを書いてもらう。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）　小テスト、課題（予習）の達成状況、授業中の発表､最後に書いてもらうコメントなど。
定期試験（60%）
３分の１以上の欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとし、試験による評価は原則０点とする。

■テキスト
ハンドアウトを使用

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
最終的には自分で1冊読みこなせるようになることをめざすので、予習段階でもひとりで根気よく英語を読もうという意欲が何より大事。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜または金曜の4講時。ただしいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、eLeaningサイトを開設予定。

■講義計画
①introduction
②昔話、おとぎ話
　The Old Man at the White House
③あっと驚く話
　Roald Dahlの短編Lamb to the Slaughter
④あっと驚く話
　Roald Dahlの短編Lamb to the Slaughter
⑤切ない話
　William Saroyanの短編The First Day at School
⑥不思議な話、不気味な話
　『ゲド戦記』のUrsula le Guinの短編The Wife's Story
⑦不思議な話、不気味な話
　『ゲド戦記』のUrsula le Guinの短編The Wife's Story
⑧SFを読もう
　Philip K. Dickの短編The Colony
⑨SFを読もう
　Philip K. Dickの短編The Colony
⑩ミステリーへの招待
　Ellery Queenの作品
⑪ショートショートの世界
⑫児童文学を楽しむ１：ドキドキ編
　Harry Potterシリーズから
⑬児童文学を楽しむ１：ドキドキ編
　Harry Potterシリーズから
⑭児童文学を楽しむ２：ほのぼの編
　The Wizard of Oz、『オズの魔法使い』
⑮古典を読んでみよう
　William ShakespeareのRomeo and Juliet
＊以上は必ずしも取り上げる順番ではない。
＊とりあえず候補作を挙げておくが、より面白いと思うものがみつかればどんどん替えていく予定。

英語セミナーD２

【担当】大槻　志郎
【開講】後期　水２

■サブタイトル
Super Fiction English

■講義概要
とにかく英語で物語を読む経験を積むのが主眼。英語で物語を楽しめるようになり、さらには英語で読むほうが翻訳より面白いと思えればしめたもので、あとは読み続けることさえできれば、英語力向上という結果はあとからついてくる。そのために各種の面白い物語をいろいろ読んでみる。
　具体的には、事前にハンドアウトを配布し、予習を前提に、なるべく1回、長くても3回程度で、短編、長編物語のこれという場面を読む。配った内容を全部授業で消化できるとは限らないが、できるだけ一通り読みとおしてほしい。残りは粗筋の解説や翻訳、映画化されたものなどで補う。

■到達目標
物語を英語で読むことが楽しい、翻訳より英語で読む方が面白い、と思えるようになること。「実用」を超えた英語の味わいを経験すること。物語への興味から英語をより多く読もうという姿勢を身につけること。

■講義方法
まず前回学習内容の復習小テスト。メインの場面の英語の確認と鑑賞、解説。次回分の作品について、予告的解説＋情報提供、留意点の指摘。まとめの作業。作品ごとにコメントを書いてもらう。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）　小テスト、課題（予習）の達成状況、授業中の発表､最後に書いてもらうコメントなど。
定期試験（60%）
３分の１以上の欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとし、試験による評価は原則０点とする。

■テキスト
ハンドアウトを使用

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
最終的には自分で1冊読みこなせるようになることをめざすので、予習段階でもひとりで根気よく英語を読もうという意欲が何より大事。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜または金曜の4講時。ただしいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、eLeaningサイトを開設予定。

■講義計画
①introduction
②昔話、おとぎ話
　ケルトの妖精物語から
③あっと驚く話
　Joyce Carol Oatsの短編Embrace
④切ない話
　Daniel KeyesのFlowers for Algernon、『アルジャーノンに花束を』
⑤切ない話
　Daniel KeyesのFlowers for Algernon、『アルジャーノンに花束を』
⑥不思議な話、不気味な話
　J. G. Ballardの短編
⑦不思議な話、不気味な話
　J. G. Ballardの短編
⑧SFを読もう
　Arthur C. Clarkeの短編The Haunted Space Suit
⑨SFを読もう
　Arthur C. Clarkeの短編The Haunted Space Suit
⑩ミステリーへの招待
　Sherlock Holmes『シャーロック・ホームズ』から
⑪ショートショートの世界
⑫児童文学を楽しむ１：ドキドキ編
　The Chronicles of Narnia「ナルニア国物語」シリーズから
⑬児童文学を楽しむ１：ドキドキ編
　The Chronicles of Narnia「ナルニア国物語」シリーズから
⑭児童文学を楽しむ２：ほのぼの編
　Heidi、『ハイジ』を英訳で読む
⑮古典を読んでみよう
　Charles DickensのOliver Twist
＊以上は必ずしも取り上げる順番ではない。
＊とりあえず候補作を挙げておくが、より面白いと思うものがみつかればどんどん替えていく予定。

英語セミナーＥ１

【担当】西山　けい子
【開講】前期　水2

■サブタイトル
映画を使って英語に親しむ

■講義概要
パトリシア・ハイスミス原作、The Talented Mr. Ripley（1999、監督アンソニー・ミンゲラ、邦題『リプリー』）を取り上げる。この作品は、アメリカの富豪の放蕩息子ディッキー（ジュード・ロウ）をイタリアからアメリカに連れ戻す役を負った青年リプリー（マット・デイモン）の、ディッキーへの強い憧れと執着そして殺意を描くすぐれたサスペンス。ルネ・クレマン監督による『太陽がいっぱい』（1960）に次ぐ、2度目の映画化作品である。DVDの英語字幕を見ながら、半期かけてひととおり作品を学び、あわせて原作の簡略版テキストや関連資料を読む。

■到達目標
映画を用いることにより、映像の助けを得ながら自然なスピードの英語音声に慣れるようにする。口語的な表現や深い心理表現などに注目し、作品を味わいながら英語を学ぶ。授業でとりあげる作品だけでなく、各自が自分の好きな映画を英語字幕で見ることへの抵抗感をなくす。

■講義方法
DVDで英語字幕を見ながらセリフを聞き取る。スクリプトで意味を確認したあと、声に出して言う練習をする。原作の簡略版テキストや作品の批評などの関連資料を読む。また、いろいろな映画に興味をもってもらえるように、毎回授業の初めには、過去のいろいろな作品の名場面をとりあげて短く紹介する。

■成績評価の方法
平 常 点（40%） 授業への取り組みや、担当箇所の発表など。
小テスト（20%）
レポート（40%） 課題は教室で指示する。

■テキスト
Patricia Highsmith 『The Talented Mr. Ripley（Penguin Readers Simplified Text）, 2nd revised edition』 Penguin 802円

■参考文献
Patricia Highsmith 『The Talented Mr. Ripley』 W. W. Norton&Co. 1085円
パトリシア・ハイスミス（佐宗鈴夫訳）『リプリー』 河出文庫
アンソニー・ミンゲラ（中神由紀子訳）『リプリー』 東京学参
アンソニー・ミンゲラ（監督）『リプリー（DVD）』松竹ホームビデオ

■履修上の注意・担当者からの一言
授業で紹介する映画は、英語のレベルや作品の面白さを考えて選んでいます。できるだけ時間をつくって、図書館や自宅で鑑賞するようにしてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
研究室は2-313です。質問等については、授業後の水曜12:30-13:30または火曜昼休みに来室してください。

■講義計画
①イントロダクション
②映画The Talented Mr. Ripleyを全編通して鑑賞する
③Greenleaf氏の依頼、イタリアへの出発
④Dickieとの出会い
⑤ミステリアスなTom Ripley
⑥Dickieとイタリアの暮らしへの憧れ
⑦聖母祭
⑧Dickieへの想い、サンレモで
⑨なりすます
⑩偶然の再会
⑪都合の悪い友人
⑫警察の捜査が迫る
⑬Dickieの手紙
⑭偽りの自己
⑮まとめ

英語セミナーＥ２

【担当】西山　けい子
【開講】後期　水2

■サブタイトル
映画を使って英語に親しむ

■講義概要
サスペンス映画の傑作、ヒッチコック監督のPsycho（『サイコ』、1960）を取り上げる。アメリカ映画史上もっとも有名なシャワーシーンを含め、この映画の全編を英語字幕つきで詳しく見ながら、半期かけてひととおり作品を学ぶ。あわせて作品の紹介や分析、レヴューなどの関連資料を読む。

■到達目標
映画を用いることにより、映像の助けを得ながら自然なスピードの英語音声に慣れるようにする。口語的な表現や深い心理表現などに注目し、作品を味わいながら英語を学ぶ。授業でとりあげる作品だけでなく、各自が自分の好きな映画を英語字幕で見ることへの抵抗感をなくす。

■講義方法
DVDで英語字幕を見ながらセリフを聞き取る。スクリプトで意味を確認したあと、声に出して言う練習をする。作品の批評などの関連資料を読む。また、いろいろな映画に興味をもってもらえるように、毎回授業の初めには、過去のいろいろな作品の名場面をとりあげて短く紹介する。

■成績評価の方法
平 常 点（40%） 授業への取り組みや、担当箇所の発表など。
小テスト（20%）
レポート（40%） 課題は教室で指示する。

■テキスト
プリントを配布する。

■参考文献
Stephen Rebello 『Alfred Hitchcock and the Making of Psycho』 Mrion Boyars 1890円
Raymond Durgnat『A Long Look at 'Psycho'』BFI 2684円
トリュフォー／ヒッチコック 『定本・映画術 ヒッチコック・トリュフォー（改訂版）』 晶文社 4200円

■履修上の注意・担当者からの一言
授業で紹介する映画は、英語のレベルや作品の面白さを考えて選んでいます。できるだけ時間をつくって、図書館や自宅で鑑賞するようにしてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
研究室は2-313です。質問等については、授業後の水曜12:30-13:30または火曜昼休みに来室してください。

■講義計画
①イントロダクション
②映画Psychoを全編通して鑑賞する
③昼下がりの逢引き
④4,000ドルの着服
⑤マリオンの失踪
⑥ベイツ・モーテル
⑦ノーマンとの夕食
⑧シャワー
⑨沼と影
⑩マリオンの足取りを追って
⑪私立探偵の死
⑫ベイツ・モーテル１号室
⑬ミセス・ベイツ
⑭もうひとりのノーマン
⑮まとめ

教育原論Ａ

【担当】井谷　信彦
【開講】前期　月１

■サブタイトル
子どもの人間学
■講義概要
本講義では、幼児期～青年期における子どもの発達課題と、教師による理解・指導の在り方について考察を深める。誰しもが一度は子どもであった。また多くは学校に通い、級友を初めとする仲間と遊び、教師のもとで学んだ経験を持っていることだろう。しかし、いざ自分の体験を振り返ってみても、子ども時代のことはぼんやりとしか思い出せないことが多い。近所で走り回る幼児・児童を眺めていると、子どもほど不思議な存在はないとすら思えてくる。子どもの成長発達や人間関係について理解するためには、子どもの持つ魅力や不思議を改めて探求し問い直すことが必要不可欠である。近年の教育心理学や教育人間学の成果に基づいて、子どもの生やそれを取り巻く世界との関係について検証し、教師による理解と指導の在り方を考察することが、本講義の課題である。
■到達目標
本講義の目標は、以下の諸点について学び、理解を深めることにある。①教育における人間学的視点、②教育の意義・目的・理念、③教育と児童福祉との関係、④人間形成と家庭・地域・社会との関係、⑤教育実践の理論と実際の取り組み。これらの各項目について、単なる情報の羅列や知識の暗記に留まることのない、主体的な探求の機会を提供することが、本講義の目的である。
■講義方法
上記①～⑤の各項目について講義をおこなう。また、このテーマに関わる参考図書や映像資料・文学作品などを随時紹介しながら、これに関連したディスカッション・ワークショップの時間を設ける予定である。これにより、各回の講義内容について、受講生が主体的に探求するための機会を提供することで、「教育」や「子ども」の魅力と不思議を再発見することが目指される。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）　各回の小レポート
レポート（80%）　期末レポート
■テキスト
田中智志・今井康雄編著 『キーワード　現代の教育学』 東京大学出版会　2800円
■参考文献
授業中に随時紹介する予定
■講義計画
①教育の目的と児童福祉Ⅰ：「自己紹介」と「出欠確認」の不思議
②教育の目的と児童福祉Ⅱ：オオカミに育てられた少女？（第1章）
③教育の目的と児童福祉Ⅲ：学校教育の内と外（第9章・第11章）
④教育と子どもの人間学Ⅰ：教育学の二つの次元（参考資料）
⑤教育と子どもの人間学Ⅱ：ライフサイクルと発達課題（第4章・第7章）
⑥教育と子どもの人間学Ⅲ：「悪」の体験と子ども（第13章・第18章）
⑦子どもを取り巻く環境Ⅰ：シンボルに満ちた世界（第8章）
⑧子どもを取り巻く環境Ⅱ：学校の外の教育者（第15章）
⑨子どもを取り巻く環境Ⅲ：学校の中の教育者（第14章・第16章）
⑩教育実践の理論と実際Ⅰ：自律性の育成と教育実践（第6章・第10章）
⑪教育実践の理論と実際Ⅱ：道徳性の育成と教育実践（参考資料）
⑫教育実践の理論と実際Ⅲ：創造性の育成と教育実践（第2章・第3章）
⑬学びのニヒリズム：なぜ勉強しなければならないのか？（第19章）
⑭教育と「臨床の知」：子どもの「いまここ」に向きあう（第20章）
⑮全体のリフレクションとレポート課題の説明

教育原論Ａ

【担当】田中　圭治郎
【開講】前期　月２

■サブタイトル
公教育の諸問題
■講義概要
教育とは何かを、教育哲学、教育史、思想、教授学、教育制度等のさまざまな角度から考察する。そのため、プラトン、コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、デューイ等の人物の思想を説明し、教育の基礎知識を習得してもらう。
■到達目標
公教育の成立により、教育の大衆化がいかに可能になったか。一人ひとりの可能性を生かすのはどうすればよいかを理解してもらう。
■講義方法
授業計画にもとづいて、テキストを中心に講義をすると共に、適宜、ビデオ、プリントを使用する。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）　主として出席を評価基準とする。
小テスト（30%）
定期試験（40%）
■テキスト
田中潤一・田中達也 『未来を拓く教育ー軌跡と展望ー』 ナカニシヤ出版　2600円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
私語をなくすこと。出席を重視する。
■講義計画
①教育学入門（1）　国際理解教育、異文化理解教育
②　〃　（2）　多文化教育
③教育の本質
④教育の思想Ⅰ
⑤教育の思想Ⅱ
⑥教育の思想Ⅲ
⑦教育方法（1）
⑧教育方法（2）
⑨カリキュラム・教育課程論（1）
⑩カリキュラム・教育課程論（2）
⑪学校制度論（1）
⑫学校制度論（2）
⑬進路指導・キャリア教育（1）
⑭進路指導・キャリア教育（2）
⑮まとめ

教育原論B

【担当】藤井　奈津子
【開講】後期　月1

■サブタイトル
子どもの社会化から超社会化へ

■講義概要
かつて子どもは〈小さな大人〉としてみなされ、大人とともに遊び・働き・学ぶ存在であった。そうした人々のあいだに、大人とは異なる存在としての〈子ども〉という態度や感情が現れるようになるのは、近代になってのことである。つまり近代になって〈子ども〉は発見されたのだ。人々は次第に、〈子ども〉を大人とは異なる純白な存在として、すなわち無知あるいは無垢なる存在としてみなすようになっていく。やがて純白＝無知としての子ども観は、白紙としての子ども・子どもの可塑性という観念となって近代教育思想の中心に位置づけられていく。一方、純白＝無垢としての子ども観は、生き生きとした生命感・豊かな想像力・鋭い感受性をそなえた子どもという観念となってロマン主義的子ども観へと繋がっていく。教育原論Bでは、前者の流れに沿って、子ども期の発見以降に成立していく近代教育の理念とその諸問題について検討し、その上で近代教育を超える新たな教育の可能性について考えていきたい。できるだけ具体的な教育問題・教育実践の事例を取り上げながら、議論を進めていく予定である。

■到達目標
子ども期の発見以降に成立していく近代教育の理念とその諸問題を理解した上で、近代教育を超える現代の教育の可能性を考えていく視点を養う。

■講義方法
板書と口述による講義のほかに、ビデオ視聴を行う。ビデオ視聴の際には、ビデオ内容についての感想を小レポートとして提出してもらう（映画レポート以外は翌週に提出）。

■系統的履修
できれば教育原論Aも受講することが望ましい。

■成績評価の方法
レポート（40%）　小レポート４回
定期試験（60%）　期末試験

■テキスト
テキストは使用せず、毎回資料プリントを配布する。

■参考文献
亀山佳明　『子どもと悪の人間学―子どもの再発見のために』　以文社　3400円
矢野智司　『自己変容という物語―生成・贈与・教育』　金子書房　2200円

■講義計画
①オリエンテーション
②近代教育の誕生
③近代教育の諸問題（1）―学級のアノミー化
④近代教育の諸問題（2）―他者への過剰同調
⑤近代教育の諸問題（3）―〔映画視聴〕
⑥近代教育の諸問題（4）―〔映画視聴〕
⑦近代教育の諸問題（5）―映画解説―共有し得ない痛み
⑧近代教育の諸問題（6）―閉塞感からの脱出
⑨近代教育を超える可能性（1）―社会化から超社会化へ
⑩近代教育を超える可能性（2）―アトム共同保育所
⑪近代教育を超える可能性（3）―なってみる授業
⑫近代教育を超える可能性（4）―出会いの授業
⑬近代教育を超える可能性（5）―自己変容のコミュニケーション
⑭近代教育を超える可能性（6）―いのちの授業
⑮まとめ

教育原論B

【担当】田中　圭治郎
【開講】後期　月2

■サブタイトル
教育の思想と実態

■講義概要
現在、われわれが直面している学校現場での諸課題についてどのように対処していったらよいのかについて考えたい。小学校・中学校・高校の教育現場に焦点を当ててみる。価値観の多様化にともなって、教師がどのように一人ひとりの子どもを見つめ、その可能性を伸ばすことができるのかについて述べる。

■到達目標
この授業では、人間としてどのように生きるべきかという視点から教育を考え、一人ひとりを生かす教育について考えてみる。

■講義方法
授業計画にもとづいて、テキストを中心に講義をすると共に、適宜ビデオ、プリントを使用する。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）　主として出席を評価基準とする。
小テスト（30%）
定期試験（40%）

■テキスト
田中圭治郎著　『多文化教育の世界的潮流』　ナカニシヤ出版　2356円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
私語をなくすこと。出席を重視する。

■講義計画
①教育学入門（1）　人間と教育
②　〃　（2）　教育の今日的課題
③教育の意義と目的（1）　素質と環境
④　〃　（2）　学校教育の諸問題
⑤　〃　（3）　家庭教育・社会教育の諸問題
⑥　〃　（4）　バンクス等の多文化教育の思想
⑦公教育の理念と成立（1）　ソクラテス、ルター、ルソー、コンドルセ
⑧　〃　（2）　ペスタロッチー、フレーベル、ヘルバルト
⑨　〃　（3）　モンテッソーリ、デューイ
⑩　〃　（4）　フリースクール等の学校、改革
⑪世界の教育（1）
⑫　〃　（2）
⑬　〃　（3）
⑭　〃　（4）
⑮まとめ

経済学入門

【担当】キグリチュ　イシュトヴァーン
【開講】前期　月1

■サブタイトル
経済学入門
■講義概要
この科目は経済学に興味を持っている学生諸君のための入門科目である。科目提供の目的は以下の2点である。(1) 経済学に関する専門知識の履修を望む学生のために、その基礎知識を提供する。(2) 専門的な経済学習得まで至らずとも、日常生活に欠かせない経済の基本知識を習得する。そのためこの講義は、基本的な経済の専門用語、世の中によく耳にする「GDP」、「インフレ」、「株」、「金融」等の意味を分析することにより、経済の世界に案内する。また上記の問題を取り上げながら、日常生活における自己管理、経済上のやりくり、さらに世の中の経済の動きを理解できることを目指す。
■到達目標
講義を履修することにより、学生諸君は経済関係の基本知識を身に付け、身近な生活に直接影響を及ぼす新聞ニュースや一般経済問題を理解できるようになり、次の段階では専門的経済科目を履修できることも期待される。
■講義方法
講義は日本語、パワーポイントによるプレゼンテーションを行なう。教員の説明にはデータ、グラフ、ビデオも加えられる。アウトライン、関連する参考資料は学内フォルダーに提供される。
■系統的履修
講義の参加、ディスカッション、復習
■成績評価の方法
平 常 点（50%）　講義参加
小テスト（50%）　中間小テスト
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
講義の流れは前もって決まったスケジュールにこだわらず、学生の興味、質問等にそって調整して行う。
ノート取ることはテストの対象になるので不可欠である。講義には連続性があり、毎回の参加が望ましい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜日 12：40－13：30
その他連絡しながらアポイントを依頼する。
■講義計画
①経済とは何か
②経済と社会と政治の関係
③欧州経済とアジア経済の概念
④マクロとミクロ経済
⑤流行と景気と経済、景気、銀行、経営
⑥経済と経済発展を図る統計
⑦GDP, GNP, 成長、インフレ、失業
⑧経済と金
⑨金史、金と近代経済、利益
⑩経済体制、混合経済
⑪日本型経済とその改革
⑫日本型とは、
⑬終身雇用、系列
⑭経済と企業経営
⑮纏め

経済学入門

【担当】長命　洋佑
【開講】前期　木3

■サブタイトル
われわれは予想どおりに不合理な行動をとる
■講義概要
われわれは日常生活の中で、なぜ、歩いていけるところに車やタクシー、電車でいくのだろうか？
なぜ、大学構内の自動販売機で飲み物を買うのだろうか？
なぜ、バイトをするのだろうか？
なぜ、日々、野菜の価格が変動するのだろうか？
なぜ、人気の料理屋には行列ができるのだろうか？
なぜ、税金が無駄に使われるのだろうか？なぜ、大学に行くのだろうか？
と、日常生活の何気ない場面に対し、意識的に「なぜ？」と考えると「…なんでやろ？」と思うようなことが多々あるのではないでしょうか？
本講義では、そうした「なぜ？」に対し、経済学の視点からわかりやすく説明することを心がけます（初めて経済学に触れる学生大歓迎です）。
■到達目標
日常生活の中で経済学の考え方が活かせるようになる。
■講義方法
講義形式による。また、学生の意見・考え方を講義に反映させたいので、意見・考え方を取り入れられるような工夫を試みる。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）
定期試験（70%）
■テキスト
受講生に合わせて、テキストを紹介するが、基本的には配布資料によって講義を行う。
ただし、配布当日に欠席した人は自己責任のもとにおいて何らかの方法で資料を入手してください。
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
「経済学」はお金のことばかり扱う学問と思われがちですが、実際は、日常生活に非常に密接した学問です。経済学を学ぶことによってちょっと違った日常生活が送れるかもしれません。
なお、他の学生になるような非常識な行為（私語・携帯）は慎むようお願い申し上げます。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
何かあれば、choumei@mail.ryukoku.ac.jp　までお願いいたします。
■講義計画
①オリエンテーション
②経済学の領域
③お金のお話①：ほんとうに価値のあるものとは？
④お金のお話②：一体、何に満足するのか？
⑤お金のお話③：なぜ、こんな行動をとってしまったのか？
⑥海外との関わり①：世界のなかの小さな国、日本
⑦海外との関わり②：なぜ、隣の人と私は、違っているのか？
⑧海外との関わり③：はたして22世紀はやってくるのか！？
⑨これまでの復習
⑩企業の行動①：もうけのカラクリとは？
⑪企業の行動②：販売者は自分の会社の商品を買うのか？
⑫消費者の行動①：人は何を求め生きているのか？
⑬消費者の行動②：日常生活は危険に満ちた暮らしの方が好ましい！？
⑭消費者の行動③：人の行動はなぜ予想どおりに不合理なのか？
⑮これまでの復習

経済学入門

【担当】李　復屏
【開講】後期　月1

■サブタイトル
暮らしの中の経済学
■講義概要
この世の中に不思議なことが満ちている。お金とは一体どういうものなのか、モノの値段はどこでだれがどうやって決めたのか、デフレはなぜよくないのか、政府は何をしているのか、汚染権を売買してもいいのか、などなど。この講義では、こういった身近な問題を取り上げてみなさんと一緒に考えていきたい。驚くべきなのは、複雑な事象の背後にはいくつかのシンプルな経済原理が存在しているにすぎないのだ。
■到達目標
経済学の基礎理論を学び、経済学的な考え方を理解することによって、新しい視点とより深い洞察力をもって直面する現実問題について考えることができるようになる。
■講義方法
視覚教材を取り入れながら、講義形式で授業を進む。練習問題がよくある。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）
定期試験（50%）
■テキスト
N･グレゴリー･マンキュー著、足立英之ほか訳 『マンキュー入門経済学』 東洋経済新報社　3200円
■参考文献
三橋規宏ほか 『ゼミナール日本経済入門』 日本経済新聞出版社　3000円
■履修上の注意・担当者からの一言
私語厳禁！
■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは月2。この時間帯に来られない学生は、lifuping@soc.ryukoku.ac.jpまでご相談ください。
■講義計画
①経済学とは：経済学はお金儲けのためか
②経済学者らしく考える①：ほしいものがなぜ手に入らないのか
③経済学者らしく考える②：大学進学の機会費用はいくらか
④取引と貿易：取引において誰が得するか
⑤需要と供給①：食べられないダイヤモンドはなぜ水よりも高いか
⑥需要と供給②：贅沢品への税金を支払うのは誰か
⑦外部性：市場は失敗することがあるよ
⑧公共部門：政府も失敗するさ
⑨GDPとは①：GDPの高さが豊かさを測れるか
⑩GDPとは②：何がGDPを決めるか
⑪貨幣システム：お金とはなにか
⑫インフレ・デフレ：インフレ・デフレの被害者が誰か
⑬政府の仕事：財政政策・金融政策で経済がよくなるか
⑭復習：練習問題
⑮もう一度、経済学とは：人間は合理的か

経済学入門

【担当】李　復屏
【開講】後期　月3

■サブタイトル
暮らしの中の経済学
■講義概要
この世の中に不思議なことが満ちている。お金とは一体どういうものなのか、モノの値段はどこでだれがどうやって決めたのか、デフレはなぜよくないのか、政府は何をしているのか、汚染権を売買してもいいのか、などなど。この講義では、こういった身近な問題を取り上げてみなさんと一緒に考えていきたい。驚くべきなのは、複雑な事象の背後にはいくつかのシンプルな経済原理が存在しているにすぎないのだ。
■到達目標
経済学の基礎理論を学び、経済学的な考え方を理解することによって、新しい視点とより深い洞察力をもって直面する現実問題について考えることができるようになる。
■講義方法
視覚教材を取り入れながら、講義形式で授業を進む。練習問題がよくある。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）
定期試験（50%）
■テキスト
N･グレゴリー･マンキュー著、足立英之ほか訳 『マンキュー入門経済学』 東洋経済新報社　3200円
■参考文献
三橋規宏ほか 『ゼミナール日本経済入門』 日本経済新聞出版社　3000円
■履修上の注意・担当者からの一言
私語厳禁！
■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは月2。この時間帯に来られない学生は、lifuping@soc.ryukoku.ac.jpまでご相談ください。
■講義計画
①経済学とは：経済学はお金儲けのためか
②経済学者らしく考える①：ほしいものがなぜ手に入らないのか
③経済学者らしく考える②：大学進学の機会費用はいくらか
④取引と貿易：取引において誰が得するか
⑤需要と供給①：食べられないダイヤモンドはなぜ水よりも高いか
⑥需要と供給②：贅沢品への税金を支払うのは誰か
⑦外部性：市場は失敗することがあるよ
⑧公共部門：政府も失敗するさ
⑨GDPとは①：GDPの高さが豊かさを測れるか
⑩GDPとは②：何がGDPを決めるか
⑪貨幣システム：お金とはなにか
⑫インフレ・デフレ：インフレ・デフレの被害者が誰か
⑬政府の仕事：財政政策・金融政策で経済がよくなるか
⑭復習：練習問題
⑮もう一度、経済学とは：人間は合理的か

言語学入門

【担当】泉　文明
【開講】前期　月３

■サブタイトル
日本語学と対照言語学
■講義概要
国際化と情報化の中で、日本語の世界も新しい局面を迎えている。国際舞台での活躍の場が広がった日本語は、今や重要なコミュニケーションの言語として確固たる地位を占めるに至る。また、そのような状況に応じて、日本語を第2言語として学ぶ人の学習方法も進められている。この講座では、諸言語と日本語とを対照することによって、日本語の姿・生態に迫りたい。また、認知言語学や計量言語学の紹介も行いたい。
■到達目標
国語としての日本語の知識と外国語としての英語や中国語の知識を活用しながら、言語を見つめる客観的な態度を身に付ける。
■講義方法
基本的には講義方式をとるが、場合によっては演習方式をとることもありうる。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
定期試験によって、評価を行うが、集中して授業に望んでいないと試験で解答することは不可能であろう。
■テキスト
玉村文郎編 『新しい日本語研究を学ぶ人のために』 世界思想社　2300円
■参考文献
玉村文郎編 『日本語学を学ぶ人のために』 世界思想社　1893円
■講義計画
①世界の言語（1）
②世界の言語（2）
③世界の言語（3）
④日本語の姿（1）
⑤日本語の姿（2）
⑥日本語の姿（3）
⑦日本語の姿（4）
⑧表現（1）
⑨表現（2）
⑩表現（3）
⑪対照言語学
⑫応用言語学
⑬認知言語学
⑭その他の言語研究
⑮まとめ

言語学入門

【担当】磯江　源
【開講】前期　木３

■サブタイトル
理論言語学と比較言語学
■講義概要
言語学にもさまざまな分野があるが、本講においては、言語の成り立ち（構造）と、英語と関係の深い、いくつかの言語の比較を取り扱う。まず、ことばを構成している、文、単語、形態素、音素などを理解し、その研究方法を概観する。そののち、フランス語、ドイツ語が、どのように英語に類似し、影響を与えてきたかを見て、言語の比較研究について考える。
　英語の名詞句の構造、修飾の方法、動詞の形など、その理解には現代の英語を分析するだけでは不十分な現象は多い。この点についてのわかりやすい解説を並行して行なう予定です。昨今は実用知識としての英語ばかりが強調されていますが、英語そのものの知識を含む、教養として英語の知識を少しでも習得することをめざします。
■到達目標
なじみの深い学校文法を、より分析的に見る場合などには、新しい概念を理解する必要がある。提示される問題について、積極的に考え、言語に一般的な性質を探る態度を身に付けよう。
■講義方法
始めに理論言語学の基礎的な概念を解説して、その方法を理解していただく。この知識を活用して、比較言語学の成果を学習していく。
■成績評価の方法
小テスト（100%）　複数回の小テストを実施して、学期中のコンスタントな学習を促す。
課外活動、龍谷祭などを理由とする欠席を予定する人は、よく小テストの日程を注意すること。小テストは、欠席すれば、０点となり､直接成績に反映される。２回以上小テストを欠席すれば、単位取得は、不可能になる可能性が高い。また、出席していないと、解答は大変困難な問題である。持ち込み不可。
■テキスト
特になし
■参考文献
J.C. Catford 『Fundamental Problems in Phonetics』 Midland Book
John Lyons 『Introduction to Theoretical Linguistics』 Cambridge University Press
Charles Barber 『The English Language』 Cambridge University Press
■オフィスアワー・教員への連絡方法
木曜日昼休み。そのほかは、授業の前後に相談してください。
■講義計画
①言語学の各分野
②音声学
③英語の音声（1）
④英語の音声（2）
⑤英語の音声（3）
⑥英語の音声（4）
⑦音素と異音
⑧英語の語構造（1）
⑨英語の語構造（2）
⑩英語の歴史（1）
⑪英語の歴史（2）
⑫ドイツ語と英語
⑬フランス語と英語
⑭ラテン語と英語
⑮まとめと復習

コリア語ＩA

【担当】孫　才喜
【開講】前期　水3

■講義概要
1. 韓国語の子音と母音を把握して暗記する。
2. 韓国語と日本語の発音差を認識して韓国語の文字（ハングル）を正確に発音するようにする。
3. 韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う。

■到達目標
1. 日常生活で使われる基本語彙や挨拶を暗記して活用するようにする。
2. 韓国語で自己の紹介ができて、相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする。
3. 一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする。

■講義方法
教科書の内容を読んで、意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する。

■成績評価の方法
平 常 点（30%） 授業中質問と対答、読み
小テスト（30%） 宿題、授業態度、聞取（書き）試験
定期試験（40%）

■テキスト
入佐信宏、文賢珠共著 『よくわかる韓国語STEP1 CD付』
白帝社 2500円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
1.外国語として韓国語を週 1 回勉強してマスターすることは不可能です。毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください。
2. 積極的に授業に参加して自分の表現に自信感を持つこと。

■講義計画
①言語の意味や歴史と文化との関係
②韓国語の起源とハングルの創制－母音と子音
③母音、子音+母音の単語
④子音+母音+子音の単語
⑤あいさつ、自己紹介
⑥日本語カナのハングル表記
　発音規則－連音化
⑦主格助詞、イだ（이다）動詞
⑧肯定文（表現）と疑問文（表現）
⑨国籍の表現
　発音規則－鼻音化
⑩疑問詞の活用と答え
⑪親戚の呼び方
⑫存在の表現と答え
⑬動詞の原型と活用
⑭数字の表現－基数、序数

コリア語ＩB

【担当】孫　才喜
【開講】後期　水3

■講義概要
1. 韓国語の子音と母音を把握して暗記する。
2. 韓国語と日本語の発音差を認識して韓国語（ハングル）を正確に発音するようにする。
3. 韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う。

■到達目標
1. 日常生活で使われる基本語彙や挨拶を暗記して活用するようにする。
2. 韓国語で自己の紹介ができて、相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする。
3. 一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする。

■講義方法
1. 教科書の内容を読んで、意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する。

■成績評価の方法
平 常 点（30%） 授業中質問と対答、読み
小テスト（30%） 宿題、授業態度、聞取（書き）試験
定期試験（40%）

■テキスト
入佐信宏、文賢珠共著 『よくわかる韓国語STEP1 CD付』
白帝社 2500円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
1. 外国語として韓国語を週 1 回勉強してマスターすることは不可能です。毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください。
2. 積極的に授業に参加して自分の表現に自信感を持つこと。

■講義計画
①日常生活.習慣に関する表現－1
　動詞の不定形－質問、対答
②日常生活・習慣に関する表現－2
　動詞の不定形－質問、対答
③物の状態に関する表現－1
　－形容詞の原型、変形
④物の状態に関する表現－2
　－形容詞の原型、変形
⑤趣味の表現、種類
⑥数字の表現、読み方－日、月、時間、番号
⑦毎日生活に関する表現－日、月、時間、番号、曜日
⑧過去表現
⑨未来表現
⑩買い物の表現－単位、数え方、お金－1
⑪買い物の表現－単位、数え方、お金－2
⑫韓国の歌
⑬韓国の映画
⑭韓国語と文化の係わり

コリア語ＩC

【担当】朴　炫国
【開講】前期　木3

■講義概要
1. 韓国語の子音と母音を把握して暗記する。
2. 韓国語と日本語の発音差を認識して正確に発音するようにする。
3. 韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う。

■到達目標
1. 日常生活で使われる基本語彙や挨拶を暗記して活用するようにする。
2. 韓国語で自己の紹介ができて、相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする。
3. 一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする。

■講義方法
教科書の内容を読んで、意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する。

■成績評価の方法
平 常 点（30%） 授業中質問と対答、読み
小テスト（30%） 宿題、授業態度、聞取（書き）試験
定期試験（40%）

■テキスト
延世大学校韓国語学堂 『初めの韓国語の読み方』 延世大学校出版部
教科書は授業時紹介

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
1. 外国語として韓国語を週１回勉強してマスターすることは不可能です。毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください。
2. 積極的に授業に参加して自分の表現に自信感を持つこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
paku@world.rykoku.ac.jp、研究室４号館331、077-543-7881、（月曜日以外の昼ご飯の時間、会議の可能性あり、前以て電話必要）

■講義計画
①人間と言語、言語と文化、
②韓国語の起源とハングルの製作
③韓国語の母音と子音
④母音の単語－音、書き方、読み方
⑤子音の単語－音、書き方、読み方－1
⑥子音の単語－音、書き方、読み方－2
⑦子音の交替 平音、硬音、濃音、パチム（終声）
⑧あいさつ
　発音練習－連音化
⑨自己生活
　発音練習－鼻音化1
⑩勉強
　発音練習－硬音化
⑪家族
　発音練習－鼻音化2
⑫図書館
　発音練習－濃音化1
⑬昼ご飯
　発音練習－7終声
⑭友達
　発音練習－濃音化2

コリア語ＩD

【担当】朴　炫国
【開講】後期　木3

■講義概要
1. 韓国語の子音と母音を把握して暗記する。
2. 韓国語と日本語の発音差を認識して韓国語（ハングル）を正確に発音するようにする。
3. 韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う。

■到達目標
1. 日常生活で使われる基本語彙を暗記して活用するようにする。
2. 韓国語で自己の紹介ができて、相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする。
3. 一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする。

■講義方法
教科書の内容を読んで、意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する。

■成績評価の方法
平 常 点（30%） 授業中質問と対答、読み
小テスト（30%） 宿題、授業態度、聞取（書き）試験
定期試験（40%）

■テキスト
延世大学校韓国語学堂 『初めの韓国語の読み方』 延世大学校出版部
教科書は授業時紹介

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
1. 外国語として韓国語を週１回勉強してマスターすることは不可能です。毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください。
2. 積極的に授業に参加して自分の表現に自信感を持つこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
paku@world.rykoku.ac.jp、研究室４号館331、077-543-7881、（月曜日以外の昼ご飯の時間、会議の可能性あり、前以て電話必要）

■講義計画
①人間と言語、言語と文化、
②韓国語の起源とハングルの製作
③韓国語の母音と子音
　韓国の歌
④母音の単語－音、書き方、読み方
⑤子音の単語－音、書き方、読み方－1
　韓国のドラマ
⑥子音の単語－音、書き方、読み方－2
⑦子音の交替 平音、硬音、濃音、パチム（終声）、
　韓国の映画１
⑧あいさつ
　発音練習－連音化
⑨自己生活、発音練習－鼻音化1
　韓国の映画2
⑩勉強
　発音練習－硬音化
⑪家族,発音練習－鼻音化2
　韓国の食べ物
⑫図書館
　発音練習－濃音化1
⑬昼ご飯
　発音練習－7終声
⑭友達,発音練習－濃音化2
　韓国の観光

コリア語セミナーA

【担当】金　里博
【開講】前期　水3

■サブタイトル
楽しく日常会話ができ、辞書片手に新聞・雑誌を読んでみよう！

■講義概要
脚本等を読むことによって会話力を習得する。コリア語の新聞・雑誌・文芸誌等を読む。

■到達目標
少々発音が日本語的ではあっても基本的な日常会話が出来る。辞書が有れば新聞・雑誌が基本的に読め訳せる。

■講義方法
毎回、新聞・雑誌等を音読し、訳す。随時、時節に合った対話を行う。必要な文法事項を説明・解説する。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（30%）　小テストは70点以上と合格とする。70点未満は不合格とし一度だけ追試を認める。追試は80点以上を合格とする。
定期試験（50%）
無断欠席は５点減点とする。やむを得ない欠席（忌引き・公務等）の場合、レポート提出で対応する用意はしている。

■テキスト
岡山　善一郎　『朝鮮語を学ぶ（初級編）』　白帝社　2000円

■参考文献
朴　炫国　『韓国語の発音と演習』　白帝社　2000円
熊谷明泰　『アリラン』　朝日出版社　2400円
吉本一他　『韓国語へのとびら(CD付)』　朝日出版社　2500円
コリア語文を正しく読め、会話し、作文するためには文法は不可欠なので上記の参考文献をよく読んで再学習するのが良い。

■履修上の注意・担当者からの一言
語学は持続と連続が最も有効な学習方法であるので欠席は望ましくない。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
開校時、履修者全員にメールアドレスを提示するので前もって連絡した場合は次週の講義後に時間を割くことは可能である。また、疑問質問はメールしてくれると可能な限り早く答えるようにする。

■講義計画
①復習（1）ハングル字母子音
②復習（2）ハングル字母母音
③発音規則（子音同化）
④会話（1）　自己紹介
⑤基本的日常会話の小テスト
⑥雑誌もしくは新聞を読む（1）
⑦雑誌もしくは新聞を読む（2）
⑧会話（2）機内と入国に際して
⑨会話（3）短期留学先での会話
⑩尹東柱の詩を読み、鑑賞し、暗唱する（1）
⑪朴木月の詩を読み、鑑賞し、暗唱する（2）
⑫シナリオの抜粋を読む（1）
⑬シナリオの抜粋を読む（2）
⑭コリア語単語を30個以上使って400字内外の自己紹介作文を書く（日本語が含まれても可能。）
⑮講師もしく級友と会話をする
⑯定期テスト

コリア語セミナーB

【担当】金　里博
【開講】後期　水3

■サブタイトル
楽しく日常会話ができ、辞書片手に新聞・雑誌を読んでみよう！（2）

■講義概要
コリア語の新聞・雑誌・文芸誌等を読む。脚本等を読むことによって会話力を習得する。

■到達目標
辞書が有れば新聞・雑誌が基本的に読める。発音が少々日本語的であっても基本的な日常会話が出来る。

■講義方法
毎回､新聞･雑誌等を音読する｡随時､時節に合った対話を行う。必要な文法事項を解説する。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（30%）　小テストは70点を合格とし、70点未満は不合格とする。追試は一度だけ認める。追試の合格点は80点とする。
定期試験（50%）
無断欠席は５点減点とする。やむを得ない欠席（忌引き・公務等）の場合、レポート提出で対応する用意は有る。

■テキスト
岡山善一郎　『朝鮮語を学ぶ』　白帝社　2000円

■参考文献
朴　炫国　『韓国語の発音と演習』　白帝社　2000円
熊谷明泰　『アリラン』　朝日出版社　2400円
吉本　一他著　『韓国語のとびら』　朝日出版社　2500円
コリア語文を正しく読め、会話し、作文するためには文法は不可欠なので上記の参考文献をよく読んで再学するのが良い。

■履修上の注意・担当者からの一言
語学は持続と連続が最も有効な学習方法であるので欠席は望ましくない。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
開講時、履修者全員にメールアドレスを提示するので前もって連絡してくれると次週の講義後に時間を割くことは可能である。また、疑問質問はメールしてくれると可能な限り早く答えるようにする。欠席は必ず事前に届け出ること。

■講義計画
①ハングル子音の復習（1）　順音・激音・濃音
②ハングル母音の復習（2）　基本母音・複合母音
③ハングル字母子音の復習（3）　終声音
④挨拶会話（1）　自己紹介（1）
⑤挨拶会話（2）　自己紹介（2）
⑥ハンギョレ新聞･東亜日報･中央日報等の記事を読み訳す（1）
⑦ハンギョレ新聞･東亜日報･中央日報等の記事を読み訳す（2）
⑧シナリオ「冬のそなた」を読み訳す（1）
⑨シナリオ「冬のそなた」を読み訳す（2）
⑩シナリオ「冬のそなた」を読み訳す（3）
⑪シナリオ「冬のそなた」を読み訳す（4）
⑫韓国文化評論を読み訳す（1）
⑬韓国文化評論を読み訳す（2）
⑭韓国観光時に使う会話（1）
⑮韓国観光時に使う会話（2）
⑯定期考査

社会学入門

【担当】高橋　由典
【開講】前期　月1

■サブタイトル
社会学的行為論の講義を通して、社会学の基本的な考え方を身につける。
■講義概要
人間の社会的行為は社会学的認識の一つの焦点である。これまで社会学は行為についてさまざまな知見を蓄積してきた。本講義では、それらの諸学説を詳しく検討するとともに、とりわけ感情的行為の社会学的な意味を明らかにすることをめざす。感情と社会、感情と行為の関係を明らかにすることを通して、ウェーバーやデュルケーム以来確立されてきた社会学的なものの見方についての理解を深める。
■到達目標
感情と行為の関係を考えることを通して、現代社会の諸問題を観察・分析できるようになること。
■講義方法
できる限り経験的事象に言及しつつ、授業を進めたい。
■成績評価の方法
定期試験（100%） 講義全体の理解度を評価する。
■テキスト
高橋由典 『行為論的思考－体験選択と社会学』 ミネルヴァ書房 3500円
■参考文献
授業中に適宜指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
意欲的に授業に参加すること。

■講義計画
①イントロダクション
②社会学は何を問題にするのか
③文化とは何か
④規範とは何か
⑤役割と社会
⑥行為についての考え方
⑦行為の類型
⑧感情と行為
⑨体験選択とは何か
⑩体験選択の社会学的意味
⑪体験選択と社会的行為
⑫魅了の体験選択
⑬溶解の体験選択
⑭開いた社会
⑮体験選択価値について

社会学入門

【担当】高橋　由典
【開講】後期　月1

■サブタイトル
社会学的行為論の講義を通して、社会学の基本的な考え方を身につける。
■講義概要
人間の社会的行為は社会学的認識の一つの焦点である。これまで社会学は行為についてさまざまな知見を蓄積してきた。本講義では、それらの諸学説を詳しく検討するとともに、とりわけ感情的行為の社会学的な意味を明らかにすることをめざす。感情と社会、感情と行為の関係を明らかにすることを通して、ウェーバーやデュルケーム以来確立されてきた社会学的なものの見方についての理解を深める。
■到達目標
感情と行為の関係を考えることを通して、現代社会の諸問題を観察・分析できるようになること。
■講義方法
できる限り経験的事象に言及しつつ、授業を進めたい。
■成績評価の方法
定期試験（100%） 講義全体の理解度を評価する。
■テキスト
高橋由典 『行為論的思考－体験選択と社会学』 ミネルヴァ書房 3500円
■参考文献
授業中に適宜指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
意欲的に授業に参加すること。

■講義計画
①イントロダクション
②社会学は何を問題にするのか
③文化とは何か
④規範とは何か
⑤役割と社会
⑥行為についての考え方
⑦行為の類型
⑧感情と行為
⑨体験選択とは何か
⑩体験選択の社会学的意味
⑪体験選択と社会的行為
⑫魅了の体験選択
⑬溶解の体験選択
⑭開いた社会
⑮体験選択価値について

社会思想史入門

【担当】村澤　真保呂
【開講】前期　水2

■サブタイトル
現代社会を理解するための思想史入門
■講義概要
私たちのいる社会は、一朝一夕にできあがったものではありません。人類が誕生して以来、多くの試行錯誤と経験を重ねて、いまの社会の姿ができあがっています。とくに市民革命以降の近代社会は、宗教や王権から解放された人々が、自分たちの理念や理想を掲げてつくりだされたものです。つまり「社会はどのようにあるべきか」という思想にもとづいて社会のさまざまな仕組みが考案されてきたのです。そのような社会の歴史を知るためにも、また社会をつくりあげてきたさまざまな理想の歴史を知るためにも、社会思想史を知ることはきわめて有益であるだけでなく、今後の社会のあり方を考えるために不可欠と言えるでしょう。
　この授業では、古代ギリシアにはじまる西欧の社会思想の歴史を、その時代の社会的・文化的背景の歴史とかさねあわせて理解することをつうじて、現代社会の課題について考察できるようにすることを目的にしています。なお、シラバスに書かれているのはあくまで予定であり、実際には学生諸君の理解度や関心にあわせて内容を変更することがあります。
■到達目標
社会のあり方と思想の関連について理解する。
■講義方法
講義形式を基本としつつ、必要におうじて映像資料や音声資料を利用する。
■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（80%）
評価基準はあくまで予定であり、授業のなかで学生との対話をつうじて最適な評価方法を決定する。
■テキスト
特になし
■参考文献
授業中に指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
私語や居眠り、途中入室などの授業妨害にたいしては、受講資格の取り消しをはじめとした厳しい処置をとる。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業中に指示する。
■講義計画
①ガイダンス
②古代ギリシア：プラトンとアリストテレス
③中世ヨーロッパ：カトリック神学と法
④ルネサンスと宗教改革：ルター、エラスムス、トマス・モア
⑤絶対王政と科学のはじまり
⑥国際法の構想：グロティウスとカント
⑦近代精神と新しい社会（1）：デカルトとホッブス
⑧近代精神と新しい社会（2）：スピノザとライプニッツ
⑨近代国家の構想（1）：ルソー
⑩近代国家の構想（2）：ロック、モンテスキュー
⑪市場の理論：ベンサムからアダム・スミスへ
⑫近代社会の矛盾（1）：マルクス
⑬近代社会の矛盾（2）：社会学と社会主義
⑭現代社会の課題：ポスト近代の理論
⑮まとめと補足

社会思想史入門

【担当】村澤　真保呂
【開講】後期　水2

■サブタイトル
現代社会を理解するための思想史入門
■講義概要
私たちのいる社会は、一朝一夕にできあがったものではありません。人類が誕生して以来、多くの試行錯誤と経験を重ねて、いまの社会の姿ができあがっています。とくに市民革命以降の近代社会は、宗教や王権から解放された人々が、自分たちの理念や理想を掲げてつくりだされたものです。つまり「社会はどのようにあるべきか」という思想にもとづいて社会のさまざまな仕組みが考案されてきたのです。そのような社会の歴史を知るためにも、また社会をつくりあげてきたさまざまな理想の歴史を知るためにも、社会思想史を知ることはきわめて有益であるだけでなく、今後の社会のあり方を考えるために不可欠と言えるでしょう。
　この授業では、古代ギリシアにはじまる西欧の社会思想の歴史を、その時代の社会的・文化的背景の歴史とかさねあわせて理解することをつうじて、現代社会の課題について考察できるようにすることを目的にしています。なお、シラバスに書かれているのはあくまで予定であり、実際には学生諸君の理解度や関心にあわせて内容を変更することがあります。
■到達目標
社会のあり方と思想の関連について理解する。
■講義方法
講義形式を基本としつつ、必要におうじて映像資料や音声資料を利用する。
■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（80%）
評価基準はあくまで予定であり、授業のなかで学生との対話をつうじて最適な評価方法を決定する。
■テキスト
特になし
■参考文献
授業中に指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
私語や居眠り、途中入室などの授業妨害にたいしては、受講資格の取り消しをはじめとした厳しい処置をとる。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業中に指示する。
■講義計画
①ガイダンス
②古代ギリシア：プラトンとアリストテレス
③中世ヨーロッパ：カトリック神学と法
④ルネサンスと宗教改革：ルター、エラスムス、トマス・モア
⑤絶対王政と科学のはじまり
⑥国際法の構想：グロティウスとカント
⑦近代精神と新しい社会（1）：デカルトとホッブス
⑧近代精神と新しい社会（2）：スピノザとライプニッツ
⑨近代国家の構想（1）：ルソー
⑩近代国家の構想（2）：ロック、モンテスキュー
⑪市場の理論：ベンサムからアダム・スミスへ
⑫近代社会の矛盾（1）：マルクス
⑬近代社会の矛盾（2）：社会学と社会主義
⑭現代社会の課題：ポスト近代の理論
⑮まとめと補足

心理学入門

【担当】破田野　智美
【開講】前期　月1

■講義概要
初学者にとっての心理学のイメージは、一面的でしかないことが多い。しかし実際の心理学の対象は広く、デザインや購買行動、学習、家族、テストなどなど、われわれにとって日常的な事柄に密接に関連している。
　そこでこの授業では、日常的話題と結びつけながら、できるだけ広い範囲の「心理学」について概説する。またテーマに合わせ、授業内で極簡単な実験を行い、心理学の研究手法にも触れる。受講者の一人一人が心理学の全体像を把握し、基礎的な知識を確実に身につけられる講義としたい。

■到達目標
人のこころや行動を科学的に捉えようとする心理学の考え方を理解し、今後自らが課題に向き合ったときに、心理学の知識や考え方を自分のものとして運用できるようになることを目標とする。

■講義方法
基本的に自作の資料に基づき講義形式で進める。また各テーマの理解の促進のために授業内で簡単な作業や心理データ収集の実習を行う。このため授業内レポートの提出を求めることがある。

■成績評価の方法
定期試験（90%）
そ の 他（10%）
原則として定期試験に基づいて評価するが、授業内レポートなど授業への参加の程度を総合して加点する。

■テキスト
特になし

■参考文献
松田隆夫・八木保樹・土田宣明・福原浩之・藤健一・星野裕司・柴田直峰　『心理学概説―心と行動の理解』　培風館　1900円
小川捷之・椎名健　『心理学パッケージ1－6』　ブレーン出版

■講義計画
①心理学の課題と考え方
②視る心理学1
③視る心理学2
④聴く心理学
⑤嗅ぐ・味わう心理学
⑥触れる・痛みの心理学
⑦記憶の心理学1
⑧記憶の心理学2
⑨思考心理学
⑩学習心理学
⑪発達心理学
⑫教育心理学
⑬社会心理学
⑭臨床心理学
⑮心理学の研究方法

心理学入門

【担当】関口　茂久
【開講】前期　月3

■サブタイトル
脳（Brain）と心（Mind）と行動（Behavior）

■講義概要
最近、「モーツァルト効果」が話題になっています。これは、モーツァルトの音楽を聴くと、誰もが安らいだ気分になって頭がスッキリする作用があるという事です。それでは、なぜモーツァルトの音楽を聴くと心が安らぎ頭がスッキリするのでしょうか？それは、音楽を聴くということは、耳だけで聞くのではなく、脳で聴くからなのです。音楽を聴いた脳は、「モーツァルトの音楽」を理解するだけでなく、モーツァルトが作曲した音楽が、他の音楽よりも特別に脳の中心部にある「情動の中枢」を刺激して「安らいだ気分」をもたらすからなのです。このように、心理学は心を脳の働きを通して表出する行動を科学的に解析する学問なのです。専門的には、心には認知、知覚、記憶と学習の働きがあり、それらの働きが基礎になって、考える自分や感情を表に出す自分とか言葉や意志を伝える自分があるのです。現代の心理学は、心を科学するための方法を多く編み出しました。それが、心理学的方法です。講義では、様々な心の働きを調べるための方法を解説します。

■到達目標
心が体とくに脳の成熟と密接に関係していることが分かります。また、様々な行動が対人関係や社会的状況によって現れることが理解できるようになるでしょう。

■講義方法
講義内容は、テキストをスライド編集して提示します。また、簡単な知覚検査と記憶検査を実施することによって、自分の心の働きを体験してみましょう。

■系統的履修
哲学と社会学に関する科目

■成績評価の方法
その他（100%）
期末試験の成績（80%）とテーマについてのレポート（20%）により総合的に評価します。

■テキスト
関口茂久　『心理学入門（改訂版）』　ふくろう出版　2000円

■参考文献
参考書などは瀬田図書館に最新の心理学のテキストを用意しておきましたので参照してください。

■履修上の注意・担当者からの一言
心理学は応用範囲が広いので、基礎知識の理解が不可欠です。そのためには、心理学的概念を正確に憶えましょう。また、テキストは講義の参考資料ですから、授業に出席して講義内容を補充する必要があります。わかない点等は、講義終了時に質問時間を用意しておきますので、聞いてください。

■講義計画
①心理学には、多くの専門領域があります。授業は、各専門領域ごとのテーマ（テキストの各章のタイトル）に従って講義を進めます。
②私の心はどこにあるの？
③心をコントロールする脳神経系
④成熟する脳と行動発達
⑤心の窓と知覚
⑥知覚検査の実施
⑦学習する脳と行動
⑧記憶は「私」をつくる
⑨記憶検査の実施
⑩情に流される
⑪心の不調とケア
⑫共感する心
⑬コオロギズム：け高い献身愛
⑭映画「野生霊長類の社会」の課題
⑮心を測る：心理測定法

スポーツ技術学A

【担当】種目・開講曜講時による
【開講】学科により異なる

■講義概要
現代人の身体運動は交通手段の発達や技術革新などによってますます低下している。身体運動の低下は、筋力の低下、体脂肪率の増大を引き起こし、社会問題のひとつである生活習慣病の一因にもなっている。また、スポーツや身体活動は、達成感や充実感、ストレス解消などの効果を持つが、運動やスポーツに参加する人は年々減少している。このような背景から、我が国では日常生活での運動の習慣化が求められている。本授業では、スポーツを習慣化するためのファーストステップとして、以下の内容を展開する。
1）スポーツの本質に迫り、独自の面白さを認識する。
2）スポーツの本質との関連でスポーツ技術を系統的に獲得する。
3）自己の体力を分析し、改善策を探る。
スポーツ技術学は、一年次の履修で、前･後期の2種目のスポーツを行う。

■到達目標
1. スポーツを自主的・集団的に実践できる力量が高まる。
2. 自己の体力を客観的に分析できる能力が養われる。

■講義方法
より効果的にスポーツ技術の獲得を目指すため、板書、資料配布、視聴覚機器を利用する。スポーツ技術学履修について、
1）1年次配当必修で、前期1単位、後期1単位、計2単位を修得する（どちらか不認定になった場合は次年度再履修する）。
2）ソフトボール、卓球、バスケットボール、テニス、ミニサッカーの5種目の中から指定された種目を履修する。
3）登録方法は、①予備登録およびＷｅｂ登録、②たて3㎝よこ2.5㎝の写真（出席カード用）2枚を準備し、最初の授業時間（体育館メインフロア）に持参する。なお最初の授業時にはトレーニングウエアは不要である。

■成績評価の方法
平 常 点（70%） 受講態度
レポート（30%） 体力測定に関するレポート
各学期のスポーツ活動に対する積極的な態度を重視することと、スポーツテスト、出席状況、レポート等で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
○スポーツ技術学を履修するにあたって、積極的な態度で取り組んでくれることを期待する。
○体力測定②は、体育館シューズを持参すること。

■講義計画
①オリエンテーション（体育館メインフロアに集合､更衣の必要なし）
②各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
③各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
④各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑤各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑥各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑦各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑧各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑨各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑩各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑪各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑫体力測定①
⑬体力測定②（体育館に集合）
⑭各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑮各種スポーツ活動とまとめ（詳細については､講義時に指示）

スポーツ技術学B

【担当】種目・開講曜講時による
【開講】学科により異なる

■講義概要
現代人の身体運動は交通手段の発達や技術革新などによってますます低下している。身体運動の低下は、筋力の低下、体脂肪率の増大を引き起こし、社会問題のひとつである生活習慣病の一因にもなっている。また、スポーツや身体活動は、達成感や充実感、ストレス解消などの効果を持つが、運動やスポーツに参加する人は年々減少している。このような背景から、我が国では日常生活での運動の習慣化が求められている。本授業では、スポーツを習慣化するためのファーストステップとして、以下の内容を展開する。
1）スポーツの本質に迫り、独自の面白さを認識する。
2）スポーツの本質との関連でスポーツ技術を系統的に獲得する。
3）自己の体力を分析し、改善策を探る。
スポーツ技術学は、一年次の履修で、前･後期の2種目のスポーツを行う。

■到達目標
1. スポーツを自主的・集団的に実践できる力量が高まる。
2. 自己の体力を客観的に分析できる能力が養われる。

■講義方法
より効果的にスポーツ技術の獲得を目指すため、板書、資料配布、視聴覚機器を利用する。スポーツ技術学履修について、
1）1年次配当必修で、前期1単位、後期1単位、計2単位を修得する（どちらか不認定になった場合は次年度再履修する）。
2）ソフトボール、卓球、バスケットボール、テニス、ミニサッカーの5種目の中から指定された種目を履修する。

■成績評価の方法
平 常 点（70%） 受講態度
レポート（30%） 体力測定に関するレポート
各学期のスポーツ活動に対する積極的な態度を重視することと、スポーツテスト、出席状況、レポート等で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
○スポーツ技術学を履修するにあたって、積極的な態度で取り組んでくれることを期待する。
○体力測定②は、体育館シューズを持参すること。

■講義計画
①オリエンテーション（体育館メインフロアに集合､更衣の必要なし）
②各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
③各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
④各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑤各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑥各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑦各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑧各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑨各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑩各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑪各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑫体力測定①
⑬体力測定②（体育館に集合）
⑭各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑮各種スポーツ活動とまとめ（詳細については､講義時に指示）

生活の中の化学

【担当】中沖　隆彦、糟野　潤
【開講】後期　木3

■講義概要
私たちが現代社会で生活していく上で、化学物質の使用や化学反応は日常いたるところで見られます。普段何気なく使っていて、どうしてこうなるのか？と不思議に思ったことはないでしょうか？本講義では生活に密着した身近なところで見られる化学に関する話や実際の化学製品について化学の知識があまりなくても平易に解説します。例えば毎日身に付けている洋服の素材は？いい香りがするのはなぜ？環境問題はどうなっているの？といったことをとりあげます。

■到達目標
身の回りのいたるところに見られる「化学」を身近に感じてもらい、化学に対する関心と知識が深まる。

■講義方法
1回の講義でトピックを決めて話をします。演示実験や適宜パワーポイント等の視覚的な教材も使用します。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）　毎回小エッセーを授業の終わりに書いてもらいます。
定期試験（70%）　語句説明や論述式問題から評価する。
定期試験を受けるには60%以上の出席が必要です。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
化学の話を肩ひじ張らずにします。講義内容はビギナー向けですので化学の知識がなく化学式が苦手という人でも大歓迎です。より高度な内容を望む学生は他の講義を選択してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業が終わったあと研究室で行います。

■講義計画
①グリーンケミストリー
②合成繊維
③界面活性剤
④空が青いのは?－色の化学－
⑤ゲルの化学－砂漠の緑化に役立つ吸水性高分子－
⑥香りの化学
⑦最先端ディスプレイ－液晶orプラズマ？－
⑧中間テスト
⑨植物のつくるエネルギー－光合成－
⑩微生物発酵でつくられる酒、味噌
⑪コスメの化学
⑫水の不思議
⑬原子力エネルギー
⑭レアメタル
⑮電池の歴史

生活の中の数学

【担当】山岸　義和、國府　宏枝
【開講】前期　水3

■講義概要
前半は、ひまわりの種などの葉序と連分数と黄金比の幾何について、そして利息と生命保険と年金について、山岸が講義する。
後半は、トポロジー、カオス理論など、現代数学のアイデアの一端について國府が解説する。

■到達目標
日常の身のまわりに隠れた数学に気づく。論理的に考えられるようになる。

■講義方法
必要に応じてPowerPointを利用して講義を行います。eラーニングのページを利用してレポート提出を実施する予定。

■成績評価の方法
その他（100%）
前半の成績評価と後半の成績評価の相乗平均に基づいて評価する。
前半は、レポートと、中間試験の到達度の積で評価する。
後半は、レポートと、後半試験に基づいて評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
上村文隆　『生き物たちのエレガントな数学』　技術評論社
1580円
他の文献は講義の中で連絡します。

■履修上の注意・担当者からの一言
前半は、電卓を必要とすることがある。

■講義計画
①ひまわりの葉序
②利息、割引債
③ファレイ数列、フィボナッチ数列
④確定年金、確定利付債券
⑤黄金比、連分数、複素数の幾何
⑥死亡保険、生命年金
⑦前半のまとめ
⑧中間試験
⑨安上がりな高速道路整備－グラフ理論と最小シュタイナー木
⑩一筆書きできる図形できない図形－グラフ理論
⑪コーヒーカップ=ドーナツ－トポロジー
⑫バーコードのお話-- 誤り訂正符号
⑬アンサーを変えるのと変えないのどっちが得？－確率のパラドクス
⑭小テストと解説
⑮お天気予報とカオス-- 力学系

生活の中の統計技術

【担当】阪井　一繁

【開講】前期　月３

■講義概要

多数のデータを数学的に調べる「統計」をテーマに、基礎的な概念、計算手法を解説します。数学の話だから難しそう、と敬遠する人もいると思いますが、文系・理系を問わず、いろいろな場面で耳にするこの「統計」について、知らないままでいるのは非常にもったいないですよ。この講義では、できるだけ難しい数学は使わないようにしながら（ほぼ中学生レベルの数学のみ）、統計の本質に迫ります。

■到達目標

統計学の基本的な知識と計算力を身につける。

■講義方法

いろいろな例題を示し、それを解きながら基本事項を解説していきます。要点はプリントにまとめて配布する予定です。

■系統的履修

特になし

■成績評価の方法

小テスト（20%）　講義の進行状況を考慮して１、２回行う予定です（日程は講義中にお知らせします）。

定期試験（80%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

特に予備知識は必要としませんが、どうしても積み上げ式の内容になることはやむを得ないので、講義への積極的な取り組み（予習・復習も）を怠ると遅れを取り戻すことは困難になります。ただ、なるべく楽しい講義になるよう工夫をするので、受講生のみなさんも流れに「乗って」きてください。また、「数学と聞くだけで嫌」という思い込みはひとまず忘れてから受講しましょう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

自習してもわからないところは遠慮なく質問をしてください。オフィスアワー（曜講時は講義中に案内します）にでも部屋にきてくれれば対応します。

■講義計画

①統計とは？
②度数分布
③平均・分散・標準偏差
④二つのデータの関係を調べる（相関の考え方）
⑤相関・回帰直線と最小２乗法
⑥確率分布とは？
⑦正規分布
⑧偏差値・IQ
⑨標本と母集団
⑩推定とは？
⑪推定量の計算
⑫検定とは？
⑬平均値の検定
⑭適合度の検定
⑮全体の復習

生活の中の物理

【担当】石崎　俊雄
【開講】後期　月1

■サブタイトル
身の回りの物理と科学技術

■講義概要
身の回りの科学技術に限っても、その進歩は著しく、益々高度になると共に複雑になり、その仕組みを理解して使うことは益々難しくなっている。それ故に、その基本的な仕組みを知って、正しく使うのみならず、人類の将来に貢献する科学技術の推進のさせ方がより強く求められている。
この講義では、誰もが恩恵に浴している科学技術に使われている物理的仕組みを、身の回りの物理現象に注目することから、平易に理解することを目的としている。毎回、話題を一つ取り上げ、ビジュアルな資料提示の手段を採り入れたりすることにより、その物理的現象に興味を持ち注目することから始めて、その物理的仕組みについて理解していく。
文化系、理科系の履修にかかわらず、身の回りの物理現象に対する直観的な理解を促進し、科学に対する興味を刺激するようなわかり易い講義を行う。

■到達目標
身の回りの物理現象ならびに科学技術の仕組みと理屈に強く関心を持つようになる。同時に、物理は数少ない基本法則から、論理的に物理現象を解明したり説明したりすること、さらに応用として人に役立つ便利で確実に動作する機械を作るところに特長があるとわかることが講義目標とも言える。

■講義方法
授業計画に示すように、毎回一つのテーマについて、身の回りの自然としての物理現象または科学技術としての物理学の応用例について、直観的な理解が深まるような授業を行う。

■系統的履修
一般に物理関係の科目を受講すると効果的であるはずであるが、論理的に考えることを訓練する科目はすべて役に立つ。

■成績評価の方法
平常点（100%）　講義を頭と耳と目を使って聴いているか、さらに講義内容を理解しているかを問う小テストにより評価する。原則として毎回実施する。
平常点を小テストで評価することの意味をよく認識してください。講義を聴いて考えているか努力しているか、その度合い、即ち平常点を、小テストで調べます。能力テストではありません。従って、問いに対して、講義内容を用いて自分の言葉で回答してはじめて評価されます。理由が何であれ、講義を聴いていないのですから、遅刻者は小テストを受ける資格はありません。注意する必要はないと思いますが、代筆等の不正行為に対しては関係した者全員が不合格になります。

■テキスト
講義において、主としてPowerPointにより示す内容、教壇で見せる実験内容、さらに他のマルチメディアを使って示す内容

■参考文献
藤城敏幸　『生活の中の物理』　東京教学社　1,800円
広く科学分野の出版物、書籍から科学雑誌、大手の新聞の科学欄の記事に関心を持って読んでください。

■履修上の注意・担当者からの一言
出席しても、耳を貸すだけでは修得できません。教壇で説明していることをしっかり見ながら聞くことが必須です。さらに、その場で考えることが要求されます。また、理解した内容を、説明に適した簡単なスケッチ図やグラフを添えて、的確な文章で表現する努力が評価されます。なお、高等学校で物理を学んでいることを前提にすることはありません。講義の時間に学ぶ基本概念と法則から理解ができるはずと考えてください。勿論、そのためには小中学校で教わった理科と算数と、大学生レベルの日本語と、勉学の努力は前提になります。さらに、成績評価の方法の項に記載した内容に注意してください。

■講義計画
①振り子の原理……位置エネルギーと運動エネルギー
②てこの原理……支点、力点、作用点
③ロケットの仕組み……アポロからスペースシャトル、はやぶさまで
④引力と遠心力……人工衛星の話（宇宙ステーションから静止衛星まで）
⑤モータと発電機……電気はどこで作られる。電車の話。
⑥電波の利用……ラジオ、テレビの話
⑦電子レンジの原理……なぜ温まるか
⑧楽音の周波数の規則、音階、和音……十二平均率音階、純正調音階、和音
⑨ギターの絃の振動、たいこの皮の振動……波の伝搬と反射の話
⑩温度と熱……物の温まり方、熱の伝わり方
⑪トランジスタと半導体……エレクトロニクスの話
⑫粒子と波動の２重性……量子力学と特殊相対性理論
⑬地球と宇宙……気候変動、オーロラの話
⑭電話とインターネット、コンピュータの話
⑮携帯電話の仕組みと中身

政治学入門

【担当】山崎　充彦
【開講】前期　木3

■サブタイトル
議会制と選挙制度、その歴史と現実、「政治におけるタブーへの挑戦」

■講義概要
今日、我が国の議会制度は、「熱狂」と「無関心」という相反する問題点を抱えている。今は昔となったとはいえ、「小泉劇場」と称され、いわゆる「小泉チルドレン」（幼稚な名称だが）なるものを生み出した「大衆的熱狂」と、反面、低投票率に象徴される「政治的無関心」とが同時進行の状態にある。「小泉劇場」に熱狂しつつも、同時に、国会の現状に失望感と幻滅を抱く国民は少なくない。だが、我々国民を失望させている国会議員たちを選び出したのは他ならぬ、我々国民自身であるという点も忘れてはならない。「一国の政治の現状は、その国民のレヴェルを如実に反映する」、「国民の知的レヴェルを超えた政治など持ち得ない」、としばしば指摘される。つまり、失望させられる政治像・政治家像もまた、我々自身の姿という面を否定できないのである。選挙期間中に性犯罪を犯し、後にそれに因り辞職し有罪判決を受けた破廉恥なタレントに200万を超える票を投じ、知事の座につけたのは誰であったのか、考えてみられたい。「国会で所信表明演説を行った直後に辞意表明するようなお粗末な総理大臣」、「マンガのみを愛読し、中学生程度の漢字読解力すら欠如した総理大臣」を選んだのはどこの国の国会議員たちであったのか、その国会議員を選んだのは誰であったのか！

この講義では、現代民主主義にとって不可欠な制度となった議会制を主たる対象とし、議会制にとって不可欠な制度である選挙制度の原理や歴史、そして現代日本の政治の現状について考える。

我が国の主権者たる国民は、本人の専攻・社会的立場に関わりなく選挙に際して等しく1票を有する。そうした国民有権者が、政治に参加するに際して最小限知っておくべき知識・判断規準の伝授を目標とする。

■到達目標
この講義では、龍谷大学建学の理念たる「共生」に則り、政治におけるいかなる「タブー」も打破することを念頭においている。特定の政党・団体を支持・宣伝しないのはもちろん、同時に、特定の政党・団体に遠慮することもない。政治に関わるすべての組織について、忌憚のない批評・批判を行い、時として内幕暴露も行う。一国民たる我々は、権力を持つ者たちに対して、常に「批判的精神」を持つことが絶対に必要であるからだ。

仮に、講義の内容に関して、特定政党・特定団体に関係する学生諸君から「抗議状」が出されたとしても、当該学生諸君との「共生」を目指し、相互寛容の精神を以て、冷静かつ真摯な姿勢で話し合うであろうが、「抗議状提出という名目を以ての言論弾圧行為」には絶対に屈せず、「特定組織のみへの批判停止の要求＝特定組織だけをタブー視すること」には絶対に応じない。370年の歴史と伝統を有する龍谷大学において、「学問の自由」「言論の自由」「思想信条の自由」擁護を貫徹し、政治上、如何なる立場にも左右されることのない、「タブー打破」を掲げた講義とする。

様々な考え方を持つ者が「共生」すること、こうした相互の寛容さこそが、政治世界のみならず現代社会に求められるものであり、それこそが龍谷大学建学の理念である。意見が異なるものであっても、非難・抗議・排除するのではなく、互いに寛容の精神を持ち、「共生」することが龍谷大学人として望ましい姿であろうし、それは一般社会人としても高い評価を受けることにもなろう。”Nobody is Right”！

■講義方法
通常の講義（口述）形式で行う。講義で話したことを、各自、頭で整理しつつノートをとってもらいたい。高校の授業とは違って、講義内容のすべてを板書するわけではないことに留意されたい。
尚、シラバスは一つの目安であり、必要に応じて入れ替えなど、状況によって最適と思われる形で講義を運営する方針であることを事前了解してもらいたい。

■系統的履修
法学入門、日本国憲法など。

■成績評価の方法
定期試験（100%）　論述式試験
例年、受講生多数につき、出席調査などは不可能である。従って、出席点加算や講義中の小テスト、レポート提出などは一切行わない。

■テキスト
特になし

■参考文献
必要に応じて、講義中に紹介する。但し、「これ1冊ですべて理解可能」といったような安直な本など存在しないことに留意されたい。

■履修上の注意・担当者からの一言
私語、居眠り、マンガなどを読むことなど絶対厳禁。携帯電話・メールの使用も絶対に認めない。教壇上から見渡せば、使用している姿は一目瞭然であり、注意を受ける前にあらかじめ電源を切っておくこと。　態度の悪い者には、退室を命じることもあるので、あらかじめ留意の上、登録履修されたい。

■講義計画
①はじめに　～講義内容の説明・講義方針と「諸注意事項」の伝達
②議会制や選挙制度の基本原理、さまざまな矛盾点など
③参議院の選挙制度①～過去：全国区
④参議院の選挙制度②～過去：拘束名簿式比例代表制
⑤参議院の選挙制度③～現在：非拘束名簿式比例代表制
⑥衆議院の選挙制度①～過去：中選挙区制
⑦衆議院の選挙制度②～現在：小選挙区比例代表並立制
⑧戦後日本の政治体制～「五五年体制」の成立とその意味
⑨「五五年体制」の実態
⑩「五五年体制」の功罪～自民党長期政権の光と影
⑪「五五年体制」の崩壊と連立政権時代の到来
⑫「連立政権」の意味、功罪など
⑬衆参両院のいわゆる「ねじれ」状態について
⑭まとめ－現代日本政治の諸問題

政治学入門

【担当】山崎　充彦
【開講】後期　木3

■サブタイトル
議会制と選挙制度、その歴史と現実、「政治におけるタブー」への挑戦

■講義概要
今日、我が国の議会制度は、「熱狂」と「無関心」という相反する問題点を抱えている。今は昔となったとはいえ、「小泉劇場」と称され、いわゆる「小泉チルドレン」（幼稚な名称だが）なるものを生み出した「大衆的熱狂」と、反面、低投票率に象徴される「政治的無関心」とが同時進行の状態にある。「小泉劇場」に熱狂しつつも、同時に、国会の現状に失望感と幻滅を抱く国民は少なくない。だが、我々国民を失望させている国会議員たちを選び出したのは他ならぬ、我々国民自身であるという点も忘れてはならない。「一国の政治の現状は、その国民のレヴェルを如実に反映する」、「国民の知的レヴェルを超えた政治など持ち得ない」、としばしば指摘される。つまり、失望させられる政治像・政治家像もまた、我々自身の姿という面を否定できないのである。選挙期間中に性犯罪を犯し、後にそれに因り辞職し有罪判決を受けた破廉恥なタレントに200万を超える票を投じ、知事の座につけたのは誰であったのか、考えてみられたい。「国会で所信表明演説を行った直後に辞意表明するようなお粗末な総理大臣」、「マンガのみを愛読し、中学生程度の漢字読解力すら欠如した総理大臣」を選んだのはどこの国の国会議員たちであったのか、その国会議員を選んだのは誰であったのか！

この講義では、現代民主主義にとって不可欠な制度となった議会制を主たる対象とし、議会制にとって不可欠な制度である選挙制度の原理や歴史、そして現代日本の政治の現状について考える。

我が国の主権者たる国民は、本人の専攻・社会的立場に関わりなく選挙に際して等しく1票を有する。そうした国民有権者が、政治に参加するに際して最小限知っておくべき知識・判断規準の伝授を目標とする。

■到達目標
この講義では、龍谷大学建学の理念たる「共生」に則り、政治におけるいかなる「タブー」も打破することを念頭においている。特定の政党・団体を支持・宣伝しないのはもちろん、同時に、特定の政党・団体に遠慮することもない。政治に関わるすべての組織について、忌憚のない批評・批判を行い、時として内幕暴露も行う。一国民たる我々は、権力を持つ者たちに対して、常に「批判的精神」を持つことが絶対に必要であるからだ。

仮に、講義の内容に関して、特定政党・特定団体に関係する学生諸君から「抗議状」が出されたとしても、当該学生諸君との「共生」を目指し、相互寛容の精神を以て、冷静かつ真摯な姿勢で話し合うであろうが、「抗議状提出という名目を以ての言論弾圧行為」には絶対に屈せず、「特定組織のみへの批判停止の要求＝特定組織だけをタブー視すること」には絶対に応じない。370年の歴史と伝統を有する龍谷大学において、「学問の自由」「言論の自由」「思想信条の自由」擁護を貫徹し、政治上、如何なる立場にも左右されることのない、「タブー打破」を掲げた講義とする。

様々な考え方を持つ者が「共生」すること、こうした相互の寛容さこそが、政治世界のみならず現代社会に求められるものであり、それこそが龍谷大学建学の理念である。意見が異なるものであっても、非難・抗議・排除するのではなく、互いに寛容の精神を持ち、「共生」することが龍谷大学人として望ましい姿であろうし、それは一般社会人としても高い評価を受けることにもなろう。”Nobody is Right”！

■講義方法
通常の講義（口述）形式で行う。講義で話したことを、各自、頭で整理しつつノートをとってもらいたい。高校の授業とは違って、講義内容のすべてを板書するわけではないことに留意されたい。
尚、シラバスは一つの目安であり、必要に応じて入れ替えなど、状況によって最適と思われる形で講義を運営する方針であることを事前了解してもらいたい。

■系統的履修
法学入門、日本国憲法など。

■成績評価の方法
定期試験（100%）　論述式試験
例年、受講生多数につき、出席調査などは不可能である。従って、出席点加算や講義中の小テスト、レポート提出などは一切行わない。

■テキスト
特になし

■参考文献
必要に応じて、講義中に紹介する。但し、「これ1冊ですべて理解可能」といったような安直な本など存在しないことに留意されたい。

■履修上の注意・担当者からの一言
私語、居眠り、マンガなどを読むことなど絶対厳禁。携帯電話・メールの使用も絶対に認めない。教壇上から見渡せば、使用している姿は一目瞭然であり、注意を受ける前にあらかじめ電源を切っておくこと。　態度の悪い者には、退室を命じることもあるので、あらかじめ留意の上、登録履修されたい。

■講義計画
①はじめに　～講義内容の説明・講義方針と「諸注意事項」の伝達
②議会制や選挙制度の基本原理、さまざまな矛盾点など
③参議院の選挙制度①～過去：全国区
④参議院の選挙制度②～過去：拘束名簿式比例代表制
⑤参議院の選挙制度③～現在：非拘束名簿式比例代表制
⑥衆議院の選挙制度①～過去：中選挙区制
⑦衆議院の選挙制度②～現在：小選挙区比例代表並立制
⑧戦後日本の政治体制～「五五年体制」の成立とその意味
⑨「五五年体制」の実態
⑩「五五年体制」の功罪～自民党長期政権の光と影
⑪「五五年体制」の崩壊と連立政権時代の到来
⑫「連立政権」の意味、功罪など
⑬衆参両院のいわゆる「ねじれ」状態について
⑭まとめ－現代日本政治の諸問題

生命と科学

【担当】宮武　智弘
【開講】前期　金１

■講義概要
生体の中に含まれる様々な化学物質は生命活動において重要な役割を果たしている。私たちはそれら生体物質の構造と機能を理解し生活の向上のために巧みに利用しており、物質生産や医療など様々な分野で生体に由来する材料が利用されている。一方で、こうした分子生物学の進歩はクローン技術など生命倫理に関わる問題も引き起こしている。本講義では生体内で活躍している分子のすがたを解説し、それらと私たちの生活との関わりについても紹介したい。

■到達目標
生体物質についての知識を得ることによって、それらが私たちの生活に与える影響について考えることができるようになる。

■講義方法
参考書の内容に準じながら、適時資料を配布する。

■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（80%）

■テキスト
特になし

■参考文献
柳田充弘, 佐藤文彦, 石川冬木編　『生命科学』　東京化学同人　2400円

■履修上の注意・担当者からの一言
生体に含まれる化学物質は複雑なものが多いが、できるだけ平易に説明するよう努めたい。よって、高校や大学で化学を履修していなくとも、生物に興味がある学生の受講を薦める。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
研究室　瀬田学舎　１号館207号室
オフィスアワー　（月）５講時、（木）４講時

■講義計画
①生命と化学物質
②生命科学と私たちの生活
③アミノ酸とタンパク質
④タンパク質のはたらき
⑤酵素のはたらき
⑥遺伝子とDNA
⑦遺伝情報の伝達
⑧細胞と生殖
⑨生命倫理
⑩バイオテクノロジー
⑪脂質と脂肪
⑫糖質の科学
⑬生命科学と環境
⑭光合成と生命のエネルギー
⑮まとめ

中国語ＩＡ

【担当】張　健同
【開講】前期　月１

■講義概要
中国語ＩＡは初めて中国語を学ぶ人を対象に基礎から学びます。中国語を学ぶためには発音記号に相当する「ピンイン」を先に学ぶことになります。中国語の発音の中には日本語にない発音も数多く含まれていますので、それを徹底的に練習することになります。発音の学習のほかに、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も学びます。

■到達目標
中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、簡単な日常会話を身につけることになります。

■講義方法
講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。二人一組となって練習し、先生と会話する場合もありますが、その都度、先生は学習者の発音の誤りや表現をなおします。

■系統的履修
中国語ＩＢ、ＩＣとＩＤ及び中国語セミナー

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
小テスト（20%）
定期試験（60%）
そ の 他（10%）　宿題、授業態度及び期末テストの結果を総合して評価します。

■テキスト
竹山相哲［ほか］共著　『超中国語入門』　晃洋書房　2520円

■参考文献
※授業中に紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つけましょう。

■講義計画
講義時に指示します。

中国語ＩＡ

【担当】李　愛華
【開講】前期　水３

■講義概要
中国語ＩＡは初めて中国語を学ぶ人を対象に基礎から学びます。中国語を学ぶためには発音記号に相当する「ピンイン」を先に学ぶことになります。中国語の発音の中には日本語にない発音も数多く含まれていますので、それを徹底的に練習することになります。発音の学習のほかに、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も学びます。

■到達目標
中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、簡単な日常会話を身につけることになります。

■講義方法
講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。二人一組となって練習し、先生と会話する場合もありますが、その都度、先生は学習者の発音の誤りや表現をなおします。

■系統的履修
中国語ＩＢ、ＩＣとＩＤ及び中国語セミナー

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
小テスト（20%）
定期試験（70%）

■テキスト
竹山相哲［ほか］共著 『超入門中国語』 晃洋書房

■参考文献
※授業中に紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つけましょう。

■講義計画
講義時に指示します。

中国語ＩＢ

【担当】張　健同
【開講】後期　月１

■講義概要
中国語ＩＢは、中国語ＩＡを学習した人、それ相応のレベルの中国語を学んだ受講生を対象にする講義です。文の構造を学び、日常会話の練習も行いますが、発音の練習も続けます。中国語の基本（発音、単語、基礎文法）を身につけるための訓練として会話の量を増やし、中国語に対する理解を深めるための背景知識も学びます。

■到達目標
ピンイン表記の中国語が読め、学んだ日常会話は流暢に話せることを目標にします。

■講義方法
講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。講義時に提示するテーマについて皆で話すこともあります。

■系統的履修
中国語ＩＡ、ＩＣとＩＤ及び中国語セミナー

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
小テスト（20%）
定期試験（60%）
そ の 他（10%）　宿題、授業態度及び期末テストの結果を総合して評価します。

■テキスト
竹山相哲［ほか］共著 『超中国語入門』 晃洋書房　2520円

■参考文献
※授業中に提示します。

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つけましょう。

■講義計画
講義時に指示します。

中国語ＩＢ

【担当】李　愛華
【開講】後期　水３

■講義概要
中国語ＩＢは、中国語ＩＡを学習した人、それ相応のレベルの中国語を学んだ受講生を対象にする講義です。文の構造を学び、日常会話の練習も行いますが、発音の練習も続けます。中国語の基本（発音、単語、基礎文法）を身につけるための訓練として会話の量を増やし、中国語に対する理解を深めるための背景知識も学びます。

■到達目標
ピンイン表記の中国語が読め、学んだ日常会話は流暢に話せることを目標にします。

■講義方法
講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。講義時に提示するテーマについて皆で話すこともあります。

■系統的履修
中国語ＩＡ、ＩＣとＩＤ及び中国語セミナー

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
小テスト（20%）
定期試験（70%）

■テキスト
竹山相哲［ほか］共著 『超入門中国語』 晃洋書房

■参考文献
※授業中に提示します。

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つけましょう。

■講義計画
講義時に指示します。

中国語ＩＣ

【担当】韓　正愛
【開講】前期　水３

■講義概要
中国語ＩＣは初めて中国語を学ぶ人を対象に基礎から学びます。中国語を学ぶためには発音記号に相当する「ピンイン」を先に学ぶことになります。中国語の発音の中には日本語にない発音も数多く含まれていますので、それを徹底的に練習することになります。発音の学習のほかに、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も学びます。

■到達目標
中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、簡単な日常会話を身につけることを目標としています。

■講義方法
講義毎にテーマを設定し、会話の場をつくります。二人一組となって練習し、先生と会話する場合もありますが、その都度、先生が学習者の発音の誤りや表現を直す法式をとります。
小テストも実施しますが、実施日時は講義中にお知らせします。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）
小テスト（50%）

■テキスト
竹山相哲ほか 『基礎コース　中国語』 晃洋書房　1800円

■参考文献
特になし

■講義計画
①ピンイン母音
②ピンイン子音
③第1課　会話と要点
④第1課　練習
⑤第2課　会話と要点
⑥第2課　練習
⑦第3課　会話と要点
⑧第3課　練習
⑨第4課　会話と要点
⑩第4課　練習
⑪第5課　会話と要点
⑫第5課　練習
⑬第6課　会話と練習
⑭第6課　練習

中国語ＩＣ

【担当】張　健同
【開講】前期　水３

■講義概要
中国語ＩＣは、はじめて中国語を学ぶ人を対象に、中国語を基礎から学ぶコースです。まず、中国語の発音記号であるピンインの発音と表記方法、それから簡単な日常会話および基本的な語法を教えます。授業は「読む、書く」に重点を置いて、日常の基本的なコミュニケーションができる段階まで学習します。《１冊めの中国語（会話クラス）》という教材を使います。それにより基本的な文法と簡単な日常会話を身につけ、今後、引き続き中国語を勉強する基盤となるでしょう。

■到達目標
正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。

■講義方法
繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（70%）
受講態度（10%）、宿題（20%）、小テスト（70%）合計100点満点で評価します。

■テキスト
劉穎（ほか）『１冊めの中国語（会話クラス）』白水社　2415円

■参考文献
参考書および辞書については、授業中に説明します。

■履修上の注意・担当者からの一言
中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。学生のみなさんには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画
①発音1
②発音2
③発音3
④第一課：1、人称代詞；2、“是”；3、“不是”；4、副詞 “也” “都” “不”
⑤第二課：5、指示代詞－中国語の「こそあど」；6、“吗” 疑問文；7、反復疑問文
⑥第三課：8、形容詞文；9、“很”；10、形容詞の否定；11、形容詞疑問文
⑦第四課：12、“的”（日本語の「の」）；13、“的” 後の名詞省略；14、親族呼称；15、“的” が省略される条件
⑧第五課：16、前置詞 “在”；17、いくつかの疑問詞；18、疑問詞疑問文
⑨第六課：19、数の数え方；20、年月日、曜日の言い方；21、疑問詞 “儿”；22、“呢”
⑩第七課：23、モノを数える；24、“有”（動詞「もつ」）；25、“二” と “两”
⑪第八課：26、“有”（動詞「ある／いる」）；27、“在”（動詞「ある／いる」）；28、“什么地方”
⑫第九課：29、“怎么”；30、“为什么”；31、“这么” と “那么”
⑬まとめ

中国語ＩＣ

【担当】張　健同
【開講】前期　水４

■講義概要
中国語ＩＣは、はじめて中国語を学ぶ人を対象に、中国語を基礎から学ぶコースです。まず、中国語の発音記号であるピンインの発音と表記方法、それから簡単な日常会話および基本的な語法を教えます。授業は「読む、書く」に重点を置いて、日常の基本的なコミュニケーションができる段階まで学習します。《１冊めの中国語（会話クラス）》という教材を使います。それにより基本的な文法と簡単な日常会話を身につけ、今後、引き続き中国語を勉強する基盤となるでしょう。

■到達目標
正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。

■講義方法
繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（70%）
受講態度（10%）、宿題（20%）、小テスト（70%）合計100点満点で評価します。

■テキスト
劉穎（ほか）『１冊めの中国語（会話クラス）』白水社　2415円

■参考文献
参考書および辞書については、授業中に説明します。

■履修上の注意・担当者からの一言
中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。学生のみなさんには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画
①発音1
②発音2
③発音3
④第一課：1、人称代詞；2、“是”；3、“不是”；4、副詞 “也” “都” “不”
⑤第二課：5、指示代詞－中国語の「こそあど」；6、“吗” 疑問文；7、反復疑問文
⑥第三課：8、形容詞文；9、“很”；10、形容詞の否定；11、形容詞疑問文
⑦第四課：12、“的”（日本語の「の」）；13、“的” 後の名詞省略；14、親族呼称；15、“的” が省略される条件
⑧第五課：16、前置詞 “在”；17、いくつかの疑問詞；18、疑問詞疑問文
⑨第六課：19、数の数え方；20、年月日、曜日の言い方；21、疑問詞 “儿”；22、“呢”
⑩第七課：23、モノを数える；24、“有”（動詞「もつ」）；25、“二” と “两”
⑪第八課：26、“有”（動詞「ある／いる」）；27、“在”（動詞「ある／いる」）；28、“什么地方”
⑫第九課：29、“怎么”；30、“为什么”；31、“这么” と “那么”
⑬まとめ

中国語ＩＤ

【担当】韓　正愛
【開講】後期　水３

■講義概要
中国語ＩＤは、会話や文章の表現を中心に学びます。発音の練習はもちろん、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も取り入れていきたいと思います。また、自己紹介文の書き方も学ぶことができます。

■到達目標
中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、日常会話、そして特に自己紹介の仕方を身につけることを目標としています。

■講義方法
講義毎にテーマを設定し、会話の場をつくります。二人一組となって練習し、先生と会話する場合もありますが、その都度、先生が学習者の発音の誤りや表現を直す法式をとります。
小テストも実施しますが、実施日時は講義中にお知らせします。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）
小テスト（50%）

■テキスト
竹山相哲ほか 『基礎コース　中国語』 晃洋書房　1800円

■参考文献
特になし

■講義計画
①第７課　会話と要点
②第７課　練習
③第８課　会話と要点
④第８課　練習
⑤第９課　会話と要点
⑥第９課　練習
⑦第10課　会話と要点
⑧第10課　練習
⑨第11課　自己紹介文の書き方
⑩第11課　自己紹介文の読み方
⑪第12課　会話と要点
⑫第12課　練習
⑬第13課　会話と要点
⑭第13課　練習

中国語ＩＤ

【担当】張　健同
【開講】後期　水３

■講義概要
中国語ＩＤは中国ＩＣの引き続きです。

■到達目標
正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。

■講義方法
繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（70%）
受講態度（10%）、宿題（20%）、小テスト（70%）合計100点満点で評価します。

■テキスト
劉頴（ほか）『１冊めの中国語(会話クラス)』白水社　2415円

■参考文献
参考書および辞書については、授業中に説明します。

■履修上の注意・担当者からの一言
中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。　学生のみなさんには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画
①中国語ＩＣの復習
②第十課：32、進行の表し方；33、三つの“在”；34、前置詞；35、助動詞Ｉ
③第十一課:36、連動文;37、使役の表し方;38、兼語文;39、“给”
④第十二課：40、“不”と“没”；41、二重目的語；42、様態補語
⑤第十三課:43、助動詞Ⅱ「できる」;44、助動詞Ⅲ「したい」;45、“了”；46、“几”と“多少”
⑥第十四課:47、中国語のアスペクト;48、“着”－持続;49、「过」－経験
⑦第十五課：50、「実現」の“了1”leと語気助詞の“了2”le；51、「経験」の“过1”と「終結」の“过2”
⑧第十六課:52、自然現象の表し方;53、比較;54、「少し」の種々相；55、“快要…了”
⑨第十七課：56、結果補語；57、受け身の表し方
⑩第十八課：58、動詞の重ね方；59、“一下”；60、“把”構文
⑪第十九課:61、趨向補語;62、結果補語、趨向補語の可能形;63、“越来越…”
⑫第二十課:64、疑問詞の呼応文型;65、複文の意味関係;66、「動詞＋目的語」構造の文
⑬まとめ

中国語ＩＤ

【担当】張　健同
【開講】後期　水４

■講義概要
中国語ＩＤは中国ＩＣの引き続きです。
■到達目標
正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。
■講義方法
繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（70%）
受講態度（10%）、宿題（20%）、小テスト（70%）合計100点満点で評価します。
■テキスト
劉穎（ほか）『１冊めの中国語(会話クラス)』白水社　2415円
■参考文献
参考書および辞書については、授業中に説明します。
■履修上の注意・担当者からの一言
中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。　学生のみなさんには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画
①中国語ＩＣの復習
②第十課：32、進行の表し方；33、三つの“在”；34、前置詞；35、助動詞Ｉ
③第十一課:36、連動文;37、使役の表し方;38、兼語文;39、“给”
④第十二課：40、“不”と“没”；41、二重目的語；42、様態補語
⑤第十三課:43、助動詞Ⅱ「できる」;44、助動詞Ⅲ「したい」;45、“了”；46、“几”と“多少”
⑥第十四課:47、中国語のアスペクト;48、“着”－持続;49、「过」－経験
⑦第十五課：50、「実現」の“了1”leと語気助詞の“了2”le；51、「経験」の“过1”と「終結」の“过2”
⑧第十六課:52、自然現象の表し方;53、比較;54、「少し」の種々相；55、“快要…了”
⑨第十七課：56、結果補語；57、受け身の表し方
⑩第十八課：58、動詞の重ね方；59、“一下”；60、“把”構文
⑪第十九課:61、趨向補語;62、結果補語、趨向補語の可能形;63、“越来越…”
⑫第二十課:64、疑問詞の呼応文型;65、複文の意味関係;66、「動詞＋目的語」構造の文
⑬まとめ

中国語セミナーA

【担当】李　愛華
【開講】前期　水１

■講義概要
「話す、聴く」を重点に置き、中国語のコミュニケーション能力の向上を目指していきます。授業中特に発音の復習を重視し、大きな声で発音の練習をしたり、朗読したりする。実際の場面を想定した会話練習もします。また文法事項を説明し、翻訳、作文の練習をします。内容に関連する映像資料などがあれば、それも随時に利用します。
■到達目標
日常生活の場面において口頭によるコミュニケーションをはかるために最低限必要な表現を習得する。簡単な文章が読め、書くことができる。そのために必要な文法事項を身につける。
■講義方法
演習方式
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（30%）
レポート（50%）
■テキスト
尹景春、竹島毅　『中国語さらなる一歩』　白水社　2200円
■参考文献
『中日辞典第二版』　小学館
■講義計画
15回を通じて以下の内容を学修する
①初回：具体的授業についての要求
②第一課：初級についての復習しながら第一課に入る
③第一課の復習練習：特に聞き取りの練習

中国語セミナーB

【担当】李　愛華
【開講】後期　水1

■講義概要
「話す、聴く」を重点に置き、中国語のコミュニケーション能力の向上を目指していきます。授業中特に発音の復習を重視し、大きな声で発音の練習をしたり、朗読したりする。実際の場面を想定した会話練習もします。また文法事項を説明し、翻訳、作文の練習をします。内容に関連する映像資料などがあれば、それも随時に利用します。

■到達目標
日常生活の場面において口頭によるコミュニケーションをはかるために最低限必要な表現を習得する。簡単な文章が読め、書くことができる。そのために必要な文法事項を身につける。

■講義方法
演習方式

■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（30%）
定期試験（50%）

■テキスト
尹景春、竹島毅 『中国語さらなる一歩』 白水社　2200円

■参考文献
『中日辞典第二版』 小学館

■講義計画
夏休みについての会話

哲学入門

【担当】鷲見　淳之
【開講】前期　月3

■サブタイトル
こころと環境の時代の世界観を探究する

■講義概要
哲学は世界に関する極めて包括的な見解と人生に対する知的な態度を目指すものです。本講義では、まず近代における知見の増大が、知識を獲得し、信念をテストする探究方法にどのような根本的変化を与えるのかを考えます。そして、近代西洋における自然観のはらむ困難な問題を明らかにした上で、今日の私たちが求めるべき「生きた自然」を開く世界観の骨格について考えてみたいと思います。なお、哲学の歴史を時代順に開設することはしませんが、具体的な問題の局面との関連において伝統的な学説のいくつかを紹介します。

■到達目標
論理的な物事の見方と考え方を身につけ、哲学・思想関係の著作を「理解しようとする努力」のできる、各人の知的に真摯な態度を養うことを目標とします。

■講義方法
哲学・思想関係の文献に慣れて頂くために、なるべく邦語の原典資料にあたりつつ講義を進めます。皆さんからの意見や感想も講義の中で取り上げたいと思います。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）　受講態度を平常点とします。
レポート（70%）　テーマの絞り方と議論のまとまりを重視します。

■テキスト
特になし

■参考文献
ウィル・デューラント『西洋哲学物語』講談社学術文庫723-4

■履修上の注意・担当者からの一言
哲学と言えば「実生活に関係ない難解な空論」というイメージを持たれることが多いですが、なるべく日常の出来事と関連づけて分かりやすく解説したいと思います。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
なるべく講義終了に連絡をとるように心掛けて下さい。

■講義計画
①哲学の役割
②人類の思考の進歩
③論理学のはじまり
④古代ギリシアの自然観
⑤古代ギリシアの霊魂観
⑥古典的世界観の限界
⑦近代思想のはじまり（1）
⑧近代思想のはじまり（2）
⑨ルネッサンスから近代へ
⑩デカルト－ゼロからの出発
⑪機械論的唯物論とその問題点（1）
⑫機械論的唯物論とその問題点（2）
⑬こころと環境の時代－その思想の基本的方向性（1）
⑭こころと環境の時代－その思想の基本的方向性（2）
⑮まとめ

哲学入門

【担当】渡邊　華月
【開講】前期　水３

■サブタイトル
私と世界
■講義概要
グローバル化の時代と言われて久しい。経済にせよ政治にせよ自国の枠内だけで処理できない現実の中に我々は投げ込まれている。そうした時代だからこそ「自分として」「人として」どのようにあるべきかを心静かに問い直すことはいっそう必要になると思われる。「今ここにいる」自分を徹底的に見つめ直し、さらに世界へと目を向けていく両方向のまなざしが今求められているのではないだろうか。本講義では内面に向けて問い続ける姿勢を基盤として、自らの外に直面する社会、政治、環境などの諸問題にもフォーカスしていきたい。その際、有力な手掛かりとなるものとして、数百年、数千年を経ても風化することのない先哲の軌跡に触れていくことになる。
■到達目標
すぐに「正解」を求めず、違った意見も受け入れて、自ら考える姿勢
■講義方法
板書中心だが、講義中使用する資料をメールで小分けして配布する。
メール手段をもたない生徒にのみ、プリントアウトした資料を配布する。
講義中3回程度、自らの考えをまとめるミニレポートを実施する。
ミニレポートの実施日は初回の講義で指示する。
■成績評価の方法
レポート（30%）
定期試験（70%）
記述式の定期試験が評価の中心だが、ミニレポートを期間中一回も提出していない生徒には、仮に期末試験のみを受験しても単位を認定しない。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■オフィスアワー・教員への連絡方法
katsuki6_6@yahoo.co.jp宛に質問や要望を受け付ける。
■講義計画
①導入：自分はどこにいる？
②すべては移ろいゆく―ソフィストたち
③「勝つ」とは何―ソクラテス①
④「快楽」のはてにあるもの―ソクラテス②
⑤疑うことが幸せ？―古代懐疑主義
⑥多人数の幸福こそが大事？－功利主義
⑦こんな性格なのは自分のせい？―アリストテレス
⑧究極の自由―プロティノス～アウグスティヌス
⑨疑い得ない「自分」―デカルト①
⑩「私」は明日も「私」なのか―デカルト②
⑪神は死んだ！―ニーチェ
⑫世界の果てはどこか―カント①
⑬動機なき行為こそ道徳的―カント②
⑭私の成功は私の力？―ロールズ
⑮まとめ・期末試験の説明

哲学入門

【担当】鷲見　淳之
【開講】後期　月３

■サブタイトル
こころと環境の時代の世界観を探究する
■講義概要
哲学は世界に関する極めて包括的な見解と人生に対する知的な態度を目指すものです。本講義では、まず近代における知見の増大が、知識を獲得し、信念をテストする探究方法にどのような根本的変化を与えるのかを考えます。そして、近代西洋における自然観のはらむ困難な問題を明らかにした上で、今日の私たちが求めるべき「生きた自然」を開く世界観の骨格について考えてみたいと思います。なお、哲学の歴史を時代順に開設することはしませんが、具体的な問題の局面との関連において伝統的な学説のいくつかを紹介します。
■到達目標
論理的な物事の見方と考え方を身につけ、哲学・思想関係の著作を「理解しようとする努力」のできる、各人の知的に真摯な態度を養うことを目標とします。
■講義方法
哲学・思想関係の文献に慣れて頂くために、なるべく邦語の原典資料にあたりつつ講義を進めます。皆さんからの意見や感想も講義の中で取り上げたいと思います。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）　受講態度を平常点とします。
レポート（70%）　テーマの絞り方と議論のまとまりを重視します。
■テキスト
特になし
■参考文献
ウィル・デューラント『西洋哲学物語』講談社学術文庫723-4
■履修上の注意・担当者からの一言
哲学と言えば「実生活に関係ない難解な空論」というイメージを持たれることが多いですが、なるべく日常の出来事と関連づけて分かりやすく解説したいと思います。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
なるべく講義終了に連絡をとるように心掛けて下さい。
■講義計画
①哲学の役割
②人類の思考の進歩
③論理学のはじまり
④古代ギリシアの自然観
⑤古代ギリシアの霊魂観
⑥古典的世界観の限界
⑦近代思想のはじまり（1）
⑧近代思想のはじまり（2）
⑨ルネッサンスから近代へ
⑩デカルト－ゼロからの出発
⑪機械論的唯物論とその問題点（1）
⑫機械論的唯物論とその問題点（2）
⑬こころと環境の時代－その思想の基本的方向性（1）
⑭こころと環境の時代－その思想の基本的方向性（2）
⑮まとめ

哲学入門

【担当】渡邊　華月
【開講】後期　水３

■サブタイトル
私と世界
■講義概要
グローバル化の時代と言われて久しい。経済にせよ政治にせよ自国の枠内だけで処理できない現実の中に我々は投げ込まれている。そうした時代だからこそ「自分として」「人として」どのようにあるべきかを心静かに問い直すことはいっそう必要になると思われる。「今ここにいる」自分を徹底的に見つめ直し、さらに世界へと目を向けていく両方向のまなざしが今求められているのではないだろうか。本講義では内面に向けて問い続ける姿勢を基盤として、自らの外に直面する社会、政治、環境などの諸問題にもフォーカスしていきたい。その際、有力な手掛かりとなるものとして、数百年、数千年を経ても風化することのない先哲の軌跡に触れていくことになる。
■到達目標
すぐに「正解」を求めず、違った意見も受け入れて、自ら考える姿勢
■講義方法
板書中心だが、講義中使用する資料をメールで小分けして配布する。
メール手段をもたない生徒にのみ、プリントアウトした資料を配布する。
講義中3回程度、自らの考えをまとめるミニレポートを実施する。
ミニレポートの実施日は初回の講義で指示する。
■成績評価の方法
レポート（30%）
定期試験（70%）
記述式の定期試験が評価の中心だが、ミニレポートを期間中一回も提出していない生徒には、仮に期末試験のみを受験しても単位を認定しない。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■オフィスアワー・教員への連絡方法
katsuki6_6@yahoo.co.jp宛に質問や要望を受け付ける。
■講義計画
①導入：自分はどこにいる？
②すべては移ろいゆく―ソフイストたち
③「勝つ」とは何―ソクラテス①
④「快楽」のはてにあるもの―ソクラテス②
⑤疑うことが幸せ？―古代懐疑主義
⑥多人数の幸福こそが大事？－功利主義
⑦こんな性格なのは自分のせい？―アリストテレス
⑧究極の自由―プロティノス～アウグスティヌス
⑨疑い得ない「自分」―デカルト①
⑩「私」は明日も「私」なのか―デカルト②
⑪神は死んだ！―ニーチェ
⑫世界の果てはどこか―カント①
⑬動機なき行為こそ道徳的―カント②
⑭私の成功は私の力？―ロールズ
⑮まとめ・期末試験の説明

ドイツ語ＩＡ

【担当】呉　春吉
【開講】前期　月３

■講義概要
この授業は、初めてドイツ語を学習する人を対象としているため、ドイツ語のアルファベットの読み方、発音、簡単な挨拶というような基礎的なことから始めます。テキストは基本的な文法知識を習得するためだけでなく、ドイツとドイツ人、そして、ドイツ語圏の国々や人々についても関心がもてるようにも工夫されています。受身に文法を覚えるのではなく、能動的に文法を使いこなしてみましょう。
■到達目標
日本語とは異なったドイツ語のもつ端正な美しさを感じ、ことばの背後にあるドイツ文化やドイツ人の心に触れてほしいと思います。
■講義方法
各課の文法を解説した後、文法問題を練習し、本文を読みます。ドイツに関するビデオなども観る予定です。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）
定期試験（60%）
受講態度、練習問題等の理解度による平常点（40％）と期末試験（60％）を合計し、100点満点で評価します。
■テキスト
藤由順子／橋本由紀子／平山茂樹　『ヴンダー！ヴンダー！』
朝日出版社　2100円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
外国語を学ぶということは根気と忍耐を必要としますが、じっくりと物事に取り組んだ後に得られる達成感を共に味わえればと思います。学習者の積極的な授業態度を期待します。
■講義計画
①Start アルファベットと発音、（１回目）
　Lektion１ 人称代名詞、文の作り方（２回目）
②Lektion２ 動詞の現在形、名詞の性、数、格（３・４回目）
③Lektion３ 名詞複数形と定冠詞（５・６回目）
④Lektion４ 不規則動詞の現在人称変化（７・８回目）
⑤Lektion５ 不定冠詞類、定冠詞類（９・10回目）
⑥Lektion６ 前置詞（11・12回目）
⑦Lektion７ 話法の助動詞の現在人称変化（13・14回目）

ドイツ語ＩＡ

【担当】松口　春美
【開講】前期　水４

■サブタイトル
聞いて話すドイツ語の習得
■講義概要
基礎的ドイツ語を聞き取り、話す口頭表現による「能動的ドイツ語」の学習を目指す。具体的な場面を想定して基本的文型のパターンを繰り返し読みながら、日常的コミュニケーションの能力を養う。国際化が進むなかで、異文化を理解するための第一のステップは、何はさておき語学の習得である。ドイツ語はドイツ以外でも、オーストリアをはじめスイスやベルギー等で公用語として話されており、ドイツ語圏の文化や社会を知るうえで重要な「道具」です。
■到達目標
基本的な会話能力の習得
■講義方法
テキスト付録のCDを使って,「文のパターン」を聞き、色々な表現を覚える
■系統的履修
ドイツ語IC、ID・ドイツ語セミナー A、B
■成績評価の方法
平 常 点（40%） 予習・復習、宿題、出席に基づく評価
定期試験（60%） 学期末のテスト点
■テキスト
藤由順子他 『ヴンダー！ヴンダー！』 朝日出版社　2100円
■参考文献
Hermann J.Troll、小松はるの 『改訂版/話してみよう・ドイツ語』 同学社　2500円
辞書等については授業中に紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
授業は段階的に進めていくので、毎回出席し、予習・復習を行うこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業後の時間を質疑応答に当てる。
■講義計画
①1 規則動詞とhabenの現在人称変化（10ページ参照）
②1 主語になる代名詞と、動詞 sein の人称変化、2 人称代名詞、3 文の種類（6～7ページ参照）
③他言語と比較しながら、ドイツ語の発音と数詞を学ぶ（2～5ページおよび86～87ページ参照）
④1 男性名詞、2 女性名詞、3 中性名詞（10～11ページ参照）
⑤定冠詞（16～17ページ、および27ページ参照）、不定冠詞（11ページ、および 26参照）の格変化
⑥1 複数形のパターン、2 複数形の格変化（16ページ参照）、3 男性弱変化名詞（24ページ参照）
⑦1 不規則動詞は、幹母音 の変化で２種類に分けられる、2 気象・心理現象を表す非人称の es（20～21ページ照）
⑧1 所有代名詞は不定冠詞と同じ変化語尾を持ち、2 指示代名詞は定冠詞と同じ変化語尾を持っている（26～27ページ参照）
⑨1 2格支配の前置詞、2 3格支配の前置詞、3 4格支配の前置詞
⑩動詞の行為・動作の違いで、3格もしくは4格を要求する前置詞（31ページ参照）
⑪1 助動詞と助動詞の位置、2 助動詞の現在形（36～37ページ参照）
⑫werden は助動詞として、推量を表す（37ページ参照）
⑬接続詞の中には、複文を構成する従属接続詞（40ページ参照）がある
⑭zu不定詞は、1 名詞的に、2 名詞の修飾語として、3 熟語として使われる（41ページ参照）

ドイツ語ＩＢ

【担当】呉　春吉
【開講】後期　月３

■講義概要
この授業は、ドイツ語Aで習得した知識を踏まえた上で、さらに様々な動詞表現、時制等を学びます。テキストは基本的な文法知識を習得するためだけでなく、ドイツとドイツ人、そして、ドイツ語圏の国々や人々についても関心がもてるようにも工夫されています。受身に文法を覚えるのではなく、能動的に文法を使いこなしてみましょう。
■到達目標
日本語とは異なったドイツ語のもつ端正な美しさを感じ、ことばの背後にあるドイツ文化やドイツ人の心に触れてほしいと思います。また、独検４級、できれば３級合格レヴェルのドイツ語習得を目指します。
■講義方法
各課の文法を解説した後、文法問題を練習し、本文を読みます。ドイツに関するビデオなども観る予定です。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）
定期試験（60%）
受講態度、練習問題等の理解度による平常点（40点）と期末試験（60点）を合計し、100点満点で評価します。
■テキスト
藤由順子／橋本由紀子／平山茂樹 『ヴンダー！ヴンダー！』
朝日出版社　2100円
■参考文献
辞書等については授業中に紹介します。
■履修上の注意・担当者からの一言
外国語を学ぶということは根気と忍耐を必要としますが、じっくりと物事に取り組んだ後に得られる達成感を共に味わえればと思います。学習者の積極的な授業態度を期待します。
■講義計画
①Lektion 8　従属接続詞、zu不定詞（１・２回目）
②Lektion 9　分離動詞、非分離動詞（３・４回目）
③Lektion 10　動詞の3基本形、過去人称変化（５・６回目）
④Lektion 11　現在完了、分詞（７・８回目）
⑤Lektion 12　形容詞、比較（９回目）
⑥Lektion 13　受動表現（10・11回目）
⑦Lektion 14　関係代名詞（12・13回目）
⑧Lektion 15　接続法（14回目）

ドイツ語ＩＢ

【担当】松口　春美
【開講】後期　水４

■サブタイトル
聞いて話すドイツ語の習得
■講義概要
基礎的ドイツ語を聞き取り、話す口頭表現による「能動的ドイツ語」の学習を目指す。具体的な場面を想定して基本的文型のパターンを繰り返し読みながら、日常的コミュニケーションの能力を養う。
国際化が進むなかで、異文化を理解するための第一のステップは、何はさておき語学の習得である。ドイツ語はドイツ以外でも、オーストリをはじめスイスやベルギー等で公用語として話されており、ドイツ語圏の文化や社会を知るうえで重要な「道具」です。
■到達目標
基本的な会話能力の習得
■講義方法
テキスト付録のCDを使って、「文のパターン」を聞き、色々な表現を覚える
■系統的履修
ドイツ語IC、ID・ドイツ語セミナー A、B
■成績評価の方法
平 常 点（40%） 予習・復習、宿題、受講態度に基づく評価
定期試験（60%） 学期末の筆記試験の点数
■テキスト
藤由順子他 『ヴンダー！ヴンダー！』 朝日出版社　2100円
■参考文献
Hermann J.Troll,小松はるの 『改訂版／話してみよう・ドイツ語』 同学社　2500円
辞書等については授業中に紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
授業は段階的に進めていくので、毎回出席し、予習・復習を行うこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業後の時間を質疑応答に当てる。
■講義計画
①1 前綴りをもつ分離動詞、2 分離されない前綴りをもつ非分離動詞（46～47ページ参照）
②1 規則動詞の3基本形、2 不規則動詞の3基本形、3 複合動詞の3基本形（50ページ参照）
③1 その他の動詞の三基本形､2 過去人称変化（51ページ参照）
④1 現在完了形の助動詞 sein もしくはhaben（56ページ参照）
⑤過去完了形の用法と分詞（57ページ参照）
⑥1 形容詞の用法、2 形容詞の格変化（60～61ページ参照）
⑦1 形容詞の比較･最上級、2 副詞の比較･最上級（62～63ページ参照）
⑧受動・能動態の作り方（68ページ参照）
⑨1 再帰代名詞、2 再帰動詞（69ページ参照）
⑩1 関係代名詞は一部を除いて、定冠詞と同じ形、2 性・数は先行詞と一致（72ページ参照）
⑪不定関係代名詞　wer /was（73ページ参照）
⑫接続法Ⅰ式の用法（78ページ参照）
⑬接続法Ⅱ式の用法（78～79ページ参照）
⑭基本的会話のエッセンス（2ページのStart参照）

ドイツ語ＩＣ

【担当】松口　春美
【開講】前期　水３

■サブタイトル
文法を踏まえた表現力
■講義概要
ドイツ語の基礎文法を習得する。ドイツ語の基礎的表現力を高めて、総合的運用力を養うためには、文法の構造を、理論的に理解することが大切である。国際化が進むなかで、異文化を理解するための第一のステップは、何はさておき語学の習得である。既習語学の外に新しい語学を学んで、未知の文化や社会を知ろうとする努力が求められる。
■到達目標
文法構造の論理的把握
■講義方法
日本語や英語の文法構造を比較検討しながら、ドイツ語の文法を学んで、各種の表現の文法的基礎を習得する。
■系統的履修
ドイツ語IA、IB・ドイツ語セミナー A、Bの受講
■成績評価の方法
平 常 点（40%） 予習・復習、宿題、受講態度に基づく評価
定期試験（60%） 小テスト・学期末の筆記試験
■テキスト
保阪良子 『改訂版・ドイツ文法ガイドA-Z』 同学社　2000円
■参考文献
清水薫 『改訂版／ドイツ語文法・100語の世界』 同学社　2300円
辞書等については授業中に紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
授業は段階的に進めていくので、毎回出席し、予習・復習を行うこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業後の時間を質疑応答に当てる。
■講義計画
①多言語と比較しながらドイツ語の発音を覚える
②1 動詞のかたち、2 人称代名詞、3 動詞の現在人称変化
③1 動詞 seinの現在人称変化、2 動詞 habenの現在人称変化
④1 語順、2 定動詞第二位、3 定動詞が文頭、4 定動詞が文末
⑤1 名詞の性、2 名詞の格、3 名詞の格変化
⑥1 複数形のタイプ、2 複数形の格変化、3 男性弱変化名詞
⑦1 不定冠詞の格変化、2 所有代名詞
⑧1 否定冠詞 kein 、2 nicht
⑨1 基数、2 年号の読み方、3 時刻、4 金額、5 定冠詞類
⑩1 不規則動詞の現在人称変化、2 werden とwissen の現在人称変化、3 人称代名詞の格変化
⑪1 du に対する命令形、2 ihr に対する命令形、3 Sie に対す命令形
⑫1 分離動詞、2 非分離動詞
⑬1 特定の格と結びつく前置詞、2 前置詞と密接に結びついた表現（1）
⑭1 3・4格支配の前置詞、2 前置詞と定冠詞の融合形、3 前置詞と密接に結びついた表現（2）

ドイツ語ＩC

【担当】永井　達夫
【開講】前期　水４

■サブタイトル
テキスト、インターネット、ＤＶＤなどを使って、多角的に学習するドイツ語、文法編（前半部分）

■講義概要
語学を本気で学ぼうと思えば、文法的な理解は欠かせません。この講義ではドイツ語の文法を最初歩から順を追って積み上げていきます。ドイツ語は、ドイツのほか、オーストリア、スイスでも話されています。それらの国のこともDVDなどを使って学んでいきましょう。ドイツ語圏の音楽、映画なども取り上げたいと思っています。

■到達目標
ドイツ語文法の基礎を身につけます。文法のための文法ではなく、いわゆる使える文法を習得します。

■講義方法
一人一台のＰＣが使えるCALL教室で授業をする予定です。講義の進行は教科書に従っていきます。映像教材は提出するレポートの資料となるのでしっかり見るようにしてください。

■系統的履修
必修ではありませんが、平行して開講されるドイツ語の授業を取るのが理想的です。

■成績評価の方法
小テスト（30%）　中間テストとして５月に予定しています。
レポート（30%）　３回の小レポートがあります。これが平常点になります。
定期試験（40%）　試験期間に行うペーパーテストです。
総得点で60％以上が合格です。３分の１以上の出席が求められます。遅刻２回につき欠席１回に換算しますので、注意してください。

■テキスト
改訂版・ドイツ文法ガイド A-Z『保阪良子』同学社　2100円

■参考文献
必要があれば、授業のなかで紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言
興味深い教材を使っていきます。ほんとうにドイツ語が身につく講義にしていくつもりです。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
開講時に連絡方法を言います。

■講義計画
①イントロダクション DVDによるドイツへの仮想旅行1
②A　動詞の人称代名詞1/ドイツへの仮想旅行2
③B　sein と haben/ドイツへの仮想旅行3
④C　定動詞の位置/ドイツへの仮想旅行4
⑤D　名詞と定冠詞/もう一つの大国オーストリア1
⑥E　名詞の複数形/もう一つの大国オーストリア2
⑦F　不定冠詞と所有冠詞/もう一つの大国オーストリア3
⑧中間テストを予定
⑨G　否定冠詞と nicht/もう一つの大国オーストリア4
⑩H　数詞/ドイツ語圏の文化1
⑪I　動詞の人称変化2/ドイツ語圏の文化2
⑫J　命令形/ドイツ語圏の文化3
⑬K　分離動詞/ドイツ語圏の文化4
⑭L/M　前置詞/前期の総復習
⑮学期末試験対策

ドイツ語ＩD

【担当】松口　春美
【開講】後期　水３

■サブタイトル
文法を踏まえた表現力

■講義概要
ドイツ語の基礎文法を習得する。ドイツ語の基礎的表現力を高めて、総合的運用力を養うためには、文法の構造を理論的に理解することが大切である。国際化が進むなかで、異文化を理解するための第一のステップは、何はさておき語学の習得である。既習語学の外に新しい語学を学んで、未知の文化や社会を知ろうとする努力が求められる。

■到達目標
文法構造の論理的把握

■講義方法
日本語や英語の文法構造を比較検討しながら、ドイツ語の文法を学んで、各種の表現の文法的基礎を習得する。

■系統的履修
ドイツ語IA、IB・ドイツ語セミナー A、B

■成績評価の方法
平 常 点（40%）　予習・復習、宿題、受講態度に基づく評価
定期試験（60%）　学期末のテスト点

■テキスト
保阪良子『改訂版・ドイツ文法ガイドA－Z』同学社　2000円

■参考文献
清水薫『改訂版/ドイツ語文法･100語の世界』同学社　2300円
辞書等については授業中に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
授業は段階的に進めていくので、毎回出席し、予習・復習を行うこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業後の時間を質疑応答に当てる。

■講義計画
①1 形容詞の用法、2 形容詞の格変化（弱変化）、3 形容詞の格変化（混合変化）
②1 形容詞の格変化（強変化）、2 形容詞の名詞化、3 序数非人称的表現、不定代名詞
③1 動詞の3基本形、2 過去分詞の作り方、3 過去人称変化
④1 現在完了形、2 助動詞 seinあるいはhaben、3 過去完了形
⑤1 形容詞の比較・最上級、2 主な比較表現、3 副詞の比較
⑥1 話法の助動詞､2 助動詞の人称変化､3 助動詞の過去形､「未来」の助動詞 werden
⑦1 並列接続詞、2 従属接続詞
⑧1 再帰代名詞、2 再帰動詞
⑨1 zu 不定詞句、2 非人称 es
⑩1 関係代名詞、2 関係文の特徴、3 不定関係代名詞 wer と was
⑪1 他動詞の受動、2 受動の形式、3 自動詞の受動（主語がない受動文）、4 状態受動
⑫1 接続法、2 接続法の時称
⑬1 間接話法、2 非現実話法
⑭文法の復習

ドイツ語ＩＤ

【担当】永井　達夫
【開講】後期　水４

■サブタイトル
テキスト、インターネット、ＤＶＤなどを使って、多角的に学習するドイツ語、文法編（後半部分）

■講義概要
ドイツ語ＩＣの続きです。授業の概要はＩＣと同じです。以下は繰り返しになります。
「語学を本気で学ぼうと思えば、文法的な理解は欠かせません。この講義ではドイツ語の文法を最初歩（ＩＣの続き）から順を追って積み上げていきます。ドイツ語は、ドイツのほか、オーストリア、スイスでも話されています。それらの国のこともDVDなどを使って学んでいきましょう。ドイツ語圏の音楽、映画なども取り上げたいと思っています。」

■到達目標
引き続き、ドイツ語文法の基礎を身につけます。文法のための文法ではなく、いわゆる使える文法を習得します。

■講義方法
講義の進行は教科書に従っていきます。映像教材は提出するレポートの資料となるのでしっかり見るようにしてください。

■系統的履修
必修ではありませんが、平行して開講されるドイツ語の授業を取るのが理想的です。

■成績評価の方法
小テスト（30%）　発音、読みのテストを考えています。
レポート（30%）　３回の小レポートがあります。これが平常点になります。
定期試験（40%）　試験期間に行うペーパーテストです。
総得点で60％以上が合格です。３分の１以上の出席が求められます。遅刻２回につき欠席１回に換算しますので、注意してください。

■テキスト
保阪良子『改訂版・ドイツ文法ガイド A-Z』同学社　2100円

■参考文献
必要があれば、授業のなかで紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言
後期になって学習の速度が少し上がりますが、予習復習をしっかりしてついてきてください。ドイツ語ＩＣを履修せずにこの講義を取る学生は、開講時までに自分で前期の範囲を学習しておくことが前提となります。後期も引き続きレポートなどの課題をたくさん出します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
開講時に連絡方法を言います。

■講義計画
①前学期の復習/スイス1
②N　動詞の3基本形/スイス2
③O　完了形/スイス3
④P　形容詞1/スイス4
⑤Q　形容詞3/ハイディ1
⑥R　比較/ハイディ2
⑦S　助動詞/ハイディ3
⑧中間テストを予定
⑨T　接続詞/ハイディ4
⑩U　再帰動詞/リヒテンシュタイン侯国
⑪V　zu不定詞/ドイツのクリスマス
⑫W　関係代名詞/DVDで見る世界遺産1
⑬X　受動態/DVDで見る世界遺産2
⑭Y／Z　接続法/後期の総復習
⑮修了試験対策

ドイツ語セミナーA

【担当】青山　豊
【開講】前期　金２

■サブタイトル
「ことば」からみたドイツの文化と日常生活

■講義概要
ドイツ語ＩＡ・ＩＢまたは、ＩＣ・ＩＤで習得した知識を整理、確認した上で、聞き話すという会話的要素をもとに日常的ドイツ語にふれながら、現代ドイツの文化を考察する。テキストとしてはドイツ人の生活情報や異文化をテーマにしたものを使用する。

■到達目標
日常生活に必要なレベルのドイツ語による表現力が身につく。

■講義方法
少人数クラスになると思われるので、対話的講義にしたいと考えている。

■系統的履修
ドイツ語ＩＡ・ＩＢおよびドイツ語ＩＣ・ＩＤ

■成績評価の方法
平常点（50%）
その他（50%）　授業への熱意（50%）

■テキスト
斎藤佑史　他　『おもしろドイツ！』　郁文堂

■参考文献
ＩＡ・ＩＢまたはＩＣ・ＩＤで使用済みのテキストを持参するとよい。

■履修上の注意・担当者からの一言
ドイツ語ＩＡ、ＩＢ、ＩＣ、ＩＤのうち1単位以上修得済みであることを受講の条件とするが、基本的にはＩＡ、ＩＢ、ＩＣ、ＩＤに続くドイツ語運用能力の向上をもめざす講義であるので、堅苦しく考えずに参加して欲しい。授業には必ず辞書を持参のこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレス　SNA 05617@nifty.com

■講義計画
①はじめまして
②ヨーロッパの中のドイツ
③ドイツの自然
④日常生活
⑤ビールとワイン
⑥スポーツ
⑦音楽
⑧映画
⑨文学
⑩クリスマス
⑪環境問題
⑫住居
⑬食事
⑭休暇
⑮復習

ドイツ語セミナーB

【担当】永井　達夫
【開講】後期　水3

■サブタイトル
ハイディ（ハイジ）を読む
■講義概要
アニメで有名な「アルプスの少女、ハイジ」には、ドイツ語の原作があります。ヨハナ・シュピーリという女性作家が19世紀後半にスイスのチューリッヒで書きました。講義ではその原書を読んでいこうと思います。もちろんすべてを読むのは無理ですから、これならドイツ語学習２年目の学生にも読めるだろうと思われる箇所を担当者が選んで、授業に使うテキストとします。それ以外の箇所は日本語で読んでも良いでしょう。またハイディはアニメ以外に繰りかえし世界中で映像化されてきましたので、随時それらの映像を参考資料として見ていくことにします。
■到達目標
ドイツ語を読む力のレベルアップ
■講義方法
訳読と映像資料に関してのディスカッションを柱に授業を進めていきます。
■系統的履修
履修前に最低一年間ドイツ語を勉強していることが必要条件です。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）
レポート（50%）
■テキスト
担当者がコピーで準備します。
■参考文献
随時授業の中で指示します。
■履修上の注意・担当者からの一言
ドイツ語を一年間だけで終わらすのはもったいないですよ。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
開講時に連絡方法を言います。
■講義計画
①テキスト講読なので履修者のレベルによって進度が変わっていきます。初回は講義全体の説明をします
②「ハイディ」の前半の部分から、映像資料と重なるところを読んでいきます
③同上
④同上
⑤同上
⑥同上
⑦「ハイディ」の後半の部分から、映像資料と重なるところを読んでいきます
⑧同上
⑨同上
⑩同上
⑪同上
⑫ここまでが順調に進んだら「ハイディ」やシュピーリについて書かれた文章を読む
⑬同上
⑭同上
⑮学期の総まとめ

統計入門

【担当】李　復屏
【開講】前期　月1

■サブタイトル
「統計」眺め
■講義概要
主張を人に納得してもらうために、主張の裏付けとして統計がよく使われています。それは、学問の世界だけではなく、日常生活においても同じです。たとえば、「50%以上の教師は、近年の教育水準が落ちてきたと考えている」といったような言い方はそれなのです。この授業では、人の主張を「ちゃんと」理解し、自分の主張を「ちゃんと」裏付けられるために、最低限に必要な「統計的考え方」という「常識」を身に付けてほしいです。
■到達目標
新聞や報告書などを読むとき、そこにどのような統計が含まれていようとも、その要点を理解できるようになります。
■講義方法
授業中、教員の説明のあと、受講生にちょっとした問題を解いてもらうことがよく（ほぼ毎回）ありますので、ルートキー（√）付きの電卓を必ず携帯してください。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）
定期試験（70%）
授業中の練習問題は30%、期末試験は70%の割合で評価します。
■テキスト
鳥居泰彦　『はじめての統計学』　日本経済新聞社　2233円
■参考文献
D. ロウントリー著　加納悟訳　『新・涙なしの統計学』　新世社　1600円
木村等・大藪和雄・石川浩　共著　『統計学入門』　実教出版株式会社　2500円
■履修上の注意・担当者からの一言
授業に出ただけでは、必ずしも単位を取れるとは言えません。授業についていくには、予習と復習を欠かさないのではないかと思います。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは月２です。この時間帯に来れない学生は、lifuping@soc.ryukoku.ac.jpまで相談してください。
■講義計画
①統計学とは
②標本の収集
③標本の記述
④データの中心的傾向
⑤データのばらつき尺度
⑥正規分布
⑦標本平均の標本分布
⑧母平均の推定
⑨t分布と母平均の推定
⑩X二乗分布と母標準偏差の推定
⑪仮説検定
⑫相関分析
⑬回帰分析
⑭復習①
⑮復習②

統計入門

【担当】長命　洋佑
【開講】後期　木3

■サブタイトル
数字に騙されるな！アレルギーを克服しよう！

■講義概要
新聞、テレビ、インターネットなどさまざまなメディアを通して日常生活の中から得られるデータ、社会現象の調査や自然現象の観察・実験などを通して得られるデータなど多種多様なデータが我々のまわりに溢れています。
そうした大量の情報が氾濫している現代社会において、「何が正しく、何が誤っているか」を自分自身で判断する力がないと思わぬ落とし穴に陥ることになります。「わっ、騙されたっ！」という状態になりかねません。
また、数値（データ）の持つ意味を理解していないと「数値に振り回される」ことにもなります。
この講義では、そうした数値（データ）を正しく理解する力を養い、数値（データ）に振り回されないように生きていくためのコツについて学びます。
講義では、出来る限り、我々の日常生活の中の現象を例に取り上げ講義を行います。数学の知識がなくても（中学レベル）、世の中の様々なことが見えてくるようになると思います。また、毛嫌いする人が多い確率についても簡単な計算で、日常生活に役立つ考え方が身に付くように心がけます（担当者の実体験を含め）。
本講義で学ぶ内容（統計学）は、今後の学生生活や社会人になった時でも必ず必要となるでしょう。この講義では、皆さんが近い将来、必要となる（身につけておくと大きな力となる）客観的な物の見方を学びます。

■到達目標
新聞、テレビ、インターネット、調査や実験などの数値（データ）の意味が理解できるようになる。日常生活において、数値への恐怖心（アレルギー）がなくなる。

■講義方法
３つの学部が共通して受講するため、個人差がかなりあるかと思いますが･･･講義形式で行い、日常生活の中の話を題材に例題も解きながら、統計を学んでいただけるよう心がけます。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
定期試験（70%）

■テキスト
講義資料を配布します。
ただし、配布当日に欠席した人は自己責任のもとにおいて何らかの方法で資料を入手してください。

■参考文献
金子治平・上藤一郎編 『よくわかる統計学Ⅰ』 ミネルヴァ書房　2400円

■履修上の注意・担当者からの一言
統計学は数字を扱い、数式などもでてくるため、毛嫌いされる部分があります。しかし、日常生活を見渡してみると数字を見ない日なんてないと思います（一部除く）。そうした数字の意味がわかりだしてくると「おっ！そーゆうことか。なかなかオモロイな～」と思うようになってくると思います。統計は、毛嫌いする人が多いからこそ、逆に身につければ大きな武器となると思います。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
何かあれば　choumei@mail.ryukoku.ac.jp までお願いいたします。

■講義計画
①オリエンテーション
②記述統計①：さまざまな指標（中学までの数学でこんなにもわかる）
③記述統計②：分布とその特性①（集団の特性を知ろう）
④記述統計③：さまざまな指標がもたらす日本社会の現状（日本人は金持ち？？）
⑤記述統計④：分布と特性②（偏差値の恐怖からの開放）
⑥記述統計⑤：これまでの復習
⑦確率①：確率の基本（コイン投げで5回連続「表」がでたら、次は…？）
⑧確率②：期待値とは？（なぜ人は淡い期待をいだくのか）
⑨確率③：母集団と標本（賭け事で負けないようにするには？）
⑩確率④：これまでの復習（偶然はそんなに偶然にはおこらない）
⑪日常の中の統計①：これまでの講義でこんなことがわかる？
⑫日常の中の統計②：当たり前を当たり前のように疑う
⑬日常の中の統計③：われわれは意図的に誘導されている？
⑭日常の中の統計④：統計のその後・・・
⑮これまでの復習

日本国憲法

【担当】時本　義昭
【開講】前期　木3

■サブタイトル
日本国憲法の規定する統治機構と人権

■講義概要
近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。

■到達目標
基本的な法的思考を身につけること。

■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■系統的履修
前期に法学入門を受講することが望ましい。

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
特になし

■参考文献
小嶋和司・大石眞 『憲法概観〔第6版〕』 有斐閣
佐藤幸治他編 『デイリー六法平成23年版』 三省堂

■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画
①憲法の基本概念
②日本国憲法の成立過程と基本原理
③国会
④内閣
⑤裁判所
⑥基本的人権の分類と基本原理
⑦包括的基本権
⑧法の下の平等
⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
⑪経済的自由
⑫社会権
⑬人身の自由
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

日本国憲法

【担当】時本　義昭
【開講】後期　月１

■サブタイトル
日本国憲法の規定する統治機構と人権
■講義概要
近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること。
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■系統的履修
前期に法学入門を受講することが望ましい。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
■テキスト
特になし
■参考文献
小嶋和司・大石眞　『憲法概観〔第6版〕』　有斐閣
佐藤幸治他編　『デイリー六法平成23年版』　三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①憲法の基本概念
②日本国憲法の成立過程と基本原理
③国会
④内閣
⑤裁判所
⑥基本的人権の分類と基本原理
⑦包括的基本権
⑧法の下の平等
⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
⑪経済的自由
⑫社会権
⑬人身の自由
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

日本国憲法

【担当】時本　義昭
【開講】後期　月３

■サブタイトル
日本国憲法の規定する統治機構と人権
■講義概要
近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること。
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■系統的履修
前期に法学入門を受講することが望ましい。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
■テキスト
特になし
■参考文献
小嶋和司・大石眞　『憲法概観〔第6版〕』　有斐閣
佐藤幸治他編　『デイリー六法平成23年版』　三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①憲法の基本概念
②日本国憲法の成立過程と基本原理
③国会
④内閣
⑤裁判所
⑥基本的人権の分類と基本原理
⑦包括的基本権
⑧法の下の平等
⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
⑪経済的自由
⑫社会権
⑬人身の自由
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

日本国憲法

【担当】時本　義昭
【開講】後期　木3

■サブタイトル
日本国憲法の規定する統治機構と人権
■講義概要
近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること。
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■系統的履修
前期に法学入門を受講することが望ましい。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
■テキスト
特になし
■参考文献
小嶋和司・大石眞　『憲法概観〔第6版〕』　有斐閣
佐藤幸治他編　『デイリー六法平成23年版』　三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①憲法の基本概念
②日本国憲法の成立過程と基本原理
③国会
④内閣
⑤裁判所
⑥基本的人権の分類と基本原理
⑦包括的基本権
⑧法の下の平等
⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
⑪経済的自由
⑫社会権
⑬人身の自由
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

発達と教育A

【担当】織田　涼
【開講】前期　水1

■サブタイトル
子どもの心身の発達および認知・学習の過程
■講義概要
ヒトの発達は連続的なものである。したがって、教育を受ける子どもだけを知ればよいというわけではない。幼児期までにどのように育ってくるのか、および成人期以降にどのようなことが待っているのかを踏まえた上で、児童期および青年期の子どもの発達を理解しなければならない。本講義では、児童期から青年期に比重を置きながら、その前後の時期も含めて、子どもの発達についての基礎理解を進める。
■到達目標
子どもの発達とその心理学的な問題を、客観的に理解し議論できる。
■講義方法
Power Pointおよび板書を中心に進めるが、必要に応じて資料も配布する。
■系統的履修
「発達と教育B」と内容が連続しているので、可能な限り両方を履修すること。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）　受講態度
定期試験（70%）　教科書、ノート他、一切の持ち込みはできません。
■テキスト
特になし
■参考文献
授業時に適宜指定します。
■履修上の注意・担当者からの一言
授業に毎回出席し、講義内容をしっかり聞き、必要であればノートに取るという基本的な受講態度であることを求めます。当然ですが、私語は他の受講生に迷惑ですので、禁止します。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
事前に予約の上で、授業後に来てください。
■講義計画
①発達とは何か：規定因と特徴
②ヒトの発達の客観的なとらえかた
③胎児期から乳児期までの発達
④ピアジェの認知発達理論1：感覚運動期・前操作期
⑤ピアジェの認知発達理論2：具体的操作期・形式的操作期
⑥学習1：行動分析と連合説
⑦学習2：認知説と問題解決
⑧記憶のメカニズムと学習
⑨素朴知識と学習
⑩ヴィゴツキーの発達理論
⑪言語の獲得と発達
⑫フロイトとエリクソンの発達理論
⑬人格の形成と発達
⑭人格の適応と障害
⑮講義のまとめ

発達と教育A

【担当】織田　涼
【開講】前期　水2

■サブタイトル
子どもの心身の発達および認知・学習の過程
■講義概要
ヒトの発達は連続的なものである。したがって、教育を受ける子どもだけを知ればよいというわけではない。幼児期までにどのように育ってくるのか、および成人期以降にどのようなことが待っているのかを踏まえた上で、児童期および青年期の子どもの発達を理解しなければならない。本講義では、児童期から青年期に比重を置きながら、その前後の時期も含めて、子どもの発達についての基礎理解を進める。
■到達目標
子どもの発達とその心理学的な問題を、客観的に理解し議論できる。
■講義方法
Power Pointおよび板書を中心に進めるが、必要に応じて資料も配布する。
■系統的履修
「発達と教育B」と内容が連続しているので、可能な限り両方を履修すること。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）　受講態度
定期試験（70%）　教科書、ノート他、一切の持ち込みはできません。
■テキスト
特になし
■参考文献
授業時に適宜指定します。
■履修上の注意・担当者からの一言
授業に毎回出席し、講義内容をしっかり聞き、必要であればノートに取るという基本的な受講態度であることを求めます。当然ですが、私語は他の受講生に迷惑ですので、禁止します。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
事前に予約の上で、授業後に来てください。
■講義計画
①発達とは何か：規定因と特徴
②ヒトの発達の客観的なとらえかた
③胎児期から乳児期までの発達
④ピアジェの認知発達理論1：感覚運動期・前操作期
⑤ピアジェの認知発達理論2：具体的操作期・形式的操作期
⑥学習1：行動分析と連合説
⑦学習2：認知説と問題解決
⑧記憶のメカニズムと学習
⑨素朴知識と学習
⑩ヴィゴツキーの発達理論
⑪言語の獲得と発達
⑫フロイトとエリクソンの発達理論
⑬人格の形成と発達
⑭人格の適応と障害
⑮講義のまとめ

発達と教育B

【担当】織田　涼
【開講】後期　水1

■サブタイトル
子どもの学校生活と心理社会的発達
■講義概要
児童期において学校生活が始まると、子どもたちは家庭と学校という二つの場を行き来しながら、より複雑な社会生活を営むことになる。学校は単なる知識の獲得の場ではなく、成熟した社会成員になるための準備の場でもあり、子ども同士の活発な相互作用、教師とのかかわり、集団行動などを実践する。こうした場で生活する子どもの心理社会的問題を取り上げ、心理学で得られた知見を中心に講義する。
■到達目標
子どもの学習および学校生活での諸問題を、客観的に理解し議論できる。
■講義方法
Power Pointおよび板書を中心に進めるが、必要に応じて資料も配布する。
■系統的履修
「発達と教育A」と内容が連続しているので、可能な限り両方を履修すること。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）　受講態度
定期試験（70%）　教科書、ノート他、一切の持ち込みはできません。
■テキスト
特になし
■参考文献
授業時に適宜指定します。
■履修上の注意・担当者からの一言
授業に毎回出席し、講義内容をしっかり聞き、必要であればノートに取るという基本的な受講態度であることを求めます。当然ですが、私語は他の受講生に迷惑ですので、禁止します。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
事前に予約の上で、授業後に来てください。
■講義計画
①教育心理学とは（導入）
②知能と創造性
③教育評価の目的と意義
④測定および評価の方法
⑤学習への動機づけ
⑥自ら学ぶ意欲の発達
⑦学習指導の理論と教授法
⑧社会的認知の発達
⑨社会性と道徳性の発達
⑩社会としての学級とその問題
⑪社会的問題行動
⑫不適応と障害1：発達障害、知的機能および学習の障害
⑬不適応と障害2：神経症、心身症、精神病
⑭特別支援教育とソーシャルサポート
⑮講義のまとめ

発達と教育Ｂ

【担当】織田　涼
【開講】後期　水２

■サブタイトル
子どもの学校生活と心理社会的発達
■講義概要
児童期において学校生活が始まると、子どもたちは家庭と学校という二つの場を行き来しながら、より複雑な社会生活を営むことになる。学校は単なる知識の獲得の場ではなく、成熟した社会成員になるための準備の場でもあり、子ども同士の活発な相互作用、教師とのかかわり、集団行動などを実践する。こうした場で生活する子どもの心理社会的問題を取り上げ、心理学で得られた知見を中心に講義する。
■到達目標
子どもの学習および学校生活での諸問題を、客観的に理解し議論できる。
■講義方法
Power Pointおよび板書を中心に進めるが、必要に応じて資料も配布する。
■系統的履修
「発達と教育A」と内容が連続しているので、可能な限り両方を履修すること。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）　受講態度
定期試験（70%）　教科書、ノート他、一切の持ち込みはできません。
■テキスト
特になし
■参考文献
授業時に適宜指定します。
■履修上の注意・担当者からの一言
授業に毎回出席し、講義内容をしっかり聞き、必要であればノートに取るという基本的な受講態度であることを求めます。当然ですが、私語は他の受講生に迷惑ですので、禁止します。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
事前に予約の上で、授業後に来てください。
■講義計画
①教育心理学とは（導入）
②知能と創造性
③教育評価の目的と意義
④測定および評価の方法
⑤学習への動機づけ
⑥自ら学ぶ意欲の発達
⑦学習指導の理論と教授法
⑧社会的認知の発達
⑨社会性と道徳性の発達
⑩社会としての学級とその問題
⑪社会的問題行動
⑫不適応と障害1：発達障害、知的機能および学習の障害
⑬不適応と障害2：神経症、心身症、精神病
⑭特別支援教育とソーシャルサポート
⑮講義のまとめ

フランス語ＩＡ

【担当】瓜生　濃世
【開講】前期　水３

■サブタイトル
すぐに使えるフランス語
■講義概要
この授業では、フランス語で気軽にコミュニケーションがとれるようになることを目指し、基礎的な会話を幅広くとりあげ、同時に初歩的な文法を学びます。教科書には日本のポップカルチャーがフランスで人気を集めている様子が紹介されているので、身近な話題を通してフランス語学習を行うことができます。また他の視聴覚教材や時事的な話題にもふれて、フランスの文化・歴史についても解説し、多様な広がりを持つ授業としていきます。
■到達目標
平易なフランス語が理解できるようになること。
■講義方法
教科書を用いて文法を解説し、視聴覚教材を利用して発音練習を行う。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（20%）
定期試験（60%）
■テキスト
藤田裕二　『パリのクール・ジャパン（Le Japon, c'est cool!）』
朝日出版社　2500円
■参考文献
仏和辞典を入手して下さい。次の３点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、『クラウン仏和辞典』には、電子辞書版があります。
■履修上の注意・担当者からの一言
初めて学ぶ外国語の場合、継続的な学習が必要不可欠です。毎回の出席を心がけ、授業中は集中して理解するよう努め、発音練習にも積極的に取り組んでください。
■講義計画
①オリエンテーション
②第0課
③第1課
④第2課
⑤第3課
⑥第3課
⑦第4課
⑧第4課
⑨第5課
⑩第5課
⑪第6課
⑫第6課
⑬第7課
⑭第7課
⑮まとめと復習

フランス語ＩＢ

【担当】瓜生　濃世
【開講】後期　水３

■サブタイトル
すぐに使えるフランス語
■講義概要
フランス語ＩＡの内容を引き継ぎます。この授業では、フランス語で気軽にコミュニケーションがとれるようになることを目指し、基礎的な会話を幅広くとりあげ、同時に初歩的な文法を学びます。教科書には、日本のポップカルチャーがフランスで人気を集めている様子が紹介されているので、身近な話題を通してフランス語学習を行うことができます。また他の視聴覚教材や時事的な話題にもふれて、フランスの文化・歴史についても解説し、多様な広がりを持つ授業としていきます。
■到達目標
平易なフランス語が理解できるようになること。
■講義方法
教科書を用いて文法を解説し、視聴覚教材を利用して発音練習を行う。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（20%）
定期試験（60%）
■テキスト
藤田裕二 『パリのクール・ジャパン（Le Japon, c'est cool!)』
朝日出版社　2500円
■参考文献
仏和辞典を入手して下さい。次の３点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』（白水社)、『プチ･ロワイヤル仏和辞典』（旺文社)、『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、『クラウン仏和辞典』には、電子辞書版があります。
■履修上の注意・担当者からの一言
初めて学ぶ外国語の場合、継続的な学習が必要不可欠です。毎回の出席を心がけ、授業中は集中して理解するよう努め、発音練習にも積極的に取り組んでください。
■講義計画
①前期の復習
②第８課
③第９課
④第９課
⑤第10課
⑥第10課
⑦第11課
⑧第11課
⑨第12課
⑩第12課
⑪第13課
⑫第13課
⑬第14課
⑭第14課
⑮まとめと復習

フランス語ＩＣ

【担当】森部　卓
【開講】前期　月２

■サブタイトル
ゲーム感覚で生きたフランス語の習得
■講義概要
従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには、日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。
■到達目標
①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。
■講義方法
パソコンソフト “Tell me more” の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。
■成績評価の方法
平 常 点（50%） 受講態度
定期試験（50%） 受講者数により､小テストに変更する場合あり。
■テキスト
藤田裕二 『パリのクール・ジャパン』 朝日出版社　2500円
■参考文献
辞書等、授業中に指示。
■履修上の注意・担当者からの一言
学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。「あいさつ」「お互いの紹介」から、日常の様々な場面でのモデル会話を中心に展開してゆきます。4月の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーン上で全体の構成を提示します。
■講義計画
①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成を提示
②フランスとフランス語に親しむ
③挨拶する
④発音と綴り字の説明
⑤名前、国籍、職業を言う
⑥年齢を言う、家族を語る
⑦好きなものを言う
⑧持ち物を言う
⑨友達について話す
⑩疑問詞を使ってたずねる
⑪近い未来、近い過去のことを言う
⑫時間、天候を言う
⑬数量を表す
⑭パリで出会う日本文化
⑮レストランに行く

フランス語ＩＣ

【担当】嶋崎　陽一
【開講】前期　月３

■サブタイトル
さらに楽しいフランス語
■講義概要
フランス語IA、IBは基礎的な文法知識の習得が主な目標となっています。それに対しIC、IDは、やはり文法項目についての解説も行うけれども、もっと多くのシチュエーションに触れ、実際にフランス語を多く口にすることで、より実践的な語学学習の場としたいと思います。同時に多くの視聴覚教材を利用して、フランスの文化と歴史について、幅広い解説をしていきます。さらに、盛りだくさんの内容を誇るコンピュータ教材を用いることで、発音練習なども深めていく予定です。
■到達目標
口頭練習を数多く取り入れることで、実践的なコミュニケーション能力を習得することを目指します。
■講義方法
CALL教室を利用して、語学学習用ソフトウェア、DVDなどを積極的に活用します。
■系統的履修
前期完結の授業ですが、つづけてフランス語IDも受講し、通年で学習することを目指してください。
■成績評価の方法
平 常 点（80%） 受講態度を重視します。
定期試験（20%）
■テキスト
中川努、中井珠子、曽我祐典 『フランス語2020』 白水社
2415円
■参考文献
仏和辞典を使用します。次の３点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『クラウン』には電子辞書版が、『プチ・ロワイヤル』には電子辞書版とiPhone版があります。
■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に興味を持ち、授業時間以外にもフランス語に多く触れることで、幅広い学習を心がけてください。
■講義計画
次の教材を併用していきます。受講生の進度に合わせて組み合わせを考えていきます。
Tell Me More（Auralog）
その他にも複数の視聴覚教材を使用します。

フランス語ＩＣ

【担当】森部　卓
【開講】前期　木３

■サブタイトル
ゲーム感覚で生きたフランス語の習得
■講義概要
従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。
■到達目標
①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。
■講義方法
パソコンソフト “Tell me more” の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。
■成績評価の方法
平 常 点（50%） 受講態度
定期試験（50%） 受講者数により､小テストに変更する場合あり。
■テキスト
藤田裕二 『パリのクール・ジャパン』 朝日出版社 2500円
■参考文献
辞書等、授業中に指示。
■履修上の注意・担当者からの一言
学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。「あいさつ」「お互いの紹介」から、日常の様々な場面でのモデル会話を中心に展開してゆきます。4月の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーン上で全体の構成を提示します。
■講義計画
①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成を提示
②フランスとフランス語に親しむ
③挨拶する
④発音と綴り字の説明
⑤名前、国籍、職業を言う
⑥年齢を言う、家族を語る
⑦好きなものを言う
⑧持ち物を言う
⑨友達について話す
⑩疑問詞を使ってたずねる
⑪近い未来、近い過去のことを言う
⑫時間、天候を言う
⑬数量を表す
⑭パリで出会う日本文化
⑮レストランに行く

フランス語ＩＤ

【担当】森部　卓
【開講】後期　月２

■サブタイトル
ゲーム感覚で生きたフランス語の習得

■講義概要
従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。なお、授業自体はＩＣの続きです。

■到達目標
①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。

■講義方法
パソコンソフト “Tell me more” の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）　受講態度
定期試験（50%）　受講者数により､小テストに変更する場合あり。

■テキスト
藤田裕二　『パリのクールジャパン』　朝日出版社　2500円

■参考文献
辞書等、授業中に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。ＩＣの続きですが、9月末の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーンで全体の構成を提示します。

■講義計画
①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成の提示
②一日を語る
③頼む、命令する
④店で買い物をする
⑤未来のことを語る
⑥過去のことを語る（直説法複合過去）
⑦バカンスに行く
⑧フランス語でメールを出す
⑨人や物について語る
⑩美術館に行く
⑪大人気のジャパン・エキスポ
⑫フランス留学と学生生活について
⑬乗り物に乗る
⑭感情を表現する
⑮日仏文化交流の昨今

フランス語ＩＤ

【担当】嶋崎　陽一
【開講】後期　月３

■サブタイトル
さらに楽しいフランス語

■講義概要
フランス語IA､IBは基礎的な文法知識の習得が主な目標となっています。それに対しIC、IDは、やはり文法項目についての解説も行うけれども、もっと多くのシチュエーションに触れ、実際にフランス語を多く口にすることで、より実践的な語学学習の場としたいと思います。後期はとくにコンピュータ教材、インターネットによる演習の比率を増やしていく予定です。

■到達目標
きれいな発音による、役立つフランス語の習得。

■講義方法
CALL教室を利用して、語学学習用ソフトウェア、DVDなどを積極的に活用します。

■系統的履修
後期完結の授業ですが、前期に開講されるフランス語ICもできれば受講しておいてください。

■成績評価の方法
平 常 点（80%）　受講態度を重視します。
定期試験（20%）

■テキスト
中川努、中井珠子、曽我祐典　『フランス語2020』　白水社　2415円

■参考文献
仏和辞典を使用します。次の３点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』（白水社)､『プチ･ロワイヤル仏和辞典』（旺文社)､『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『クラウン』には電子辞書版が、『プチ・ロワイヤル』には電子辞書版とiPhone版があります。

■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に興味を持ち、授業時間以外にもフランス語に多く触れることで、幅広い学習を心がけてください。

■講義計画
次の教材を併用していきます。受講生の進度に合わせて組み合わせを考えていきます。
Tell Me More（Auralog）
その他にも複数の視聴覚教材を使用します。

フランス語ＩＤ

【担当】森部　卓
【開講】後期　木３

■サブタイトル
ゲーム感覚で生きたフランス語の習得

■講義概要
従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。なお、授業自体はＩＣの続きです。

■到達目標
①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。

■講義方法
パソコンソフト “Tell me more” の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）　受講態度
定期試験（50%）　受講者数により､小テストに変更する場合あり。

■テキスト
藤田裕二　『パリのクール・ジャパン』　朝日出版社　2500円

■参考文献
辞書等、授業中に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。ＩＣの続きですが、9月末の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーンで全体の構成を提示します。

■講義計画
①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成の提示
②一日を語る
③頼む、命令する
④店で買い物をする
⑤未来のことを語る
⑥過去のことを語る（直説法複合過去）
⑦バカンスに行く
⑧フランス語でメールを出す
⑨人や物について語る
⑩美術館に行く
⑪大人気のジャパン・エキスポ
⑫フランス留学と学生生活について
⑬乗り物に乗る
⑭感情を表現する
⑮日仏文化交流の昨今

フランス語セミナーA

【担当】嶋崎　陽一
【開講】前期　木４

■サブタイトル
フランス語を楽しく深める

■講義概要
１年次ではじめて触れたフランス語に興味をもち、さらに学習を継続したい、と考える方が対象です。紙媒体のテクストとＣＡＬＬ教材を併用して、前年の学習内容を復習しつつ、その上に新しい知識を付け加えて、よりフランス語を楽しめるようになることをねらいとします。教科書では、パリのオルセー美術館に収蔵された絵画を題材としながら、フランス近代の歴史と文化が詳しく紹介されています。そうした文化学習にも力を入れていきます。

■到達目標
平易なフランス語の文章が読めるようになるまでの文法の知識、基本語彙の習得。

■講義方法
CALL教室で、視聴覚教材を用いると同時に、教科書を講読しながら、文法を学びます。

■系統的履修
前期完結の授業ですが、つづけてフランス語セミナーＢも受講されることをすすめます。

■成績評価の方法
平 常 点（60%）
定期試験（40%）

■テキスト
中山眞彦　『オルセー美術館にて－初級フランス語総合教本－』　朝日出版社　2500円

■参考文献
仏和辞典を使用します。次の３点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』（白水社)、『プチ･ロワイヤル仏和辞典』（旺文社)、『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『クラウン』には電子辞書版が、『プチ・ロワイヤル』には電子辞書版とiPhone版があります。

■履修上の注意・担当者からの一言
積極的な参加を望みます。

■講義計画
教材としては、文法・読本の教科書の他に、Tell Me More（Auralog）を用います。その他に、適宜視聴覚教材を用意します。教科書は近代の美術作品を通して広くフランスの文化を紹介するものです。

フランス語セミナーB

【担当】嶋崎　陽一
【開講】後期　木4

■サブタイトル
フランス語・フランス文化の理解を楽しく深める。

■講義概要
１年次ではじめて触れたフランス語に興味をもち、さらに学習を継続したい、と考える方が対象です。紙媒体のテクストとＣＡＬＬ教材を併用して、よりフランス語を楽しめるようになることをねらいとします。教科書では、パリのオルセー美術館に収蔵された絵画を題材としながら、フランス近代の歴史と文化が詳しく紹介されています。そうした文化学習にも力を入れていきます。

■到達目標
フランス語応用のための基礎的な語学力、現代のフランス文化についての知識を身に付ける。

■講義方法
CALL教室を利用します。引き続き中級文法を学ぶと同時に、視聴覚教材を通じてフランスの文化・歴史を学びます。また、希望により実用フランス語検定受験のための学習も用意します。

■系統的履修
後期完結の授業ですが、内容的にはフランス語セミナーＡと共通しています。継続した受講を勧めます。

■成績評価の方法
平 常 点（60%）
定期試験（40%）

■テキスト
中山眞彦 『オルセー美術館にて－初級フランス語総合教本－』 朝日出版社　2500円

■参考文献
『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ･ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）

■履修上の注意・担当者からの一言
積極的な参加を望みます。

■講義計画
教科書に加えて、次の教材を並行して使用していきます。
Tell Me More （Auralog）

仏教の思想

「仏教の思想Ａ・Ｂ」

龍谷大学は、「一切の人間が平等に真実心を与えられているという親鸞精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養とをもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想Ａ・Ｂ」は龍谷大学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義は、龍谷大学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して、自己をふりかえり、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的とします。自己と現実世界を見つめる時間、それが「仏教の思想」の講義といってもいいでしょう。「仏教の思想Ａ・Ｂ」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で一年次に開講されています。また入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。

この「仏教の思想Ａ・Ｂ」を平易に理解していただくために、以下に教育目標と講義の主な内容を掲げておきます。

講義の教育目標

１．人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実の宗教を見極める眼を育てる。

真実の宗教は、その思想と文化を通して、人間に二つの働きをもっている。一つは、自己の存在意味や人生の根本的な方向性を指し示すという働きである。もう一つは、日々の生活の中で直面する苦しみや悲しみを乗りこえさせるという働きである。仏教は、この二つの働きをもって、自己中心的に生きようとする人間が、あるべき理想の人間に向かって、脱皮、成長していくことをめざしている。

２．倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。

仏教は一つの学問である。高校では、公民科「倫理」や地歴科「世界史」「日本史」の教科で、仏教を学習する。それを踏まえ、「仏教の思想」の教育目標に、次の点を掲げる。

① 青年期における人間が、自ら歩んできた道・人生をあらためて見つめ直し、人間として生きる意味を考える。

② 学生が過去の人々の思想や生き方を学び、また現代社会の諸問題を考えることを通して、人間としての生きる意味や目的を探求する。

③ 仏教は、人類が継承してきた一つの智慧であり、世界の各地で、人々の心の依りどころとなっている。この歴史を学ぶことを通して、ものの見方を豊かにし、人生への思索を深める。

３．人間学として「仏教の思想」を学ぶ。

宗教は民族宗教と世界宗教に大きく分類されるが、世界宗教としての仏教の特質には次のような点があげられる。

・創造主なる神を想定しない

・人間を含むあらゆるいのちに重きを置く

仏教がめざしたのは生きとし生けるものの幸せ・平等・平和である。講義を通して自己を内省し、悲しみや苦しみに立ち向かう勇気と、他者に対する慈愛と感謝と寛容さを培う。

４．広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。

一つの固定的なものの見方を離れ、柔軟で、幅広い考え方や生き方が開かれるように、「仏教の思想」を学ぶ。

５．現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。

戦争・差別・貧困・犯罪など、世界の各地で現実に起きている問題と向きあい、どのように解決したらよいかについて考える。

６．いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。

いのちに関わる現代の諸問題－生命倫理や地球環境など－を積極的に見つめる。仏教は、一つひとつの存在が無限の意味と尊さをもって輝いていると伝えてきた。さまざまな執着や偏見をとりはらい、相手の幸せを願い、相手の痛みをともに分かちあおうとする共感を養う。

７．「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

龍谷大学は、シルクロードコレクションなどの世界的に貴重な古典籍を有する大学である。1639 年創設以来からの、龍谷大学の仏教の先進性と歴史的伝統を、建学の精神を学ぶことを通して理解し、龍谷大学を愛する学生を育てる。

講義の概要

「仏教の思想 A」講義の概要

「仏教の思想」の教育目標を、以下に示す講義の内容全体に盛り込みながら、教員からの一方的な講義にならないよう、学生一人ひとりの声に耳を傾け、視聴覚教材や研究展示施設パドマ、龍谷ミュージアムの展示を活用して講義を展開します。

仏教の思想 A

「仏教の思想 A」では、釈尊の生涯と思想を中心に、以下の授業計画で進めます。

人間と宗教――カルトや原理主義・宗教の意義

神々と仏――民族宗教・世界宗教（キリスト教・イスラム教・仏教）

あるがままに見る眼――智慧・如実知見・四諦・三法印

いのちあるものすべてへの慈愛――慈悲・非暴力

自己中心的に考える人間存在――煩悩・我執・四苦八苦

支えあってつながっている宇宙――縁起の理法・空・無我

仏教の思想と龍谷大学の建学の精神

仏教の思想Ａ

【担当】大谷　由香
【開講】前期　水１

■講義方法
板書と配布資料を用いて講義を進める。また必要に応じて視聴覚教材を利用する。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）　受講態度などから判断する。また毎講義時に授業内容に関するコメントを提出することを義務付ける。
定期試験（50%）　点数を評価とする。レポートに代える場合もある。
講義を３分の１以上欠席すると単位を認定しない。

■テキスト
講義時に随時配布する。

■参考文献
講義時に随時紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
仏教の考え方を知ることによって、みなさんの世界を見る目が広がることをめざします。また知識として仏教を知るだけではなく、我が身我が事として仏教を考えることを期待します。

■講義計画
①１～２回目
人間と宗教　　カルトや原理主義・宗教の意義
②３～４回目
神々と仏　　民族宗教･世界宗教（キリスト教･イスラム教･仏教）
③５～６回目
あるがままに見る眼　　智慧・如実知見・四諦・三法印
④７～８回目
いのちあるものすべてへの慈愛　　慈悲・非暴力
⑤９～１０回目
自己中心的に考える人間存在　　煩悩・我執・四苦八苦
⑥１１～１２回目
支えあってつながっている宇宙　　縁起の理法・空・無我
⑦１３～１５回目
仏教の思想と龍谷大学の建学の精神

講義の概要

「仏教の思想 B」講義の概要

「仏教の思想」の教育目標を、以下に示す講義の内容全体に盛り込みながら、教員からの一方的な講義にならないよう、学生一人ひとりの声に耳を傾け、視聴覚教材や研究展示施設パドマ、龍谷ミュージアムの展示を活用して講義を展開します。

仏教の思想 B

「仏教の思想 B」では、親鸞の生涯と思想を中心に、以下の授業計画で進めます。

鎌倉仏教の位置と特質――法然・親鸞・道元・日蓮・一遍

真実の探求――老少善悪を問わず・易行・わけへだてのない安らぎの道

自己を徹底的に見つめる――悪人正機・煩悩具足の凡夫・罪悪深重

現実世界への凝視と安らぎへの願い――火宅無常の世界・欣求浄土・世のなか安隠なれ

あるがままで受け容れられる世界――摂取不捨・阿弥陀仏の本願・自力と他力

あらゆるものは輝いている――白色白光・御同朋御同行・他者の尊重

親鸞の思想と龍谷大学の建学の精神

仏教の思想B

【担当】大谷　由香
【開講】後期　水1

■講義方法
板書と配布資料を用いて講義を進める。また必要に応じて視聴覚教材を利用する。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）　出席状況、受講態度などから判断する。また毎講義時に授業内容に関するコメントを提出することを義務付ける。
定期試験（50%）　点数を評価とする。レポートに代える場合もある。
講義を３分の１以上欠席すると単位を認定しない。

■テキスト
講義時に随時配布する。

■参考文献
講義時に随時紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
仏教の考え方を知ることによって、みなさんの世界を見る目が広がることをめざします。また知識として仏教を知るだけではなく、我が身我が事として仏教を考えることを期待します。

■講義計画
①１～２回目
鎌倉仏教の位置と特質
法然・親鸞・道元・日蓮・一遍
②３～４回目
真実の探求
老少善悪を問わず・易行・わけへだてのない安らぎの道
③５～６回目
自己を徹底的に見つめる
悪人正機・煩悩具足の凡夫・罪悪深重
④７～８回目
現実世界への凝視と安らぎへの願い
火宅無常の世界・欣求浄土・世のなか安穏なれ
⑤９～１０回目
あるがままで受け容れられる世界
摂取不捨・阿弥陀仏の本願・自力と他力
⑥１１～１２回目
あらゆるものは輝いている
白色白光・御同朋御同行・他者の尊重
⑦１３～１５回目
親鸞の思想と龍谷大学の建学の精神

文学入門

【担当】大槻　志郎
【開講】前期　水3

■サブタイトル
物語の誘惑
■講義概要
ある物語が面白く感じられ、ある言葉が魅力的に思えるのはなぜなのか。おそらくこれまでは漠然と、文学に接してきた学生諸君に、文学を理解するための諸々の知的枠組みを紹介し、それによって新たな目で文学を捉え、より深く面白く味わえるようにするのが狙い。その過程で、道具となる考え方はもちろん、ときに専門用語も導入し、また例として学生にとって面白いのではないかという諸作品をも紹介したい。対象は日本文学に限らず広く翻訳も含める。詩も取り上げるものの、何よりも物語の魅力を焦点とするため、ジャンルとしては主に小説を扱う。映画など、文学以外の物語形式にも多く言及することになる。
■到達目標
文学作品を、より知的に、より深く、より楽しく、味わうためのノウハウを身につける。
文学という広く豊かな世界への意識を養う。
■講義方法
受講者数にもよるが、授業計画に基づく理論的な講義と、実際に文学作品を読み解く作業とを併せて取り入れたい。細かいレベルで考えられるように、作品は短編を中心に扱う。出欠状況の確認も兼ねて、毎回講義の最初にミニクイズ、終わりに感想、質問などを書いてもらうほか、作品分析などで課題の提出を求めることがある。
■成績評価の方法
平 常 点（40%） 講義末に書いてもらうコメントや課題の提出状況と内容
定期試験（60%） 講義内容に関する選択問題、論述問題など。
試験と平常成績を総合的に評価する。3分の1以上欠席の場合は原則として評価は0点とする。
■テキスト
使用せず。適宜プリント配布。
■参考文献
中条省平 『小説の解剖学（ちくま文庫）』 筑摩書房 798円
廣野由美子 『批評理論入門―『フランケンシュタイン』解剖講義（中公新書）』 中央公論社 780円
■履修上の注意・担当者からの一言
文学の世界をもっと知りたい、理解したいという意欲ある受講者を念頭に、講師も受講生も労力は大きいが収穫も多い講義をめざす。したがって楽に単位が取れればいいだけの人には向かない。よく話を聞いて、じっくり考え深く味わって欲しい。なお、物語についての講義となると、取り上げる小説などについての、いわゆる「ネタばれ」は多少とも避けられない。なるべく配慮はするが、あらかじめ了解の上受講のこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜または金曜の4講時。ただしいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、eLeaningサイトを開設予定。
■講義計画
①序説―文学は死んだか？
②詩の言葉、言葉の詩
③ジャンル・タイプ・intertextuality
④幻想という名の真実
⑤言葉の裏を読む
⑥象徴の成立
⑦構造と対立
⑧アイロニー
⑨作者・作品・読者
⑩曖昧と解釈の問題
⑪文学と時間
⑫名前の文化論
⑬旅のモチーフ
⑭実践分析批評
＊以上は、講義項目の流れを示したもので、必ずしも回毎の内容ではない。1-13の項目に14を絡めてゆくのが基本スタイルである。

文学入門

【担当】嶋崎　陽一
【開講】後期　月2

■サブタイトル
ブンガクはなぜあんなにつまらないか？あるいはなぜこんなに面白いか？
■講義概要
宿題で読書感想文を書かされ、観たいテレビもがまんして嫌いな作文を書かされたせいで読書が嫌いになった方は多いでしょう。おまけに、今の世の中、ケータイでもネットでも、本を読むより楽しいことはいくらでもあります。それなのになぜ本を読まなければならないのか？それもよりによってブンガクだなんて！しかし、実はブンガクこそが、私たちの住んでいる世界を作る力・ひっくり返す力を持っているのです。本講義は、そうしたブンガクの力についての入門です。
■到達目標
ただひたすら楽しいはずの文学を読むという行為を認識する。
■講義方法
毎回テーマを決めて数冊の本を採り上げ、講義形式で解説する。
■成績評価の方法
平 常 点（20%） 受講態度。
レポート（80%）
■テキスト
特になし
■参考文献
授業中に指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
レポート課題は講義でとりあげたテーマに沿って出される。留意されたい。
■講義計画
以下に挙げる作家を採り上げる予定である。（順不同）
1回目　ダニエル・キイス
2回目　高橋源一郎
3回目　銀林みのる
4回目　舞城王太郎
5回目　谷川俊太郎
6回目　ジェイムズ・ジョイス
7回目　筒井康隆
8回目　村上春樹
9回目　ミシェル・ビュトール
10回目　山田風太郎
11回目　恩田陸
12回目　ブラム・ストーカー
13回目　入澤康夫
14回目　川崎洋
15回目　谷崎潤一郎

文学入門

【担当】坂本　輝世
【開講】後期　水４

■サブタイトル
アフリカ系アメリカ人をめぐる文学
■講義概要
「人種」間の関係，とくにアフリカ系アメリカ人の文化・社会を主題とした小説、評論、詩などを読み、差別し、差別される人間の精神の働きを文学がどのように表現してきたかを読み取り、同時にアフリカ系アメリカ人の文化の豊かさと多様性を味わう。
アメリカ社会が常に抱えてきた白人と黒人の間の対立・葛藤と文化的アイデンティティの問題は、奴隷貿易や植民地、あるいはそれ以前の時代にさかのぼり、民族や「人種」とは何かという問題にもつながる。そのような背景を理解し、現代日本に生きる我々の課題として考えてみたい。
■到達目標
アフリカ系アメリカ人を中心とした、アメリカ文学、文化、社会に関する知見を深める。また、差別し、差別される人間の精神の働きを文学がどのように表現してきたかを読み取ることができる。
■講義方法
毎週、宿題としてテキストを読み、内容について要約・感想・疑問点などを提出してもらいます。また、学期末にレポートを提出してもらいます。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）　毎回のクラスで、読んできたテキストについての課題を答えてもらいます。
レポート（50%）　授業で取り上げたトピックの中から自分で選択し、期末レポートを書いてもらいます。
一学期を通してかなりの量を読み、ほぼ毎回課題を提出することになるので、その覚悟をして受講すること。
■テキスト
ジョゼフ・コンラッド『闇の奥』光文社　620円
トニ・モリスン『青い眼がほしい』ハヤカワepi文庫　819円
ハーパー・リー『アラバマ物語』暮しの手帖社　1050円
■参考文献
本田創造『アメリカ黒人の歴史』岩波書店(岩波新書)　819円
■講義計画
①はじめに
②西欧世界のアフリカ観
③ジョゼフ・コンラッド「闇の奥」(1)
④ジョゼフ・コンラッド「闇の奥」(2)
⑤アメリカにおける黒人奴隷
⑥ケイト・ショパン「デジレの赤ちゃん」
⑦奴隷解放後のアメリカ黒人
⑧ハーパー・リー「アラバマ物語」(1)
⑨ハーパー・リー「アラバマ物語」(2)
⑩ハーパー・リー「アラバマ物語」(3)
⑪トニ・モリスン「青い眼がほしい」(1)
⑫トニ・モリスン「青い眼がほしい」(2)
⑬トニ・モリスン「青い眼がほしい」(3)
⑭公民権運動とその後
⑮まとめ

法学入門

【担当】時本　義昭
【開講】前期　月１

■サブタイトル
日常生活と法
■講義概要
わが国では、明治維新以来、欧米の法制度を積極的に導入してきた結果、現在、社会生活のすみずみまで法の網の目が張りめぐらされ、近代的法制度は一応完備されているといってよい。さらに、敗戦に伴う日本国憲法の制定（とくに社会権の保障）・環境問題・高齢化社会の到来などによって、現在のわが国の法制度は世界の最先端に位置しているといっても過言ではない。このように複雑な現在の日本社会で生活してゆくためには、法に関する基本的な知識が不可欠である。そこで本講義では、日常生活にとって必要不可欠な法的知識について、財産関係と家族関係を中心に説明したい。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること。
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
■テキスト
特になし
■参考文献
佐藤幸治他編　『デイリー六法平成23年版』　三省堂
※プリント使用
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①基礎知識（法の種類）
②日本国憲法の基本原理
③日本国憲法の保障する人権
④日常生活と契約Ⅰ（契約とその主体）
⑤日常生活と契約Ⅱ（動産と不動産）
⑥日常生活と契約Ⅲ（金銭と保証）
⑦日常生活とアクシデント
⑧雇用と法
⑨家族関係Ⅰ（夫婦と親子）
⑩家族関係Ⅱ（相続）
⑪犯罪と法Ⅰ（刑法の基本原理）
⑫犯罪と法Ⅱ（犯罪の成立）
⑬行政と法
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

法学入門

【担当】時本　義昭
【開講】前期　月３

■サブタイトル
日常生活と法

■講義概要
わが国では、明治維新以来、欧米の法制度を積極的に導入してきた結果、現在、社会生活のすみずみまで法の網の目が張りめぐらされ、近代的法制度は一応完備されているといってよい。さらに、敗戦に伴う日本国憲法の制定（とくに社会権の保障）・環境問題・高齢化社会の到来などによって、現在のわが国の法制度は世界の最先端に位置しているといっても過言ではない。このように複雑な現在の日本社会で生活してゆくためには、法に関する基本的な知識が不可欠である。そこで本講義では、日常生活にとって必要不可欠な法的知識について、財産関係と家族関係を中心に説明したい。

■到達目標
基本的な法的思考を身につけること。

■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■成績評価の方法
定期試験（100%）　学期末の定期試験

■テキスト
特になし

■参考文献
佐藤幸治他編　『デイリー六法平成23年版』　三省堂
※プリント使用

■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画
①基礎知識（法の種類）
②日本国憲法の基本原理
③日本国憲法の保障する人権
④日常生活と契約Ⅰ（契約とその主体）
⑤日常生活と契約Ⅱ（動産と不動産）
⑥日常生活と契約Ⅲ（金銭と保証）
⑦日常生活とアクシデント
⑧雇用と法
⑨家族関係Ⅰ（夫婦と親子）
⑩家族関係Ⅱ（相続）
⑪犯罪と法Ⅰ（刑法の基本原理）
⑫犯罪と法Ⅱ（犯罪の成立）
⑬行政と法
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

倫理学入門

【担当】菊地　建至
【開講】前期　水３

■サブタイトル
現代社会の倫理学入門

■講義概要
・現代社会において、とくに「自由な社会（リベラリズムの社会）」において「倫理学」はどのように生かされるか。また、現代社会の倫理学はどのようなことを主題とし、どのようにそれらを探究するか。わたしはつねにこれらの問題意識をもって、かつ、できるかぎりわかりやすい解説を心がけて、「倫理学入門」の授業を進めます。
・授業で取り上げることには、たとえば「友人関係にとって重要なことは何か」、「親・教師・先輩などには黙って従わないといけないのか」、「自由に生きるとはどういうことか」、「多数決は万能か」、「流行や仲間の意見を参考にするとはどういうことか」、「他人や社会に助けてもらうのは正しくないことなのか」、「異なる価値を重視する人たちが集まって話し合うのに重要なことは何か」といったことも含まれる予定であり、授業内容の多くは君にとって「身近な」ことがらだろう。それらがどのような仕方で「倫理問題」になるのか、楽しみに参加してほしい。
・「倫理学入門」の経験は、君が「あたりまえ」や「しかたない」と思っていることを見直すきっかけになるかもしれない。また、それによって「他者」・「政治経済」・「科学技術」へのかかわりの新たな可能性に気づくこともあるだろう。受講者が現代社会におけるさまざまなことについて「倫理学的に」考え話し合うきっかけになる「入門」授業にしたいと思います。
・「倫理学入門」はこれまでのところ「楽しかった」・「興味をもてた」と言ってくれる受講生が多い授業だが、「厳しい」面もある。「楽して単位がとれれば、授業内容なんてどうでもよい」とか「私語など厳しく注意されるのはいやだ」という人には向かない授業だと思う。

■到達目標
現代社会において、とくに「自由な社会（リベラリズムの社会）」において、どのように「倫理学」は生かされるか。このことの理解を深めるとともに、日常の生活や社会の諸問題に関して「倫理学的に」考え表現するための「基本」を身につける。

■講義方法
・基本的に「講義」形式の授業です。しかし、授業に参加する人がただ受け身でいるような授業ではなく、「映像資料（映画やテレビ番組）」や「読書資料」もたくさん活用し、具体的かつ理論的に「倫理学」に取り組めるように工夫します。
・ほぼ毎回「レジュメ」を配付するが、原則として欠席者は「次回授業でのみ」それを受け取ることができる（もちろん、いわゆる「公欠」扱いの人や「長期入院」などの場合は、別扱いです）。連続欠席をすると、授業内容の理解が難しくなるのは当然だが、この意味でも「継続的な」授業参加が重要になる。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）［基本的に、授業内でのみ通知する］課題・復習小テストなどにより評価する。
定期試験（60%）
下段「履修上の注意・担当者からの一言」にも記したが、受講者数によっては「出席」をとることができるかもしれない。その場合には、定期試験の配点の一部を「出席点」とする。

■テキスト
テキストは使用しない。ただし、必要な範囲で「読解資料」を配付することがある。その場合、予習・復習することが求められる。君にとってそれは楽なことではないと思うが、授業内で「文章を読む」のに役立つアドバイスもするから、やる気さえあれば心配はない。

■参考文献
授業で、そのつど紹介する。ぜひ、積極的に読んでほしい。

■履修上の注意・担当者からの一言
・受講者数が多くて毎回出席確認することに困難が多いと判断すれば、出席はとらない。この点は、初回授業で、決定する。しかし、いずれにしても、継続的な「授業参加」と「復習」がなければ高得点は望めないだろう。
・また、倫理学の実践にとって、「よく聞くこと」や「ていねいに考えること」を続けることは欠かせない。受講者ひとりひとりが集中して授業にのぞめるような授業環境づくりに協力することを求めます。その点では、「厳しい」授業です。
・授業内容は、身近なテーマ、重要な社会問題、「映像資料」などを扱うことも多く、楽しく学べるものにしたいと思います。

■講義計画
①（１～２回目）ガイダンス。
　また、テレビドラマなどを活用して、「倫理学」をはじめる。
②（３～４回目）「笑い」や「好き嫌いの話題」を通して、「倫理的なことをめぐる会話」の基礎を学ぶ。
③（５～７回目）「倫理学の脅威・強敵」について考えるとともに、現代社会の倫理学にとって重要な概念である「自由（不自由）」の理解を深める。
④（８～12回目）映画や読書資料を活用して、「倫理の基礎の探求」や「話題の社会問題の倫理学的考察」に取り組む。
⑤（13～14回目）「倫理学」の視角から、「デモクラシー」や「メディア」について考える。
⑥（15回目）まとめ
※以上、順不同。

歴史入門

【担当】西村　昌洋
【開講】前期　水3

■サブタイトル
ヨーロッパと古典古代

■講義概要
本講義は「歴史入門」であるが、限られた時間の中で歴史全体を扱うことは土台不可能であるため、ここでは古代の地中海世界に重点を置いて話をしたい。なぜなら、現代世界の価値規範の中心を占めているものは西ヨーロッパに由来するそれであるが、そのヨーロッパの歴史・文化の基底をなすものは、一つはギリシア・ローマの古典時代であり、もう一つは同じ古代の世界から生まれたキリスト教である、とされているからである。2000年も過去の時代でありながら、この二つは後のヨーロッパ世界にとって源流とみなされてきた。これらは確かに後代の人間にとって模範であり伝統とされたのだが、実際には時代に応じてその評価や理解は変化しており、常に同じ評価が与えられてきたわけではない。ある部分は模範として称えられ、また別の部分は無視されたり軽んじられたりすることもある。また、時代が変わると評価が一変するものも少なくはなく、その時代に応じた理解や解釈がなされてきたのであり、ある評価とまた別の評価とは相矛盾することすらある。もしかすると、私たちは近代以降の西ヨーロッパの基準で物事を眺めすぎているのかもしれない。本講義では、まず、ヨーロッパ古代史の基本的なトピックを取り上げて説明する。同時に、それらが後代の人間からはどのように理解され位置付けられてきたのか、そこに時代錯誤や問題点はないのか、こうした点にも注意して考えてみたい。

■到達目標
ヨーロッパの古代は栄光ある古典の時代として、理想的な模範とみなされている。しかし、それは時間的に遠く離れた後代の人間による、場合によってはご都合主義的とも言えるような、解釈と価値付けを通して模範となったものである。本講義では、現代の研究の水準で見る古代はどのようなものか、そして、近代以後の人間は古代世界をどのように理解し位置付けたのか、これら二つの「古代」を照らし合わせ、歴史を理解する営みについて考えることが目標である。

■講義方法
講義形式であり、教科書的なテキストは使用せず、資料を適宜配布する。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）　授業中ランダムに出席をとる。1回10点×5回。出席票には少なくとも何か一言コメントか感想を書いてもらう。
レポート（50%）　読書レポートを課す。課題および様式については授業中に別途指示する。

■テキスト
特になし

■参考文献
授業中に適宜紹介する。

■講義計画
①導入　ヨーロッパと古典古代
②ギリシア　ポリスの世界
③ギリシア　古代の民主主義：アテナイ
④ギリシア　裁判大国？アテナイ
⑤ギリシア　「古典」の時代として
⑥ローマ　軍事国家の覇権達成
⑦ローマ　「最も幸福な時代」の統治
⑧ローマ　浪費社会？ローマ
⑨ローマ　文明の遺産？
⑩キリスト教　迫害下のキリスト教会
⑪キリスト教　公認後のキリスト教会
⑫キリスト教　古代末期の司教たち
⑬ビザンツ　「ローマ人」の帝国：ビザンツ
⑭ビザンツ　西欧とビザンツ：十字軍
⑮ビザンツ　ビザンツ以後

歴史入門

【担当】佐野　東生
【開講】後期　金2

■サブタイトル
西アジアの歴史と文化

■講義概要
西アジアは多様な民族・宗教・文化が交流する地域として長い歴史を有している。この講義では、史料を主体とした歴史学の基礎を理解した上で、古代から近現代に至る西アジア史について概観する。まず、古代オリエント文明を基としたギリシア・ペルシア文明のあり様について述べ、アレクサンダー大王の遠征に起因するヘレニズム文化の成立と仏教にも影響を与えた発展について理解を深める。次いで中世イスラーム世界の大規模な交流について解説する。その上で、近現代史について西洋の進出とそれへの対応の視野から見ていく。

■到達目標
中東とも呼ばれる西アジア地域の現代の情勢を考察する上で、歴史的理解の必要性を認識すること。

■講義方法
講義形式で、日本語に訳された史料を配布し、講読する。ビデオなど視覚教材を適宜使用。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）　質問票（出席票にもなる）を最低1回書く。
小テスト（20%）　1回実施する。
定期試験（60%）

■テキスト
特になし

■参考文献
前嶋信次 『イスラムの時代』 講談社学術文庫　1365円

■履修上の注意・担当者からの一言
西アジア史に関する書籍は多いので、講義とともに読む習慣を身に着けてもらいたい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義中に指示

■講義計画
①歴史学の方法1
②歴史学の方法2
③古代の西アジア1
④古代の西アジア2
⑤古代の西アジア3
⑥古代の西アジア4
⑦中世イスラーム史1
⑧中世イスラーム史2
⑨中世イスラーム史3
⑩近代1
⑪近代2
⑫現代1
⑬現代2
⑭現代3
⑮まとめ

論理学入門

【担当】中谷　隆雄
【開講】前期　月３

■サブタイトル
練習して身につく論理学
■講義概要
講義のテーマは「推論」である。私たちの思考や議論には、さまざまの形で、推論というものが含まれている。推論とはどういうものか。定義すれば、「前提から結論を導き出すこと」ということになる。推論には、長くて複雑なものもあるが、たとえば、「・・・だから、・・・である」という言い方をするときにも、私たちは「前提から結論を導き出」そうとしている。これも推論である。もちろん、推論をしているからといって、必ずしも正しい推論をしているとはかぎらない。推論には正しいものもあれば、まちがったものもある。ならば、推論が正しいとはどういうことか。どういう推論が正しくて、どういう推論が正しくないのか。講義では、こうしたことについて考えていきたい。
■到達目標
弁論の技術をみがくよりは、むしろ思考の能力を高めることを目指す。つまり、他人との議論に対処する技術ではなく、自分自身の日々の思考あるいは発言が論理的に正しいかどうか（辻褄があっているかどうか）を吟味する力を高めていく。
■講義方法
推論が正しいか否かを判定するために記号を使う。記号に慣れるために、教壇から説明するだけではなく、講義時間中に各自で練習問題を解いてもらう。そうすれば、効果的に、推理を判定する方法がマスターできるはずである。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
定期試験（80%）
評価は主として定期試験によって評価する。定期試験約80点（80%）、平常点約20点（20%）
■テキスト
飯田賢一他著　『論理学の基礎』　昭和堂　2000円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてほしい。
■講義計画
①論理とは何か
②推論の最小単位としての命題（文）・命題を否定する語（ない）
③命題と命題を結ぶ語（そして）
④命題と命題を結ぶ語（あるいは）
⑤命題と命題を結ぶ語（ならば）
⑥命題と命題を結ぶ語（双条件）
⑦常に真な命題；表による判定
⑧常に真な命題；図による判定
⑨推論の妥当性；表による判定
⑩推論の妥当性；図による判定
⑪ルールによる推論の証明（1）（そして）
⑫ルールによる推論の証明（2）（ならば）
⑬ルールによる推論の証明（3）（ない）
⑭総復習

論理学入門

【担当】中谷　隆雄
【開講】後期　月３

■サブタイトル
練習して身につく論理学
■講義概要
講義のテーマは「推論」である。私たちの思考や議論には、さまざまの形で、推論というものが含まれている。推論とはどういうものか。定義すれば、「前提から結論を導き出すこと」ということになる。推論には、長くて複雑なものもあるが、たとえば、「・・・だから、・・・である」という言い方をするときにも、私たちは「前提から結論を導き出」そうとしている。これも推論である。もちろん、推論をしているからといって、必ずしも正しい推論をしているとはかぎらない。推論には正しいものもあれば、まちがったものもある。ならば、推論が正しいとはどういうことか。どういう推論が正しくて、どういう推論が正しくないのか。講義では、こうしたことについて考えていきたい。
■到達目標
弁論の技術をみがくよりは、むしろ思考の能力を高めることを目指す。つまり、他人との議論に対処する技術ではなく、自分自身の日々の思考あるいは発言が論理的に正しいかどうか（辻褄があっているかどうか）を吟味する力を高めていく。
■講義方法
推論が正しいか否かを判定するために記号を使う。記号に慣れるために、教壇から説明するだけではなく、講義時間中に各自で練習問題を解いてもらう。そうすれば、効果的に、推理を判定する方法がマスターできるはずである。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
定期試験（80%）
主として定期試験によって評価する。定期試験約80点（80%）、平常点約20点（20%）
■テキスト
飯田賢一他著　『論理学の基礎』　昭和堂　2000円
改定の予定があるので、テキストは後期になってから購入すること
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてほしい。
■講義計画
①論理とは何か
②推論の最小単位としての命題（文）・命題を否定する語（ない）
③命題と命題を結ぶ語（そして）
④命題と命題を結ぶ語（あるいは）
⑤命題と命題を結ぶ語（ならば）
⑥命題と命題を結ぶ語（双条件）
⑦常に真な命題；表による判定
⑧常に真な命題；図による判定
⑨推論の妥当性；表による判定
⑩推論の妥当性；図による判定
⑪ルールによる推論の証明（1）（そして）
⑫ルールによる推論の証明（2）（ならば）
⑬ルールによる推論の証明（3）（ない）総復習
⑭総復習

教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）

（総　合　科　目）

カナ	科目名	担当者	開講曜講時		ページ
ア	アジアの文化	徐　光輝	前期	木４	165
	アジアの文化	石坂　晋哉	後期	水２	165
	アジアの文化	舟橋　健太	後期	木４	166
オ	欧米の文化	サルズ・ジョーナ・Ｉ	前期	木４	167
	欧米の文化	嶋崎　陽一	後期	水２	168
	欧米の文化	大槻　志郎	後期	水３	168
	欧米の文化	青山　豊	後期	金２	169
カ	海外英語研修	イエニク・Ｓ・Ｃ	後期	水３	169
	科学技術史	林　久夫	前期	月１	170
	科学技術史	堀川　武	後期	月３	170
	環境と人間Ａ	竺　文彦	前期	月４	171
	環境と人間Ａ	河合　富佐子	後期	土１	171
	環境と人間Ｂ	松浦　直毅	前期	木４	172
	環境と人間Ｂ	鈴木　滋	後期	水２	172
	環境と倫理	柿本　佳美	前期	木４	173
キ	教養教育科目特別講義Ａ（里山学入門）／共同開講科目特別講義	宮浦　富保／占部　武生／岸本　直之／北川　秀樹／近藤　倫生／須藤　護／田中　滋／林　珠乃／朴　炫国／丸山　徳次／遊磨　正秀／横田　岳人	前期	金１	173
	教養教育科目特別講義Ｂ（西洋近現代史入門）	山中　聡	前期	水３	174
	教養教育科目特別講義Ｂ（西洋近現代史入門）	山中　聡	後期	水３	174
	教養教育科目特別講義Ｃ（アジアの映画）	李　相哲	前期	月３	175
	教養教育科目特別講義Ｄ（アジアの歴史と社会）	上田　知亮	前期	水３	175
	教養教育科目特別講義Ｄ（アジアの歴史と社会）	上田　知亮	後期	水３	176
	教養教育科目特別講義Ｅ（アジアの途上国と社会開発）	佐藤　彰男	前期	木３	176
ケ	健康とスポーツ	渡辺　英児	後期	月１	177
	現代社会と宗教	辻　虎志	前期	木３	177
	現代社会と宗教	辻　虎志	後期	木３	178
	現代社会とスポーツ	辻　延浩	後期	金１	178
	現代社会と福祉	清水　教恵	前期	木３	179
	現代社会とマス・メディア	中野　有	前期	月４	179
	現代社会とマス・メディア	中野　有	後期	月４	180
	現代社会とマス・メディア	西村　敏雄	後期	水２	180
	現代の技術	吉川　恒夫／池田　昌彦	後期	月３	181
コ	国際社会と日本Ａ	池尾　靖志	前期	金２	182

カナ	科目名	担当者	開講曜講時		ページ
コ	国際社会と日本Ｂ	大庭　弘継	後期	月４	183
	国際社会と日本Ｃ	藤本　龍児	後期	金２	183
シ	ジェンダー論	山下　明子	前期	月１	184
	ジェンダー論	山下　明子	前期	月２	184
	ジェンダー論	山下　明子	前期	月３	185
	自然観察法	宮浦　富保／遊磨　正秀	前期	金２	185
	情報社会とメディア	外村　佳伸／三浦　雅展	前期	月３	186
	情報社会とメディア	外村　佳伸／三浦　雅展	後期	木３	186
	情報と人間	小堀　聡	後期	木３	187
	情報倫理	野村　竜也／芝原　努	前期	月４	187
	人権論Ａ	松本　城洲夫	前期	月２	188
	人権論Ａ	原口　剛	前期	月２	188
	人権論Ａ	原口　剛	前期	月１	189
	人権論Ａ	松本　城洲夫	前期	月３	189
	人権論Ａ	中川　ユリ子	前期	月３	190
	人権論Ａ	岸　衛	前期	水３	190
	人権論Ａ	金　光敏	前期	水４	191
	人権論Ｂ	松本　城洲夫	後期	月２	191
	人権論Ｂ	原口　剛	後期	月２	192
	人権論Ｂ	中川　ユリ子	後期	月３	192
	人権論Ｂ	松本　城洲夫	後期	月３	193
	人権論Ｂ	原口　剛	後期	月１	193
	人権論Ｂ	岸　衛	後期	水３	194
	人権論Ｂ	金　光敏	後期	水４	195
ス	スポーツ文化論	松下　唯夫	前期	水３	196
セ	生活の中の宗教	久松　英二	前期	月３	196
	生命と共生	田村　公江	前期	木３	197
	生命と共生	田村　公江	後期	木３	197
	世界の福祉	太谷　亜由美	前期	水３	198
タ	歎異抄の思想Ⅰ	殿内　恒	前期	水２	198
	歎異抄の思想Ⅱ	殿内　恒	後期	水２	199
ニ	日本の文化	泉　文明	後期	月３	199
	人間と社会と法	時本　義昭	前期	木４	200
ヘ	平和学入門	池尾　靖志	前期	月２	200
	平和学入門	池尾　靖志	後期	月２	201
メ	メディアにみる福祉	高田　敏司	後期	月２	201
	メディアにみる福祉	幸重　忠孝	後期	木３	202

アジアの文化

【担当】徐　光輝
【開講】前期　木4

■サブタイトル
中国歴史文化概説
■講義概要
考古学発掘調査によれば、中国文明のあけぼのは遅くとも5000年前の新石器時代後期にさかのぼる。畑作や水田稲作に代表される農耕文化の発展に伴って、各地に城郭都市の原型が現われ、地域初期国家の胎動が注目を浴びており、従来疑われてきた「三皇五帝」などの文献資料の虚実が再検討されるようになった。
このような先史文明を土台に、夏・商（殷）・周のような古代国家が各地で興亡を繰り返し、春秋戦国時代を経て、秦漢帝国が登場した。とりわけ城郭都市、文字、百家思想、金属器（青銅器、鉄器）文化、郡県制度が注目される。
後漢末に起きた「黄巾の乱」を経て、魏、蜀、呉といった三国時代に入るが、西晋王朝によって再び統一された。南北朝時代の民族大融合のなかで、地域文化交流が活発になり、絢爛たる六朝文化、北朝文化が栄え、朝鮮半島や日本列島との文化交流を裏付ける考古発見も多い。
隋唐時代には東西文化交流が更に盛んになり、科学技術、経済、文化、芸術などの分野において大きく発達した。朝鮮半島や日本列島との文化交流も頻繁に行われた。
■到達目標
隋唐時代に至る中国歴史文化の主な流れを知り、また朝鮮半島や日本列島との比較研究の一助になってほしい。
■講義方法
時代順に概説するが、パワーポイント、ビデオなどによる映像資料を常に使う。
■系統的履修
アジアの歴史文化に関する科目を多く履修してほしい。
■成績評価の方法
平 常 点（10%）　受講態度等を重視する。
小テスト（20%）　点数により評価する。
レポート（20%）　内容により評価する。
定期試験（50%）　点数により評価する。
■テキスト
特になし
■参考文献
尾形勇・岸本美緒編　『中国史（新版世界各国史３）』　山川出版社　1998　3500円
小澤正人・谷豊信・西江清高著　『中国の考古学（世界の考古学７）』　同成社　1999　3200円
■講義計画
①はじめに
②中国文明のあけぼの（黄河流域）
③中国文明のあけぼの（長江、淮河流域）
④中国文明のあけぼの（西遼河流域）
⑤考古学上の夏王朝、夏文化の実体
⑥殷周王朝と都城遺跡の考古発見
⑦春秋戦国時代の百家思想
⑧秦の統一と始皇帝陵の考古発見
⑨漢王朝と長安城、洛陽城の考古発見
⑩魏晋王朝と陳寿の『魏志倭人伝』
⑪南北朝時代の民族大融合
⑫宗教文化の発展と伝播
⑬隋唐帝国の成立と繁栄
⑭隋唐時代の文化交流
⑮まとめ

アジアの文化

【担当】石坂　晋哉
【開講】後期　水2

■サブタイトル
人文・社会科学の古典を通して学ぶ「アジアの文化」
■講義概要
アジアの文化はさまざまな学問分野においてさまざまに研究されてきた。このコースでは、人文・社会科学の諸専門分野における古典的研究のなかで「アジアの文化」がどのように捉えられてきたかを学ぶ。授業では毎回、それぞれの専門分野における「アジアの文化」をめぐる代表的研究を取り上げ、その内容と特徴について批判的に検討する。
■到達目標
「アジアの文化」に対する誠実でバランスのとれた見方ができるようになること。
■講義方法
パワーポイントによる講義。映像等も使用する。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）
定期試験（60%）
■テキスト
授業中にコピーを配布する。
■参考文献
長崎暢子、清水耕介（編）『紛争解決　暴力と非暴力　（アフラシア叢書１）』　ミネルヴァ書房
ポーリン・ケント、北原淳（編）『紛争解決　グローバル化・地域・文化　（アフラシア叢書２）』　ミネルヴァ書房
その他、授業中に適宜指示する。
■講義計画
①ガイダンス
②社会学における「アジアの文化」
③人類学における「アジアの文化」(1)
④人類学における「アジアの文化」(2)
⑤経済学における「アジアの文化」
⑥文学批評における「アジアの文化」
⑦歴史学における「アジアの文化」
⑧政治学における「アジアの文化」
⑨民際学における「アジアの文化」
⑩精神分析における「アジアの文化」
⑪国際文化学における「アジアの文化」
⑫ジェンダー研究における「アジアの文化」
⑬地域研究における「アジアの文化」(1)
⑭地域研究における「アジアの文化」(2)
⑮まとめ

アジアの文化

【担当】舟橋　健太
【開講】後期　木4

■サブタイトル
インドの社会と文化

■講義概要
インドとは、いかなる国なのだろうか。おうおうにして、一面的な情報からさまざまなイメージが付与されて語られる傾向にあるが、その実際の姿は、いかなるものであるのだろうか。本講義では、こうした付与されたイメージと実際との差異を踏まえつつ、インドという国をより多角的に捉えるべく、インドの社会と文化に関して、特に人びとの日々の生活の様相に重点を置いた講義を行っていく。とりわけ、人びとの暮らしに密接に関わる、宗教、カースト、家族・親族といったテーマを中心にすえて、講義を進めていく。

■到達目標
インドという国、またその社会と文化ならびにそこに住まう人びとについて学び考察することから、「異文化」を理解すること、さらには了解することの必要性と重要性について認識し、「他者」と接する際の視覚のありようについて、受講生が自省的に思考することを目標とする。

■講義方法
基本的に講義形式で行うが、受講生の人数や希望に応じて、受講生の発表の場や、ディスカッションの場を設けていく。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）　受講態度、ならびにコメントの内容を考慮する。
レポート（30%）　インドの社会と文化に関わるレポートを課する。
定期試験（50%）　記述式で行う。詳細は講義において通達。
出席（原則として無遅刻・無欠席）、ならびに、質疑や討議といった面での積極的な参加を高く評価する。

■テキスト
特にテキストは指定しないが、必要に応じて、適宜資料を配布する。

■参考文献
辛島昇他（監修）『南アジアを知る事典』 平凡社　8400円
田中雅一・田辺明生（編）『南アジア社会を学ぶ人のために』 世界思想社　2520円
その他、講義ごとに、テーマに沿った参考文献を提示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
インド（あるいは「異文化」というもの）への関心を有する方々の受講、ならびに、質疑・討議という点からの講義への積極的な参加を期待します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
基本的に、電子メール（アドレス：kfunama43[at]ybb.ne.jp [at]は@に変換）でのコンタクトとする。

■講義計画
①ガイダンス、インド概説
②インド史概説
③インドの宗教（1） ヒンドゥー教
④インドの宗教（2） 仏教、シク教、ジャイナ教
⑤インドの宗教（3） イスラーム、キリスト教
⑥インドの社会（1）「カースト制度」の歴史と概要
⑦インドの社会（2）「不可触民」とされる人びと
⑧インドの社会（3）「カースト」と人びとの暮らし
⑨インドの社会（4） 基盤としての家族・親族
⑩インドの文化（1） 祭礼、儀礼
⑪インドの文化（2） 食文化と衣服
⑫インドの文化（3） 映画
⑬「異文化」を学ぶということ
⑭現代インドに生きる人びと
⑮まとめ

欧米の文化

【担当】サルズ・ジョーナ・Ｉ
【開講】前期　木４

■サブタイトル
映画で見るアメリカの現代社会
American Contemporary Society through Film

■講義概要
アメリカ映画はその初期から大衆芸術としてあり、劇的な場面や生き生きとした見せ場を通して、同時代のさまざまな問題に取り組んできた。なかには議論を呼ぶような深いテーマを扱う映画もあり、それらは重要な文化的イコンとなったり、各世代のアイデンティティや心性を探るための窓となっているものもある。
この講義は、映画を通して1970年代以降のアメリカの主要な社会問題について議論することを目的とする。具体的には、人種差別や「アメリカン・ドリーム」という根強い神話、フロンティアの開拓者たち、青年セクスと暴力、孤高の人物やアウトサイダーたち、資本主義の危機に関する問題である。これらの映画は、同時代の社会問題をどの程度正確に反映しているのだろうか？
そして、これらの映画が与えた影響は、アメリカ人の自己へのまなざしや世界の見方をどのように変えたのだろうか？

■到達目標
この講義では、過去10年間にアメリカで生じた社会的・政治的な問題を取り上げる。

■講義方法
授業で鑑賞する作品の多くは、映画の道を切り開いてきたものである。たとえば、物語の構成方法は、暗示的なメッセージと同様に影響を及ぼしている。講義では、こうした先駆的な映画制作のテクニックを論じていく。

■系統的履修
毎週、まず有名なハリウッド映画又テレビ番組（英語版、日本語字幕付き）を１本取り上げて、その物語の戦略と問題点を紹介する。次に、映画の受容とその影響について議論する。その後、授業内にその映画を鑑賞して、感想の意見交換する。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）　参加程度
小テスト（20%）　感想リポート　（毎週の課題）
レポート（20%）　作品の分析リポート　（授業で見た映画以外のアメリカ映画の文化としての分析）
定期試験（40%）　授業で見た映画の内容について又はエッセイ
レポートでは、授業中に鑑賞した映画作品以外のアメリカの作品を感想、「アメリカの文化のメッセージ」を探る。
剽窃と判明した際、0点にする。

■テキスト
なお受講生は各自図書館やレンタルショップを利用し、遅刻、欠席の場合でも作品全体を各自で視聴することが望ましい。

■参考文献
井上 一馬　『ブラック・ムービー―アメリカ映画と黒人社会（講談社現代新書）』（新書）
八尋 春海　『映画の中の星条旗―厳選映画100本で見る現代アメリカ社会 by』
図書館、Tsutayaなどで現代のアメリカ（他の国も道論！）文化を描いている映画沢山みてみましょう。

■履修上の注意・担当者からの一言
なお受講生は各自図書館やレンタルショップを利用し、遅刻、欠席の場合でも作品全体を各自で視聴することが望ましい。
授業で英語を聞き取れない場合各自で振替版を又見に来なさい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
jonahATworld.ryukoku.ac.jp

■講義計画
①映像の基本の見方
　アメリカ社会の最近20年
②『GranTorino』『グラン　トリノ』
③『GranTorino』『グラン　トリノ』
④『GranTorino』『グラン　トリノ』
⑤能不全の家族1　『The Simpsons』 1
⑥『Bowling for Columbine』『ボウングフォー・コロンバイン』:
　アメリカの銃への欲望
⑦『Bowling for Columbine』
⑧『Bowling for Columbine』
⑨『Juno』－少女妊娠コメディー
⑩『Juno』
⑪『Juno』－
⑫能不全の家族２　『The Simpsons』『ザ・シンプソンズ』
⑬『真実の噂：Wag the Dog』
⑭『真実の噂：Wag the Dog』
⑮まとめ

欧米の文化

【担当】嶋崎　陽一
【開講】後期　水2

■サブタイトル
ヨーロッパ近現代の歴史の転回点を学ぶ

■講義概要
近代フランス文化における、日常的あるいは大衆的な話題をとりあげながら、近現代の成立について教科書的な記述に終わらない光をあて、生きた人間たちが作り上げた文化・歴史について紹介する。

■到達目標
近代を作るさまざまな側面について理解を深める。

■講義方法
書籍、絵画、ビデオなどさまざまな教材を使って講義形式ですすめる。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）
定期試験（80%）　ただし、講義に出席した上での理解度を問う試験となるので、授業には積極的に参加されたい。

■テキスト
特になし

■参考文献
授業中に指示する。

■講義計画
講義概要に述べたテーマを中心的に扱い、一つのテーマは一回ないし二回の講義で完結する。３～７程度のテーマを準備する予定である。以下はその例。（順不同）
１～３回目：ユートピアを夢想する人、作った人
４～６回目：グランド・ツアーと留学の歴史
７～９回目：近代公衆衛生の歴史
10～12回目：入浴と海水浴の歴史
13～15回目：新聞小説の時代

欧米の文化

【担当】大槻　志郎
【開講】後期　水3

■サブタイトル
テーマで斬る欧米文化

■講義概要
文化を学ぶということの意味は必ずしも明確ではない。したがって文化についての講義も、文化研究の最先端に触れるものから、観光ガイドに近いものまで、その振幅は広い。この講義は、特定の国や地域に限定せず、広く欧米文化を理解するためのテーマをいくつか設定して考察しながら、欧米を考え直す機会を提供しようとするものである。その際、歴史をはじめ、世界の状況に関する基本的な知識が土台となるが、そうした知識は日本の教育からしばしば欠落しているのが現状である。したがってこの講義では、時間の制約はあるものの、基本的な事項についても簡単な解説をする他、小テスト、課題などで補強的な学習を求めたい。

■到達目標
未知の世界としての異文化を、単純化せず、固定観念を持たずに、さまざまな角度、視点から考察する態度を養う。欧米についての基礎知識をより多く身につける。

■講義方法
授業計画に基づく講義。出欠の確認も兼ねて、毎回講義の最初に、欧米の基礎知識についての小テスト、終わりに講義についての簡単なコメントを書いてもらう。課題として特定の問題について調べてもらうことがある。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）　小テスト、講義末に書いてもらうコメント、他の課題の提出と内容。
定期試験（60%）　講義内容を理解できているかどうかについて、選択問題、論述などの筆記試験。小テストから一部出題。
試験と平常成績を総合的に評価する。3分の1以上欠席の場合は原則として評価は0点とする。

■テキスト
綿引弘 『一番大切なことがわかる「世界史」の本』 三笠書房　619円
OCSシラバス、教科書の扱い：
なおテキストは、これについて学ぶというよりも、講義内容の土台となる西洋史の知識をサポートする副読本として使用する。したがって、講義前に一度通読し、講義期間中も折にふれて読むことが望ましい。

■参考文献
講義中に紹介。

■履修上の注意・担当者からの一言
欧米の文化をもっと知りたい、理解したいという意欲ある受講者を念頭に、講師も受講生も労力は大きいが収穫も多い講義をめざす。したがって楽に単位が取れればいいだけの人には向かない。しっかり話を聞いて、未知の内容はちゃんと学び、問題を掘り下げるつもりでいろいろ考えてほしい。テキストはあらかじめ読んでおくこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜または金曜４講時。但しいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、eLeaningサイトを開設予定。

■講義計画
①「欧米」の誕生
②聖書と神話
③時間をめぐる話
④移動としての歴史
⑤風土と文化
⑥旅の物語の伝統
⑦土地と家族の問題
⑧労働と階級
⑨理性と野性、文明と自然
⑩言語の歴史、言葉の重さ
⑪言葉、シンボル、数字
⑫人間主義、個人主義
⑬名前と個人主義
⑭見えないもの
＊以上は、講義項目のおおまかな流れを示したもので、必ずしも回数毎の内容ではない。

欧米の文化

【担当】青山　豊
【開講】後期　金2

■サブタイトル
ドイツの文化を考える
■講義概要
この講義の名称は「欧米の文化」であるが、欧州つまりヨーロッパをあつかう。現代の若い日本人にとっては、ヨーロッパはアメリカほど身近ではないという印象があるかもしれないが、実はヨーロッパの歴史や文化はアメリカよりずっと大きな影響を日本にもたらしてきている。特に明治時代以降、日本は当時の先進地域としてのヨーロッパから日本の国や社会をどのように作り上げていくのかを学んだことは疑いがない。大まかな言い方が許されるなら、イギリスからは近代資本主義を、フランスからは自由と平等の精神を、ドイツからは様々な分野の学術と芸術を取り入れた結果、今の日本があるということができる。また一方で現在のヨーロッパ連合（EU）に目を向けてみると、これからの日本とヨーロッパのかかわりが今後どのようになるのかも非常に興味深いところである。この授業では、EUの牽引役といわれるドイツの文化を素材に新しい時代のヨーロッパを探ってみたい。
■到達目標
グローバル化する世界で日本がこれからどうあるべきかを考えるきっかけを得る。
■講義方法
プリント・映像などを用いてわかりやすい講義にしたい。
テキストの内容を取り上げるが、講義計画とは異なることがある。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）
定期試験（70%）
定期試験に場合によっては出席点を加えて評価する。
■テキスト
高橋　憲 『新ドイツの街角から』 郁文堂　1300円
■参考文献
授業中に必要に応じて紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
メールアドレス　SNA　05617@nifty.com
■講義計画
①プロローグ
②ドイツという国
③日本の近代化はドイツから
④もっと光を
⑤環境問題
⑥大学と大学生
⑦ドイツの街道と都市の歴史
⑧シンドラーのリストと杉原千畝
⑨キリスト教と宗教改革
⑩外国人労働者
⑪ドイツ再統一以後
⑫ヒトラー回帰
⑬アウシュビッツの記憶
⑭ヨーロッパ連合
⑮多民族国家になるドイツ

海外英語研修

【担当】イエニク・S・C
【開講】後期　水3

■サブタイトル
海外で、実際に英語を話してみよう
■講義概要
〈募集人数〉 10名程度。修学状況などを参考 に選考を行う。〈履修申し込み受付〉 毎回、実施の年度春に掲示し、受付を行い、参加予定者を決定する。受付期間があるので、希望者は瀬田教学部 へ申し出ること。受付場所は、瀬田教学部（1号館1階）〈経費〉 従来のプログラムに要した費用、約350,000を参考にされたい。 〈航 空運賃・授業料・食費・滞在費を含む〉〈相談や質問を希望する方へ〉 理工学部・社会学部の英語科教員までご連絡ください。
〈後期期間に行われる英語研修 クラスの講義内容〉
The class will prepare the students for study in New Zealand. Study, travel, and social vocabulary.
Some group work emphasizing spontaneous conversation will be done.
■到達目標
ニュージーランドの大学に短期滞在し、英語の授業および英語による講義を受け、英語の運用能力を高めるとともに、その国の文化・歴史など諸事情を学ぶことを目的とする。あわせて、渡航や帰国の手続き、滞在中の生活など、帰国するまでの一切の行動を参加者が各自の責任において行うことによって、外国生活を体験する。
■講義方法
(1) 後期期間（10月～1月）中、瀬田学舎 において週1回の英語研修クラスを受講すること。具体的な講義方法は以下に示すとおり Class work will include conversation, map study, reading about New Zealand, and movies about New Zealand.
(2) 2月初旬より約3週間、ニュージーランド南島の国立リンカーン大学（カンタベリー州クライストチャーチ 市近郊）および／または国立クライストチャーチ・ポリテクニーク校（クライストチャーチ市）において、本学が両校に依頼する教育プログラムに参加し、修了 認定をうける。 英語の授業のほか、ニュージーランドに関する講義、週末の小旅行などが含まれる。
■成績評価の方法
平常点（100%）Class Participation and Homework・講義方法欄にある（1）（2）の履修結果にあわせ、その総合評価によって「総合科目」の1科目2単位（選択）として認定する。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
(1) 参加者各自の責任において自主的な計画によって渡航し、所定の日時に現地（大学キャンパス等）に集合する。後期末試験終了直後の出発であるから諸準備によく注意すること。(2) プログラム期間中は、大学の寮または現地の家庭にわかれて滞在し、プログラム終了後は各自の責任において帰国する。(3) に関し教職員の付き添いは無いので、全面的に各自の責任と心構えと意欲とが求められる。終始この点に十二分に留意して行動すること。自発的に英語の研修を積んでおくことが当然必要である。(4) 以上の点をよく認識する為に、事前に英語研修クラスとは別に説明会を行うので、必ず出席し連絡を欠かさないこと。(5) 全期間中において、プログラムを無視して勝手な行動をとり、受け入れ校および本学の関係者に迷惑をかけたものは、理由の如何を問わず、履修結果を取り消すものとする。(6) 受け入れ校や本学の事情、国際情勢その他の理由で、年度によって実施しない（開講しない）事があるので、予め承知されたい。(7) 実施の為の世話は、瀬田学舎（理工・社会）英語担当者と瀬田教学部（1号館1階）が行う。
■講義計画
※講義概要を参照

科学技術史

【担当】林　久夫
【開講】前期　月１

■講義概要
20世紀は科学技術の時代と言われた。石炭･石油をエネルギー源として、18世紀から産業革命が始まり、高度な物質文明を築き上げてきた。しかし、同時にこのことが、地球環境問題を引き起こしている。石器時代から人類は道具を作り始めたが、ギリシア時代にものや現象に対する科学的な思考を始め、中世を経て近代の科学技術を基礎とした社会を作り上げてきたと言える。本講では、ギリシア・ローマ時代の科学技術、中世の錬金術、産業革命以降の近代科学技術の発展について概観する。また、とくに物理学の分野においてはエネルギー観の発展に、化学の分野においては物質観の変遷に着目し、これらの分野における先駆者たちの発見のきっかけや思考過程について、科学者たちのエピソードなども交えて解説する。

■到達目標
科学技術の歴史を振り返ることにより、現在私たちが教育によって当然と考えている科学の基本概念の成り立ちを理解できるようになる。

■講義方法
プリント、ビデオ、PowerPointなどの視覚的教材を活用しながら、視覚に訴え、興味の持てる授業にしたい。

■成績評価の方法
レポート（40%）
定期試験（60%）

■テキスト
特になし

■参考文献
渋谷一夫ら　『科学史概論』　ムイスリ出版　2400円
八杉龍一　『図解　科学の歴史』　東京教学社　2000円

■講義計画
①環境問題と科学技術
②古代の科学技術
③ギリシアの科学技術（1）
④ギリシアの科学技術（2）
⑤ローマの科学技術
⑥アラビアの科学
⑦中世の科学技術
⑧ガリレオ、デカルト、ニュートン
⑨錬金術と元素観
⑩フロギストン仮説の崩壊
⑪原子論の復活
⑫永久機関への夢
⑬産業革命と熱機関
⑭近代科学技術
⑮持続可能な社会のための科学技術と技術者倫理

科学技術史

【担当】堀川　武
【開講】後期　月３

■講義概要
「科学技術」と言う言葉から何をイメージするでしょうか。我々の営み、ことさら「衣食住」に深く根を下ろしている「科学技術」からもたらされた製品の中に使われている技術は産業革命の時にその起源を持つものが多くある。当時は「科学」と「技術」、その意味するところは別のものである。いつ頃から「科学技術」と言う言葉が使われるようになったのであろうか。科学は古くは、ギリシャの哲人の間で、近世になってはヨーロッパのサロンの中で語られていた。つぎに、人類の文明が始まって以来経験の積み重ねにより洗練され、職人の「手の技」として「技術」が伝承されてきた。産業革命を経て機械工業の時代に入ると、科学と技術は結びつき、「科学技術」として発達してきた。さらに、純粋な科学の研究成果は工業に応用され、今日では応用のための科学研究に力を注ぎ、得られた「科学技術」は時の審判を経ないままに実用化され、様々な環境問題を引き起こしている。本講義では、産業革命を出発点にして、科学と技術の誕生と発展の歴史を学ぶ中から、２１世紀に求められる「科学技術」について考究する。

■到達目標
科学と技術が人びとの生活にどのような影響を与え、また人びとの欲求が科学と技術をどのように発展させたかを、その歴史から学ぶことにより、「科学技術」の陰陽について理解する。そこから、新しい時代における「科学技術」と我々の関わりを問う力を身につけるようにする。

■講義方法
特定の教科書を用いず、ノート講義による。必要なプリント・資料を配布する。

■成績評価の方法
授業途中で課す演習20%、中間試験40%、期末試験40%とする。

■テキスト
特になし

■参考文献
桜井　邦明　『現代科学論』　東京教学社　1,785円
石井　威望　『科学技術は人間をどう変えるか』　新潮選書
道家　達将　『科学技術史』　放送大学振興会　3,610円

■履修上の注意・担当者からの一言
ノートは板書の内容みならず、講述内容を注意深く聞き、書き留めておくこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
特に設定しませんが、講義中に予約すること。メールで予約することも可。

■講義計画
①科学と技術
②科学・技術・科学技術
③中国・ヨーロッパにおける技術
④産業革命と科学・技術
⑤産業革命と工学（1）
⑥産業革命と工学（2）
⑦我が国における科学技術（1）
⑧我が国における科学技術（2）
⑨中間試験
⑩20世紀の科学、技術
⑪現代の科学技術：その光と影
⑫鉄を作る技術と鉄鋼産業
⑬日本鉄道車両技術の発展
⑭機械・構造物の安全を支える技術
⑮21世紀の科学技術に求められること

環境と人間A

【担当】竺　文彦
【開講】前期　月4

■サブタイトル
環境をいかに学び、いかに対処するか。
■講義概要
かつては、公害問題が環境問題であったが、公害問題については、法的な対応や行政的な対応によって、一応社会的には対応がなされたといえる。しかし、その後、ダイオキシン問題などの微量汚染物質が問題となったり、地球温暖化というような社会のエネルギーの使用を根本的に考え直さなければならないような大きな環境問題が出現してきている。これらのさまざまな環境問題の実態について知識を深め、今後どのように対処していかなければならないかについて、説明する。
■到達目標
さまざまな環境問題を理解し、基本的な考え方を確立する。
■講義方法
テキストおよびパワーポイント等を使用する。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
■テキスト
石川宗孝　『環境読本』　電気書院　2500円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
広く世界の環境の問題に目を向けてほしい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
研究室を訪問してほしい。
■講義計画
①環境と社会づくり
②大気、水圏、土壌、森林
③地球温暖化、オゾン層
④酸性雨、森林破壊、砂漠化
⑤大気汚染
⑥水質汚濁
⑦廃棄物
⑧大気汚染防止技術
⑨水質汚濁防止技術
⑩化学物質、車社会
⑪温暖化、エネルギー
⑫CSR
⑬環境マネジメント、環境会計
⑭グリーン購入、LCA
⑮生活と環境

環境と人間A

【担当】河合　富佐子
【開講】後期　土1

■サブタイトル
未来社会へのメッセージ
■講義概要
1990年頃から地球環境問題に世界的な関心ガ集まり、大きく取り上げられるようになった。しかし、それ以前から環境問題は存在し、ほとんどの先進国が何らかの公害問題の歴史を有している。このような負の歴史カが人類共通の教訓とならず、発展途上国は先進国の歴史をなぞっているともいえる。現在では先進国と発展途上国の環境をめぐる対立が世界的な重要課題となっている。現代の地球環境問題を正しく認識し、理解を深めるとともに、過去の公害の歴史を振り返ることは先進国に生きる人間の責任であり、現代人の必須教養である。環境問題は自然科学から社会科学にまたがる問題であるとともに、文化とも密接な関係がある。
このような観点から、直面する地球環境問題~過去の公害問題を紹介し、より良い未来への道を探る手がかりとしたい。
■到達目標
現代教養人として環境問題を正しく理解し、判断力を身につける。また、自分の頭で考えるための基礎知識を学ぶ。
■講義方法
毎時、レジメを配布する。必要に応じてパソコンで映像を紹介する。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
レポート（80%）
■テキスト
テキストは使用しない。
■参考文献
荻野和子、竹内茂彌、柘植秀樹　『環境と化学』　東京化学同人　2300円
谷山鉄郎　『地球環境保全概論』　東京大学出版会　2800円
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義時間前後の直接連絡
■講義計画
①地球環境問題１
②イントロダクション
③地球環境問題２
④地球環境問題３
⑤公害・環境問題の歴史１
⑥公害・環境問題の歴史２　中間レポート課題出題
⑦エネルギーと資源
⑧中国の環境問題
⑨資源と環境　中間レポート提出
⑩生態系と生物多様性
⑪化学物質と環境：海洋汚染
⑫化学物質と環境：ごみ問題、有害廃棄物の越境移動
⑬リサイクルと循環型社会の構築
　最終レポート課題の出題
⑭環境時事問題
⑮まとめ　　最終レポート提出

環境と人間B

【担当】松浦　直毅
【開講】前期　木4

■サブタイトル
人と自然の相互関係の探求
■講義概要
生態人類学的な観点から人と自然の相互関係について探求する。具体的には、
1. 霊長類の特徴と人類の進化について学ぶ。
2. 狩猟採集民社会を中心にさまざまな民族や文化を概観し、人間社会の多様性を理解する。
3. 現代の環境問題、とくにアフリカの自然保護をめぐる問題について考察する。
■到達目標
人類学的な視点を習得するとともに、グローバル・ローカルの双方向から人と自然の関係を考える力を養う。
■講義方法
パワーポイントのスライドを用いた講義形式で進める。必要に応じてビデオを利用する。
■系統的履修
環境と倫理、環境と人間A
■成績評価の方法
平 常 点（40%）　受講態度と講義に対するコメントカードによって評価する
レポート（60%）　期末レポート1回
■テキスト
特になし
■参考文献
講義の中で適宜紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
コメントカードにもとづき、受講者の興味と理解度に合わせて柔軟に内容を変更します。
平常点が評価の一定の割合を占めるので、積極的に参加する意欲のない人には向きません。
■講義計画
①講義ガイダンス：環境とは何か？
②霊長類の社会
③人類の進化１
④人類の進化２
⑤狩猟採集民の生活と社会１
⑥狩猟採集民の生活と社会２
⑦農耕社会の発展
⑧これまでのまとめ
⑨文化人類学と異文化理解
⑩狩猟採集民の現在
⑪先住民問題と慣習的権利
⑫人類学映画鑑賞
⑬アフリカの自然保護１
⑭アフリカの自然保護２
⑮まとめ：人と自然の共生とは？

環境と人間B

【担当】鈴木　滋
【開講】後期　水2

■サブタイトル
人類史からみた自然と人間の関係
■講義概要
環境問題に関心のある学生は多いが、人間が自然環境に依存して生きていくとはどういうことか、具体的な関係についての理解はごくかぎられている。生態人類学的な視点を中心に、ヒトという動物の特徴を、人類進化史から抽出し、人間と環境の基本的な関係を概観する。自然環境に強く依存した生活、とくに人類史の99%以上を占める狩猟採集生活についての研究成果をもとに、人間の環境利用の特徴を検討する。そして、狩猟採集や農耕などの生業活動が自然環境にもたらした影響を、進化史的かつ人類学的に考察する。また、ヒトによる持続的な環境の利用について、とくに森林利用と破壊の問題について検討する。この授業で扱う環境とは、森林や動物などの自然をおもに対象としており、地球環境問題についての授業ではない。
■到達目標
環境問題の根源として、ヒトという生物の特徴と時代や生業や環境との関連を見渡す視点。
■講義方法
パワーポイントのスライドで資料を提示しながら講義をする。
ビデオも利用し、スライド資料はWEBで公開する。
情報メディアセンターの携帯による出欠確認システムを利用予定。
授業内容の要約や文献調査など、適宜小テストを実施し、小レポートの提出をもとめる。
■系統的履修
環境と倫理、環境と人間A
■成績評価の方法
平 常 点（20%）　携帯出欠確認システムによる質問や意見
小テスト（40%）　授業時間中の数回の小テスト
レポート（40%）　授業期間中数回の宿題レポート
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
内容はやや理系寄りであるが、文系の学生にとっても理解可能な範囲で講義をする。この授業をきっかけに、人間と自然に対する根本的な興味をもってもらいたい。そのために、自分で調べ、考えるレポートなどの課題を重視する。よって簡単に単位をとりたい学生には向いていない。かつて「勉強しないと単位がとれない」科目との学生評を受けたことがある。学生アンケートによる満足度の最高値は4.1
■講義計画
①霊長類の多様性とヒト
②人類の進化と環境
③人類の形態と環境
④ヒト化と出アフリカ
⑤人種と環境
⑥生活史
⑦人口
⑧狩猟採集民
⑨狩猟採集生活の特徴
⑩狩猟採集社会と環境
⑪農耕と持続性
⑫環境の持続的利用
⑬龍谷の森の見学実習
⑭ゲストスピーカー予定
⑮まとめ

環境と倫理

【担当】柿本　佳美
【開講】前期　木4

■サブタイトル
環境と持続可能な社会
■講義概要
近年、しばしば「環境にやさしい」という言葉が商品の紹介に織り込まれているのを目にする。また、「二酸化炭素排出枠」や「生物多様性」という言葉も、「二酸化炭素を出さないからエコ」や「琵琶湖の自然を守ろう」などという言葉となって、私たちの日常の会話に少しずつ入ってきている。昨年9月に名古屋で開催された生物多様性条約を巡る国際会議では、生物資源から得られたさまざまな医薬品から得られる利益の配分を巡って、途上国と先進国が対立した。また、12月にメキシコで開催された気候変動枠組条約では、二酸化炭素排出枠規制に関する京都議定書の延長をめぐって、消極的な日本が非難されることとなった。
日本においては、「自然保護」や「環境にやさしい」政策が社会的な対立を生むとは考えにくい。しかし、環境とは何か、自然やそこに生きる生物の多様性を守ることとは何か、それを守るためには何をすべきか、と考えたとき、環境問題は、社会と技術のかかわり、土地利用の問題、南北の格差の問題、資源利用の問題など、人間社会のあり方に大きく関わる問題であることが見えてくる。
この授業では、環境に関わる基礎理論を学ぶとともに、人間と環境のかかわりという点から人間と環境をめぐるさまざまな問題を取り上げ、そこに見ることのできる倫理的な課題を考察する。
■到達目標
環境思想と環境問題についての知識を得ることで、多角的な思考が可能になることを目的とする。
■講義方法
プリントと映像資料を使用し、講義形式で行う。数回のミニレポートを課し、これをもとに授業を進めることもある。
■系統的履修
「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
定期試験（80%）
欠席遅刻はしないこと。通算欠席数が授業回数の3分の1以上欠席した場合は履修放棄と見なします。
■テキスト
特になし
■参考文献
加藤尚武編　『環境と倫理（新版）』　有斐閣アルマ　1890円
加藤尚武　『新・環境倫理のすすめ』　丸善ライブラリー　780円
上記のほか、参考となる文献については授業中に挙げる。
■履修上の注意・担当者からの一言
授業の途中であっても分からないと思ったら質問してください。
授業開始30分後以降の入室はお断りすることがあります。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
木曜日13：00 ～ 13：30、講師室
■講義計画
①はじめに：なぜ「名古屋いきもの会議」は紛糾したか？
②環境問題のはじまり：公害と環境汚染
③エネルギー問題と環境：持続可能な社会とは？
④権利という視点：「自然」「動物」に権利はあるか？
⑤環境倫理のキーワード：世代間倫理
⑥環境倫理のキーワード：資源の配分
⑦環境倫理のキーワード：技術の倫理と企業の社会的責任
⑧環境資源と人間：温暖化
⑨環境資源と人間：生物多様性と生物資源
⑩環境資源と人間：水
⑪生活のなかの環境問題：消費社会と経済成長神話
⑫生活のなかの環境問題：自然保護という思想
⑬生活のなかの環境問題：土地倫理
⑭生活のなかの環境問題：環境ビジネスの誕生
⑮まとめ：「自然」をめぐる対立と私たちの課題

教養教育科目特別講義A（里山学入門）（2008年度以降入学生）
共同開講科目特別講義（2007年度以前入学生）

【担当】宮浦 富保、占部 武生、岸本 直之、北川 秀樹、近藤 倫生、須藤 護、田中 滋、林 珠乃、朴 炫国、丸山 徳次、遊磨 正秀、横田 岳人【開講】前期　金1

■サブタイトル
里山学入門　地域の自然と文化
■講義概要
里山は、人間が長期にわたって手を入れ、自然と多様な形で関わり、自然と共生することによって、人間同士の共存を可能にしてきた場所であった。日本の生物の多様性の一部は里山の存在によって維持されてきたということも明らかになりつつある。ところがエネルギー革命と農業革命のため里山は放置され、都市の膨張とともに開発のターゲットにされてきた。生物多様性を維持し、人間の生活を支え、日本文化の形成にも密接に関連していたと考えられる里山が失われようとしている。「里山学入門」では、里山の環境、動植物、歴史、里山と文化・制度との関わりなどについて、複数の教員が講義する。
■到達目標
里山といわれる環境について、その歴史や現状を理解する。里山を代表とする身近な自然環境と人間との関係について、自分自身の意見を持つ。
■講義方法
複数教員によるチェーンレクチャーであり、それぞれの教員ごとにいろいろな方法で講義する。
■成績評価の方法
レポート（100%）
■テキスト
講義時間内に教員ごとに指示する。
■参考文献
丸山徳次・宮浦富保　『里山学のすすめ』　昭和堂　2310円
丸山徳次・宮浦富保　『里山学のまなざし』　昭和堂　2310円
講義時間内に教員ごとに指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
チェーンレクチャーであるので、すべての講義時間に出席しないと、里山学の全体を理解することができない。
■講義計画
①４月１５日　里山の歴史と現状
②４月２２日　里山の自然と恵み１　山菜の種類
③４月２３日　里山の自然と恵み２　山菜の利用
④４月２９日　里山の環境倫理
⑤４月３０日　里山の自然と恵み３　山菜の評価
⑥５月　６日　里山の生物多様性１　動植物の多様性
⑦５月１３日　水辺環境と里山
⑧５月２０日　里を歩く１　里山と地域社会
⑨５月２１日　里を歩く２　里山利用の歴史
⑩５月２７日　環境社会学からみた里山
⑪５月２８日　里を歩く３　里山と湖
⑫６月　３日　里山の保全１　里山保全の歴史
⑬６月　４日　里山の保全２　里山保全の手法
⑭６月１０日　里山のバイオマス利用１　木材資源の流通
⑮６月１１日　里山の保全３　里山保全の問題点
⑯６月１７日　里山のバイオマス利用２　燃料としての利用
⑰６月２４日　里山の生物多様性２　多様性のメカニズム
⑱７月　１日　里山の水環境
⑲７月　８日　里山と山の神＜日本編＞
⑳７月１５日　里山と山の神＜韓国編＞
㉑７月２２日　総合考察

教養教育科目特別講義Ｂ（西洋近現代史入門）

【担当】山中　聡
【開講】前期　水３

■サブタイトル
西洋近現代史入門
■講義概要
大航海時代（15世紀）から第二次世界大戦後（20世紀半ば）までの西洋（ヨーロッパ、アメリカ）の歴史を学ぶ。
基本的な事実の解説と並行して、近年の研究動向を踏まえた新しい視点・議論も適宜紹介する。
■到達目標
西洋近現代史の知識を習得することで、現代世界の動向を理解するための基本的な教養を身に付ける。
■講義方法
毎回レジュメを配付し、それを解説しながら、補足事項を口頭で紹介する。また、映像資料も用いる。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）　毎回出席カードを配布し、講義の内容に関する質問の答えをその裏面に記入する。正解を記入してはじめて出席扱いとなる。
レポート（60%）　内容、枚数は講義開始時に指示
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
西洋の近現代史を勉強することが、現代の日本を生きる私たちにとって、どんな意味があるのか？
本講義では、基本的な知識の習得と共に、この点について、皆さんにじっくり考えてもらうつもりです。評価においては出席とレポートの内容を重視しますが、単に単位を取ることだけを目的に参加するのではなく、西洋近現代史を学ぶことの意義を、講義の中で自らに問いかけてもらいたいと思います。意欲的な参加をお待ちしております。
■講義計画
①ガイダンス講義
②大航海時代
③ルネサンスと宗教改革
④絶対王政の時代
⑤ヨーロッパ主権国家体制の展開
⑥イギリスとアメリカの革命
⑦フランス革命
⑧ナポレオン帝国、ウィーン体制、19世紀のフランスとイギリス
⑨19世紀のドイツ、イタリア、アメリカ
⑩帝国主義の時代
⑪第1次世界大戦とロシア革命
⑫ヴェルサイユ体制、世界恐慌
⑬ナチス・ドイツの台頭と第2次世界大戦
⑭特集講義1
⑮特集講義2

教養教育科目特別講義Ｂ（西洋近現代史入門）

【担当】山中　聡
【開講】後期　水３

■サブタイトル
西洋近現代史入門
■講義概要
大航海時代（15世紀）から第二次世界大戦後（20世紀半ば）までの西洋（ヨーロッパ、アメリカ）の歴史を学ぶ。
基本的な事実の解説と並行して、近年の研究動向を踏まえた新しい視点・議論も適宜紹介する。
■到達目標
西洋近現代史の知識を習得することで、現代世界の動向を理解するための基本的な教養を身に付ける。
■講義方法
毎回レジュメを配付し、それを解説しながら、補足事項を口頭で紹介する。また、映像資料も用いる。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）　毎回出席カードを配布し、講義の内容に関する質問の答えをその裏面に記入する。正解を記入してはじめて出席扱いとなる。
レポート（60%）　枚数、内容は講義時に指示
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
西洋の近現代史を勉強することが、現代の日本を生きる私たちにとって、どんな意味があるのか？
本講義では、基本的な知識の習得と共に、この点について、皆さんにじっくり考えてもらうつもりです。評価においては出席とレポートの内容を重視しますが、単に単位を取ることだけを目的に参加するのではなく、西洋近現代史を学ぶことの意義を、講義の中で自らに問いかけてもらいたいと思います。意欲的な参加をお待ちしております。
■講義計画
①ガイダンス講義
②大航海時代
③ルネサンスと宗教改革
④絶対王政の時代
⑤ヨーロッパ主権国家体制の展開
⑥イギリスとアメリカの革命
⑦フランス革命
⑧ナポレオン帝国、ウィーン体制、19世紀のフランスとイギリス
⑨19世紀のドイツ、イタリア、アメリカ
⑩帝国主義の時代
⑪第1次世界大戦とロシア革命
⑫ヴェルサイユ体制、世界恐慌
⑬ナチス・ドイツの台頭と第2次世界大戦
⑭特集講義1
⑮特集講義2

教養教育科目特別講義Ｃ（アジアの映画）

【担当】李　相哲
【開講】前期　月３

■サブタイトル
映画で語るアジアの歴史と文化
■講義概要
アジアの映画のみならず、映画はその国の歴史や特定の時代を背景にしている。また、その空間に生きる人々の生活を題材にしている。映画は我々に過去の出来事を再現し、未知の世界を見せてくれたり、遠い昔の歴史を再現してくれたりもする。
この講義は、アジアの映画を通してアジアの近現代の出来事を映像でみながら、映画に映し出される場所、人物、物語が、その国の歴史や文化、人々の普通の生活とどうつながっているのかを考えながら、映画に取り上げられる時代、国、歴史について理解を深めることを目的とする。
■到達目標
アジアの映画を通して、受講生にその国の歴史や文化を理解してもらう。具体的に、この授業は映画という芸術を理解するためのものではない。映画に映し出されるアジアの国々の歴史、生活、文化を理解し、未知の世界を理解する方法、歴史の見方を身につける。
■講義方法
講義形式；映画を見る、映画を語る、映画を解説する、という形式ですすめる。具体的にアジア（特に日・中・韓）の近現代歴史と関連のある映画、人々の生活を題材にした映画を鑑賞しながら、その映画ができるまでの背景、その映画に取り上げられる時代、主人公について、場合によっては役者について解説するという方法ですすめる。
■系統的履修
アジアの文化、欧米の文化
■成績評価の方法
平 常 点（10%）　講義中に取り上げる映画をみたか
レポート（20%）　映画に関する感想文
定期試験（70%）
出席はとらない。ただし、試験は授業中の内容（映画の内容を含む）が中心となる。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワー：水曜日12時30分～ 13時30分
連絡方法：cieli@soc.ryukoku.ac.jp
■講義計画
①スケジュール、講義方法を知ってもらう
（必ず出席すること）
②韓国と北朝鮮映画について
③分断国家の悲劇を知る
④韓国の文化事情、映画産業について
⑤韓国人の家族愛、映画芸術の今を知る
⑥韓国の近代
⑦韓国の文化
⑧中国の近代
⑨中国の文化
⑩中国の現代
⑪中国の現代
⑫経済発展の裏に潜む社会問題、中国の現在
⑬日本の映画は中国、韓国映画とどう違うか
⑭現代アジアの家族、英雄像
⑮アジア映画にみる日中韓関係

教養教育科目特別講義Ｄ（アジアの歴史と社会）

【担当】上田　知亮
【開講】前期　水３

■サブタイトル
インドの政治と経済
■講義概要
21世紀の大国として成長著しいインドについて理解を深めることは、これからの国際関係を展望するうえで必要不可欠です。とくにインド政治がどのような歴史をたどり、いかなる課題に直面してきたか（そして現在直面しているか）を把握することで、インドという国を立体的に理解できるようになるでしょう。そこで本講義では、1947年の独立から現在までのインド政治について、経済や宗教、文化などの諸分野との関連を重視しながら説明し、現代インド社会の多様な姿を解説します。
■到達目標
現代インドの政治・経済・文化を総合的に理解し、それに基づいてインドと日本が今後築いていくべき国際関係について主体的に思考できるようになることが、本講義の到達目標です。
■講義方法
基本的に講義形式で進めます。担当者が作成したレジュメを毎回配布するほか、映像資料を適宜視聴します。
■系統的履修
政治学と経済学の入門・概論科目
■成績評価の方法
小テスト（50%）　３回の小テストを行います。
定期試験（50%）　記述式。
■テキスト
特になし
■参考文献
堀本武功『インド―グローバル化する巨象』岩波書店　1680円
広瀬崇子（編）『現代インドを知るための60章』 明石書店　2100円
NHKスペシャル取材班 『インドの衝撃』 文春文庫　700円
日本経済新聞社 『インド―目覚めた経済大国』 日経ビジネス人文庫　700円
■履修上の注意・担当者からの一言
インドについて特段の知識がなくとも理解できるように、基礎的な部分から丁寧に説明するほか、必要に応じて映像資料も利用して具体的なイメージの把握を図ります。ただし、現代インドの政治や経済に関する報道を新聞やテレビなどで普段からチェックしておく方が、講義内容の理解には望ましいです。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問などは授業後に時間をとって受け付けます。
■講義計画
①ガイダンスと序論：授業全体に関する説明と映像資料の視聴
②現代インド国勢概説
③ネルー時代の外交と宗教政策
④ネルー時代の政治
⑤ネルー時代の経済
⑥インディラのポピュリズム政治（1）
⑦インディラのポピュリズム政治（2）
⑧ヒンドゥー・ナショナリズム（1）
⑨ヒンドゥー・ナショナリズム（2）
⑩BJPの敗北と会議派の復権
⑪カースト政治（1）
⑫カースト政治（2）
⑬インド経済の自由化と成長（1）
⑭インド経済の自由化と成長（2）
⑮全体の概括

教養教育科目特別講義Ｄ（アジアの歴史と社会）

【担当】上田　知亮
【開講】後期　水３

■サブタイトル
インドの政治と経済

■講義概要
21世紀の大国として成長著しいインドについて理解を深めることは、これからの国際関係を展望するうえで必要不可欠です。とくにインド政治がどのような歴史をたどり、いかなる課題に直面してきたか（そして現在直面しているか）を把握することで、インドという国を立体的に理解できるようになるでしょう。そこで本講義では、1947年の独立から現在までのインド政治について、経済や宗教、文化などの諸分野との関連を重視しながら説明し、現代インド社会の多様な姿を解説します。

■到達目標
現代インドの政治・経済・文化を総合的に理解し、それに基づいてインドと日本が今後築いていくべき国際関係について主体的に思考できるようになることが、本講義の到達目標です。

■講義方法
基本的に講義形式で進めます。担当者が作成したレジュメを毎回配布するほか、映像資料を適宜視聴します。

■系統的履修
政治学と経済学の入門・概論科目

■成績評価の方法
小テスト（50%）　３回の小テストを行います。
定期試験（50%）　記述式。

■テキスト
特になし

■参考文献
堀本武功『インド―グローバル化する巨象』岩波書店　1680円
広瀬崇子（編）『現代インドを知るための60章』 明石書店　2100円
NHKスペシャル取材班 『インドの衝撃』 文春文庫　700円
日本経済新聞社 『インド―目覚めた経済大国』 日経ビジネス人文庫　700円

■履修上の注意・担当者からの一言
インドについて特段の知識がなくとも理解できるように、基礎的な部分から丁寧に説明するほか、必要に応じて映像資料も利用して具体的なイメージの把握を図ります。ただし、現代インドの政治や経済に関する報道を新聞やテレビなどで普段からチェックしておく方が、講義内容の理解には望ましいです。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問などは授業後に時間をとって受け付けます。

■講義計画
①ガイダンスと序論：授業全体に関する説明と映像資料の視聴
②現代インド国勢概説
③ネルー時代の外交と宗教政策
④ネルー時代の政治
⑤ネルー時代の経済
⑥インディラのポピュリズム政治（1）
⑦インディラのポピュリズム政治（2）
⑧ヒンドゥー・ナショナリズム（1）
⑨ヒンドゥー・ナショナリズム（2）
⑩BJPの敗北と会議派の復権
⑪カースト政治（1）
⑫カースト政治（2）
⑬インド経済の自由化と成長（1）
⑭インド経済の自由化と成長（2）
⑮全体の概括

教養教育科目特別講義Ｅ（アジアの途上国と社会開発）

【担当】佐藤　彰男
【開講】前期　木３

■講義概要
本講義では、貧困問題を基点にアジアの途上国におけるいくつかの社会問題をとりあげ、それらの問題がどのようにして先進社会と関係しているのかを明らかにしていく。またそのような問題を克服するために行われてきた先進諸国からの開発援助について検討し、効果や限界を明らかにしていく。

■到達目標
アジアの途上国に目を向けることによって視野を広げ、社会を理解するための新たな方途を獲得する。

■講義方法
基本的には音声と板書による講義であるが、必要に応じて映像資料等を用いる。

■成績評価の方法
定期試験（100%）　学期末に論述式の試験を実施する。

■テキスト
佐藤寛 『開発援助の社会学』 世界思想社　2310円
授業中に適宜指定する。

■参考文献
授業中に適宜指定する。

■講義計画
①オリエンテーション
②途上国の社会問題
③グローバリゼーションと貧困の構造
④植民地化の歴史と社会構造のひずみ
⑤農村の困窮と膨張する都市貧困層
⑥教育と階層間格差
⑦宗教・ジェンダー・人権問題
⑧「後進性」と環境汚染
⑨公害の域外転嫁
⑩社会開発の目的と理念
⑪途上国援助の歴史
⑫開発援助における住民参加とエンパワーメント
⑬NGOの役割
⑭マイクロファイナンスの試み
⑮まとめ

健康とスポーツ

【担当】渡辺　英児
【開講】後期　月1

■講義概要
テクノロジーの急速な発展は人類に多大な恩恵をもたらした一方で、運動不足などによる生活習慣病などの発生率が年々高くなってきている。そこで、本講義は、現代社会における健康とスポーツ・運動の役割をスポーツ科学の観点から以下の項目について紹介する。
(1) 現代社会におけるスポーツ・運動と健康
(2) スポーツ・運動と身体的な健康
(3) スポーツ・運動と心の精神的健康
(4) 食生活とスポーツ

■到達目標
現代社会における運動やスポーツの重要性を科学的な観点から理解することを目標とする。

■講義方法
講義形式で、担当教員が講義する。受講人数が少なければ実際にトレーニングセンターを使って運動を行う。

■成績評価の方法
定期試験（100%） 大学が定める定期試験中に試験を実施する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
スポーツや運動に興味のある学生の履修を期待する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
最初の講義で紹介する。

■講義計画
①健康、スポーツ、運動、身体活動とは
②(1) スポーツや運動への参加状況
　(2) 運動は寿命を長くするか。
③スポーツ・運動不足と生活習慣病について
④健康に関する体力要素
⑤エネルギー供給システムの違いについて
⑥(1) 運動処方について
　(2) 運動によるウェートコントロール
⑦レジスタンストレーニング
⑧(1) ストレスと運動
　(2) 行動パターンと運動
⑨(1) スポーツ・運動と精神的健康
　(2) 運動の実践による心理的効果
⑩(1) 運動により心理的効果のメカニズム
　(2) 運動の実践による自己概念の向上
⑪スポーツ・運動を継続させるための心理的方策
⑫スポーツ栄養学について
⑬スポーツの実践によるライフスキルの獲得
⑭スポーツ科学の基礎知識
⑮まとめ

現代社会と宗教

【担当】辻　虎志
【開講】前期　木3

■講義概要
現代における様々な問題について宗教はどう考えるか。考えられないということも含めて、どう考えるのか。また、宗教自身がはらんでいる問題に、宗教はどう答え、どう答えられないか。授業では、物語と自己、悪や不幸、生命倫理、死刑、新宗教といった切り口を１つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標
宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法
プリントを配布し、それをもとに講義する。

■系統的履修
生活の中の宗教

■成績評価の方法
平 常 点（40%） 受講態度＋その他
定期試験（60%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に授業に参加してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時。

■講義計画
①はじめに　―　現代における宗教
②宗教と物語　(1)
③宗教と物語　(2)
④イスラーム　(1)
⑤イスラーム　(2)
⑥キリスト教　(1)
⑦キリスト教　(2)
⑧宗教と生命倫理　(1)
⑨宗教と生命倫理　(2)
⑩宗教と死刑　(1)
⑪宗教と死刑　(2)
⑫性愛と宗教
⑬新宗教
⑭宗教とお金
⑮まとめ

現代社会と宗教

【担当】辻　虎志
【開講】後期　木３

■講義概要
現代における様々な問題について宗教はどう考えるか。考えられないということも含めて、どう考えるのか。また、宗教自身がはらんでいる問題に、宗教はどう答え、どう答えられないか。授業では、物語と自己、悪や不幸、生命倫理、死刑、新宗教といった切り口を１つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標
宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法
プリントを配布し、それをもとに講義する。

■系統的履修
生活の中の宗教

■成績評価の方法
平 常 点（40%）　受講態度＋その他
定期試験（60%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に授業に参加してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時。

■講義計画
①はじめに　―　現代における宗教
②宗教と物語　(1)
③宗教と物語　(2)
④イスラーム　(1)
⑤イスラーム　(2)
⑥キリスト教　(1)
⑦キリスト教　(2)
⑧宗教と生命倫理　(1)
⑨宗教と生命倫理　(2)
⑩宗教と死刑　(1)
⑪宗教と死刑　(2)
⑫性愛と宗教
⑬新宗教
⑭宗教とお金
⑮まとめ

現代社会とスポーツ

【担当】辻　延浩
【開講】後期　金１

■サブタイトル
現代のスポーツ文化

■講義概要
現代社会におけるスポーツの社会的・文化的な役割について、スポーツ固有の魅力や楽しみ方、スポーツと地域社会のかかわりなどをふまえながら考えていきます。また、スポーツのメディア化･ビジネス化･グローバル化という３つの視点から、現代スポーツのあり方を批判的に検討し、これからのスポーツと社会との関係について考えていきます。

■到達目標
スポーツと社会の関係を理解し、生涯にわたってスポーツに親しむための楽しみ方を見いだそうとする。現代スポーツの社会的問題点を考察し、これからの社会とスポーツのかかわりについて考え、実践の視点を見つけることができる。

■講義方法
プレゼンソフトによる講義、プリントの配布、ビデオ（DVD、VHS）を使用。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）　受講態度など。
小テスト（10%）　毎授業後のプリント。
レポート（20%）　中間試験。講義内容（前半）をもとに出題する。記述式。
定期試験（40%）　講義内容（後半）を中心に出題する。記述式。
出席は毎回とる。授業後に小プリントを配布し、記述を求める。

■テキスト
受講生は講義内容をもとに独自のノートを作成すること。積極的な意見や質問を期待する。

■参考文献
井上俊・亀山佳明編『スポーツ文化を学ぶ人のために』
世界思想社　2415円

■履修上の注意・担当者からの一言
授業プリントは一人１枚受け取ること。枚数に限りあり。

■講義計画
①オリエンテーション：講義の概要、成績評価の方法、授業計画、履修上の注意事項などについて説明します。「スポーツ」「SPORT」「体育」「武道」「レクリエーション」「レジャー」「遊び」などの用語について理解を深めます。
②スポーツの起こりと発展について、陸上競技の技術史をもとに学びます。
③競技スポーツと生涯スポーツの魅力について、多角的に学びます。また、スポーツの楽しみ方を「する」「みる」「かたる」「ささえる」の観点からとらえます。
④ホイジンガとカイヨワのプレイ論を視座にして、スポーツの楽しさについて学びます。
⑤教育としてのスポーツについて､学習指導要領の変遷､体育科（保健体育科）の目標と内容を中心に考えます。
⑥総合型地域スポーツクラブについて、ヨーロッパの事例をもとに運営形態や経営努力、課題について学びます。
⑦中間試験
⑧人間のからだの適応性について、運動の種類、強度、時間などの要因によって異なる変化の様相について理解を深めます。
⑨「メディアと競技スポーツの商品化」､「勝利至上主義とドーピング」､「競技スポーツと環境問題」､「スポーツの大衆化と環境問題」をテーマとして、現代スポーツが抱える問題点について考えます。
⑩スポーツとライフマネジメントについて、子どもの体力・運動能力や生活行動の調査データをもとにして考えます。
⑪現代社会における健康問題に対する食事の重要性について学びます。
⑫睡眠は脳とからだをつくるをキャッチフレーズとして、最近の睡眠の科学的知見を学びます。
⑬健やかなからだを育むことを目的として、睡眠１２か条を理解するとともに、自己の睡眠生活を見つめ直し、その改善方法について考えます。
⑭「表現することは生きている証」をキャッチフレーズに展開されている表現運動のビデオを通して、表現することの意義や価値について考えます。
⑮定期試験

現代社会と福祉

【担当】清水　教恵
【開講】前期　木3

■サブタイトル
社会福祉の現状と役割
■講義概要
今日では、人々の社会生活にとって社会福祉は不可欠のものと考えられるようになっています。しかし、それでは社会福祉とはどんなことを指しているのかといえば、個別的・具体的なことはわかっても、その全体像を理解するチャンスは、社会福祉系学部・学科以外の人達には少ないのではないかと思います。そこでここでは、広く社会福祉の現状や全体像を紹介して、現代社会生活における社会福祉の役割や課題について考えていきたいと思います。
■到達目標
社会福祉の概略について理解し、現代社会や国民生活と社会福祉との関連性について関心をもってもらえることを目標にしています。
■講義方法
テキストを中心にしながら、必要に応じて資料を配布して、講義形式で進めます。他は、受講人数をみて対応を考えます。
■系統的履修
できれば、社会科学系の科目を履修されたらよいと思われます。
■成績評価の方法
平 常 点（15%）　受講状況を点数化します。
小テスト（15%）　講義時間中に適宜実施します。
定期試験（70%）　講義時間中に説明します。
■テキスト
菊池正治・清水教恵　『基礎からはじめる社会福祉論』
ミネルヴァ書房　2520円
■参考文献
講義時間中に適宜紹介します。
■履修上の注意・担当者からの一言
日頃から、人々の社会生活や政治・経済・社会の動向に関心をもつように努めて下さい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
場所：2号館 300-2
曜日：金曜日
時間帯：15：00 ～ 16：30
その他：履修者に限る。
■講義計画
①現代の社会生活と社会福祉（1）
②現代の社会生活と社会福祉（2）
③社会福祉を支える原理原則
④戦前日本の社会福祉の歴史
⑤戦後日本の社会福祉の歴史
⑥社会福祉が取り扱う問題や対象
⑦社会福祉実施の仕組み（1）
⑧社会福祉実施の仕組み（2）
⑨社会福祉の現状（1）生活保護
⑩社会福祉の現状（2）児童家庭福祉
⑪社会福祉の現状（3）障害者福祉
⑫社会福祉の現状（4）高齢者福祉
⑬現代社会福祉の動向（1）
⑭現代社会福祉の動向（2）
⑮社会福祉の課題

現代社会とマス・メディア

【担当】中野　有
【開講】前期　月4

■サブタイトル
メディアから「世界の中の日本」を展望
■講義概要
世界は広く、日本は深い。国連、グローバル企業、シンクタンクで勤務し、中東、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカで20年以上生活した実務経験をもとに現在進行形の現代社会の動向を内外のメディアを通じ考察し、解読することを目的とする。
現代社会は、ITの進展の恩恵を受け、急速にグローバリゼーションが拡張している。グローバル化が進行する現代社会において世界の標準化と各国の文化を異文化交流として理解することが求められている。世界を舞台に活躍するために必要な理論的な基礎知識を習得することで世界中のネットワークを構築することができ、地球規模で友人の輪を広げることが可能となる。
世界の広さを思う存分活用でき将来のキャリアを開拓することができるのである。また、世界の広さと潜在性を理解するのみならず、「世界の中の日本」の魅力や役割を自覚する、つまり日本を理解することが大切である。
マスメディアの基礎知識を学び、メディアリテラシーを身につける。そのために必要となる歴史、哲学思想、外交、安全保障、グローバル経済、地球環境問題、グローバルイングリッシュなど教養として知的資源を分かり易く講義する。大学時代という人生で最も学問に集中できる時期に、豊かな人生を謳歌するための考える講義を目指す。
■到達目標
マスメディアにおける基礎知識を理解し、将来のキャリアにつながる知的インフラを構築する。
■講義方法
現在進行形の内外の現代社会の動向を分かり易く、内外の新聞、雑誌、テレビ、インターナットの生きた情報を通じ、Think（考えながら）講義する。
■成績評価の方法
平 常 点（70%）　受講態度、講義中の小レポート
レポート（30%）　ファイナルレポート、講義で習得したことを1400字にまとめる。
出席を重視するが、3回生以上で就活で多忙な学生は配慮する。
■テキスト
李相哲、小黒純他　『超入門ジャーナリズム　101の扉』　晃洋書房　1575円
毎回の講義で、15分かけて、101の扉の10章ずつ解説する。
■参考文献
萩原滋　『テレビニュースの世界像』　勁草書房　3500円
金子敦郎　『国際報道最前線』　リベルタ出版　2000円
日本の新聞、雑誌の他、ニューヨークタイムズ、ワシントンポスト、CNN 等を参考
毎週火曜日の夕方６時から30分番組、FM797、ラジオカフェ
シンクタンクジャーナル
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義の後、メール　nakanoassociate@yahoo.co.jp
■講義計画
①講義概要の説明
②メディアの基礎知識　マクルーハン
③日本のマスメディアの特徴
④欧米のマスメディア、日米のメディアの比較
⑤現代社会を理解するための歴史のリズムを習得する
⑥2500年の哲学思想から現代社会を展望
⑦国連で学んだ世界に通用する役立つ英語を教える
⑧現代社会に不可欠なグローバル経済の動向を考察する
⑨世界の中の日本を考察するのに必要な外交・安全保障の知識を学ぶ
⑩21世紀のイノベーション　インターネットの役割を考える
⑪世界経済の原動力となる東アジアの今を考察する
⑫アフリカで４年間生活して学んだ途上国の現実を考える
⑬人類が直面する地球環境問題を考える
⑭日本の国際貢献　ソフトパワー
⑮メディアリテラシーの基礎理論と活用

現代社会とマス・メディア

【担当】中野　有
【開講】後期　月４

■サブタイトル
メディアから「世界の中の日本」を展望

■講義概要
世界は広く、日本は深い。国連、グローバル企業、シンクタンクで勤務し、中東、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカで20年以上生活した実務経験をもとに現在進行形の現代社会の動向を内外のメディアを通じ考察し、解読することを目的とする。
現代社会は、ITの進展の恩恵を受け、急速にグローバリゼーションが拡張している。グローバル化が進行する現代社会において世界の標準化と各国の文化を異文化交流として理解することが求められている。世界を舞台に活躍するために必要な理論的な基礎知識を習得することで世界中のネットワークを構築することができ、地球規模で友人の輪を広げることが可能となる。
世界の広さを思う存分活用でき将来のキャリアを開拓することができるのである。また、世界の広さと潜在性を理解するのみならず、「世界の中の日本」の魅力や役割を自覚する、つまり日本を理解することが大切である。
マスメディアの基礎知識を学び、メディアリテラシーを身につける。そのために必要となる歴史、哲学思想、外交、安全保障、グローバル経済、地球環境問題、グローバルイングリッシュなど教養として知的資源を分かり易く講義する。大学時代という人生で最も学問に集中できる時期に、豊かな人生を謳歌するための考える講義を目指す。

■到達目標
マスメディアにおける基礎知識を理解し、将来のキャリアにつながる知的インフラを構築する。

■講義方法
現在進行形の内外の現代社会の動向を分かり易く、内外の新聞、雑誌、テレビ､インターナットの生きた情報を通じ､Think（考えながら）講義する。

■成績評価の方法
平 常 点（70%）　受講態度、講義中の小レポート
小テスト（30%）　ファイナルレポート、講義で習得したことを1400字にまとめる。
出席を重視するが､3回生以上で就活で多忙な学生は配慮する。

■テキスト
李相哲、小黒純他 『超入門ジャーナリズム　101の扉』 晃洋書房　1575円
毎回の講義で、15分かけて、101の扉の10章ずつ解説する。

■参考文献
萩原滋 『テレビニュースの世界像』 勁草書房　3500円
金子敦郎 『国際報道最前線』 リベルタ出版　2000円
日本の新聞、雑誌の他、ニューヨークタイムズ、ワシントンポスト、CNN 等を参考
毎週火曜日の夕方６時から30分番組、FM797、ラジオカフェシンクタンクジャーナル

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義の後、メール　nakanoassociate@yahoo.co.jp

■講義計画
①講義の概要解説
②メディアリテラシーの基礎知識　マクルーハン等
③日本のメディアの特徴
④世界のメディアの特徴を日米比較で考察
⑤現代社会を展望するために必要な歴史のリズムを考察する
⑥2500年の哲学思想を展望し現代社会に活かす
⑦国連で習得した世界の実践で役立つ英語を教える
⑧現代社会に影響するグローバル経済の動向を読む
⑨現代社会と外交・安全保障
⑩世界をつなぐインターネットの役割
⑪東アジアのダイナミズムと日本
⑫アフリカで４年生活し学んだ、開発援助の重要性を考える
⑬人類に直面する地球環境問題をメディアの視点で考察する
⑭世界の中の日本の役割　将来の仕事に活かす
⑮メディアリテラシーの基礎理論構築

現代社会とマス・メディア

【担当】西村　敏雄
【開講】後期　水２

■サブタイトル
現実世界とメディア世界

■講義概要
グローバル化した現代社会において、24時間地球規模で駆け巡っている「情報」。とくにインターネット社会の出現で､「情報」がもたらすビジネスの世界はいうに及ばず、日常生活への影響は計り知れない。新聞､テレビ､出版､雑誌､インターネットなど多様なメディアから発信される情報は洪水の如く溢れ返っている。本講義では、それらの情報が「どのようにして作られ」「発信された」のかを知り、さらにその情報をいかに「批判的に取捨選択」するのかなど、マスメディアの世界を具体的に解き明かしながら考証する。

■到達目標
新聞、テレビなどの情報発信の「仕組み」などを学ぶことで、メディアを批判する力を養う。とくにマスコミ志願者にはその心構えを学ぶことができる内容である。

■講義方法
講義に使うテキストは、こちらから毎回作成したレジュメを提供するほか、板書する。重大ニュースが起きた場合はそれらを解説しながら皆でその背景や影響などを考える。

■成績評価の方法
平常点（40%）　欠席は３回まで。
その他（60%）　授業ののなかで３回くらい800字のレポートを書かせる。

■テキスト
『超ジャーナリズム入門』 晃洋書房
毎回「超ジャーナリズム入門を」をテキストをして使用する。

■参考文献
『メディア・コントロール』 集英社新書　660円
『メディア・リテラシー』 リベルタ出版　3340円

■履修上の注意・担当者からの一言
大学の授業は単なる、暗記物ではない。自分の頭で考え、それを発表（プレゼンテーション）し、文章としてまとめる力を養うことにある。この授業では新聞を毎日読むこと。

■講義計画
①ガイダンス（授業方法、授業の目的、評価）
②メディアリテラシー
③メディアの表現の自由と責任
④メディア規制とテロ・戦争報道（1）
⑤メディア規制とテロ・戦争報道（2）
⑥新聞ジャーナリズム
⑦テレビジャーナリズム
⑧フォトジャーナリズム
⑨出版ジャーナリズム
⑩映画（映像）ジャーナリズム
⑪冤罪報道（1）
⑫冤罪報道（2）
⑬客観報道
⑭人権報道
⑮総括

現代の技術

【担当】吉川　恒夫、池田　昌彦
【開講】後期　月３

■サブタイトル
現代社会を支える先進技術

■講義概要
本講義の前半では、現代社会を支える基盤技術の概要について講義する。その内容は以下の通りである。まず技術の歴史を手短に紹介した上で、現代技術の概要を解説する。ついで現代技術の代表的分野の中から、コンピュータ技術、輸送技術、エネルギー技術、微細技術、ロボット技術などを取り上げ、これらの分野における基礎的知識、技術の現状、および今後の課題などについてわかりやすく講述する。
後半の講義は明治以後の産業技術論が中心である。現在の日本の多くの産業・技術の源は約150年前のわずか約50年の間に立ち上げられたものである。本講義では明治初期の技術シーズが如何に構築され社会ニーズに対応したか、明治50年間での広い産業技術分野での発展過程とその背景を整理する。その中で、環境・公害問題それに伴う企業理念や技術者理念の変化の背景をも見ることができる。これからのポスト産業主義時代に求められているパイ型人間（多くの分野に判断できる能力を有する人）の１つの要件は、知識の整理と社会に対しての行動力である。本講義は社会と産業技術の関連を解析し行動するための技術論である。さらに実例として第２次世界大戦後の社会ニーズに対応した最近の分析装置・技術の開発での体験も交え講義を行う。

■到達目標
現代社会を縁の下で支えている先端技術の現状と課題について理解を深め、今後のあるべき姿あるいは方向性を考えるための基礎知識を修得する。また、科学技術の進歩とそれらの恩恵について知り、21世紀において、20世紀にもたらされた地球環境の悪化に対する対策を講じながら、持続的発展をいかに続けていくかを理解することが到達目標である。

■講義方法
前半はノート講義とし、必要に応じてプリントを資料として配布する。
後半はプリントを配布し、それに準じて講義する。各講義時間に適宜小演習を実施する。

■系統的履修
「生活の中の物理」（教養教育科目）

■成績評価の方法
レポート（15%）
定期試験（50%）
そ の 他（35%）　中間試験
前半は、授業途中で課すレポートの成績（15点満点）と中間試験の成績（第8回目授業時に実施、35点満点）によって評価する（合計50点満点）。
後半は定期試験（100%）を50点とする。
前半と後半の点数を足し合わせて総計100点とする。

■テキスト
特定の教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
私語は他人に迷惑となるので慎むこと。目に余る者は退出または減点する。
中間試験は持込み不可。定期試験は配布プリントとノートのみ持込可。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
特に設けない。

■講義計画
①現代技術序論（技術略史、現代技術概説）
②コンピュータ技術（アナログとデジタル、計算機の歴史、計算機の応用）
③輸送技術（自動車、新幹線、飛行機、ロケット）
④エネルギー技術（エネルギー概説、各種発電法、地球環境問題）
⑤微細技術（マイクロマシン、ナノ技術）
⑥ロボット技術１（ロボット技術の歴史、産業用ロボット）
⑦ロボット技術２（ヒューマノイドロボット、ロボット技術の将来）
⑧中間試験・復習
⑨幕末・明治への科学技術情報と社会構造の変化
⑩明治政府の産業基盤整備・殖産興業政策と富国強兵
⑪産業各論　１（化学、造船）
⑫産業各論　２（機械、通信・鉄道）
⑬産業各論　３（金属・電力・その他）
⑭分析機器の発展と社会ニーズ
（環境高感度無機計測技術）
⑮まとめ

国際社会と日本A

【担当】池尾　靖志
【開講】前期　金2

■講義概要
この講義では、国際関係論ならびに政治学の諸理論をもとに、国際関係における日本の立場を明らかにする。
今年は、日米開戦70年、満州事変から80年の節目に当たり、中国における反日運動が盛んになる中で、日本の中にも、ナショナリズムの動きがみられ、中国に対する敵視政策がとられようとしている。このことは、昨年（2010年）12月に発表された、「防衛計画の大綱」でも明らかである。
このことから、特に、安全保障の問題に焦点をあてながら、北東アジアにおける脱軍事化の方向性を模索することとしたい。

■到達目標
1）国際情勢や日本の政治状況に関心をもち、現実の動きが理解できるようになる。
2）さまざまな考え方があることを理解し、そのうえで、自分の意見が、相手に論理的に伝えられるようになる。
3）友人・知人・家族などと、社会情勢について、臆することなく、議論ができるようになる。

■講義方法
基本的には、板書を主体とした講義。視聴覚教材使用。

■系統的履修
平和学入門を履修しておくことがのぞましい。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）　時々、受講生の理解度や意見を求めるために、コメントカードを提出してもらう。（かもしれない。）
定期試験（80%）　講義内容の理解度を見る問題1問と、そのことを踏まえて自分の意見を論理的に主張する問題1問の2問構成。論理的に議論が展開されているかをみる。
受講登録者数に応じて、平常点のウェイトを調整する。

■テキスト
池尾靖志編　『平和学をつくる』　晃洋書房

■参考文献
池尾靖志・伊波洋一・井原勝介　『地域から平和をきずく』　晃洋書房
講義の進行状況に合わせて、随時、参考文献を紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
現実の政治状況、国際情勢に応じて、講義内容や順序を入れ替えることがあるかもしれないので注意すること。
板書を主とし、レジュメ配布は必要最低限度（配布しないこともある）にするので、できるだけ前の方に着席し、この講義用のノート（ルーズリーフでかまわない）を用意すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
担当者のホームページ（http://www.yikeo.com）に記載されているメールアドレスにメールしてください。
また、講義の前後に担当者をつかまえてください。

■講義計画
①ウェストファリア・システムの成立
②勢力均衡と同盟政策
③戦争の違法化にむけて
④太平洋戦争に至る道
⑤日本の敗戦とオキナワ
⑥リアリズム（1）：古典的リアリズム
⑦リアリズム（2）：ネオリアリズム
⑧リベラリズム（1）：古典的リベラリズム
⑨リベラリズム（2）：ネオリベラル・インスティテューショナリズム
⑩日米安保体制とオキナワ
⑪国際公共財としての日米同盟
⑫ポスト冷戦期の国際システムと日本
⑬SACO合意と普天間返還
⑭米軍再編と日本
⑮動的防衛力
⑯期末試験

国際社会と日本B

【担当】大庭　弘継
【開講】後期　月4

■サブタイトル
日本のソフトパワー

■講義概要
この講義では、国際社会において日本が持つソフトパワーについて考察します。
従来の国際関係論は､軍事力や経済力（いわゆるハードパワー）を中心に、世界を見てきました。しかしハードパワーだけが世界を動かすわけではありません。近年は、数値化できない国力、文化や政策などの魅力によって国際社会を動かすソフトパワーが注目されています。
現代の日本は、軍事力は軽微であり、経済力も陰りを見せはじめています。将来に対する悲観的な見方も広がっています。この悲観的な見方を乗り越えるためにも、日本の今後を考えるためにも、日本が持っていたソフトパワーに注目し、発見していく必要があります。
そこでこの講義では、国際社会に対する日本の影響について、ソフトパワーを切り口に、歴史、産業、文化、戦争、移民、学問の領域から考察していきたいと思います。

■到達目標
国際社会と日本の関係について、ソフトパワーの観点から説明できることを目指す。

■講義方法
パワーポイントを使用して、講義を実施します。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）　授業内容に関する感想／小論（各回ごと、終了時に提出）
定期試験（60%）　論述試験を行います。

■テキスト
各回レジュメを配布します。

■参考文献
ジョセフ・ナイ『ソフト・パワー』日本経済新聞社　2100円
興味がある人は購入をお勧めします。
その他、適宜参考文献を紹介します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
メール。授業終了後の質疑応答など。

■講義計画
①ハードパワーとソフトパワー
②維新／革命の輸出
③日露戦争
④太平洋戦争
⑤高度成長
⑥重工業とハイテク
⑦援助と資源外交
⑧オリエンタリズム
⑨アニメ、映画、ゲーム
⑩戦争の傷跡
⑪悲劇の逆説
⑫日本への「移民」
⑬日本からの「移民」
⑭科学技術と思想
⑮日本とは何か？

国際社会と日本C

【担当】藤本　龍児
【開講】後期　金2

■講義概要
あなたはアメリカが好きですか、嫌いですか？　それともあまり関心がありませんか？
この講義は、アメリカに焦点をあて、日本やイスラームとのかかわりで国際社会を考えていく講義です。
また、イスラームが台頭して以降の国際社会を考えるために、「宗教」的観点を導入します。
いまや国際社会は、「アメリカの支配」が終わり「多極化の時代」に入った、と言われます。
アメリカの支配が終わった、と言われるのは「イラク戦争の失敗」や「金融資本主義の危機」を根拠にしてのことでしょう。
多極化とは、国際社会のなかで、アジア、ロシア、ヨーロッパ、イスラームなど多くの国が台頭してくることです。
たしかに今後は、これまでと違って、アメリカのパワーが衰えていくと考えられます。
しかし、それは決して、アメリカを軽んじたり無視したりすることができるようになる、ということではありません。
世界の国々は、好きであれ嫌いであれ、今後もアメリカとなんらかの形でかかわっていかなければならないのです。
とくに日本は、戦後から現在まで、アメリカと密接な関係を築いてきました。
これから日本が、アジアなど、他の国々との距離を縮めていくにしても、アメリカとの距離が問題にならざるをえません。
アメリカを過小評価することも過大評価することもなく、なるべく正確に理解し、国際社会を読み解いていこう、というのが本講義のテーマです。

■到達目標
「国際社会の見取り図」と「世界における日本の位置」をイメージできるようになること。

■講義方法
基本的には講義形式。
受講人数やテーマによっては、ディスカッションをおこなうこともあります。
受講生の理解度や興味、質問を反映させて、講義内容に柔軟性をもたせたいと思います。

■成績評価の方法
定期試験（100%）　講義やテキストをもとに、記述式・論述式でおこないます。

■テキスト
藤本龍児　『アメリカの公共宗教』　NTT出版　2940円

■参考文献
佐伯啓思／柴山桂太（編）『 現代社会論のキーワード』 ナカニシヤ出版　2625円

■講義計画
①はじめに
②日本の近代化とアメリカ
③多文化主義
④スピリチュアリティ
⑤公共宗教
⑥テロ
⑦原理主義
⑧EUとイスラーム
⑨親米感情
⑩反米感情
⑪嫌米感情
⑫アメリカと日本
⑬イスラームと日本
⑭国際社会と日本
⑮おわりに

ジェンダー論

【担当】山下　明子
【開講】前期　月1

■サブタイトル
グローバル化とジェンダー

■講義概要
「男」「女」の性差が文化や社会によって異なっているのがジェンダーだが、それゆえに性差別の内容も多様である。ところが経済のグローバル化の進行とともに、国境や文化の違いをこえた女性問題としてのジェンダーもあらわになってきた。環境や平和、暴力の視点から女性運動に共鳴する男性も増加している。本講では、このような世界の状況をみすえながら、私たちの日常的なジェンダーおよびセクシュアリティの問題を具体的に取り上げて考察する。男性学からの講義も取り入れる。国境や性差をこえて、人とひとがどうすれば対等につながることができるかについて考えたい。

■到達目標
ジェンダーとは何かを、たんに男と女の性差や役割、関係のこととしてではなく、自身の解放、生き方の問題として気づくこと。

■講義方法
講義を中心とするが、ビデオ映像も使って、受講者が自分の問題として深く考えられるようにする。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）　受講態度およびミニテスト
定期試験（80%）　論述試験

■テキスト
特になし

■参考文献
山下明子　『戦争とおんなの人権』　明石書店　1800円
山下明子　『アジアの女たちと宗教』　解放出版社　1700円
授業時に読むべき参考資料などを紹介する。

■講義計画
①性差を考える
②セックス、ジェンダー、セクシュアリティ の関係と内容
③性の多様性について
④性的マイノリティについて
⑤貧困の女性化とは
⑥世界女性会議とその歴史
⑦リプロダクティブ・ヘルス／ライツ、セクシュアル・ライツについて
⑧妊娠・中絶・出産を考える
⑨メンズ・リブとは何か
⑩ドメスティック・バイオレンスをなくすために
⑪セクハラはなぜ起きるのか
⑫日本軍「慰安婦」問題を考える
⑬トラフィッキングについて
⑭日本の変化と現状
⑮ジェンダーの再編について

ジェンダー論

【担当】山下　明子
【開講】前期　月2

■サブタイトル
グローバル化とジェンダー

■講義概要
「男」「女」の性差が文化や社会によって異なっているのがジェンダーだが、それゆえに性差別の内容も多様である。ところが経済のグローバル化の進行とともに、国境や文化の違いをこえた女性問題としてのジェンダーもあらわになってきた。環境や平和、暴力の視点から女性運動に共鳴する男性も増加している。本講では、このような世界の状況をみすえながら、私たちの日常的なジェンダーおよびセクシュアリティの問題を具体的に取り上げて考察する。男性学からの講義も取り入れる。国境や性差をこえて、人とひとがどうすれば対等につながることができるかについて考えたい。

■到達目標
ジェンダーとは何かを、たんに男と女の性差や役割、関係のこととしてではなく、自身の解放、生き方の問題として気づくこと。

■講義方法
講義を中心とするが、ビデオ映像も使って、受講者が自分の問題として深く考えられるようにする。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）　受講態度およびミニテスト
定期試験（80%）　論述試験

■テキスト
特になし

■参考文献
山下明子　『戦争とおんなの人権』　明石書店　1800円
山下明子　『アジアの女たちと宗教』　解放出版社　1700円
授業時に読むべき参考資料などを紹介する。

■講義計画
①性差を考える
②セックス、ジェンダー、セクシュアリティ の関係と内容
③性の多様性について
④性的マイノリティについて
⑤貧困の女性化とは
⑥世界女性会議とその歴史
⑦リプロダクティブ・ヘルス／ライツ、セクシュアル・ライツについて
⑧妊娠・中絶・出産を考える
⑨メンズ・リブとは何か
⑩ドメスティック・バイオレンスをなくすために
⑪セクハラはなぜ起きるのか
⑫日本軍「慰安婦」問題を考える
⑬トラフィッキングについて
⑭日本の変化と現状
⑮ジェンダーの再編について

ジェンダー論

【担当】山下　明子
【開講】前期　月３

■サブタイトル
グローバル化とジェンダー

■講義概要
「男」「女」の性差が文化や社会によって異なっているのがジェンダーだが、それゆえに性差別の内容も多様である。ところが経済のグローバル化の進行とともに、国境や文化の違いをこえた女性問題としてのジェンダーもあらわになってきた。環境や平和、暴力の視点から女性運動に共鳴する男性も増加している。本講では、このような世界の状況をみすえながら、私たちの日常的なジェンダーおよびセクシュアリティの問題を具体的に取り上げて考察する。男性学からの講義も取り入れる。国境や性差をこえて、人とひとがどうすれば対等につながることができるかについて考えたい。

■到達目標
ジェンダーとは何かを、たんに男と女の性差や役割、関係のこととしてではなく、自身の解放、生き方の問題として気づくこと。

■講義方法
講義を中心とするが、ビデオ映像も使って、受講者が自分の問題として深く考えられるようにする。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）　受講態度およびミニテスト
定期試験（80%）　論述試験

■テキスト
特になし

■参考文献
山下明子　『戦争とおんなの人権』　明石書店　1800円
山下明子　『アジアの女たちと宗教』　解放出版社　1700円
授業時に読むべき参考資料などを紹介する。

■講義計画
①性差を考える
②セックス、ジェンダー、セクシュアリティ の関係と内容
③性の多様性について
④性的マイノリティについて
⑤貧困の女性化とは
⑥世界女性会議とその歴史
⑦リプロダクティブ・ヘルス／ライツ、セクシュアル・ライツについて
⑧妊娠・中絶・出産を考える
⑨メンズ・リブとは何か
⑩ドメスティック・バイオレンスをなくすために
⑪セクハラはなぜ起きるのか
⑫日本軍「慰安婦」問題を考える
⑬トラフィッキングについて
⑭日本の変化と現状
⑮ジェンダーの再編について

自然観察法

【担当】宮浦　富保、遊磨　正秀
【開講】前期　金２

■講義概要
瀬田学舎の近くには比較的豊かな自然環境が残されています。この講義では、瀬田学舎周辺で観察できる植物や動物を主な題材として、身近な自然を観察するポイントを学習します。身近な動植物の名前を知るのみでなく、行動や生態、進化的な観点から、観察し、記録し、簡単な分析を行う方法を学びます。

■到達目標
身近な自然環境を観察するための基本的な項目を体得する。

■講義方法
スライドや板書による講義とともに、実際にキャンパス内外の身近な自然を観察し、記録、分析する方法を体験学習する。

■系統的履修
なし

■成績評価の方法
平 常 点（50%）　３回以上の欠席で不合格とする。
レポート（50%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①４月１５日　野外における観察とは（ガイダンス）
②４月２２日　地形図の見方と野外での観察記録
③４月２９日　自然の恵み
④５月　６日　覚えよう身近な樹木
⑤５月１３日　「昆虫の飛び方を探る」（チョウやハチの飛翔）
⑥５月２０日　田圃の生き物
⑦５月２７日　植物と動物の関係
⑧６月　３日　ホタルの観察
⑨６月１０日　動物の餌探し
⑩６月１７日　生物による造形（巣作り）
⑪６月２４日　生物の形の数理
⑫７月　１日　「生き物のだましを見抜こう」（擬態）
⑬７月　８日　カワニナの観察
⑭７月１５日　樹木の形
⑮７月２２日　まとめ

情報社会とメディア

【担当】外村　佳伸、三浦　雅展
【開講】前期　月３

■講義概要
本講義では、現代情報社会に対し、特にメディアとの関わりを中心にその特性を理解するとともに、様々な観点から現状と課題について考える。
我々はいわゆる情報社会に生きている。文明史的に見れば、牧畜社会、農業社会、工業社会の次に現れた、情報が主役となる新しい社会である。特に昨今、コンピュータとインターネットの普及と高度化を背景に、インフラからサービスまで急速に変わりつつあり、従来社会とは本質的に異なる情報社会の様相があらわになってきた。この情報社会と密接に関わるのが、日常生活から文化、産業に至るまで幅広く影響を与えるメディアである。メディアとは何か、メディアは情報社会とどのように関わるかをよく理解してはじめて、我々が情報社会とどのように対峙していくかを考えることができる。そこで本講義では、情報とメディアの特性を本質的に理解し、様々な観点から情報社会の」現状と課題について考えることを通じ、情報があふれる現代情報社会においても自ら主体的に考え、判断する力を身につけることをねらいとする。

■到達目標
・メディアの基本的な特性と役割を理解している。
・情報社会の変遷や現状の概要を、メディアとの関わりにおいて把握している。
・情報社会の身近な課題に多様な観点から問題意識をもつことができ、自ら考えることができる。

■講義方法
主に講義形式。一部に演習的な要素も取り入れる。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）
レポート（60%）
平常点40点、レポート点60点で、合計100点満点で評価する。

■テキスト
特になし。パワーポイント、プリントによる。

■参考文献
講義中に適宜指示する

■講義計画
①情報の基本概念：情報・メディア・伝達
②メディア処理技術とユーザーインターフェイス
③情報システムと情報ネットワーク
④メディアの諸相（1）：音メディアが伝える情報
⑤メディアの諸相（2）：映像メディアが伝える情報
⑥人間によるメディア処理：視覚と聴覚によるメディア処理
⑦総括：メディアの知覚からアートへ
⑧現代情報化社会：情報社会の問題点と背景
⑨生活とメディア：ディジタルな生活考
⑩コミュニケーション・メディア論：電話からつぶやきまで
⑪ビジネスとメディア：ビジネス・モデルはメディアと共に
⑫文化とメディア：日本文化、アーカイブ
⑬安心・安全社会とメディア：情報化時代のリスク論
⑭社会秩序とメディア：ネット時代の生き方
⑮総括：情報社会を哲学する

情報社会とメディア

【担当】外村　佳伸、三浦　雅展
【開講】後期　木３

■講義概要
本講義では、現代情報社会に対し、特にメディアとの関わりを中心にその特性を理解するとともに、様々な観点から現状と課題について考える。
我々はいわゆる情報社会に生きている。文明史的に見れば、牧畜社会、農業社会、工業社会の次に現れた、情報が主役となる新しい社会である。特に昨今、コンピュータとインターネットの普及と高度化を背景に、インフラからサービスまで急速に変わりつつあり、従来社会とは本質的に異なる情報社会の様相があらわになってきた。この情報社会と密接に関わるのが、日常生活から文化、産業に至るまで幅広く影響を与えるメディアである。メディアとは何か、メディアは情報社会とどのように関わるかをよく理解してはじめて、我々が情報社会とどのように対峙していくかを考えることができる。そこで本講義では、情報とメディアの特性を本質的に理解し、様々な観点から情報社会の」現状と課題について考えることを通じ、情報があふれる現代情報社会においても自ら主体的に考え、判断する力を身につけることをねらいとする。

■到達目標
・メディアの基本的な特性と役割を理解している。
・情報社会の変遷や現状の概要を、メディアとの関わりにおいて把握している。
・情報社会の身近な課題に多様な観点から問題意識をもつことができ、自ら考えることができる。

■講義方法
主に講義形式。一部に演習的な要素も取り入れる。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）
レポート（60%）
平常点40点、レポート点60点で、合計100点満点で評価する。

■テキスト
特になし。パワーポイント、プリントによる。

■参考文献
講義中に適宜指示する。

■講義計画
①情報の基本概念：情報・メディア・伝達
②メディア処理技術とユーザーインターフェイス
③情報システムと情報ネットワーク
④コミュニケーションシステムの役割とその効果
⑤メディアの諸相（1）：音メディアが伝える情報
⑥メディアの諸相（2）：映像メディアが伝える情報
⑦人間によるメディア処理：視覚と聴覚によるメディア処理
⑧総括：メディアの知覚からアートへ
⑨現代情報化社会：情報社会の問題点と背景
⑩生活とメディア：ディジタルな生活考
⑪コミュニケーション・メディア論：電話からつぶやきまで
⑫ビジネスとメディア：ビジネス・モデルはメディアと共に
⑬文化とメディア：日本文化、アーカイブ
⑭安心・安全社会とメディア：情報化時代のリスク論
⑮総括：情報社会を哲学する

情報と人間

【担当】小堀　聡
【開講】後期　木3

■講義概要
我々の社会生活に不可欠な「情報」というものを、主として科学・技術的な側面から学習する。まず、情報の性質や特徴を明らかにするとともに、コンピュータ、インターネットのしくみを学ぶ。また、情報という観点から、人間の特質、機械と人間の違いなどにも触れ、情報と人間の関係や情報社会のしくみや在り方を考える。そこから、人間にとって情報とは何なのかを導き出す。

■到達目標
情報の表現や伝達方法、通信、コンピュータ、インターネットのしくみとこれを利用するのに必要な知識を習得することを目標とする。

■講義方法
原則としてパソコンによる提示と板書にそって講義を進める。

■系統的履修
なし

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
なし

■参考文献
川合 慧 『情報』 東京大学出版会　1900円
回陽 博史 『情報と人間』 オーム社　2200円
その他の参考書などについては、授業の中で随時紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
本講義で学ぶ情報、メディア、コンピュータ、インターネットに関する知識は、文系、理系を問わず、これからの社会を生き抜くには必要不可欠の知識です。好き嫌いではなく、大学生の基礎知識として理解し、習得してください。単に授業に出てノートを取るだけでなく、自分でよく考えながら講義を聴くようにしてほしいと思います。
なお、本科目は瀬田学舎の全学部・全年次を対象としたものですが、理工学部の学生には推奨しません。本来、理工学部固有の科目において学習すべき内容（と理工学部生として当然身につけているはずの教養）を講義するからです。すでに学習した内容、もしくは今後学習する内容を聴くことになるので、本科目により新たな知識を得ることはないと思います。教養教育科目の総合科目については、他の科目（理工系でない科目）を受講することを強く推奨します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
理工学部電子情報学科の教員の週間予定については、学科のWebサイトで参照することができます。スケジュールを確認して、1号館4階の研究室を訪問してください。

■講義計画
①情報とは何か
②情報の表現と性質1
③情報の表現と性質2
④情報の伝達と通信
⑤問題の表現と解き方
⑥コンピュータのしくみ
⑦インターネットのしくみ
⑧まとめ1
⑨人間の情報処理1
⑩人間の情報処理2
⑪人間の情報処理3
⑫インタフェース
⑬情報技術と社会
⑭まとめ2
⑮質疑応答

情報倫理

【担当】野村　竜也、芝原　努
【開講】前期　月4

■サブタイトル
情報社会における心理・技術・法

■講義概要
情報化に伴う社会の変化により、倫理や規範の問題についても、これまでの議論の枠組みとは異なる視点からの再検討が必要になっていると考えられる。例えば、従来の知的財産権法制は情報社会において有効な行動指針たりうるのか、新たな形態の反社会的行動に対する対策はいかにありうるのか、人と人の間の対話のあり方はどのように変容していくのか等、問題は多岐に渡り、社会や個人の様々な側面に関係している。本講義では、こうした課題を法制・関連IT技術・個人の心理面の3テーマから整理し、情報倫理の問題を多面的に検討していくことを目指す。

■到達目標
人がインターネット等で活動する際に直面する問題はどのようなものか、そうした問題を予防し、またはこれに対処する行動指針とはどのようなものかを理解する。

■講義方法
講義計画に沿ってレジュメと資料を配布し、それに基づき講義形式で進める。可能な限り視聴覚教材も利用する。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）
小テスト（10%）
レポート（40%）
定期試験（30%）

■テキスト
特になし

■参考文献
A.N.ジョインソン 『インターネットにおける行動と心理』 北大路書房　2800円
Deborah G. Johnson 『コンピュータ倫理学』 オーム社　2500円
名和小太郎 『情報の私有・共有・公有　ユーザーからみた著作権』 NTT出版　2500円

■講義計画
①第1～5回：インターネットにおける行動と心理
②第6～9回：コンピュータウイルス、セキュリティ対策、ネットワークサービスと開発者倫理
③第10回　：確認のための小テスト
④第11～14回：関連法律、現行法の問題点および今後の動向
⑤第15回　：総括

人権論A

【担当】松本　城洲夫
【開講】前期　月2

■サブタイトル
「人権侵害・未保障」問題から人権を考える

■講義概要
「人権」は、近代ヨーロッパで誕生した「個人の確立」「市民的自由・市民的権利」「社会と責任」「パブリック・モラル」などの概念と有機的に関連しながら発展してきた複合的な概念である。日本人にとって今日においても共通理解があいまいなこの人権の概念について、人権論Aでは「差別」「市民的自由・権利」「人権文化」などを糸口にして考える。そして、歴史的視点を大切にし、今日の社会状況もふまえ、自分自身の問題として深めていく。

■到達目標
「人権」という近代社会の原理を日常生活との関連で多角的に考えることによって、人生を切り拓いていくために必要な自己の自由・自立と社会性獲得の意義を発見する。

■講義方法
講義資料やビデオ視聴なども活用して講義する。

■系統的履修
法学、社会学、歴史学

■成績評価の方法
平 常 点（40%）　・講義時に前期授業計画のテーマに即した感想文の提出を求める。（3回）…30%
・授業に対する姿勢の評価…10%
レポート（60%）　全講義終了後に前期テーマに即したレポートの提出を求める。

■テキスト
講義時に配布

■参考文献
講義時に指示

■履修上の注意・担当者からの一言
自分自身の「個人の自由・自立・自尊」と社会性（モラル）を考えながら受講してほしい。

■講義計画
①オリエンテーション　○人権とは何か（人権の総論）
②「差別」からのアプローチ　○部落差別について①概論
③「差別」からのアプローチ　○部落差別について②同和対策審議会答申を読む
④「差別」からのアプローチ　○部落差別について③自治体の啓発活動から
⑤「差別」からのアプローチ　○偏見と社会意識（1）
⑥「差別」からのアプローチ　○偏見と社会意識（2）
⑦「市民的自由・権利」からのアプローチ　○アメリカ独立宣言とフランス人権宣言
⑧「市民的自由・権利」からのアプローチ　○日本国憲法（1）
⑨「市民的自由・権利」からのアプローチ　○日本国憲法（2）
⑩「市民的自由・権利」からのアプローチ　○人権行政について(1)
⑪「市民的自由・権利」からのアプローチ　○人権行政について(2)
⑫「人権の文化」からのアプローチ　○世界人権宣言について
⑬「人権の文化」からのアプローチ　○人権教育・啓発について
⑭「人権の文化」からのアプローチ　○アメリカの公民権法（1）
⑮「人権の文化」からのアプローチ　○アメリカの公民権法（2）

人権論A

【担当】原口　剛
【開講】前期　月2

■講義概要
1990年代以降、大都市では「ホームレス」が社会問題化した。野宿生活者をめぐるさまざまな問題への取り組みは、現代の人権を考えるうえできわめて重要な課題といえるだろう。本講義では、まず日本の「ホームレス」に関して概説をする。それを踏まえて次に、公共空間と社会的排除の事例を取り上げ、その問題性を考える。そうして最後に、釜ヶ崎のまちづくり運動を題材として、人権や社会包摂の取り組みの可能性を考えたい。

■到達目標
日本の「ホームレス」の概要を理解する、公共空間と社会的排除の問題性を理解する、まちづくりや社会包摂の可能性を考える。

■講義方法
通常の講義形式で授業を進める（ビデオ視聴なども活用する）。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
レポート（45%）
定期試験（45%）
受講生数によって評価方法は変更する可能性がある。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①イントロダクション
②日本のホームレス①
③日本のホームレス②
④日本のホームレス③
⑤日本のホームレス④
⑥公共空間と社会的排除①
⑦公共空間と社会的排除②
⑧公共空間と社会的排除③
⑨公共空間と社会的排除④
⑩まちづくりと人権①
⑪まちづくりと人権②
⑫まちづくりと人権③
⑬まちづくりと人権④
⑭まちづくりと人権⑤
⑮まとめ

人権論A

【担当】原口　剛
【開講】前期　月1

■講義概要
1990年代以降、大都市では「ホームレス」が社会問題化した。野宿生活者をめぐるさまざまな問題への取り組みは、現代の人権を考えるうえできわめて重要な課題といえるだろう。本講義では、まず日本の「ホームレス」に関して概説をする。それを踏まえて次に、公共空間と社会的排除の事例を取り上げ、その問題性を考える。そうして最後に、釜ヶ崎のまちづくり運動を題材として、人権や社会包摂の取り組みの可能性を考えたい。

■到達目標
日本の「ホームレス」の概要を理解する、公共空間と社会的排除の問題性を理解する、まちづくりや社会包摂の可能性を考える。

■講義方法
通常の講義形式で授業を進める（ビデオ視聴なども活用する）。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
レポート（45%）
定期試験（45%）
受講生数によって評価方法は変更する可能性がある。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①イントロダクション
②日本のホームレス①
③日本のホームレス②
④日本のホームレス③
⑤日本のホームレス④
⑥公共空間と社会的排除①
⑦公共空間と社会的排除②
⑧公共空間と社会的排除③
⑨公共空間と社会的排除④
⑩まちづくりと人権①
⑪まちづくりと人権②
⑫まちづくりと人権③
⑬まちづくりと人権④
⑭まちづくりと人権⑤
⑮まとめ

人権論A

【担当】松本　城洲夫
【開講】前期　月3

■サブタイトル
「人権侵害・未保障」問題から人権を考える

■講義概要
「人権」は、近代ヨーロッパで誕生した「個人の確立」「市民的自由・市民的権利」「社会と責任」「パブリック・モラル」などの概念と有機的に関連しながら発展してきた複合的な概念である。日本人にとって今日においても共通理解があいまいなこの人権の概念について、人権論Aでは「差別」「市民的自由・権利」「人権文化」などを糸口にして考える。そして、歴史的視点を大切にし、今日の社会状況もふまえ、自分自身の問題として深めていく。

■到達目標
「人権」という近代社会の原理を日常生活との関連で多角的に考えることによって、人生を切り拓いていくために必要な自己の自由・自立と社会性獲得の意義を発見する。

■講義方法
講義資料やビデオ視聴なども活用して講義する。

■系統的履修
法学、社会学、歴史学

■成績評価の方法
平 常 点（40%）　・講義時に前期授業計画のテーマに即した感想文の提出を求める。（3回）…30%
・授業に対する姿勢の評価…10%
レポート（60%）　全講義終了後に前期テーマに即したレポートの提出を求める。

■テキスト
講義時に配布

■参考文献
講義時に指示

■履修上の注意・担当者からの一言
自分自身の「個人の自由・自立・自尊」と社会性（モラル）を考えながら受講してほしい。

■講義計画
①オリエンテーション　○人権とは何か（人権の総論）
②「差別」からのアプローチ　○部落差別について①概論
③「差別」からのアプローチ　○部落差別について②同和対策審議会答申を読む
④「差別」からのアプローチ　○部落差別について③自治体の啓発活動から
⑤「差別」からのアプローチ　○偏見と社会意識（1）
⑥「差別」からのアプローチ　○偏見と社会意識（2）
⑦「市民的自由・権利」からのアプローチ　○アメリカ独立宣言とフランス人権宣言
⑧「市民的自由・権利」からのアプローチ　○日本国憲法（1）
⑨「市民的自由・権利」からのアプローチ　○日本国憲法（2）
⑩「市民的自由・権利」からのアプローチ　○人権行政について(1)
⑪「市民的自由・権利」からのアプローチ　○人権行政について(2)
⑫「人権の文化」からのアプローチ　○世界人権宣言について
⑬「人権の文化」からのアプローチ　○人権教育・啓発について
⑭「人権の文化」からのアプローチ　○アメリカの公民権法（1）
⑮「人権の文化」からのアプローチ　○アメリカの公民権法（2）

人権論A

【担当】中川　ユリ子
【開講】前期　月3

■サブタイトル
現在の被差別部落・入門
■講義概要
日本で人権ということばが根づいてきたのは、社会運動があったからである。労働者の権利を獲得する運動、被差別部落の人々の差別を打開しようとする運動、戦後の婦人参政権を獲得する運動など、さまざまなものがあり、その運動の過程で「人の権利」が模索された。その結果、法的な人権は、不完全であるとはいえ、時代とともに整ってきた。しかし、問題は、法的に差別がなくなっても、われわれの生活のなかでは差別が多く存在することである。
本講義では、長い運動の歴史をもつ被差別部落をテーマとする。かつて、同和対策事業が大々的に行われ、多くの部落は確かに大きく変わった。市民の意識を変革していこうとする試みも数多くなされ、今では「部落差別はよくないことだ」とたいていの人が知っている。しかし、現実的には、差別がすべて解決したとは言い難い。「部落差別は良くない」と知りながら、それは表向きの意見で、実際には差別をする側に身を置く人も多くいる。大きく変化した現在の部落の実態と、周囲の実態、そして、その問題点を明らかにする必要がある。
差別を生み、再生産してゆく社会について、多様な側面からその不合理性を指摘していきたい。
■到達目標
たてまえ的な言説にまどわされず、ものごとの深層を見る力を養う。
■講義方法
初回から４、５回目までの講義は、部落の現実を把握することを主眼とする。その後は、個々人がその現実とどういう関係性をもっているのかが理解できるような題材を用いて、講義を行う。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
基本的には、定期試験による評価を考えている。定期試験の場合は、記述式の問題を考えている。レポートを書くように、問題点を自分でまとめて、答える（文章を作る）という形をとる。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とすることもある。講義中に改めて指示する。
■テキスト
教科書は使用しない。講義中にプリントを配布する。
■参考文献
読んで欲しい本、興味をひかれるだろう本等は、講義時に指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
内容を単に覚えるのではなく、考える力を身につけてほしい。他の社会事象を判断する視点が変わってくるはずである。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
連絡用のemailを講義時に知らせることを考えている。
■講義計画
①部落問題とは何か
②今日の差別事象－結婚差別を考える
③被差別部落の実態－統計資料より
④被差別部落の実態－統計資料より
⑤同和対策事業が部落にもたらしたもの
⑥古い問題、新しい問題
⑦部落の新しい世代
⑧ある唄から部落を見る①
⑨ある唄から部落を見る②
⑩賤民の歴史－中世・近世
⑪部落の歴史－近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
⑫部落の歴史－近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
⑬部落の人々が語ること
⑭部落とは何か
⑮予備日（ビデオの上映など）

人権論A

【担当】岸　衛
【開講】前期　水3

■サブタイトル
自分をみつめ・差別をみつめ・世間をみつめる
■講義概要
1　差別は人と人の関係の中で起こる。人との関係の中で「自分」をどうとらえるかという課題を考える。自分と他人の関係の結び方、「まなざし」と差別など、「アイデンティティ」について考える。
2　被差別部落に対する差別意識を中心に、自分の中の差別する心をみつめる。
3　日本人の差別意識の根底で生き続ける「世間」について考えを深めていきたい。世間における人と人の関係を明らかにしながら、日本人の「原風景」や生活意識の中の「ケガレ意識」や「畏れ・怖れ」の視点から日本における部落差別の根底を探る。
■到達目標
＊今の「世の中」を見る目を身につける。
＊自分との関係でものをとらえる習慣を身につける。
＊本を読む習慣を身につける。
■講義方法
受講人数にもよるが、講義だけでなく、報告や討議も大切にしたい。
■系統的履修
人権論B
■成績評価の方法
平 常 点（30%）　講義ごとのコミュニケーションカードの提出
レポート（20%）　講義の中でテーマを課し、レポートを提出
定期試験（50%）
■テキスト
岸　衛　『自分・差別・世間　第２版』　反差別国際連帯解放研究所しが　700円
■参考文献
桜井厚『境界文化のライフストーリー』せりか書房　2500円
桜井厚・岸衛編『屠場文化…語られなかった世界…』創土社　2520円
反差別国際連帯解放研究所しが編『語りのちから』弘文堂　2415円
■講義計画
①オリエンテーション
②知ってもらいたい「自分」
③「まなざし」と差別
④まとめ「自分を見つめる」
⑤被差別部落を「なぜ、差別するのか」という問題
⑥畏れながら遠ざける「差別」
⑦賤民身分の人たちが担ってきた仕事や暮らしについて①
⑧賤民身分の人たちが担ってきた仕事や暮らしについて②
⑨日本人の「原風景」と差別
⑩結婚をめぐって
⑪まとめ「部落差別の根底にあるもの」
⑫世間とは何か
⑬世間の中の「自分」
⑭「世間」の中でどう生きるか
⑮まとめ「自分・差別・世間」

人権論A

【担当】金　光敏
【開講】前期　水4

■サブタイトル
対話力向上の人権アプローチ
■講義概要
「人権」「人権問題」とは、とかく堅苦しいものとのイメージがあります。あるいは人権問題と聞いた場合、同和問題、在日問題、障害者問題など特定の課題をイメージして語られることも少なくありません。果たして「人権」とは、「人権問題」とは、特定の人々の、特定の課題をさすものなのでしょうか。
「人権」が重要な価値として広く認識されるようになったのは、第二次世界大戦後です。そこには最大の人権侵害が戦争であるとの認識があり、二度と繰り返してはならないという反省がありました。国際社会が取り組むべき共通の課題として明文化されたのが、国連における1948年の「世界人権宣言」の採択でした。「世界人権宣言」は日本国憲法の中にも生かされており、そこでは「人権」が特定の人々の、特定の課題であるとは説明されていません。「人権」とは、すべての人々に保障されるべきものと語られています。この授業では、「人権」「人権問題」の基礎理解をもとにし、新しい視点からの接近を考えています。「人権」「人権問題」に取り組むことが日常生活の何に生かされ、生かされるべきかをエピソード加えながら、進めて行く予定です。
■到達目標
この授業では、国際化と情報化社会を意識し、多様な背景を持つ人々が共生する社会には欠かせない「対話力」を重視し、「人権」「人権問題」へのアプローチが「対話力」向上にどのように生かされるべきかを考えます。また、「人権」課題への接近が、社会変革にどのような可能性を持つのかについても考えます。
■講義方法
前半のプレゼンテーションをもとにしたディカッション方式で展開します。
プレゼンテーションでは、プリント、新聞（雑誌）、映像、音楽などを活用し、社会が「人権」「人権問題」をどのように捉えているのかを問題提起した上で、意見交換したいと思います。
授業終了間際に意見カードを書いてもらいます。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）　受講態度
レポート（30%）　前半８回の授業終了時にレポート提出をしてもらいます。テーマはその時点で伝えます。
定期試験（20%）　全授業終了後に試験を実施します。
そ の 他（20%）　授業中に取り上げたキーワードを授業終了時の意見カードに正しく記載されているかを評価します。
人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意思を見せたのかを総合的に評価したいと思います。
■テキスト
金光敏　『学校のサンクチュアリ』　新幹社　1500円
授業ごとにプリントなどの配布をします。
■参考文献
授業と関連する文献について、その都度紹介します。
■履修上の注意・担当者からの一言
社会生活を送る際の参考してほしいと思っています。生きて行く上で役に立つこと満載の授業にしたいと思います。
■講義計画
①この授業のねらいとガイダンス
②国際人権①～戦争と人権～
③国際人権②～世界人権宣言～
④性差別の現実①～セクシャルハラスメントは我慢すべきか～
⑤性差別の現実②～女性は家事、子育てに専念すべきか～
⑥性差別の現実③～夫婦別姓は賛成か反対か～
⑦在日外国人の人権②～外国人の地方参政権付与は賛成か反対か～
⑧在日外国人の人権③～民族学級をめぐる議論～
⑨在日外国人の人権④～在日ブラジル人と多文化共生のいま～
⑩働くことと人権～非正規雇用の現実～
⑪ハンセン病元患者らの記憶
⑫薬害問題からみえてくる歴史の闇
⑬部落解放運動の役割
⑭人権をテーマとした社会変革の可能性
⑮しめくくり～試験～

人権論B

【担当】松本　城洲夫
【開講】後期　月2

■サブタイトル
「人権自己認識」問題から人権を考える
■講義概要
「人権」は、近代ヨーロッパで誕生した「個人の確立」「市民的自由・市民的権利」「社会と責任」「パブリック・モラル」などの概念と有機的に関連しながら発展してきた複合的な概念である。日本人にとって今日においても共通理解があいまいなこの人権の概念について、人権論Bでは「日本の近代化と人権」「個人の確立」「パブリック・モラル」などを糸口にして考える。そして、歴史的視点を大切にし、今日の社会状況もふまえ、自分自身の問題として深めていく。
■到達目標
「人権」という近代社会の原理を日常生活との関連で多角的に考えることによって、人生を切り拓いていくために必要な自己の自由・自立と社会性獲得の意義を発見する。
■講義方法
講義資料やビデオ視聴なども活用して講義する。
■系統的履修
文学、哲学、社会学、歴史学
■成績評価の方法
平 常 点（40%）　・講義時に後期授業計画のテーマに即したミニ・レポートの提出を求める。（3回）…30%
・授業に対する姿勢の評価…10%
レポート（60%）　全講義終了後に後期テーマに即したレポートの提出を求める。
■テキスト
講義時に配布
■参考文献
講義時に指示
■履修上の注意・担当者からの一言
自分自身の「個人 の自由・自立・自尊」と社会性（モラル）を考えながら受講してほしい。
■講義計画
①オリエンテーション　○「人権」とは何か（人権の総論）
②「日本の近代化と人権」からのアプローチ　○人権概念の翻案について
③「日本の近代化と人権」からのアプローチ　○福沢諭吉が見た近代ヨーロッパ
④「日本の近代化と人権」からのアプローチ　○自由民権運動について
⑤「日本の近代化と人権」からのアプローチ　○文学者たちの近代化論（1）
⑥「日本の近代化と人権」からのアプローチ　○文学者たちの近代化論（2）
⑦「日本の近代化と人権」からのアプローチ　○哲学者たちの近代化論（1）
⑧「日本の近代化と人権」からのアプローチ　○哲学者たちの近代化論（2）
⑨「個人の確立」からのアプローチ　○黒澤明監督の目ざしたもの
⑩「個人の確立」からのアプローチ　○世間と個人について（1）
⑪「個人の確立」からのアプローチ　○世間と個人について（2）
⑫「個人の確立」からのアプローチ　○音楽と人権について
⑬「パブリック・モラル」からのアプローチ　○パブリックと社会について
⑭「パブリック・モラル」からのアプローチ　○日本の倫理思想と人権について
⑮「パブリック・モラル」からのアプローチ　○様々な日本人論から

人権論B

【担当】原口　剛
【開講】後期　月2

■講義概要
1990年代以降、大都市では「ホームレス」が社会問題化した。野宿生活者をめぐるさまざまな問題への取り組みは、現代の人権を考えるうえできわめて重要な課題といえるだろう。それでは、人権を守るために必要な制度とは何だろうか？それを私たちはどのように獲得することができるのだろうか？本講義では、このようなテーマを念頭に置きつつ、人権と社会運動について考える。具体的には、釜ヶ崎の労働運動や現代の野宿者運動、世界のプレカリアート運動などを具体的に紹介し、社会運動論的な観点から人権について考える。

■到達目標
釜ヶ崎の労働運動や現代の野宿者運動、世界のプレカリアート運動を理解すること、社会運動論的な観点から人権について考えること。

■講義方法
通常の講義形式で授業を進める（ビデオ視聴なども活用する）。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
レポート（45%）
定期試験（45%）
受講生数によって評価方法は変更する可能性がある。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①イントロダクション
②釜ヶ崎の労働運動史に学ぶ人権①
③釜ヶ崎の労働運動史に学ぶ人権②
④釜ヶ崎の労働運動史に学ぶ人権③
⑤釜ヶ崎の労働運動史に学ぶ人権④
⑥釜ヶ崎の労働運動史に学ぶ人権⑤
⑦都市下層の社会運動と人権①
⑧都市下層の社会運動と人権②
⑨都市下層の社会運動と人権③
⑩都市下層の社会運動と人権④
⑪社会運動の現在①
⑫社会運動の現在②
⑬社会運動の現在③
⑭社会運動の現在④
⑮まとめ

人権論B

【担当】中川　ユリ子
【開講】後期　月3

■サブタイトル
「生」と「性」

■講義概要
女性のタクシー運転手、社長、そして、知事。時代は変わった･･･そう言う人も多い。しかし、「女の子は勉強できなくても料理ができれば、いいお嫁さんになれるよ」と言う大人たちは、少ないとは言えない。テレビの視聴者参加番組で「あんた、男だろう」と、司会者のタレントに態度をたしなめられる男性をみて、そのタレントに違和感を感じる人はどのぐらいいるのだろう。小さい頃から私たちの周りには、男と女をことあるごとに峻別し、「らしさ」に順応することを期待する大人たちがたくさんいた。子どもの見る絵本やアニメのなかでも、「男だから」「女だから」が強調される。それでも、学生である間は、男女の差をあまり気にせずに生活できる。しかし、社会に出ると、女と男の扱いの大きな差に気づくはずである。社会の入口の就職活動では、企業の対応にあからさまな差別はなくなったものの、男子学生の方が就職の決定が一般的に早い。
現在の日本は、いまだに女性にとって生きにくい社会である。その裏返しで、男性も多くの可能性を封じ込められている。
「らしさ」の呪縛から解き放たれるためには、ちょっとした知識が必要である。その知識は、「常識」をちがう角度から見せてくれるはずである。

■到達目標
常識にとらわれず、さまざまな角度からものを見る力を養う。

■講義方法
まず、身近な問題を取り上げ、私たちの社会の現実を把握する。そして、個々人がその現実とどう関わっているのかを考える。さらに、差別の無根拠性を明らかにする。

■成績評価の方法
定期試験（100%）
試験による評価を考えている。自分で解答を作文する、記述式試験である。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とする場合もある。講義中に改めて指示する。

■テキスト
教科書は使用しない。プリントを配布する。

■参考文献
おもしろい本などは、講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
覚えるのではなく、常識に疑問を持ち、考える姿勢を身につけてほしい。講義ではそのための知識を提供したい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
希望があればemailを使用する。

■講義計画
①差別問題を考える意味
②世間は女と男をどう扱うのか
③新聞で気付くこと
④女の子、男の子はつくられる － 性の認識
⑤どこで「らしさ」を学んだのか － 絵本
⑥どこで「らしさ」を学んだのか － 学校
⑦どこで「らしさ」を学んだのか － 学校
⑧どこで「らしさ」を学んだのか － TVのCM、アニメ、漫画など
⑨どこで「らしさ」を学んだのか － TVのCM、アニメ、漫画など
⑩どこで「らしさ」を学んだのか － 抗議の歴史
⑪常識を疑え！
⑫女人禁制 － 伝統をどう考えるか
⑬多様な性のあり方 － 同性愛
⑭多様な性のあり方 － 同性愛
⑮まとめ（ビデオ鑑賞など）

人権論B

【担当】松本　城洲夫
【開講】後期　月3

■サブタイトル
「人権自己認識」問題から人権を考える

■講義概要
「人権」は、近代ヨーロッパで誕生した「個人の確立」「市民的自由・市民的権利」「社会と責任」「パブリック・モラル」などの概念と有機的に関連しながら発展してきた複合的な概念である。日本人にとって今日においても共通理解があいまいなこの人権の概念について、人権論Bでは「日本の近代化と人権」「個人の確立」「パブリック・モラル」などを糸口にして考える。そして、歴史的視点を大切にし、今日の社会状況もふまえ、自分自身の問題として深めていく。

■到達目標
「人権」という近代社会の原理を日常生活との関連で多角的に考えることによって、人生を切り拓いていくために必要な自己の自由・自立と社会性獲得の意義を発見する。

■講義方法
講義資料やビデオ視聴なども活用して講義する。

■系統的履修
文学、哲学、社会学、歴史学

■成績評価の方法
平 常 点（40%）　・講義時に後期授業計画のテーマに即したミニ・レポートの提出を求める。(3回)…30%
・授業に対する姿勢の評価…10%
レポート（60%）　全講義終了後に後期テーマに即したレポートの提出を求める。

■テキスト
講義時に配布

■参考文献
講義時に指示

■履修上の注意・担当者からの一言
自分自身の「個人 の自由・自立・自尊」と社会性（モラル）を考えながら受講してほしい。

■講義計画
①オリエンテーション　○「人権」とは何か（人権の総論）
②「日本の近代化と人権」からのアプローチ　○人権概念の翻案について
③「日本の近代化と人権」からのアプローチ　○福沢諭吉が見た近代ヨーロッパ
④「日本の近代化と人権」からのアプローチ　○自由民権運動について
⑤「日本の近代化と人権」からのアプローチ　○文学者たちの近代化論（1）
⑥「日本の近代化と人権」からのアプローチ　○文学者たちの近代化論（2）
⑦「日本の近代化と人権」からのアプローチ　○哲学者たちの近代化論（1）
⑧「日本の近代化と人権」からのアプローチ　○哲学者たちの近代化論（2）
⑨「個人の確立」からのアプローチ　○黒澤明監督の目ざしたもの
⑩「個人の確立」からのアプローチ　○世間と個人について（1）
⑪「個人の確立」からのアプローチ　○世間と個人について（2）
⑫「個人の確立」からのアプローチ　○音楽と人権について
⑬「パブリック・モラル」からのアプローチ　○パブリックと社会について
⑭「パブリック・モラル」からのアプローチ　○日本の倫理思想と人権について
⑮「パブリック・モラル」からのアプローチ　○様々な日本人論から

人権論B

【担当】原口　剛
【開講】後期　月1

■講義概要
1990年代以降、大都市では「ホームレス」が社会問題化した。野宿生活者をめぐるさまざまな問題への取り組みは、現代の人権を考えるうえできわめて重要な課題といえるだろう。それでは、人権を守るために必要な制度とは何だろうか？それを私たちはどのように獲得することができるのだろうか？本講義では、このようなテーマを念頭に置きつつ、人権と社会運動について考える。具体的には、釜ヶ崎の労働運動や現代の野宿者運動、世界のプレカリアート運動などを具体的に紹介し、社会運動論的な観点から人権について考える。

■到達目標
釜ヶ崎の労働運動や現代の野宿者運動、世界のプレカリアート運動を理解すること、社会運動論的な観点から人権について考えること。

■講義方法
通常の講義形式で授業を進める（ビデオ視聴なども活用する）。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
レポート（45%）
定期試験（45%）
受講生数によって評価方法は変更する可能性がある。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①イントロダクション
②釜ヶ崎の労働運動史に学ぶ人権①
③釜ヶ崎の労働運動史に学ぶ人権②
④釜ヶ崎の労働運動史に学ぶ人権③
⑤釜ヶ崎の労働運動史に学ぶ人権④
⑥釜ヶ崎の労働運動史に学ぶ人権⑤
⑦都市下層の社会運動と人権①
⑧都市下層の社会運動と人権②
⑨都市下層の社会運動と人権③
⑩都市下層の社会運動と人権④
⑪社会運動の現在①
⑫社会運動の現在②
⑬社会運動の現在③
⑭社会運動の現在④
⑮まとめ

人権論B

【担当】岸　衛
【開講】後期　水3

■サブタイトル
ライフストーリー･インタビューからみえてきた「生活･文化」と「差別」

■講義概要
1　ライフストーリー・インタビューを通してみえてきた被差別部落の生活・文化史を学ぶ。ライフストーリー・インタビューは、文字として記録には残らなかったけれども「あった」ひとり一人の生活史の「語り」である。
こうして得られた「語り」から、農耕を中心にした日本の支配的な「暮らし」や「仕事」とは違った「もうひとつの」生活文化を明らかにしたい。文字と巧みな言葉で人を支配し管理する学歴社会とはちがう、「もうひとつの」生活文化の中にこそ、今、私たちが受け継がなければならない大切な人と人のつながりや生き方がある。
2　滋賀県内でのライフストーリーインタビューを紹介しながら、被差別の「声」に学ぶ。

■到達目標
＊今の「世の中」を見る目が身につく。
＊自分との関係でものをとらえる習慣が身につく。
＊本を読む習慣が身につく。
＊「いかに生きるか」を問う姿勢ができる。

■講義方法
受講人数にもよるが、講義だけでなく、報告や討議も大切にしたい。実際の聞き取り調査にもとづく映像や写真、資料も紹介しながら、進める。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）　講義ごとにコミュニケーションカードを提出する。
レポート（20%）　講義の中で課したテーマについてレポート
定期試験（50%）　全体から、提出する。
詳しいテーマ等は、講義の中で言います。

■テキスト
桜井厚・岸　衛著　『仮題：被差別の「声」を聞く』　せりか書房　1800円

■参考文献
桜井厚『境界文化のライフストーリー』せりか書房　2500円
桜井厚・岸衛　編　『屠場文化…語られなかった世界…』　創土社　2520円
反差別国際連帯解放研究所しが編　『語りのちから』　弘文堂　2415円

■講義計画
①オリエンテーション　生活史について
②ライフストーリーの聞き方
③宮本常一の世界
④滋賀を歩く－湖北の町－
⑤生きる知恵としての仕事
⑥靴職人の魂の物語
⑦「嫁盗み」の物語－若者同士の婚姻慣行－
⑧「屠場文化」－語られなかった世界－①
⑨「屠場文化」－語られなかった世界－②
⑩世代を超えて受け継がれる被差別の声①
⑪世代を超えて受け継がれる被差別の声②
⑫世代を超えて受け継がれる被差別の声③
⑬若者たちの「語り」①
⑭若者たちの「語り」②
⑮まとめ

人権論B

【担当】金　光敏
【開講】後期　水4

■サブタイトル
対論の中からさぐる人権

■講義概要
人権をめぐる対論に視野を向けたいと思います。社会の多様化にともなって、起こった出来事をめぐる多角的な討論が繰り広げられるようになりました。特に、メディアではものごとの賛成派と反省派に分かれて論じ合う場面が、繰り返され報道されています。賛否の立場に立つ人々が、それぞれの立場から論じ合うことは、民主主義の根幹であり、とても大切な社会合意へのプロセスです。

こうした賛否の議論で取り上げられたさまざまな討論課題の中で、人権問題がどのように取り上げられたのかを考察し、社会が「人権」をどのように捉え、どのように扱っているのかに接近したいと思います。

一方、私たちが暮らす社会において、メディアが持つ影響力は多大なものです。現代人の価値観や社会観に大きな影響を及ぼし、メディアによって発せられた情報が社会そのものを大きく変動させたケースも多く見られます。メディアは第４の権力とも呼ばれ、情報化社会が進めば進むほど、メディアの役割を多角的に検証する役割が求められます。「人権論」の視点からメディアリテラシーの重要性についても考えてみたいと思います。

■到達目標
この授業では、国際化と情報化社会を迎えて、多様な背景を持つ人々が共生する社会には欠かせない「対話力」を重視し、「人権」「人権問題」へのアプローチを通して、社会を批判的に捉えることと、常にオルタナティブにたどり着くための努力に焦点をあてたいと思います。

■講義方法
前半のプレゼンテーションをもとにしたディスカッション方式で展開します。
プレゼンテーションでは、プリント、新聞（雑誌）、映像などを活用して、実際に行われている対論を見てもらい、「人権」「人権問題」と関連したことがらをめぐってどのように賛否がわかれているのかを見てもらい、その上で意見交換したいと思います。
授業終了間際に意見カードを書いてもらいます。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）　受講態度
レポート（30%）　前半７回の授業終了時にレポート提出してもらいます。テーマはその時点で伝えます。
定期試験（20%）　全授業終了後に試験を実施します。
そ の 他（20%）　授業中に取り上げたキーワードが意見カードに正しく記載されているかを評価します。
人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意思を見せたのかを評価したいと思います。

■テキスト
金光敏　『学校のサンクチュアリ』　新幹社　1,500円
外国人人権法連絡会　『外国人・民族的マイノリティ人権白書』　自費出版　1,000円
授業ごとにプリントなどを配布します。

■参考文献
授業と関連する文献について、その都度紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言
社会生活を送る際の参考にしてほしいと思っています。社会を創造的に切り開いて行けるヒントになるような授業にしたいと思います。

■講義計画
①意思表明することの大切さ
　この授業のねらいとガイダンス
②夫婦別姓は賛成か、反対か？①～家族観をめぐる対論～
③夫婦別姓は賛成か、反対か？②～女性の人権をめぐって～
④定住外国人の地方参政権付与は賛成か反対か①
　～住民の権利とは何かをめぐって～
⑤定住外国人の地方参政権付与は賛成か反対か②
　～多文化共生をめぐって～
⑥高校無償化、朝鮮高校排除は賛成か反対か
　～なにが問題視されたのか～
⑦普天間基地の辺野古移転、賛成か反対か～沖縄と戦争、基地～
⑧上方落語『代書』はなぜ放送されなかったのか
⑨日本映画は在日朝鮮人をどのように描いてきたか？①
⑩日本映画は在日朝鮮人をどのように描いてきたか？②
⑪日本のメディアは人権をどのように取り扱ってきたか①
　～人権擁護法案をめぐる議論～
⑫日本のメディアは人権をどのように扱ってきたか？②
　～メディアスクラムの恐怖～
⑬日本のメディアは人権ををどのように扱ってきたか？③
　～記者クラブ制度は必要か～
⑭しめくくり～試験～

スポーツ文化論

【担当】松下　唯夫
【開講】前期　水３

■サブタイトル
文化人類学の立場から、スポーツは「誰のためのものか」を考え、学ぶ
■講義概要
スポーツは人類の発展史と共にあり、その過去の歴史から、ナショナリズム・プロパガンダ・ビジネス化・アマチュアリズム・人種差別など明らかにしながら「誰のためのスポーツか」を受講学生とともに考える。
■到達目標
スポーツ文化の理解を深める。
■講義方法
板書、配布資料、ビデオ
■成績評価の方法
平 常 点（80%） 講義中のミニレポート
レポート（20%）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■講義計画
①映画「スパルタカス」「ベンハー」から古代スポーツを見る
②　〃
③近代スポーツの発展史（イタリアの古式サッカーと1600年～1900年代のスポーツ事情）
④　〃
⑤日本の戦前・戦後のスポーツ事情
⑥　〃　（人見・古橋から学ぶ）
⑦アマチュアリズムとフェアプレー
⑧テレビ支配
⑨ビジネス化
⑩スポーツとプロパガンダ
⑪スポーツの市民参加
⑫イタリア・シエナのパリオ（競馬）とコミュニケーション
⑬まとめ１
⑭まとめ２

生活の中の宗教

【担当】久松　英二
【開講】前期　月３

■講義概要
日本人は、ひろさちやの言葉を借りれば「宗教音痴」だという。宗教がどういうものかぜんぜん分かっていないからである。この評価が正しいかどうかはともかく、宗教が日常生活と深く関わっているのは事実である。ただ大方の日本人はそれを意識していないだけである。本講義は、生活の中の宗教という講義名が示すとおり、宗教が日常生活と深く関わっている事実を再認識し、宗教がわれわれの生活にもたらす影響を批判的に検討したい。
■到達目標
この講義では、宗教の定義の問題、世界の宗教の分類、日本の宗教の現状、宗教と深層心理学、宗教と死の問題等を扱い、こうして宗教が生活とかけ離れた特殊な現象ではなく、逆に生活に密着した普遍的現象であることを理解し、そうして、これから生きていくうえで、宗教的価値観が物事を考えるための有効な視点を提供しうるものであることを理解することを目標とする。
■講義方法
こちらで準備するプリントもしくはパワーポイントによる表示に沿いながら授業を進める。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）
定期試験（70%）
■テキスト
特になし
■参考文献
授業中に指示します。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業中に指示します。
■講義計画
①日本人の宗教観と宗教の定義
②宗教の分類①古代宗教と世界宗教
③宗教の分類②民族宗教と特殊宗教
④日本の宗教現象①宗教人口と重層信仰
⑤日本の宗教現象②神道の歴史と現状
⑥日本の宗教現象③仏教の歴史と現状
⑦日本の宗教現象④キリスト教の歴史と現状
⑧日本の宗教現象⑤民俗祭祀と宗教
⑨日本の宗教現象⑥新宗教
⑩宗教と深層心理学①フロイト
⑪宗教と深層心理学②ユング
⑫宗教と深層心理学③エリクソン
⑬死と宗教①死の宗教的意味
⑭死と宗教②宗教の現代的役割
⑮総括

生命と共生

【担当】田村　公江
【開講】前期　木3

■サブタイトル
生命倫理の諸問題

■講義概要
医療治術の進歩とともに、延命や治療を至上とする考え方に対して、「それでいいのだろうか？」という疑問が寄せられるようになってきました。たとえば、ガンの治療について考えてみましょう。外科的治療、抗がん剤による治療、放射線による治療、あるいはそれらの組み合わせなど、治療の選択肢はさまざまです。また、発見されたとき、すでに末期の状態だったとしたら、完治をめざすよりも痛みや苦痛をやわらげることが重要となります。
生命倫理の問題は、生殖技術や臓器移植などの新しい技術についても発生します。新しい技術によって恩恵を受ける人がいるのはとても喜ばしいことです。しかし、「代理母を認めてもよいのか」、「脳死は人の死か」などの問題について、あなたなら、どう考えますか？「その時はその時だ」と思う人もいるかもしれませんが、生き方の問題として、今から少しずつ考えてみませんか？すぐに答は出ませんし、唯一の正しい答があるわけでもありません。けれども、学習することによって、視野を広げることはできます。
この授業では、基礎的なことを分かりやすく解説します。基礎を学ぶことによって自分の意見を形作り、自分とは意見の異なる人と対話できる人になりましょう。

■到達目標
生命倫理学のキーワードの意味を理解して、様々な立場の対立点を把握すること。

■講義方法
授業計画に沿って講義形式で進めます。

■系統的履修
教養教育科目「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）　受講態度などで評価する。詳しくは授業内で説明する。
定期試験（50%）

■テキスト
伏木信次・樫則章・霜田求［編］改訂２版　『生命倫理と医療倫理』　金芳堂　2500円
加藤尚武・加茂直樹編　『生命倫理を学ぶ人のために』　世界思想社　1998　2300円

■参考文献
欠席遅刻はしないこと。私語をしないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
月曜日と木曜日の昼休み、場所は研究室（２号館300-1）
連絡はメールでしてください。ktamura@soc.ryukoku.ac.jp
件名に「生命と共生の受講生」と書き、本文に名前（フルネーム）と学籍番号を書くこと。

■講義計画
①生命倫理とは何か
②自分のことは自分で決める　―医師と患者の関係―
③出生をめぐる倫理問題（1）　―人工妊娠中絶―
④中絶に関する法律
⑤まとめ
⑥出生をめぐる倫理問題（2）　―出生前診断―
⑦優生思想とは何か
⑧出生をめぐる倫理問題（3）　―不妊治療―
⑨まとめ
⑩終末期と死をめぐる倫理問題（1）　―脳死は人の死か―
⑪終末期と死をめぐる倫理問題（2）　―臓器移植―
⑫まとめ
⑬終末期と死をめぐる倫理問題（3）　―安楽死―
⑭終末期と死をめぐる倫理問題（4）　―尊厳死―
⑮まとめ

生命と共生

【担当】田村　公江
【開講】後期　木3

■サブタイトル
生命倫理の諸問題

■講義概要
医療治術の進歩とともに、延命や治療を至上とする考え方に対して、「それでいいのだろうか？」という疑問が寄せられるようになってきました。たとえば、ガンの治療について考えてみましょう。外科的治療、抗がん剤による治療、放射線による治療、あるいはそれらの組み合わせなど、治療の選択肢はさまざまです。また、発見されたとき、すでに末期の状態だったとしたら、完治をめざすよりも痛みや苦痛をやわらげることが重要となります。
生命倫理の問題は、生殖技術や臓器移植などの新しい技術についても発生します。新しい技術によって恩恵を受ける人がいるのはとても喜ばしいことです。しかし、「代理母を認めてもよいのか」、「脳死は人の死か」などの問題について、あなたなら、どう考えますか？「その時はその時だ」と思う人もいるかもしれませんが、生き方の問題として、今から少しずつ考えてみませんか？すぐに答は出ませんし、唯一の正しい答があるわけでもありません。けれども、学習することによって、視野を広げることはできます。
この授業では、基礎的なことを分かりやすく解説します。基礎を学ぶことによって自分の意見を形作り、自分とは意見の異なる人と対話できる人になりましょう。

■到達目標
生命倫理学のキーワードの意味を理解して、様々な立場の対立点を把握すること。

■講義方法
授業計画に沿って講義形式で進めます。

■系統的履修
教養教育科目「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）　受講態度などで評価する。詳しくは授業内で説明する。
定期試験（50%）

■テキスト
伏木信次・樫則章・霜田求［編］改訂２版　『生命倫理と医療倫理』　金芳堂　2500円
加藤尚武・加茂直樹編　『生命倫理を学ぶ人のために』　世界思想社　1998　2300円

■参考文献
欠席遅刻はしないこと。私語をしないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
月曜日と木曜日の昼休み、場所は研究室（２号館300-1）
連絡はメールでしてください。ktamura@soc.ryukoku.ac.jp
件名に「生命と共生の受講生」と書き、本文に名前（フルネーム）と学籍番号を書くこと。

■講義計画
①生命倫理とは何か
②自分のことは自分で決める　―医師と患者の関係―
③出生をめぐる倫理問題（1）　―人工妊娠中絶―
④中絶に関する法律
⑤まとめ
⑥出生をめぐる倫理問題（2）　―出生前診断―
⑦優生思想とは何か
⑧出生をめぐる倫理問題（3）　―不妊治療―
⑨まとめ
⑩終末期と死をめぐる倫理問題（1）　―脳死は人の死か―
⑪終末期と死をめぐる倫理問題（2）　―臓器移植―
⑫まとめ
⑬終末期と死をめぐる倫理問題（3）　―安楽死―
⑭終末期と死をめぐる倫理問題（4）　―尊厳死―
⑮まとめ

世界の福祉

【担当】太谷　亜由美
【開講】前期　水３

■サブタイトル
子育て支援政策を考える
■講義概要
少子化が進行する日本の状況は、他の先進国と比較すると一層その深刻さが克明となる。やはり、欧米諸国との比較において、日本では子供に関する政策が遅れていることは明白である。少子化の指標として用いられる、１人の女性が一生の間に出産する子供の人数を表す合計特殊出生率は1.34とOECD加盟国34ヶ国中、下位６位になっている。(2.10だと人口を同じ水準に保てるが、それ以下だと人口は減少する。）一方、イギリスでは1.9、アメリカ2.1などと高い水準を保っている。このような日本の少子化の状況は我々の社会にどのような影響を及ぼすのか、またなぜ少子化が進行する要因なのかを、本講義では分析し一緒に考えていきたい。その上で、どのような政策が実現可能か考えていきたいが、北欧諸国のように高負担・高福祉を実現するには、かなり困難をともなう。したがって、日本と同じような経済体制の下、中程度の負担、中程度の福祉を行う、イギリス、ニュージーランド、オーストラリアを取り上げ、こうした国々ではどの程度の負担によって、どの程度の政策が行われているかを考察したい。
■到達目標
日本ではあまり詳しく紹介されていない３ヶ国の状況を理解し、日本の状況と比較し、どうした政策が望ましいか各受講者が考え、身近な問題として意識づけできように取り組んで頂きたい。
■講義方法
主として、教員による講義とそれを元に受講者に意見を求め、考察して頂く。
■成績評価の方法
定期試験（100%）　論述式筆記試験
リアクション・ペーパーを毎回、配布し出席をとります。
一度も出席のないものは不可といたします。
■テキスト
特になし
■参考文献
講義中に追って紹介いたします。
■履修上の注意・担当者からの一言
成績評価の方法でも記載しましたが、一度も出席のない受講生は不可と致しますので、ご注意ください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義後、ご質問ください。
■講義計画
①日本の少子化の状況 - OECD加盟各国との比較 -
②日本の財政状況と子育て支援
③日本における実際の子育て支援政策の紹介
④日本の子育て支援政策の問題点
⑤イギリスの財政状況と子供にかんする状況
⑥イギリスの実際の子育て支援政策の紹介１
⑦イギリスの実際の子育て支援政策の紹介２
⑧講義予備日
⑨ニュージーランドの財政状況と子供にかんする状況
⑩ニュージーランドの実際の子育て支援政策の紹介１
⑪ニュージーランドの実際の子育て支援政策の紹介２
⑫オーストラリアの財政状況と子供にかんする状況
⑬オーストラリアの実際の子育て支援政策の紹介１
⑭オーストラリアの実際の子育て支援政策の紹介２
⑮講義予備日

歎異抄の思想Ⅰ

【担当】殿内　恒
【開講】前期　水２

■サブタイトル
親鸞のことば
■講義概要
『歎異抄』は、親鸞が亡くなった後、その教えに対する誤解（異義）が多く生まれたことを歎き、親鸞の真意を伝えようとして著されたものである。本書は、その風格と表現の豊かさから、現代においても多くの人に読み継がれているが、その内容を正確につかむのは、実は必ずしも容易なことではない。親鸞の思想全体を把握することなく本書を読むなら、その真意を読み誤ってしまうことも十分に考えられる。本講義では、『歎異抄』の前半（第10条まで）に伝えられる親鸞のことばを正確に読んでいき、その真意を把握することを通して、そこに示される親鸞の思想を深く理解していきたい。
■到達目標
誤解されがちな『歎異抄』の内容を正しく理解し、ひいては建学の精神に基づく生き方を自身の中に見出していく。
■講義方法
『歎異抄』の本文に即しながら、そこに見られる親鸞の思想について講義する。随時、資料等を配布して用いる予定。
■系統的履修
「仏教の思想Ａ・Ｂ」の履修を前提とする。
■成績評価の方法
その他（100%）
定期試験を80%、平常点（数回の小レポート）を20%で評価の上、欠席回数分を減点する形で出席状況を加味し、総合評価する。
■テキスト
『歎異抄　現代語訳付き』　本願寺出版社
■参考文献
梯實圓　『聖典セミナー　歎異抄』　本願寺出版社
林智康（他）『歎異抄事典』　柏書房
■履修上の注意・担当者からの一言
龍谷大学ならではの講義です。歴史上の思想文化というだけでなく、いまの自分を導くものとして、親鸞の教えに触れてもらえれば何よりです。
■講義計画
①『歎異抄』とは：伝えられる親鸞の言葉（１～２回）
②第１条：本願のはたらき－摂取不捨－（１～２回）
③第２条：念仏との出会い－往生極楽の道－（１～２回）
④第３条：悪人正機の意味－いわんや悪人をや－（１～２回）
⑤第４条：本当の慈悲とは－浄土の慈悲－（１～２回）
⑥第５条:縁の中にある命－世々生々の父母兄弟－（１～２回）
⑦第６条：仏の前の平等性－弟子一人も持たず－（１～２回）
⑧第７条：信心の行者のあり方－無碍の一道－（１～２回）
⑨第８条：念仏の意味するもの－非行・非善－（１～２回）
⑩第９条：煩悩を持って生きる－浄土は恋しからず－（１～２回）
⑪第10条：他力のあるがまま－無義をもって義とす－（１～２回）

歎異抄の思想Ⅱ

【担当】殿内　恒
【開講】後期　水2

■サブタイトル
誤解をただす
■講義概要
『歎異抄』は、親鸞が亡くなった後、その教えに対する誤解（異義）が多く生まれたことを歎き、親鸞の真意を伝えようとして著されたものである。本書は、その風格と表現の豊かさから、現代においても多くの人に読み継がれているが、その内容を正確につかむのは、実は必ずしも容易なことではない。親鸞の思想全体を把握することなく本書を読むなら、その真意を読み誤ってしまうことも十分に考えられる。本講義では、『歎異抄』の後半（第11条以降）に示された、親鸞の教えに対する誤解をただす文章を通して、その中で伝えようとされている親鸞の思想を深く理解していきたい。
■到達目標
誤解されがちな『歎異抄』の内容を正しく理解し、ひいては建学の精神に基づく生き方を自身の中に見出していく。
■講義方法
『歎異抄』の本文に即しながら、そこに見られる親鸞の思想について講義する。随時、資料等を配布して用いる予定。
■系統的履修
「仏教の思想Ａ・Ｂ」の履修を前提とする。「歎異抄の思想Ⅰ」も履修していることが望ましい。
■成績評価の方法
その他（100%）
定期試験を80%、平常点（数回の小レポート）を20%で評価の上、欠席回数分を減点する形で出席状況を加味し、総合評価する。
■テキスト
『歎異抄　現代語訳付き』　本願寺出版社
■参考文献
梯實圓　『聖典セミナー　歎異抄』　本願寺出版社
林智康（他）『歎異抄事典』　柏書房
■履修上の注意・担当者からの一言
龍谷大学ならではの講義です。歴史上の思想文化というだけでなく、いまの自分を導くものとして、親鸞の教えに触れてもらえれば何よりです。
■講義計画
①「異義」とは：親鸞思想への誤解（１～２回）
②第11条：本願と念仏の関係（１～２回）
③第12条：学問の持つ意義（１～２回）
④第13条：人間にそなわる悪（１～２回）
⑤第14条：罪を滅ぼす行い（１～２回）
⑥第15条：この世で開くさとり（１～２回）
⑦第16条：回心するということ（１～２回）
⑧第17条：本願を疑っての往生（１～２回）
⑨第18条：布施の意義と利益（１～２回）
⑩後序：信心は一つ－たまわりたる信心－（１～２回）
⑪後序：自身が対象－親鸞一人がため－（１～２回）
⑫後序：虚仮と真実－念仏のみぞまこと－（１～２回）

日本の文化

【担当】泉　文明
【開講】後期　月3

■サブタイトル
京に学ぶ京を学ぶ
■講義概要
皆さんが学ぶ龍谷大学は京都に在って、世界有数の歴史と伝統を誇る大学です。この【京都】は、〔古都〕〔学問の都〕〔国際都市〕〔観光都市〕〔学研都市〕〔宗教都市〕などと形容されます。京都は古来より、小説や映画の舞台となってきました。全国には〔小京都〕と呼ばれる都市は少なくなく、また、全世界にも京都の〔国際姉妹都市〕〔国際友好都市〕は少なくありません。就学旅行で京都に来たという人も少なくないはずです。
人はなぜ、京都に憧れ、惹かれるのか、この講座では、京都の魅力を伝えながら、考えていきたいと思います。
■到達目標
京都の基本的な事柄が分かるように理解を図りたい。
■講義方法
講義形式を主とするが、口述だけでなく、パワーポイントを駆使して、京都の魅力を存分に伝える。
■系統的履修
〔文化関係〕〔文学関係〕〔芸術関係〕〔観光関係〕などの諸科目。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）
レポート（60%）
■テキスト
授業時に指示及び配布プリント。
■参考文献
授業時に指示。
■履修上の注意・担当者からの一言
京都に興味・関心のある人はぜひ受講して下さい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
3学部合同ですので、質疑応答等は全て授業時にお願いします。そのための時間は可能な範囲で確保します。
■講義計画
①概論
②京都の町のでき方
③京都の歴史
④京都の世界遺産・国宝・重要文化財
⑤京都を題材とした映画鑑賞
⑥前回（第5回）の解説と分析
⑦京都の四大行事1
⑧京都の四大行事2
⑨京ことば1
⑩京ことば2
⑪京都の伝統芸能・茶花香道
⑫京都の伝統工芸
⑬京都人物列伝
⑭小京都と姉妹都市・友好都市
⑮総論

人間と社会と法

【担当】時本　義昭
【開講】前期　木4

■サブタイトル
現代日本における人権

■講義概要
日本国憲法が保障した平等は、法的な身分制度を否定しただけではなく、社会的な階層関係をも破壊した。その結果、一方で、身分制度から解放された国民の活力は高度経済成長と均質な社会を実現したが、他方で、平等意識に基づく無節操な自己主張ははどめを失い無秩序と混乱をもたらした。いずれにしても、日本の社会は憲法制定時からあまりにも変わってしまい、いまや憲法制定者が予想もしなかった利益や自由が人権の名の下に主張されている。そこで本講義では、人権の歴史をふまえたうえで、社会的背景や訴訟理論にもふれつつ、新しい人権について裁判所の判決を中心に検討したい。

■到達目標
基本的な法的思考を身につけること。

■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■系統的履修
法学入門か日本国憲法を受講していることを前提として講義を行う。

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
特に指定しない。

■参考文献
佐藤幸治他編　『デイリー六法平成23年版』　三省堂

■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画
①人権の歴史と分類
②憲法訴訟Ⅰ
③憲法訴訟Ⅱ
④日本国憲法の成立
⑤戦後史Ⅰ
⑥戦後史Ⅱ
⑦戦後史Ⅲ
⑧幸福追求権と新しい人権
⑨プライバシーの権利
⑩知る権利
⑪環境権
⑫自己決定権Ⅰ
⑬自己決定権Ⅱ
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

平和学入門

【担当】池尾　靖志
【開講】前期　月2

■講義概要
「平和」とはどのような状態を指すのかをめぐっては、さまざまな議論が展開されてきた。平和学では、J. ガルトゥングによって、「暴力のない世界」を指すという定義が、一応、平和学における最低限の理解となってきた。しかし、その後の平和学において、それは国際関係や社会のダイナミズムを十分に把握できないのではないか、といった議論が飛び出し、最近では、平和構築や平和創造といった言葉も生まれるようになってきた。
そのような平和学のあゆみをフォローする中で、学際的な性格を有する平和学の理解を深め、自らが、平和の担い手（つくり手）となるためにはどのようなことを考え、どのように行動すればいいのかを、ともに考えたい。

■到達目標
1）平和学の歩みを理解し、自分なりの「平和」のイメージが持てるようになる。
2）新聞やニュース、インターネットなどの情報から、情報を取捨選択し、マスコミの流す情報に惑わされないためのリテラシー能力を身につけることができる。
3）友人、知人、家族などと、「平和」についての議論を深めることができるようになる。

■講義方法
板書を中心とした講義。視聴覚教材を使用。

■系統的履修
国際社会と日本（瀬田教学開講科目）を履修すると、さらに深い学びが展開できる。

■成績評価の方法
平常点（20%）　時々、学生の理解度や意見などを求めるためのコメントカードを提出してもらう。（かもしれない）
定期試験（80%）　講義内容の理解度を見る問題1問と、それをもとに自分の意見を論理的に主張する問題1問の2問構成。論理展開力や説得力を評価する。
受講登録者数に応じて、平常点のウェイトを調整する。

■テキスト
池尾靖志編　『平和学をつくる』　晃洋書房
テキストを中心に講義するので、テキストを必ず持参すること。

■参考文献
池尾靖志・伊波洋一・井原勝介　『地域から平和をきずく』　晃洋書房
講義内容の進行状況に合わせて、随時、参考文献を紹介する。また、テキストの章末に掲げてある参考文献も参考にすること。

■履修上の注意・担当者からの一言
板書を中心とした講義をするので、できるだけ前の方に座ること。
この講義用のノート（ルーズリーフでかまわない）を用意すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
担当者のホームページに掲げてあるメールアドレスにメールをしてください。
また、講義前に、1号館講師控室にいる担当者をつかまえてください。
（講義後は、簡単な質問はお答えしますが、月曜日講義後の長い質問は遠慮してください。金曜日にも出講しますので、金曜日であればかまいません。）

■講義計画
①権力と暴力
②直接的暴力（1）戦争とプロパガンダ
③直接的暴力（2）戦争と性犯罪
④直接的暴力（3）核抑止力批判
⑤直接的暴力（4）NPTレジーム
⑥直接的暴力（5）第2トラック外交
⑦構造的暴力（1）南北問題
⑧構造的暴力（2）累積債務問題と構造調整政策
⑨構造的暴力（3）グローバリズムと新自由主義
⑩構造的暴力（4）社会開発
⑪構造的暴力（5）食糧問題
⑫構造的暴力（6）地球環境問題
⑬文化的暴力（1）エスニック紛争
⑭文化的暴力（2）FGM
⑮平和構築のための暴力は必要か？
⑯期末試験

平和学入門

【担当】池尾　靖志
【開講】後期　月2

■講義概要
「平和」とはどのような状態を指すのかをめぐっては、さまざまな議論が展開されてきた。平和学では、J. ガルトゥングによって、「暴力のない世界」を指すという定義が、一応、平和学における最低限の理解となってきた。しかし、その後の平和学において、それは国際関係や社会のダイナミズムを十分に把握できないのではないか、といった議論が飛び出し、最近では、平和構築や平和創造といった言葉も生まれるようになってきた。
そのような平和学のあゆみをフォローする中で、学際的な性格を有する平和学の理解を深め、自らが、平和の担い手（つくり手）となるためにはどのようなことを考え、どのように行動すればいいのかを、ともに考えたい。

■到達目標
1）平和学の歩みを理解し、自分なりの「平和」のイメージが持てるようになる。
2）新聞やニュース、インターネットなどの情報から、情報を取捨選択し、マスコミの流す情報に惑わされないためのリテラシー能力を身につけることができる。
3）友人、知人、家族などと、「平和」についての議論を深めることができるようになる。

■講義方法
板書を中心とした講義。視聴覚教材を使用。

■系統的履修
国際社会と日本（瀬田教学開講科目）を履修すると、さらに深い学びが展開できる。

■成績評価の方法
平常点（20%）　時々、学生の理解度や意見などを求めるためのコメントカードを提出してもらう。（かもしれない）
定期試験（80%）　講義内容の理解度を見る問題1問と、それをもとに自分の意見を論理的に主張する問題1問の2問構成。論理展開力や説得力を評価する。
受講登録者数に応じて、平常点のウェイトを調整する。

■テキスト
池尾靖志編　『平和学をつくる』　晃洋書房
テキストを中心に講義するので、テキストを必ず持参すること。

■参考文献
池尾靖志・伊波洋一・井原勝介　『地域から平和をきずく』　晃洋書房
講義内容の進行状況に合わせて、随時、参考文献を紹介する。また、テキストの章末に掲げてある参考文献も参考にすること。

■履修上の注意・担当者からの一言
板書を中心とした講義をするので、できるだけ前の方に座ること。
この講義用のノート（ルーズリーフでかまわない）を用意すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
担当者のホームページに掲げてあるメールアドレスにメールをしてください。
また、講義前に、1号館講師控室にいる担当者をつかまえてください。
（講義後は、簡単な質問はお答えしますが、月曜日講義後の長い質問は遠慮してください。金曜日にも出講しますので、金曜日であればかまいません。）

■講義計画
①権力と暴力
②直接的暴力（1）戦争とプロパガンダ
③直接的暴力（2）戦争と性犯罪
④直接的暴力（3）核抑止力批判
⑤直接的暴力（4）NPTレジーム
⑥直接的暴力（5）第2トラック外交
⑦構造的暴力（1）南北問題
⑧構造的暴力（2）累積債務問題と構造調整政策
⑨構造的暴力（3）グローバリズムと新自由主義
⑩構造的暴力（4）社会開発
⑪構造的暴力（5）食糧問題
⑫構造的暴力（6）地球環境問題
⑬文化的暴力（1）エスニック紛争
⑭文化的暴力（2）FGM
⑮平和構築のための暴力は必要か？
⑯期末試験

メディアにみる福祉

【担当】高田　敏司
【開講】後期　月2

■講義概要
世界に例を見ない長寿化と少子化で、日本は人口の減少が進んでおり、「超高齢・人口減少社会」に突入しています。右肩上がりの経済成長を前提につくられた現在の社会保障制度は抜本的な見直しが迫られています。そこで政治や行政、医療福祉関係者、住民の中からはさまざまな動きが起こっています。本講義では現場で取材する新聞記者の立場から、社会保障について介護保険や医療、年金、雇用、少子化対応、地方自治などの観点から時事ニュースなどを例に解説するとともに、どのような課題があるのかも考えます。

■到達目標
福祉など社会保障をめぐる行政、住民、メディアの「いま」の動きを広く知り、社会生活に向けて、最低限は必要な社会保障の教養が身につくようにしたいと考えます。さらには自分の問題として考えられる手がかりを示したいと思っています。

■講義方法
新聞記事やテレビの特集番組などを素材にして講義します。

■成績評価の方法
定期試験（100%）
人数によってはミニレポートを課すこともあります。
その場合は試験90点、ミニレポート10点とします。

■テキスト
特になし

■参考文献
適宜、紹介します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
質問あれば、気軽にメールで連絡下さい。（taka8@mvd.biglobe.ne.jp）

■講義計画
①超高齢・人口減少社会の到来
②介護保険創設の背景と仕組み
③介護保険の課題
④すすむケアの工夫
⑤障害者福祉の今とこれから
⑥日本の医療の特徴
⑦医師不足の深層
⑧がん医療、先端医療のトピック
⑨患者が医療を変える
⑩年金のいま
⑪少子化への対応
⑫福祉の軸になる雇用と教育
⑬分権型共生社会と福祉
⑭負担と給付の選択肢
⑮政治、経済、国のかたちと社会保障

メディアにみる福祉

【担当】幸重　忠孝
【開講】後期　木3

■サブタイトル
身近なメディアから福祉を感じる

■講義概要
学生生活を過ごす中で「福祉」を身近に感じることは少ない。しかし、実は私たちの身近なところに福祉の課題や福祉サービスが存在している。この講義では、学生にとって身近なメディア（新聞、テレビ、インターネット、小説、コミックス、映画など）の中で表現されている福祉を題材に、様々な福祉課題や福祉サービスを講義を通して深めていくこととする。

■到達目標
・福祉とは身近なテーマであることを知る。
・様々なメディアから福祉課題や福祉サービスを知る。
・メディアによる福祉の表現の問題を学ぶ。

■講義方法
講義の前半は､各回ごとのメディア教材（映画､ドラマ､コミックス、小説、インターネットなど）を紹介
※過去の講義で活用した題材
映画「誰も知らない」「レインマン」「ジョゼと虎と魚たち」「ウイニング・パス」
ＴＶドラマ「だいすき！！」「瞳」「どんまい」「僕と彼女と彼女の生きる道」「エンジン」
コミック・自叙伝『リアル』『ヘルプマン』『Flower』『ツレがうつになりまして。』『ホームレス中学生』
他各種ドキュメンタリー番組、新聞記事、ホームページ
講義の後半は、使った教材による福祉課題が何なのかと福祉サービスの解説を行う。
講義終了後、課題レポートによって学生自身の考察を深める。

■成績評価の方法
レポート（100%）　毎回講義終了後に自宅での課題レポート

■テキスト
コミックス、小説などを教材とする回は指定された書籍を準備して受講すること。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
１．受講態度の悪い学生に対しては厳しく対応します。
２．各回講義を題材にした持ち帰りの事後課題レポートがあるので、ただ受講するだけでは単位取得はできません。
３．課題で指定された映画やドラマ、コミックなどは各自でレンタルなどをして視聴してもらいます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
教員のホームページやブログを活用

■講義計画
①オリエンテーション
②身体障がい
③知的障がい
④精神障がい
⑤高齢者介護
⑥介護従事者
⑦児童福祉
⑧子ども虐待
⑨施設で生活する子ども
⑩司法福祉
⑪ひとり親家庭
⑫生活困窮
⑬発達障がい
⑭世界の福祉
⑮まとめ

学部内共通科目

（環境ソリューション工学科）

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
エ	ＭＯＴ演習	長谷　智弘	後期	月１	205
	ＭＯＴ概論	長谷　智弘／安藤　信行／加藤　正浩／佐藤　研司／神野友香子／谷口　清志	前期	火５	205
カ	海外キャリア実践教育及び実習Ａ	大柳　満之／木村　　睦／塩見　洋一／宮武　智弘	前期	集中	206
	海外キャリア実践教育及び実習Ｂ	大柳　満之／木村　　睦／塩見　洋一／宮武　智弘	前期	集中	207
	化学概論Ⅰ	岩澤　哲郎／富﨑　欣也	前期	水２	208
	化学概論Ⅱ	堀井　文敬	後期	月１	208
	科学技術英語	全教員	後期	金２	209
	化学基礎実験／理工学基礎実験Ｂ	富﨑　欣也／山添　誠司	後期	木3･木4･木5	209
	科学思想史	但馬　亨	前期	月１	210
	学外実習(キャリア実践実習)／学外実習	丸山　敦	前期	集中	210
	環境科学	木原　壯林	前期	月３	211
キ	キャリアデザイン	笹川　暁子	前期	水３	212
	キャリアプランニング	神殿　織江／矢野　隆子	前期	水３	213
ケ	計算機基礎実習Ⅰ	藤田　和弘	前期	月４･月５	214
	計算機基礎実習Ⅱ	加藤　聡史	後期	月４･月５	214
コ	工学概論	斉藤　光徳	前期	月１	215
	工業経済	五百井　正樹	後期	金４	215
シ	資源エネルギー論	白神　達也	後期	金２	216
	自然観察実習／生物多様性実習Ｂ	横田　岳人／林　珠乃／丸山　敦	前期	水3･水4･水5	216
	情報学概論	杉山　久佳	前期	木５	217
	情報と職業	北林　雅俊	前期	集中	217
セ	生態学概論	丸山　敦	後期	月２	218
	生体情報概論	椙崎　弘幸	前期	金２	218
	生物学概論Ⅰ	土井田　幸郎	前期	木１	219
	生物学概論Ⅱ	土井田　幸郎	後期	木１	219
	生物学実験	土井田　幸郎／竹内　圭介	後期	水3･水4･水5	220
チ	地域環境概論	竺　　文彦／遊磨　正秀	前期	木２	220
	地学概論Ⅰ	桑原　希世子	前期	月３	221
	地学概論Ⅱ	島田　充彦	後期	水２	221
	地学実験	島田　充彦／桑原希世子	前期	水3･水4･水5	222
	地球環境概論	宮浦　富保／市川　陽一	後期	月１	222
	知的財産概論	藤河　恒生	後期	水３	223
ニ	人間工学	橋本　正治	前期	水１	223
フ	物理実験／理工学基礎実験Ａ	西原　弘訓	前期	月3･月4･月5	224

ＭＯＴ演習

【担当】長谷　智弘
【開講】後期　月１

■講義概要
本演習は、本学卒業生が就職後、企業において中核的な技術と経営の分かる人材として活躍が出来るだけの知識の修得、大学発ベンチャーの出来る人材の育成を目指して開講する。そのために、(1) マーケティング・戦略論、(2) 財務・会計および労務・組織、(3) 情報管理、(4) 生産管理などを中心に、演習を通じて応用を重視した実践的なManagement of Technology（MOT：技術経営）教育を身に付ける。

■到達目標
技術者として知っておいてほしい経営全般の知識、起業マインド

■講義方法
各分野の専門の講師によるチェーンレクチャーとする。

■系統的履修
MOT（技術経営）概論

■成績評価の方法
平 常 点（50%）
レポート（50%）
各講師より出される課題のレポート内容、発表・討論などを勘案した総合点で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
前期開講の「MOT（技術経営）概論」の知識を前提とするため、本科目の履修登録は「MOT（技術経営）概論」の単位合格者に限る。

■講義計画
①総論
②マーケティング・戦略論
③マーケティング・戦略論に関する事例演習（1）概論、ＳＷＯＴ
④マーケティング・戦略論に関する事例演習（2）戦略、戦術
⑤財務・会計および労務・組織
⑥財務･会計および労務･組織に関する事例演習（1）簿記、Ｂ／Ｓ、Ｐ／Ｌ
⑦財務・会計および労務・組織に関する事例演習（2）経営分析
⑧情報管理
⑨情報管理に関する事例演習（1）インターネットショッピング
⑩情報管理に関する事例演習（2）ＳＥ
⑪生産管理
⑫生産管理に関する事例演習（1）在庫管理
⑬生産管理に関する事例演習（2）生産計画
⑭ビジネスプランの作成方法
⑮まとめ

ＭＯＴ概論

【担当】長谷　智弘、安藤　信行、加藤　正浩、佐藤　研司、神野　友香子、谷口　清志
【開講】前期　火５

■サブタイトル
技術経営入門

■講義概要
本講義は、本学卒業生が就職後、企業において中核的な技術と経営の分かる人材として活躍が出来るだけの知識の修得、大学発ベンチャーの出来る人材の育成を目指して開講する。そのために、(1) マーケティング・戦略論、(2) 財務・会計、(3) 労務･組織、(4) 生産管理･情報管理･流通管理など、(5) 法務・知財（特許）・標準化（品質管理など）を、バランス良く総合的に学べる内容になっている。応用を重視した実践的なManagement of Technology（MOT：技術経営）教育プログラムの構成とする。

■到達目標
技術者として知っておいてほしい経営全般の知識、起業マインド

■講義方法
各分野の専門の講師によるチェーンレクチャーとする。

■成績評価の方法
レポート（100%）
講師ごとに出される課題のレポート内容などを勘案した総合点で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
後期開講の「MOT演習」の受講を希望するものは、本科目を受講すること。

■講義計画
①総論
②企業経営理論（1）企業形態・株式会社
③企業経営理論（2）経営計画・マーケティング
④企業経営理論（3）経営戦略
⑤企業経営理論（4）競争戦略
⑥財務・会計（1）概論・会計原則
⑦財務・会計（2）損益計算書・貸借対照表
⑧財務・会計（3）安全性・収益性・生産性分析
⑨財務・会計（4）損益分岐点分析
⑩人事・労務・組織
⑪運営管理：生産・販売・流通・在庫・情報化
⑫法務：会社設立・運営
⑬知的所有権：特許
⑭標準化動向（品質・環境・労務）
⑮まとめ：ビジネスプランの作成方法

海外キャリア実践教育及び実習Ａ

【担当】大柳　満之、木村　睦、塩見　洋一、宮武　智弘

【開講】前期　集中

学部内共通

■サブタイトル

事前学修～実習前半まで

■講義概要

【地域産学連携キャリアセミナー】

理工学部がこれまで培ってきた地域産業界との連携の実績を活かし、ものづくりの第一線で活躍する経営者・実務家によるチェーンレクチャーや小クラス編成のマナー講座を開講する「地域産学連携キャリアセミナー」を実施し、働くことの意義や産業を支える技術力などについて学修します。

【海外での実習】

社会のグローバル化が進む中、企業の海外進出、海外企業との競争が加速し、企業の新卒採用においてグローバル志向を持った学生を求める傾向にあります。しかしながら、日本から海外へ留学する学生の減少に見られるように、海外に出たがらない内向きな志向をもつ学生が増加しています。そこで、理工学部では、アメリカ・カリフォルニア州にある本学の海外拠点を活用しながら、同州のシリコンバレーやロサンゼルス周辺で事業展開している日系企業の協力を得て、海外での企業研修プログラムを実施します。現地には理工学部の教員も同行してサポートするため、比較的参加しやすいプログラムです。今ではほとんどの企業が海外で事業展開しています。こうした企業への就職を希望している人は奮って受講して下さい。

＜日　　程＞夏期休暇中のうち、2週間程度

＜募集人数＞１６名程度

＜費　　用＞２０万円程度（主に航空運賃です。サーチャージ等により変動することがあります。）

＜実習先企業(予定)＞センジュコムテック、ホンダリサーチインスティチュート、富士通ラボ、住友電工、ライトハウス、シスコムなど

＜応募方法＞科目の事前登録

■到達目標

働くことの意義や企業とその仕事内容、産業を支える技術力についての理解を深める。

海外における仕事の現場を体験しながら、グローバルな視点を養う。

■講義方法

【実習に向けての事前学修】

・「地域産学連携キャリアセミナー」

・海外での実習に向けた実践的な英語学修や海外生活に関する講習を実施します。

【実習】

・実習は現地の日系企業にて実施しますので、主に日本語での実習となります。内容は実習先の計画に依ります。

・実習中の滞在はホームステイを基本とします。外国での生活を通じて、生きた英語や異文化に触れることもできます。

・渡航には理工学部教員が同行します。

【帰国後の事後学修】

・実習報告などの事後学修を実施します。

・学外実習（キャリア実践実習）と合同で実施する報告会に参加します。

※本科目に関わる説明会、事前事後学修の日程等、その都度掲示を行うので、よく掲示板を確認すること。

■成績評価の方法

平常点（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

本科目は、事前登録科目であるため、受講希望者は、該当期間中に必ず事前登録をすること。

説明会等には必ず参加すること。実習にあたっては、実習先の規則を遵守すること。実社会での実習であることを理解し、責任ある行動をとること。

■講義計画

①オリエンテーション・本科目の目的等の説明

②経営者・実務家による講義１

③経営者・実務家による講義２

④ビジネスマナー講座（講義・実技）

⑤実践英語

⑥海外生活に関する特別講習

⑦実習先による

（２週間程度の実習期間の内、前半）

海外キャリア実践教育及び実習Ｂ

【担当】大柳　満之、木村　睦、塩見　洋一、宮武　智弘

【開講】前期　集中

■サブタイトル

実習後半～事後学修まで

■講義概要

【地域産学連携キャリアセミナー】

理工学部がこれまで培ってきた地域産業界との連携の実績を活かし、ものづくりの第一線で活躍する経営者・実務家によるチェーンレクチャーや小クラス編成のマナー講座を開講する「地域産学連携キャリアセミナー」を実施し、働くことの意義や産業を支える技術力などについて学修します。

【海外での実習】

社会のグローバル化が進む中、企業の海外進出、海外企業との競争が加速し、企業の新卒採用においてグローバル志向を持った学生を求める傾向にあります。しかしながら、日本から海外へ留学する学生の減少に見られるように、海外に出たがらない内向きな志向をもつ学生が増加しています。そこで、理工学部では、アメリカ・カリフォルニア州にある本学の海外拠点を活用しながら、同州のシリコンバレーやロサンゼルス周辺で事業展開している日系企業の協力を得て、海外での企業研修プログラムを実施します。現地には理工学部の教員も同行してサポートするため、比較的参加しやすいプログラムです。今ではほとんどの企業が海外で事業展開しています。こうした企業への就職を希望している人は奮って受講して下さい。

＜日　　程＞夏期休暇中のうち、2週間程度

＜募集人数＞１６名程度

＜費　　用＞２０万円程度（主に航空運賃です。サーチャージ等により変動することがあります。）

＜実習先企業(予定)＞センジュコムテック、ホンダリサーチインスティチュート、富士通ラボ、住友電工、ライトハウス、シスコムなど

＜応募方法＞科目の事前登録

■到達目標

働くことの意義や企業とその仕事内容、産業を支える技術力についての理解を深める。

海外における仕事の現場を体験しながら、グローバルな視点を養う。

■講義方法

【実習に向けての事前学修】

・「地域産学連携キャリアセミナー」

・海外での実習に向けた実践的な英語学修や海外生活に関する講習を実施します。

【実習】

・実習は現地の日系企業にて実施しますので、主に日本語での実習となります。内容は実習先の計画に依ります。

・実習中の滞在はホームステイを基本とします。外国での生活を通じて、生きた英語や異文化に触れることもできます。

・渡航には理工学部教員が同行します。

【帰国後の事後学修】

・実習報告などの事後学修を実施します。

・学外実習（キャリア実践実習）と合同で実施する報告会に参加します。

※本科目に関わる説明会、事前事後学修の日程等、その都度掲示を行うので、よく掲示板を確認すること。

■成績評価の方法

平常点（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

本科目は、事前登録科目であるため、受講希望者は、該当期間中に必ず事前登録をすること。

説明会等には必ず参加すること。実習にあたっては、実習先の規則を遵守すること。実社会での実習であることを理解し、責任ある行動をとること。

■講義計画

①実習先による
（２週間程度の実習期間の内、後半）
②報告書作成指導等
③参加者による実習報告①（１人目～ ６人目）
④参加者による実習報告②（７人目～ １２人目）
⑤参加者による実習報告③（１３人目～ １６人目）、
報告会発表者決定
⑥実習総括
⑦学外実習（キャリア実践実習）と合同の報告会

化学概論Ⅰ

【担当】岩澤　哲郎、富﨑　欣也
【開講】前期　水2

■サブタイトル
化学概論Ⅰ
■講義概要
化学は自然科学の中で、かなめの位置を占めている。この学問は、分子や原子に関する知識の上に立って、諸物質の性質や変化などを統一的に理解しようとする。さらに、化学は現代の物質文明を支える各種材料を社会に提供してきた。それゆえ、我々を取り巻く自然と現代文明を理解するには化学の知識が不可欠といえる。また、現代社会は大量生産･大量消費･大量廃棄により環境問題を引き起こしているが、これを正しく理解し、持続可能な社会を構築していくためにも化学の知識が必要である。本講義は、化学概論Ⅱとあわせ、理工学部の学生に必要な基礎的事項について講述する。
■到達目標
化学概論Ⅱと合わせて、化学的なものの考え方になじみ、ひろく化学の全体像を捉えることができるようになる。本講義を受講すると、化学に関する広範な分野の中から元素の誕生、原子と分子、元素の周期律、各種元素の性質などに関する基礎知識を身に付けることができる
■講義方法
教科書および資料により講義する。随時小テストを課す。
■系統的履修
化学概論Ⅱ
■成績評価の方法
定期試験（50%）
そ の 他（50%） 中間試験
■テキスト
渡辺啓 『現代の化学』 サイエンス社
■参考文献
特になし
■講義計画
①一般化学について
②元素の誕生
③元素の誕生と地球の歴史の関わり
④原子について
⑤原子と分子について
⑥元素の周期律
⑦１族、２族、１３族元素
⑧中間試験
⑨１４族、１５族元素
⑩１６族、１７族、１８族元素
⑪放射能と放射性元素
⑫金属の利用の歴史
⑬金属の性質
⑭金属のイオン化傾向とダニエル電池
⑮実用電池

化学概論Ⅱ

【担当】堀井　文敬
【開講】後期　月1

■サブタイトル
日常生活の化学
■講義概要
「化学概論Ⅰ」に続いて、テキスト「現代の化学」の後半について講義する。すなわち、有機化合物、界面活性剤、化粧品･香料、医薬、天然および合成高分子、ゴム・繊維などの重要なものについて、それらの実際例とともに説明する。また、環境化学として、環境汚染物質、特に大気汚染物質について説明するとともに、バイオエタノールや有機太陽光発電などの新しい発展についても分かりやすく述べる。
■到達目標
本講義は、一言でいうと「デイリーライフ・ケミストリー」すなわち「日常生活の化学」であり、実生活に結びついた化学物質の基礎知識を与える。「衣食住の化学」と言い換えてもよいかも知れない。食品、プラスチック、衣料材料、洗剤、化粧品、防腐剤、医薬品、環境汚染物質あるいはエネルギー代替品などについて、より良い生活をするための指針を与える。
■講義方法
テキストおよび配布資料により講議する。
■系統的履修
化学概論
■成績評価の方法
平常点・レポート（40%）
定期試験（60%）
■テキスト
渡辺啓著 『現代の化学』 サイエンス社
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
実益と教養を兼ねた話しとして興味を持って聞いて下さい。実生活に必要な基礎知識を与えるが、専門に行ってしまうと聞く機会がないかも知れませんよ。
■講義計画
①「化学概論Ⅱ」の展望
②化学結合の基礎
③有機化合物Ⅰ（炭化水素、アルコール）
④有機化合物Ⅱ（カルボン酸、エステル、油脂）
⑤有機化合物Ⅲ（芳香族化合物）
⑥洗剤、化粧品
⑦生理活性物質と医薬品
⑧合成高分子Ⅰ（高分子化学の基礎：合成と構造）
⑨合成高分子Ⅱ（ポリエチレン、ナイロン、ポリエステルなど）
⑩繊維、高機能繊維、ゴム
⑪天然高分子（炭水化物：糖、デンプン、セルロース）
⑫生体高分子（タンパク質、ＤＮＡ）
⑬環境化学Ⅰ（大気環境）
⑭環境化学Ⅱ（バイオエタノール、太陽光発電）
⑮まとめ

科学技術英語

【担当】全教員
【開講】後期　金2

■講義概要
英語を読むこと、書くこと、話すことは、研究活動をおこなう上で基本的な能力である。科学的なコミュニケーションに使われる英語は専門用語が多用されるため、一見難解であるかのように感じられるが、文法的には簡素なものである。専門用語の英語表現に慣れるとともに、自らの研究に活かすことができる実践的な英語力を身につけることが、この科目の目的である。

■到達目標
英語によるコミュニケーション（読む、書く、話す）の基礎を修得する。

■講義方法
小グループに分かれ、担当教員ごとに実施する。

■成績評価の方法
毎回の発表、質問状況、レポート、宿題、小テストなどの結果により、総合的に判定する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
小グループに分かれ、担当教員ごとに実施する。

化学基礎実験（2007年度以降入学生）
理工学基礎実験B（2006年度以前入学生）

【担当】富﨑　欣也、山添　誠司
【開講】後期　木3・木4・木5

■講義概要
地球規模の環境破壊が話題になっている。環境問題を理解するためには、それらのデータを提供している化学分析法の基礎を学ばなければならない。また、現在の快適な生活を支えている人工物質の特性を理解するためには、その物質がどんな元素から構成されているかを知る必要がある。本実験では、化学分析法と諸元素の性質を学ぶために古典的な湿式分析法を学ぶ。この方法は、化学反応を最大限に利用するものであり、化学分析法の基礎や諸元素の性質を学ぶには最適である。
定性分析では、はじめに数種の元素を沈殿させ分離する。つづいて個々の元素の存在を確定する。定量分析では、中和滴定の実験を行う。また、定量分析に関する講義･実験から化学量論的概念を学ぶ。

■到達目標
環境を構成する成分や各種人工物質を化学的な面から理解できるようになる。

■講義方法
実験は各自が行う。高校で化学を履修していない受講生にも理解を深められるように、各テーマ毎に事前に講義、演示実験を行う。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）　予習の有無、実験に取り組む態度などを評価する。
レポート（60%）　実験後、1週間以内にレポートを提出してもらい、これを評価する。

■テキスト
龍谷大学理工学部 『化学実験書』 龍谷大学
化学同人編集部『化学実験を安全に行うために』化学同人
化学同人編集部『続化学実験を安全に行うために』化学同人
非売品（実験の際配布する）

■参考文献
G.シャルロー著、曽根興三･田中元治訳 『定性分析化学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』 共立全書
赤岩英夫編 『定量分析化学実験』 丸善

■履修上の注意・担当者からの一言
化学実験は危険がともなうものであり、充分な注意が必要である。決められた安全保護具を実験中は必ず着用する事。
有害な重金属等の廃液は回収しているので、廃液は決められた容器に必ず入れること。

■講義計画
①化学実験を行うための安全に関する説明
②定性分析（１、２属）の講義と演示実験
③定性分析（１、２属）実験
④定性分析（３、５属）の講義と演示実験
⑤定性分析（３、５属）実験
⑥定性分析（４属）の講義と演示実験
⑦定性分析（４属）実験
⑧定性分析（未知試料）の講義
⑨定性分析（未知試料）実験
⑩容量分析（酸・塩基中和反応理論の講義と演示実験）
⑪中和反応実験（Ⅰ）（炭酸ナトリウム標準溶液を用いて0.1M塩酸の標定）
⑫容量分析（水酸化ナトリウム定量の講義と演示実験）
⑬中和反応実験（Ⅱ）（未知濃度の水酸化ナトリウム溶液の定量）
⑭まとめ
⑮予備日

科学思想史

【担当】但馬　亨
【開講】前期　月1

■サブタイトル
ヨーロッパにおける近代科学・技術の成立と発展についての通史

■講義概要
現代世界において、科学・技術の問題に触れずして人類の知識総体の理解を行うことはまず不可能であろう。しかし、このように強大な影響力は古代の段階においてすでに得られていたのであろうか。当講義では、発展過程でその本質的意味を大幅に変化させていった科学・技術について、約二千年前のギリシャから遡り解説していく。なお、扱われる対象は近代の数学や物理学を主体としたいわゆる自然科学分野であるが、その他として西洋思想の諸問題についての理解が必須であるため、適宜取り上げる。

■到達目標
各時代ごとの自然科学・技術の様態について適切な歴史的認識を得ること、さらには理論的な科学発展の経過についての理解を得ること。

■講義方法
プリントなどの資料の配布に加えて、映像資料などの学習教材を使って歴史的背景について説明する。

■系統的履修
自然科学の論理

■成績評価の方法
平 常 点（20%）　小テストと合算で40点
小テスト（20%）　平常点と合算で40点
定期試験（60%）　授業で扱ういくつかの核となるべきトピックについて、その理解を問う。
テストでは論述が主体となります。

■テキスト
特になし

■参考文献
トーマス・クーン著　中山 茂訳『科学革命の構造』みすず書房　2,730円

■履修上の注意・担当者からの一言
携帯電話や私語などには厳しく対処し、場合によっては単位を取り消す可能性もあります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業開始時にe-mailアドレスをお伝えします。

■講義計画
①ガイダンス
②古代ギリシャ（1）前ソクラテス期
③古代ギリシャ（2）プラトン以降
④ヘレニズム期と古代精密科学
⑤アラビアと中世の科学
⑥初期近代（1）万能人の思想
⑦初期近代（2）印刷術、近代解剖学
⑧前半内容の確認
⑨科学革命の世紀（1）理論
⑩科学革命の世紀（2）個別事例
⑪１８世紀の科学
⑫１９世紀（1）科学の組織化、制度化
⑬１９世紀（2）近代生物学の誕生
⑭現代の科学：科学の巨大化
⑮総括

学外実習（キャリア実践実習）（2009年度以降入学生）
学外実習（2008年度以前入学生）

【担当】丸山　敦
【開講】前期　集中

■講義概要
理工学部の各学科の講義・演習・実験・実習等を通じて培っている知識を背景として、学外の企業・研究所等の現場における実務を体験する。学外実習は夏期休暇中の約２週間に実施され、実習終了後に報告書の提出、報告会への参加が必要である。また実習先の企業･研究所等は大学により指定される。その他、学外実習に関する説明会を事前に実施する。

■到達目標
学外実習に参加することにより研究・開発・生産現場等の仕事を通じて大学における勉学の意義を知り、将来の学修に役立てることおよび社会的訓練と人格の向上に資することを目的としている。

■講義方法
原則として事前実習の受講および学外の企業・研究所等での実習とし、実習内容は実習先の計画による。

■成績評価の方法
実習最終日に実習先に提出する報告書を実習先から大学に返送してもらうこと、および実習後に学内で開催される実習報告会への出席等により総合的に合否を判定する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
説明会には必ず参加すること。実習にあたっては、実習先の規則を遵守すること。実社会での実習であることを理解し、学生として責任ある態度をとること。実習先の指定は原則大学側が行うが、学生の積極的な進取的選定も可とする事があるので学外実習担当教員に相談すること。
＜学外実習実施委員＞
数理：樋口三郎　　電子：張　陽軍
機械：野口佳樹　　物質：中沖隆彦
情報：渡辺靖彦　　環境：丸山　敦

■講義計画
①４月中旬　実習先希望アンケート作成・提出
②５月中旬　実習に関するオリエンテーション
③６月下旬　実習先の通知・オリエンテーション
④７月中旬　大学より企業・研究所等へ正式依頼状発送　事前実習
⑤８月下旬　学外実習実施（実習先企業等からの回答により実期間等が変更される場合があります。）～９月中旬
⑥９月下旬　学外実習報告会（実習先企業・研究所、学生、教員が参加）については学生に直接関係する事項です。上記の予定ですが、状況により変更になる場合があります。掲示に十分注意すること。

環境科学

【担当】木原　壮林
【開講】前期　月３

■サブタイトル
環境問題を科学的に考えるために

■講義概要
地球環境は自然に、あるいは人為的に変化するが、過去一世紀の急激な変化は後者に帰せられる部分が多く、科学・技術の発展とそれに伴う経済発展および人口増加がその要因と考えられる。また、環境の評価や保全には、科学・技術だけでなく経済、政治、情報、人間の感情なども深く係る。これらの中で、科学･技術は、本来、人為と人間の利害から離れて、論理的、実証的な視点から地球環境を考える立場にある。本講義では、この視点に立って、地球環境を考える基板となる科学、生命の起源時の地球環境、近代科学技術がなかった江戸時代の環境と生活、近代の環境悪化の実態と要因、地球環境と調和する人間活動などを考察する。

■到達目標
この講義に次の効果を期待している。
１）理工系学部で学んだ者として、地球環境の評価や保全に自然科学的な基礎知識と考え方が重要であることを認識する。
２）地球規模の環境問題を科学的・客観的に理解し、自己の意見を述べられるようになる。

■講義方法
毎回の講義の意図するところを常に明確にし、途中で質問するなど、対話を重視した講義をする。毎回、簡単な感想文（感想・意見・質問など）を提出させ、出席確認とするとともに、学生の関心度と理解度を測りながら講義する。
教科書および配付資料によって講義をすすめる。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）感想文の提出、レポートなど
定期試験（40%）期末試験
そ の 他（20%）中間試験

■テキスト
山口勝三、菊池　立、斎藤紘一共著 『環境の科学』 培風館 1,950円

■参考文献
特になし

■講義計画
①はじめに（環境とは、環境問題とは、宇宙の中の地球）
②地球の自然と物質
③大気汚染と酸性雨
④水質汚染と汚染物質
⑤地球温暖化
⑥生命誕生時の地球環境
⑦化学物資と環境
⑧資源と環境
⑨都市環境
⑩エネルギー資源と環境 Ⅰ 化石燃料
⑪エネルギー資源と環境 Ⅱ 原子力
⑫エネルギー資源と環境 Ⅲ その他の資源
⑬近代化前のエネルギー事情と環境（江戸時代）
⑭環境管理
⑮人間の価値観と環境、まとめ

キャリアデザイン

【担当】笹川　暁子
【開講】前期　水３

学部内共通

■サブタイトル
willから始める大学生活

■講義概要
キャリアデザインへの１回生からの取り組みが自分のキャリアをつくっていく上で決定的に重要であることを実践的に学ぶ。自らの判断と創造が要求される、つまり責任ある仕事を継続的に体験したことがない学生には、そこに至る基本的な「考え方」と「知識」を学ぶ必要がある。大学卒業を控えた選職活動に絶大な威力を発揮するのは「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることである。このキャリアデザイン論では、自分のキャリアをつくっていく上で、何故、そうしたという「考え方」や「知識」が必要であり、これから君達が自分でつくる学生生活を自分の言葉で語ることが重要であるかを理論的・体験的に学ぶ。
＜理工学部キャリア教育の取り組み＞
http://www.rikou.ryukoku.ac.jp/career_support/index.html

■到達目標
・自分の学生生活を自己責任でつくっていく大切さを知ることが「キャリアデザイン」の第一歩であることを学ぶ。
・キャリアデザインの基本となる「考え方」を習得。

■講義方法
授業の中では、積極的に自分の事をしっかり考えていく為の講義、個人ワーク、グループワークを行いながら解説を試みる。グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分自身で、体験の中から発見・再発見・再認識し、自分の考えとして発言していき、メンバーからも様々な考えを確認することにより、多くのことを学ぶ。また互いの意見を発言、聞く、伝えるスタイルはコミュニケーションの訓練にもなる。
自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を"自らの手で" 作っていく面白さの参加型講義を行う。板書量は多くないが必ずノートを要求する。

■系統的履修
キャリアプランニング（２年次・前期）

■成績評価の方法
平常点（50%）　遅刻・欠席及び授業態度等は減点法で厳しく行う。
その他（50%）　決められた提出物を何種類か提示する。
試験は実施しないが、講義毎に要求するなんらかの提出物で評価する。従って、連続欠席等をするとワークシート理解が不可能であり、注意を要する。

■テキスト
東田晋三著　『(仮称）自分デザイン・ブックⅠ』ネットスクール株式会社　1,600円
生協にて販売。部数品切れの可能性あり、早めに確保すること。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
３年後に控えた就職活動に役に立ち、使える「考え方」と「知識」の提供を試みたい。講義予定は、受講生の反応を見ながら柔軟に進めたい。今年で６年目になるキャリア教育、学生による授業評価は、毎回受講して良かった90％以上と非常に高い評価が出ている。受講学生の積極的な発言を期待している。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
キャリア講師は７名で火曜日・水曜日・木曜日に授業を行っている。授業の合間は講師控え室にて待機。

■講義計画
①オリエンテーション（評価の方法、学習のポイント等の解説）
　高校時代に決別だ～オールクリアボタンを押そう～
②自己紹介とは何かを考えてみよう
③何のために大学にきたのだろう（目的）
④大学生活がこうなればいいなぁ（目標）
⑤伝えたい（コミュニケーション）
⑥自分を表現しよう
⑦協調性とは何かを知ろう
⑧好きなことから世の中に関わろう～動く、感じる、考える～
⑨失敗は成功へ向けての授業料
⑩キャリアマインドをもとう～２つの軸が君の未来をつくる～
⑪ディスカッションの大切さを学ぼう
⑫勉強・仕事の土台となるものを考えてみよう
⑬プレゼンテーションにチャレンジ
⑭willから始まる大学生活
⑮willから始まる大学生活発表会

キャリアプランニング

【担当】神殿　織江、矢野　隆子
【開講】前期　水３

■サブタイトル
自らの意志と責任で進路を選択しよう

■講義概要
１年次では､自分の個性や生き方､将来の進路を見つめながら、大学で学ぶ目的・目標を持つことの大切さを学んだ。２年次、キャリアプランニングでは、種をまき、芽を出すことの意識を自らが自覚をしよう。自分らしさを活かして大学生活を充実させる為に、自分は何者か、どこへ行こうとしているのか、そんな自分を見つめる事から始める、自己分析及び自己現状分析をしっかり行う。そして、将来を見据え、これからの大学生活で何を経験しておくべきか、実際に行動を起こす為の具体的計画をたてよう。目標を達成するために自分でプロセスを楽しめる状態に持っていく力、それは､「なぜ」「どうやって」「どうしたら」を考え、答えを出す作業が、その力として身につくものであり、自分の言葉でその経験を熱く語れるようになる。
＜理工学部キャリア教育の取り組み＞
http://www.rikou.ryukoku.ac.jp/career_support/index.html
※現在テキストの再検討のため、一部講義計画の内容が変更となる可能性があります。

■到達目標
自己分析をしっかりと行い、自己の個性や生き方、将来の進路を見つめながら、じっくりと進路を考える。その為の必要なスキルを身につけ、可能性を探る。

■講義方法
ワークおよびディスカッションを主に、受け身の講義ではなく自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って､有意義で楽しい大学生活を"自らの手で"作っていく面白さの参加型講義を行う。また、授業のなかで複数の講師によるグループカウンセリングも行う。毎年好評を得ている。

■系統的履修
１年次キャリア授業：キャリア・デザイン

■成績評価の方法
平常点（50%）　遅刻・欠席及び授業態度等は減点法にて厳しく行う。
その他（50%）　決められた提出物を何種類か提示する。
試験は実施しないが、講義毎に要求するなんらかの提出物で評価する。従って、連続欠席等をするとワークシート理解が不可能であり、注意を要する。

■テキスト
授業計画のテーマに沿ったテキストを配布予定。各人、幅３センチ以上の２穴綴じ仕様のＡ４サイズバインダーを必ず用意すること。毎回、ワークシートの取り外し等を行う為、押さえ込み式のバインダーは購入しないこと。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
キャリア教育の基本は、自分の能力を知り、人間性を磨くことから始まる。日頃からの言葉づかい・挨拶・礼儀作法、時間厳守は最低限のマナーである。その基本のもと、自由に発想し自らの信念に基づき主体的に行動し、結果に責任を持つことが、求められる。つまり、働くことに必要なベースとなることを学ぶ授業であり、エントリーシートの書き方、模擬面接等、手法を学ぶ授業ではない。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
２年次キャリア講師は４名。前期授業は火曜・水曜・木曜。授業の合間は、いずれも講師控え室にて待機。

■講義計画
①オリエンテーション　自分について考える
②私の勤労観と職業観
③自己分析：価値観・能力について
④自己分析：私の強みを見つけよう
「できること」を様々な角度に分類する
⑤自己分析：私の強みを掘り下げよう
⑥社会を知ろう：その１－社会でのマナーを身につけよう
⑦社会を知ろう：その２－職業人インタビュー
⑧社会を知ろう：その３－やりたいことがわからなければ、やりたくないことから考えてみる
⑨社会を知ろう：その４－私の興味のある業界･職種･会社･仕事を実際に調べてみる
⑩グループディスカッション
⑪自己分析のまとめ：統合
⑫自己の課題を見つけよう：グループカウンセリング
⑬自己の現状しらべ
⑭キャリアプラン作成
⑮キャリアプランニング発表：プレゼンテーション

計算機基礎実習Ⅰ

【担当】藤田　和弘
【開講】前期　月４・月５

■サブタイトル
情報フルーエンシー

■講義概要
情報フルーエンシー能力を身に付けるために、基盤概念として、コンピュータ、情報システム、ネットワーク、情報のディジタル表現、現代的技能として、OSの基本的機能の利用、ワープロソフトを用いたビジネス文書作成、表計算ソフトを用いたデータ処理、インターネットを利用した情報検索、プレゼンソフトを用いた表現を中心に学びます。

■到達目標
コンピュータを使って適切な情報を取得し、知識として構成し自らの考えを適切に表現し、発信するための技能・知識を習得する。簡単なビジネス文書を作成できる。表計算ソフトを用いて簡単なデータ集計ができる。データ処理結果をまとめた簡単なレポートが作成できる。簡単なプレゼン資料を作成できる。

■講義方法
毎回の授業では、前半講義を行い、後半実習を行います。また、課題レポートを７回程度作成し提出してもらいます。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）
小テスト（30%）　タイピング、情報倫理、総合
レポート（60%）　ビジネス文書、英文文書、πの推定、情報検索、人口推定、プレゼン、Webページ、総合演習

■テキスト
湯瀬裕昭他　『大学必修情報リテラシ』　共立出版　2,800円

■参考文献
太田忠一他　『文科系のためのコンピュータリテラシ[第４版]』サイエンス社　2,048円
東千秋他　『問題発見と解決の技法』　放送大学教育振興会　2,415円
情報処理推進機構『情報セキュリティ読本 三訂版』実教出版　500円

■履修上の注意・担当者からの一言
情報メディアセンターのCourse Management System（ Moodle ）により、履修者への連絡、レポート課題や資料を提示する予定です。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜日３限目をオフィスアワーとしていますが、出張することもありますので、事前に連絡をしてください。情報メディアセンターのCourse Management System（ Moodle ）を利用して、質問などをすることもできます。

■講義計画
①ガイダンス（授業の概要、履修の仕方、Course Management System（ Moodle ）の利用の仕方、予習・復習の仕方、INFOSS情報倫理）、タイピングの練習の仕方、情報倫理
②情報リテラシとコンピュータ、Windows Vistaの基本操作、電子メイル
③ワードプロセッシング、ビジネス文書作成の実習
④英文の文書作成および実習
⑤表計算とグラフ、πの推定課題の実習１
⑥Webブラウジングと情報検索、πの推定課題の実習２
⑦情報検索（図書館）、情報検索課題の実習
⑧人口推定課題の説明、人口推定課題の実習１
⑨人口推定課題の実習２
⑩プレゼンテーション、プレゼンテーション課題の実習１
⑪コンピュータネットワークと情報セキュリティ、プレゼンテーション課題の実習２
⑫HTMLによるWebページ作成、Webページ課題の実習１
⑬Webページ課題の実習２
⑭総合演習
⑮総合テスト、タイピングテスト、INFOSS情報倫理

計算機基礎実習Ⅱ

【担当】加藤　聡史
【開講】後期　月４・月５

■講義概要
C言語によるコンピュータプログラミングの基礎的事項を学習し、データ解析や数値計算、シュミレーション等をおこなう際に必要なプログラミング能力を養う。Ｃ言語のプログラム構造、言語使用について実習し、演習を通じてプログラミングの技法を習得する。

■到達目標
Ｃ言語を用いたプログラミング技術の習得

■講義方法
毎回はじめに特定のトピックに関する講義をおこなう。その後、各自一台のコンピュータを用い、トピックに関連した演習課題に取り組む。

■成績評価の方法
平常点（40%）
その他（60%）　総合演習

■テキスト
高橋麻奈　『やさしいＣ.（第３版）』　ソフトバンク　2,625円
資料を配付します。

■参考文献
柴田望洋　『新版　明解C言語　入門編』　ソフトバンククリエイティブ　2,310円

■講義計画
①コンピュータプログラミングとはなにか？
②数値の表示と計算
③変数と計算
④数値の入力と比較処理
⑤場合わけに応じた処理
⑥繰り返しⅠ：一定回数の繰り返し
⑦繰り返しⅡ：回数の決まっていない繰り返し
⑧さまざまな計算（標準ライブラリの利用）
⑨関数
⑩総合演習Ⅰ：処理を組み合わせた複雑な処理
⑪配列と文字列
⑫ポインタ
⑬配列とポインタ
⑭ファイル入出力
⑮総合演習Ⅱ：目的に応じたプログラムの設計と開発

工学概論

【担当】斉藤　光徳
【開講】前期　月１

■講義概要
工学は、素材研究やものづくりから、コンピュータ・通信、さらには資源・環境問題に至るまで、あらゆる分野に広がっている。そして、それらの異なる分野の技術が融合して様々な機械やシステムを作り上げている。したがって、技術者には専門性だけでなく、異分野の技術に関する知識や理解も求められる。このような観点から、学生に異分野の技術を知る機会を与えるのがこの授業の目的である。毎回の授業で、我々の周辺にある様々な機械を取り上げて、構造やしくみ、それが使われる理由などを説明し、電気･機械･材料･エネルギー･情報など数多くの分野の技術がそこに結集されていることを紹介する。また、それらの例を通じて、技術の発展が社会や経済との関係で左右されることも垣間見て、技術者には幅広い視野が求められることを説く。

■到達目標
自分の専攻と直接関係が無いことも勉強する必要があると悟り、様々な分野に関心を持って学習する意欲を喚起することが目標である。さらに、この授業を通じて、自分が将来どのような分野に進むかを考える基盤を得ることも目標とする。

■講義方法
毎回の授業が「読みきり」となる形で様々な話題を取り上げ、講義を行う。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
定期試験（70%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
工学分野では、大学を卒業しても、自分で問題を解決する能力のない者は役に立たない。遅刻や欠席をせず講義を熱心に聴くことは義務ではなく、社会で通用する能力を磨くための権利であることを自覚してほしい。

■講義計画
①コンピュータの進歩はいつまで続くか／成長限界と革新技術
②ミサイル技術を平和利用できないか／安全安心のための技術
③デジカメはコピー機に代われるか／歩留りが勝負の生産技術
④テレビはどこまで薄くなるか／軽薄短小を追求する技術
⑤送電線はなぜ高圧にするのか／省エネに役立つ技術
⑥電波はなぜ地球の裏まで届くか／携帯から宇宙に広がる技術
⑦光ファイバが普及したのはなぜか／高速・安全・省資源技術
⑧インターネットはどうして高速化しているか／邪魔物を排除する極限技術
⑨音が電波や光で伝わるのはなぜか／全てを0と1にする技術
⑩ハイテクのCDがなぜ千円もしないのか／低コスト化の技術
⑪質問、討論
⑫メモリはどのように書き換えられるか／1つの物質を別物にする材料技術
⑬不良品や誤りは無くせるか／完全をめざす品質管理技術
⑭照明を革新するLEDは誰が発明したか／特許を争う技術
⑮まとめ

工業経済

【担当】五百井　正樹
【開講】後期　金４

■サブタイトル
技術の発達とそれに伴う社会および環境の変化

■講義概要
私たちの住む国の工業化は明治維新以降であり、工業社会と呼ばれる状態となったのは、諸説はあるが、１９７０年頃であろう。いずれもさほど古い出来事ではない。
この日本近代は激動の時代であり、家族、人のありよう、景観に至るまで、根こそぎと言いたいほどの変化を続けてきた。この過程を概観し、変化を引き起こすに至った要因、また変化を可能にした諸条件について考える。
なにゆえに、敗戦後の急速な工業化と“経済大国化”が可能であったか、その結果、社会と環境はどのように変化したか。また、その結果としてどのような課題に直面するに至ったか‥。これらを具体的データをもとに考えてゆくことにする。

■到達目標
日経新聞を楽しく読めるようになること

■講義方法
ＰＣによるプレゼンテーション。レジュメ、参考資料を配付する。

■成績評価の方法
小テスト（50%）
レポート（50%）
質問は大いに歓迎する。私語はお断りする。

■テキスト
特になし

■参考文献
関連図書などは、レジュメ等に記載する。

■講義計画
①バブルと経済：元手なしに富豪になる方法
②ひとと技術：ヒトはいかにして人となるか
③商品の誕生：市場の拡大と世界の変容
④ものの値段：経済「学」との考え方
⑤貿易と地域、国家：「国民」の誕生と国際基準
⑥近代の衝撃：遅れたヨーロッパと進んだアジア
⑦戦争への道：植民地の拡大と破綻
⑧新規まき直し：日本の敗戦とその後
⑨工業化への長い道：カメラと半導体
⑩運も実力のうち：自動車産業と神風
⑪規格と公差：工学との考え方
⑫光と影：工業化で得たもの、失ったもの
⑬環境の値段：持続可能社会とは
⑭市民と社会：地域と民主主義
⑮技術の評価と選別：買い物は世界を変えるか

資源エネルギー論

【担当】白神　達也
【開講】後期　金2

■サブタイトル
２２世紀以降も持続可能な社会を目指した技術
■講義概要
われわれの生活を支え、産業を発展させるには資源の消費が不可欠であるが、先進国における大量消費に加えて、近年は中国やインドといったアジアの人口大国での消費量が飛躍的に伸びていて、このままの持続的な社会発展は悲観的な見方が強い。それゆえ資源についてよく知り、その利用について今まで以上に深く考えねばならない。資源はその使用目的により大きく分けて物質資源とエネルギー資源とがある。本講義ではエネルギー資源を中心に、その相互の変換、特に発電についてや、将来伸びていくであろう新エネルギーについて説明する。また、物質資源としては特に金属資源およびセメントを取り上げ、リサイクルが資源の確保に果たす役割についても述べる。
■到達目標
われわれの生活を支えているエネルギー資源の状況とその将来の動向についての知識。金属資源の循環過程についての理解。
■講義方法
配布プリント、板書、プロジェクタによるパワーポイントや動画を中心に行う。理解を助けるためのレポートを必要に応じて課す。出席は何らかの形で毎回取る。
■成績評価の方法
平 常 点（11%）
レポート（30%）　１０点×３回
定期試験（59%）　上記の得点なしでテストだけ受けても合格しない。
■テキスト
特になし
■参考文献
世羅力 『資源・エネルギー工学要論』 東京化学同人　2,400円
これらの参考文献はテキストの代わりに使用することがある。
■履修上の注意・担当者からの一言
資源・エネルギーに関する問題が解決しなければ、人類が２２世紀まで存続できるかどうかおぼつかない。講義以外に日々発せられる情報にも関心を持ち、その行く末を考えてみて下さい。
■講義計画
①エネルギーの基礎
②化石エネルギー（1）石炭、石油
③化石エネルギー（2）天然ガス
④化石エネルギー（3）その他
⑤電力（電気エネルギー）（1）火力発電
⑥電力（電気エネルギー）（2）その他の発電方法
⑦自然エネルギー（1）水力、地熱
⑧自然エネルギー（2）太陽、風力、その他
⑨核エネルギー（1）核分裂反応
⑩核エネルギー（2）原子力発電
⑪核エネルギー（3）核融合
⑫省エネルギー
⑬金属資源と精錬・リサイクル
⑭セメントの概要
⑮まとめ

自然観察実習（2007年度以降入学生）
生物多様性実習B（2006年度以前入学生）

【担当】横田　岳人、林　珠乃、丸山　敦
【開講】前期　水3・水4・水5

■講義概要
環境科学では野外における自然現象を観察し、その場で生じている事柄や問題を、科学的なデータをもとに明らかにしていく。その最も基本となるのは、自然現象の観察である。この実習では，比較的身近にある自然環境を対象に，主として植物や動物などの生物が織りなす自然現象を対象に、自然観察法の初歩を体験的に幅広く学習する。
■到達目標
野外での生物現象の観察の基本を身につける。自然観察に用いる道具類の取り扱いを学ぶ。動植物の関わり合いについて、実際の観察を通じて理解する。
■講義方法
実習は３つの班に分かれ、概ね４回ずつ一つのテーマについて実習を行う。具体的な実習テーマは初回ガイダンス時に示す。基本的に実習内容についての講義の後に実習を行うが、詳細は担当教員毎に異なる。不明な点は初回のガイダンス時に確認する事。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）　実習参加状況
レポート（40%）　レポート、スケッチを評価。
そ の 他（20%）　積極性、自発性、協調性を総合評価。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
基本的に実習は野外で行う。野外活動できる服装を準備すること。また野外での実習には，思いがけない危険が伴う。入学時に配布された安全のてびきを熟読し，指導者の指示に従うこと。また，実習内容によって集合時間や場所が変わることがあるので，事前の掲示に十分注意すること。
■講義計画
①実習ガイダンス
②３つのテーマについて実習を行う
③陸上生物を中心にした自然観察（横田岳人）
④水域生物を中心とした自然観察（丸山敦）
⑤人間生活と自然（林 珠乃）
⑥博物館（動物園・植物園）での実習
⑦実習まとめ

情報学概論

【担当】杉山　久佳
【開講】前期　木5

■講義概要
コンピュータと情報ネットワークの基礎を解説する。まずコンピュータの発展の歴史を延べ、現代および将来の応用分野を示す。次にコンピュータシステムを構成するＯＳなどの諸要素について解説する。情報ネットワークに関しては、その基盤となる符号化とディジタル信号処理などの要素技術を解説する。

■到達目標
コンピュータと情報ネットワークの基礎を理解するとともに、これらを統合した現代社会の基盤技術の全体像を把握することを目標とする。

■講義方法
指定したテキストを基本とし、適宜他の視聴覚機材を使用して授業を行う。授業中に適宜小テストを行うことで理解度をチェックする。

■成績評価の方法
小テスト（20%）
定期試験（80%）

■テキスト
三井田他　『情報工学概論』　森北出版　2,100円

■参考文献
特になし

■講義計画
①コンピュータの歴史
②コンピュータの応用分野
③２進数とブール代数
④コンピュータの構成
⑤プログラムとＯＳ
⑥コンピュータの将来像
⑦通信とネットワーク
⑧小テスト
⑨ネットワークプロトコル
⑩情報量と符号化
⑪ディジタル信号処理
⑫移動体通信
⑬アドホックネットワークの基礎
⑭アドホックネットワークシステム
⑮ネットワークの将来像

情報と職業

【担当】北林　雅俊
【開講】前期　集中

■サブタイトル
情報化の進展が及ぼす社会生活の変容

■講義概要
情報化の進展が社会を発展させ生活を充実させているが、同時に社会に及ぼす影響や課題も生じている。この現状を認識するとともに、情報化の進展が職業や教育に与える影響について考察する。

■到達目標
情報化社会の進展が及ぼす社会生活の変容をふまえ、更に高度化する情報化社会に柔軟にかつ、的確に対応できる能力と態度を育てる。

■講義方法
資料を用いて授業を進める。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
レポート（30%）
定期試験（40%）
試験と課題レポートと学習状況を総合して評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
文部省　『高等学校学習指導要領解説　情報編』　開隆堂出版株式会社　221円
近藤勲　『情報教育シリーズ　情報と職業』　丸善株式会社　3,045円

■履修上の注意・担当者からの一言
高等教員免許教科「情報」に係る科目です。

■講義計画
①ガイダンス　科目「情報と職業」について
②情報化の進展と職業（1）働く環境の変化と職業観
③情報化の進展と職業（2）情報化社会における職業選択
④情報化社会と私たちのくらし（1）情報化社会における危機管理
⑤情報化社会と私たちのくらし（2）生涯学習
⑥情報化社会と私たちのくらし（3）情報化の進展とライフスタイル
⑦情報技術の発展と企業組織の情報化（1）情報化社会とＩＴ革命
⑧情報技術の発展と企業組織の情報化（2）組織の情報化とセキュリティ
⑨情報技術の発展と企業組織の情報化（3）組織の情報化と人材育成
⑩情報化の進展と教育（1）情報教育のめざすもの
⑪情報化の進展と教育（2）教師に求められる資質・能力
⑫情報化の進展と教育（3）情報モラルとプライバシー
⑬知的財産の保護と活用（1）科学技術と著作権
⑭知的財産の保護と活用（2）学校現場における著作権
⑮情報と職業まとめ

生態学概論

【担当】丸山　敦
【開講】後期　月2

■講義概要
環境問題への関心が高まり､｢エコ｣の語は世間に溢れる。しかし､生態学(ecology)の理解は必ずしも高いとは言えない。生態学は、生物どうし、および生物と非生物的環境の間の全ての関係を扱う科学分野であり、興味の方向や時空間スケール、研究手法によって多方面に発展している。この学問を概観することで、生態学本来の可能性や、環境問題の本質を理解するための学問的基礎を得られよう。
本講義では、生態学の基礎（共通）概念から始まり、進化生態学、行動生態学、社会生態学、個体群生態学、群集生態学、生態系生態学、応用生態学などについて概説する。重要キーワードの理解に重点をおき、具体的事例の紹介で理解を助ける。また、各分野の視点から、移入種、温暖化、生物多様性損失などの環境問題を考察する。

■到達目標
生態学全般についての概括的な知識を習得し、生態学の発展諸分野への興味を持つ。環境問題を生態学的に考察する重要性を知る。

■講義方法
プロジェクタを中心に行う。プロジェクタで示す内容はダウンロード可能だが、教科書の購入および事前学習は必須である。随時小テストを行い、習得状況を確認する。

■系統的履修
生物学序論、生物学概論、または高校「生物II」

■成績評価の方法
平 常 点（ 0%）ただし、ほぼ毎回実施する課題の得点で、30点まで加算できる
小テスト（100%）復習・確認テストを計3回実施する
レポート（ 0%）復習・確認テストを公欠の場合にはレポートで補うことが出来るので申し出ること。
そ の 他（ 0%）講義中の発言によって10点まで加算できる

■テキスト
日本生態学会 『生態学入門』 東京化学同人 2,940円
教科書は必ず購入すること。講義各回前に該当場所を読んでいることを前提に講義を行う。

■参考文献
日本生態学会 『生態学事典』 共立出版 13,650円
マッキンジー、ボール、バーディー 『生態学キーノート』 シュプリンガー・フェアラーク東京 3,360円
ベゴン、タウンゼント、ハーパー 『生態学ー個体・個体群・群集の科学』 京都大学学術出版会 12,600円
この他、講義中に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
パワーポイントを併用し、その内容はダウンロード可能にしているが、教科書の購入は正しい理解のために必須である。自学習として毎回、教科書該当部分の予習および復習を求める。講義中に発言や質問を求めることがある。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業直後､もしくは環境研究室１２（瀬田学舎７号館１階）にて連絡が可能である。

■講義計画
①生態学概観、自然史
②進化生態学の基礎
③分子進化と生態学
④生活史の適応
⑤性の意義
⑥生理生態特性の適応
⑦行動の適応
⑧社会の適応、復習テスト
⑨種内競争と個体群：種内競争、密度効果、ロジスティック式
⑩種間競争と個体群：競争排除、ニッチ分化、ロトカヴォルテラの競争式
⑪被食・寄生と個体群
⑫種間相互作用と生物群集
⑬生態系と機能
⑭応用生態学、復習テスト
⑮環境問題と生態学、確認テスト

生体情報概論

【担当】椙崎　弘幸
【開講】前期　金2

■サブタイトル
遺伝情報の伝達メカニズム

■講義概要
組換えDNA技術の発展を背景に、塩基配列レベルでの遺伝情報の解析が飛躍的に進展し、細菌等の単細胞生物はもとより、ヒトに代表される高等生物の遺伝情報に対する理解が深まってきた。高次生命現象の研究までもが次々と組換えDNA技術を用いて発展し、新しい概念の確立、既成概念の修正がなされている。本講義では組換えDNA技術の基礎となる原核生物の遺伝情報の伝達メカニズムについての解説から始める。さらに、この技術を用いて解明された真核生物の遺伝情報とその伝達メカニズム、生体機能の発現のメカニズムについて分子レベルで追及した研究成果を紹介する。

■到達目標
学習・教育目標：Ｄ１（◎）
遺伝情報の発現と制御のメカニズムを学ぶことにより、細胞内での情報伝達システムの一端を知ることができる。情報科学や物理系の学科を専攻する学生にとっても理解できるように講義を進めていく。

■講義方法
毎回授業計画のテーマに関するプリントを配布し、パワーポイントを用いて講義を進めていく。
プリントの内容はＰＤＦとして提供も可能。

■成績評価の方法
定期試験（100%） 筆記試験により成績を評価する。
第1学期試験期間に筆記試験をおこなう。試験では参考資料のみ持ち込みを許可する。

■テキスト
教科書は使用しない。毎回授業計画のテーマに関するプリントを配布し、それをもとに授業を進めていく。

■参考文献
J.D.Watson et al.,Molecular Biology of the Gene 『(訳本) 遺伝子の分子生物学』 トッパン
B.Alberts et al.,Molecular Biology of the Cell 『(訳本) 細胞の分子生物学』 教育社
B.Lewin,Genes Ⅷ 『(訳本) 遺伝子第８版』 東京化学同人
いずれの本も旧版ではあるが、本学の図書館に完備されている。

■履修上の注意・担当者からの一言
参考文献に挙げた本は高価なので、あえて購入する必要はありません。知識をより深めたいときに、図書館に完備してある参考文献に挙げた図書を利用していただきたい。最初の講義の時に読める本を紹介します。生物科学を専攻したいと考えている人は参考文献の一読を薦める。

■講義計画
①遺伝物質の化学的本姓
②遺伝物質の構造
③遺伝物質の自己複製
④遺伝物質の組換え
⑤遺伝情報の発現と制御（1）原核生物における転写のメカニズム
⑥遺伝情報の発現と制御（2）真核生物における転写とRNAプロセッシングのメカニズム
⑦蛋白質の構造と機能
⑧遺伝情報の発現と制御（3）翻訳のメカニズム
⑨遺伝子系の保持
⑩組換えDNAとバイオテクノロジー
⑪がん遺伝子
⑫トピックス紹介（1）免疫系におけるゲノムの再編成
⑬トピックス紹介（2）シグナル伝達
⑭トピックス紹介（3）細胞周期の制御
⑮トピックス紹介（4）生物の形と遺伝子

生物学概論Ⅰ

【担当】土井田　幸郎
【開講】前期　木1

■講義概要
生物学は生物の特長である生命現象とは何か、生きているとはどういうことかなどといった問題を自然科学の言葉で理解しようとする学問分野である。とはいえ、生きているということを定義することはむずかしい。本講義では、まず生物の基本単位である細胞をとりあげ、細胞が示す普遍的な構造と機能について説明する。以下、生物は生命維持のため、どのように自己複製をし、新しい個体を形成するか。その際、どのようにして、個々の生物は特異性を維持するのか、その物質的背景は何かなどについて、一年を通して論じるので、生物学概論Ⅰ、生物学概論Ⅱ、両方を選択されるのが望ましい。

■到達目標
学習・教育目標：Ｄ１（◎）
昨今、生物学、医学の知識は飛躍的に増え、生命体にメスさえ入っているが、ヒトは最小の微生物すら未だに作ることができない。この講義を通じて生物のことを多面的に学んで欲しい。そして、生命という不可思議なものの意義を自然科学的な視野からも考えられるようになって欲しい。

■講義方法
講義ごとにテーマを決め、そのことを中心にして解説する。授業計画の項目によっては複数回にわたる場合がある。講義はオーソドックスな方法で行なうが、トピカルなことも取り上げる。

■系統的履修
状態と変化の科学である生物学を充分理解するためには、物理学と化学の知識が必要である。

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
石川統編　『生物学　第２版』　東京化学同人社
近年凄まじい勢いで発展している生物学の領域を一冊のテキストで理解することは不可能であるので、講義中、必要なプリントを配布する。またテキストに記されてない事項についても講義で取り上げる。

■参考文献
その他参考図書は随時講義中に知らせる。また、必要な資料は講義前に配布する。

■履修上の注意・担当者からの一言
大学の講義の一時間には二時間の予習と復習の時間が課されている。従って、私は講義時間に大切だと思う出来るだけ多くの知識を伝えたいと思っているので、その知識を基礎に自分で考えたり、不足を補って欲しい。

■講義計画
①講義に先立って、生物学の学問的位置
②生物の階層構造について
③生体構成物質（1）水、糖質、脂質
④生体抗生物質（2）タンパク質、核酸、その他
⑤細胞生物学（1）細胞と細胞構造
⑥細胞生物学（2）細胞膜の構造と機能
⑦細胞生物学（3）リソソーム・ペルオキシソーム
⑧細胞生物学（4）ゴルジ体
⑨細胞生物学（5）小細胞とタンパク質合成
⑩細胞生物学（6）ミトコンドリア・エネルギー代謝
⑪細胞生物学（7）葉緑体・光合成
⑫細胞生物学（8）細胞骨骼
⑬細胞生物学（9）核・核酸の複製と転写
⑭発生生物学（1）細胞分裂
⑮発生生物学（2）細胞周期

生物学概論Ⅱ

【担当】土井田　幸郎
【開講】後期　木1

■講義概要
生物学概論Ⅰの講義内容に続き、生物個体はどのような調節機構のもとで成体になるのか、また、それぞれの種の生物の形体や機能の特異性や変異性はどのようにして生じ、維持されるのか、その物質的基礎は何か。生物体の恒常性は、どのようなシステムのもとで維持されているのか。生命の誕生とその後の発展はどのようにて起ったと考えられているのか。動物の行動のもつ意義は何かなど、広範な分野について概観し、解説する。

■到達目標
学習・教育目標：Ｄ１（◎）
昨今、生物学、医学の知識は飛躍的に増え、生命体にメスさえ入っているが、ヒトは最小の微生物すら未だに作ることができない。この講義を通じて生物のことを多面的に学んで欲しい。そして生命という不可思議なものの意義を自然科学的な視野からも考えられるようになって欲しい。

■講義方法
講義毎にテーマを決め、そのことを中心にして論じる。

■系統的履修
状態と変化の科学である生物学を充分理解するためには、物理学と化学の知識が必要である。

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
石川統　『生物学　第２版』　東京化学同人社　2,520円
近年凄まじい勢いで発展している生物学の領域を一冊のテキストで理解することは不可能であるので、講義中、必要なプリントを配布する。またテキストに記されていない事項についても講義で取り上げる。

■参考文献
その他参考図書は随時講義中に知らせる。また、必要な資料は講義前に配布する。

■履修上の注意・担当者からの一言
大学の講義の一時間には二時間分の予習と復習の時間が課されている。したがって、私は講義時間に大切だと思う出来るだけ多くの知識を伝えたいと思っているので、その知識を基礎に自分で考えたり、不足を補って欲しい。

■講義計画
①講義に先立って、前期講義のまとめ
②発生生物学（3）配偶子形成
③発生生物学（4）受精の機構と初期発生
④発生生物学（5）初期発生に基づく動物の分類
⑤発生生物学（6）情報発現の調節
⑥遺伝生物学（1）メンデル遺伝学
⑦遺伝生物学（2）集団遺伝学の基礎
⑧遺伝生物学（3）形質転換・形質導入・溶原変換
⑨遺伝生物学（4）突然変異
⑩遺伝子工学入門
⑪恒常性の維持機構（1）神経系の発達・構造・機能
⑫恒常性の維持機構（2）内分泌系
⑬恒常性の維持機構（3）免疫学
⑭生物進化の考え方
⑮動物の行動の生物学的意識

生物学実験

【担当】土井田　幸郎、竹内　圭介
【開講】後期　水３・水４・水５

■講義概要
生命活動は生物の示す多様な形態と機能の上に成り立っている。それがどのようにして維持されているのかについては、形態学、細胞学、発生学、生理学、生化学、遺伝学、生態学などの視点から研究されている。
本実験では、適切な材料を選び、種々な生物学的な研究方法を用いて、生物の示す生活活動の諸相について調べる。

■到達目標
学習・教育目標：Ｄ３、Ｆ１（◎）
多分野にわたるこの実験を通し、生物体の構造の多様なこと、変異に富むこと、生物間の相互作用、生育環境に対して示す生物の適応性などについて、基本的なことを学んで欲しい。

■講義方法
実験に先だって、実習の目的・内容・意義・方法を説明したあと、個別･グループで実験する。授業計画の項目によっては、複数回にわたる場合もある。学習内容は天候など諸種の条件で順序が変更されることがある。

■成績評価の方法
その他（100%）
平常点、レポートの提出をもって評価する。

■テキスト
実験開始前に資料を用意し配布する。

■参考文献
必要に応じ、資料は用意する。

■履修上の注意・担当者からの一言
生物学の実験では、どうしても生きているものの生命を奪わねばならないことがある。実験を通して、生物学の知識、研究の手段や技術を学ぶ以上に、命の尊厳、生きているということの意義に深く思いをいたし、真面目に実験に取り組んで欲しい。

■講義計画
①実験開始にあたって、顕微鏡の使用法
②魚種と生息数調査（1）捕獲と標識
③魚種と生息数調査（2）再捕獲
④魚種と生息数調査（3）データーの整理
⑤野外観察：里山の植相調査
⑥植物の気孔の観察と気孔数の調査
⑦原形質分離と浸透圧の測定
⑧色素細胞の観察
⑨生体反応の温度依存性
⑩比較形態学（1）マウスの解剖
⑪比較形態学（2）アメリカザリガニの解剖
⑫制限酵素によるDNAの切断とアガロースゲル電気泳動法による分離
⑬体細胞分裂の観察
⑭唾液腺染色体の観察
⑮植物維管束系の観察

地域環境概論

【担当】竺　文彦、遊磨　正秀
【開講】前期　木２

■講義概要
一定の地域における汚濁発生源が水域に流入し、あるいは、廃棄物となって、地域の環境レベルを決定していく。生物においては、これからの無機的環境の中において、動物、植物が、生態系を構成し、総合的な環境が形成されている。これらの地域における無機的環境、生物的環境について述べる。

■到達目標
地域における物理・化学的、生物的環境について基礎的な理解をする。

■講義方法
パワーポイント、プリント等を用いて講義する。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）　受講状況等による。
定期試験（80%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①地域環境とは何か
②流域における水質汚濁源
③湖への汚濁源流入プロセス
④琵琶湖の水質変化
⑤湖内での水質形成プロセス
⑥地域での有機物発生源
⑦廃棄物処理・循環プロセス
⑧流域における水環境の縦断方向の連続性
⑨流域における水環境の横断方向の連続性
⑩流域における生物多様性（河川）
⑪流域における生物多様性（湖沼）
⑫流域における水環境の連続性と栄養塩回帰
⑬流域における水資源開発（水道用水）
⑭流域における水資源開発（農業用水）
⑮地域環境を科学する

地学概論Ⅰ

【担当】桑原　希世子
【開講】前期　月３

■講義概要
人間や社会に歴史があるように、自然界にも長い歴史がある。地学の中でも特に自然界を歴史科学的観点から理解しようとする分野がある。自然史学・古生物学・地史学などの分野がこれに相当する。この講義では原始地球から現在までの自然史を、主に生物進化の跡をたどって概観する。生物進化と地球環境の関係、生物界における人類の位置を変えることを狙いとする。

■到達目標
自然の歴史を概観することで、現在の地球環境をグローバルな視点で考える能力を身につける。
そして人類の産業活動と今後の地球環境保全について、洞察力を高めることを目的とする。

■講義方法
ビデオ教材、パワーポイントを使用して進める。

■成績評価の方法
平 常 点（30%） 授業中に課すプリント問題により評価する。
定期試験（70%） 点数を評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
川上紳一・東條文治 『地球史がよくわかる本』 秀和システム 1,900円
丸山茂徳・磯﨑行雄 『生命と地球の歴史』 岩波書店 660円
木庭元晴 『宇宙 地球 地震と火山』 古今書院 2,600円
小出良幸 『早わかり地球と宇宙』 日本実業出版社 1,400円
大谷栄治・掛川武 『地球・生命 その起源と進化』 共立出版 2,200円
J.L.パウエル 『白亜紀に夜がくる』 青土社 2,800円
池谷仙之・北里洋 『地球生物学』 東京大学出版会 3,000円
この他、授業中に紹介する。

■講義計画
①講義概要を紹介し、地球についての基礎知識調査を行う
②編年と相対年代
③数値年代
④太陽系形成のシナリオ
⑤生命の誕生
⑥光合成生物の活動が大気組成を変化させた
⑦７～６億年前、全地球が凍りついたとする仮説
⑧多様な動物の爆発的進化
⑨オゾン層の形成と植物・動物の陸上への進出
⑩パンゲア大陸の分裂と生物大量絶滅
⑪恐竜の繁栄、白亜紀の温室地球、石油の形成
⑫中生代／新生代の境界の絶滅のシナリオ
⑬新生代の地球環境、ほ乳類の繁栄
⑭人類はどのように進化してきたのか
⑮地球環境問題・総まとめ

地学概論Ⅱ

【担当】島田　充彦
【開講】後期　水２

■サブタイトル
地球内部の構造と運動

■講義概要
現在、人類は、宇宙の彼方まで見る事が可能となっているが、我々が生存している地球の足下については見る事が不可能である。しかしながら、地球の内部や、そこでの運動（例えば、地震の発生、火山活動、地磁気の存在など）はかなりの程度明らかにされている。どのようにして、見ることのできない地下とそこでの運動が分かってきたかを、過去から現在の考え方への発展と共に解説する。具体的には、地球の形や地表の重力の値から地球の内部の推定、地震学や地球内部を再現する室内実験によって明らかにされてきた地球内部の物理的構造と物質構造並びにそこでの運動について解説する。

■到達目標
学習・教育目標：Ｄ１（◎）
地球の内部に起因する地震や火山活動は、大きな被害を伴うことから、一般社会においてしばしば報道される。しかし、それらは必ずしも正しく理解されているとはいえない。本講義により、正しい知識が得られる。

■講義方法
講義概要の図や表のプリントを配布し、それに基づき板書およびＯＨＰにより講義する。

■系統的履修
地学概論Ⅰ、地学実験、力学、物理学、数学、化学

■成績評価の方法
平 常 点（30%）
小テスト（70%）

■テキスト
プリント使用

■参考文献
日本材料学会編 『岩の力学ー基礎から応用までー 1～6章』 丸善 20,600円
山中高光編『宇宙・地球：その構造と進化』学術図書 2,060円
杉村新他編 『図説地球科学』 岩波書店 1988 3,600円

■履修上の注意・担当者からの一言
授業中、講義に集中している者への迷惑（私語、携帯電話、飲食など）を慎むこと。
緊急に必要な場合は退席すること。講義に対する疑問質問は大いに歓迎する。

■講義計画
①序（宇宙における地球、地質時代、地球内部のダイナミックス、プレートテクトニクス）
②地球の形
③重力
④重力の測定と重力異常
⑤地震計と地震波
⑥震度とマグニチュード
⑦地震と断層
⑧地震波の伝播と地球内部
⑨地球内部の物理的性質
⑩地球内部の物質構造
⑪高温高圧実験（地球内部の実験室での再現Ⅰ）
⑫地球の磁気
⑬岩石の変形破壊実験（地球内部の実験室での再現Ⅱ）
⑭リソスフェアの変形
⑮ホットスポット・マントルプリューム・プリュームテクトニクス

地学実験

【担当】島田　充彦、桑原　希世子
【開講】前期　水３・水４・水５

■講義概要
地学に関する基礎的な実験のうち、授業計画に示す項目を取り上げて実施する。実験の前にその内容（意義、理論と方法）を解説し、ついで個別またはグループで実験を行う。

■到達目標
学習・教育目標：Ｄ３、Ｆ１（○）
自らの作業を通して、地球の物理学的・化学的・古生物学的な挙動の一端を体得する。

■講義方法
各実験項目ごとにプリントを配付し、これを参考にして説明する。

■系統的履修
地学概論Ⅰ、Ⅱ

■成績評価の方法
平 常 点（12%）
レポート（88%）
各実験項目ごとに実験経過・結果などをレポートとして提出。平常点12点（12%）、レポート88点（88%）、合計100点満点で評価する。

■テキスト
プリント使用

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
講義や実験に対する疑問質問は大いに歓迎する。授業中の私語、携帯電話の私用、飲食は禁止（緊急に必要な場合は退席すること）。時間内に終了できるように、担当者の説明をよく聞き、実験には集中すること。

■講義計画
①ガイダンス
②ステレオ投影による結晶面表示
③岩石・造岩鉱物・化石の肉眼観察
④偏光顕微鏡による岩石薄片の観察
⑤Ｋａｔｅｒの可逆振子による重力の測定
⑥屈折波による地下構造の決定
⑦真北の決定
⑧地磁気水平分力の測定
⑨地質図の理解
⑩平板測量
⑪浸液法による鉱物の屈折率の測定
⑫学外実習（地質巡検、関連施設の見学等）
　甲西・石部巡検（岩石の野外での産状の観察）
⑬学外実習（地質巡検、関連施設の見学等）
　花折断層巡検（活断層地形、断層物質の観察）
⑭気象通報による天気図の作成
⑮総合討論

地球環境概論

【担当】宮浦　富保、市川　陽一
【開講】後期　月１

■講義概要
近年、地球がどのように変化したかを理解するためには、まず地球の生物圏としての機能を理解し、その機能に人間が影響をもたらす以前はどのようになっていたかを理解することが必要である。環境の時代を象徴するように、地球環境問題が声高に取り上げられているが、それらが人間の生活にどのように関わっているのか、その因果関係を明確にし、なぜ問題視するかを論述する。 人間が引き起こしたさまざまな地球環境問題に取り組み、解決策をさぐるにあたって、まず地球が集積されたシステムとしてどのように機能しているかを基本的に理解することが重要である。

■到達目標
学習・教育目標：B1（◎）、A（○）
地球における複雑な物理的・生物的環境を把握し、人間活動が地球の機能に対しどのように影響をもたらしているかを理解する。人間による地球環境へのインパクトを評価し、対処するのに必要な基礎的知見を得ることが可能となる。

■講義方法
板書、OHP、あるいはパワーポイントを用いてわかり易く講義を進める。

■成績評価の方法
レポート（30%）
定期試験（70%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①講義の進め方－地球環境とは？
②地球の歴史
③地球の気候変動
④地球の生態系－起源と進化
⑤地球の生態系－生物多様性
⑥人類の来歴と環境問題
⑦生態系に与える人間の影響
⑧地球環境の持続可能性
⑨環境汚染－陸上
⑩環境汚染－大気
⑪環境汚染－海洋
⑫地球温暖化
⑬エネルギーと地球環境
⑭環境問題の対策と見通し
⑮まとめ

知的財産概論

【担当】藤河　恒生
【開講】後期　水３

■講義概要
本講座では産業財産権である特許権、実用新案権、意匠権、商標権について概観し、特に、技術者にとって大事な特許権について詳細に学習する。特許に関する手続きはどのようにするか、特許を受けるための要件とは何か、特許書類はどのように読み、書くか、などを実例を見ながら勉強する。特許庁が提供している産業財産権情報、特に特許電子図書館（ＩＰＤＬ）を活用するため、それをアクセスする基本操作から学ぶこととし、ＩＰＤＬの操作に関する時間もかなり取っている。本講座を通じて知的財産を身近に感じ、また、知的財産の重要さを感じ取ることも目的としている。

■到達目標
産業財産権（特許、実用新案、意匠、商標）の取得、活用についての全体像を理解する。特許制度について、全体にわたった基礎的な知識を習得する。将来、産業財産権の制度を利用できるよう実用的な知識を習得する。

■講義方法
テキストを使って講義をするとともに、インターネットを用いて実例を参照又は調査したり、電子出願ソフトを用いた特許出願書類作成の練習をしたりする。講義は、各自がインターネットを使用できる教室で行う予定である。また、ゲストスピーカーによる講義もはさむ予定である。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）
レポート（50%）
レポートの課題は、最終講義の２回前の講義時に渡し、最終講義時にレポート提出を受ける予定である。

■テキスト
特許庁 『産業財産権テキスト　他』
全て大学が無料で提供する。

■参考文献
特になし

■講義計画
①知的財産権（産業財産権）とは？特許制度とは？
②特許出願書類とは？
③特許情報とは？
④特許出願から登録まで
⑤ＩＰＤＬで特許情報にアクセス／演習
⑥発明とは？
⑦特許になる発明とは？特許を受けることができる者とは？
⑧発明発掘から特許出願まで
⑨特許出願書類を書いてみようⅠ（特許請求の範囲）
⑩特許出願書類を書いてみようⅡ（明細書他）
⑪特許以外の産業財産権制度／商標
⑫特許以外の産業財産権制度／意匠・実用新案
⑬ＩＰＤＬで意匠・商標情報にアクセス／演習
⑭外国での特許取得　外国の特許情報にアクセス
⑮企業における知的財産権の位置づけ

人間工学

【担当】橋本　正治
【開講】前期　水１

■サブタイトル
製品設計への人間工学的アプローチ

■講義概要
人間工学は、人間をシステムの一要素として扱い、人間の特性を考慮し、人間にとって適切なシステムの設計・改良をめざす工学である。ここでは、生理学・心理学・運動学の立場から人間の諸特性を明確にし、特に生産の場における製品設計・作業設計等に用いられる人間工学的方法について解説する。これによって人間工学的な観点から設計における問題解決できる能力を養う。

■到達目標
人間の生体機能、運動機能に関する基本的な特性を理解でき、設計に応用できる。
機械・電気システムにおいて考慮しなければならない入出力インタフェースの特性を理解し設計に応用できる。

■講義方法
ノート講義を中心に進めますが、適時ＯＨＰ等で最新事例も紹介します。図を使った説明が多くなりますので可能な限りプリントも用意します。ノートへの記入が負担となるかもしれませんが、整理されたノートを作り上げることで、学習が進むと考えます。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）　質問票の提出をもって平常点とします。
レポート（10%）
定期試験（60%）　60%の正答率をもって合格とします。

■テキスト
特になし

■参考文献
長町三生 『現代の人間工学』 朝倉書店　3,885円

■履修上の注意・担当者からの一言
解らないことや興味のあることは授業の途中でも質問や意見を発言して下さい。それはきっと他の人も同じように考えているに違いないからです。ただ聞いているだけの授業ではなく、授業に積極的に参加して、より興味ある内容となるよう一緒に学んでいきましょう。

■講義計画
①人間工学の定義（歴史的背景、人間工学をとりまく研究分野）
②人間の生理的特性と心理的特性（感覚器全般）
③人間の生理的特性と心理的特性（色の研究の歴史）
④人間の生理的特性と心理的特性（色を感じるメカニズム）
⑤人間の生理的特性と心理的特性（視覚と色覚特性）
⑥人間の生理的特性と心理的特性（色の表現法）
⑦人間の生理的特性と心理的特性（聴覚）
⑧生理的機能の測定法（筋電、心拍、呼吸、発汗）
⑨心理的機能の測定法（官能検査、アンケート調査）
⑩動作分析・動作解析（動作分析）
⑪動作分析・動作解析（動作解析）
⑫動作分析・動作解析（運動計測）
⑬マンマシンシステム（フィードバック、インターフェイスの要素、人間の制御機能）
⑭マンマシンインターフェイス（歴史的背景、コミュニケーションと情報の流れ）
⑮インターフェイスの最新事例（人工現実感）

物理実験（2007年度以降入学生）
理工学基礎実験A（2006年度以前入学生）

【担当】西原　弘訓
【開講】前期　月3・月4・月5

■サブタイトル
理工学基礎実験

■講義概要
理工学の全ての分野の基礎となる力学、光学、熱学、電磁気学、原子物理学の分野から選ばれた基本的で重要な11種の実験について実習する。物質化学および環境ソリューション工学は本質的に実験分野であり、将来卒業研究や大学院において、新しい方法により新しい物質を合成したり、新しい実験を行って新しい現象を見つけたり、新しい実験装置や新しい機械を製作したりすることになるが､そのためのトレーニングである。ノギス､マイクロメータ､サーキットテスター、デジタルボルトメータ、オッシロスコープ等の簡単な道具や測定器はいつでも使えるように練習すること、得られた実験データの誤差が評価できて、有効数字がわかること、重力加速度、波の波長、速度、振動数、温度、熱起電力、活性化エネルギー、電気抵抗、電圧、電流、電力、ローレンツ力、ヤング率、光の波長、屈折率、波の干渉、回析等の概念について実験によって深く理解することを目標とする。プレゼンテーションの練習のため最後に発表会も行なう。

■この科目を履修することにより身につくポイント
物理的センスと基礎的実験技術

■到達目標
種々の実験の原理を理解する。ノギスなど基礎的器具を使えるようになる。実験データの誤差を評価できる。積極的に質問し、自ら進んで勉強できるようになる。

■講義方法
実験指導書にそって、二人一組で、毎回１つのテーマの実験を行う。レポートを各自まとめて提出する。

■系統的履修
物理学Ⅰ、物理学Ⅱ、物理学Ⅲ、物理実験（理工学基礎実験A）を続けて履修すること。

■成績評価の方法
毎回のレポートを主体に（約８割）、まとめの試験を加味して（約２割）評価する。

■テキスト
龍谷大学理工学部編 『物理実験』
初回に配布します。関数電卓とA4ノート１冊を各自用意してきてください。

■参考文献
小出昭一郎著 『物理学（三訂版）』 裳華房　2,100円
原康夫著 『物理学基礎』 学術図書出版社　2,400円

■履修上の注意・担当者からの一言
初回のガイダンスとノギスの使い方の実験を無断欠席すると今期履修しないものとみなすので注意してください。まず実験の原理、方法を自習して、考えてもわからなかったことをTAに質問し、わからなかった理由を考えることにより力をつけてください。受講マナーにも気をつけてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
実験１テーマにつき１人のTAが配置された少人数教育であるので、３コマ連続の時間を有効に利用して物理の内容についても、どんどん教員およびTAに質問してください。

■講義計画
①ノギスの使い方
②振り子によるgの測定
③のびによるヤング率の測定
④弦の振動の実験
⑤分光器の実験
⑥レーザー光の回析実験
⑦テスターの使い方とパルス回路
⑧アナログ回路
⑨電気抵抗の温度変化
⑩熱起電力
⑪電子の比電荷の測定
⑫発表会準備と公欠の人の追加実験
⑬発表会
⑭まとめの試験

学科固有科目

（環境ソリューション工学科）

カナ	科目名	担当者	開講曜講時		ページ
カ	化学序論	浅野　昌弘	前期	金２	227
	環境アセスメントおよび演習	市川　陽一	後期	火２	227
	環境経済学	花田　眞理子	後期	木２	228
	環境計測学／環境モニタリング	宮浦　富保／市川　陽一／竺　文彦	前期	月２	228
	環境工学基礎実習	竺　文彦／市川　陽一／占部　武生／岸本　直之／越川　博元	後期	木3･木4･木5	229
	環境システム解析	岸本　直之	後期	木２	229
	環境施設設計演習／廃棄物施設設計演習	占部　武生／岸本　直之	後期	火３	230
	環境実習Ａ	菊池隆之助／浅野　昌弘	前期	集中	230
	環境実習Ｂ	近藤　倫生／横田　岳人	前期	集中	231
	環境実習Ｃ	レイ　トーマス，ティン	前期	集中	231
	環境社会学	中井　治郎	前期	水２	232
	環境政策論	今井　紘一	後期	水２	232
	環境生態学実習／環境生態学実習Ａ	レイ　トーマス，ティン／近藤　倫生／名倉　京子	前期	木3･木4･木5	233
	環境装置工学	市川　陽一／占部　武生	前期	月１	233
	環境ソリューション工学概論	浅野　昌弘／市川　陽一／占部　武生／菊池隆之助／岸本　直之／近藤　倫生／竺　文彦／丸山　敦／宮浦　富保／遊磨　正秀／横田　岳人／レイ　トーマス，ティン	前期	火１	234
	環境毒性学／環境リスク論	越川　博元	後期	水１	234
	環境微生物学	越川　博元	後期	月３	235
	環境分析化学実験	竺　文彦	後期	金3･金4･金5	235
	環境倫理学	佐々木　拓	後期	水４	236
キ	基礎環境工学	竺　文彦	前期	集中	237
ク	群集生態学	遊磨　正秀／レイ　トーマス，ティン	後期	月４･火２	237
コ	行動生態学	遊磨　正秀	前期	集中	238
	個体群生態学	レイ　トーマス，ティン／遊磨　正秀	後期	月４･火２	238
シ	資源管理学／生物資源管理学	近藤　倫生	後期	月２	239
	資源循環工学	占部　武生	前期	木２	239
	自然の浄化機構／自然浄化機構	竺　文彦	前期	火４	240
	社会調査法及び実習／社会調査実習	柴田　和子	前期	木１･木２	240
	社会調査法及び実習／社会調査実習	柴田　和子	前期	木３･木４	241
	上下水道工学／環境水理学及び演習	岸本　直之	前期	金３	241
	進化学／進化生態学	近藤　倫生	後期	金３	242
ス	数学Ⅰ	山岸　義和	前期	火５	242
	数学Ⅱ	神　直人	後期	火４	243
	数学Ⅲ	神　直人	前期	火３	243

カナ	科目名	担当者	開講曜講時		ページ
ス	数学序論	荒井　徳充	前期	金３	244
	数理生態学／環境モデリング及び演習	近藤　倫生	後期	月５	244
セ	生態学演習	レイ　トーマス，ティン／近藤　倫生	後期	集中	245
	生態系生態学	宮浦　富保	後期	木１	245
	生態工学／ミティゲーション論Ａ	横田　岳人／遊磨　正秀	後期	月３	246
	生物学序論	横田　岳人	前期	火４	246
	生物多様性実習／生物多様性実習Ａ	宮浦　富保／遊磨　正秀／名倉　京子	前期	金3･金4･金5	247
	生理生態学／生物の環境応答	レイ　トーマス，ティン	前期	火２	247
	セミナーⅠ／セミナー	浅野　昌弘／市川　陽一／占部　武生／菊池隆之助／岸本　直之／近藤　倫生／竺　文彦／丸山　敦／宮浦　富保／遊磨　正秀／横田　岳人／レイ　トーマス，ティン	前期	木１	248
	セミナーⅡ	浅野　昌弘／市川　陽一／占部　武生／菊池隆之助／岸本　直之／近藤　倫生／竺　文彦／丸山　敦／宮浦　富保／遊磨　正秀／横田　岳人／レイ　トーマス，ティン	後期	水３	248
ソ	測量学及び実習	井上　均	前期	水3･水4	249
タ	大気環境工学	市川　陽一	前期	木５	249
チ	地域環境管理	市川　陽一	後期	集中	250
ト	統計学概論	占部　武生／横田　岳人	後期	水２	250
	特別研究	全教員	通年	集中	251
	特別講義	竺　文彦／須藤　明子／武田　繁／中山　明／仁連　孝昭／堀井　安雄／宮浦　富保／村上　宣雄／村田　弘司／村長　昭義／井狩惠二郎／岡本陸奥夫	後期	水２	251
	都市環境施設実験Ａ	岸本　直之	前期	火3･火4･火5	252
	都市環境施設実験Ｂ	占部　武生／市川　陽一／菊池　隆之助	前期	月3･月4	252
ハ	廃棄物工学／廃棄物処理	菊池　隆之助	後期	月２	253
	博物館実習	遊磨　正秀／横田　岳人	通年	土４	253
フ	物理学Ⅰ	村本　孝夫	前期	金４	254
	物理学Ⅱ	村本　孝夫	後期	金４	254
	物理学序論	中平　徹也	前期	月２	255
	プレゼンテーション演習	浅野　昌弘／市川　陽一／占部　武生／菊池隆之助／岸本　直之／越川　博元／近藤　倫生／竺　文彦／丸山　敦／宮浦　富保／遊磨　正秀／横田　岳人／レイ　トーマス，ティン	後期	金１	255
	プレゼンテーション演習Ⅱ	近藤　倫生／岸本　直之	前期	集中	256
ホ	保全生態学／生物多様性保全論	横田　岳人	前期	金２	256
ミ	水処理工学	越川　博元	後期	月１	257
ヤ	野外調査実習／環境生態学実習Ｂ	丸山　敦／林　珠乃	後期	火3･火4･火5	257
リ	陸水生態学	丸山　敦	前期	火２	258

化学序論

【担当】浅野　昌弘
【開講】前期　金2

■講義概要
大気汚染や水質汚濁等の各種環境問題において、各環境における汚染（汚れ具合）の程度がどれほどであるかを正確に評価するためには、化学分析の技術が必要となります。本科目においては、こうした化学分析の原理、および技術を理解する上で必要不可欠となる、化学の基礎を身につけることを目指します。化学分析においては、「電子の授受」に基づく化学反応を原理としていることから、原子の構造や化学結合などの基礎から講述をします。

■到達目標
化学の基礎を理解し、またこれに関連する基本的な化学計算能力を身につけることを目指します。

■講義方法
講義形式ですが、講義内容の理解度を確認するために、随時、課題演習等を行います。

■成績評価の方法
小テスト（30%）　講義内容に関する理解度の確認
定期試験（70%）
高校在学時において化学を履修しなかった人は、本科目を必ず履修して下さい。

■テキスト
特になし

■参考文献
三好康彦　『汚水・排水処理の知識と技術』オーム社　2,500円
小森三郎 他　『高専の化学 改訂版』　森北出版　1,500円

■履修上の注意・担当者からの一言
受講に際しては、関数電卓を必ず持参して下さい。

■講義計画
①講義概要
②原子の構造と周期律
③化学結合
④物質量とアボガドロ数
⑤化学反応と熱化学方程式
⑥物質の３態
⑦溶液の性質
⑧化学平衡
⑨酸・塩基と電離平衡
⑩酸化還元反応
⑪電池と電気分解
⑫コロイド
⑬錯体とキレート
⑭環境化学
⑮講義のまとめ

学科固有

環境アセスメントおよび演習

【担当】市川　陽一
【開講】後期　火2

■サブタイトル
環境アセスメントの精神

■講義概要
持続可能な社会を形成するために、事業や計画の実施にあたって事前に環境影響を評価し、保全措置を検討する環境アセスメントの必要性はますます高まっている。本講義では、まず、進展する環境アセスメント制度とその精神、役割について理解する。次いで、大気質を例に環境の調査、予測、影響評価、保全措置の検討について学ぶ。また、実事業の事例検討や演習を通じて、環境アセスメントの実態の理解と手順の修得をはかる。

■到達目標
環境アセスメントを理解し、当該分野において社会に貢献できる人材に到達することを目標とする。

■講義方法
講述と演習を交える。

■成績評価の方法
小テスト（40%）　講義の理解度
レポート（60%）　演習の内容、結果

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①環境アセスメントとは
②アセスメント制度の進展
③対象事業
④演習：対象事業の選定
⑤アセスメントの手順
⑥わが国の環境影響評価制度の特徴
⑦戦略的環境アセスメントSEA
⑧中間まとめ、小テスト
⑨環境影響評価の構成要素、要因
⑩演習：環境影響評価の構成要素、要因の選定
⑪環境影響調査、予測手法
⑫演習：調査、予測手法の選定
⑬課題設定：方法書段階の環境影響評価項目と調査・予測手法の選定
⑭課題の実施
⑮課題の講評、まとめ

環境経済学

【担当】花田　眞理子
【開講】後期　木2

■サブタイトル
経済システムと環境問題
■講義概要
現代の環境問題は、便利さや快適さを希求して大量生産・大量消費・大量廃棄型経済発展を続けた２０世紀型経済社会システムの負の遺産です。２１世紀以降も持続可能な社会を作っていくためには、経済システムの中に『環境価値』を織り込みながら、システム自体が大きくパラダイム変換していく必要が叫ばれています。
本講義では、まず産業活動がもたらした環境問題の本質を経済学的に整理したうえで、経済活動による外部コストを最小化する方法などについて説明します。そして、従来対立すると考えられていた経済活動と環境保全の共生をめざす、これからの経済システムのあり方について考えていきます。
■到達目標
企業活動や経済政策などに『環境性』の視点が次々と加わっていることに気づくことができます。環境に関連した経済ニュースの内容が理解できるようになります。
■講義方法
基本的に講義形式ですが、積極的な発言や質問は大歓迎です。
■成績評価の方法
平 常 点（10%）クイズ・アンケート・小レポートなど
定期試験（90%）
■テキスト
特になし
■参考文献
加藤尚武 『図解スーパーゼミナール環境学』 東洋経済新報社 1,785円
■履修上の注意・担当者からの一言
現実の経済は生き物ですから、常に変化しています。新聞などのニュースを毎日チェックし、新しい変化を敏感にキャッチするようにしてください。
■講義計画
①環境グローバリズムの推移
②環境基本法と政策手段の変化
③経済学から見た環境問題
④外部コストの内部化
⑤環境税の仕組み
⑥循環型社会の構築と持続可能性
⑦廃棄物と静脈経済
⑧地球温暖化と低酸素経済
⑨排出量取引と京都メカニズム
⑩拡大生産者責任と環境効率向上
⑪自由貿易と環境保全
⑫南北問題と環境問題
⑬エコビジネスと環境経営
⑭環境コミュニケーションと経済システム
⑮持続可能な経済社会をめざして

学科固有

環境計測学（2007年度以降入学生）
環境モニタリング（2006年度以前入学生）

【担当】宮浦　富保、市川　陽一、竺　文彦
【開講】前期　月2

■講義概要
さまざまな人間活動が環境に与える影響を正しく評価するためには、環境に関わるさまざまな要因を継続的に測定･観測し、その変化を見極める必要がある。この講義では、物理、化学、生物環境の測定・観測の手法と、測定観測を継続的に実施していくのに必要な考え方を学ぶ。また、環境測定手法の幅（測定法の利点・欠点、客観性、等）を理解して適正なモニタリング計画を立案する基礎を学ぶ。
■到達目標
物理環境、化学環境、生物環境に関わる測定・観測技術の基本を理解する。対象となる環境のモニタリングを実施するのに必要な手法や項目を挙げ、モニタリング計画を作成する。
■講義方法
授業は基本的に講義形式で行う。必要に応じて、モニタリング実施の現場を見学したり、モニタリングで継続的に得られているデータを演習形式で解析する。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■講義計画
①環境モニタリングとその必要性
②資料の収集と分析
③測定値の誤差と精度
④生物現象の測定
⑤生物現象の解析法
⑥大気汚染のモニタリング（環境基準に定める方法）
⑦大気汚染のモニタリング（環境基準に定める方法以外）
⑧リモートセンシング
⑨酸性雨のモニタリング
⑩気象観測
⑪水環境のモニタリング手法
⑫物理学的水質分析と環境
⑬化学的水質分析と環境
⑭生物学的水質分析と環境
⑮総合的な評価

環境工学基礎実習

【担当】竺　文彦、市川　陽一、占部　武生、岸本　直之、越川　博元
【開講】後期　木３・木４・木５

■講義概要
都市の環境を適切に維持するために設けられている施設を見学し、その機能や施設の実際について体験する。さらに基本的な実験技術の修得を目的として、担当教員ごとに基礎的で興味ある実験をおこない、レポートなどをまとめることにより、エコロジー工学系の知識や技術の基礎とするものである。

■到達目標
施設見学および実験を通して、２年次以降に展開されるエコロジー工学系の講義の基礎とすることである。

■講義方法
施設見学に先立ち、それぞれの施設の工学的特徴、機能について予習した後、見学する。また実験については担当教員の指示に基づき、内容、実験手技（テクニック）などについて学習し、さらに実験を実施してその内容、結果についてレポートを作成する。

■成績評価の方法
受講態度、取組状況、レポートなどの結果により、総合的に判定する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
現地で対応いただく方々は、処理施設の技術者の方々である。学生として失礼のない行動をとって頂きたい。さらに、またとない機会なので、実態をよく見て、話をよく聞いた上で、活発な質疑を期待する。なお、見学時の遅刻者は「容赦なく置き去り」にする。

■講義計画
①科目説明、および、ガイダンス
②施設見学事前学習
③施設見学・浄水施設
④施設見学・水処理再生センター
⑤実験ガイダンス
⑥液クロを用いた分析実験
⑦廃棄物利用実験
⑧ガラス細工実験
⑨大気汚染実験
⑩見学事前学習
⑪施設見学・焼却施設
⑫施設見学・リサイクル施設
⑬廃棄物からの溶出実験
⑭微量汚染分析実験
⑮反応論実証実験

学科固有

環境システム解析

【担当】岸本　直之
【開講】後期　木２

■講義概要
環境システムとは、環境をある秩序に従って働く様々な要素の集合体として捉えたものである。本科目では、環境システムを記述・解析するための基本的考え方および手法について、特に物質の変換過程に焦点を当てて講述する。

■到達目標
環境システムをモデル化するための基本的概念および手法の習得。

■講義方法
環境システムを解析するための考え方や基本的手法について例題を交えながら講述する。

■成績評価の方法
小テスト（100%）

■テキスト
渡辺信久，岸本直之，石垣智基 『図説わかる環境工学』 学芸出版社　2,800円

■参考文献
小　宮　山　宏 『CREATIVE CHEMICAL ENGINEERING COURSE 3 反応工学 反応装置から地球まで』 培風館　1,600円
橋本健治 『改訂版反応工学』 培風館　2,900円
潮秀樹 『図解入門よくわかる微分方程式』 秀和システム　2,300円

■講義計画
①環境システムとは・物質収支
②物質の出入り（移流・拡散）
③１階常微分方程式の解法
④２階常微分方程式の解法
⑤第１回確認テスト（１－４回分）・まとめ
⑥回分式反応器
⑦連続式反応器（プラグ流反応器）
⑧連続式反応器（完全混合流反応器）
⑨直列連続槽型反応器
⑩第２回確認テスト（６－９回分）・まとめ
⑪反応現象と反応速度
⑫反応速度式
⑬反応速度の温度依存性
⑭濃度勾配による物質移動
⑮第３回確認テスト（１１－１４回分）・まとめ

環境施設設計演習（2007年度以降入学生）
廃棄物施設設計演習（2006年度以前入学生）

【担当】占部　武生、岸本　直之
【開講】後期　火3

■講義概要
本科目では、自治体のごみ処理を想定した収集、中間処理、資源化、最終処分等の関連施設、および下水道建設を想定した下水道計画及び関連施設の基本的な設計演習を行う。

■到達目標
ごみの発生予測から廃棄物施設の設計および汚水処理・雨水排除計画から下水道施設設計にいたるまでの必要な考え方および基本的な設計能力が身につく。

■講義方法
例題を中心に論述し、適宜課題演習を行う。

■系統的履修
廃棄物処理（２００７以降入学生：廃棄物工学）
上下水道工学（２００７以降入学生）

■成績評価の方法
レポート（100%）

■テキスト
松藤敏彦 『都市ごみ処理施設システムの分析・計画・評価』
技報堂出版　4,200円

■参考文献
元田、大山 『わかりやすい廃棄物処理・リサイクルの実務計算』 オーム社　2,415円

■履修上の注意・担当者からの一言
本科目は演習科目であり、毎回の講義・演習への出席が必須である。

■講義計画
①廃棄物処理施設の計画設計、ごみ量・ごみ質の予測
②収集・運搬施設の実施設計
③焼却施設の物質収支、熱収支計算
④焼却施設の実施設計
⑤資源化施設の実施設計
⑥埋立施設の実施設計
⑦経済計算
⑧下水道計画・処理場の計画設計概要
⑨計画汚水量・汚濁負荷量計算法
⑩計画汚水量・汚濁負荷量計算演習
⑪処理場の実施設計１（最初沈殿池）
⑫処理場の実施設計２（曝気槽）
⑬処理場の実施設計演習１（標準活性汚泥法）
⑭処理場の実施設計３（OD法）
⑮処理場の実施設計演習2（OD法）

環境実習Ａ

【担当】菊池　隆之助、浅野　昌弘
【開講】前期　集中

■講義概要
環境を野外調査を通して知るための実践的基礎を習得する。また、得られたデータを基に何が問題であるのか（ありつつあるのか）を議論し、環境の理解を深める。

■到達目標
フィールドワークにおける調査法や観察・観測法を体験的に学び､観測／測定した値を活用･解析できることを目標とする。

■講義方法
学内で事前学習・説明を行い、現地での調査活動（近畿圏内）を開始する。調査終了後にレポートを提出する。調査は８月下旬～９月中旬を予定している（期間は約１週間程度の集中講義)。

■成績評価の方法
事前学習への取り組み、調査態度、調査法の理解度、データ解析、レポートなどを総合的に評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
フィールドワークにおけるコースや交通や経費や注意点を別途に掲示板などで詳細に連絡する。 事前学習において、必要に応じて資料を配布する。

■講義計画
①１日目：事前学習（温室効果ガスの原理や測定法の学習）
②１日目：事前学習（水質調査の原理や測定法）
③２日目：予備実習（発電所見学や温室効果ガスの予備測定）
④２日目：予備実習（フィールドにおける測定法の予備練習・調査）
⑤３日目：現地における本調査（閉鎖水域の広域フィールド測定）
⑥３日目：現地における本調査(河川域の広域フィールド測定)
⑦４日目：調査で得られた閉鎖水域データの整理と解析
⑧４日目：調査で得られた河川域データの整理と解析

環境実習Ｂ

【担当】近藤　倫生、横田　岳人
【開講】前期　集中

■講義概要
生態系の構造と機能を野外において体験調査する。とりわけ、地球上のさまざまな自然環境に接することにより、陸域や水域のフィールドワークの実践の基本を学ぶとともに、それぞれの生態系に独特の調査法や観察法を体験的に習得する。さらに、調査値の地域特性と自然環境の関係について学ぶ中で、地域文化についても学習し、一方でこれらの自然環境が人間活動や自然災害によって破壊された場合にどのように修復する事ができるのか、あるいは何が問題となっておりどのような方向に向かおうとしているのか、について議論し、自然環境と人間生活の関わりについて総合的に理解を深める。調査地や日程は年度によって異なるので、進級ガイダンス時に連絡する。

■到達目標
地球上のさまざまな生態系について、その特徴を知り、地域文化との関係についての理解が深まる。

■講義方法
どのような事を、どのような観点から、どのような方法で調査するのか、十分な事前検討を行う。現地での調査活動は１週間程度である。また、調査終了後には、調査レポートの提出を課す。時期は、８月下旬から９月中旬にかけての期間である。

■成績評価の方法
事前検討の進め方、現地での調査態度、調査レポートの内容などを総合的に評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
普段の生活と異なる環境での実習活動である。野外調査での注意事項、装備の準備などについて別途指示するので、厳守すること。現地までの往復の交通費、宿泊費、食費等は自己負担となる。

■講義計画
①実習概要の説明
②調査・観察地域に関する学習
③現地調査および観察
④調査・観察結果のまとめ
⑤実習成果の発表会
⑥実習の概要
⑦調査用具の確認及び予備調査
⑧現地調査
⑨現地調査資料のまとめ
⑩実習成果の発表会

学科固有

環境実習Ｃ

【担当】レイ　トーマス，ティン
【開講】前期　集中

■講義概要
講義・演習・実験・実習等を通じて培っている知識を背景として､学外の企業･研究所等における現場体験（インターンシップ）に加えて、ボランティア活動、NPO・NGO等の組織における活動など、環境活動を通じた社会との関わりあい方について広く体験の場を持つ。学外実習に比べて広範かつ柔軟な実務体験が可能である反面、受講者の積極性を強く求められる。実施期間は夏期休暇中の約３週間程度に相当するものとし、実習終了後に報告書の提出が必要である。また実習先は本人が選択した複数の候補の中から大学により指定される。

■到達目標
環境活動を通じた社会貢献を体験することで、大学における勉学の意義を知り、将来の学修に役立てることおよび社会的訓練と人格の向上に資することを目的としている。

■講義方法
原則として事前実習の受講および実習とし、実習内容は実習先の計画による。

■成績評価の方法
実習最終日に実習先に提出する報告書を実習先から大学に返送してもらうこと、および実習後に学内で開催される実習報告会への出席等により総合的に合否を判定する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
実習にあたっては、実習先の規則を遵守すること。実社会での実習であることを理解し、学生として責任ある態度をとること。

■講義計画
①実習希望先のヒアリング
②実習先候補との交渉を経て複数候補の提出・決定
③実習に関するオリエンテーション
④大学より実習先へ実習内容確認書発送
⑤実習先の通知・オリエンテーション
⑥事前実習
⑦実習実施
⑧実習報告会

環境社会学

【担当】中井　治郎
【開講】前期　水2

■講義概要
かつては「公害」、近年は「エコ」など、環境問題はさまざまな形態をもって取り上げられ、人々の認識もそれに応じて大きく変化してきた。とくに近年、環境問題が社会問題として大きくクローズアップされるとともに、エコロジー・ブームなど「環境の商品化」ともいえる現象が顕著となっている。本講義では、このような環境問題の歴史とその社会的意味を読み解いていく。

■到達目標
環境問題を単に現代社会の一つの問題としてみるのではなく、環境問題を構成する社会的要因、社会的背景を考えることを通して、現代社会の構造そのものを理解することを目指す。

■講義方法
できるだけ身近な事例、今日的な問題をとりあげ、それらについて受講生皆さんの意見を聞くというスタイルの授業を進め、対話を重視する。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）　授業中に随時、課題、小レポートなどを掲示する。
レポート（50%）　期限の厳守と内容により評価。

■テキスト
特になし

■参考文献
講義の際に随時紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
社会問題としての環境問題としての複雑さ・根深さを知って欲しい。

■講義計画
①はじめに－社会学的視点とは？－
②環境社会学の展開
③公害から環境問題へ① 日本の公害史
④公害から環境問題へ② 公害の輸出と生活者の加害源化
⑤環境破壊の社会的メカニズム① 環境破壊をめぐる社会と人々
⑥環境破壊の社会的メカニズム② 市場原理と「エコ」は両立できるのか？
⑦環境政策の課題
⑧豊かさと環境のジレンマ① 持続可能な開発とは？
⑨豊かさと環境のジレンマ② グローバリゼーションと南北問題
⑩豊かさと環境のジレンマ③ 地域振興と環境
⑪環境運動の変遷と意義① 反公害・被害者運動の歴史
⑫環境運動の変遷と意義② 環境運動の現在
⑬環境の商品化という視点① 「エコ」は商品価値？
⑭環境の商品化という視点② 環境と新しい観光のかたち
⑮まとめ

学科固有

環境政策論

【担当】今井　紘一
【開講】後期　水2

■サブタイトル
「自然と人との共生」のあり方を考える

■講義概要
滋賀県は「小宇宙」に例えられる。陸域（ほぼ琵琶湖集水域に相当）に１４１万人の県民生活と各種の産業活動が営まれ、湖内には1,１００種の動植物が生息する。自然と人との関わり方が問われている地球環境問題の縮図的な存在にあるといえる。
「琵琶湖条例」制定以来、約３０年にわたる滋賀県の環境施策を考察し、“自然（湖）と人との共生”を目標とした環境保全への取り組みを学ぶとともに、今日の地球環境問題への基本的な対応について考えたい。

■到達目標
今日の社会・経済活動には、多くの場面で環境への配慮や実践が必要である。その原点として、自身の環境観を養うことの一助となる。

■講義方法
授業回数ごとに、要点のプリントを配布し、映像（主にパワーポイント）により講義を行う。
また、ビデオを視聴し、環境問題に対しての自身の考えを問う小テストを取り入れる。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）
小テスト（30%）３回×１０点
レポート（30%）

■テキスト
特になし

■参考文献
滋賀県琵琶湖環境部 『滋賀の環境２０１１』
琵琶湖百科編集委員会編 『知ってますかこの湖を－びわこを語る５０章』 サンライズ出版 2,800円
滋賀県HP
滋賀の環境２０１１
（http://www.pref.shiga.jp/biwako/koai/kankyo/index.html）
マザーレイク２１計画
（http://www.pref.shiga.jp/biwako/koai/mother/top.html）

■履修上の注意・担当者からの一言
環境分野の職務には広い視野が求められます。特に、理工系の皆さんには、TVの自然番組や野外活動の機会に、自然のしくみを知り、自然とふれあうことを心がけてください。

■講義計画
①滋賀県は“小宇宙”（滋賀県の環境特性,琵琶湖の価値と保全）
②環境保全施策の展開（環境保全施策の経過､国と地域の仕組み）
③ビデオ視聴（“里山”）、小テスト
④琵琶湖の環境保全施策（環境悪化と要因、施策の特徴）
⑤琵琶湖の環境保全施策（水環境）
⑥琵琶湖の環境保全施策（自然環境）
⑦琵琶湖の環境保全施策（公共事業の取り組み､びわこ地球市民の森）
⑧琵琶湖の環境保全施策（マザーレイク２１計画－琵琶湖総合保全整備計画－の策定と実践）
⑨琵琶湖の環境保全施策（廃棄物対策への取り組み）
⑩ビデオ視聴（廃棄物対策番組）、小テスト
⑪地球環境問題への取り組み（地球の温暖化対策）
⑫ビデオ視聴（地球環境番組）、小テスト
⑬地球環境問題への取り組み（野生生物種の保全）
⑭地球環境問題への取り組み（湖沼の保全など）
⑮”自然と人との共生”に向けて（講義のまとめ～風景と文化）

環境生態学実習（2007年度以降入学生）　【担当】レイ　トーマス，ティン、近藤　倫生、名倉　京子
環境生態学実習A（2006年度以前入学生）　【開講】前期　木3・木4・木5

■講義概要
生態学および生態環境マネジメントにおける実験手法、調査手法を修得する。生態系のエネルギー・物質収支に関わる項目を中心に、物理環境測定と炭素同化の中心を担う植物の光合成および生産構造に関する調査を行う。また、系内に獲得したエネルギーの利用様式が、動植物群の種組成や多様性、動態などに与える影響を学ぶ。これらの調査法を統計的な妥当性とともに理解できるように努める。

■到達目標
生態学の基本的な事柄についての調査方法を修得するとともに、それらに関連する事項について理解を深める。また、自然環境の中で得られるデータの数学的な取り扱いの基礎を体得する。

■講義方法
実習はコースごとに行う。４つの実習コースから３コースを選択し、各コース４回ずつの実習を行う。実習コースごとに、実習の目的・内容・意義・方法などを説明した後、実習に取り組む。レポートは実習コースごとに提出する

■系統的履修
生態学概論、統計学概論、生物多様性実習

■成績評価の方法
平 常 点（40%）
レポート（40%）
そ の 他（20%）　実習態度

■テキスト
プリントを配布する。

■参考文献
実習期間に、必要に応じて生物図鑑を用意する。

■履修上の注意・担当者からの一言
野外での実習が大部分です。野外の実習では危険が伴いますので、別途配布する「安全のてびき」を熟読し、指導者の指示に従って下さい。

■講義計画
①ガイダンス（実習内容の説明と班編制、諸注意）
②２回目以降は次のテーマから三つを選び、４回ずつの実習を行う。
③～⑭１）環境と植物（レイ）
２）データ解析とモデリング（近藤）
３）水生生物の生活・分布様式（山中）
４）植物の生存戦略（名倉）
⑮陸上植物多様性 - 京都府立植物園見学
⑯水生植物多様性 - 草津市立水生植物公園見学

環境装置工学
【担当】市川　陽一、占部　武生
【開講】前期　月１

■講義概要
環境装置は多くの工学分野から成り立っており、環境装置の基礎をよく理解しておくことは、今後の学習、研究の発展にとり重要である。本科目では、多くの工学分野のうちでも代表的な熱力学、材料力学などの基礎とともに、装置レベルの工学の基礎についてもわかりやすく論述する。

■到達目標
幅広い環境装置に関係する基礎的な知見を得ることができる。

■講義方法
環境装置工学の基礎を論述するとともに、適宜小テストを行い理解を深める。

■成績評価の方法
その他（100%）
１ ～ ７回の確認試験　50%、９ ～ １５回の確認試験（定期試験）　50%

■テキスト
特になし。

■参考文献
適宜、資料を配付する。

■講義計画
①材料科学（物性）
②材料科学（コンクリート、金属等）
③材料力学（圧縮、引張）
④材料力学（組合わせ応力）
⑤電気工学（基礎）
⑥電気工学（センサー）
⑦廃棄物処理装置（焼却、資源化）
⑧確認試験（１～７回）
⑨物質移動現象
⑩空調設備
⑪熱力学（エネルギー保存則）
⑫熱力学（熱力学の第２法則）
⑬熱力学（演習）
⑭熱利用設備（工業炉、ボイラー）
⑮熱利用設備（ヒートポンプ）

環境ソリューション工学概論

【担当】浅野 昌弘、市川 陽一、占部 武生、菊池 隆之助、岸本 直之、近藤 倫生、竺 文彦、丸山 敦、宮浦 富保、遊磨 正秀、横田 岳人、レイ トーマス,ティン

【開講】前期　火1

■講義概要

本科目は、本学科を構成する教員が各自の専門分野について、今、世の中で何が問題になっているのか、何が求められ、自分はどのような研究を展開しているのかを概述し、その分野の将来性や研究の夢などを論述する。各自が学修する興味の焦点や方向を見定めるきっかけとし、この学科で何ができそうか、あるいは何を目指したいかを考えるための講義である。

■到達目標

環境問題に関する様々な視点を理解し、学科内において各自が専門的に学修すべき方向を見定める。

■講義方法

オムニバス形式である。講義をする教員が順次登壇し、板書、パワーポイントなどを利用して、わかりやすく講義を進める。

■成績評価の方法

レポート（100%）
各教員へのレポートの評価をもって成績とする。

■テキスト

特になし

■参考文献

必要に応じて講義中に提示する。

■講義計画

①ガイダンス、エコロジー工学について
②生態系マネジメントについて
③琵琶湖の水質保全
④リサイクル
⑤森林破壊
⑥植物をめぐる昆虫と人間の関係
⑦水・生き物・人
⑧水の再生利用技術
⑨大気環境とエネルギー
⑩天然資源の利用と問題
⑪生物多様性とその保全
⑫生態系の複雑性とは何か？
⑬動物と群集の環境応答
⑭難分解性化学物質による水環境汚染の現状
⑮レポート課題取り組み

環境毒性学（2007年度以降入学生）
環境リスク論（2006年度以前入学生）

【担当】越川　博元

【開講】後期　水1

■講義概要

本科目では、環境（人を取り巻く、水環境、大気環境、土壌環境）と毒性学との関連について講述する。その知見をもとに、ヒトの健康リスクや生態系のリスクを含め、リスクの概念、環境リスクを同定･分析しリスクを定量的に評価する手法、化学物質管理等についても講述する。物質によりもたらされるリスクの評価・管理モデルやそのシミュレーション事例についても示す。

■到達目標

本科目では主に化学物質のリスクを例として講述するが、ハザード（有害影響の大きさ）とその暴露の可能性の2つの観点からリスクについて考え、その概念を理解することである。

■講義方法

板書やプリントなどを使用して、講述する。

■系統的履修

特になし。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

花井荘輔　『化学物質のリスクアセスメント』　丸善　3,500円

■講義計画

①科目概説
②毒性学の基礎（1）毒性とは
③毒性学の基礎（2）化学物質の体内動態
④毒性学の基礎（3）変異原性
⑤毒性学の基礎（4）発ガン性
⑥リスクの概念
⑦リスクアセスメントとは
⑧リスクアセスメントの手順（1）定性的リスクアセスメントと定量的リスクアセスメント
⑨リスクアセスメントの手順（2）曝露アセスメントとリスクの判定
⑩リスクコミュニケーション：基本原則
⑪リスクコミュニケーション：化学物質を中心として
⑫化学物質の管理：PRTR
⑬生態系へのリスク
⑭環境生態系リスク評価：その考え方
⑮環境生態系リスク評価：その指標生物

環境微生物学

【担当】越川　博元
【開講】後期　月３

■講義概要
微生物は自然界での物質循環において重要な役割を果たすだけでなく、地下水や土壌などの汚染環境の修復技術および物質生産などのリサイクル技術についてもその有効利用が期待されている。本科目では、微生物の分類や基本的な生理から、微生物の機能や反応を通じた有効利用の実例までを広く概説し、環境中における微生物反応および微生物利用技術の可能性と限界について論述する。

■到達目標
微生物学の基礎、ならびに環境中での微生物の挙動および微生物利用技術の実際について知識を修得すること。

■講義方法
プリント、スライド、板書などを用いて説明する。 各講義の最後に、内容理解度を問う課題を与える。

■成績評価の方法
定期試験（100%） 定期試験の成績をもって評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
小林猛他著 『生物化学工学』 東京化学同人
藤田正憲他 『バイオ環境工学』 CMC出版
大森俊雄他著 『環境微生物学』 昭晃堂
清水達雄他著 『微生物と環境保全』 三共出版

■講義計画
①環境微生物学概論
②微生物の分類と栄養摂取
③増殖と基質利用の動力学式
④微生物機能と酵素
⑤微生物機能と遺伝子
⑥微生物の遺伝情報の伝播
⑦元素循環と微生物（1）炭素の循環
⑧元素循環と微生物（2）窒素・硫黄の循環
⑨水処理技術と微生物反応
⑩嫌気性消化と微生物
⑪バイオマスの有効利用とリサイクル技術
⑫微生物による環境修復（バイオレメディエーション）
⑬廃棄物の処理・処分と微生物
⑭水系感染症と微生物
⑮微生物による毒性評価

学科固有

環境分析化学実験

【担当】竺　文彦
【開講】後期　金３・金４・金５

■講義概要
本科目では、環境を計量するための方法を理解し、その技術的基礎を習得することを目的としている。環境は一般に生物学的・物理学的・化学的要素から成り立っており、さまざまな分析によって、環境の状況を把握することができる。本科目では水質分析を行うための化学的分析手法や生物学的分析手法を実習する。

■到達目標
環境分析の基礎および分析の基本操作の習得

■講義方法
実習内容について講述した後、実際に薬品や器具を用いて分析実習を行う。

■成績評価の方法
レポートを中心に平常点を考慮して、総合的に評価する。

■テキスト
環境ソリューション工学科編『環境分析化学実験指導書』（授業時配付）

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
受講に際して、実験用白衣・保護眼鏡・関数電卓・グラフ用紙を用意すること。

■講義計画
①ガイダンス
②実験内容説明および試薬作成
③浮遊物質量・蒸発残留物，BOD実験説明
④SS・蒸発残留物分析実験
⑤BOD分析実験
⑥リン酸イオン・GC実験説明
⑦リン酸イオン分析実験
⑧GC分析実験
⑨アルカリ度・COD実験説明
⑩アルカリ度分析実験
⑪COD分析実験
⑫アンモニア性窒素・細菌学試験説明
⑬アンモニア性窒素分析実験
⑭細菌学試験
⑮レポート記述、まとめ

環境倫理学

【担当】佐々木　拓
【開講】後期　水４

■サブタイトル
環境問題から学ぶ倫理学

■講義概要
この授業では、環境倫理上の問題を考えることを通じて、倫理学に関する様々な考え方を学習してもらいます。具体的には「人間以外の生物には、人間がもつのと同じような道徳的な価値があるのかどうか」ということを考えながら、倫理学上の基本的な立場や概念、それらに関する様々な論争点を学んでもらいます。 ・例えば、シー・シェパードに関するニュースが年末年始にテレビを賑わせました。彼らの行動をめぐって問題になっているのは、人間と動物との利益の衝突だけでなく、人間同士の価値観が衝突しているという点です。人間同士の価値の対立を正しく評価するためには、そもそも価値（観）とはどういうもので、それを倫理的な（公平な）仕方で考えることがどういうことかを知らなければなりません。本授業ではそういった「倫理的に考える仕方」について論じます。
一言で環境問題といっても、その領域は多岐にわたります。ざっと考えても地球温暖化、人口問題、食糧・水問題、貧困や飢餓の問題、エネルギー問題とさまざまです。いくつかの問題は技術の発展によって解決されると考える人もいますが、われわれの価値観を変えなければ解決できないような問題も沢山あります（上の動物保護の問題はその一つです。彼らの言い分が正しいかどうかはとりあえずおいといて）。この「価値観にかかわる問題」を将来考えなければならない時期がきっと来ます。その時のための基本的な知識を身につけてほしい、というのがこの授業の目的です。
したがって、本講義の重点は「倫理学」の方にあって、歴史的な思想家が環境問題をどのように考えてきたか（いわゆる「環境思想」）の紹介は二次的なものになりますので注意してください（そのような講義内容の授業は他にありますので関心のある学生はそちらを履修してください）。
みなさんにとってあまり身近ではない概念・考え方を扱うので、理解の難しさを感じる学生がいるかと思います。しかし、難しさを感じた時点で立ち止まり、時間をかけて考え直すことも倫理学を学ぶ上で重要な営みです。本授業ではできるだけわかりやすい説明を心がけるつもりですし、みなさんの疑問の解消にも手助けをしたいと思っています。なので、できるだけ疑問は率直に、気軽に表明するよう心がけてください。

■到達目標
1. 倫理学上の基本的立場や基本概念を理解し、説明できる。
2. 環境倫理学上の問題意識を形成する。
3. 特定の環境問題について筋道のある仕方で思考し、それを表現できるようになる。

■講義方法
スライドとレジュメを利用しながら、講義形式で授業を行います。毎回授業後に簡単な小テストを行います。また、アンケートを取りますので、疑問に思った点、わかりにくかった点については積極的に質問ください。レジュメは授業開始時に配布します。

■成績評価の方法
小テスト（50%）　授業時の小テストの点数を評価します。
定期試験（50%）　授業で学習した概念や論点の理解を評価するための試験を行います。

■テキスト
伊勢田哲治　『動物からの倫理学入門』　名古屋大学出版会
2,800円
授業毎に教科書に即したレジュメを配布します。

■参考文献
ジョセフ・R. デ・ジャルダン　『環境倫理学－環境哲学入門』　人間の科学社　2,800円
加藤尚武　『環境と倫理--自然と人間の共生を求めて』　有斐閣アルマ　1,890円
ピーター・シンガー　『動物の解放』　技術と人間社
授業内容の理解を深めるために読んでください。

■講義計画
①倫理学とはどのような学問か
②規範倫理学の基本的原理を学習する（1）功利主義とは何か
③規範倫理学の基本的原理を学習する（2）義務論とは何か
④メタ倫理学上の様々な立場を理解する（1）種差別とメタ倫理学
⑤メタ倫理学上の様々な立場を理解する（2）認知主義
⑥メタ倫理学上の様々な立場を理解する（3）非認知主義
⑦利己主義的な倫理観を論駁する
⑧幸福とは何かを考える
⑨柔らかい倫理から動物の権利を考える（1）徳倫理学と動物の権利
⑩柔らかい倫理から動物の権利を考える（2）ケア倫理学と動物の権利
⑪柔らかい倫理から動物の権利を考える（3）共同体主義と動物の権利
⑫環境倫理学の様々な立場を学習する（1）生態中心主義
⑬環境倫理学の様々な立場を学習する（2）ディープエコロジー
⑭環境倫理学の様々な立場を学習する（3）世代間倫理
⑮全体総括

基礎環境工学

【担当】竺　文彦
【開講】前期　集中

■講義概要
地球環境問題から地域的な公害問題までのさまざまな環境問題に関する工学的あるいは全般的な事項について述べる。上水処理や下・廃水処理のさまざまな技術、大気汚染物、廃棄物などの問題や地球環境問題などについて解説する。
■到達目標
環境問題に対応するための基礎的事項が身につく。
■講義方法
プリント、OHP、パワーポイントなどを使用する。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
■テキスト
石川宗孝　『環境読本』　電気書院　2,500円
■参考文献
合田健（編）『水質工学応用編』　丸善　3,600円
■履修上の注意・担当者からの一言
エコロジー工学の基礎となる科目なので、しっかり学んでほしい。

■講義計画
①環境問題と社会
②地球と自然環境
③水圏
④生態系
⑤地球温暖化
⑥森林破壊
⑦公害問題
⑧大気汚染
⑨水質汚濁
⑩騒音、振動、悪臭
⑪廃棄物
⑫大気汚染対策技術
⑬水質汚濁対策技術
⑭温暖化対策
⑮CSR

群集生態学

【担当】遊磨　正秀、レイ　トーマス，ティン
【開講】後期　月4・火2

■サブタイトル
個体群生態学とのペア講義
■講義概要
人間を含め生物は、地球環境を構成する重要な要素の一つである。しかしながら、近年の環境変化は、多くの生物の生態に多大な影響を及ぼしている。群集生態学は、生物多様性や自然環境の保全について理解するための基礎である。この講義では特に、生物多様性の評価方法、群集組成とその類似度の表現法、具体的な生物群集の散在様式や安定性・脆弱性・栄養塩循環など、生物の群集構造ならびに生態系を理解・評価する原理を学ぶ。
■到達目標
生態系における群集の構造、その成立過程と種内・種間相互作用、および環境から受ける影響について理解する。また、それらを理解するために必要な調査法や解析手法を習得することができる。
■講義方法
板書、パワーポイントなどを利用して講義をする。
■系統的履修
個体群生態学を必ず履修すること。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）　講義に関連する小テストを含む。
定期試験（60%）
■テキスト
資料などは講義時に指示する。
■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
テキストの指定がなく試験問題は講義内容から出題されるので、できるだけ出席すること。
■講義計画
①生物群集の成長：遷移（レイ）
②生物群集の散在様式：植生分布（レイ）
③生物群集の応答：撹乱（レイ）
④生物群集の応答：更新（レイ）
⑤生物群集における捕食者の行動（遊磨）
⑥生物群集における被食者の行動（遊磨）
⑦生物群集における被食回避：色彩擬態（遊磨）
⑧生物群集における被食回避：行動擬態（遊磨）
⑨生物群集における侵入と絶滅（レイ）
⑩生物群集における一次生産（レイ）
⑪生物群集における炭素循環（レイ）
⑫生物群集の多様性評価（遊磨）
⑬生物群集の類似度評価（遊磨）
⑭生物群集の評価の実践（遊磨）
⑮群集生態学のまとめ（遊磨）

行動生態学

【担当】遊磨　正秀
【開講】前期　集中

■講義概要
生物、とりわけ動物が生活するためには、まずは食物を得なければならない。そのために生物はさまざまな技をもち、工夫を凝らしている。一方で、外敵から身を守らねばならず、これにも自然の驚異とも思われるさまざまな工夫が見られる。むろん、同種他種とのさまざまな軋轢を克服するためのしくみも多く見られる。そしてこれらには、私たち人間の暮らしにも共通する行動原理が存在する。このような生物の暮らしぶりを理解するための行動生態学について、さまざまな例を提示しながら解説を加える。

■到達目標
生物の行動を理解する上で欠くことのできない生態学的視点ならびに原理を身につけることができる。

■講義方法
図表や写真、ビデオなどを用い、視覚的に理解しやすい講義を行う。

■系統的履修
進化生態学、個体群生態学など

■成績評価の方法
平 常 点（40%）　受講態度あるいは小テストによる。
定期試験（60%）

■テキスト
特になし

■参考文献
必要なものは講義中に提示する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
随時，相談に応じる。対応可能な時間は学科事務室および研究室に掲示している。

■講義計画
①行動生態学概論
②生物リズムと日長・温度
③捕食者の行動
④動餌探索行動
⑤被植者の行動
⑥生物のだまし色彩（擬態）
⑦生物のだまし行動（擬態）
⑧生物の地理的移動
⑨生物の移動と個体群動態
⑩生物の社会行動（アユのなわばり）
⑪生物の社会行動（タンガニイカ湖のシクリッド）
⑫生物の社会行動（マラウィ湖のシクリッド）
⑬生物の社会行動（協調的関係）
⑭行動の個体差
⑮行動生態学のまとめ

個体群生態学

【担当】レイ　トーマス，ティン、遊磨　正秀
【開講】後期　月4・火2

■サブタイトル
群集生態学とのペア講義

■講義概要
人間を含め生物は、地球環境を構成する重要な要素の一つである。しかしながら、近年の環境変化は、多くの生物の生態に多大な影響を及ぼしている。個体群生態学は、環境の変化に対する生物の応答や自然環境保全との関係について理解するための基礎である。この講義では、生物種集団の基本単位である個体群に焦点をあて、個体群における個体数変動、密度効果、成長モデル、生命表解析・生存曲線、齢構成、繁殖生態、ならびに個体群間関係などの観点から、生物の個体群動態を理解する手法を学ぶ。また地域個体群・メタ個体群の概念についても言及する。

■到達目標
生態系における個体と集団の構造、その成立過程と種内・種間相互作用、および環境から受ける影響について理解する。また、それらを理解するために必要な調査法や解析手法を習得することができる。

■講義方法
板書、パワーポイントなどを利用して講義をする。

■系統的履修
群集生態学を必ず履修すること。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）　講義の内容に関連した小テストを含む。
定期試験（60%）

■テキスト
資料などは講義時に指示する。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
テキストの指定がなく試験問題は講義内容から出題されるので、できるだけ出席すること。

■講義計画
①個体群動態：成長曲線（遊磨）
②個体群動態：密度効果（遊磨）
③個体群動態：大発生（遊磨）
④個体群動態：相変異（遊磨）
⑤個体群特性：生存曲線（レイ）
⑥個体群の成長モデル（レイ）
⑦個体群間相互作用：競争（レイ）
⑧個体群間相互作用：共生（レイ）
⑨個体群間相互作用：種間競争（遊磨）
⑩個体群間相互作用：資源利用（遊磨）
⑪個体群間相互作用：共同（遊磨）
⑫メタ個体群：地域個体群（レイ）
⑬個体群動態：繁殖戦略（レイ）
⑭個体群動態：共生（レイ）
⑮個体群生態学のまとめ（レイ）

資源管理学（2007年度以降入学生）
生物資源管理学（2006年度以前入学生）

【担当】近藤　倫生
【開講】後期　月2

■サブタイトル
生物資源をいかにして利用するか

■講義概要
漁業資源や森林資源といった生物資源は自己増殖する点で非生物資源（例えば化石燃料や水資源）と大きく異なる。本科目ではこのような特徴を持った生物資源を利用する上でどのような問題が生じるか、また、それらの問題が生じる仕組みを講義する。さらに、生物資源を利用・管理する際に必要となる知識と技術の理論的基礎を紹介する。

■到達目標
生物資源を利用・管理するうえで必要な基本的知識の習得。

■講義方法
レジュメとスライドを利用しつつ、それぞれのトピックについて解説する。

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
特になし

■参考文献
松田裕之　『環境生態学序説』　共立出版　2,940円
C. W. クラーク　『生物資源管理論』　恒星社厚生閣　4,410円

■履修上の注意・担当者からの一言
相当量の予習と復習を前提として講義をおこないます。また、それぞれのトピックは互いに密接に関係しているので、本科目を効率的に理解するには全ての講義に出席することが重要です。

■講義計画
①生物資源とは何か？
②生物資源管理の基礎Ⅰ Gordonのモデル
③生物資源管理の基礎Ⅱ 動的Gordonモデル
④生物資源管理の基礎Ⅱ カタストロフ
⑤乱獲の仕組みⅠ 共有地の悲劇
⑥乱獲の仕組みⅡ 割引率
⑦複数魚種の漁業
⑧森林資源の管理Ⅰ 森林資源利用理論の基礎
⑨森林資源の管理Ⅱ ローテーションを考慮に入れる
⑩森林資源の管理Ⅲ ファウストマン式とその限界
⑪生物種の絶滅とレッドデータブックⅠ 生物種の絶滅とその要因
⑫生物種の絶滅とレッドデータブックⅡ レッドリストについて
⑬絶滅リスクの推定方法
⑭複雑な生物群集の管理と生物多様性保全
⑮生態系の複雑性と安定性、予測不可能性

学科固有

資源循環工学

【担当】占部　武生
【開講】前期　木2

■講義概要
循環型社会について考える際、資源循環技術について知るとともに、個別製品等の評価を行っていくことも重要である。本科目では、資源循環に関連する主な要素と、代表的な評価手法であるライフサイクルアセスメント（ＬＣＡ）などについて平易に解説する。

■到達目標
資源循環に係わる知識と、代表的な評価手法であるＬＣＡに係わる基礎的計算能力が取得できる。

■講義方法
資源循環工学の基礎を論述するとともに、適宜具体的な課題演習を行う。

■系統的履修
廃棄物処理、廃棄物施設設計演習

■成績評価の方法
レポート（30%）
定期試験（70%）

■テキスト
足立芳寛他　『環境システム工学－循環型社会のためのライフサイクルアセスメント』　東京大学出版会　2,940円

■参考文献
環境省編　『循環型社会白書』　ぎょうせい　1,600円

■履修上の注意・担当者からの一言
受講の際、関数電卓を持参すること。

■講義計画
①資源循環の動向（日本）
②資源循環の動向（欧米）
③資源循環の動向（アジア）
④マテリアルフローと資源循環指標
⑤ゼロエミッションとエコマテリアル
⑥経済計算
⑦環境ＩＳＯ
⑧資源循環にともなうリスク
⑨ＬＣＡ（評価手法）
⑩ＬＣＡ（原材料）
⑪ＬＣＡ（洗濯機）
⑫ＬＣＡ（アルミ缶の回収の評価）
⑬ＬＣＡ（生活スタイルの評価）
⑭ＬＣＡ（計算ソフト）
⑮まとめ

自然の浄化機構（2007年度以降入学生）
自然浄化機構（2006年度以前入学生）

【担当】竺　文彦
【開講】前期　火4

■サブタイトル
自然水域での浄化と汚染

■講義概要
自然の中では、さまざまな物質が水域へ流入し汚濁が生じている。自然の状態においてもこの汚濁を浄化する作用が存在する。しかし、自然の浄化作用のみでは人工的な汚濁源を除去することは難しく、物理作用、化学作用、生物学的作用を利用しながら、人為的に浄化を行っている。これらの浄化の機構について、基礎的な素反応に分けて理解し、総合として生じる水系内の水質変化を把握する素養を習得することを目指す。

■到達目標
現実には複雑で総合的な現象を基礎的な素反応に分解して把握、理解する。

■講義方法
基本的に板書で講義を進める。

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
特になし

■参考文献
宗宮　功　編著　『自然の浄化機構』　技報堂出版
宗宮　功　編著　『水環境基礎科学』　コロナ社

■講義計画
①水環境汚染とは
②浮遊物質
③溶解性物質
④有機物による汚濁
⑤無機物による汚濁
⑥生物的な指標
⑦微量汚染物質
⑧自浄作用と自濁作用
⑨水の流れと汚染の移動
⑩浄化の素反応　沈澱
⑪浄化の素反応　吸着
⑫浄化の素反応　好気性細菌群
⑬浄化の素反応　通性・嫌気性細菌群
⑭水系全体としての浄化機能の把握
⑮まとめ

学科固有

社会調査法及び実習（2007年度以降入学生）
社会調査実習（2006年度以前入学生）

【担当】柴田　和子
【開講】前期　木1・木2

■講義概要
社会調査法及び実習は、受講生が実際に調査計画を立て、実施し、収集したデータを分析する過程を体験することにより、社会調査への理解を深めることを目的としてしている。
授業は、２時間連続開講であるため、２部形式で行う。まず前半は、講義形式でその時間の実習に必要な基礎知識を説明する。後半は、実際の作業を実習形式で行い、知識を深めていく。実習では、文献資料収集などによるテーマの絞り込み、質問紙の作成、データの集計や解析等の基本的手法について具体的に学習する。受講生の持つ関心、テーマの共通性や共同作業のしやすさなどに考慮しながらグループ分けを行う。

■到達目標
調査方法の基本的な考え方とともに、調査を企画、実施、結果をまとめる実際的な方法を身につける。

■講義方法
原則としてグループ単位で調査項目を考案してもらう。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）　授業への取り組み
レポート（60%）　班単位・個人単位の最終レポート
そ の 他（20%）　パワーポイントによる発表

■テキスト
特になし

■参考文献
酒井隆　『アンケート調査と統計解析がわかる本』　日本能率協会マネジメントセンター　2,100円
谷岡一郎　『データはウソをつく』　筑摩書房　798円
大谷信介・木下英二・後藤範章・小松洋・永野武著　『社会調査へのアプローチ　第２社会調査へのアプローチ　第２版』　ミネルヴァ書房　2,500円

■履修上の注意・担当者からの一言
個人個人がグループ内で積極的に討議しなければ授業は進行しません。授業への積極的参加を望みます。
グループで力をあわせて頑張ってください。

■講義計画
①社会調査とは何か（講義）
　グループ分け（実習）
②テーマの確定（講義）
　グループごとのテーマ検討（実習）
③地図化・文章化（講義）
　グループごとのテーマ検討・KJ法（実習）
④テーマの点検（講義）
　テーマの点検（実習）
⑤質問文作成プロセス（講義）
　調査票作成作業（実習）
⑥サンプリングの理論と実際（講義）
　調査票作成作業（実習）
⑦対象者・調査方法の選定（講義）
　調査票作成作業（実習）
⑧調査票の修正作業（実習）
⑨調査票完成・調査に向けた準備作業（実習）
⑩調査実施（実習）
⑪調査票のデータ化作業（講義）
　データクリーニング・入力（実習）
⑫仮説の検証と統計的検定（講義）
　データの統合（実習）
⑬データの見方・書き方（講義）
　データの分析（実習）
⑭データの分析（実習）
⑮報告会（実習）

社会調査法及び実習（2007年度以降入学生）
社会調査実習（2006年度以前入学生）

【担当】柴田　和子
【開講】前期　木3・木4

■講義概要
社会調査法及び実習は、受講生が実際に調査計画を立て、実施し、収集したデータを分析する過程を体験することにより、社会調査への理解を深めることを目的としてしている。
授業は、２時間連続開講であるため、２部形式で行う。まず前半は、講義形式でその時間の実習に必要な基礎知識を説明する。後半は、実際の作業を実習形式で行い、知識を深めていく。実習では、文献資料収集などによるテーマの絞り込み、質問紙の作成、データの集計や解析等の基本的手法について具体的に学習する。受講生の持つ関心、テーマの共通性や共同作業のしやすさなどに考慮しながらグループ分けを行う。

■到達目標
調査方法の基本的な考え方とともに、調査を企画、実施、結果をまとめる実際的な方法を身につける。

■講義方法
原則としてグループ単位で調査項目を考案してもらう。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）　授業への取り組み
レポート（60%）　班単位・個人単位の最終レポート
そ の 他（20%）　パワーポイントによる発表

■テキスト
特になし

■参考文献
酒井隆 『アンケート調査と統計解析がわかる本』 日本能率協会マネジメントセンター　2,100円
谷岡一郎 『データはウソをつく』 筑摩書房　798円
大谷信介・木下英二・後藤範章・小松洋・永野武著 『社会調査へのアプローチ　第２社会調査へのアプローチ　第２版』 ミネルヴァ書房　2,500円

■履修上の注意・担当者からの一言
個人個人がグループ内で積極的に討議しなければ授業は進行しません。授業への積極的参加を望みます。
グループで力をあわせて頑張ってください。

■講義計画
①社会調査とは何か（講義）
　グループ分け（実習）
②テーマの確定（講義）
　グループごとのテーマ検討（実習）
③地図化・文章化（講義）
　グループごとのテーマ検討・KJ法（実習）
④テーマの点検（講義）
　テーマの点検（実習）
⑤質問文作成プロセス（講義）
　調査票作成作業（実習）
⑥サンプリングの理論と実際（講義）
　調査票作成作業（実習）
⑦対象者・調査方法の選定（講義）
　調査票作成作業（実習）
⑧調査票の修正作業（実習）
⑨調査票完成・調査に向けた準備作業（実習）
⑩調査実施（実習）
⑪調査票のデータ化作業（講義）
　データクリーニング・入力（実習）
⑫仮説の検証と統計的検定（講義）
　データの統合（実習）
⑬データの見方・書き方（講義）
　データの分析（実習）
⑭データの分析（実習）
⑮報告会（実習）

上下水道工学（2007年度以降入学生）
環境水理学及び演習（2006年度以前入学生）

【担当】岸本　直之
【開講】前期　金3

■講義概要
上水道・下水道について仕組みや計画を中心に講述する。

■到達目標
上下水道の仕組みを理解し，計画から運用に至る一連の流れを把握する。

■講義方法
板書を中心に講義を行うとともに、２回の確認テストを実施し，理解度確認と成績評価を行う。

■系統的履修
上下水道の処理についての詳細は「水処理工学」を受講されたい。

■成績評価の方法
小テスト（100%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①ガイダンス 上水道・下水道とは
②水道基本計画（計画給水人口）
③水道基本計画（計画給水量）
④水道水質
⑤水源および取水施設
⑥導水および浄水施設
⑦配水・給水
⑧第1回確認テスト（上水道）・まとめ
⑨下水道計画
⑩計画下水量
⑪下水排水
⑫下水水質
⑬下水処理
⑭汚泥処理・処分
⑮第2回確認テスト（下水道）・まとめ

学科固有

進化学（2007年度以降入学生）
進化生態学（2006年度以前入学生）

【担当】近藤　倫生
【開講】後期　金3

■講義概要
進化は生物を特徴づける最も重要な特徴の一つであり、その理解は生物の関わる様々な事象を洞察するうえで欠かせない。本科目では、(1) 遺伝の仕組みを概説した上で、(2) 生物の進化が起こるメカニズム、(3) 系統進化、(4) 集団遺伝学の基礎、(5) 適応進化に関する諸理論に関して解説する。また、生物群集や生態系レベルでおこっている出来事と生物の進化がどのように関わっているを紹介する。

■到達目標
生物進化のメカニズムとその生態学的帰結に関する基本的事項の理解。

■講義方法
レジュメ、プロジェクタ、板書を併用しつつ、それぞれのトピックについて解説する。

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
講義内容に関する講義中の発言を歓迎します。それぞれのトピックは互いに密接に関係しているので、本科目を効率的に理解するには全ての講義に出席することが重要です。

■講義計画
①進化とはなにか？
②遺伝のメカニズムⅠ セントラルドグマ
③遺伝のメカニズムⅡ 対立遺伝子と遺伝子発現
④集団遺伝学の基礎
⑤系統発生と種分化
⑥自然選択による進化、適応度、最適戦略
⑦進化的に安定な戦略と軍拡競争
⑧男と女はどちらが得かⅠ 性比理論
⑨男と女はどちらが得かⅡ 性転換
⑩性選択
⑪人間に働く性淘汰
⑫性の進化
⑬自己犠牲の進化
⑭変動環境への適応
⑮生命とは何か：科学と非科学のはざま

数学Ⅰ

【担当】山岸　義和
【開講】前期　火5

■講義概要
一変数の微分積分学について講義する。

■到達目標
一変数の微分と積分の意味を理解し、初等関数（指数関数、対数関数、三角関数など）の微分積分の計算ができること。

■講義方法
eラーニングのページを利用してレポート提出を実施する予定。

■成績評価の方法
その他（100%）
（レポートの到達度）×（試験の到達度）の積に基づいて評価する。試験は、小テストと期末試験を実施する予定。

■テキスト
日本数学教育学会TAMS 『ドリルと演習シリーズ微分積分』
電気書院　1,400円

■参考文献
特になし

■講義計画
①数列の極限
②関数の極限
③導関数の計算
④関数の増減、極値、凹凸
⑤曲線の接線、法線
⑥テイラー展開
⑦微分のまとめ
⑧中間試験
⑨中間試験の解説
⑩不定積分
⑪定積分
⑫広義積分
⑬面積
⑭長さ
⑮まとめ

数学Ⅱ

【担当】神　直人
【開講】後期　火4

■サブタイトル
線形代数学
■講義概要
数学の応用に必要な線形代数を基礎的なことから学ぶ。内容としては、行列、ベクトルの演算、行列式、逆行列、さらに固有値・固有ベクトルと応用として漸化式、微分方程式についても解説する。
■到達目標
行列、ベクトルを計算の対象としてのみ見るのではなく、その奥に秘められた様々な関係、多くの分野との関係に気づく。
■講義方法
講義形式で行うが、線形代数学は自ら手を動かして計算しないと身につかない面も多いので、できるだけ演習問題もとり入れる。
■成績評価の方法
小テスト（20%）
定期試験（80%）
■テキスト
裕文夫 『理工系の線形代数』 培風館　1,700円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
計算ばかりにとらわれることなく、全体像を見る努力をしましょう。プリントも配布するので、授業中はノートを取ることに集中せずに話をよく聞くこと。

■講義計画
①オリエンテーション
②行列とは
③連立方程式
④逆行列
⑤基本行列
⑥行列式
⑦行列の基本変形
⑧余因子行列
⑨１次独立
⑩固有値と固有ベクトル
⑪行列の対角比
⑫行列の応用：行列のべき乗
⑬行列の応用：漸化式
⑭行列の応用：線形微分方程式
⑮行列の応用：まとめ

学科固有

数学Ⅲ

【担当】神　直人
【開講】前期　火3

■サブタイトル
複素解析学
■講義概要
複素数の微分積分学を学ぶ。応用として２次元流れの解析を目指す。
■到達目標
実関数の微分積分学の理解が深まる。数でありながら、ベクトル、行列という面も併せもつ複素数の便利さが理解できる。
■講義方法
講義形式で行なうが、理解を深めるために随時演習を行なう。
■成績評価の方法
小テスト（20%）
定期試験（80%）
■テキスト
長崎憲一他 『明解　複素解析』 培風館　1,400円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
複素数の微積分では、関数を理解するのにグラフではなく、写像としての面を強調する。「関数＝グラフ」の先入観を持たないでほしい。

■講義計画
①複素数
②複素数平面
③複素関数
④正則関数
⑤初等関数の例
⑥複素積分：多項式関数
⑦複素積分：有理関数
⑧実積分への応用：有理関数の広義積分
⑨実積分への応用：三角関数
⑩流体力学への応用：湧き出し・渦がない場合
⑪流体力学への応用：湧き出し渦がある場合
⑫等角写像：１次分数関数
⑬等角写像：初等関数
⑭留数定理
⑮応用に関するトピックス

数学序論

【担当】荒井　徳充
【開講】前期　金３

■サブタイトル
高校数学から大学の数学へ
■講義概要
高校数学の微積分をできるだけ系統的に説明し、そこにいくつかのトピックをつけ加えることで大学で学ぶ数学への橋渡しを行う。これまで学んできた数学がどのように大学の数学へつながっていくのか。また、数学を「理解する」とはどういうことなのか。ひとりひとりが数学に対する苦手意識を手放すことで自らその「答え」を見いだし、「数学のセンス」を磨いていくことを目標としたい。
■到達目標
多変数関数の微積分を理解するための土台をつくる。
■講義方法
あらかじめ実施される確認試験の結果、受講者を選出する予定である。したがって、受講を希望する者は必ず確認試験を受けること。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
■テキスト
特になし
■参考文献
高校の数学の教科書
■履修上の注意・担当者からの一言
高校数学の内容を十分に復習しておくこと。
■講義計画
①オリエンテーション
②関数の定義、合成関数、逆関数
③関数の連続性、中間値の定理
④導関数の定義、積・商の微分法
⑤合成関数の微分法、逆関数の微分法
⑥三角関数、逆三角関数
⑦指数・対数関数
⑧第２次導関数、高次導関数
⑨微分のまとめ（演習と補足）
⑩積分の定義、リーマン和
⑪微積分の基本定理
⑫置換積分
⑬部分積分
⑭面積と体積
⑮総合演習

学科固有

数理生態学（2007年度以降入学生）
環境モデリング及び演習（2006年度以前入学生）

【担当】近藤　倫生
【開講】後期　月５

■サブタイトル
数理モデルを利用した理論生態学
■講義概要
複雑なシステムの振る舞いを直観のみに頼って理解するのには限界がある。数学的な言葉で記述された理論モデル（数理モデル）は、このような場面において極めて有効なツールとなりうる。本科目では生物の個体群動態を例にとり、数理モデルを用いて現象を記述し解析する方法を学ぶ。個体群生態学、群集生態学における基礎理論も合わせて講義する。
■到達目標
数理モデルを利用する際に不可欠な基礎的知識と技術、さらに生態学の基礎理論を身に付ける。
■講義方法
レジュメを用いた基本的事項の解説と演習を有機的に組み合わせて授業を進める。
■成績評価の方法
小テスト（50%）
定期試験（50%）
■テキスト
特になし
■参考文献
寺本英　『数理生態学』　朝倉書店　4410円
■履修上の注意・担当者からの一言
講義内容に関する講義中の発言を歓迎します。それぞれのトピックは互いに密接に関係しているので、本科目を効率的に理解するには全ての講義に出席することが重要です。TAによるサポートを受けられますが、新しい技術や発展的な内容を数多く含んでいるため、受講に際しては十分な自習（予習・復習）が求められます。また、レジュメ等関連資料が、ホームページでダウンロードできますので活用して下さい。
■講義計画
①数理モデルとはなにか
②密度効果
③カオス
④演習１ 第１回から３回までの講義分
⑤演習１ 解答解説
⑥齢構造を考慮したモデルⅠ レスリー行列
⑦齢構造を考慮したモデルⅡ 安定齢分布
⑧連続時間のモデル
⑨メタ個体群モデル
⑩演習２ 第６回から９回までの講義分
⑪演習２ 解答解説
⑫ゼロアイソクライン解析
⑬局所安定性解析
⑭どんな病気が流行するか：伝染病のモデル
⑮総合演習

生態学演習

【担当】レイ　トーマス，ティン、近藤　倫生
【開講】後期　集中

■講義概要
生態学おける研究推進の基本的方法について学ぶとともに、研究成果発表の方法を習得する。特別研究のテーマとして生態学を選択する学生を対象に授業をすすめる。
■到達目標
生態学おける研究推進の基本的方法について学ぶとともに、研究成果発表の方法を習得する。特別研究のテーマとして生態学を選択する学生を対象に授業をすすめる。
■講義方法
生態学研究に関する実際のデータや課題が与えられるので、これらを利用して、仮説の構築、実験方法のデザイン、データ解析といった個々の具体的問題に取り組む。
■系統的履修
生態学概論、保全生態学、個体群生態学、群集生態学、進化学
■成績評価の方法
平 常 点（50%）
レポート（50%）
■テキスト
プリントを配布する
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
この演習は発表された科学研究の価値とその善し悪しを評価するための目を養うための訓練でもあります。積極的な発言とディスカッションを期待します。

■講義計画
①ガイダンス
②科学とは何か
③フィールドでの観察
④正しい問題設定
⑤仮説の構築
⑥どうすれば仮説をテストできるか
⑦実験のデザイン（ランダマイゼーション、繰り返し、野外実験と操作実験）
⑧現場で使える統計と検定１ 基礎概念
⑨現場で使える統計と検定２ 仮説検定
⑩現場で使える統計と検定３ 回帰、相関
⑪現場で使える統計と検定４ 分散分析
⑫実験データ分析
⑬実験結果グラフ化、解析
⑭発表会－グループ１
⑮発表会－グループ２

学科固有

生態系生態学

【担当】宮浦　富保
【開講】後期　木１

■講義概要
生態系生態学では、生物による有機物生産や生態系内での物質・エネルギーの流れに重点をおいている。生物が関与する物質やエネルギーの動きと、これらに影響する要因を把握することにより、種々の環境問題についての理解が深まると期待される。「生態系」という言葉はいろいろな場面で用いられているが、漠然と「自然」とか「環境」のことを指している場合が多い。「生態系」とは何かということを、「生態系生態学」を通して理解していただきたい。
■到達目標
自然界における物質やエネルギーの流れの概略と、これに関与する生態学的現象を理解する。
■講義方法
基本的に「板書」によって講義を進める。「小テスト」を行うことによって、理解の定着を図る。
■成績評価の方法
小テスト（50%）
定期試験（50%）
■テキスト
特になし
■参考文献
日本生態学会 『生態学入門』 東京化学同人　2,800円
ベゴン、ハーパー、タウンゼンド 『生態学：個体・個体群・群集の生態学』 京都大学学術出版会　12,000円

■講義計画
①生態学における生態系生態学の位置
②生態系における生産
③環境と生物の生産 (1) 地球の歴史と進化
④環境と生物の生産 (2) 気候と生物
⑤生物相の特徴と生物の生産
⑥環境条件の分類と特徴【小テスト１】
⑦生物にとっての資源 (1) 太陽放射
⑧生物にとっての資源 (2) 水と光合成
⑨生物にとっての資源 (3) 資源の分類
⑩生態系におけるエネルギーの流れ (1) 地球上の一次生産量
⑪生態系におけるエネルギーの流れ (2) 生産力を制限する要因
⑫生態系におけるエネルギーの流れ (3) 森林内でのエネルギーの動き
⑬生態系における物質の流れ (1) 生物地球化学的循環
⑭生態系における物質の流れ (2) 陸上群集からの栄養塩流出【小テスト２】
⑮生活との関わり

生態工学（2007年度以降入学生）
ミティゲーション論A（2006年度以前入学生）

【担当】横田　岳人、遊磨　正秀
【開講】後期　月3

■サブタイトル
自然環境の保全・復元技術

■講義概要
自然環境保全のための理念や法制度について概観し、自然環境の保全・復元のために必要な生態系の成立基盤について学ぶ。その後、ビオトープや河川・湖沼の環境修復技術、原生的自然の再生や里山環境の復元・創出等の具体的事例を通して、自然環境保全に必要な知識と考え方を講義する。

■到達目標
自然環境に対して人間が関与する時の基本的な心構え、生き物の保全と人の暮らしの調和の考え方、自然修復の手法などの知識が身に付く。

■講義方法
２名の講師で分担して講義を行う。授業は講義形式で、講義に必要な資料等は、適宜配布・紹介する。

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①生態工学の考え方（イントロダクション）
②自然環境保全の考え方（国内法と関連する条約）
③自然環境保全の考え方(環境アセスメントとミティゲーション)
④流域生態系の成立基盤と環境（河川環境）
⑤流域生態系の成立基盤と環境（護岸）
⑥流域生態系の成立基盤と環境（ダムと堰堤）
⑦流域生態系の成立基盤と環境（水田環境）
⑧陸上生態系の成立基盤と環境（植物群集）
⑨陸上生態系の成立基盤と環境（土壌）
⑩陸上生態系の成立基盤と環境（緑化）
⑪自然再生事業
⑫里山の復元と創出
⑬ビオトープ論
⑭圃場整備と生物多様性
⑮河川環境の復元と創出

学科固有

生物学序論

【担当】横田　岳人
【開講】前期　火4

■サブタイトル
高校生物のリメディアル

■講義概要
高等学校で学ぶ生物学の中から、大学での生物系科目履修に必要な基礎を学ぶ。「生命の連続性」「環境と生物の反応」「生命現象と物質」「生物の進化と分類」の分野を重点的に講義し、大学での生物学的科目履修への橋渡しをする。高等学校生物Ⅰ、Ⅱ全般にわたって講義するが、生物Ⅱの「進化と分類」は進化学で、生物Ⅰ全般と生物Ⅱ「生命現象と物質」の分野は生物学概論Ⅰ・生物学概論Ⅱで重点的に扱われる。生物Ⅱの「生物の集団」分野は生態学概論で同時期に講義されるため扱わない。

■到達目標
生物学を履修するのに必要な用語を理解し、大学での生物学修得の準備をする。

■講義方法
高校生物の重点用語の解説を中心に講義形式で授業を行う。講義後半に小テスト（確認テスト）を行い、講義の理解を深める助けとする。

■系統的履修
生物学概論Ⅰ、生物学概論Ⅱ、生態学概論、進化学

■成績評価の方法
小テスト（50%）
レポート（50%）

■テキスト
特になし

■参考文献
吉田邦久他　『生物用語集』　駿台文庫　1,000円
石川 統 編　『生物学』　東京化学同人
栃内新･左巻健男　『新しい高校生物の教科書』　講談社ブルーバックス　1,200円

■履修上の注意・担当者からの一言
高校在学時に生物を学習しなかった人は受講するようにして下さい。

■講義計画
①生命の単位－細胞
②細胞への物質の透過／細胞の増殖
③生殖／有性生殖の過程
④発生とそのしくみ
⑤遺伝の法則／遺伝子と染色体
⑥遺伝子の本体
⑦遺伝情報とタンパク質の合成／形質発現のしくみ
⑧刺激の受容／神経系
⑨動物の反応／体液とその恒常性
⑩環境と植物の反応
⑪化学反応と酵素
⑫同化と異化
⑬タンパク質の機能
⑭生物の進化
⑮生物の系統と分類

生物多様性実習（2007年度以降入学生）
生物多様性実習A（2006年度以前入学生）

【担当】宮浦　富保、遊磨　正秀、名倉　京子
【開講】前期　金3・金4・金5

■講義概要
生態学系の環境科学では、生物多様性の理解が基本となる。この実習では、比較的身近にある自然環境を対象に、そこに生息する動植物の多様性について、その観察方法の初歩を体験的に学習する。

■到達目標
野外での生物現象の観察の基本を身につけることができる。動植物の分類や標本作成法、顕微鏡や測定機器等の使用法、ならびに生物多様性の解析法の基本を体得できる。

■講義方法
実習は、４つの小グループにわかれて順次すべての実習テーマを受講する。実習テーマごとにレポートを提出する。

■成績評価の方法
平 常 点（40%） 実習参加状況による
レポート（40%）
そ の 他（20%） 実習態度による

■テキスト
必要に応じてプリントを配布する

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
基本的に実習は野外で行う。野外活動できる服装を準備すること。
野外での実習には，思いがけない危険が伴う。別途配布している「安全の手引き」を熟読し、指導者の指示に従うこと。また、実習内容によって集合時間や場所が変わることがあるので、事前の掲示等には十分注意すること。

■講義計画
①ガイダンス（遊磨ほか）
②陸上動物（昆虫）の観察と分類(1)野外調査（遊磨ほか）
③陸上動物（昆虫）の観察と分類(2)標本作成（遊磨ほか）
④陸上動物（昆虫）の観察と分類(3)解析（遊磨ほか）
⑤水生生物の観察と分類(1)野外調査（山中ほか）
⑥水生生物の観察と分類(2)標本作成（山中ほか）
⑦水生生物の観察と分類(3)解析（山中ほか）
⑧森林群集の測定方法(1)野 外 調 査（宮浦ほか）
⑨森林群集の測定方法(2)データ集計（宮浦ほか）
⑩森林群集の測定方法(3)解析（宮浦ほか）
⑪草本群集の測定方法(1)野 外 調 査（名倉ほか）
⑫草本群集の測定方法(2)同定（名倉ほか）
⑬草本群集の測定方法(3)解析（名倉ほか）
⑭野外調査法のまとめ（遊磨ほか）
⑮生物多様性解析法のまとめ（遊磨ほか）

学科固有

生理生態学（2007年度以降入学生）
生物の環境応答（2006年度以前入学生）

【担当】レイ　トーマス，ティン
【開講】前期　火2

■講義概要
地球上には、幅広い生息地に形や機能が異なる種が多様に存在する。海底火山周辺に住む硫黄バクテリアから北極のシロクマまで、生物はそれぞれの天然分布域の環境で生残し繁殖するのに適した特性を進化させてきた。生物が生存できるかどうかは、それらが形態的、生理的にどのように成り立ち、どんな相互作用をもち、どのように周りの環境に反応しているかに依存している。これらに関する分野が、生理生態学である。このコースでは、植物と動物のガス交換やエネルギー収支などの主要な機能プロセスについて説明し、光や気温、湿度、養分などの環境条件によって分布域がどのように制限されているかをみていく。地球上の長い進化の過程で、環境ストレスに耐え、適応することのできた生物は生き残り、耐えられなかったものは絶滅してきた。この授業では、植物や動物が環境ストレスにどのように対処しているのかを学ぶ。

■到達目標
地球上に存在する生物の多様な生理生態特性とその機能について理解し、環境の様々なストレスに対し生物はどのように適応しているのか、その基礎的メカニズムを習得する。

■講義方法
板書、パワーポイントなどを利用して講義をする。

■成績評価の方法
小テスト（40%） 中間テスト
定期試験（60%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①ガイダンス・生物の生理生態特性と環境適応
②動植物のガス交換（概観）
③動植物のガス交換（メカニズム）
④エネルギーの生産と消耗（同化作用）
⑤エネルギーの生産と消耗（異化作用）
⑥高温（火）と生物
⑦暗い環境での生存
⑧中間テスト
⑨乾燥への適応
⑩塩分と生物
⑪栄養分と生物
⑫光合成系と環境適応
⑬寒冷と凍結
⑭酸素不足への適応
⑮まとめ

セミナーⅠ (2007年度以降入学生)
セミナー (2006年度以前入学生)

【担当】浅野 昌弘、市川 陽一、占部 武生、菊池 隆之助、岸本 直之、近藤 倫生、竺 文彦、丸山 敦、宮浦 富保、遊磨 正秀、横田 岳人、レイ トーマス,ティン

【開講】前期 木1

■講義概要
本セミナーは配属された研究室において、小グループを対象として行われる。担当教員の指導により、輪読や演習などの形式で特別研究に関連した最近の論文（和文および英文）の紹介等をおこなう。また各自の研究の進行状況についても報告するなど、発表・討論を通じて特別研究を遂行するための専門分野の知識をいっそう深め、科学系技術者としての資質を高めるものである。

■到達目標
特別研究を遂行するために必要な基礎的、あるいは専門的知識を深め、研究方法論を修得することである。

■講義方法
各担当教員ごとに異なるが、セミナー形式などがとられる。

■成績評価の方法
毎回の発表、質問状況、レポート、宿題、小テストなどの結果により、総合的に判定される。

■テキスト
必要に応じてプリントを配布する

■参考文献
特になし

■講義計画
配属された研究室ごとで、担当教員の指導により輪読、演習、発表などの形式で特別研究に関連した内容について学修する。

学科固有

セミナーⅡ (2007年度以降入学生)

【担当】浅野 昌弘、市川 陽一、占部 武生、菊池 隆之助、岸本 直之、近藤 倫生、竺 文彦、丸山 敦、宮浦 富保、遊磨 正秀、横田 岳人、レイ トーマス,ティン

【開講】後期 水3

■講義概要
本セミナーは配属された研究室において、小グループを対象として行われる。担当教員の指導により、輪読や演習などの形式で特別研究に関連した最近の論文（和文および英文）の紹介等をおこなう。また各自の研究の進行状況についても報告するなど、発表・討論を通じて特別研究を遂行するための専門分野の知識をいっそう深め、科学系技術者としての資質を高めるものである。

■到達目標
特別研究を遂行するために必要な基礎的、あるいは専門的知識を深め、研究方法論を修得することである。

■講義方法
各担当教員ごとに異なるが、セミナー形式などがとられる。

■成績評価の方法
毎回の発表、質問状況、レポート、宿題、小テストなどの結果により、総合的に判定される。

■テキスト
必要に応じてプリントを配布する

■参考文献
特になし

■講義計画
配属された研究室ごとで、担当教員の指導により輪読、演習、発表などの形式で特別研究に関連した内容について学修する。

測量学及び実習

【担当】井上　均
【開講】前期　水３・水４

■講義概要
地球表面上の諸点間の距離や高低差、それらの点を結ぶ線の方向を測定する基本技術を修得するために、距離測量や水準測量の原理、角測量や平板測量、地形測量について実習を併用しながら学習する。また、リモートセンシング（RS）や地理情報システム（GIS）および汎地球測位システム（GPS）などの技術を理解し、実社会での応用局面を学ぶ。

■到達目標
地形や目的に応じた測量方法の理解と制度の高い位置情報や地図データについてプレゼンテーションができるようになる。

■講義方法
講義と実習を組み合わせて行う。実習はグループごとに実施し、レポートを提出する。
天候によっては講義の内容を組み替えることがある。

■成績評価の方法
平 常 点（60%）
レポート（40%）
受講状況、課題･実習レポート、実習態度を総合的に評価する。
平常点60点、課題・実習レポート40点

■テキスト
講義前にテキストを配付する。

■参考文献
森忠次 『測量学１・２』 丸善　7,000円
細川吉晴他 『よくわかる測量実習（増補）』 コロナ社　2,700円

■履修上の注意・担当者からの一言
グループで実習するので、協調性を保ちつつ、積極的に技術を修得してもらいたい。受講生は、電卓（三角関数機能をもつ１０桁表示）を準備すること。

■講義計画
①測量学概論、ガイダンス
②距離測量、誤差論（1）
③平板測量
④平板測量、地形測量
⑤水準測量
⑥水準機による断面測量
⑦GPS測量
⑧GPS測量、リモートセンシング
⑨トラバース測量、誤差論（2）
⑩トラバース測量
⑪写真測量、地形測量
⑫デジタルカメラによる写真測量
⑬レーザースキャナーによる３Ｄ計測
⑭地理情報システム（GIS）概論
⑮測量技術の応用と展開

学科固有

大気環境工学

【担当】市川　陽一
【開講】前期　木５

■サブタイトル
大気環境に係わる基礎となる知見、技術

■講義概要
自動車排ガスによる沿道大気汚染、粒子状物質やオキシダントなどの越境汚染、都市と地球の温暖化など大気環境に係わる様々の問題がある。本講義では、大気環境問題の原因となる物質の環境動態を理解する上で必要な大気の構造や気象、環境計測技術、解析手法について講述する。また、原因物質の環境への排出を防止、緩和するための技術について工学的な観点から解説するとともに、政策、制度面からの取り組みについても述べる。

■到達目標
大気環境問題を考える上で必要となる知識と基盤技術について網羅的に修得する。

■講義方法
講義を基本とするが、理解の程度を確認するため質問、意見聴取を行う。

■系統的履修
環境工学基礎実習「煙の移流と拡散」の科学的裏付けを行う。
地球環境概論から発展する。
環境計測学、環境アセスメント及び演習に展開する。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）　講義内容の確認
定期試験（70%）　講義内容の理解

■テキスト
特になし

■参考文献
岡本・市川 『環境学概論（第2版）』 産業図書　2,600円

■講義計画
①世界の大気環境問題の変遷
②日本の大気環境問題の変遷
③大気汚染物質
④大気の構造と気象
⑤大気の安定度
⑥煙の移流、拡散
⑦大気環境の調査
⑧大気環境の予測
⑨大気環境の影響評価
⑩大気環境の保全技術
⑪都市環境
⑫越境大気汚染
⑬地球温暖化
⑭低炭素技術
⑮まとめ

地域環境管理

【担当】市川　陽一
【開講】後期　集中

■サブタイトル
環境影響評価、都市計画
■講義概要
事業の実施や都市計画の策定にあたって、環境に配慮して地域管理を行うことは大切である。本講義では、計画段階から事業計画における環境影響評価やコミュニケーション、合意形成のあり方について講義を行う。また、講義内容の理解を深めるための課題を遂行する。
■到達目標
環境影響評価のフローについて修得する。
■講義方法
受講者との対話をもとに理解度を確認しながらレポート課題に取り組む。
■成績評価の方法
平 常 点（50%） 授業への取り組み
レポート（50%） 講義内容の理解度
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし

■講義計画
①環境と地域計画
②環境アセスメント
③計画段階の環境影響評価
④事業段階の環境影響評価
⑤事業特性に関する課題設定
⑥事業特性に関する課題討論
⑦環境影響調査と予測
⑧環境影響調査、予測に関する事例検討
⑨地域特性に関する課題設定
⑩地域特性に関する課題討論
⑪環境影響評価項目に関する課題設定
⑫環境影響評価項目に関する課題討論
⑬環境影響調査、予測に関する課題設定
⑭環境影響調査、予測に関する課題討論
⑮まとめ、レポート講評

学科固有

統計学概論

【担当】占部　武生、横田　岳人
【開講】後期　水2

■講義概要
環境事象を具体的・定量的に把握するには、大量のデータや様々な誤差を含んだデータを処理し、そこから意味のある情報を引き出す必要がある。このときに統計手法を用いる。
本科目では、目的に応じて統計量を選定し、現象の特性把握をする上で必修となる統計理論の基礎を講述し、演習を実施して理解を深める。
■到達目標
記述統計学の基本を習得し、統計的推定・検定の考え方を理解する。
■講義方法
統計理論の基礎を講述し、各回の講義後半に当日の講義内容に関する課題演習を行う。
■成績評価の方法
中間確認試験（８回目に１ ～ ７回の講義分） 50%
定期試験（９ ～ １５回の講義分） 50%
■テキスト
片谷教孝、松藤敏彦 『環境統計学入門』 オーム社 2,500円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
受講に際して関数電卓を準備すること（必須）。

■講義計画
①記述統計（度数分布とヒストグラム）
②記述統計（平均・分散・標準偏差）
③記述統計（相関係数、回帰分析）
④確率分布（正規分布、データの標準化）
⑤確率分布（ｔ分布、χ２分布、Ｆ分布）
⑥統計的推定（母平均の区間推定）
⑦統計的推定（母分散の区間推定）
⑧中間確認試験（１ ～ ７回の分）
⑨統計的検定（母平均の検定）
⑩統計的検定（母平均の差の検定）
⑪統計的検定（母分散の検定）
⑫統計的検定（母分散の差の検定）
⑬統計的検定（相関係数の検定）
⑭統計的検定（適合度の検定）
⑮統計的検定（分散分析）

特別研究

【担当】全教員
【開講】通年　集中

■講義概要
４年次までに学科の教員の研究室に配属され、指導教員による個別の指導の元に、１年間を通して特別研究をおこなう。これは３年次までに修得した基礎学力の上に立って、特定の研究テーマについて自主的に研究を実施し、その成果を卒業論文にまとめたうえで、さらに口頭発表をおこなうものである。研究テーマは指導教員と学生との相談により決定される。特別研究のテーマは、３年次までの学生実験等のテーマと異なり、結果はもとより、その研究の方法論すら明確ではない未知のテーマに挑戦することがあると､肝に銘じておく必要がある。

■到達目標
履修した科目の応用能力を高め、新しい未知のテーマに挑戦して自主的に勉学し、研究成果を論文にまとめ、さらに口頭で発表する能力を養成することである。

■講義方法
指導教員との個別ゼミ、研究室単位でのゼミなどを通じて、自らの研究テーマについて取り組み、取りまとめていく。

■成績評価の方法
日常の取組み姿勢、研究結果に対する掘り下げ、論文内容、発表等により総合的に評価される。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
研究テーマについて指導教員と相談して決定し、その目標に向かって研究を遂行する。逐次、進行状況について指導教員に、あるいは研究室セミナーなどで発表し、指導、コメント、討議などを通して進めていく。

学科固有

特別講義

【担当】竺　文彦、須藤　明子、武田　繁、中山　明、仁連　孝昭、堀井　安雄、宮浦　富保、村上　宣雄、村田　弘司、村長　昭義、井狩尊二郎、岡本陸奥夫
【開講】後期　水２

■サブタイトル
人間環境と自然を考える（リレー講義）

■講義概要
地球規模の環境問題がこれからの我々の社会的な課題であるが、具体的には里山や琵琶湖など身近な自然と人間がどのように付き合っていくかが重要である。本講義においては、滋賀県を中心に自然を観察したり、環境改善技術の開発を進めたりしている外部の方々にリレー講義で紹介していただき、現場の生の声を聞かせていただく。

■到達目標
具体的な研究、企業での仕事、映像、市民活動、環境技術などにふれることができる。

■講義方法
スライド、資料などを用いる。

■成績評価の方法
レポート（100%）

■テキスト
特になし

■参考文献
講義時に紹介

■履修上の注意・担当者からの一言
自然と人間との付き合い方を考えてほしい。

■講義計画
①琵琶湖の魚から身近な環境を考える　武田　繁・宮浦富保
②地域の河川の魚から身近な環境を考える　武田　繁
③琵琶湖流域下水道の高度処理　中山　繁
④大津の環境　岡本陸奥夫
⑤行政における環境対策　岡本陸奥夫
⑥自然観察　村長昭義
⑦自然観察　村上宣雄
⑧滋賀県の自然　村上宣雄
⑨イヌワシの生態と生息地環境保全　須藤明子
⑩琵琶湖のカワウの保護管理　須藤明子
⑪エコ村　仁連孝昭
⑫生ゴミ堆肥化　井狩専二郎
⑬廃棄物埋立　堀井安雄
⑭浸出水処理　堀井安雄
⑮環境分析と企業　村田弘司

都市環境施設実験Ａ

【担当】岸本　直之
【開講】前期　火３・火４・火５

■講義概要
本科目では、都市環境を適切に維持するために設けられている施設について理解し、その技術的基礎を習得することを目的としている。そのため、環境工学に関連の深い、物理的、化学的および生物学的な諸プロセスにかかる操作単位について基礎的なプラント実験を実施する。

■到達目標
環境分析の操作とプラント運転の基礎を身につけることができる。

■講義方法
実習内容について講述した後、実際にプラント実験・実習を行う。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）　取り組み
レポート（70%）　レポート内容

■テキスト
環境ソリューション工学科編『都市環境施設実験A実験指導書』
テキストは、講義時に配付します。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
受講に際して実験用白衣・保護眼鏡・記録用ノート・計算機などを用意すること。

■講義計画
①ガイダンス
②実験説明（凝集）
③実験説明（沈降特性）
④実験説明（急速ろ過）
⑤実験説明（総括酸素移動容量係数）
⑥実験説明（活性汚泥による基質除去）
⑦実験説明（活性汚泥の沈降性と糸状性細菌長の計測）
⑧実験説明（嫌気性消化）
⑨実験（凝集）
⑩実験（沈降特性）
⑪実験（急速ろ過）
⑫実験（総括酸素移動容量係数）
⑬実験（活性汚泥による基質除去）
⑭実験（活性汚泥の沈降性と糸状性細菌長の計測）
⑮実験（嫌気性消化）

都市環境施設実験Ｂ

【担当】占部　武生、市川　陽一、菊池　隆之助
【開講】前期　月３・月４

■講義概要
本科目では、都市環境を適切に維持するために設けられた廃棄物処理施設、大気環境保全施設等について理解し、その技術的基礎を習得することを目的とする。そのため、関連の深い諸プロセスの基礎的な実験を実施する。

■到達目標
廃棄物処理、大気環境保全分野の講義・演習の理解が深まるとともに、関連分野の調査・分析の操作と単位操作の基礎を身につけることができる。

■講義方法
実験指導書に基づいて解説を行った後、教員、ティーチングアシスタント（T. A.）の指導のもとに、小グループに分かれて実験を行う。結果はレポートにまとめて提出する。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）　取り組み
レポート（70%）　レポート内容

■テキスト
環境ソリューション工学科編　『都市環境施設実験B－実験指導書』

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
あらかじめ実験指導書を熟読し、安全に注意すること。

■講義計画
①ガイダンス、説明（２回分）
②施設見学（ガス化溶融炉）
③実験・測定内容の説明（５回、６回分）
④実験・測定内容の説明（７回、８回分）、前準備
⑤燃焼実験
⑥熱しゃく減量および粒径分布の測定
⑦大気中浮遊粒子の計測
⑧廃棄物の含有量試験
⑨実験・測定内容の説明（１０回、１１回分）
⑩ごみ組成調査
⑪廃家電・電子機器の解体調査および定性分析
⑫実験・測定内容の説明（１３回、１４回分）
⑬資源化選別実験
⑭施設見学（産業廃棄物埋立処分場）
⑮予備日（レポート説明）

廃棄物工学（2007年度以降入学生）
廃棄物処理（2006年度以前入学生）

【担当】菊池　隆之助
【開講】後期　月2

■講義概要
廃棄物の種類や処理・処分や問題点などを循環型社会や適正方策の観点から論じる。

■到達目標
廃棄物やその工学処理に関する基本的な知識を習得することを目標とする。

■講義方法
廃棄物工学の基本事項を論述するとともに、具体的な演習・課題を行い理解を深める。

■成績評価の方法
平 常 点（25%）　受講態度、適時行う記述式設問への解答・理解度
小テスト（35%）　モジュール式評価として授業中に小テストを行う。
定期試験（40%）　論述試験を行う
評価配点の割合（%）は暫定的であり、授業の進捗具合や学生の理解度に応じて若干変更する場合がある。

■テキスト
田中信寿 『リサイクル・適正処分のための廃棄物工学』 オーム社　2,940円
授業中は特に資料の配布などは行わないので、テキストの持参は必須となる。

■参考文献
福本　勤 『廃棄物処理工学』 朝倉書店　6,500円
本参考書はあくまでも副教材として推奨する。

■履修上の注意・担当者からの一言
毎回、授業中で平常点やミニテストなどの評価を行うので、授業への積極的参加が重要となる。

■講義計画
①序論：授業指針、廃棄物やリサイクルの俯瞰
②法律や措置：廃棄物処理法やリサイクル法
③循環と処分：廃棄物の現状やリサイクルの例
④分析・測定：物理特性や化学特性
⑤処理計画・実施：計画とその評価、分別や収集
⑥燃焼工学の基礎
⑦焼却炉の種類と構造
⑧燃焼と資源化：資源化とサーマルリサイクル
⑨埋め立てに関する基礎知識
⑩埋め立て処分場の管理と構造・機能
⑪造成処分場の施設全般
⑫処分場の維持：搬入、モニタリング、保守・点検
⑬プラスチック廃棄物：各種のリサイクル技術
⑭粗大ゴミと生ゴミ：リサイクルや適正処分法
⑮有害廃棄物：特性と管理やその具体例

学科固有

博物館実習

【担当】遊磨　正秀、横田　岳人
【開講】通年　土4

■講義概要
博物館活動は、博物館資料とともに、それを整理および取り扱う技術や展示技術などの多様な活用技術があって、初めて確立される。その目的は博物館だけのものではなく、博物館を活用する利用者の立場のものでなくてはならない。そのためには、博物館の中心である学芸員には、保存技術や学習プログラム、そして情報処理などの現代博物館の課題である先進的な技術の習得が求められている。このような多種多様な博物館業務や博物館運営について学習し、博物館学芸員として視野を広げるとともに、必要な知識を学ぶ。なお、夏期休暇中などに、学外の博物館等において実地研修をうけることが必要。

■到達目標
博物館活動の事例や課題にふれながら、実際に資料の取扱いや資料カード作り、そして展示技術などを習得する。これにより、必要な理念や基礎的な技術の習得を図ることで、社会に対応できる学芸員の養成に資することを目標とする。

■講義方法
予備登録が必要（受講申込と選考を行うので別途掲示の指示に従うこと）。
履修登録資格（履修要項参照）がある。
夏期休暇中などに、実地研修（学外博物館など）が必須。
実習だけでなく、博物館施設などでの学外見学もできるかぎり行う。
※実習費１万円と学外見学の交通費・宿泊費は基本的に自己負担。

■成績評価の方法
平 常 点（80%）
レポート（20%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①オリエンテーション
②博物館の機能
③博物館の実務
④自然史資料の展示と活用（植物）
⑤自然史資料の展示と活用（動物）
⑥自然史資料の展示と活用（化石）
⑦自然史資料の取り扱い（分類）
⑧自然史資料の取り扱い（同定）
⑨自然史資料の取り扱い（乾燥標本）
⑩自然史資料の取り扱い（液浸標本）
⑪収蔵方法の見学実習
⑫展示方法の見学実習
⑬実地研修事前指導
⑭後期報告会ガイダンス
⑮実習中間報告会
⑯展示企画
⑰展示デザイン
⑱展示計画の策定（大項目）
⑲展示計画の策定（展示細目）
⑳展示計画の策定（展示導線）
㉑模型製作の実務見学
㉒ジオラマ製作の実務見学
㉓博物館のワークショップ・観察会（実例紹介）
㉔博物館のワークショップ・観察会（企画）
㉕博物館のワークショップ・観察会（広報）
㉖博物館のワークショップ・観察会（資料）
㉗報告書の企画立案
㉘報告書の編集
㉙報告書の作成
㉚実習最終報告会

物理学Ⅰ

【担当】村本　孝夫
【開講】前期　金４

■サブタイトル
理工系の基礎的な物理学（力学）
■講義概要
１．速度・加速度の概念（微分積分学の復習）
２．ベクトル、スカラー量などの物理量
３．力の概念、定義
４．運動の法則（ニュートン力学の基礎）
５．各種の運動方程式及びその解法
６．摩擦力と抵抗
７．振動運動の解析
８．エネルギーの概念
■到達目標
１．必要な数学力の習熟
２．身近な現象への応用（物理的な解釈）
３．論理的な判断力の涵養
■講義方法
時々、ビデオやパワーポイントを利用するが、講義を中心とする。
■成績評価の方法
小テスト（40%）　小さな用紙に講義内容のまとめを書いてもらって提出する。後ほど添削して返却する。（講義終了10分程前に）
定期試験（60%）
■テキスト
原康夫　『理工系の基礎物理　力学』　学術図書出版　2,100円
■参考文献
下村健次　『基礎物理学Ⅰ』　大学教育出版　3,000円

■履修上の注意・担当者からの一言
講義中に質問しずらかった事や、後ほどに浮上した質問事項等は、その日の小テストに書き込んで下さい。対応します。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義終了後 その他、メールで（muramoto-takao@gaia.eonet.ne.jp）
■講義計画
①ニュートン力学完成までの歴史及び、アインシュタインから現代へ
②高校で学習した事の徹底的な復習
③高校で学習した事の徹底的な復習
④座標系、ベクトル量及びスカラー量の例、ベクトル積とスカラー積
⑤速度、加速度、相対運動、等速円運動
⑥力の概念、万有引力、力の釣り合い
⑦運動方程式（微分型）、放物運動
⑧各種の運動の解析
⑨各種の摩擦力、流体中を運動する物体が受ける摩擦力
⑩単振動、強制振動、減衰振動
⑪エネルギーの概念、位置エネルギーの概念
⑫運動エネルギーの概念、エネルギー保存則
⑬運動量の時間変化と力、運動量保存則、弾性衝突
⑭力のモーメント、中心力と角運動量保存則
⑮惑星の運動、ケプラーの三法則

物理学Ⅱ

【担当】村本　孝夫
【開講】後期　金４

■サブタイトル
理工系の基礎的な物理学（電磁気学）
■講義概要
１．電荷同士の間に働く力
２．電場・ガウスの法則
３．電位
４．キャパシターと電池
５．電流および磁場
６．電流に働く磁気力
７．電磁誘導
８．電磁波
■到達目標
１．必要な数学力の習熟
２．身の回りの電磁気現象の理解
３．論理的な考察力の涵養
■講義方法
時々、ビデオやパワーポイントを利用するが、講義を雄心とする。
■成績評価の方法
小テスト（40%）　小さな用紙に講義内容のまとめを書いてもらい提出する。後ほど添削して返却する。
定期試験（60%）
■テキスト
原康夫　『理工系の基礎物理　電磁気学』　学術図書出版　2,100円
■参考文献
安部龍蔵　『初めて学電磁気学』　サイエンス社　1,715円

■履修上の注意・担当者からの一言
講義中に質問しずらかった事や後ほど浮上した質問事項を小テストに書いてもらう。後ほど対応する。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義終了後 又はメールで（muramoto@sue.shiga-u.ac.jp）
■講義計画
①電気力、磁気力、万有引力
②静電気学入門
③クーロンの法則、導体と絶縁体（誘電体）
④電気力線、ガウスの法則、応用（電荷分布）
⑤電気力による位置エネルギー、電位差（電圧）、計算例
⑥静電容量、電場のエネルギー、誘電率
⑦電荷の流れと水の流れ、抵抗、オームの法則
⑧合成抵抗・キャパシター、直流回路、ＲＣ回路
⑨磁荷に関するクーロンの法則、磁場と磁力線
⑩電流の作る磁場、アンペールの法則
⑪磁場中の電流が受ける力、磁場中の荷電粒子が受ける力
⑫磁性体の分類、透磁率、強磁性体
⑬発電機とモーター、自己誘導と相互誘導
⑭マクスウエルの方程式
⑮電磁波の導出、伝搬、電磁波と光

物理学序論

【担当】中平　徹也
【開講】前期　月2

■サブタイトル
高校物理未履修の学生が、物理の基本（特に力学）を学習する講座

■講義概要
物理学序論は、今まで物理を学習してこなかった学生が、後期以降に学習する「物理数学」などの授業にスムーズに入っていけるよう、中学理科・高校物理の知識のうち、必要最低限を理解する講座です。ただ、非常に短期間であるため、全範囲にわたって講義するのではなく、各学科にとって将来必要となる範囲に限定しています。このため、学科によって講義内容は変わります。
また、物理未習者が短期間で物理の基本を学習しなければならない講座のため、効率よい授業運営が必要となります。このため、以下のことを厳禁にしています。
私語・携帯電話やメール・居眠り・遅刻・途中退出・物理を既習している学生による妨害など。
初回にガイダンスをします。また、初回に一部の学生には、課題を出し、２回目の講義で確認テストをします。

■到達目標
「浮力」や「抵抗」など、物理学の教科書に出てくる用語の意味がわかる。
「運動方程式」や「キルヒホッフの法則」など、基本的な法則を使えるようになる。

■講義方法
講義＋演習＋チェックテスト方式

■成績評価の方法
平 常 点（50%）
小テスト（50%）
定期試験は行いません。平常点と小テスト（不定期）で評価します。

■テキスト
担当講師が作成するプリント

■参考文献
高校物理の教科書または市販の参考書＜基礎レベル＞

■履修上の注意・担当者からの一言
この講座は高校在学時に物理を学習しなかった者のための講座であり、高校在学時に物理Ⅱを学習した者は、受講する必要はありません。※基礎レベルなので、「苦手意識が強い」場合でも十分簡単に理解できますので、受講する必要はありません。
物理学序論は各学科に設置されていますが、内容は学科によって異なる場合があります。

■講義計画
①進度状況によって変更する場合があります。
②ガイダンス／力学の基本（課題あり）
③テスト①／加速度・速度・変位
④等加速度運動
⑤力の図示
⑥運動方程式
⑦テスト②／仕事とエネルギー
⑧エネルギーと仕事の関係
⑨モーメント
⑩熱量と比熱
⑪波の基本知識
⑫テスト③／衝突
⑬等速円運動
⑭万有引力
⑮単振動
⑯最終確認テスト・まとめ

プレゼンテーション演習

【担当】浅野 昌弘、市川 陽一、占部 武生、菊池 隆之助、岸本 直之、越川 博元、近藤 倫生、竺 文彦、丸山 敦、宮浦 富保、遊磨 正秀、横田 岳人、レイ トーマス,ティン　【開講】後期　金１

■講義概要
本科目は配属された研究室において、小グループを対象として行われる。担当教員の指導の下、研究論文等の専門資料・情報を収集し、収集した情報を整理し、自らの意見を加えた上で他者にわかりやすく伝えるプレゼンテーション能力向上を図る。

■到達目標
専門情報の収集・整理方法やプレゼンテーション能力を身につける。

■講義方法
担当教員により異なるが、通例セミナー形式などで実施する。

■成績評価の方法
毎回の発表、レポート、課題等により総合的に評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
担当教員の指導の下、発表・討論等を通して学修する。

プレゼンテーション演習Ⅱ

【担当】近藤　倫生、岸本　直之
【開講】前期　集中

■講義概要
近年は、インターネットによる情報検索が発達してきたが、学術的に信頼のおける情報を入手するには、努力と経験が必要なだけでなく、情報の質を見抜く目が求められる。この演習では、インターネットや図書館を利用した文献検索や情報収集を学び、得られた情報を用いて情報伝達の訓練を行う。口頭発表、文書（報告書）による発表、議論による情報伝達などに必要な訓練を行い、正しい情報伝達の能力を高める。

■到達目標
情報の質を見抜き、一次情報に接する大切さを理解する。他者の意見を聞き理解できる。自分の意見を他者へ論理的に分かりやすく伝達できる。

■講義方法
複数名の教員による分担開講で担当する。教員毎に各自テーマを設定し、資料の収集、討論、報告書の作成を行う。教員の指導は、学生の主体的な問題発見、解決、表現方法の検討をサポートするためのアドバイスが中心となる。

■系統的履修
計算機基礎実習Ⅰ、プレゼンテーション演習Ⅰ

■成績評価の方法
平 常 点（40%）　取り組み
レポート（40%）　レポート内容
そ の 他（20%）　発表（プレゼンテーション）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①ガイダンス
②課題設定（１回目）
③中間報告（１回目）
④報告（１回目）
⑤まとめ（１回目）
⑥課題設定（２回目）
⑦中間報告（２回目）
⑧報告（２回目）
⑨まとめ（２回目）
⑩課題設定（３回目）
⑪中間報告（３回目）
⑫報告（３回目）
⑬まとめ（３回目）
⑭総合討論
⑮総評

保全生態学（2007年度以降入学生）
生物多様性保全論（2006年度以前入学生）

【担当】横田　岳人
【開講】前期　金2

■講義概要
保全生態学は、「生物多様性の保全」という明確な目標を掲げ、その実現のための指針と技術の確立を目指す保全生物学の中核を占める学問分野である。生物多様性の成立と維持の機構を理解した上で、種、個体群、群集の保全に必要となる理念・概念や技術方法論について講義する。

■到達目標
生物の多様性を理解する。生物多様性保全の意義を理解し、保全に必要な概念を身につける。

■講義方法
授業は講義形式で行う。講義に必要な資料等は、適宜配布・紹介する。

■系統的履修
生態学概論、進化学、生態系生態学、個体群生態学、群集生態学

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
特になし

■参考文献
矢原徹一・鷲谷いづみ　『保全生態学入門』　文一総合出版
プリマック・小堀洋美　『保全生物学のすすめ』　文一総合出版　3,800円
樋口広芳　『保全生物学』　東京大学出版会

■講義計画
①保全生態学とは何か
②生物多様性とその危機
③種の機能
④多様性の評価
⑤適応進化と生物間相互作用
⑥生物多様性が生み出されるのに必要な時間
⑦多種共存を可能にする原理
⑧種内の遺伝的変異
⑨集団の大きさと遺伝的変異
⑩遺伝的劣化のメカニズム
⑪個体群の存続
⑫生物学的侵入
⑬生育場所の分断・孤立化
⑭生物多様性の管理
⑮生物多様性の回復と自然再生

水処理工学

【担当】越川　博元
【開講】後期　月1

■講義概要
より健全、健康な社会生活を営むうえで「安全な水」を供給することは重要である。安全な水を供給するためには流域の水循環を考慮し、水道システムにおける浄水処理とともに、廃水の処理もまた重要である。本科目では、水道システムにおける浄水処理プロセスや下水道システムでの処理技術を中心に、水処理工学について講述する。

■到達目標
命を衛（まも）る具体的な工学技術についての基本的知識を身につけることができる。

■講義方法
板書、プリントなどを使用して講述する。

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
特になし

■参考文献
津野洋、西田薫『環境衛生工学』共立出版株式会社　3,900円

■講義計画
①科目概説
②水質：水の特性
③水質指標（1）水を評価する
④水質指標（2）総括指標
⑤水質指標（3）感覚指標
⑥水処理方法とその選択
⑦物理的処理法（1）沈降するとは
⑧物理的処理法（2）凝集
⑨物理的処理法（3）沈殿と理想沈殿池
⑩ろ過処理と膜処理
⑪消毒処理
⑫生物処理法（1）下水道、合流式と分流式
⑬生物処理法（2）標準活性汚泥法の原理
⑭生物処理法（3）標準活性汚泥法とその変法
⑮嫌気性処理法

学科固有

野外調査実習（2007年度以降入学生）
環境生態学実習B（2006年度以前入学生）

【担当】丸山　敦、林　珠乃
【開講】後期　火3・火4・火5

■講義概要
生態学における野外調査や野外操作実験の手法を体得することを目指す。環境と生物の関係、群落や群集の構造、種内種間の関係などのテーマを設定して、森林、河川、池沼などのフィールドにおける観察・測定の方法を学ぶ。
初回はガイダンスを行い、実習内容の説明と班編制、諸注意などに当てる。２週目以降は、３テーマから２つを選択し、それぞれのテーマで5?6回ずつの実習を行う。途中､特別日程として､キャンパスから少し離れたフィールドに赴き、種組成の異なる群集を対象とした観察を行う予定である。

■到達目標
生態学分野で用いられる実験手法や調査手法など実験手法や調査手法を、野外での事象の観察や調査へ応用するための実践的な方法を体得する。

■講義方法
通常日程では、下記３テーマから２つを受講生が選択し、それぞれのテーマで５回ずつの実習を行う。実習テーマごとにレポートや発表を課す。
①「生物の定量方法の開発と分布様式の理解」
水生生物の生活・分布様式、およびその調査法を学ぶため、ため池に生息する生物を対象とした生物定量調査法を受講生自ら開発する。
②「環境条件の空間的不均一性と生き物の対応関係を探る調査法」
生物の量や生活に対する環境要因の影響について、定量的に明らかにする方法論を理解する。大戸川での野外調査とGISソフトを用いた解析を行う。
③「森林における生物密度の推定」
龍谷の森で野外調査を行い、数種の生物の生息密度を推定する手法を学ぶ。
特別日程では、東近江市川辺いきものの森での環境教育の企画法、京都府植物園の温室での植物の観察法、琵琶湖岸での水鳥の観察法、積雪した山林での生物の観察法などのうち幾つかを体験する予定である。

■系統的履修
生態学概論、生物多様性実習、統計学概論

■成績評価の方法
平 常 点（50%）　野外での活動を含む実習なので、遅刻は大きく減点される
レポート（50%）　レポートに代えて、実習成果の口頭発表によって評価することもある

■テキスト
プリントを配布する。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
野外での実習には、思いがけない危険が伴う。別途配布の安全の手引きを熟読し、指導者の指示に従うこと。また、実習内容によっては集合時間や集合場所が変わることがあるが、その際には掲示板で連絡する。日頃から掲示板等を見る習慣をつけ、連絡事項を見逃さないこと。

■講義計画
①ガイダンス（実習内容の説明、班編制、諸注意）
②【通常日程】別記３テーマから２つを選び、５～６回ずつの実習を行う。学内もしくは大学近辺で行う。
・生物の定量方法の開発と分布様式の理解
・環境条件の空間的不均一性と生き物の対応関係を探る調査法
・野外操作実験による環境要因の検証
③【特別日程】大学から離れた地域での自然観察を行う。

陸水生態学

【担当】丸山　敦
【開講】前期　火2

■講義概要
河川、湖沼などの陸水域は、有史以来の身近な自然環境である。陸水で営まれる生命活動から、生態学的に重要な概念や知識が多く見出されてきた。本講義では、琵琶湖や実習実施地などでの身近な話題を取り入れつつ、陸水域でおこる様々な現象を生態学的な視点で理解していく。すなわち、(1) 物理・化学的な特性と生息場の分類、(2) 生物の適応進化、(3) 生物間の相互作用、(4) 生態系の機能、の４点について扱う。同時に、陸水域は人間活動と相互に深く影響を持ってきたため、「環境問題」を具体的に理解する上でも適した場である。(5) 人間活動が陸水生態系に与える影響、(6) 陸水生態系が人間に与えるサービス、について考察したい。

■到達目標
陸水という場に限定した具体的な研究事例から、生態学全般の理解を深める。同時に、陸水域に特有の重要な事象や面白さを認識する。

■講義方法
プロジェクタ、ビデオなどを用いる。プロジェクタの内容はダウンロード可能にする。

■系統的履修
生態学概論

■成績評価の方法
平 常 点（40%）　事前学習(学習内容に対する考察)を毎回課す。
小テスト（60%）　３回の確認テストを行う。

■テキスト
特になし

■参考文献
Alexander JH et al. 『陸水学』 京都大学学術出版会　8,190円
日本陸水学会 『陸水の事典』 講談社　10,500円
沖野外輝夫 『河川の生態学』 共立出版　2,200円
沖野外輝夫 『湖沼の生態学』 共立出版　2,200円
日本生態学会 『生態学入門』 東京化学同人　2,940円
C.Bronmark et al. 『湖と池の生物学ー生物の適応から群集理論・保全まで』 共立出版　4,410円
この他、講義中に紹介します。興味が湧いたら自主的に学習して下さい。

■履修上の注意・担当者からの一言
プロジェクターの内容はダウンロード可能にしますので、事前の自学習において一読しておいて下さい。講義中に発言を求めることがあります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業直後、もしくは環境研究室１２（瀬田学舎７号館１階）にて連絡可能です。

■講義計画
①授業方針、陸水生態学と陸水環境の紹介
②「川に魚は必要か？」
③河川構造と河川生物群集
④洪水と河川生物群集の遷移
⑤「川と水路はどう違う？」 均一性と安定性、【小テスト１】
⑥河川流程と食物網構造
⑦「川と水路はどう違う？」 景観生態学と流域管理
⑧水生生物の生活史進化と水系の連続性
⑨シンボルになった水生動物の生物学、【小テスト２】
⑩「色とりどりの魚たち！」 古代湖の魅力
⑪湖の類型と生態区分
⑫湖の食物網と物質循環
⑬「琵琶湖の過去～未来」 水質汚濁と総合開発と温暖化
⑭外来種問題、【小テスト３】
⑮現場の陸水生態学

学科固有

教職課程科目

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
カ	学校カウンセリング論	石川　眞理子	前期	水４	261
キ	教育課程論	大西　俊弘	後期	土２	261
	教育実践研究Ⅰ（介護等体験）	脇田　博文／大西　俊弘／山中　健一	通年	集中	262
	教育実践研究Ⅱ（事前指導）	山中　健一／大西　俊弘／脇田　博文	前期	月３	262
	教育実践研究ⅢＡ（中免用実習）	脇田　博文／大西　俊弘／山中　健一	通年	集中	263
	教育実践研究ⅢＢ（高免用実習）	脇田　博文／大西　俊弘／山中　健一	通年	集中	263
	教育社会学	森　繁男	通年	月３	264
	教育社会学Ⅰ	森　繁男	前期	月３	265
	教育社会学Ⅱ	森　繁男	後期	月３	265
	教育制度論	山中　健一	後期	水３	266
	教職総合演習	脇田　博文／大西　俊弘／竹谷　博／山中　健一	前期	集中	266
	教師論	脇田　博文	前期	土２	267
シ	人権教育論／同和教育論	岸　衛	前期	水４	267
セ	生徒指導論	脇田　博文	後期	金１	268
ト	道徳教育指導法	牧崎　幸夫	後期	土１	268
	特別活動論	脇田　博文	前期	金１	269
メ	メディア教育論	大西　俊弘	前期	木１	269
リ	理科教育研究Ａ	大黒　孝文	後期	金２	270
	理科教育法Ⅰ	西村　泰治	通年	水２	271
	理科教育法Ⅱ	高畑　哲	通年	水２	272

学校カウンセリング論

【担当】石川　眞理子
【開講】前期　水４

■サブタイトル
教育現場で役立つスクールカウンセリング

■講義概要
教育現場では不登校、いじめ、校内暴力、学級崩壊などの心理･社会的諸問題が多発している。
このような問題の指導や解決のためには、教師自身も心理学カウンセリング的資質が必要となってくる。
本講義では、学校現場におけるカウンセリングの基礎を学び、心理的・カウンセリング的な基礎的態度と、
具体的な対応について理解を深めていきたい。

■到達目標
教育活動における心理的・カウンセリング的な基礎知識を習得し、問題を抱えた児童・生徒への援助方法を習得する。

■講義方法
講義+演習形式で行う。必要に応じて、資料･プリントを配布、ＶＴＲなどの視聴覚教材を用いる。

■成績評価の方法
平 常 点（60%）　平常点（受講態度+演習+コミュニケーションペーパー提出）
レポート（30%）　最終講義で発表
そ の 他（10%）　ミニレポート（2回）
毎回、講義終了時に「コミュニケーションパーパー」提出を求める。これも評価の対象とする。
出席、演習への取り組みを重視する。

■テキスト
特に使用しない。講義中にプリントを配布する。

■参考文献
馬場謙一・松本京介（編）『スクールカウンセリングの基礎と経験』 日本評論社
管佐和子・木之下隆夫（編）『学校現場に役立つ臨床心理学』 日本評論社
関連文献は講義中に適宜紹介する。

■講義計画
①オリエンテーション
②学校カウンセリング基本的理解（1）
　問題のある児童・生徒の早期発見・観察法
③学校カウンセリング基本的理解（2）
　問題のある児童・生徒の早期発見・診断・効果の測定のための心理テスト
④学校カウンセリング基本的理解（3）
　教師のための予防的・開発的グループカウンセリング技術
⑤学校カウンセリング基本的理解（4）
　個別面接による来談者中心カウンセリングの技術
⑥学校カウンセリング基本的理解（5）
　人間関係づくりのための集団カウンセリング
⑦学校カウンセリング基本的理解（6）
　社会生活能力を育てる訓練法
⑧学校カウンセリング基本的理解（7）
　進路指導のためのキャリアカウンセリング
⑨学校カウンセリングの基本的理解（8）
　無気力・無意欲の児童・生徒のための生活分析的カウンセリング
⑩学校カウンセリング応用（1）
　不登校・ひきこもりへの対応
⑪学校カウンセリング応用（2）
　いじめへの対応
⑫学校カウンセリング応用（3）
　学級崩壊への対応
⑬学校カウンセリング応用（4）
　暴力・非行への対応
⑭学校カウンセリング応用（5）
　スクールカウンセラーと連携した指導
⑮ミニ施行カウンセリング演習
　まとめ

教育課程論

【担当】大西　俊弘
【開講】後期　土２

■講義概要
すべての教育活動には目的があり、その目的を遂行するには、綿密な計画が必要となる。学校における教育活動の計画（全体）が、教育課程であるといえる。本講義では、教育課程について生徒の視点ではなく、教師（指導者）の視点で捉えて解説する。具体的には、次のような内容に取り組む。
1．中学校･高等学校における教育課程について､実例を通して概観する。
2．学校現場と教育行政との関係を踏まえた上で、教育課程編成の手順について学ぶ。
3．戦後の教育課題と関連させながら､学習指導要領の変遷について学ぶ。
4．近年の学力観・評価観について解説し、教育課程編成における新しい取り組みと紹介する。
5．学習指導要領の改訂と学力低下問題の関係について考察する。
6．諸外国の教育制度・教育課程を参考にして、今後の日本の教育のあり方を考える。

■到達目標
学校現場における教育課程の重要性について認識し、様々な教育問題への興味・関心を深める。学校現場の状況及び国の政策について学ぶことにより、今後の教育が目指していくべき方向性について考える。

■講義方法
講義形式ではあるが、出来る限り学生参加型の授業としたい。また、視聴覚教材の活用も積極的に図りたい。

■成績評価の方法
レポート（20%）　レポート未提出の場合は､単位を認定しない。
定期試験（80%）　基本事項を幅広く出題、記述式
レポート（20%）　期末試験の結果(80%)を総合的に評価する。
授業への参加は必須要件であり、特別な事情なしに3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。
また、レポート未提出の場合も、原則として単位を認定しない。

■テキスト
特になし

■参考文献
田中耕治　他３名 『新しい時代の教育課程』 有斐閣アルマ　1900円
中学校・高等学校の学習指導要領やその解説書が必要になる場合があるが、その都度指示する。
その他の参考文献については適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワー:水曜日･木曜日の３講時に研究室(2号館117号室)にて。
連絡方法：電子メールにて。(メールアドレスは講義で連絡。)

■講義計画
①序論（教育をめぐる社会の状況）
②戦前の教育制度・教育改革
③戦前の教育課程について
④戦後の教育改革と生活単元学習
⑤系統学習と戦後の学習指導要領の変遷
⑥学校教育に関する法体系と教育課程
⑦高等学校の各種制度と学習指導要領
⑧教育課程編成の実際
⑨高等学校における未履修問題
⑩学力低下問題と学習指導要領の関係
⑪国際的な学力調査の結果が教育課程に及ぼす影響
⑫観点別評価と生徒指導要録
⑬外国の教育課程
⑭教育改革の方向性と新学習指導要領
⑮新学習指導要領の実施に向けての課題

教育実践研究Ⅰ（介護等体験）

【担当】脇田　博文、大西　俊弘、山中　健一
【開講】通年　集中

■サブタイトル
心豊かな教師を目指して～「介護等体験」への参加～

■講義概要
子ども達に「豊かな心」を育むことが今日の教育の大きな課題となっている。そのためには、まず教師自らが「豊かな心」をもつ存在でなければならない。障害者や高齢者などに対する介護、介助、これらの人々との交流が、人間の尊厳を自覚させ、相手の立場や心に思いを馳せる「豊かな心」を育む貴重な経験となるのである。
国では教育職員免許法の特例等に関する法律」（平成10年4月1日施行）により、小･中学校の教員免許状を取得しようとする者に「介護等体験」への参加を義務づけている。これを基に本学では、特別支援学校および社会福祉施設で行う「介護等体験」とともに、その事前・事後に大学で必要な指導を行い、それらを総合して教職関係科目に位置づけている。

■到達目標
教師に必要な「豊かな心」を育む。

■講義方法
・１年次の10月からガイダンスが始まるので掲示には注意しておくこと。１年次に２回の説明会と講演会を行い、２年次には説明会及び事務手続きを行い、６月より随時体験に入る。
・２年次生以上の履修についても1年次生と同様。

■成績評価の方法
平 常 点（50%）　事前･事後指導及び体験への参加状況､意欲･態度を評価する。
そ の 他（50%）　提出された記録簿、レポートの内容、学校･施設からの報告書等を総合的に評価する。
上記の尺度･割合を目安として総合して単位認定する。ただし、下記の履修上の注意にもあるように、説明会・講演会の欠席、提出物の遅れ、体験の無断欠席や遅刻等、教職への適性を著しく欠く場合には単位を認定しない。

■テキスト
講義で適宜配布する。

■参考文献
講義で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
①説明会や講演会には必ず出席すること。無断欠席の場合は受講資格を失う。公欠等でやむなく欠席する場合は事前に相談・届出　をし、指示を受けること。
②教育実習の先修要件であるので､3年次までに履修すること。
③書類などの提出日は厳守すること。
④進路変更などにより受講を途中で辞退する者は教職課程教室に「辞退届」を提出すること。
⑤「体験」への無届け欠席や遅刻は絶対に許されない。
⑥「体験」には真摯な態度で臨むこと。

■講義計画
１回目　介護等体験説明会①－ガイダンス及び登録
２回目　介護等体験説明会②－介護等体験の意義と課題
３回目　介護等体験講演会①－障害児教育諸学校
４回目　介護等体験説明会③－及び事務手続き
５回目　介護等体験講演会②－福祉施設
６回目　介護等体験説明会④－福祉施設への参加手続き
７回目　介護等体験説明会⑤－特別支援学校への参加手続き
８回目　介護等体験への参加
　1. 障害児教育諸学校　２日間
　2. 社会福祉施設　５日間
９回目　介護等体験を振り返って－記録簿等の書類提出

教育実践研究Ⅱ（事前指導）

【担当】山中　健一、大西　俊弘、脇田　博文
【開講】前期　月３

■サブタイトル
教育実習の前に

■講義概要
教育実習は教員養成課程の総仕上げとしての位置付けを持つ。実習生にとっては生涯忘れ得ぬ感動を得る機会である。同時に、実習校及び実習校の生徒にとっても絶対に有意義なものでなければならない。
そのために、実習生は教師として必要な最低限の見識と能力を備えている必要がある。本学では教育実習の先修科目として「教育原論」「発達と教育（青年心理学）」「教科教育法」「人権論A」「人権論B」「教育実践研究Ⅰ（介護等体験）」を必修と定めている。この他にも、「教師論」「生徒指導論」「学校カウンセリング論」「メディア教育論」「教育制度論」等の教職科目と、できるだけ多くの「教科に関する科目」を実習前年までに修得している事が望ましい。
これら先修科目の基盤の上に、教師として必要な責任の自覚を促し、教育実習に関する実務的内容を教授するのが、「教育実践研究Ⅱ」の目的である。

■到達目標
教壇に立つ心構えを身につける。

■講義方法
必要な資料を配布して説明する。

■系統的履修
教育実践研究ⅢＡまたは教育実践研究ⅢＢ（教育実習）

■成績評価の方法
平 常 点（30%）　受講態度
レポート（60%）　毎回の講義で提出を求めるレポートの内容
そ の 他（10%）　教職を目指す者にふさわしい意欲・態度等
上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。

■テキスト
『教育実習の手引き』（龍大教職課程教室編）を配布する。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
教育実習前は健康管理に十分気をつけること。

■講義計画
１回目　はじめに（教育実習の意義）
２回目　教育実習の準備と心得
３回目　教員の服務
４回目　教科指導
５回目　教科外活動の指導
６回目　最近の学校教育の現状と課題
７回目　今後の教育改革の方向
８回目　教育実習後の総括

教育実践研究ⅢＡ（中免用実習）

【担当】脇田　博文、大西　俊弘、山中　健一
【開講】通年　集中

■サブタイトル
教えられる立場から教える立場へ
■講義概要
「教育実践研究Ⅲ」の目的は、学校現場での実習を通して、大学で教職や教科に関して学んだことを確認し、深化･発展させ、教員としての実践的指導力を身につけることにある。教育実習では、単に教科指導にとどまらず、特別活動、生徒（進路）指導、部活動、事務処理など実に多様な教員の仕事を観察及び体験し、その中で指導の基礎･基本を養うことが大事である。教育実習は実習生にとっては教育活動の試行である。しかし、受け入れる学校や生徒にとっては、実習期間中の一時間一時間が、後戻りできない、かけがえのない時間であることを忘れてはならない。それゆえに、教員としての責務を十分に自覚して、真摯な態度で、全精神をつぎ込んで実習に取り組まなくてはならない。
■到達目標
「絶対に教師になる」という信念をもつ。
■講義方法
学校現場での実習、報告書・記録簿等の提出と事後報告
■系統的履修
教育実践研究Ⅱ（事前指導）
■成績評価の方法
平 常 点（10%）　実習後の報告・事後指導
レポート（30%）　実習記録・指導案・レポート
そ の 他（60%）　実習校の評価
上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。事後報告は必ず実習終了後２週間以内に行うこと。事後報告が全くなされない時には単位認定をしない。
■テキスト
特になし
■参考文献
教育実習の手引き（龍谷大学教職課程教室編）
■履修上の注意・担当者からの一言
・真摯な態度で参加すること。
・期間中は実習に専念し、就職活動、大学での諸活動などへの参加は一切認められない。
■講義計画
１回目　（具体的な実習の進め方は実習校により異なるが、概ね次のように行なわれる）
２回目　事前打ち合わせ
３回目　オリエンテーション
４回目　教科指導
1. 授業見学（多くは期間前半に実施）
2. 授業実施（多くは期間後半に実施）
3. 研究授業と批評会
５回目　特別活動の指導
1. 学級（SHR、LHR）指導
中学校では「道徳の時間」の指導を含む。
2. その他の教科外の指導（清掃、学校行事など）
６回目　その他の校務分掌業務について
７回目　教育実習全体の反省
８回目　教職に就くに当たっての心得など

教育実践研究ⅢＢ（高免用実習）

【担当】脇田　博文、大西　俊弘、山中　健一
【開講】通年　集中

■サブタイトル
教えられる立場から教える立場へ
■講義概要
「教育実践研究Ⅲ」の目的は、学校現場での実習を通して、大学で教職や教科に関して学んだことを確認し、深化･発展させ、教員としての実践的指導力を身につけることにある。教育実習では、単に教科指導にとどまらず、特別活動、生徒（進路）指導、部活動、事務処理など実に多様な教員の仕事を観察及び体験し、その中で指導の基礎･基本を養うことが大事である。教育実習は実習生にとっては教育活動の試行である。しかし、受け入れる学校や生徒にとっては、実習期間中の一時間一時間が、後戻りできない、かけがえのない時間であることを忘れてはならない。それゆえに、教員としての責務を十分に自覚して、真摯な態度で、全精神をつぎ込んで実習に取り組まなくてはならない。
■到達目標
「絶対に教師になる」という信念をもつ。
■講義方法
学校現場での実習、報告書・記録簿等の提出と事後報告
■系統的履修
教育実践研究Ⅱ（事前指導）
■成績評価の方法
平 常 点（10%）　実習後の報告・事後指導
レポート（30%）　実習記録・指導案・レポート
そ の 他（60%）　実習校の評価
上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。事後報告は必ず実習終了後２週間以内に行うこと。事後報告が全くなされない時には単位認定をしない。
■テキスト
特になし
■参考文献
教育実習の手引き（龍谷大学教職課程教室編）
■履修上の注意・担当者からの一言
・真摯な態度で参加すること。
・期間中は実習に専念し、就職活動、大学での諸活動などへの参加は一切認められない。
■講義計画
１回目　（具体的な実習の進め方は実習校により異なるが、概ね次のように行なわれる）
２回目　事前打ち合わせ
３回目　オリエンテーション
４回目　教科指導
1. 授業見学（多くは期間前半に実施）
2. 授業実施（多くは期間後半に実施）
3. 研究授業と批評会
５回目　特別活動の指導
1. 学級（SHR、LHR）指導
中学校では「道徳の時間」の指導を含む。
2. その他の教科外の指導（清掃、学校行事など）
６回目　その他の校務分掌業務について
７回目　教育実習全体の反省
８回目　教職に就くに当たっての心得など

教育社会学（2006年度以前入学生）

【担当】森　繁男
【開講】通年　月3

■サブタイトル
（前期）教育社会学入門　（後期）教育現象の社会学的理解

■講義概要
教育社会学は教育を広い意味での「社会現象」ととらえ、これを社会学的視点や方法によって分析・説明する社会科学・教育科学の一つである。ここでいう「社会学的視点や方法」とは、あくまで「価値中立的に」、しかも現象の生起する要因をできるだけ「個人心理に還元しないで」認識しようとすることを指す。本授業は教育に対するこうしたアプローチから次のように展開してゆく。
まず前期では、このような教育社会学のものの見方・考え方を提示しながら､主として「子どもの育ちと社会の仕組み」といった内容に焦点を置いた入門的講義を行なう。
続いて後期では、家族・学校・ジェンダー・メディア・青少年などにみられる教育現象に接近しながら、これらを「どうとらえ、いかにして説明するのか」という社会学的理解への道案内をした上で、教育の実践や改革への示唆も導き出したい。

■到達目標
「教育」というきわめて「価値的」な営みを「社会や文化」（＝人間関係や意味世界）という観点から「事実」として把握し、現代社会における教育の現実を読み解く力を養ってゆきたい。

■講義方法
前期では、主に板書中心の「レクチャー」形式を取るが、参考プリントの配布や関連ビデオの視聴も行なう。
後期では、上記の方法以外に、時間的・人数的な条件が許せば受講生自身による発表や議論も試みたい。

■系統的履修
「社会学」全般、および「哲学・教育学・心理学」などの基礎学問や「ジェンダー論・メディア論・青年論」などのうちの関心領域。

■成績評価の方法
定期試験（100%）　授業内容の理解と応用展開力を試す。
「試験」によって評価するが､「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。

■テキスト
（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）

■参考文献
（進度に応じて適宜紹介する。）

■履修上の注意・担当者からの一言
ミクロな「相互作用」とマクロな「社会構造」との関連の中で「教育現象の発生」を理解するような社会学的視点を養い、そこから教育理念(価値)を見通すよう心がけていただきたい。

■講義計画
①イントロダクション
②社会学的社会観と教育作用（1）
③社会学的社会観と教育作用（2）
④教育社会学の視点と方法（1）
⑤教育社会学の視点と方法（2）
⑥社会化のとらえ方と社会学パラダイム（1）
⑦社会化のとらえ方と社会学パラダイム（2）
⑧現代学校の理念と現実（1）
⑨現代学校の理念と現実（2）
⑩社会の変化と家族関係（1）
⑪社会の変化と家族関係（2）
⑫メディアと地域の教育環境
⑬教育問題の発生と解釈（1）
⑭教育問題の発生と解釈（2）
⑮前期のまとめ
⑯教育学と社会学の接点（1）
⑰教育学と社会学の接点（2）
⑱家族・学校と教育の階層性（1）
⑲家族・学校と教育の階層性（2）
⑳文化的再生産と社会的相互作用（1）
㉑文化的再生産と社会的相互作用（2）
㉒ディスカッション（その1）
㉓ジェンダーと教育の諸現象（1）
㉔ジェンダーと教育の諸現象（2）
㉕メディアと青少年の文化問題（1）
㉖メディアと青少年の文化問題（2）
㉗ディスカッション（その2）
㉘教育社会学と教育実践
㉙教育社会学と教育改革
㉚後期のまとめ

教育社会学Ⅰ（2007年度以降入学生）

【担当】森　繁男
【開講】前期　月3

■サブタイトル
教育社会学入門
■講義概要
教育社会学は教育を広い意味での「社会現象」ととらえ、これを社会学的視点や方法によって分析・説明する社会科学・教育科学の一つである。ここでいう「社会学的視点や方法」とは、あくまで「価値中立的に」、しかも現象の生起する要因をできるだけ「個人心理に還元しないで」認識しようとすることを指す。まず前期の本授業では、このような教育社会学のものの見方・考え方を提示しながら、主として「子どもの育ちと社会の仕組み」といった内容に焦点を置いた入門的講義を行なう。
■到達目標
「教育」というきわめて「価値的」な営みを、「社会や文化」（＝人間関係や意味世界）という観点から「事実」として把握する態度を養いたい。
■講義方法
主に板書中心の「レクチャー」形式を取るが、参考プリントの配布や関連ビデオの視聴も行なう。
■系統的履修
「社会学」全般、および「哲学・教育学・心理学」などの基礎学問。
■成績評価の方法
定期試験（100%）　授業内容の理解と応用展開力を試す。
「試験」によって評価するが、「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。
■テキスト
（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）
■参考文献
（進度に応じて適宜紹介する。）
■履修上の注意・担当者からの一言
日常の人と人とのコミュニケーション（相互作用）を注意深く観察し、人間関係や人間形成のあり方と社会の仕組み（社会構造）とをつないでいる「文化」を読み取るよう心がけていただきたい。
■講義計画
①イントロダクション
②社会学的社会観と教育作用（1）
③社会学的社会観と教育作用（2）
④教育社会学の視点と方法（1）
⑤教育社会学の視点と方法（2）
⑥社会化のとらえ方と社会学パラダイム（1）
⑦社会化のとらえ方と社会学パラダイム（2）
⑧現代学校の理念と現実（1）
⑨現代学校の理念と現実（2）
⑩社会の変化と家族関係（1）
⑪社会の変化と家族関係（2）
⑫メディアと地域の教育環境
⑬教育問題の発生と解釈（1）
⑭教育問題の発生と解釈（2）
⑮前期のまとめ

教育社会学Ⅱ（2007年度以降入学生）

【担当】森　繁男
【開講】後期　月3

■サブタイトル
教育現象の社会学的理解
■講義概要
本授業では、前期の「教育学社会学Ⅰ」に引き続いて、家族・学校・ジェンダー・メディア・青少年などにみられる教育現象に接近しながら、これらを「どうとらえ、いかにして説明するのか」という社会学的理解への道案内をした上で、教育の実践や改革への示唆も導き出したい。
■到達目標
社会学的視点と方法から、現代社会における教育の現実を読み解く力を養ってゆきたい。
■講義方法
「レクチャー」をプリントやビデオで補いつつ、時間的・人数的な条件が許せば受講生自身による発表や議論も試みたい。
■系統的履修
「ジェンダー論・メディア論・青年論」などのうちの関心領域。さらに前期の「教育社会学Ⅰ」を先修していることが望ましい。
■成績評価の方法
定期試験（100%）　授業内容の理解と応用展開力を試す。
「試験」によって評価するが、「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。
■テキスト
（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）
■参考文献
（進度に応じて適宜紹介する。）
■履修上の注意・担当者からの一言
様々な「教育現象」を社会学的にとらえ、そこから教育理念（価値）を見通すよう心がけていただきたい。
■講義計画
①教育学と社会学の接点（1）
②教育学と社会学の接点（2）
③家族・学校と教育の階層性（1）
④家族・学校と教育の階層性（2）
⑤文化的再生産と社会的相互作用（1）
⑥文化的再生産と社会的相互作用（2）
⑦ディスカッション（その1）
⑧ジェンダーと教育の諸現象（1）
⑨ジェンダーと教育の諸現象（2）
⑩メディアと青少年の文化問題（1）
⑪メディアと青少年の文化問題（2）
⑫ディスカッション（その2）
⑬教育社会学と教育実践
⑭教育社会学と教育改革
⑮後期のまとめ

教育制度論

【担当】山中　健一
【開講】後期　水３

■サブタイトル
我が国の教育制度史の概略と現行教育制度
■講義概要
我が国の近代化と戦後の急速な回復・成長に教育が果たした役割の大きさは計り知れない。本講では我が国の教育制度の歴史的発展について概観すると共に、現行の教育制度と関係法規の精神について講述する。また、教育基本法が改正され、さまざまな教育改革が論議されている今日、これからの我が国の教育の在り方について考察する。
■到達目標
我が国の教育制度の経過と現状
■講義方法
必要な資料はプリントを配布して説明する。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
レポート（20%）
定期試験（60%）
受講態度20％、レポート20％、定期試験の成績60％をメドに総合的に評価する。
■テキスト
特になし
■参考文献
講義時に指示。プリント配布。
■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指すものとしてふさわしい態度で。
■講義計画
①古代・中世の教育
②近世の教育
③「学制」の成立と改革
④教育勅語と戦前の教育
⑤戦後の教育改革
⑥教育基本法と学校教育法の制定
⑦平成の教育改革
⑧学校教育制度（義務教育、中等教育、高等教育）
⑨中央の教育行政制度
⑩地方の教育行政制度
⑪教育財政
⑫諸外国の教育制度
⑬教育制度と教職員、児童・生徒
⑭学校経営と学校運営
⑮これからの我が国の教育の在り方

教職総合演習

【担当】脇田　博文、大西　俊弘、竹谷　博、山中　健一
【開講】前期　集中

■サブタイトル
今日的課題に対していかに考え、取り組むか
■講義概要
これから教員を目指す者にとって、国際化・情報化の進展により社会が急速に変化する激動の時代の中で、どのように教育を進めていけばよいのか、どのような資質や能力を身につける必要があるのかが重要な課題となる。それにはまず、環境破壊、民族対立･紛争、人口と食糧など地球全体が直面する問題や少子･高齢化と福祉、家庭のあり方などのわが国に関わる問題について、自分自身の理解を深めることが不可欠である。
この授業では、現在の社会が直面する様々な今日的課題から関心のあるテーマを自らが設定し、それに関わる調査研究を実施し、その結果をまとめて報告・発表する方法をとる。授業では、各自が意見を出し合い、議論を発展させてテーマを追求することが特に重要である。
さらに、テーマに関わる内容を学校教育での実践として具体化していく必要がある。そのために、今日的課題に対して、学校の教育活動の各場面において、生徒に主体的かつ問題解決的に取り組ませるための指導計画を構想する力を養う過程も、本授業の重要な内容の一つとして位置づける。教員を目指す諸君の積極的な参加と意欲的な取り組みを期待する。
■到達目標
これからの教員に求められる実践的指導力を養う。
■講義方法
講義の他、グループによる調査研究･発表等の参加型授業を行う。
＊授業は一部の内容を5～6月から実施し、大部分を8月の集中講義期間に設定することになる。開講日等の詳細は教職課程掲示板で連絡するので、各自で確認すること。
■成績評価の方法
平 常 点（30%）　事前オリエンテーション・集中講義への出席状況、意欲・態度
レポート（30%）「今日的課題に関わる指導の構想案」等の課題
そ の 他（40%）　調査・研究・発表・討議の諸活動の状況
上記の尺度・割合を目安として総合的に評価を行う。
■テキスト
講義の中で適宜プリントを配布する。
■参考文献
講義の中で適宜紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指す者として意欲的に取り組むこと。
■講義計画
①教職総合演習のねらいと今後の予定
②「今日的課題と学校教育（その1)」講義及び研究協議
③「今日的課題と学校教育（その2)」講義及び研究協議
④グループ分け及び研究テーマ・研究方法の決定
⑤研究テーマ・研究方法の発表と討議
⑥研究テーマ・研究方法のねりなおし
⑦グループ別の研究・調査活動（学内・学外での活動）
⑧研究・調査活動の中間報告
⑨研究成果のまとめ
⑩研究・調査の発表会と研究協議１
⑪研究・調査の発表会と研究協議２
⑫研究方法・発表方法の総括
⑬今日的課題を扱う指導内容・方法の構想
⑭研究・調査・発表・討議についての総括
⑮まとめ

教師論

【担当】脇田　博文
【開講】前期　土2

■サブタイトル
これからの教師に求められる資質能力とは何か

■講義概要
教師の仕事はブーメランに似て、教師が日々行う教科指導、学級活動、部活動、教育相談などの様々な教育実践は、たえず実践主体である教師自身の在り方や生き方として自己回帰する性格を持っている。従って教育の問題は究極的に「教育は人なり」に帰着する。
では教師に求められる資質能力とは何か。まず教師は豊かな個性を持ち、高い専門的知識、使命感、教育的情熱等のいつの時代にも求められる資質能力を有することが必要である。これに加えて、これからの教師には、社会変化の激しい時代にあって子どもたちに「生きる力」を育むためにも、幅広い視野、課題解決能力、対人関係能力、変化への対応能力等の実践的指導力を併せて持つことが期待されている。
本講義では、今の教師が直面する教育課題や職務内容など、教職に関する全体像を理解するとともに、教育改革が進む中でこれからの時代に「期待される教師像」について考察していく。

■到達目標
教員に求められる資質能力について理解するとともに、教育への積極的な姿勢を養う。

■講義方法
講義の他、討論・発表等の参加型授業を取り入れる。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）　授業への参加、意欲・態度等を評価する。
レポート（20%）　授業中の課題､レポートの達成度を評価する。
定期試験（50%）　学習内容の理解、教師としての適性等を試験で評価する。
上記の尺度・割合を原則として総合的に評価する。欠席が3分の1を超える、遅刻が多い、著しく授業態度が悪い等の場合には、教職への適性を欠くものとして、単位を認定しない。

■テキスト
講義の中で適宜プリントを配布する。

■参考文献
講義の中で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■講義計画
①はじめに－教職とは何か
②社会の変化と中高生文化の変容
③教師が直面する教育課題 1
④教師が直面する教育課題 2
⑤教師が直面する教育課題 3
⑥教員に求められる資質能力 1
⑦教員に求められる資質能力 2
⑧教員に求められる資質能力 3
⑨学校教育の意義・目的
⑩教育公務員としての身分と服務、職務内容 1
⑪教育公務員としての身分と服務、職務内容 2
⑫教員研修の意義と内容
⑬学校内での職務の実際と連携のあり方
⑭地域・家庭等との連携
⑮教職への展望／進路選択の課題

人権教育論（2007年度以降入学生）
同和教育論（2006年度以前入学生）

【担当】岸　衛
【開講】前期　水4

■サブタイトル
「今」を問う・「自分」を問う

■講義概要
部落差別は過去の歴史的な「遺制」ではなく、「今、ここ」で恣意的かつ無根拠に作られている差別である。差別は人と人の関係の中で起こる。だから日常の自分と他人の関係の仕方を見つめることから始めたい。
今、「同和教育の深まりから人権教育への広がり」といわれている。同和教育の出発とそれがめざしたものが何であったのか、これからの人権教育で「同和教育」の観点をどう生かしていくのかを明らかにしたい。
差別問題、人権問題は、いい古された言葉を語った時点で、自分で考えることをやめてしまう。「自分の言葉で何が語れるか」を最終の課題にしたいと考えている。

■到達目標
「今」を見る目が養われる。
「自分」と「他人」との関係やあり方が見えてくる。

■講義方法
基本的には講義形式で進めるが、可能な限り問答・会話を中心に進める。
人権学習についての「教案」を作り、実際に授業の一部をやってもらう。
自分の言葉で「語る」人権問題のスピーチをする。

■系統的履修
人権論A・B（岸）

■成績評価の方法
平 常 点（30%）　受講態度・コミュニケーション・カード提出
小テスト（50%）　教案提出
レポート（20%）　まとめのレポート提出

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①オリエンテーション
②「同和教育と「解放教育」」
　自分を解放する部落問題学習の実践
③部落の生徒と「出会う」
④差別の作られ方
⑤差別を考える視点
⑥部落差別問題とは何か
　部落差別問題の「今」
⑦人権学習の実践①
⑧人権学習の実践①
⑨人権学習の実践②
⑩人権学習の実践②
⑪人権学習の実践③
⑫人権学習の実践③
⑬人権学習の実践④
⑭人権学習の実践④
⑮まとめ

生徒指導論

【担当】脇田　博文
【開講】後期　金１

■サブタイトル
学校教育における生徒指導の意義と役割

■講義概要
急速な社会変化の中で旧来の倫理観・価値観が大きく崩れ、家庭や学校の教育力は低下している中で、生徒指導の重要性とその対応のあり方については認識を新たにする必要がある。最近の学校現場で起こっているいじめ、不登校、学級崩壊等の問題は生徒指導上の喫緊課題であるが、単に表面的な目に見える現象だけに注目し、問題行動を起こす生徒への治療・矯正や防止対策として生徒指導を捉えてはならない。生徒指導は、一人ひとりの生徒の人格的発達への支援、将来の自己実現に向けてのガイダンスという積極的な教育機能として位置づけられるべきである。
本講義では、まず生徒指導の本質的な意義や役割を明確にした上で、様々な問題例を通してその原因・背景・対処について実証的な考察を加え、さらにガイダンス機能の充実のための進路指導について触れる。そして教員には個人あるいは組織の一員としてどのような資質や能力や役割が求められているか理解したい。

■到達目標
教員に求められる資質･能力･役割について理解するとともに、教育への積極的な姿勢を養う。

■講義方法
講義の他、討論・発表等の参加型授業をできるかぎり取り入れる。

■系統的履修
「発達と教育」などの発達・教育心理学関係の科目

■成績評価の方法
平 常 点（30%）　授業への参加、意欲・態度等を評価する。
レポート（10%）　毎回出される小課題の達成度を評価する。
定期試験（60%）　学習内容の理解､教職への適性を試験で評価する。
上記の尺度・割合を原則として総合的に評価する。欠席が３分の１を超える、遅刻が多い、著しく授業態度が悪い等の場合には、教職への適性を欠くものとして、単位を認定しない。

■テキスト
特になし

■参考文献
講義の中で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■講義計画
①はじめに
②学校及び青少年の現状と課題 1
③学校及び青少年の現状と課題 2
④生徒指導の意義と役割 1
⑤生徒指導の意義と役割 2
⑥生徒指導の意義と役割 3
⑦生徒理解 1
⑧生徒理解 2
⑨生徒理解 3
⑩問題行動・学級（授業）崩壊 1
⑪問題行動・学級（授業）崩壊 2
⑫いじめ・不登校 1
⑬いじめ・不登校 2
⑭進路指導のあり方
⑮まとめ

道徳教育指導法

【担当】牧崎　幸夫
【開講】後期　土１

■サブタイトル
道徳の時間の授業力を磨く

■講義概要
道徳教育の「要」の時間である「道徳の時間」の実践的指導力を身に付けるため、道徳の時間の指導案作成、模擬授業等を行いながら具体的な研究・考察を行う。

■到達目標
学習指導要領に示された道徳教育の目標、内容等について理解し、指導計画や学習指導案の作成、模擬授業等を通じて実践的指導力の基礎を身に付ける。

■講義方法
中学校学習指導要領解説「道徳編」（平成20年９月）を活用し、道徳教育の目標、内容等について理解するとともに、読みもの資料をもとに指導案の作成、模擬授業を行う。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）　受講態度
小テスト（20%）　学習指導要領の内容
定期試験（60%）　提示された読みのもの資料による学習指導案の作成

■テキスト
文部科学省　『中学校学習指導要領解説「道徳編」（平成20年9月）』　日本文教出版　139円

■参考文献
特になし

■講義計画
①道徳教育の意義（１回）
－なぜ、今、道徳教育なのか－
②道徳教育の変遷（１回）
－学習指導要領における道徳教育はどのよう改訂されてきたのか－
③道徳教育の目標と内容（１回）
－道徳教育の目標や内容はどのように示されているのか－
④道徳の時間の学習指導案（５回）
－ヤマのある授業を行うための指導案作成は、どのような手順によるのか－
⑤道徳の時間の授業（５回）
－生徒の多様な発言を引き出すための道徳の授業はどのように工夫するのか－
⑥学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育（２回）
－道徳教育の全体計画､指導計画はどのように作成するのか－

特別活動論

【担当】脇田　博文
【開講】前期　金1

■サブタイトル
もう一つの教育課程－学校教育における特別活動の役割
■講義概要
学校での様々な教育活動の意義は、生徒一人ひとりが個性の伸張を図るとともに、集団や社会の一員としての自覚を深め、協力してより良い生活を築こうとする態度を身につけることにある。この意味で、学校が知識や技術の習得のためだけに合目的的に機能を単一化し、その本来的な多機能性（特に人間形成）を失い、居心地のよい場所でなくなりつつある現状を見ると、もう一つの教育課程である特別活動の意義は見直されるべきである。特別活動は、生徒の自主的、集団的な活動の時間であり、まさに「生きる力」を養う場として、各学校・教員が創造的にいろいろな実践や工夫を行う余地が多く残されている。
本講義では、特別活動の教育課程上の位置づけ、その教育的意義と内容、具体的な展開と工夫などについて考察しながら、学校教育における特別活動の基本的な役割について理解を深め、ひいてはこれからの時代に期待される教師のあり方について明らかにしたい。
■到達目標
教員に求められる資質・能力・役割について理解するとともに、教育への積極的な姿勢を養う。
■講義方法
講義の他、討論・発表等の参加型授業を導入する。
■成績評価の方法
平 常 点（40%）　授業への参加、意欲・態度等を評価する。
小テスト（20%）　授業中に出される課題の達成度を評価する。
レポート（40%）　学期末の課題の達成度を評価する。
上記の尺度・割合を原則として総合的に評価する。欠席が3分の1を超える、遅刻が多い、著しく授業態度が悪い等の場合には、教職への適性を欠くものとして、単位を認定しない。
■テキスト
特になし
■参考文献
適宜講義中に紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指す者として意欲的に受講すること。
■講義計画
①特別活動の意義と特性 1
②特別活動の意義と特性 2
③特別活動の意義と特性 3
④望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ 1
⑤望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ 2
⑥望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ 3
⑦教育課程としての特別活動
⑧学級活動の意義と運営
⑨学校行事の意義と実施上の工夫・配慮事項
⑩特別活動の指導計画と工夫 1
⑪特別活動の指導計画と工夫 2
⑫特別活動の指導計画と工夫 3
⑬特別活動の指導計画と工夫 4
⑭特別活動と特色ある学校づくり・総合的な学習の時間
⑮まとめ

メディア教育論

【担当】大西　俊弘
【開講】前期　木1

■講義概要
メディアとは何かという基本的な概念から説明し、メディアを活用した教育について講義する。
(1) 視聴覚メディア・コンピュータなどの特性について考査し、中学校・高等学校などで活用方法について学ぶ。
(2) メディア・リテラシーについて考察し、教育におけるメディア・リテラシーの重要性について学ぶ。
(3) プレゼンテーションの理論・技法について学び、教育への応用を考える。
(4) 教育現場で著作権に配慮することの重要性について学ぶ。
■到達目標
各教科の授業や総合学習において、メディアを有効に活用した授業の設計を行うことができる。
■講義方法
講義形式だけでなく、グループ活動（CMの制作・発表など）も行う。
■成績評価の方法
レポート（20%）　レポート未提出者は単位を認定しない。
定期試験（80%）　基本事項を中心に幅広く出題。記述式。
レポート・作品（20%）、定期試験（80%）にて総合的に評価する。レポート・作品のテーマは授業中に指示する。
授業への参加は必須要件であり、特別な理由なしに授業を3回以上欠席した場合、原則として単位を認定しない。
また、レポート・作品未提出の場合も、原則として単位を認定しない。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
教員になる強い意志を持った人の受講を望む。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワー：水曜日・木曜日の3講時に研究室（2号館117号室）にて。（ただし、6月は教育実習の巡回で不在のこともある。）
連絡方法：電子メールにて。（アドレスは講義で連絡する。）
■講義計画
①メディアとは何か
②メディア・リテラシーとは何か
③メディア・リテラシー（写真編）
④メディア・リテラシー（統計・グラフ編）
⑤メディア・リテラシー（ニセ科学編）
⑥プレゼンテーション入門
⑦メディア・リテラシー教材の実際
⑧映像と音響の複合効果
⑨CM製作1（技術的解説、班別協議）
⑩CM製作2（班別製作活動）
⑪CM製作3（班別製作活動）
⑫CM発表会（予選会）
⑬CM発表会（本選会、講評）
⑭学校教育と著作権
⑮授業設計の技法

理科教育研究A（2010年度以降入学生）

【担当】大黒　孝文
【開講】後期　金2

■サブタイトル
理科が大好きな生徒を育てる教師になる

■講義概要
中学校・高等学校の理科教師としての資質と能力の育成をめざして、各領域における実験・観察指導や教材開発を行なう基礎的な知識と技能を身につけることができる。

■到達目標
・中学校・高等学校の学習指導要領理科の目的や内容を理解し説明することができる。
・中学校・高等学校の理科授業に関する基礎的な知識や判断力を持つことができる。
・理科教育の現状を把握し、実践的指導力を身に付けることができる。
・現在の理科教育の課題を把握し、各種授業法やテクノロジ利用の実際を知ることができる。

■講義方法
授業内容によって講義、協同学習、アクティブ・ラーニングを取り入れる。

■系統的履修
理科の教員免許状取得希望者は、３回生設置の「理科教育法Ⅰ」・「理科教育法Ⅱ」・「理科教育研究B」の履修に先行して、原則として２回生後期で履修すること。

■成績評価の方法
平 常 点（10%）　授業への参加状況と態度（関心･意欲･態度）
小テスト（20%）　協同学習ケーステスト（グループ指導）
レポート（20%）　簡易指導案の作成（技能・表現）
定期試験（50%）　理科の各領域テスト（知識理解・思考判断）

■テキスト
文部科学省『中学校学習指導要領解説　理科編』大日本図書　110円
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　理科編理数編』実教出版　336円

■参考文献
神戸大学発達科学部附属住吉中学校・中等教育学校著　『生徒と創る協同学習 - 授業が変わる，学びが変わる』　明治図書　2500円
内山裕之・広木正紀編著　『プロ教師をめざす　新理科教育早わかり事典』　明治図書　2688円
その他別途指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
授業への参加は全出席を基本とする。

■講義計画
①オリエンテーション（学習内容･学習方法･評価基準等の理解）
②現在の理科教育の課題と意義
③理科で使う力，つける力
④ケースメソッドで学ぶ理科指導法Ⅰ
⑤ケースメソッドで学ぶ理科指導法Ⅱ
⑥生命領域の学習
⑦地球領域の学習
⑧生命・地球領域の方法
⑨エネルギー領域の学習
⑩粒子領域の学習
⑪エネルギー・粒子領域の方法
⑫ナラティブアプローチで学ぶ理科の協同学習Ⅰ
⑬ナラティブアプローチで学ぶ理科の協同学習Ⅱ
⑭協同学習演習「雨が降る理由」
⑮指導案作成演習

理科教育法Ⅰ（2009年度以前入学生）

【担当】西村　泰治
【開講】通年　水2

■サブタイトル
現場に活かす理科教育法（中学第一分野、高校物理を中心に）

■講義概要
・科学を学ぶ意義・有用性をいかに楽しく、判り易く魅力ある授業を構築するか。
・理科が好き、嫌いというのは中学や高校での先生の教え方に大きく依存していることに鑑み、学習指導要領の変遷を踏まえながら時代背景と理科教育の変遷との関係を理解する。
・これからの理科教育の在り方を解説、その指導法と実践的演習としての指導案作成、教材作成、模擬授業を通して現場で活きる魅力ある授業の育成を図る。

■到達目標
知識基盤社会が意味するところを理解し、常に新しい科学教育へ trade-off できる。魅力ある授業の構築。

■講義方法
テキスト、プロジェクター、ＯＨＣを使った講義、教材作成、指導案作成等による実践的模擬授業。

■成績評価の方法
平 常 点（20%）　受講態度
小テスト（10%）
レポート（30%）　教材作成、指導案作成、模擬授業等
定期試験（40%）

■テキスト
文部科学省　『中学校学習指導要領解説理科編』　大日本図書　110円
文部科学省　『高等学校学習指導要領解説　理科編　理数編』　実教出版　336円

■参考文献
左巻健男・内村浩　『授業に活かす理科教育法』　東京書籍　2200円
理科教育研究会　『新学習指導要領に応える理科教育』　東洋館出版　2200円

■講義計画
①これからの理科教育
　アンケート
②学習指導要領の変遷と理科教育
　教育課程
③理科の学習内容と指導上の問題点
④教育改革と理科教育
　新学習指導要領下での理科を学ぶ力
⑤各種調査と理科教育
　諸外国の理科教育事情と科学リテラシー
⑥わかる理科授業とは
　日常の理科（物理学）
⑦理科授業の実際（1）
　具体例（中学理科）
⑧理科授業の実際（2）
　具体例（高校物理、化学、地学）
⑨学習指導案の書き方（1）
⑩学習指導案の書き方（2）
⑪観察・実験授業
　実験事例（物理）・器具
⑫探究活動と指導法
　課題研究（物理を中心に）
⑬授業の構成と評価
⑭学習評価理論と実践
⑮理科教育の周辺と今後
　採用試験について
⑯教材研究と教材の具体例
　アンケート調査
⑰指導案の作成（1）
⑱模擬授業（1）
　実践と評価
⑲科学史と理科教育
　ノーベル賞と理科教育
⑳ＩＣＴの活用と理科教育
　教育工学
㉑指導案作成（2）
　教材作り
㉒模擬授業（2）
　実践指導
㉓環境教育、エネルギー教育
　キャリア教育
㉔指導案の作成（3）
　実験授業
㉕模擬授業（3）
　実験結果のまとめ方
㉖他教科（数学、情報等）の連携
㉗総合学習と理科教育
　道徳と理科教育
㉘指導案の作成（4）
㉙模擬授業（4）
　授業の改善
㉚今後の理科教育
　中教審の審議内容

理科教育法Ⅱ（2009年度以前入学生）

【担当】高畑　哲
【開講】通年　水2

■講義概要
日本の理科教育・科学教育の現状と課題を概観し、今後の理科教育の方向性について考察する。また、教育現場に出てすぐに役立つ指導力の育成をはかるため、模擬授業等にも積極的に取り組む。
具体的には、次のような内容の講義を行う。
（1）理科教育の意義と今日的な課題
（2）理科教育の歴史的変遷
（3）環境問題と理科教育の関係
（4）仮説実験授業の理論と実際
（5）実験指導の実際
（6）諸外国における理科教育の動向
（7）教材研究の実際

■到達目標
理科教育の歴史と新しい潮流について理解を深め、実験・観察および探究活動を重視した実践的指導力を身につける。

■講義方法
講義及び実習・演習が中心。
実習・演習では、教材作成や指導案の作成を行い、模擬授業も行う。

■系統的履修
理科教育法Ⅰを学んだ後に履修すること。

■成績評価の方法
平 常 点（40%）　受講態度、講義・実習への積極的な参加の度合い
レポート（60%）　学習指導案等の作成、年に数回のレポート
特別な理由なく３回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。
また、レポート未提出の場合も、原則として単位を認定しない。

■テキスト
特になし

■参考文献
左巻健男・内村浩編著 『授業づくりのための理科教育法』 東京書籍　2200円
文部省 『中学校学習指導要領解説　理科編』 大日本図書 110円
文部省 『高等学校学習指導要領解説　理科編』 実教出版 336円
田代直幸他 『これからの理科授業中学校１分野・2分野』 東洋館出版　3800円
上記に示した「学習指導要領解説」はともに、新学習指導要領の解説書である。

■履修上の注意・担当者からの一言
教員を強く志望し、意欲のある学生諸君に履修してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
連絡は、メールにて（メールアドレスは、最初の講義で連絡する）

■講義計画
①理科の授業のあり方
②現行学習指導要領の特徴と課題
③次期学習指導要領の特徴
④理科教育における評価のあり方
⑤観点別評価と学習指導案
⑥模擬授業（1）
⑦模擬授業（2）
⑧理科教育の歴史（戦前）
⑨理科教育の歴史（戦後）
⑩理科教育におけるICTの利用（1）
⑪理科教育におけるICTの利用（1）
⑫仮説実験授業入門
⑬仮説実験授業の実際（模擬授業1）
⑭仮説実験授業の実際（模擬授業2）
⑮仮説実験授業の実際（模擬授業3）
⑯（後期）
理数離れの実態
⑰PISAが目指す科学的リテラシー
⑱諸外国における理科教育の実情（1）
⑲諸外国における理科教育の実情（2）
⑳環境問題と理科教育（1）
㉑環境問題と理科教育（2）
㉒環境問題と理科教育（3）
㉓実験指導の実際（1）
㉔実験指導の実際（2）
㉕教材・教具の開発（1）
㉖教材・教具の開発（2）
㉗ベテラン教員の授業に学ぶ
㉘他教科との連携のあり方
㉙総合学習と理科教育
㉚今後の理科教育の方向性

本願寺派教師資格課程科目

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
シ	宗教学概論	古賀　和則	通年	月５	275
	宗門法規	林　春男	前期	集中	276
	真宗学概論	中平　了悟	通年	月４	276
	真宗史	仲尾　孝誠	通年	土１	277
ニ	日本仏教史	下間　一頼	通年	火４	277
フ	仏教学概論	若原　雄昭	通年	水３	278

宗教学概論

【担当】古賀　和則
【開講】通年　月5

■サブタイトル
宗教学は宗教をどのように見てきたか

■講義概要
広義の宗教学は、宗教を研究対象とする学問であり、神（宗）学、宗教哲学、宗教史、科学的宗教学の領域があります。また、教義の宗教学では宗教史と科学的宗教学があります。この講義では、まず、広義の宗教学の概要をたどり、続いて狭義の宗教学を取り上げ、主要な研究テーマを絞りたどります。

■到達目標
宗教研究の概要の理解。

■講義方法
講義形式ですが､前後期に各１回程度の討論会（シンポジウム）を行います。

■系統的履修
「現代社会と宗教」「生活の中の宗教」「心と身体と宗教」「哲学」「社会学」「心理学」「文化人類学」

■成績評価の方法
平 常 点（40%）　前期､後期各１回以上のミニシンポ参加&準備
レポート（60%）　前期まとめレポート（30点）
　　後期まとめレポート（30点）

■テキスト
特になし

■参考文献
上田・柳川編　『宗教学のすすめ』　筑摩書房
石田・薗田編　『宗教学を学ぶ人のために』　世界思想社
井上・月本・星野編　『宗教学を学ぶ』　有斐閣
脇本著　『宗教学入門』　講談社
武・宮庄・高田編　『宗教学の現在』　三和書房
細谷・藤田編　『新しい教養のすすめ　宗教学』　昭和堂

■履修上の注意・担当者からの一言
宗教学には広い範囲があります。それは、対象の宗教が多種多様であることもあります。また、学ぶ立場の多様性もあります。この講義では、主として、宗教を広くとらえ、科学的に分析しようとする立場にたちます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
e-mail：koga@soc.ryukoku.ac.jpでアポイントを取ること。

■講義計画
①ブリーフィング
　宗教学の成立：成立の背景と分野
②宗教の規定
③科学と宗教
④宗教史Ⅰ
⑤ミニシンポ「スピリテュアル　パワー」
⑥宗教史Ⅱ
⑦宗教史Ⅲ
⑧宗教現象学Ⅰ
⑨宗教現象学Ⅱ
⑩宗教社会学Ⅰ
⑪宗教社会学Ⅱ
⑫宗教社会学Ⅲ①
⑬宗教社会学Ⅲ②
⑭宗教社会学Ⅳ
⑮宗教社会学Ⅴ
⑯宗教心理学Ⅰ
⑰宗教心理学Ⅱ
⑱宗教心理学Ⅲ
⑲宗教心理学Ⅳ
⑳宗教心理学Ⅴ
㉑ミニシンポ「現代人の宗教意識」
㉒宗教生理学
㉓宗教人類学Ⅰ
㉔宗教人類学Ⅱ
㉕宗教人類学Ⅲ
㉖宗教地理学
㉗宗教民俗学Ⅰ
㉘宗教民俗学Ⅱ
㉙宗教民俗学Ⅲ
㉚まとめ

宗門法規

【担当】林　春男
【開講】前期　集中

■サブタイトル
浄土真宗本願寺派（宗門）の諸規則について

■講義概要
本講義は、浄土真宗本本願寺派教師の資格取得に必要な単位として開設されているのであるが、近年の傾向として、必ずしも寺院関係者に限定されることなく、幅広く受講される状況にある。このため、浄土真宗本願寺派（西本願寺）という宗教団体は、どのような目的を持っているのか、また、どのような組織で、どのような活動を展開しているのかなどの点を中心に説明することとする。

■到達目標
浄土真宗本願寺派教師の資格取得によって、寺院住職、布教師就任の途が開かれる。そのため、より重要な責務を全うするに必要な宗門法規の内容理解を深める。

■講義方法
所定のテキストを中心に講義を進めるが、必要に応じて関係資料をプリントで配布することとする。
本講義では、その内容が宗門の諸規則という事からも、特殊な用語が多く用いられているので早く慣れていただきたい。

■成績評価の方法
定期試験（100%）

■テキスト
法制部編『浄土真宗本願寺派 宗門基本法規集』本願寺出版社

■参考文献
特になし

■講義計画
①浄土真宗本願寺派(以下、宗門という。)の基本法規について
②宗門の組織について
③宗門の活動について
④宗門の諸法規の体系について
⑤本山（西本願寺）の規則について
⑥本山以外の寺院の規則などについて
⑦宗門の法規と宗教法人法との関係について
⑧信教の自由と政教分離の原則について
⑨宗教法人について
⑩宗教法人法施行以前の国法について（宗教団第法）
⑪宗教法人法施行以前の国法について（宗教法人令）
⑫宗教法人法施行以前の国法について（明治･大正･昭和初期）
⑬宗教法人法と宗門法人規則について
⑭宗門基本法規の概要について（まとめ）
⑮確認テスト

真宗学概論

【担当】中平　了悟
【開講】通年　月４

■講義概要
浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の思想の体系的な理解を目的に講義を行う。
「真宗学」の中心は、親鸞聖人によって明らかにされた思想・教義としての「浄土真宗」にある。どのような視点に立とうとも、「真宗学」という名称を用いる以上、親鸞聖人の思想や立場が前提とされなければならない。
釈尊によって説かれた経典、およびインド・中国・日本の諸師（高僧）による経典の解釈を、親鸞聖人はどのように受容したのか。また､親鸞聖人によって説き示された(教えとしての)「浄土真宗」は今に至るまで、どのように理解・解釈されて来たのか。一年間の講義を通して、その概略について講義をしたい。
本講義は、入門的な内容を講義する予定である。しかし、一般的な意味で「簡単」ではないと思う。受講者の主体的な学びの態度がなければ､成立しないことを念頭に置いて受講して欲しい。

■到達目標
浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の思想を体系的に理解できるようになることを目的とする。

■講義方法
講義形式。板書とレジュメを中心に講義を行う。尚、テキストは必ず持参すること。

■成績評価の方法
平 常 点（15%）　出席は当然。受講態度などから総合的な判断する
小テスト（15%）　講義時に行う小テストも評価の対象となる。
レポート（30%）　期末のレポートを予定している。
定期試験（40%）　期末のテストを予定している。
規定数以上の出席は、評価の前提。規定に満たない場合は、単位は認定されない。

■テキスト
『浄土真宗聖典註釈版（第二版)』　本願寺出版社
村上速水　『親鸞教義とその背景』　永田文昌堂
このほか、必要があれば講義時に指示する。

■参考文献
講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
◆本講義は「本願寺派教師資格」に関する講義です。講義内容･方針もそれに見合ったものとなるように努めるので、受講者も了承の上受講してください。
◆「真宗学」の理解には、知識を超えた何かが必要です。知識は大切なものに近づく手がかりになるかも知れませんが、絶対的な条件ではないかもしれません。受講者の主体的な学びが必須です。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義時に連絡方法などについては説明する。また必要があれば、講義前後に相談してください。

■講義計画
①（１回目）オリエンテーション　講義概略・評価方法等の説明
②（２回目）真宗学とは
③（３～５回目）仏教、真宗についての概略
④（６～10回目）親鸞聖人の生涯と思想
⑤（11～20回目）親鸞聖人の思想とその背景
⑥（21～30回目）親鸞聖人の思想とその体系

真宗史

【担当】仲尾　孝誠
【開講】通年　土1

■サブタイトル
浄土真宗の成立と変容の歴史
■講義概要
親鸞が開いた浄土真宗の教団は、今日、御同朋御同行のみ教えによる同朋教団であると公称されている。では御同朋御同行のみ教えとは、いかなる教えなのか。それは、どのようにして開顕され、また他の諸宗派とどのように違っていたのか。さらには、親鸞の開いた教団がその後、国家および民衆との関係においてどのように展開していったのか。
浄土真宗の成立と変容の歴史について学び、親鸞における信心の社会性の意義と今日的実践課題を共に明らかにしていきたい。
■到達目標
浄土真宗の歴史の全容。日本における宗教と国家、宗教と人権に関する基礎的な知識。
■講義方法
テキストを中心に講義するが、ビデオ教材も活用する。
■成績評価の方法
平 常 点（50%）
レポート（10%）
定期試験（40%）
■テキスト
福間光超・堀大慈 『真宗史（中央仏教学院テキスト)』（本願寺出版社）
柏原祐泉 『仏教と部落差別その歴史と今日（人権ブックレット９)』 解放出版社
■参考文献
二葉憲香、松尾博仁、福嶋寛隆 『歴史のなかの親鸞』 永田文昌堂
阿満利麿 『法然の衝撃　日本仏教のラディカル』 人文書院
財・同和教育振興会 『差別・被差別からの解放本願寺教団と部落差別（増補版)』 本願寺同朋センター
阿部謹也 『日本人の歴史意識』 岩波新書
福嶋寛隆 『歴史のなかの真宗－自律から従属へ』 永田文昌堂
■講義計画
①（１回目）浄土真宗の教勢
②（２回目）日本の仏教宗派
③（３～４回目）日本への仏教伝来
④（５～６回目）日本仏教の差別体質
⑤（７～８回目）法然とその教団
⑥（９～11回目）親鸞とその教団
⑦（12～13回目）大谷廟堂と本願寺
⑧（14～15回目）蓮如と本願寺教団
⑨（16～17回目）一向一揆
⑩（18～20回目）近世本願寺教団の形成
⑪（21～22回目）近世教学と信仰
⑫（23～25回目）維新政治と真宗
⑬（26～28回目）近代天皇制国家と教団
⑭（29～30回目）戦後における真宗の動向 － 部落問題・靖国問題

日本仏教史

【担当】下間　一頼
【開講】通年　火4

■サブタイトル
日本における仏教受容とその展開
■講義概要
外来思想であった仏教がどのように受容・展開し、日本社会の中に定着してきたのか。現代人の宗教観・倫理観はどのような過程をへて形成されてきたのか。
本講義では日本仏教のあり方を歴史学の方法を用いて考察し、日本における仏教受容を検証していく。
■到達目標
高等学校では政治の流れを中心に歴史を学んできた。
ここでは仏教を方法的視座にすえることで、今までと異なる日本歴史像を提示できると考えている。
■講義方法
講義形式で授業を行なう。
■成績評価の方法
平 常 点（20%）
レポート（20%）
定期試験（60%）
■テキスト
二葉憲香・他 『歴史のなかの親鸞』 永田文昌堂　2,400円
定期試験は「持ち込み可」で行います。日本仏教の歴史的展開をどのように捉え、考え、表現できるかを問いたいと思います。
■参考文献
特になし
■講義計画
１－３回　仏教の基本原理
４－６回　仏教伝来
７－15回　古代仏教
16－20回　中世仏教
21－23回　近世仏教
24－26回　近代仏教
27－28回　現代社会と仏教
29－30回　まとめ

仏教学概論

【担当】若原　雄昭
【開講】通年　水３

■講義概要
仏教思想をその歴史的展開に沿って客観的且つ体系的に講義する。
但し、初期仏教の中で、１年次必修の「仏教の思想」Aにおいて既習の釈尊の生涯（仏伝）には触れない。
また、日本仏教史、親鸞及び浄土真宗に関しては、それぞれ別に専門の科目が用意されているので本講義では扱わない。
講義のまとめとして、現代社会に於いて仏教のもつ意義について考察を試みたい。

■到達目標
本願寺派教師資格科目の一つとして、要請される水準の識見を仏教学に関して有するようになることを目標とする。

■講義方法
基本的には下記テキストに沿いながら、随時プリントを配布して補足しつつ、通常の講義形式で進める。必要に応じて視聴覚教材も用いる。

■系統的履修
必修の「仏教の思想」A・Bを既に履修済みであることを受講条件とする。

■成績評価の方法
平 常 点（30%）　受講態度
レポート（70%）　前期末と後期末にそれぞれレポート提出を求める。

■テキスト
高崎直道　『仏教入門』　東京大学出版会

■参考文献
特になし

■講義計画
①仏教学が扱う領域
②仏陀論
③基本的教義
④法の体系
⑤煩悩・業・輪廻
⑥実践の過程
⑦心の本質
⑧僧伽の組織と規律
⑨浄土仏教
⑩仏教と現代

付　　録

教員名簿

理工学部専任教員

※ダイヤルインは１号館、２号館は077－543－内線番号、７号館は077－544－内線番号

【数理情報学科】			内線
飯田　晋司	1号館	513 研究室	7513
池田　　勉	1号館	512 研究室	7512
宇土　顯彦	1号館	506 研究室	7797
大西　俊弘	2号館	117D研究室	7198
※（外線）077－544－7198			
岡本　雄二	2号館	312 研究室	7654
國府　宏枝	1号館	501 研究室	7503
阪井　一繁	1号館	503 研究室	7508
佐野　　彰	1号館	507 研究室	7507
高橋　隆史	1号館	508 研究室	7501
中野　　浩	1号館	514 研究室	7518
樋口　三郎	1号館	502 研究室	7514
馬　　青	1号館	505 研究室	7505
松木平淳太	1号館	504 研究室	7488
松本和一郎	1号館	510 研究室	7510
森田　善久	1号館	509 研究室	7509
山岸　義和	1号館	507 研究室	7507
四ツ谷晶二	1号館	511 研究室	7511
若原　雄昭	3号館	320 研究室	7648

【電子情報学科】			内線
石崎　俊雄	1号館	411 研究室	7798
上原　　徹	1号館	443 研究室	7414
植村　　渉	1号館	432A研究室	7416
小野　景子	1号館	438 研究室	7495
海川　龍治	1号館	402 研究室	7402
川上　　肇	1号館	403 研究室	7403
木村　昌弘	1号館	406 研究室	7406
木村　　睦	1号館	407 研究室	7407
熊野　雅仁	1号館	437 研究室	7437
小島　　肇	1号館	443 研究室	7414
小堀　　聡	1号館	401 研究室	7419
里井　久輝	2号館	311 研究室	7656
斉藤　光徳	1号館	408 研究室	7487
張　　陽軍	1号館	412 研究室	7412
中川　晃成	1号館	409 研究室	7409
中村　奉夫	1号館	405 研究室	7405
野口紳一郎	1号館	443 研究室	7414
藤井　大輔	1号館	437 研究室	7437
松田　時宜	1号館	438 研究室	7495
山本　伸一	1号館	404 研究室	7404

【機械システム工学科】			内線
岩本　太郎	1号館	315 研究室	7445
大津　広敬	1号館	301 研究室	7431
大槻　志郎	2号館	315 研究室	7657
金子　康智	1号館	302 研究室	7432
河嶋　壽一	1号館	311 研究室	7441
塩見　洋一	1号館	316 研究室	7458
渋谷　恒司	1号館	314 研究室	7444
進藤　康則	1号館	308 研究室	7429
田原　大輔	1号館	317 研究室	7504
辻上　哲也	1号館	306 研究室	7411
堤　　一義	1号館	304 研究室	7446
西原　弘訓	1号館	313 研究室	7443
西村　和男	1号館	339 研究室	7533
野口　佳樹	1号館	303 研究室	7433
堀川　　武	1号館	305 研究室	7435
本田　尚義	1号館	308 研究室	7429
前田　英史	1号館	320 研究室	7408
森　　正和	1号館	312 研究室	7442

【物質化学科】			内線
青井　芳史	1号館	205 研究室	7465
S. C. Yenik	2号館	314 研究室	7655
石井　大輔	1号館	309 研究室	7599
今井　崇人	1号館	307 研究室	7439
岩澤　哲郎	1号館	201 研究室	7461
内田　欣吾	1号館	202 研究室	7462
大柳　満之	1号館	206 研究室	7464
糟野　　潤	1号館	211 研究室	7471
下埜　　勝	1号館	310 研究室	7440
白神　達也	1号館	210 研究室	7470
富﨑　欣也	1号館	209 研究室	7469
中沖　隆彦	1号館	204 研究室	7661
林　　久夫	1号館	203 研究室	7463
藤原　　学	1号館	212 研究室	7472
前田　尚志	1号館	310 研究室	7440
松中　岩男	1号館	307 研究室	7439
宮武　智弘	1号館	207 研究室	7467
山添　誠司	1号館	318 研究室	7466
渡辺　英児	2号館	329 研究室	7667
和田　隆博	1号館	208 研究室	7468

付録

【情報メディア学科】

			内線
岩嶋　浩樹	7号館	コラボレーション演習準備室	7148
岡田　至弘	7号館	情報研究室 2	7132
片岡　章俊	7号館	情報研究室 5	7135
寄能　雅文	7号館	コラボレーション演習準備室	7148
芝　　公仁	7号館	情報研究室11	7142
新川　芳行	7号館	情報研究室 3	7133
曽我麻佐子	7号館	情報研究室13	7144
外村　佳伸	7号館	情報研究室 4	7134
南條　浩輝	7号館	情報研究室14	7140
野村　竜也	7号館	情報研究室 6	7136
長谷　智弘	7号館	情報研究室 7	7137
藤田　和弘	7号館	情報研究室 1	7131
三浦　雅展	7号館	情報研究室12	7143
三好　　力	7号館	情報研究室 8	7138
吉見　毅彦	7号館	情報研究室 9	7139
渡辺　靖彦	7号館	情報研究室10	7141

【環境ソリューション工学科】

			内線
浅野　昌弘	7号館	環境研究室14	7114
市川　陽一	7号館	環境研究室 4	7104
占部　武生	7号館	環境研究室 9	7109
菊池隆之助	7号館	環境研究室 1	7101
岸本　直之	7号館	環境研究室 7	7107
越川　博元	7号館	環境研究室 2	7102
近藤　倫生	7号館	環境研究室11	7111
竺　　文彦	7号館	環境研究室 5	7105
桧尾　亮一	7号館	実験実習準備室	7117
丸山　　敦	7号館	環境研究室12	7112
宮浦　富保	7号館	環境研究室 6	7106
山中　裕樹	7号館	実験実習準備室	7126
遊磨　正秀	7号館	環境研究室 3	7103
横田　岳人	7号館	環境研究室 8	7108
Thomas T. Lei	7号館	環境研究室10	7110

【理工学部教務課】

077－543－7730 ～ 7732

瀬田学舎近隣医療機関

※診療科目・診療日・診療時間等は変更される場合がありますので事前に電話で確認してください。

	病院名	住所	電話番号	診療時間	月	火	水	木	金	土	診療科目
総合病院	① 滋賀医科大学附属病院	大津市瀬田月輪町	077−548−2111 時間外 548−2770	初診　午前８：30～10：30 再診　午前８：30～11：00　月～金 午後	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	× ×	
	② 大津市民病院	大津市本宮２丁目9-9	077−522−4607	午前８：30～11：30　月～金 午後	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	× ×	
	③ 大津赤十字病院	大津市長等１丁目1-35	077−522−4131	午前８：00～11：30　月～金 午後	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	× ×	
	④ 社会保険滋賀病院	大津市富士見台16-1	077−537−3101	午前８：30～11：30　月～金 午後	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	× ×	
内科	⑤ 小西医院	大津市大萱１丁目17-35	077−543−3600	午前９：30～12：30　月～土 午後５：00～７：30　月・火・木・金	○ ○	○ ○	○ ×	○ ○	○ ○	○ ×	内科･皮膚科･泌尿器科・外科
	⑥ 瀬田クリニック	大津市一里山３丁目1-5	077−545−3945	午前９：00～12：00　月～土 午後１：00～５：00　月・水・木	○ ○	○ ×	○ ○	○ ○	○ ×	○ ×	
	⑦ 大道医院	大津市大将軍１丁目15-7	077−547−3650	午前９：00～12：00　月・火・木～日 午後４：30～７：30　月・火・木・金	○ ○	○ ○	× ×	○ ○	○ ○	○ ×	内科･呼吸器科･循環器科
外科	⑧ はえうち診療所	大津市一里山４丁目25-21	077−543−3861	午前９：00～12：00　月～土 午後３：00～５：00　月・火・木・金	○ ○	○ ○	○ ×	○ ○	○ ○	○ ×	内科･胃腸科･肛門科･外科
整形外科	⑨ 棚橋整形外科	大津市大萱１丁目20-12	077−545−8020	午前９：00～12：00　月～土 午後３：30～６：30　月～金	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ×	
	⑩ さいき整形外科	大津市一里山３丁目19-4	077−545−7711	午前９：00～12：00　月～土 午後４：30～７：30　月～水・金	○ ○	○ ○	○ ○	○ ×	○ ○	○ ×	
眼科	⑪ 本田眼科	大津市大萱１丁目16-15	077−543−0878	午前９：30～12：30　月～水・金・土 午後４：00～６：00　月～水・金	○ ○	○ ○	○ ○	× ×	○ ○	○ ×	
耳鼻科	⑫ 瀬田耳鼻咽喉科	大津市一里山１丁目2-13	077−543−1490	午前９：00～12：30　月～土 午後３：30～７：00　月～金	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ×	
婦人科	⑬ かとう医院	大津市大将軍３丁目8-16	077−544−1012	午前９：00～12：00　月・水・金・土 （第２土曜休診） 午後４：00～６：00　火・金	○ ×	×	○ ×	× ×	○ ○	○ ×	
皮膚科	⑭ 田中皮フ科医院	大津市一里山１丁目8-29 一里山中央ビル２階	077−545−1232	午前９：30～12：30　月～水・金・土 午後４：00～７：30　月～水・金	○ ○	× ○	○ ○	× ×	○ ○	○ ×	
歯科	⑮ まるやま歯科クリニック	大津市一里山１丁目3-6	077−547−3560	午前９：00～午後１：00　月～土 午後３：00～８：00　月～金	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ×	

※滋賀県救急医療ネット

携帯電話版”救急医療ネットしが”は、県民の皆様が外出時等に医療機関をお探しになる場合に、携帯電話のブラウザ（i-mode/EZweb/Yahoo!ケータイ）からアクセスするサイトです。
県内の医療機関の場所や診療時間・診療科目等を検索していただき、受診の参考にしていただくためのものです。

携帯電話検索サービス

http://www.shiga.iryo-navi.jp/m/

付

録

滋賀県救急医療情報ネット

http://www.shiga.qq-net.jp/

利用になるための注意

※電話・ＦＡＸで現在診療中の医療機関を案内するサービスです。

※事前にメモの用意をしておくと便利です。

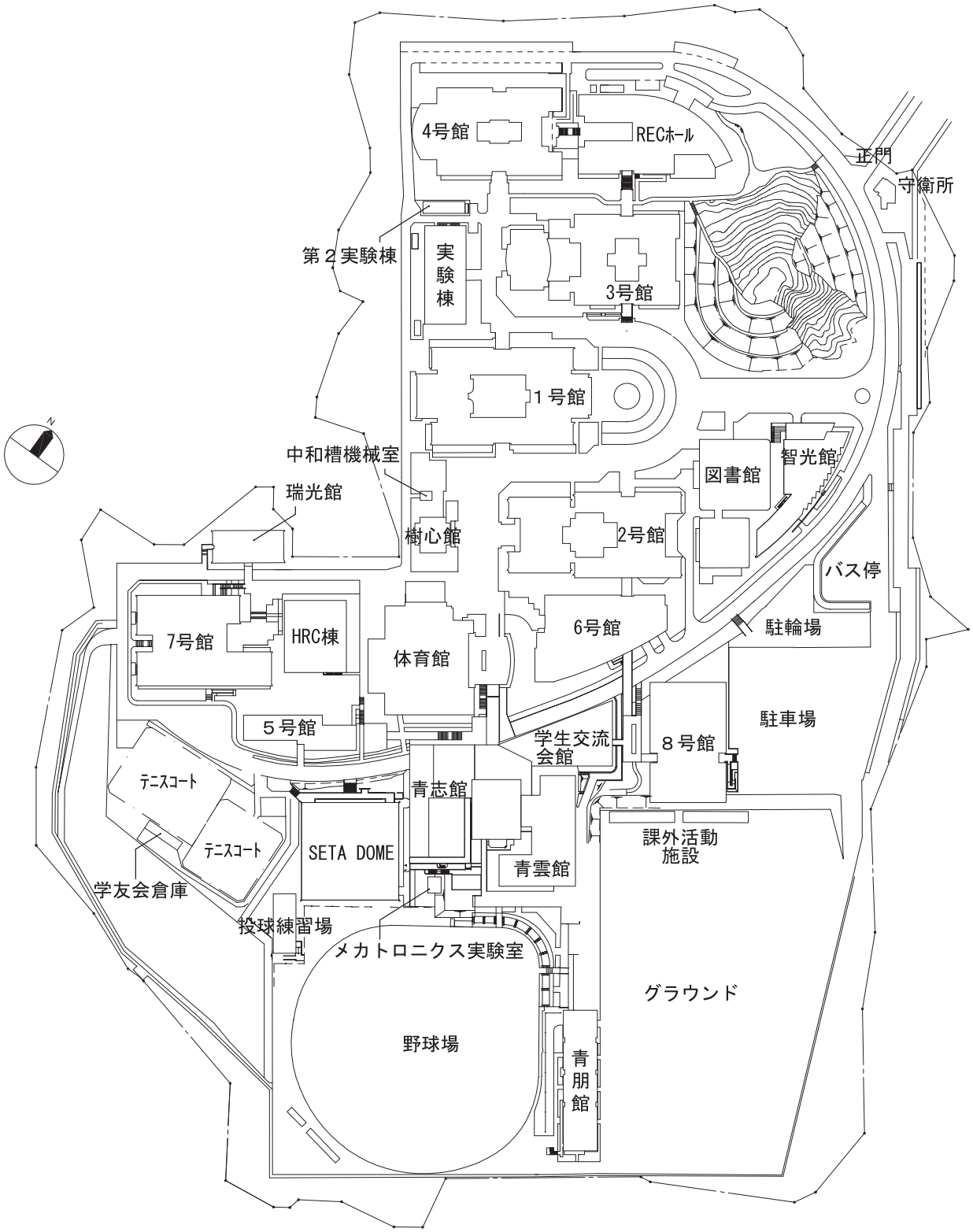
※案内を受けた病院・診療所に行く場合は、必ず電話で確認を行ってください。

※重症の場合や命にかかわるような症状の場合は、救急車を要請してください。

※一部のダイヤル式電話機では、利用ができない場合があるので注意してください。

医療機関をお探しの地域	電話番号
大津市	077-525-3799
草津市、守山市、栗東市、野洲市	077-553-3799
甲賀市、湖南市	0748-62-3799
近江八幡市、東近江市（旧八日市市・永源寺町・五個荘町・能登川町・蒲生町）、蒲生郡	0748-23-3799
愛知郡、東近江市（旧湖東町・愛東町）	0749-45-3799
彦根市、犬上郡	0749-23-3799
長浜市、米原市、東浅井郡、伊香郡	0749-63-3799
高島市	0740-22-3799

龍谷大学瀬田学舎見取図



付

録

履修要項・Syllabus利用の手引き

学期はじめのQuestion

- ◆ １年間のスケジュールはどこを読めばいいですか。
  → 学年暦
- ◆ 授業を受けるにあたって注意することはなんですか。
  → P2：履修をはじめるにあたって
- ◆ 単位ってなんですか。
  → P3：単位制度と単位の認定
- ◆ 教養教育科目と固有科目、必修・選択・グループ必修・随意の違いってなんですか。
  → P24：教育課程の編成・履修方法
- ◆ 受けたい科目の内容を知りたいのですがどこを読めばいいですか。
  → P87：シラバス
- ◆ 登録に際しての方法や注意することはなんですか。
  → P8：履修登録
- ◆ 教職などの資格についてどこを読めばいいですか。
  → P65：諸課程等の履修方法
- ◆ 他学科の科目を受講するにはどうすればよいですか。
  → P58：他学科科目の履修について
- ◆ 大学コンソーシアム京都などの単位互換制度を受けるにはどうすればよいですか。
  → P59：単位互換制度について

学期途中のQuestion

- ◆ どのような場合に休講になるのですか。
  → P78：授業休止の取り扱い基準
- ◆ 証明書を発行するにはどうしたらよいですか。
  → P74：窓口事務
- ◆ 講義の内容が理解できず困っているのですが。
  → P17：教育支援
- ◆ 留学したいのですが。
  → P84：留学
- ◆ 休学について知りたいのですが。
  → P79：学籍の取り扱い

学期末のQuestion

- ◆ 成績の評価はどのようになっているのですか。
  → P12：成績評価
- ◆ 定期試験等を受験する際に注意すべきことは何ですか。
  → P14：筆答試験
- ◆ 追試験について知りたいのですが。
  → P14：筆答試験
- ◆ 進級するためにはどのような要件があるのですか。
  → P38、P44、P50：固有科目の履修（卒業・進級の要件）
  ※入学年度により異なるため注意すること
- ◆ 過去問などを知りたいとき(数理情報学科)
  → http://whale2.math.ryukoku.ac.jp　参照（要パスワード）